

第2部

学部・研究科のFD活動報告

- ・法文学部、人文社会科学研究科
- ・教育学部、教育学研究科
- ・理学部
- ・医学部
- ・歯学部
- ・工学部
- ・農学部、農学研究科
- ・水産学部、水産学研究科
- ・理工学研究科
- ・医歯学総合研究科
- ・保健学研究科
- ・司法政策研究科
- ・臨床心理学研究科
- ・連合農学研究科

法文学部・

人文社会科学

研究科

法文学部・人文社会科学研究科 FD 活動報告

法文学部におけるFD活動は、1. 研修授業（授業公開・授業参観）、2. 学生による授業評価アンケート調査、3. 大学院の授業評価アンケート調査、4. 大学院のTAアンケート調査であり、平成22年度の成果は以下の通りである。

1. 授業公開・授業参観（研修授業）

今年度の授業公開・授業参観は、11月22日から12月17日まで、法文学部全教員を対象に実施された。その成果を、ここ数年間の動向をも踏まえながら、総括すると、おおよそ次のようになる。

1-1. 授業公開実施による成果について

全員参加による授業公開・授業参観は、今年度で5年目である。過去4年間の授業公開実施により、各教員は様々な工夫、改善を続けてきたことが報告書から読み取れる。

これまでの工夫、改善は、講義形式の授業では以下の3点に要約できる。

- (1) 学生に興味・関心を持たせるための工夫、改善
- (2) 学生の理解度を高めるための工夫、改善
- (3) 双方向的な授業スタイルを確立するための工夫、改善

(1)については、学生に興味を持たせる教材の選択や配布資料の作成がなされており、映像や音響などの多様なツールが駆使されている。また、新聞記事の利用も挙げられている。(2)については、パワーポイントを使って視覚的に理解させる工夫や、見易く分かり易い板書に努めるといった工夫がなされている。(3)については、学生に質問したり、発言させたりして、教員からの一方的な授業にならないようにする試みが見られる。毎回の授業で質問用紙を配布するという例もあった。以上3点は、公開授業の実施を通して大きく改善された点である。

演習形式の授業の工夫、改善は、次の2点に要約できる。

- (1) 学生の自主的な発言を引き出すための工夫、改善
- (2) 学生同士の討論を活発にするための工夫、改善

(1)については、発表レジュメの事前配布、テキスト以外の資料の配布、ゼミ生自身によるテーマの設定、といった取り組みが挙げられている。(2)については、司会進行役やコメント役などの役割分担、質疑応答の時間の確保やグループによる進行など、授業環境の改善が図られている。

このような改善の努力がなされながらも、他方で、学生の発言の少なさについての指摘も多く見られた。この点は、就職活動におけるコミュニケーション能力の涵養という側面からも、今後引き続き改善の取り組みが必要であろう。

1-2. 授業公開のあり方について

報告書の「授業公開・参観に対する意見」では、授業公開のあり方について、次の3点を中心に、多くの意見が寄せられた。

- (1) 実施期間について
- (2) 実施方法について
- (3) 推薦授業について

(1) については、昨年度と同様に見直しの意見がかなり見られた。具体的には、隔年での実施、公開授業数を絞り込んだうえでの各教員の数年に一度の担当などであるが、これらの意見は、授業公開の形骸化についての指摘とも結びついている。実施時期の見直しは、全員参加、毎年実施を原則とする全学の方針とも関わってくるが、今後真剣な議論が必要であろう。また、前期および後期の実施を求める意見、後期のみの限られた期間であると参加しにくいという意見があった。

(2) については、全員による授業公開は、参観者のいない授業を生むという意見が見られた。今年度も、参観者のいない授業がかなりあり、授業公開の形骸化を避けるためには、この問題についての議論と対策が不可欠である。

(3) については、昨年度に引き続き、評価の高い授業を公開していただき多くの教員が参観し自分の授業に生かしてもらう目的で、昨年度の授業参観報告書等を参考にFD委員会の推薦する授業を推薦授業として8科目選定させていただいた。下の表は、一昨年度、昨年度、今年度の「公開された科目数」、「参観者のいた科目数」、「公開された科目数に対する参観者のいた科目数の割合」、「参観者数」、「推薦授業の参観者数」を表わしたものである。参観者39名のうち推薦授業の参観者は6名で、比率としては、昨年度と同じ15%に留まった。3名の推薦授業参観者があった科目があり、推薦授業は一定の効果を上げているが、多くの教員が参観することを期待した推薦授業が、所期の目的を達しているとは言いがたい。

	2008年度	2009年度	2010年度
公開された科目数	85科目	83科目	80科目
参観者のいた科目数	36科目	34科目	30科目
公開された科目数に対する参観者のいた科目数の割合	約42%	約41%	約38%
参観者数	47名	40名	39名
推薦授業の参観者数	14名	6名	6名

また、本年度から、参観者を増やすために「事前予約の必要のない授業」を設けたが、表から分かるように、「参観者数」は横ばいであった。複数の参観者がいた授業があった半面で、参観者がいない授業もかなりあった。授業公開の形骸化についての指摘がいくつか

見られたが、それを避けるためには、授業公開を促進する方策が講じられる必要がある。

授業公開を活性化させる方策としては、以下の2点が考えられる。

(1) 実施期間と実施方法の見直し

(2) 授業参観の原則義務化

(1) については、隔年での実施、公開授業数の絞り込みによる授業参観の集約化を目的とする。これは、全員参加、毎年実施を原則とする全学の方針と抵触することになり、全学との調整が必要である。

(2) は、現行の制度を前提にするものである。2007年度以降、公開された科目数に対する参観者数は減少傾向にあり、2010年度は、80科目にたいして39名であった。全員参加の原則は参観者数については守られていないのが、現状である。(2) は、全学の方針を参観者数についても適用するものであるが、学部の教員の合意が必要である。

(1) と (2) の方策のいずれを採るにしても、授業公開・参観の形骸化を防ぐために、真剣な議論が求められる。

2. 学生による授業評価アンケート調査

今年度の授業評価アンケートは、12月1日～21日の間、全教員が開講科目のうち1科目を選ぶ形で実施された。また、アンケートの継続性を優先し、内容と形式はおおむね従来通りとされた。その成果を、過去3年間の結果の推移を大きく把握しつつ、学科ごとにまとめると、以下のようなになる。なお、実施率が73.1%に留まっているため、これを高めるための対策を検討することが必要と思われる。

【法政策学科】

今年度の授業評価については、昨年度と対比すると、講義に関しては全体的に評価のポイントは高くなる一方で、演習に関しては評価の低下した項目も見られると言った対照的な動きを示したところであるが、平成19年度を含む3ヶ年の動向を見ても、同様の傾向が見られる。

要因としては、継続的なFD活動の効果が講義に対する評価として現れつつあるのではないかと考えられる。また、演習については、授業への評価・満足度は依然として高水準を維持しているとともに、アンケート対象の授業が毎年変わることも踏まえると、引き続き評価の動向を注視しながら、評価の低下要因についての分析を行うことが必要であろう。

【経済情報学科】

今年度の授業評価の結果は、その分布は昨年の結果とかなり近似しているが、昨年度、一昨年度に比べて全体的にポイントが高くなっており、上昇傾向にあることがわかる。したがって、授業評価の効果が浸透してきて、教員の授業への取り組みとそれに対する学生の評価が安定的になってきているという事が言えるだろう。しかし、今後さらに全体の評

価のポイントが上昇していくよう、個々の教員が授業方法の改善に努力していくことが必要であろう。

【人文学科】

講義については、19年度の数値に近い値を示し、全体的に評価の改善が見られた。演習については、19年度、21年度の数値と比較して、質問項目によって数値の高下の出入り（バラツキ）が見られるものの、平均すると全体の傾向は安定しているといえよう。

もとより、アンケート対象の授業科目が年度によって異なることを考えると、微妙な数地の違いは誤差の範囲内ということである。ただし、重要なのは、高い評価を与え、ある程度の満足を感じている学生層ではなく、授業に興味を感じない、あるいは、授業についてくることができない学生の声に耳を傾けることであろう。少数だが、そのような学生が存在することをアンケートは示している。教員は日々工夫を凝らし、学生の積極的な授業参加を促すとともに、表に現れない声に耳を傾けることが求められる。

3. 大学院の授業評価アンケート調査

今年度の「人文社会科学研究科授業評価アンケート」は、6月21日から7月9日まで実施された。調査の対象は、各教員の担当授業のうち1科目としたが、博士後期課程を担当している場合は、博士前期課程と博士後期課程それぞれ1科目とした。アンケートの項目内容は、継続性を重視する観点から従来と同様にしたが、調査の実施率を向上させるために、実施期間を従来の2週間から3週間に延長した。なお、調査にあたり、大学院の場合は受講者の人数が少ないことから、匿名性を確保するための工夫もなされている。アンケートの結果は、おおむね次のようにまとめられる。

- (1) 大学院課程の授業評価アンケート調査は今回で5回目だが、研究科全体の実施率は73.9%で、前年度の71.9%から若干ながら上昇した。しかし本アンケート調査は、授業改善のための基礎的データを収集するために不可欠なものであるから、実施率をより高い水準で維持するための対策が必要であろう。
- (2) 今回の調査では、授業についての5項目（1～5）と受講者に関する2項目（6,7）のすべてにおいて5段階で4以上の評価が9割を超えており、大学院課程の授業が高く評価され、受講者も熱心に取り組んでいることがわかる。自由記述でも、授業や担当教員に対する肯定的評価が多く見られた。
- (3) 過去4回の調査結果と今回のそれを比較しても、全項目において5段階評価で一貫して高い評価を得ている。こうした調査結果の一致は、本研究科の授業に対する受講者の満足度が高いことを示しているといえよう。

以上のように、人文社会科学研究科では、受講者から高く評価される効果的な授業が実施されていると評価することができる。とはいえ、この結果に満足することなく、全教員がさらなる授業改善を試み、FD活動に積極的に取り組むことが必要であろう。

4. 大学院のTAアンケート調査

「TAアンケート調査」は、授業における教育支援者としてのティーチング・アシスタント（研究助手。以下、「TA」と記す）の在り方を教員間で検討することを目的に、平成19年度より開始された。今年度は、平成23年1月～2月に、法文学部の後期授業でTAとして働いた人文社会科学研究科および理工学研究科情報生体システム工学専攻（前期課程）の学生全員を対象に実施した。その結果は、以下のようにまとめることができる。

- (1) TAに対するアンケート調査は今回が4度目であったが、アンケートへの回答が約8割以上寄せられ、TAの活動実態を知る上で、有意義なデータが得られた。
- (2) 「事前準備」「教員の指導等」の項目を参照すると、昨年アンケート結果と同様、TAは教員との間で適度な連絡をとりつつ、熱心に業務に従事している状況が確認できる。他方、TAの意義・負担については、多くの回答者から、修士論文やその他の研究活動へのフィードバックが評価されており、業務も学生の研究活動の大きな支障にはなっていないといえる。

以上の結果から、今年度も、人文社会科学研究科のTA制度は、学生への教育経験の機会の提供という意味でも、その業務の遂行の点でも、高く評価できる。

教育学部・

教育学研究科

教育学部 F D 活動報告

【1】はじめに —平成 22 年度の主な活動—

平成 22 年度の教育学部教育改善委員会の委員構成及び年間の活動内容について簡単に報告する。

教育改善委員会委員 (50 音順)

- 假屋園昭彦：教育系 (委員長)
- 末永高康：文科系
- 深川和良：理科系
- 和田七洋：実技系
- 橋口 知：生涯教育系
- 寺床勝也：教務委員会
- ゴウ・マーチン：自己評価委員会
- 廣瀬勝弘：研究科運営委員会
- 溝口和宏：全学 F D 委員会

教育改善委員会は原則毎月 1 回開催され (本年度は 12 回開催)、教育学部及び大学院教育学研究科の教育改善のための活動を行った。主な活動は次の通りである。以下、それぞれの活動の概要を報告する。(但し、4 の概要については内容が重複するので割愛する。)

《平成 22 年度の主な活動内容》

1. Moodle による試験的授業アンケートを実施 (平成 22 年 6 月 17 日～7 月 14 日)
2. 第 3 回学生 F D サミット (於：立命館大学) に参加 (平成 22 年 8 月 28 日～8 月 29 日)
3. 授業公開および授業参観を実施 (平成 22 年 12 月 1 日～12 月 27 日)
4. 「平成 22 年度戦略 G P ・ F D ・ S D 合同フォーラム」において教育学部の取り組みを発表 (平成 22 年 12 月 4 日)
5. Moodle による授業アンケートを実施 (平成 23 年 1 月 17 日～2 月 4 日)
6. 教育学研究科の大学院生による授業アンケートを実施 (平成 22 年 12 月 1 日～12 月 15 日)
7. 教育改善委員会学生実行委員会主催第 6 回 F D シンポジウムを開催 (平成 23 年 1 月 27 日)
8. 教育学研究科の教育改善に関する座談会を開催 (平成 23 年 2 月 3 日)
9. 平成 22 年度教育改善委員会報告書を作成

【2】教育学部生による授業アンケート結果分析

1. Moodle を利用した授業アンケートの趣旨

従来教育学部で実施されていた紙媒体における授業アンケートは、集計に多大な労力と時間を要し、その作業は委員の大きな負担となるとともに、アンケート実施と結果報告とのタイムラグはアンケート結果を迅速に授業に反映させることの妨げとなっていた。そこで、本年度からは、Moodle を活用して授業アンケートを実施することにより、集計作業の軽減とアンケート結果のフィードバックの迅速化を図ることとした。

2. アンケートの実施方法について

本学部において Moodle を利用した授業アンケートは初めての試みであるので、本年度の前期に試験的にアンケートを実施し、問題点等を確認の上、後期に正式なアンケートを実施することとした。

前期における試験的アンケートは平成 22 年 6 月 17 日より 7 月 14 日の期間に実施し、41 名からの回答を得た。その結果、浮かび上がってきた最大の問題点は、授業終了後の任意の時間に回答を求めると学生からのアンケートの回収率が非常に低下するという点であった (試験的アンケートにおけるこの回収率は 20.7% である)。そこで、後期のアンケートにおいては、原則として授業時間中にアンケート回答時間を設定することとして、回収率のアップを目指した。

平成 22 年度後期の教育学部学生による授業アンケート実施の手順は以下の通りである。

(1) Moodle を利用した授業アンケート実施の承認とマニュアル配布 (平成 22 年 10 月 19 日)

教授会において Moodle を利用した授業アンケート実施の承認を得るとともに、Moodle 上でアンケートを実施するマニュアルを印刷物の形で配布した。

(2) 一斉メールによる授業アンケートの依頼 (平成 23 年 1 月 13 日)

各教員に対して、一斉メールにより授業アンケート実施を依頼した。また、Moodle 上でアンケートを実施するマニュアルを学内掲示版上に掲載し

た。

(3) 授業アンケート実施（平成23年1月17日～2月8日）

各教員において、原則として授業時間中に10分程度の時間を確保してもらい、アンケート調査を実施してもらった。アンケート結果はただちにMoodle上で集計されるので、その集計結果のエクセルファイルをアンケートに対する自己分析とともに、教育改善委員会にメールで返送してもらう形で集約した。

当初の予定では1月17日（月）から28日（金）の2週間の予定であったが、教員からの回収率が低かったため、2月8日（火）まで期間を延長して実施した。

3. アンケート調査の質問項目について

今回のアンケート調査は、各質問項目に対して3段階から4段階までの選択地を用意し、その中から1つを選んでチェックさせる方法で行った。

設定した質問項目は、「あなた自身について」、「授業について」、「教員について」、「その他」という4つのカテゴリーに分かれており、総質問項目数は17項目である。以下に、それぞれの質問項目を挙げる。

あなた自身について

- 1) この授業を受講するにあたって、シラバスを確認しましたか。
- 2) あなたにとって、この授業の難易度はどの程度ですか。
- 3) この授業に対して予習・復習を行っていますか。
- 4) あなたのこの授業に対する準備（復習も含む）は、授業の内容を理解するために、十分だと思いますか。
- 5) この授業を何回欠席しましたか。
- 6) この授業にオフィスアワーが設定されているのを知っていますか。

授業について

- 7) 授業の内容は、シラバスの内容に沿ったものですか。
- 8) 授業の内容は、授業科目名にふさわしいものですか。
- 9) 授業の中で、教員の発問や学生の発言はどの程度活発に行われていますか。
- 10) 授業における資料（板書、プロジェクター、

配布資料等）の提示は適切ですか。

11) あなたは、この授業の内容をどの程度理解できていますか。

12) あなたは、この授業に満足していますか。

教員について

13) 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすいですか。

14) 授業は時間通りに行われていますか。

15) 授業に対する教員の熱意が感じられますか。

16) オフィスアワー等、授業に対する質問へいねいに対応していますか。

その他

17) この授業に対して、感想・要望などがあれば記入ください。

なお、これらの質問項目に対する選択肢は、ここでは省略するが、「6. アンケート結果のまとめ」の項を参照されたい。

4. 授業アンケートの調査実数について

今回アンケートを実施していただいた教員数は53名であった。昨年度の紙媒体によるアンケートでは80名の教員からの回答があったことを考えるならば、大幅な回収率ダウンである。

紙媒体のような実物が与えられた場合に比べると、メール上のみで依頼された事柄は心理的な強制力という点で劣るようである。また、一部教員からはMoodleの操作が難しい、もしくは面倒であるとの声も寄せられており、Moodleの操作に不慣れであったことが回収率を下げた一因であるようである。Moodleを利用したアンケートを今後も継続していくのであれば、教員からの回収率アップは検討課題となろう。

学生からのアンケートの回収率は53.2%であり、前期に試験的に行った際の回収率20.7%からは大幅な改善がみられるが、紙媒体で行った場合の回収率に比べれば低い値に止まっている。学生からの回収率のアップも今後の検討課題となろう。

5. アンケート結果の集計について

結果の集計は、質問項目ごとに全57授業を対象とした集計を行った。

6. アンケート結果のまとめ

結果の分析は、アンケートの質問項目別に行った（質問項目1から質問項目16まで）。「その他」

の質問項目 17 については、各授業に対するコメントとなるため、ここでの分析には含めないが、各教員への返却に含めることとした。

以下、質問項目別に、調査結果とそれぞれに対する若干の分析を記述する。

あなた自身について

1) 「この授業を受講するにあたって、シラバスを確認しましたか」について

全体の傾向から、約 3 / 4 の学生がシラバスに目を通して授業に臨んでおり、全体的にシラバスを確認し、予め授業内容を把握したうえで履修する学生が多い傾向にあることがわかる。しかしその一方で、入念に確認している学生は全体の 8 % しかおらず、シラバスを形式的にしか確認していないのではないかと示唆できる。

2) 「あなたにとって、この授業の難易度はどの程度ですか」について

全体の結果から、約 7 割の学生が大学の講義に対して比較的難しいと感じていることがわかる。しかし、85%の学生は「どちらかといえば難しい」「どちらかといえば易しい」と回答しており、学生にとって適当な難易度を設定した講義であることも読み取れる。

3) 「この授業に対して予習・復習を行っていますか」について

全体の傾向を見ると、約 8 割の学生が「あまりしていない」、「全くしていない」と回答しているうえに、非常に熱心に行っている学生は 2 % しかおらず、全体的に講義時間外に勉強している学生が少ないことがうかがえる。

4) 「あなたのこの授業に対する準備(復習も含む)は、授業の内容を理解するために、十分だと思いますか」について

授業の内容理解のための準備に対して、約 7 割の学生が不足していると感じていることがわかった。質問 2 の結果と共にみても、受講している学生の 7 割が、講義を難しいと感じながらも、その内容理解のための準備は不足していることがわかる。

5) 「この授業を何回欠席しましたか」について

全 15 回ある授業のうち平均 1 回は欠席している、という結果になった。その中で、3 回以上欠席した学生が最も多く 37% で、一度も欠席しなかった学生は全体の 10% だけであった。すなわち、90%

の学生は欠席しているということがわかった。

6) 「この授業にオフィスアワーが設定されているのを知っていますか」について

担当教員への質問時間として定められているオフィスアワーを知っている学生は全体の約 6 割であった。しかし、実際にオフィスアワーを活用しているのは全体のわずか 5 % のみで、ほとんどの学生が設定された時間でのオフィスアワーを活用していない傾向であることがわかった。

授業について

7) 「授業の内容は、シラバスの内容に沿ったものですか」について

結果として、学生の 99% が講義はシラバスに沿った形で行われていると感じていることが分かった。このことから、授業の内容はシラバスの内容と相違ないことを表している。

8) 「授業の内容は、授業科目名にふさわしいものですか」について

結果として、非常に多くの学生が講義内容は授業科目名にふさわしいと感じていることがわかった。質問 7 と同様に、授業と公表されている情報との間に相違がない、ということがわかった。

9) 「授業の中で、教員の発問や学生の発言はどの程度活発に行われていますか」について

全体の約 3 / 4 の学生が、授業中の教員と学生の発問・発言が活発に行われている、と感じているという結果になった。その中でも 30% の学生が非常に活発に行われていると応えており、一方通行的でなく、教員と学生の双方向的な授業が行われていることがわかる。

10) 「授業における資料(板書、プロジェクター、配布資料等)の提示は適切ですか」について

授業における資料に関して、43% の学生が非常に適切である、52% の学生が適切である、と回答しており、95% の学生が授業中に使用される資料は適切であると感じていることがわかる。

11) 「あなたは、この授業の内容をどの程度理解できていますか」について

授業内容の理解については、80% の学生が内容を理解している、という結果になった。しかし、十分に理解できていると回答した学生は 12% であり、且つ質問 4 から学生の準備不足の点や質問 5 のオフィスアワーの活用の低さから、不十分な理解の状態に留まっている傾向にあることがわかる。

12)「あなたは、この授業に対して満足していますか」について

授業の満足度は非常に高く、90%の学生が授業に満足しているという結果であった。その中で非常に満足していると回答しているのは35%であり、現状として学生は大学の授業に満足している傾向にあることがわかった。

教員について

13)「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすいですか」について

全体の傾向から見ても、9割の学生が講義中の声は聞き取りやすいという印象を受けていることがわかった。質問10からも、教員の声の大きさや提示物はわかりやすく適切で、授業が学生にとって適切な状態で行われていることがわかった。

14)「授業は時間通りに行われていますか」について

全体の傾向から見ると、97%の学生が授業は時間通りに行われていると感じていることがわかった。全く時間通りではないと回答した学生も1%以下であり、講義は授業時間内に行われていることがわかる。

15)「授業に対する教員の熱意が感じられますか」について

授業に対する教員の熱意に関しては98%の学生が「感じられる」という印象を受けていることがわかった。この結果から、授業を行う教員は学生に熱意の伝わる授業を行っていることがわかる。

16)「オフィスアワー等、授業に対する質問へていねいに対応していますか」について

質問に対するていねいさに対して、96%の学生がていねいを感じていることが分かった。質問15の結果と共に見ても、教員はていねいで熱意のこもった授業を行っており、それを学生も感じていることがわかる。

7. 授業アンケートに対する教員自身による自己分析について

今次の Moodle によるアンケート実施においては、アンケート結果に対する教員自身の自己分析も同時に求めた。以下、「学生の予習復習に関して」、「授業内容と学生の理解度に関して」、「授業の進め方と学生の反応に関して」、「シラバスとオフィスアワーに関して」、「その他」に分類して、寄せ

られた自己分析を抜粋したい。

なお、紙幅の関係上、また個人が特定されるようなことがないように表現を改めた箇所があることを、あらかじめお断りしておく。

学生の予習復習に関して

- 授業の内容や教員の授業方法、進め方等については概ね良好なとらえ方をしていたので、今後もこれまでの取り組み方を継続していきたいが、改善点としては予習や復習に取り組みやすいよう、課題の与え方を改善する必要がある。
- 学生に予習・復習をさせるような課題を計画し、授業中においては、もっと話し合いなどを行えるような方法に変えていきたいと考える。

授業内容と学生の理解度に関して

- 理解が困難な学生に対するバックアップの方法を考える必要があると思った。
- 基本的に授業は理解してくれているようだが、少し難しいと感じる学生もいるようだ。難しいからと敬遠するのではなく、さらにどうということだろうと興味をもって探求してくれるようテーマ発見に導けるような授業を心がけたい。

授業の進め方と学生の反応に関して

- 時間をかけて実習における作業のひとつひとつを丁寧に行うよう学生の進捗状況を見ながら今後とも進めていきたい。
- 前回の授業アンケート結果をふまえて、今期は授業中の発問等を増やしたことが、今回のアンケート結果にあらわれており、一定の改善がなされたと考えている。今後は、自由記述欄に積極的に記載してもらい、さらに学生の意見を聞いて授業改善に努めていきたい。

シラバスとオフィスアワーに関して

- シラバスを確認していない学生が若干みられたので、次年度は、初回の授業でシラバスを配布して確認させたい。その際に、オフィスアワーについても周知させたい。
- 初回の授業において、オフィスアワーについて説明したが、十分に活用されていない実態が明らかになった。来研しやすくなるような状況整備を検討したい。

その他

- 回答者全員が「授業に満足している」と答えてくれていたのが嬉しかった。来年度は、「非常に満足している」と言ってもらえるよう頑張りたい。
- 学生に「わからなさ」を残し、教師になっても「考え続けなければならないこと」を伝えていきたい。

8. 授業アンケート実施方法に関する教員からの意見

以下に、今次のアンケートを実施していただいた教員からの、アンケート実施方法に関する意見、感想を抜粋しておく。今後のアンケート実施方法改善の手掛かりとしたい。

質問項目について

- 講義では、2回にわたりレポートの作成を課題とし全員提出したが、質問項目3の「予習・復習」をみると、「まったくしていない」という回答が若干名みられた。それで、質問項目3で課題への取組を含むというよう記述を追加していただくと、学生の回答も少しは変わるように思われます。

学生からの回答率に関して

- 授業中にアンケートをとることができず、回答率が低かった。次回は授業中にアンケートを実施したい。
- 受講者は全員 Moodle の利用に慣れていたため、授業時間外でアンケートの回答を依頼したが、全員から回答を得た。
- 授業最後で一斉に回答させましたが、5名しかアクセスできなかったようです。学生から「入れない」という言葉が出ていました。

また、Moodle 上では受講者名簿にしたがって学生情報が登録されるので、同じ時間に同じ教室で行われている授業であっても、受講者の専修等によって異なる授業名が与えられていると二つの授業として認識されることになる。管理者側のミスによるものと思われるが、次の意見が寄せられた。

- 私の授業は受講者の専修によって2つのコードに分けられているのですが、同様にアンケートの設定を行ったにもかかわらず、片方では回答することができませんでした。このようなことは他の方に見られなかったのでしょうか？
本学部では教員単位でアンケートを実施してい

るので、複数教員によるオムニバス形式の授業に対する学生の意見が十分に聴取できていない恐れがある。次の意見が寄せられている。

- 他の担当授業は他教員とのオムニバス形式で行っているため、受講者は少ないが15回の授業すべてを担当する本授業でアンケートを実施した。

以上は、今回 Moodle によるアンケートを実施していただいた教員から寄せられたものである。Moodle によるアンケートの教員からの回収率の向上をはかるためには、実施をしていただけなかった教員の意見を聴取すべきであろうが、今回はその聴取に至っていない。最後に次の意見を紹介しておく。

- 思ったより Moodle 操作が簡単だった。これからも有効活用していきたい。

単にアンケートの道具としてだけではなく、より幅広い形で Moodle 等の e-ラーニングシステムが利用される方法や環境を考えていくのも本委員会の一つの任務であろう。

【3】教育学部授業公開報告

1. 授業公開の実施計画

平成22年度の教育学部授業公開は、以下のような手順で実施した。

(1) 授業公開の目的と枠組み

授業公開は、教員同士が相互に授業を公開・参観することにより、各教員が授業方法・授業運営の改善を図り、教育の質的向上に資することを目的としている。

平成22年度は、昨年度に引き続き、後期に授業公開を実施した。教育学部所属の専任教員全員が担当授業科目を一つ公開し、同時に、全教員が一つ以上の授業を参観するというを基本的な枠組みとした。

(2) 授業公開科目調査

平成22年10月20日(水)から平成22年11月4日(木)まで、授業公開の科目調査を行った。調査方法としては、各専修の世話人を通じて専修ごとに各教員の授業公開科目を取りまとめ、教育改善委員会で集約した。

調査内容は、①授業公開科目(教育学部専任教員一人一科目指定)(曜日・時限・科目名・講義室)、②授業公開実施予定日(平成22年12月中の授業

実施予定日のうち、一日以上を指定、複数回の指定も可)、③授業参観受入可能人数、④授業参観者の事前連絡の必要性有無の4項目とした。

(3) 授業公開科目一覧と授業参観報告書書式の提示

授業公開科目調査を集約し、教育学部全教員に授業公開科目一覧表(専修別、実施日別)と授業参観報告書の書式を配布するとともに、授業公開の実施要領を提示した。授業参観をした教員は、授業参観報告書を提出することを原則とし、教育改善委員会で集約したのち、授業改善のための資料として個々の教員へフィードバックした。また、授業公開科目一覧表は、教育学部だけではなく、全学FD委員会を通じて鹿児島大学の全学部公開し、授業参観を受け入れる体制を整え、さらに今年度は、学部ホームページにも掲載した。

(4) 授業公開および授業参観の実施

平成22年12月1日(水)から平成22年12月27日(月)までを授業公開期間とし、この期間中に各教員は授業公開および授業参観を実施した。

(5) 授業参観報告書の提出

授業を参観した教員は、平成23年1月14日(金)までに、授業参観報告書(別紙)を提出し、これを教育改善委員会が集約した。

(6) 授業公開のまとめ

提出された授業参観報告書をもとに、授業参観者数等を集計し、平成22年度教育学部授業公開のまとめを行った。

2. 授業公開の実施状況

授業参観報告書を集計した結果、平成22年度の教育学部授業公開の実施状況は以下の通りであった。

(1) 授業公開科目数

全専任教員97名が授業を公開した。教員複数名で担当する授業、一教員で複数科目の授業公開や公開授業科目以外の授業を参観した報告書の提出などがあり、実際に公開された授業科目の総数は97で、複数日公開された授業(27科目)を含めると、授業公開科目の総コマ数は144であった。

(2) 授業参観者数

提出された授業参観報告書数は47件だが、一人で複数授業の参観報告書の提出があったため、授業参観者数は46名(全専任教員数97名の約47%)

とした。

(3) 参観された授業科目数

提出された授業参観報告書に基づく、参観された授業科目数は34(全公開授業科目総数97の約35%)であった。

3. 授業参観報告書の記述より

授業参観報告書の記述として、授業全体に対する感想だけではなく、授業方法の分析や学生の反応や態度にも言及したものが殆どであった。特に、参観した授業に対する改善の余地がある項目およびその具体的な方法の提案が約26%の報告書に、自己の授業改善に取り入れたい具体的な内容が約47%の報告書に記載されていた。ここでは、授業参観報告書に記述された内容を、①参考になった授業方法、②授業全体への感想の2つに分けて、一部を抜粋して紹介する。なお、紙面の都合上、表現の一部をかえている。

(1) 参考になった授業方法

- ・ 「なぜなんだろう」という発問がよくなされ、受講生に考えさせる工夫がなされている。
- ・ STカード(シャトルカード)に質問事項を書くと、それに先生が答える。
- ・ 毎回アンケートを取り、次回授業の際、質問や意見に細かく答えている。
- ・ 授業の最後で次回予告として教材を提示し、視覚的に学生の関心をひきつけていた。

(2) 授業全体への感想

- ・ 教えるというよりも考える授業であった。
- ・ 教師自身はもちろんだが、学生の側に「授業規律」を守るという意識を感じた。日頃から、学生に、指導すべきはしっかり指導し、学生に守るべきレベルを要求されている様子がうかがえた。

4. 授業公開のまとめ

教育学部の授業公開は、平成18年度から開始され、今年度は5回目の授業公開であった。

授業を公開した専任教員の割合としては、平成18年度94.9%、平成19年度96%、平成20年度99%と漸増し、平成21年度から連続で100%であることから、教育学部の全教員に授業公開の目的や意義に対する共通理解が得られているようである。

授業公開・参観を授業の質的向上により活かす

ために、授業参観報告書を教育改善委員会に提出するのではなく、学生による授業アンケート同様、Moodle等を用いて参観者が授業担当教員に直接フィードバックし、その内容を踏まえた授業改善報告書を授業担当教員が教育改善委員会に提出する形式に変更することも一案である。さらに、授業公開・参観によって提案された改善項目の授業への反映度を評価するために、数年間は同一授業を公開して同一教員に参観してもらうことや、指摘された改善項目を学生による授業アンケートの項目として付け加えることなどを、教育改善委員会から提案することも可能であろう。

【4】「学生と教員が求める教育学部とは」

1. 教育改善委員会学生実行委員会の活動

(1) 学生実行委員会について

昨年同様、3年生を中心に各専修から1～4名を選出し、委員の編成を行った。

(2) 学生実行委員会活動報告

シンポジウムに向けてだけではなく、1年間を通して多くの活動および議論を行った。主な活動内容は以下の通りである。

4月27日 第1回

- ・委員の引き継ぎ

5月11日 第2回

- ・役員の決定・確認

- ・今年度の取り組みの確認

- ・プレ企画について

5月18日 第3回

- ・学生実行委員会の交流会について

- ・バレー大会について（日程・時間など）

5月25日 第4回

- ・バレー大会について（ルール、景品・参加賞）

6月8日 第5回

- ・バレー大会について（保険、係分担など）

6月22日 第6回

- ・バレー大会について（参加チーム確認など）

6月24日 第7回

- ・バレー大会について（大会当日の流れ確認など）

6月27日

学生実行委員会主催 バレーボール大会開催

6月29日 第8回

- ・バレーボール大会の反省

- ・今後の活動について

7月6日 第9回

- ・シンポジウムに向けて（テーマについて）

7月13日 第10回

- ・前期の反省

- ・後期の日程について

10月12日 第11回

- ・シンポジウムに向けて（アンケートについて）

10月19日 第12回

- ・学生実行委員会 PR について

11月13日 教育改善委員会学生実行委員会 PR

11月22日 第13回

- ・シンポジウムに向けて（アンケート集計・日時）

11月30日 第14回

- ・シンポジウムに向けて（委員会の紹介など）

12月7日 第15回

- ・シンポジウムに向けて（プログラムについて）

12月21日 第16回

- ・シンポジウムに向けて（詳細の確認）

1月11日 第17回

- ・シンポジウムに向けて（役割分担について）

1月20・25・26日 第18回～20回

- ・シンポジウムに向けて（リハーサル）

1月27日

第六回 教育改善委員会シンポジウム開催

- ・シンポジウムに向けて（詳細の確認）

2月1日 第21回

- ・シンポジウムの反省

- ・フットサル大会について

2. バレーボール大会について

(1) 開催の経緯

今年度も、①学生実行委員会の活動を知ってもらう、②学生同士のきずなを深める、③1月開催予定のシンポジウムをアピールする、という目的で企画した。

(2) 概要

- ・日時：6月27日（土）

- ・場所：教育学部構内第一・第二体育館

- ・対象：教育学部生（全学年）

- ・参加者：約220名（30チーム）

(3) まとめ

バレーボール大会を通して、学生実行委員や参加学生間の関わりが深まり、相互にコミュニケーションをとり易くする環境作りができた。

3. 教育改善委員会学生実行委員会 PR について

今年度の新しい活動として学祭における学生実行委員会 PR を行った。これによって学生実行委員会の活動、特にシンポジウムに向けての宣伝になると思い、参加した。また、学生実行委員会が他学部、そして多くの先生方にも広まってほしいという願いもあった。

学祭に参加したことで学生実行委員会の活動、そしてシンポジウムの良い宣伝になった。参加したことによって学生実行委員会への興味が湧いたという声も聞くことができた。シンポジウムを宣伝する機会がない中で学祭に参加できたことはとても良い効果につながった。来年以降がどうなるかまだ分からないが宣伝できる機会を増やすことができるというのはとてもいいことだと感じた。

4. 第6回教育改善委員会シンポジウムについて

教育改善委員会では昨年度に引き続き、「学生と教員が求める教育学部とは」「新世界～教育学部を変えよう～」というテーマのもとシンポジウムを開催した。

シンポジウムの開催にあたり、事前のアンケートを行った。調査対象は鹿児島大学教育学部所属の学生、調査項目は①話し合いたいテーマ②講話を聞いてみたい先生とその内容③改善してほしい点。調査時期は11月～12月である。

シンポジウムの概要は、以下の通りである。

日時：平成23年1月27日（木）16：30～18：30

場所：教育学部 第一講義棟 101 教室

テーマ：「学生と教員が求める教育学部とは」

「新世界～教育学部を変えよう～」

コーディネーター：教育改善委員会委員

学生実行委員長

◇開会の挨拶：教育改善委員長

◇教育改善委員会学生委員会委員紹介

◇教育改善委員会学生委員会委員とは：学生実行委員

◇講演：①前田晶子 准教授（教育学部）

②楠原 豊 准教授（教育学部）

◇学生実行委員会企画：学生実行委員

・全国大学サミット活動報告

・ディスカッション

テーマ：教育学部の教育環境について

◇まとめ：教育改善委員

5. まとめ 学生改善委員会委員の感想（抜粋） 委員A

私は改善委員会を通して「目標を据えて自分たち自らの手で達成すること」の素晴らしさを知りました。教育学部生がよりよい学生生活を送るために、教育学部全体を、自らの手で改善し学生主体で活動することで、今までにない経験をすることができ、とても刺激的な一年間を送ることができました。何より、ともに活動を行ってきた改善委員会のメンバーとの出会いが、自分自身の成長につながりました。このような教育学部生特有の活動力と、縦横の密接なつながりを生かし、次の世代の活動も教育学部の更なる発展を目指して頑張りたいです！本当に楽しい一年間でした。

委員B

今回、改善委員会の活動に参加する中で、学生が主体となって、学びをよりよくする取り組みの大切さをとても感じました。

大学は、学生が積極的に学問を深めていかなければならない場だと思います。そして、改善委員会は学生にとってよりよい学びの場を提供する大きな役割を担っていると思います。さらに改善委員会の活動の場を広げ、学生にとってよりよい学びの場を提供できるようにしたいと思います。

委員C

教育改善委員として活動させていただいて、週に1回の話し合いを重ねる毎に教育学部について考えさせられ、もっとより良くしたいという想いが強くなっていきました。シンポジウムを終え何かを改善することは難しいと感じました。しかし、毎年の改善委員の活動が積みかさなって、この先の教育学部生がより楽しいキャンパスライフをおくってくれたら嬉しいです。また、改善委員の活動で他学科との交流も増え、楽しい思い出もできました。ありがとうございました。

【5】立命館大学 学生サミット・2010 夏参加報告

1. はじめに

立命館大学では、昨年度より学生が主体となり企画した学生FDサミットを開催している。当初の参加者は教員や職員の個人参加がほとんどであり学生の参加者はわずかであったが、3回目となる本サミットは参加大学のほとんどが学生と教職員、あるいは学生だけのグループ参加であり、参加者の8割弱が学生であった（参加大学数は、学生グループとしての参加が29大学、学生個人参加が6大学、教職員だけの参加が3大学）。

本部では3年前より学生実行委員会を発足させ、学生の主体的な取り組みによりシンポジウムの開催などをおこない、学生からの率直な意見を集約してきた。これらにより学校教育環境の改善など成果を上げてきたが、さらなる飛躍を求め他大学の学生組織との交流やネットワークの構築、そして先駆的、効果的な活動などの情報収集を目的とし、学生実行委員2名と本サミットへ参加した。

2. プログラム

本サミットは立命館大学が主催となり、衣笠キャンパス存心館で二日間おこなわれた。プログラムは以下の通りである。

第一日目（8月28日）

- 10:30~12:00 オープニング
(開会宣言、自己紹介)
- 13:00~14:35 サミット交流タイム
- 14:00~15:20 全体説明
- 15:25~17:05 しゃべり場
- 17:30~19:00 懇親会

第二日目（8月29日）

- 10:00~11:00 学生FD取組み紹介
- 11:00~13:50 グループワーク
- 14:10~15:40 グループワーク発表
- 15:40~16:00 エンディング

3. 活動の概要

参加者同士の交流を図るため、初日の前半は自己紹介および学生FD活動に関する情報交換がおこなわれた。その後、初参加者向けに本サミットの概要や意義の説明が主催者側より対談形式にてなされ、しゃべり場と呼ばれるグループごとのデ

ィスカッションがおこなわれた。二日目は学生FD活動事例紹介の後、グループワークが実施された。

(1) しゃべり場

本学生サミットの核を成すものであり、「大学教育の意義」をメインテーマに話合う。学生、教職員合わせ20グループ（1グループ当たり10名程度、うち教職員が1~2名）に分けられたが、教職員はオブザーバーの立場での参加とし干渉を極力おこなわず、学生達の議論を進めるよう配慮することが求められた。これは本サミット全般で貫かれたスタイルである。今回取り上げられたテーマは以下の通り。

- テーマ1：大学の教育と高校までの教育
- テーマ2：どんな授業を望んでいる？
- テーマ3：学生生活を充実させるには？
- テーマ4：成績評価についてどう思う？
- テーマ5：大卒ってなんだろう？

以上のテーマで学生同士ディスカッションをおこない、翌日のグループワークにて取り扱いたいテーマを選択した。

(2) 学生FD取組み紹介

10大学10分弱程度で取組みを紹介。以下に代表的な事例を紹介する。

① 北海道情報大学（発足1年未満）

- ・10のFDワーキンググループの1つとして学生FDがある。
- ・活動しながら、ノウハウ収集および学生らへの知名度向上を目指す。
- ・現在のメンバーは初期メンバー6名+本年度加入3名の計9名。
- ・初期メンバーは教員推薦、新加入メンバーは学生FDによる公募。
- ・月1回の会議。
- ・授業評価アンケートの返答分析、教員へのインタビュー。

他大学の事例よりできることから始めた。教員学生とも手探りの状態であったが、今年度より学生主導で活動しはじめた。活動に対して教員と学生で意識の差があることがわかった。教員、職員、学生の協力関係、信頼関係をいかにして築くかが課題。

② 嘉悦大学

- ・半学半教を実践する場としてとらえ、半学半

教精神の構築を目指す。

- 学生発信の学内美化運動
(学生同士の交流の場、貢献活動からの学び、自律した学生の育成、能動的学習意欲を引き出す土壌作り)
- 学生による授業サポート
SA/T A制度。(授業外でもメール等を活用し親しみやすいサポートを実践)
SA, TAが教員と学生のパイプ役になり、授業中に教員への提案等をおこなっている。
(学生の理解度に応じた授業速度の調整や補足説明の必要性を伝える。)

③ 名古屋大学 (物理学科)

- 学生が自発的に立ち上げ。(学生の視点から教育環境の向上を目指す。)
- 物理学科公認組織。顧問は不在だが、学生の自主性が養われえいと考えている。
- 物理学科教育委員会へのオブザーバー参加。
(物理学科教育委員会で教員と意見交換。カリキュラム編成など学生に関わる議案には参加。)
- 学部2年～D3, 各学年2人以上, 現在17名
- 授業アンケートは学生がアンケート作成, 集計, 分析をおこない各教員へ報告。(アンケート結果に対して該当科目の講義中にコメントすることを依頼。また教員からアンケートに対する意見を募集し, 改善。)
- 学習相談コーナーを設け, オフィスアワー以外の時間帯に学部生が教員や院生に気軽に質問できるコーナーを運営(毎週月曜、2時間)

(3) グループワーク

しゃべり場を通して参加学生が議論したいテーマを選定, テーマごとにグループ分けし討議を行ないグループごとに考えをまとめていく。各テーマにつき3～4グループ, 計20グループに分かれた。グループごとに整理された意見は, テーマごとに選定され, 全体発表および質疑応答がおこなわれた。

4. 最後に

参加した大学の多くが発足1年未満, あるいは近々活動開始する予定とのことで, 学生が主体と

なるFD活動が本格的に波及していることを肌身に感じた。しかしながら実際には, どこから手をつけていいのか, あるいはどのように活動すればいいかなど手探り状態であり, まずは, 情報収集, 他大学とのネットワーク構築に精力を傾けているようであった。また, FD活動で実績のある大学の事例から, 教育改善は教職員と学生のコミュニケーションがベースにあり, 学生FD活動はそのきっかけ作りに過ぎないことに気づかされた。例えば本学部の教育改善シンポジウムもそれにあてはまる。今後はさらに学生を巻き込んだFD活動が全国的に増える傾向になると思われる。今現在の学生FDによる活動は第1ステージで, とにかく発足させること, 活動することが目標となっているが, いずれは何かしらの成果を示さなければならない。ある参加者から, FDに対するアリバイ作りのための活動, 組織とならぬようにとの発言があった。成果がないと学生からの信用も失われるであろう。そうならぬよう教育改善に活かす努力が必要である。

多くの大学における学生FD組織は, 任期制ではなく, 大学の高等教育研究部門や組織の専任教員と職員が担当者として配置され支援する体制が整えられていた。学生FDスタッフは, 公募形態が望ましいが教員推薦がほとんどであり, 学生間の熱意の差が大きな問題となっているようである。しかしながら本サミットに参加した限りでは, 学生達は彼らなりの大学教育に対しての問題意識や取り組むべき課題をしっかりと持ち, グループワークでは学年の差は関係なく熱心な議論がなされていた。帯同した学生達も感化されたのか, 組織のあり方や活動などを見直し始めた。参加者との情報交換も盛んにおこなっている。学生を帯同させた研修は初めてであったが, 大きな成果があったと確信している。

【6】教育学研究科教育改善のためのアンケート

1. はじめに

本年度は, 教育学研究科が改組され2年目を迎える。これまでの「学校教育専攻」「教科教育専攻」の2専攻が, 「教育実践総合専攻」の1専攻に改組された。加えて, 専攻内には6つの学修コースが設定され, 新たに「研究科共通科目」及び「コース共通科目」が開設されることとなった。このよ

うな科目開設は、融合的な学修を促進する機能を持つだけではなく、教員等各分野の専門家としての力量向上に寄与することが目ざされているといえる。改組後、いわゆる完成年度を迎え、特にこれらの授業については、授業評価及び改善の検討が求められるといえよう。

さて、大学院の教育改善について、昨年度（平成21年度）は、学部学生を対象とした授業アンケートと同じフォーマットを避け、より具体的な内容を引き出すべく、新しく自由記述式アンケートを実施した。その結果、授業改善に向けた具体的かつ多様な意見を得ることができた。特に、前述のコース共通科目の授業に対する改善意見が数多く出され、とりわけ受講側である学生の戸惑いを含む、授業改善の方向性が指摘された。

以上のことを踏まえ、本年度は、さらなる授業改善を目ざし、昨年同様に、大学院生から率直な意見、要求を得るために、自由記述式によるアンケートによる教育・研究環境の事前調査を踏まえての座談会の開催を行った。本章では、アンケートの集計結果について報告する。

2. アンケートの実施方法

平成22年度の教育学研究科大学院生による授業アンケートを以下の手順により実施した。

- ・調査期間；2010年11月22日（アンケート配布開始）～12月17日（回収締切）
- ・対象；教育学研究科全学生を対象（1年生38名、2年生42名、計80名）
- ・手法；アンケート用紙（別紙1）にて自由記述アンケートとした。
- ・配布方法；教務係により、専修毎に必要部数を送付。各専修の研究科運営委員から大学院生に直接配布（11月22日以降）。
- ・回収方法；アンケート回答後、大学院生は教務係のポストへ直接提出。
- ・集計方法；2011年1月末迄に集計および分析を行った。

3. アンケートの質問項目

質問項目は、昨年度と同様に、①授業②研究・学習環境③その他、とし、各項目において要望を求めた。自由記述式であるが「満足である」という簡単な回答だけになることを避けるため、必ず

理由を書くことを促した。また、授業に関する質問項目では、「研究科共通科目」「コース共通科目」に関する学生の反応を把握するために、質問項目に特に追記した。加えて、匿名性を確保するために、学年のみ記入させた。

4. 大学院生による授業アンケートの結果

(1)「授業について自由な要望を書いてください」

授業内容及び授業形態においては好意的な回答が多くみられた。大学院生は、各自が専門的な分野を持ち研究に取り組んでいるため、他分野の学生と交流することを通じて様々な刺激や幅広い知識の獲得を目ざしているように推察される。また、授業形態は、グループワークやディスカッション形式で進められる科目が多く、学生たちには、非常に好評であった。加えて、各コースには、現職教員の院生が多数在籍しており、授業における提示される課題に対して、彼ら教育現場の視点からのアプローチが加味され、その結果として、授業内容が深まったことが、好意的な回答に繋がったと推察される。

一方、「研究科共通科目」「コース共通科目」の授業に対する要望も多く得られた。ここでは、さらに深い内容で授業を構成してもらいたいという要望が多く得られた。このことは、研究科共通科目等の授業は専攻する分野の違う学生が共に学ぶため、授業を構成する教員の側にとっては、課題レベルの統一が難しいものと推察される。このことは、共通科目故の課題であると考えられる。

また、共通科目の授業は、オムニバス形式で実施されるものが多く、教員間の連携や欠席や評価規準などのルールの提示が円滑にできていないことがあげられた。このことは、昨年も同様な意見が得られており、さらに検討すべき課題として考える必要がある。授業時間については、大学院生全員が受講しなければならないため、遅い始業時間はやむを得ない状況がある。この事情については、大学院生にも了承していただきたいと考える。

加えて、コース共通科目が、なぜ小学校の専修免許状の免許科目と認定されていないのか、というカリキュラム上の課題が指摘された。このことについては、研究科全体として検討するべきであると考えられる。

(2)「あなたの研究・学習環境について自由な要望を書いてください」

満足と要望の各回答は、それぞれが含まれるかたちで回答されている。このことは、研究領域・専修によって、定められている研究環境や質の違いが存在することが推察される。昨年同様、引き続き、研究室単位で、環境や設備面における格差の存在が露見した結果であると考えられる。とりわけ、空調設備等に関する要望が多く、建物によっては、老朽化が激しいものがあり、早急に対応を要する事項の存在が明らかとなった。また、共用スペースの使用についての要望（使用時間や合い鍵作成）、コピー機使用の自由度をあげてもらいたい等、研究を進めるための切迫した要望が数多くあげられた。

(3)「その他、何か要望があれば自由に書いてください」

以下、大学院生からの要望（抜粋）

- ・「国際学会等への参加に対して、少しでもいいので補助があれば助かります（経済面で断念してしまう人もいると思うので）」
- ・「奨学金制度の充実（社会人向けの奨学金や研究助成制度の新規開拓）を希望します」
- ・「大学院には、様々な立場の人たちがいるため、全員にとって学びやすい環境を保證することが重要であると感じます」
- ・「キャンパスアメニティーやそれぞれの科目内容や先生方の分かりやすい授業には感謝しています。特に専門外の学習者にもチューニングして解説・説明していただけるので感激しています」

5. 総括

平成22年度のアンケートは、回収率が21%程度であり、昨年(25%)を超える低いものであった。今後は、配布及び回収の仕方に工夫をする必要があると考える。今回、配布については、各専修の大学院運営委員の先生を通じて行われ、回収については、大学院生が個別に教務係に設置された回収箱に投じるものであった。次回以降は、研究科共通科目等の授業機会を利用し、数多くの大学院生に直接働きかけることから、回収率向上を目指すことができるのではないかと考える。

今回のアンケートは、座談会を踏まえた事前アンケートという位置づけで実施された。回収率は

低調であったが、得られた意見は、具体的かつ切迫感のある内容であったと考える。特に、研究科共通科目等については、授業の内容面・方法面について、授業を構成する教員側にとっては、有益な意見を得ることができた。この内容については、真摯に受け止め、さらなる授業改善に取り組むことが求められる。さらに、研究・学習環境についての要望は、昨年同様の傾向が伺えた。この点については、即座に対応できるものとできないものがあると考えられるが、大学院生の教育・研究に対する支援は、研究科全体として継続して行うことが求められると考える。

【7】教育学研究科の教育改善にかかる座談会

1. 概要

大学院の教育改善に関しては、これまでは学部同様、簡易なアンケートによって教育改善に繋がる情報を得ることが目ざされたが、有益な意見を得ることができなかった。そこで、昨年度は、新たな試みとして、実際に大学院生から直接意見を出してもらうべく、座談会を実施した。

座談会では、大学院生から多様かつ具体的な教育改善に伴う意見が数多く出され、大きな成果を得ることができた。したがって、今年度は、教育改善に向けて、より具体的な意見の抽出を目ざし、昨年同様に座談会を企画し実施することとした。なお、開催にあたっては、1章で報告した事前アンケートの結果から問題提起、話題提供を行っている。

2. 実施方法

座談会までの事前準備として、大学院生に事前にアンケートを行い、その集計結果よりテーマ、あるいは話題を整理した。話題提供者として大学院1年生から代表者2名（教育学部から進学した院生・他学部から進学した院生、各1名）、現職教員から代表者1名に参加を依頼した。座談会当日のスケジュール等は、以下の通りである。また、今回は、座談会後に「事後アンケート」を実施した。

日時：平成23年2月3日(木) 16:30～17:30

場所：教育学部第1講義棟204教室

対象：大学院生、学部学生、教職員

テーマ：大学院教育に求めるもの

総合司会：教育改善委員

◇開会の挨拶：研究科長

◇事前アンケートの報告：教育改善委員

◇「大学院生の公開座談会」:

話題提供者

- 1) 言語・社会系学修コース1年生
- 2) 芸術・スポーツ系学修コース1年生（現職）
- 3) 理数・環境系学修コース1年生
- 4) コーディネーター 教育改善委員長

◇座談会後の「事後アンケート」のお願い

3. 開会の挨拶

本学教育学研究科は、平成21年度に教育実践総合専攻に改組された。この改組によって、教育学研究科は、教科や学部分野に細分化されたコース・専修を融合し、より広範な単位である6つの学修コースを設置した。

このことによって、現実の課題に即した、総合的な講義や研究方法の指導を通して、視野の「広い」、高度の専門的知識・技能を背景に、「広く」教育分野において、優れた指導力を有する高度専門職業人の養成を図ることとした。

教育研究において、この「広く」「広がり」という言葉は、最高学府としての大学院が備えるべき普遍的な「深まり」とともに、今後の本学教育学研究科を性格づけるキーワードに位置づくものと考えることができる。つまり、ここで学ぶ皆さんの学習・研究のプロセスと成果こそが、本学研究科の将来的展望と成否を決することになると考える。

このような中において、大学院生と教員の立場から、両者が主体となり、協働し、教育改善に向け取り組むことは、高等教育機関としては、極めて重要な事項であると捉えることができる。大学院生が継続的に関わる教育環境（物的なもの、教育内容、教育方法、カリキュラム等）は、様々な事項が含まれる。このような事項全般について、率直な意見を提示することは、大変意義のあることであると考えられる。

さらに、大学院教育の受け手の立場に留まらず、教育学研究科を共に創る、すなわち大学院を協働によって創るというという、創り手一送り手、双

方の立場から、創造的かつ建設的な考えを提示していただければ、有り難く、また、素晴らしいことと考える。本日は、有意義な1時間になることを期待している。

4. アンケート集計結果報告

アンケート結果の概要は、配付資料に基づき紹介された。

5. 大学院生との公開座談会

パネリストとして3名の大学院生にアンケート集計結果、あるいは普段感じていることから話題を提供してもらい、フロアの参加者を含め、討論が行われた。

話題提供1：カリキュラムに関して

・小学校の専修免許に対応する授業科目について、選択必修であるコース共通科目が、小学校専修免許に対応していない。

話題提供2：授業内容に関して

・大学院の授業が、学部の授業と同様な内容構成である授業が散見されること。また、研究科共通科目の授業内容を、ストレートマスター・現職教員・他学部卒など、背景の異なる院生に対して、どのように構成しているのか。加えて、先生方が講義内容を、どのレベルに合わせているのか。

話題提供3：環境面に関して

・コースや研究室によって、大学院生室の有無等、格差が有りすぎるのが問題ではないだろうか。院生1人に対して机やパソコンが確保されているところもあれば、一方では、院生と学部生らが一緒の部屋で机の確保もできない専修・研究室が存在する。

・女子トイレに関して、場所によっては通路から丸見えのところがある。また、入口が磨りガラスで中にいることがわかる場所がある。早急に対応をお願いしたい。

6. 事後アンケートの結果

今回、初めての試みとして、座談会終了後に事後アンケートを実施した。座談会についての感想を、4件法でチェックしてもらい、また、内容及び今後の座談会継続ならびに課題について、具体的な意見を求めた（別紙2参照）。

大学院1年生から4名、2年生から3名、教員1名、学部学生2名の回答を得た（計10名）。以下、各項目について集計結果を示す。

①「今回の座談会は、いかがでしたか？該当する番号に○をお願いします」

【1 とてもよかった】 … 1

【2 よかった】 … 6

【3 もの足りなかった】 … 1

【4 よくなかった】 … 1

※チェック無し…1

当日の参加者は、教職員を含め25人であった。事後アンケートは、参加者の概ね半数から回答を得ることができ、感想としては、「よかった」と感じる箇所にチェックが多く、座談会の開催意義及び効果はあったのではないかと考える。

②「座談会の内容は、いかがでしたか？」

以下に回答を示す。（抜粋）

- ・返答がいただけたのでよかったです。（どのような形であれ）
- ・もっと発言がないと座談会としての意味がないと思うので再考が必要かと。ただ、意見を発信して、みなが考えることができた点はよかった。
- ・授業内容やカリキュラムなどの問題点に気づくことができた。参加者らが、授業の内容やカリキュラムの問題などを共に考えることを通して、授業改善に関する課題を共有することができたことは、大きな成果であると考えることができる。

③「座談会は、今後も、続けたいと考えますか？」

以下に回答を示す。（抜粋）

- ・本大学は、まだまだ改善の余地あり、と感じる。今後も続けていかなければならない。
- ・自分は卒業してしまうが、今後も続けてほしいと思う。できれば院生ほとんどが参加できるよう、もっと会自体をアピールする必要がある。
- ・様々な立場や学科の方が意見を言い合うことで、見えない部分が認識できるので、続けるべきだと思います。

座談会は継続するべきである、という回答が数多く得られた。参加者にとっては、座談会への参加を通じて、授業改善及び大学院教育について、よりよい方向性を考える、よい契機になったと考

えられる。一方、「参加者が少ないため、開催の意義があるのか」という厳しい回答も得られた。このことは、担当者である教育改善委員会の責任でもあるかと考える。座談会当日の同時刻に、学部内では、複数のイベントが進行されており、結果として、大学院生は各イベントに分散されたようである。次回以降は、座談会開催のアナウンスについては、精緻な戦略を考え、進めたいと考える。

④「感想などをご自由にお書きください」

以下に回答を示す。（抜粋）

- ・今年で卒業するが、今後入学したい学生が増えるよう、素晴らしい大学院にしてください。教員免許的にみても、大学院卒の必須性は増すでしょう。ありがとうございました。
- ・自分が日頃感じていることを伝えることができ、よかった。教育科全体の問題として、それぞれを考えていかなければならないと思う。
- ・出席が少ない（教員も院生も。モチベーションが上がりません）

前項の内容と重なる部分ではあるが、今回の座談会では、参加者が少なかったことが感想として、数多くあげられている。参加者にとっては、自らの学びを見つめ直す、よい契機になっているように推察されるため、今後、座談会開催については、確かなアナウンスの徹底に努め、数多くの大学院生及び教職員の参加を促したいと考える。

7. おわりに

昨年度に引き続き、今年度も、大学院における座談会を開催した。簡易なアンケートでは得られない大学院生の本音が聞けたのではないかとと思う。特に、参加者らは、授業内容やカリキュラムについて、パネリストやフロアからの意見を手がかりとして、改めて考え直すことを通じ、授業改善に向けた課題を明らかにしていたことが、事後アンケートから明らかになった。このことは、座談会という形態を採用し、具体的な考えを参加者間で相互に交換することから、課題の共有化を図った成果であると考えられる。

今回の座談会から得られた大学院生の要望については、即座に対応できるものについては、教育学研究科として対応を進めたいと考える。加えて、今後の大学院教育に反映していただければ幸甚である。

理学部

平成 22 年度理学部 FD 活動報告書

はじめに

18 歳人口の半数以上が高等教育機関に進学するいわゆる大学の大衆化時代を迎えて、後進への学問の伝達にも初等・中等教育と同じようにさまざまな工夫が要請される時代となっている。理学部では、そうした時代の趨勢に学ぶとともに、学部の教育課程を学生にとってもより魅力的なものにするために、FD 活動に取り組んでいる。平成 21 年度に理学部で実施した主な FD 活動の内容は、以下のとおりである。

- (1) 学生による授業評価アンケートの実施 (7 月、1 月)
- (2) 授業公開および授業参観の実施 (6 月、12 月)
- (3) 日本学生支援機構(JASSO)シンポジウムへの参加
- (4) 講演会および学生・教職員ワークショップへの参加
- (5) 学生サービスを向上目的の IT 技術の導入

本報告書では上記(1)～(4)についての概要を記載する。詳細については「平成 22 年度理学部 FD 活動報告書」を参照していただきたい。大学の教育活動の改善は必要不可欠なもので継続的になされるべきのものであり、理学部においてもよりいっそうの FD 活動の強化がはからねばならない。

1. 学生による授業評価に関するアンケート調査の実施

理学部における授業アンケートの目的は受講学生の率直な声を担当教員に還元することにより個々の授業や学科のカリキュラムをより有益なものへと改善していくことにある。教員評価のための資料として利用しないことを初めて授業アンケートを実施した平成 13 年度に取り決めている。以下の項目について実施した。今年度の授業アンケートは、集中講義、教職専門科目、非常勤講師担当科目を除く全科目を対象に行われた。多数の教員が 1 回ずつ担当する総合講義方式の授業も、アンケート対象としている。アンケート用紙は、授業ごとに受講者分を担当教員に渡し、授業時間内に記入させた。昨年度までは、記入済みの用紙を学生が自主的に（または学生の代表が取りまとめて）学生係に持参する方式であったが、そこまで気を遣う必要はなかろうという意見が多く、所定の封筒に入れさせ、それを教員が学生係に持参することにした。

アンケートを記名式にすべきかどうかは、従来から意見の分かれる点であるが、理学部では従来から「ゆるやかな記名式」にしている。記名欄と「なるべく記入してください」という記述をつけることにより、無責任な回答を抑止する効果が多少なりともあるのではないかと考えてきたが、実際には無記名の回答が多かった。今年度は「記載任意」ということにした。前述

のようにこのアンケート結果は、担当教員の提出した自己分析書とともに、理学部FD委員会で保存するほか、学科ごとにFD委員および学科長のもとで保管し、各学科のカリキュラム改善のための基礎データとして活用できるようにしている。

後期の授業アンケートは、1月に約3週間にわたって行われた。前期アンケートの実施に関して寄せられた要望に応じて、期間を数日伸ばし、冬休み明けの授業期間中の都合良い授業日に実施していただくことにした。読み取りミスを減らすため、今回から形式をマークシート式に改めたが、内容は前期アンケートと全く同じである。以下にこのアンケート結果について報告する。今期からは、理学部の全学科に対して同等の条件で開講されている科目（理学の在り方）を、理学部共通科目として集計することにした。このような性格をもった科目は前期にもあり、今後増加すると考えられるので、集計方法も今後変えていくのがよいであろう。

今期のアンケート実施状況は表2-1に示されている。アンケート実施科目数が21年度に比べて減少しているのは、アンケート対象科目の範囲を縮小したためである。アンケート対象科目の中で実施できなかった科目は9科目（9%）あり、延べ受講者数は366名（9%）であった。これは前年度とほぼ同じであり、今年度前期ともほぼ同レベルである。アンケート回収枚数・回収率についても、ほぼ同レベルである。前期と比べたとき、アンケート対象科目の受講者数に対する回収率では前期と同程度なのに、実施科目の受講生に対する回収率で見ると前期より3%以上低いという現象が起こっている。この現象は前年度にも発生している。理由は定かでないが、例えば後期の科目での途中放棄者が多いなど、前・後期の科目構成の違いによるものではないかと考えられる。

表1-1 授業アンケートの実施状況概要

	22年	21年	20年	19年	18年
アンケート対象科目	84科目	91科目	89科目	91科目	117科目
受講者数1	4306人	4306人	4366人	4296人	5028人
アンケート実施科目	75科目	85科目	80科目	74科目	93科目
受講者数2	3397人	3606人	3943人	3575人	4252人
アンケート回収枚数	2096枚	2669枚	2446枚	2333枚	1995枚
回収数/受講者数(%)	61.7	74.0	62.0	65.2	46.9

以上のようにアンケートの実施状況については、対象科目の90%程度でアンケートが実施され、実施科目の受講生数に対して60%程度のアンケートが回収されるという状況が定着してきたよ

うに見える。平成 17 年度以前の、Web でアンケートを行っていた時期と比べて、回収数は 50% 以上増えている。

2. 授業公開の実施

前年度と同様に、前・後期各 1 回の授業公開（前期:6 月 28 日～7 月 9 日、後期 12 月 4 日～22 日）が行われた。前後期合計で、4 学科合わせて 25 の授業が公開対象となり、それに対して延べ 43 名の教員が参観した。前年度と同様に、参観者からは参観者報告書を提出してもらい、授業担当教員はその意見を参考にして授業公開報告書を提出することにした。前期 12 件、後期 11 件の報告書が提出された。

初めて授業公開が行われた平成 18 年度後期以来、理学部では以下の実施要領に従って、授業公開を行っている。

1. 教員全員が、授業公開または授業参観のいずれかに、年間 1 回以上関わることを原則とする。
2. 公開される授業は学科、講座のバランスを考える。（非公開の学科、講座がないようにする）。
3. 参観した教員は、講義を担当した教員にレポートを提出し、講義を行った教員はその意見を参考にしながら、学生係にレポートを提出する。

表 2-1 平成 22 年度授業公開および授業参観者数の概要

平成22年度 公開授業および参観者数		
	公開授業数	延参観者数
数理情報科学科	7	16
物理科学科	6	9
生命化学科	6	10
地球環境科学科	6	8

授業公開の時期が年 2 回となり、報告書を見る限り授業改善のために有効に活用されているようである。しかし授業参観者数は以前と比べて増加しているものの、まだ充分ではない。「教員全員が、授業公開または授業参観のいずれかに、年間 1 回以上関わる」というルールを達成するには、さらに参加者をさらに増やす必要があるし慢性化の傾向もみられるようになり、今後工夫が必要となろう。各学科の F D 委員の積極的な参加の呼びかけはもちろんのこと、あらゆる方策を尽くして参観者の数を増やすことを考えなければならない。

3. 日本学生支援機構(JASSO)シンポジウムへの参加

日本学生支援機構では、ユニバーサル段階を迎えた大学が直面する書課題へ対応していくために学生支援の室の向上や適切な情報を提供することを目的として、専門家で構成する「大学等における学生支援取り組み状況調査研究プロジェクトチーム」が設置され、学生支援に関する調査・研究が進められている。

今般学生支援プロジェクトの活動の一環として注目されている「ピア・サポート」がとりあげられ、効果的な実施・運用方法や今後の課題等について調査・研究結果の報告を通して、「ピア・サポート」の取り組みをさらに発展・充実させるためのシンポジウムが開催されたのを機に参加した。平成22年12月13日東京国際交流会館にて開催された。

学生支援のための有償・無償の取り組み、やサークルを利用した種々の支援体制の事例紹介に勉強される部分が多々あった。

しかしながら、これまで理学部において行われている学生との教育懇談会やカリキュラムマップの作成のためのサポートも「ピア・サポート」として位置づけられることがわかり、理学部において学生に対する教育研究内容の改善を目的とした学生との教育懇談会などを更に発展・充実させていくことが重要であるの認識に至った。

以下に理学部において実施された教育懇談会の事例を報告しておく。各学科独自で新生の入学時期ないし8月～12月期に行われているものである。

主な学生からの意見・要望を項目別に以下に列挙する。

【講義関連】

問1 授業等で不自由はないか

- ・ 物理系の授業がわからない（量子力学、物理化学など）
- ・ 物理がわかりにくい。数式が出てくると混乱する
- ・ いきなり、わからない言葉や式が次々と出てくる
- ・ 言葉によっては、物理学概論で説明が出てくることがある
- ・ 講義の内容に重複がある・基礎的な事項は理解できるが、それを他に応用できない。
- ・ PowerPointだけの授業は、印象が薄く、復習もやりにくく困ることが多い。せめて、授業で使用したPowerPointファイルのプリントは配付して欲しい。むしろ、板書だけの授業の方が良い。

学生支援シンポジウム
「ピア・サポートのダイナミズムとインパクト
～学生が創造するキャンパス空間～」

ピア・サポートの効果的な実施・運用方法および今後の課題等について、調査・研究結果の報告やパネルディスカッション等をおし、参加者とともに「ピア・サポート」の取組をさらに発展・充実させるためのシンポジウムを開催いたします。

平成22年12月13日(月)
13:00-16:45(12:00より受付)
東京国際交流会館 プラザ平成
【東京都江東区青海2-2-1】
新交通ゆりかもめ「船の科学館」駅東口より徒歩約3分
定員200名

＜ファシリテーター・セッション
「ピア・サポートの法則を探り出そう!」＞
田中 岳
(九州大学准教授)
小貫 有紀子
(九州大学特任助教)

＜パネルディスカッション
「ピア・サポートを大学教育にどう位置づけるか」＞
沖 清豪・・・コーディネーター
(早稲田大学教授)
川島 啓二・・・パネリスト
(国立教育政策研究所総括研究官)
栗 敬治・・・パネリスト
(愛媛大学准教授)
望月 由起・・・パネリスト
(お茶の水大学准教授)

＜基調報告＞
川島 啓二
(国立教育政策研究所総括研究官)

＜「大学、短期大学、高等専門学校における学生支援の取組状況に関する調査」の中継報告＞
串本 剛
(東北大学講師)

開催案内をご確認の上、お申し込みください。
申し込みHP
http://www.jasso.go.jp/gakusei_plan/symposium.html
申し込み受付期間
平成22年11月30日(火) 17:00まで

独立行政法人
日本学生支援機構
Japan Student Services Organization

独立行政法人日本学生支援機構
学生生活部学生生活計画課
Tel:03-5520-6166
Fax:03-5520-6047

問2 授業でわからない場合どう対処しているか。

- ・ 友達のノートを借りたり、教えてもらう
- ・ 全くわからないという授業はない。

問3 担当の教員に質問はしないのか。

- ・ 先生には聞きにくい（距離がある）・全部ではないが、質問しにくい雰囲気を感じる先生もいる
- ・ 質問をしたくても、何を聞きたいのか、うまくまとめられない
- ・ あまりにも基本的な内容では聞いてもしかられそうな気がする
- ・ 板書の字が汚かったり、読み辛かったりして板書を取りにくいことがある
- ・ 授業中に先生の携帯電話がなる場合がある（授業が中断されることもあった）ので、止めておいてほしい
- ・ 冷房温度の設定を下げないでほしい（教室の構造上の問題もあり、一部が極端に冷えることがある）。

それ以外にも、下記のような内容についての質問も行っており、学生からの率直な意見を集約してまた教員の感想なども参考にして、FD活動の内容、授業内容の改善について今後努力する必要がある。

問4 研究室配属関係について

問5 就職について

3. FD シンポジウムならびに FD 講演会

<FD シンポジウム・学生教職員ワークショップへの参加>

平成22年2月15日に開催された学生・教職員ワークショップ「鹿大のピア・サポートを考える」に理学部からも参加した。

本学における学生支援体制の整備状況の把握とその問題点を明らかにするとともに、議論を通して「平成郷中サポーター」の制度設計を試みることで、本学の教協に即した制度導入に向けた第一歩とすることを目的とするシンポジウムに参加した。

<FD 講演会>

演題：「学生をつまづき支援：発達の偏りの見つけ方」

講師：保健管理センター 伊地知信二准教授

講演は、平成22年11月25日に理工学研究科・工学部・理学部FD委員会の共催で行われた。「多様性、個性が重要視されるのであれば、発達の偏りはあって然るべきである。発達の偏りが無い人間は存在しない」という前置きから始まった。

発達の偏りを持ち、支援が必要な学生を見つけることは難しく、対処法も一般的・普遍的な方法は存在せず、専門家によって意見が分かれるとのことであった。本人は一生懸命やっていると思っているがうまくいかず、支援が必要であるが、教員側からみると「まさかこの学生が支援が必要なはずはない」といったギャップがある。「支援が必要な学生に気がつくことが重要。支援

が必要な学生を見つけることができ、抱えている問題とその理由がわかれば対策を考えることができる。教員と保健管理センターの職員とで情報を共有し、対策を考案することが重要」とのことであった。

支援が必要な学生に気づくための学生の特性の例示が主たる講演の内容であり、大変有意義であった。

<FD 研修授業の実施と意見交換会>

理学部では共通教育基礎教育科目を担っている。教員相互の研鑽を目的とした共通教育研修授業（公開授業）が開催され、理学部からも積極的に参加した。

FD研修授業を実施して下さった担当教員と参観教員を交えた意見交換会が行われた。授業の進め方や学生の理解力向上を目指して工夫された授業の展開、学生の受講態度などに対する担当教員の自己評価、参観教員による評価について活発な意見交換が行われ、鹿児島大学の共通教育をさらに充実させていくための内容がたくさんあり、有意義な意見交換会であった。

4. 学生サービスを向上させるための IT 技術の導入

授業案内は入学時に配布されるため、授業改善に常に取り組んでいる組織としては高学年になるにつれて授業案内の内容と現実の授業との間に相違が現れる。これは、急速な科学技術の進歩や社会情勢の変化が起こっている現代には、時代の要請に即した授業を行うためには宿命的なずれである。このずれを縮めるには分厚い授業案内を毎年全学生に配布する必要があるが、それは経費のみならず貴重な紙資源の著しい消費を招く。幸いにして、近年の情報技術（IT）の発展は、自宅やキャンパス何処からでも、最新の情報を瞬時に送信・伝達することができるようになった。理学部では、中規模データベース・サーバと WEB ブラウザーによるアクセスを可能にするソフトウェアを導入することによって、授業案内のみならず各教員が必要とするさまざまな最新情報を学生に配信するシステムを構築する。また、リフレッシュルームにネットワーク端末を整備して学生が容易にアクセスできるインフラを整備した。よりいっそうの設備充実が今後の課題であろう。

医学部

医学部医学科 FD 活動報告

1. はじめに

医学部 FD 委員会医学科部会は、学士課程教育に加え医師養成という医学科教育の使命に特化した教育活動を支援する FD 活動を実施している。医師不足をはじめとする医学教育の諸問題を解決するために、平成 21 年に文部科学省は「医学教育の改善の方向性」として、1) 基本的診療能力の確実な習得と将来のキャリアの明確化、2) 地域の医療を担う意欲、使命感の向上、3) 基礎と臨床の有機的連携による研究マインドの涵養、4) 学習成果を生かす多面的な評価システムの確立、5) 医学教育の充実に必要な指導体制の強化、を示した。この方針を実現するために、平成 22 年 3 月には全国の医学生が必修として学ぶ教育のガイドラインである医学教育モデル・コア・カリキュラムが改訂された。これらの指針に従った教育の必要性に加え、本学では地域枠の選抜による 20%以上の医学科学生定員の増加があり、限られたリソースで質の高い教育を実施していくには教員の教育への取り組みと実施上の工夫が望まれている。教育の現状の正確な把握、教員の教育技能の向上、新しい医学教育に関する情報の共有は教育の改善に極めて重要であり、医学部 FD 委員会医学科部会がそれらの活動を担っている。

本年度は学生による授業評価アンケート項目の改善と対象の拡大、国内の医学教育の最新の動向を共有する講演会の実施、入試委員会との共催による講習会の実施を含む活動を行ったので報告する。

2. 学生による授業評価アンケート

A. 科目終了時アンケート

概要

平成 21 年度は 1 年から 4 年までの専門科目 38 科目のうち試験日が設定されている 33 科目を対象としていたが、平成 22 年度はレポートによる評価を行っている科目も含め 1 年から 4 年までの全専門科目 45 科目 58 領域を対象とした。学習と授業に対する無記名のアンケート用紙を教務係より科目担当者に配布し、科目終了直後の試験時、あるいは授業最終日に担当者がアンケート用紙を配布、回収した。

平成 22 年度は質問項目を全面的に改定した。学生の学習の実態とカリキュラム、教員の指導方法について具体的な改善点を明らかにするためのアンケートとして検討し、学生自身の学習に対する自己評価 4 項目、科目について 8 項目、講師の指導について 5 項目、全体評価 1 項目とした。各項目について 5 段階の評定尺度で回答し、さらに自由な意見を記

載してもらった。

42 科目 55 領域から 4104 枚（平均 75 枚/領域）の回答が得られた。回答が得られなかった 3 科目はいずれも今年度初めて対象となった選択科目であり、授業評価アンケートの回収方法が明確に担当者に伝えられなかったことが原因と考えられた。医学科の授業はセメスターではなく、不規則な時間割で編成されている。アンケートは実施されるたびに医歯学教育開発センターに届けられ集計しているが、今年度はその結果と自由記載内容を科目・領域責任者に直ちに報告したことも改善点であった。また、全科目の集計結果を医学科 FD 委員会、医学科会議に報告した。

アンケート結果（別表）

● 学生自身の自己評価

101 学習への積極性、102 教科書、文献での学習、103 原理の理解と応用について、4 の回答が最も多かったものの、1/3 の学生はどちらともいえないと回答しており、2-3%の学生は全く行っていないと回答している。医学科の学生は学習内容も多く、また生涯学習者としての基盤育成が学部教育の目標となっている点からも、学生の学習意欲と学習態度、学習方法は多くの改善が必要であることが示された。グループ学習は学習方法として重要であるばかりでなく、将来のチーム医療を推進する基盤を作る学習方法である。104 グループ学習への貢献の回答が 1~3 29%である点は改善が望まれる。

表 A

● 科目について

201 シラバスの記載はどちらとも言えないを選択したものが最も多く、わかりやすく必要な情報を提供することが望まれている。202 学習内容の有用性と 206 学習領域への興味・関心が 3.8-3.9 と比較的高く、医学専門科目への関心が示された。203 学習方法、204 関連、発展、205 評価は 3.7 である。201-206 の項目は 4 以上の評価が望ましいことから、教員の力キュラムの工夫、改善がより一層必要であることが示された。

表 B

● 講師の指導について

301 授業への準備、303 質問への対応、304 専門性は 3.8-3.9 と比較的高く、専門性の高い教員が熱心に取り組んでいることが示された。302 学生の理解を促すための工夫と 305 講師間の連携は 3.7 であり、専門家として有意義な授業を行うとともに、教育として授業のすすめ方を改善していただくとより良い評価になることが示された。

表 C

- 全体評価

60%の学生が4-5と高い評価をしている一方で、27%の学生がどちらともいえない、12%の学生が1-2の評価である。科目による評価の差も見られ、特に1年生がグループ学習を中心とした授業に低い評価をしており、学習方法の支援など検討が必要であることが明らかになった。

表 D

自由記載

多くの学生が良い点、改善すべき点を具体的に記載してくれた。多数の講師が分担して実施する科目では、学生が内容の重複や欠落を指摘しており、各授業責任者・担当者がアンケートの結果を授業改善に役立てていただきたいと考える。また、熱心な教員の指導により当該領域への関心が高まるとともに、教員を医学・医療に携わる優れたロールモデルとして学生が見ていることも明らかになった。

今後の方針

学生は概ね熱心にアンケートに答えてくれた。アンケートの項目の改善により有用な情報が得られ、また1-4年生の専門科目についてアンケートが実施できたことより、平成23年度も回収率を高めるよう留意して継続する。アンケートを実施していなかった5、6年生の臨床実習も調査の必要があり、臨床実習の評価に適切なアンケート項目と実施方法を検討する。

B. 6年生を対象とした医学科教育に対するアンケート（医歯学教育開発センター）

教育改善と新カリキュラム計画の資料とする目的で、6年生を対象としたアンケートを計画し、最終試験終了時（平成22年11月30日）に医学科教育に対するアンケート用紙を87名に配布した。6年生の卒業試験（科目別試験、最終試験）、6年講義、6年臨床実習、5年臨床実習、4年基礎臨床統合カリキュラム、自信、不安、教育の良い点、改善すべき点について72項目の選択あるいは自由記載の無記名による回答をもとめ、23名から回答が得られた。

選択による回答の集計と自由記載はすべてまとめ（結果は省略）、医学科全講座の教授に配布した。

3. 講演会

平成22年度は外部講師による講演会を1回実施した。

日時: 2011年3月17日(木) 17:00~19:00

タイトル 医学教育改革の潮流-モデル・コア・カリキュラムおよび医師国家試験の最新の動向を踏まえ-

講師: 奈良 信雄
東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター センター長、教授

主催: 鹿児島大学医学部 FD 委員会

共催: 鹿児島大学医歯学総合研究科 FD 委員会

会場: 鶴陵会館中ホール

参加者: 教授 6名 准教授 3名 講師 3名 助教(特任を含む)4名 外部 2名 計 18名

概要: 海外 12ヶ国の医学教育事情の視察、改訂作業中の医学教育モデル・コア・カリキュラムの紹介、共用試験 CBT、OSCE の内容、医師国家試験のあり方検討の経過等について最新の情報、東京医科歯科大学での大学をあげての教育改善の取組とカリキュラムをご紹介いただいた。講演終了と参加者と医学教育全般について幅広い討議を行い、教育改善方法の理解を深めた。

4. 講習会 (FD 委員会医学科部会によるものに限る)

- 入学試験における面接の評価方法

日時: ①2011年1月24日(月) 14:00~16:00 ②2011年2月10日(月) 16:00~18:00

主催: 医学部 FD 委員会医学科部会

共催: 医学部入試委員会医学科部会

会場: 第一講義室

講師: 医学部 FD 委員会医学科部会委員、佐野 輝、桑木 共之(入試委員会医学科部会長)

参加者: 医学科入学試験面接官: ①44名(講師 7名を含む) ②27名(講師 6名を含む)

概要: 受験生の能力を引き出す面接を行い、医学部医学科のアドミッションポリシーに基づいた評価基準に従った信頼性の高い評価を行う方法を講義とロールプレイで習得した。

- 臨床実習改善のためのワークショップ 2010

日時: ①2010年10月9日(土) 9:30~17:00 ②2010年10月16日(土) 9:30~17:00

主催: 医学部 FD 委員会

共催: 医歯学教育開発センター

会場: 共通教育棟 3階 301 講義室他(16日)

講師: 田川 まさみ(医歯学教育開発センター)

参加者: 教育担当者: ①14名 ②8名

概要: 本学臨床実習の責任者ならびに実施担当者を対象に、最新医学の動向と医学科臨床実習で修得すべき臨床能力を理解し、そのための実習の計画を立案し学生を評価することを目的とした。臨床実習で修得すべき基本的能力と診療参加型臨床実習の重要性、制約をふまえ実施可能な実習の計画、管理運営、評価方法の立案について講習した。

5. おわりに

全国の医学部・医科大学が実施しているFD活動は毎年調査され、報告書が作成されている。本学科は医学部FD委員会医学科部会と医歯学教育開発センターが協力して講演会、講習会を企画し、医学部のFDとして多彩な活動を実施している。入試委員会医学科部会と企画した講習会には多くの参加が得られたのは、面接担当教員は必ず講習会を受講するという方針で実施することができたからであった。しかし、講習会で教育技能を高める意識は教員に高いとは言えず、通常の呼びかけでは講演会・講習会参加人数が極めて少ない状況が続いている。FD活動のインセンティブを高めることの必要性は以前から指摘されていたものの根本的解決にはいたっておらず、教育業績・教育研修歴の評価を含む全学的取組が必要と考えられる。

学内の教育方針に対応した教育技能向上に関する講習会、学外の医学教育の動向を教員に周知するための講演会の必要性は高く、平成22年度は一定の成果が得られた。平成23年度はFD委員会の役割である教育の質の把握と教職員の教育技能向上をめざし、入試、教務関連委員会、全学FD委員会、桜ヶ丘の部局FD委員会等との連携を深めて、医学科の活動を推進していく予定である。

表 A. 自身の学習に対する評価

101 積極的に学習した(質問・予習・復習)

(1:全く行わなかった 3:どちらともいえない 5:非常に行った)

選択数(%)					平均	SD
1	2	3	4	5		
2.2	6.8	31.2	40.7	19.0	3.7	0.87

102 教科書や参考文献で広く、深く学習した

(1:全く行わなかった 3:どちらともいえない 5:非常に行った)

選択数(%)					平均	SD
1	2	3	4	5		
3.7	9.5	33.9	37.3	15.7	3.5	0.92

103 原理の理解や臨床への応用を考えながら学習した

(1:全く行わなかった 3:どちらともいえない 5:非常に行った)

選択数(%)					平均	SD
1	2	3	4	5		
2.4	7.0	33.2	40.8	16.5	3.6	0.88

104 グループ学習ではグループのために貢献した

(1:全く行わなかった 3:どちらともいえない 5:非常に行った 該当しない)

選択数(%)						平均	SD
1	2	3	4	5	該当なし		
1.9	3.1	23.9	31.4	18.7	21.1	3.7	0.87

表 B. 科目について

- 201 シラバスには必要な情報がわかりやすく記載されていた
(1:全くそう思わない 3:どちらともいえない 5:非常にそう思う)

選択数(%)					平均	SD
1	2	3	4	5		
3.1	6.3	39.9	35.8	14.9	3.6	0.87

- 202 学習内容は有用である
(1:全くそう思わない 3:どちらともいえない 5:非常にそう思う)

選択数(%)					平均	SD
1	2	3	4	5		
1.8	5.1	24.0	42.9	26.2	3.9	0.84

- 203 効果的な学習方法が用いられた
(1:全くそう思わない 3:どちらともいえない 5:非常にそう思う)

選択数(%)					平均	SD
1	2	3	4	5		
3.1	8.6	31.3	38.4	18.6	3.7	0.91

- 204 他の授業との関連や発展がよく理解できた
(1:全くそう思わない 3:どちらともいえない 5:非常にそう思う)

選択数(%)					平均	SD
1	2	3	4	5		
2.9	8.0	31.0	39.1	18.9	3.7	0.89

- 205 科目の教育目標に沿った評価(範囲、内容、レベル)だった
(1:全くそう思わない 3:どちらともいえない 5:非常にそう思う)

選択数(%)					平均	SD
1	2	3	4	5		
2.1	7.3	30.5	40.4	19.8	3.7	0.87

- 206 学習した領域への興味、関心が高まった
(1:全くそう思わない 3:どちらともいえない 5:非常にそう思う)

選択数(%)					平均	SD
1	2	3	4	5		
3.0	6.2	26.2	39.8	24.8	3.8	0.92

- 207 難易度は
(1:難しい 3:適切 5:易しい)

選択数(%)					平均	SD
1	2	3	4	5		
12.8	20.2	55.7	8.8	2.5	2.7	0.79

- 208 時間数は
(1:長い 3:適切 5:短い)

選択数(%)					平均	SD
1	2	3	4	5		
5.4	7.4	61.8	17.8	7.6	3.2	0.78

表 C. 講師の指導について

- 301 講義・実習等がよく準備されていた
(1:全くそう思わない 3:どちらともいえない 5:非常にそう思う)

選択数(%)					平均	SD
1	2	3	4	5		
2.7	6.9	25.9	40.7	23.7	3.8	0.90

- 302 理解を促すための工夫がされていた
(1:全くそう思わない 3:どちらともいえない 5:非常にそう思う)

選択数(%)					平均	SD
1	2	3	4	5		
3.4	7.6	27.0	40.1	21.9	3.7	0.92

- 303 質問を促し、積極的に質問に応じてくれた
(1:全くそう思わない 3:どちらともいえない 5:非常にそう思う)

選択数(%)					平均	SD
1	2	3	4	5		
1.5	4.9	28.0	38.5	27.1	3.9	0.86

- 304 学習領域の講師として適切であった
(1:全くそう思わない 3:どちらともいえない 5:非常にそう思う)

選択数(%)					平均	SD
1	2	3	4	5		
2.1	4.2	23.7	41.4	28.5	3.9	0.86

- 305 授業を担当した複数の講師は連携して効率的に指導した
(1:全くそう思わない 3:どちらともいえない 5:非常にそう思う 該当しない)

選択数(%)						平均	SD
1	2	3	4	5	該当なし		
4.2	7.8	28.6	34.3	20.5	4.7	3.7	0.97

表 D. 全体評価

- 401 この授業を来年度の学生にも勧めたいと思う
(1:全くそう思わない 3:どちらともいえない 5:非常にそう思う)

選択数(%)					平均	SD
1	2	3	4	5		
4.8	7.5	27.3	36.1	24.3	3.8	0.94

平成22年度 医学部FD委員会保健学科部会活動報告

1. はじめに

平成22年度の医学部FD委員会保健学科部会の活動として、学生による授業評価、教員による授業公開・授業参観を実施した。それぞれの活動について以下に概略を述べる。

2. 学生による授業評価

実習、演習を除く総ての授業科目を対象に学生による授業評価を実施した。実際に授業評価が行われた科目は、前期54科目（実施率83.1%）、後期55科目（実施率67.9%）であった。評価方法は、アンケート調査であり、学生自身の自己評価として「出席状況」「意欲的な取り組み」「予習・復習」、授業の内容として「内容のふさわしさ」「明確なシラバスの内容」「授業内容とシラバスの整合」「適切な難易度」「他学生への履修の勧め」「自分にとっての価値」、さらに教員の授業への取り組みとして「わかりやすい説明」「時間どおりの開講」「授業に対する熱意」「質問や相談への対応」の合計13の質問項目を設定し、それぞれに対して1点から5点の5段階（点が高いほど評価が良い）で回答してもらった。また、「この授業をよりよくするための意見や要望、受講者としての自分を省みたくえでの感想などを自由に書いてください。」として自由記述してもらった。回収したアンケートは、当該科目と全科目の質問項目ごとの平均点を示した資料と共に担当教員にフィードバックした。平成22年度の評価結果（全科目の質問項目ごとの平均点）を平成18年度から平成21年度の結果と共に下の表に示した。各項目の平均点の合計は、平成18年度53.56、19年度53.65、20年度54.85、21年度55.35、22年度55.52と徐々に増加している。学生自身の自己評価は、18年度の平均3.89から平成22年度には平均4.05に、授業の内容は、18年度の平均4.20から平成22年度には平均4.34に、教員の授業への取り組みは、18年度の平均4.17から平成22年度には平均4.33に増加しており、ほぼすべての項目で経年的に増加していた。

学生による授業評価の結果（全科目の質問項目ごとの平均点）

質問項目	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
出席状況	4.71	4.62	4.40	4.65	4.66
意欲的な取り組み	4.05	4.00	4.11	4.24	4.19
予習・復習	2.89	2.97	3.01	3.24	3.29
内容のふさわしさ	4.38	4.36	4.47	4.46	4.47
明確なシラバスの内容	4.15	4.11	4.38	4.27	4.34
授業内容とシラバスの整合	4.16	4.13	4.28	4.28	4.34
適切な難易度	4.36	4.34	4.39	4.39	4.30
他学生への履修の勧め	3.97	4.20	4.20	4.20	4.22
自分にとっての価値	4.20	4.22	4.35	4.34	4.38
わかりやすい説明	4.10	4.14	4.27	4.28	4.29
時間どおりの開講	4.30	4.26	4.38	4.34	4.37
授業に対する熱意	4.24	4.25	4.39	4.40	4.40
質問や相談への対応	4.05	4.05	4.22	4.26	4.27

各質問項目に対して1点から5点の5段階で評価

3. 教員による授業公開・授業参観

教員による授業公開・授業参観を前期においては6月14日から7月9日まで、後期においては11月1日から同月26日までの期間に実施した。前期には、17名の教員により延べ50科目が公開され、11人が参観し、後期には、15名の教員により延べ34科目が公開され、15人が参観した。参観後は、授業参観報告書を参観した教員に提出してもらい、授業公開した担当教員にフィードバックした。

4. おわりに

学生による授業評価については、例年、同じ質問でアンケートを実施しており、各項目の経年的変化(改善)を知ることができた。しかし、質問項目には十分とはいえないものもあり、今後、項目の見直しを行う必要がある。教員による授業公開・授業参観については、例年同じ時期に行うと同じ内容の講義となり関心も低くなるので、今後、実施時期を変えることも考慮していきたい。また、学生による授業評価、教員による授業公開・授業参観を踏まえた授業の変更点に関する教員に対しての調査も行いたい。

(文責 米 和徳)

齒学部

歯学部 FD 活動報告

1. はじめに

歯学部 FD 委員会では、従来からの全学的な取り組みとしての「学生による授業評価」、「授業公開・授業参観による教員相互の評価」、および共用試験歯学系 CBT 作問スキルアップに関する講習会、研修会、学部 6 年生対象の教育に対する卒業時アンケート調査とともに、今年度からの新たな取り組みとして、「歯学教育者のためのワークショップ」、外部教育系セミナーへの教員派遣、外部教育系セミナーの活動協力、および共催活動として「平成 22 年度鹿児島大学医学部・歯学部附属病院歯科医師臨床研修指導歯科医講習会」への参画、アカデミックハラスメントに関する FD 講演会（全学的な事業に移行）をおこなった。本報告では、最後の「FD 講演会」を除く各活動について、以下にその活動概要を記す。

2. 学生による授業評価

歯学部 FD 委員会では、年間の FD 活動の一環として、本学部において以前作成した「学生による授業評価委票」を用いて、予習、復習の実施状況を 5 段階（5：常に十分行った、4：よく行った、3：普通に行った、2：たまに行った、1：まったくしなかった）、また各教員の授業に対する 14 の質問項目に対して 5 段階（5：極めて優れている、4：良い、3：普通、2：やや劣る、1：よくない）で評価を行っている。方法は、平成 22 年度後期に開講した授業を対象に、各授業の終了時に適宜実施した。評価対象者は各授業担当教員であり、職位は教授、准教授、講師、助教であった。無記名式の「学生による授業評価委票」は、学生が記入後、各学年のクラス委員が回収し、学務課歯学教務係へ提出された。これらは OCR により処理後、集計作業が行われた。

集計結果を下記に示す。

記入者の学年	1年生	2年生	3年生	4年生	平均
回答数	1	8	3	8	
この授業の予習・復習を行ったか	2.42	2.17	2.48	2.40	2.37
シラバスに沿った授業がなされたか	4.05	3.95	3.77	3.89	3.91
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	4.05	3.94	3.80	3.90	3.92
授業の準備がよくなされていたか	4.11	4.30	3.94	3.97	4.08
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	4.12	4.05	3.94	3.85	3.99
実習器具・材料は適切であったか	4.05	4.03	3.96	3.89	3.98
実習は授業内容の理解に役立ったか	4.15	4.09	3.95	3.95	4.04
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	3.91	4.14	3.62	3.88	3.89
質問や学生による発表の機会を与えられたか	4.18	3.82	3.70	3.94	3.91
質問をしやすい雰囲気であったか	3.89	3.72	3.72	3.74	3.76
学生にとって適切な難易度であったか	3.66	3.74	3.88	3.76	3.76
学習意欲が刺激されたか	3.80	3.82	3.89	3.68	3.79
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	3.93	4.36	4.08	4.05	4.10
教育に対する熱意が感じられたか	4.23	4.26	3.98	4.00	4.12
総合的な評価	3.90	4.13	3.96	3.92	3.98

「学生による授業評価委票」が実施された授業は各学年合計 20 であった。回答された授業の数が少ないため、この数値のみで詳細な分析を行うことは不可能であるが、「授業の予習・復習」に関する項目が、いずれも「3」を下回っている点、また「総合的な評価」が全学年ともに「4」程度である点は、平成 21 年度の結果と同様の傾向であった。また「教員が学問分野の専門家として信頼できたか」、「教育に対する熱意が感じられたか」という 2 項目については、平成 21 年度ともに「4」を超

えており、教員に対する信頼は継続して高いことが推察される。一方で、「質問をしやすい雰囲気であったか」や「学生にとって適切な難易度であったか」については昨年度とともに低い結果であった。これらの点から、より学生に受け入れられる授業を構築するためには、学生からのニーズを的確に把握するとともに、可能なところから実行に移し、授業の改善につなげていくことが重要であると考えられた。

3. 授業公開・授業参観における教員相互の評価

歯学部教員による授業公開・授業参観による相互評価は、全学的な取り組みの一環として例年実施しており、平成 22 年度は 11 月 8～19 日の期間に行われた。この期間の歯学部における授業は原則として全て公開とし、教員は FD 活動の一環として、随時授業参観することを可能とした。質問項目は下記の 14 項目とし、5：極めて優れている、4：良い、3：普通、2：やや劣る、1：よくない、の 5 段階での評価を依頼した。結果を下記に示す。

	A	B	C	D	E	F	G	H
シラバスに沿った授業がなされたか	4	4	5	5	4	5	4	5
授業の主題・概要・到達目標等の説明があったか	4	4	5	4	4	5	4	5
授業の準備がよくなされていたか	5	4	4	4	4	5	4	5
教材(プリント、スライド、教科書、参考書、板書等)は適切であったか	4	4	5	5	4	5	4	5
実習器具・材料は適切であったか	-	-	5	-	-	5	-	-
実習は授業内容の理解に役立ったか	-	-	5	-	-	5	-	-
明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	4	5	5	5	4	5	5	5
質問や学生による発表の機会を与えたか	4	3	5	2	2	5	4	5
質問をしやすい雰囲気であったか	4	3	5	2	3	5	4	5
適切な難易度であったか	4	4	4	4	3	5	5	5
学習意欲が刺激されたか	4	4	4	3	4	5	4	5
教員が学問分野の専門家として信頼できたか	5	5	5	4	5	5	5	5
教育に対する熱意が感じられたか	3	5	5	4	4	5	5	5
上記項目以外の観点も含めた「総合的な評価」	4	4	5	4	5	5	4	5

授業参観に参加した教員数は 8 名であり、昨年度同様（参加者 8 名）参加者が少ない傾向であった。評価結果からは、「教材が適切であったか」、「明瞭で聞き取りやすい話し方であったか」など具体的な授業方法についての評価は比較的高かった一方で、「質問や学生による発表の機会を与えたか」、「質問をしやすい雰囲気であったか」などの評価が低く、学生と教員の双方向性の授業方法については十分実施されていない点が推察された。この取り組みを通じて、教員が同僚の授業を見学することにより様々な意味で刺激を受け、自己の授業方法の在り方を再考するきっかけになればよいと考えられる。そのためには今後、より多くの教員の本取り組みへの参加を促す必要があると考えられた。

4. 学部 6 年生対象の教育に対する卒業時アンケート調査

歯学部 FD 委員会では歯学部教育委員会とともに、学部 6 年生の卒業時に、6 年間受けてきた教育全体の振り返りという意味で、各種教育内容、活動、施設などについて、歯科医師になる立場で有効であったかどうかについて、無記名式アンケート調査を実施している。本年度は、平成 22 年度学位記授与式が挙行された平成 23 年 3 月 25 日に、歯学部 6 年生のうち同式に出席した 42 名を対象に調

査を行った。調査項目は下表の 18 の各種教育内容、活動、施設などについて、5：極めて有効であった、4：どちらかと言えば有効であった、3：どちらとも言えない、2：どちらかと言えば無意味であった、1：全く無意味であった、の 5 段階で評価を行うよう依頼した。以下にその結果を示す。

<回答者に関する事項>

	鹿児島県	鹿児島県以外の九州	左記以外
出身地	12	11	19
卒後研修先	21	5	13

<鹿児島大学入学後の教育内容、活動、施設などについて、歯科医師になる立場であなたにとって有効であったかどうか、ご記入ください>

	5	4	3	2	1	平均
オリエンテーション	6	16	15	3	2	3.50
共通教育	3	12	13	9	4	3.02
導入系科目	10	13	10	6	1	3.63
基礎系科目	13	21	5	3	0	4.05
臨床系科目	17	18	5	1	0	4.24
医系科目	12	17	9	3	1	3.86
臨床実習	22	17	2	0	0	4.49
選択科目	12	13	13	3	0	3.83
CBT	14	20	8	0	0	4.14
OSCE	11	21	7	1	2	3.90
総合歯科医学	3	18	15	3	3	3.36
チューター制度	5	19	7	3	8	3.24
課外活動	17	12	13	0	0	4.10
学術情報基盤センター	5	14	15	5	1	3.43
図書館	20	14	7	0	0	4.32
学習室	15	11	12	3	1	3.86
学生控室	14	12	11	5	0	3.83
学務事務室	13	15	14	0	0	3.98

調査の結果、評価の平均値が「4」を超えた項目は、「基礎系科目」、「臨床系科目」、「臨床実習」、「CBT」、「課外活動」、「図書館」であった。質問が「歯科医師になる立場で」ということであり、また歯科医師国家試験合格発表直後という調査時期から、これらの項目が高く評価されることは理解できる。逆に、相対的に評価が低い傾向であった教育内容は、調査時期や質問方法による影響かもしれないが、学生のニーズに合っていない教育内容であった可能性もあり、今後検討していく必要がある。

5. 共用試験歯学系 CBT 作問スキルアップに関する講習会

1) 目的

共用試験歯学系 CBT において、より質の高い作問を行うとともに、作問の教育活動上の意義に対する認識を深め、教員の教育能力開発に資するために、共用試験実施評価機構から問題作成 FD 専門部会委員のタスクフォースを招き、事例ベースによるブラッシュアップの一端を解説する。

2) 日時

平成 23 年 2 月 17 日 (木) 15:00~18:00

3) 場所

医歯学総合研究科棟 1 (歯学系) 3 階 第 1 示説室

4) タスクフォース (講師)

小口春久先生

日本歯科大学東京短期大学 学長

共用試験歯学系 CBT 実施小委員会 問題作成 FD 専門部会 部長

天野 修先生

明海大学歯学部 教授

共用試験歯学系 CBT 実施小委員会 問題作成 FD 専門部会

5) 参加者


歯学部教員：56名

6) 内容

当初、講演「共用試験歯学系 CBT 作問法とその良問・悪問の例」、討論「CBT ブラッシュアップの問題点」といった2部構成を計画していたが、本学部の CBT ブラッシュアップの取り組み状況、および作問担当者の希望等ふまえ、タスクフォースからの提案で3時間全体を本学部で作成中の課題を例示しながら具体的に検討し、アドバイスや提案、参加者を交えた討論を行う形式へと変更した。

本学部では共用試験歯学系 CBT の作問を、全講座を挙げて取り組んでいる。本年度は平成 22 年 12 月より作問を開始し、2 月よりブラッシュアップ作業に移ってきた。今回の講習会は、このような作問活動に連動し、作問者（および教職員）にとってより効果的な講習会となるよう、数点の工夫を行い実施した。一つは、事前に新作問題に対して内部である程度ブラッシュアップ作業を行い、これを講習会当日の題材として使用してもらったこと（修正前後をパワーポイントファイルにまとめてタスクフォースに郵送しておいた）、またもう一点は事前のブラッシュアップ作業を FD 活動の一環とし、作問担当者以外の教職員にも参加して頂いた。そこで事後アンケート調査を行い、これらの意見を集約したものを事前にタスクフォースに提供していた。その結果、講習会の内容はいずれも我々が目にしたもののばかりであり、その場で具体的なコメントを頂けたことは大変貴重な機会であった。また、事後アンケートに上げられた疑問点等については、タスクフォースのご配慮で時間内で大半の項目にご回答頂き、極めて有意義な時間であったと考えられる。

<講習会題材の例>

コアカリ 記入例		
Type-A	Before	After
	9歳の男児。前歯でものが噛みにくいことを主訴に来院した。切歯の交換後に気になったという。習癖と特記すべき全身的な既往はない。削除した箇所。初診時の口腔内写真を示す。 口腔内診査で、上下顎骨の前後的位置関係を判断するのに適切な観察項目はどれか。	9歳の男児。前歯でものが噛みにくいことを主訴に来院した。切歯の交換後に気になったという。習癖と特記すべき全身的な既往はない。 骨格的な不正を疑い、第一大臼歯の前後的な咬合関係を見ることにした。 初診時の口腔内写真を示す。 不正咬合の種類はどれか。
a. オーバーバイト b. オーバージェット c. 乳犬歯咬合関係 d. リーウェイスペース e. 第一大臼歯咬合関係		a. アンクル I級 叢生 b. アンクル I級 開咬 c. アンクル II級 1類 d. アンクル II級 2類 e. アンクル III級
		図の修正事項(必要な場合) -画像から何を判断させたいかが不明瞭 -画像がなくても正答を導ける -問題の修正に合わせて画像を交換するなど視覚素材の修正方針を記入。
		備考 -ブラッシュアップで意見が分かれた問題 -優先的に指導を受けたい問題 など指導上の参考になる情報を記入。 メモ的な内容は「枠外の「クリックしてノートを入力」欄に記入。

<講習会当日の風景>



於保教育委員長挨拶



天野 修先生



小口春久先生



会場風景

7) 事後アンケート結果

(1) 今日のFD講習会を受講して

<理解できた点>

- ・結果を出して方法を問うのは良くない(クイズ形式はだめ) (16)
- ・視覚素材の形式(模式図はグレースケール、カラーを使用してよい基準等)、配置 (13)
- ・作問することによる教員側へのメリット、作問の意義 (12)
- ・A~Q問題の作問方法の違い(タイプ別で出題目的が異なる) (12)
- ・SBOの重要性 (10)
- ・連問の文章はフルスケール(全ての情報を入れ、学生が情報の取捨選択できるかを問う) (10)
- ・良問の作成方法(お作法など) (8)
- ・副文の書き方(「正しい」は安易に使わない、等) (8)
- ・臨床における失敗例の扱い(あくまで対象は臨床実習前の学生である) (6)
- ・選択肢の並べ方、同質、同レベルがよい (6)
- ・基礎-臨床相互に問題を作成することの必要性 (4)
- ・視覚素材の位置づけ、考えさせることの必要性 (4)
- ・良問・悪問の違い (3)
- ・私たちが考える良問と機構の考える良問の違いがある (2)
- ・共用試験の意義 (2)
- ・マニュアルを熟読する必要性 (2)

- ・視覚素材があるかどうか、の基準 (2)
- ・写真では分からない情報を文章に挿入すること (2)
- ・L問題のタイトルは解答のヒントにならないようにすること (2)
- ・誤答肢が「誤り」であることを説明できる所見が必要である (2)
- ・教育の重要性について
- ・フィロソフィーの大切さ (学生に向けてのメッセージ)
- ・良問が作成できる人は学生に何を教えるべきかが分かっている人
- ・少し難しい問題を作る方が良い
- ・日頃の臨床において専門分野の問題意識をもつ
- ・臨床現場との関わりを考えること
- ・日頃から作問を意識した視覚素材を集める必要性
- ・主文の書き方 (連問では前問の答えを改行して問題文に入れる)
- ・写真はデジタルでキレイなものである必要がある
- ・マニュアル (中央、学内とも) の記載が不十分。講演内容を文字で理解できるように改訂の必要がある
- ・実際作問した問題を直接批評されて、どこが悪いのかが理解できた
- ・L問題の趣旨 (選択肢を見なくても主文、副文、視覚素材で答えが出るようにする)
- ・学問的にありえないものは採用されない

<理解できなかった点>

- ・連問の作り方、問題間の関連性、流れ (5)
- ・具体的にはどのように変えていけばよいか、という意見があったらより良かった (2)
- ・視覚素材の作成方法 (色の使い方等) がよく理解できなかった (2)
- ・「流れを止める問題」の意味
- ・「流れ」という概念
- ・L問題の作問の趣旨
- ・誤答肢の質
- ・短絡的な問題は良くないようだが、学内では「難しすぎる」として修正されてきた。基準が分からない
- ・連問の文章はフルスケールで、ということだが、どこまで情報を盛り込めば良いのかが分からない
- ・” シンプル” と” 短絡的” の違いが難しい
- ・採択率が低い問題を作らないようにする方法
- ・採択率が低い問題を作ってしまう現状への考慮

<ご意見等があればご記入ください>

- ・とても参考になりました (3)
- ・今回は BU 終了後の講習会だったが、作問開始前に講習会を行った方がよりよいのではないかと (2)
- ・提出した問題が全て取り上げられていて良かった (2)
- ・次年度以降の作問に向けて有意義だった
- ・非常に得るものが多かった、できればまたお願いしたいと思います
- ・より実践的な FD で単なる講義よりもはるかに効果的だと思った、こんな FD は参加していて楽しい

- ・機構側の生の声が聞けて大変良かった
- ・系統的に教えて頂けてよくわかりました
- ・実際に BU した問題をさらに厳しく BU するので、非常に分かりやすかった
- ・先日の BU に参加した上で本日の講習を聞いたので良く理解できた
- ・2年に1度くらいのペースで行ってもらいたい
- ・良問が作れる人がその分野で何が重要かが分かっている人であるという CBT 作問の意義
- ・作問を通じて、基礎と臨床の連携を深めることが重要である、という TF の言葉が印象的だった
- ・BU に相当の時間をかけるべきである
- ・W 問題をどのように作ったか（連携したか等）を調査し、より連携を深めるように誘導してはどうか
- ・Q 問題で4回分の画像をそろえるのはかなり困難であると感じた
- ・この過程に初めて参加しました、これまでただ視覚素材を提供していただけなので反省しています
- ・第一示説室のプロジェクターの性能のためか、せっかくの視覚素材がよく見えなかった
- ・今日の内容を現場へフィードバックすることが重要
- ・模範として「良問」を示してほしかった
- ・視覚素材の重要性は理解できるが、少なくなっていく疾病は過去の視覚素材でも良いのではと思います
- ・句読点が気になった、教科書など文科省の公文書は「,」「。」を使うらしいが、CBT では「,」「。」を使っているようだ
- ・学内での試験問題についても適切、不適切があるかも知れないので参考になった
- ・毎回作成する問題が同じような感じになってしまうのですが、形式等も毎回新しいものでなければならぬのか（BU すればするほど類似問題になってしまう）

<今後、FD 講習会で取り上げてもらいたい内容があればご記入ください>

- ・よい講義の方法、よい講義プリントの作り方
- ・授業の組み立て方（15回、毎回、異なる授業法、評価法）
- ・教育について
- ・他大学における特徴的な教育方法の紹介
- ・講義、マンツーマンの授業法
- ・学習者の評価方法について詳細に解説してほしい
- ・臨床研修の評価
- ・当学部で行う OSCE をいかに良く向上させていくか
- ・基礎と臨床の関連性を問う問題を作る際、そテーマや視覚素材を探すきっかけとなるような会合の場を設定してほしい

6. 共用試験歯学系 CBT 作問スキルアップに関する研修会

1) 目的

共用試験歯学系 CBT において、作問における基本的事項の理解を深めるとともに、より質の高い作問を行うために、教育委員会共用試験実施部会における CBT 作問委員会主催のグループ内ブラッシュアップに参加し、作問作業の実際を体験する。

2) 日時および場所

<第1回>

A グループ・ブラッシュアップ

平成23年2月9日(水) 18:00~20:00 医歯学総合研究科棟1(歯学系)3階 第1示説室

B グループ・ブラッシュアップ

平成23年2月7日(月) 18:00~20:00 医歯学総合研究科棟1(歯学系)9階 会議室

C グループ・ブラッシュアップ

平成23年2月8日(火) 18:00~20:00 医歯学総合研究科棟1(歯学系)3階 第1示説室

<第2回>

A グループ・ブラッシュアップ

平成23年2月21日(月) 18:00~20:00 医歯学総合研究科棟1(歯学系)9階 会議室

B グループ・ブラッシュアップ

平成23年2月23日(水) 18:00~20:00 医歯学総合研究科棟1(歯学系)9階 会議室

C グループ・ブラッシュアップ

平成23年2月22日(火) 18:00~20:00 医歯学総合研究科棟1(歯学系)3階第1示説室

3) 対象者および参加者

<対象者>

歯学部教員全員

<参加者>

第1回 A グループ・ブラッシュアップ: 38名

B グループ・ブラッシュアップ: 41名

C グループ・ブラッシュアップ: 32名

第2回 A グループ・ブラッシュアップ: 13名

B グループ・ブラッシュアップ: 16名

C グループ・ブラッシュアップ: 21名

4) 内容

本学部では共用試験歯学系 CBT の作問を、全講座を挙げて取り組んでいる。歯学部 FD 委員会では、教育委員会共用試験実施部会とともに CBT 問題作成過程を歯学部 FD 活動の一環としてとらえ、歯学部教職員に対して各 CBT 作問グループ(A、B、Cグループ)で行われるブラッシュアップに参加してもらい、問題作成上の基本的事項の確認とともに、自らの作問能力向上へ向けて取り組んでもらう機会を設けた。

5) 事後アンケート結果

(1) 今日の FD 研修会を受講して

<理解できた点>

- ・ CBT の良問の作り方 (15)
- ・ CBT の BU の流れ (15)
- ・ 視覚素材の拡大率等のレイアウト、調整方法 (15)
- ・ 正答と誤答の理由の記載方法 (13)
- ・ 選択肢の書き方(簡潔に短く、同等の意義を持たせる、組み合わせの作り方) (12)

- ・図表の作り方（単位、説明、意味がはっきりとわかるように、矢印の書き方）（12）
- ・画像、写真がいかに大切であるか（12）
- ・CBTにおける問題文などの表現方法（部位の書き方等）（10）
- ・正しい用語の使い方（文字列の形式、言い回し方、スペース、半角、全角等も統一する）（10）
- ・選択肢を並べる順序（10）
- ・CBTは学生に「不平等にならないように」する必要がある（7）
- ・主文の書き方（ストーリーの組み立て方、最後が一文字なのはよくない、など）（6）
- ・シンプルな問題作成が必要（無駄な情報は省く）（6）
- ・作問のねらいの記載方法（専門外の間が見ても理解できるようにする）（6）
- ・文章のみで正解が出ないようにする（写真を見なくても答えられる問題はだめ）（6）
- ・視覚障害（色弱等）の受験生も考慮する（形態で比較できるようにする、など）（6）
- ・L問題の作り方（作問のねらいの書き方、「×」回答の解説は不要、など）（6）
- ・作問時の細かいルール、レギュレーション（マニュアルの重要性）（4）
- ・コアカリキュラムとの整合性（4）
- ・副文の書き方（4）
- ・文章と画像の関連性（4）
- ・表を見やすくするテクニック（3）
- ・W問題の作り方（3）
- ・最終形まで全員で考えることは、効率的な作問に有効
- ・連問一問目の写真の在り方（初診時の写真が良い）
- ・CBTは内容はもちろん形式も大切である
- ・出題者のミスを見つけるための配慮（誤答の説明の書き方）
- ・機構が求めている要素
- ・他科の知識
- ・本当に必要なことを見失っているなあということ
- ・作問者が時間をかけ練り上げた問題であるということ
- ・BUには一つ一つ時間が必要であるということ
- ・他科の先生の意見を聞くことで見落としや不足している部分を抽出できること

<理解できなかった点>

- ・作問の細かいルール（6）
- ・専門用語の選び方（言葉の使い方、人名の表現方法など）（6）
- ・文章の作り方（文末の表現方法、情報量など）（5）
- ・選択肢の作り方、並べ方はどれが最適なのか（4）
- ・議論が細かすぎて進まないように思える時がある（2）
- ・ナンセンス肢の定義（2）
- ・W問題の1/2と2/2の関連性（2）
- ・CBTの問題レベル（難易度）（2）
- ・良い問題と悪い問題の違い

- ・ SBO とは？具体的には？
- ・ Q 問題の主文はどれくらい省略してよいのか
- ・ L 問題はこういった問題が適切なのか
- ・ 文章と写真の重要度の比重が難しい
- ・ 図、写真を設問の流れに合致するようにすること
- ・ 文字などが入った図の最も望ましいレイアウトの仕方
- ・ 色弱の人にも解けるように、とのことだが臨床との兼ね合いはどうか
- ・ 視覚素材は必ずないといけないのか
- ・ 専門外なので詳しいことが判らなかった
- ・ (PC の) 操作方法
- ・ 全体的な理解が難しい
- ・ 問題の形式を守るがあまり、本当に大事な” 聞きたいこと ” を見失っている
- ・ 問題作成の規制が多すぎて作問できる問題に偏りがでる
- ・ 色々な意見ができるのは良いが、大きな変更を促すような意見を出して議論するのはどうか
- ・ CBT の作問は教員側にとってどのようなメリットがあるのか
- ・ CBT の採択率がどのような業績評価につながるのか。労力と成果への還元があまりにも不明
- ・ 最終決定に関して規格化されていない点 (大御所が良いと言えればいい、など)

<ご意見等があればご記入ください>

- ・ 全体 BU の前に各講座内での BU があまりなされていない (9)
- ・ 1 問当りの BU にかかる時間が長く効率が悪い (7)
- ・ 基本的なチェックは全体でする前に行うべき (チェック表の活用、など) (7)
- ・ 多くの先生が参加することにより、様々な意見、提案が提示され、より良い BU が出来る (2)
- ・ マイクのスイッチが入っていなかったのか、声が小さく聞き取りにくかった (第一示説室) (2)
- ・ 写真が NG であればその問題の BU に時間をかける意味はないのでは (2)
- ・ 出た意見に対して全員の前で PC 上で修正を行うのは非効率 (2)
- ・ FD 研修として行うなら BU の内容を吟味する必要がある (2)
- ・ 司会が難しい (2)
- ・ このような会議はすごく充実していて良い
- ・ 大変お疲れ様です、頑張ってください
- ・ 各科の教科書を用意すればすぐに調べられて便利
- ・ 問題作成のヒントが得られて良かった
- ・ BU 時に問題点を解決してしまうことは、作問者にとってとても有難い
- ・ 1 時間と決めてもらえると集中できるので良い
- ・ 開始時間は適切で良かった (18:00 開始)
- ・ 精度の高い問題を作るためにはこのような研修会は必要、個人で勉強するより効率的
- ・ 良い問題を作るという意味で BU の意義は理解できる。しかしながら技術的な議論に偏り、問題の GIO、SBO を考えることを忘れていたような気がする
- ・ 一度ワーキングだけの FD 研修会を開催した方が良い

- ・FDとしては、どこを指摘されどのように修正されたかをまとめてほしい
- ・二回目のBUからFDにした方が良いと思う
- ・経験上、セミナー室くらいの小さな部屋に、作問委員のみが集まる方が自由な討議が行いやすい
- ・作問者自身が参加していないと非効率なBUになってしまう
- ・(可能なら)各分野の先生がそれぞれのBUの日に一人はいた方が良い
- ・人数が多すぎて纏まらない感じ
- ・連問のBUの際には、まず全体像を見てからの方が良い
- ・有意義であったが、意見を出す人が限られている
- ・教授の先生方は参加しないのでしょうか？
- ・2時間は長い気がするので、もう少し短くてもいい
- ・作問委員以外の先生は1時間で切り上げた方が良い
- ・やや作問数が多いと思う
- ・講義室が多少狭い(参加する人数に比べ)(9階会議室に42名)
- ・BU中に学生が会場周辺にいた。開催場所等には気をつけた方が良いのではないのでしょうか
- ・もう少し質問しやすい雰囲気にしてほしい
- ・文法や記述のルールで単純な修正は、教員よりも事務的な業務に長けた人の手を借りてもよい
- ・CBT問題作成の過程は教員の標準化という効果は大きいですが、解く側に解答できるだけの知識を供給できておらず、学生が予備校等のCBT対策参考書を必死で勉強している姿は違和感を感じる
- ・CBTの作問の様な大学および個人の業績に何ら関係のないことにあまり大きな時間を割く必要はない。もう少し効率的な運用を

<今後、FD研修会で取り上げてもらいたい内容があればご記入ください>

- ・採用されたCBT問題と不採用になった問題等を見くらべて考察したい (3)
- ・臨床実習に活かせる内容(指導法など) (2)
- ・作問の際の主文、副文の表現方法についていつも迷う。その辺の基本的な説明、研修会
- ・選択肢を5つそろえるテクニック
- ・専門外来別での検討会
- ・他大学のCBT作問の流れについての講習
- ・CBT、国家試験の作問に関する講習会
- ・”総合歯科医学”試験の問題もBUが必要
- ・上手な講義の仕方(大学に限らず、専門学校、予備校、高校など)や、学生参加型の講義、実習の成功例の紹介など
- ・学生への効果的な教育方法
- ・学生が居眠りしないスライド作成法
- ・学生、研修医指導の到達目標の設定と評価の具体的方法(教官の最低限の統一的理解が必要)
- ・OSCE、CBTの教育上の意義について
- ・ポートフォリオについて
- ・教授の先生方が参加するようなテーマ
- ・歯科臨床で求められる基礎分野の知識とは何か

7. 歯学教育者のためのワークショップ

1) ワークショップテーマ

歯科医学教育における教育能力開発

2) 到達目標

GIO

効果的な歯科医学教育を行うために、現状の自施設の抱える問題点を認識し、その改善に貢献する

SBO s

- 1) 教育の原理ならびにあり方を説明する
- 2) 自らの教育活動を振り返る
- 3) 効果的な教育方法を立案する
- 4) 立案した教育方法を評価する
- 5) 教育改善に対する抵抗の克服手段を説明する
- 6) 教育改善に積極的に関与する

3) 主催

鹿児島大学歯学部、鹿児島大学歯学部 FD 委員会

4) 参加者

基礎系、臨床系各講座より 1 名、合計 20 名程度（主として教育現場を担当している若手教員が望ましい）

5) 実施日

平成 23 年 1 月 29 日（土）

6) 会場

鹿児島大学 医歯学総合研究科棟 1 9 階 会議室・ゼミ室

7) ワークショップスケジュール

時 間	内 容	備 考
8:40	受付開始：名札、資料の配布、昼食費の受領	
9:00	開講 ディレクター挨拶 タスクフォース、スタッフ紹介 グループ分け、資料確認、役割分担	
9:15	アイスブレイク：自己紹介	
9:30	「ワークショップとは」	
9:45	セッションⅠ ：「望ましい学習活動の特徴」 説明（5分） グループ討論（30分） 発表・全体討論（20分）	解説 グループ討論 アイスブレイキング
10:40	セッションⅡ ：「指導者の役割」 説明（10分） グループ討論（20分×3） 発表・全体討論（15分）	グループ討論 ワールドカフェ
12:10	昼 食	
13:00	セッションⅢ ：「鹿児島大学歯学部を抱える教育上の問題」 説明（10分） グループ討論（50分） 発表・全体討論（15分）	グループ討論 問題点抽出 KJ法
14:20	セッションⅣ ：「鹿児島大学歯学部を抱える教育上の問題」 説明（15分） グループ討論（45分） 発表・全体討論・解説（30分）	グループ討論 問題点分析 KJ法
15:50	休 憩	
16:00	セッションⅤ ：「学習者中心の教育」	
16:30	セッションⅥ ：総合討論	レクチャー
16:45	閉講式	ポストアンケート
17:00	修了	修了証授与

8) スタッフ

主催者： 杉原 一正 教授 鹿児島大学歯学部長
 ディレクター： 田口 則宏 教授 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
 タスクフォース： 田松 裕一 准教授 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
 鎌下 祐次 講師 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院
 諏訪 素子 診療講師 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院
 河野 博史 助教 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院
 事務局： 鮫島 順子 係長 学務課歯学教務係
 神宮司 浩二 係員 学務課歯学教務係

9) 参加者名簿

所属(旧講座名)	氏名	職位
1解剖	岩井 治樹	助教
2解剖	峰 和治	助教
生理	三浦 裕仁	准教授
生化	楠山 譲二	助教
病理	平野 真人	助教
薬理	増原 正明	講師
理工	有川 裕之	助教
基礎	梶原 和美	准教授
予防	五月女さき子	助教
1保存	梶原 武弘	助教
2保存	武内 博信	助教
1補綴	迫口 賢二	助教
2補綴	加地 彰人	助教
1口外	上川 善昭	助教
2口外	石畑 清秀	助教
小児	武元 嘉彦	助教
矯正	植田 紘貴	助教
麻酔	遠矢 明菜	助教

10) グループ分け

<一日を通じてのグループ分け>		<セッションⅡのグループ分け>	
Aグループ (ゼミ室1)		テーブル1 (ゼミ室1)	
旧講座名	氏名	旧講座名	氏名
1解剖	岩井 治樹	薬理	増原 正明
生化	楠山 譲二	基礎	梶原 和美
基礎	梶原 和美	2口外	石畑 清秀
1補綴	迫口 賢二	小児	武元 嘉彦
2口外	石畑 清秀	矯正	植田 紘貴
小児	武元 嘉彦		
		テーブル2 (ゼミ室2)	
Bグループ (ゼミ室2)		旧講座名	氏名
旧講座名	氏名	1解剖	岩井 治樹
2解剖	峰 和治	生理	三浦 裕仁
病理	平野 真人	予防	五月女さき子
薬理	増原 正明	2保存	武内 博信
予防	五月女さき子	1口外	上川 善昭
1保存	梶原 武弘		
2補綴	加地 彰人	テーブル3 (ゼミ室3)	
		旧講座名	氏名
Cグループ (ゼミ室3)		2解剖	峰 和治
旧講座名	氏名	理工	有川 裕之
生理	三浦 裕仁	1保存	梶原 武弘
理工	有川 裕之	1補綴	迫口 賢二
2保存	武内 博信		
矯正	植田 紘貴	テーブル4 (ゼミ室4)	
1口外	上川 善昭	旧講座名	氏名
麻酔	遠矢 明菜	生化	楠山 譲二
		病理	平野 真人
		2補綴	加地 彰人
		麻酔	遠矢 明菜

1 1) タスクフォースの役割分担

セッション	全体担当者	グループ担当者			待機
		A	B	C	
開講式・総合司会	杉原・田口				田松・鎌下・ 諏訪・河野
アイスブレイク（自己紹介）	田口				田松・鎌下・ 諏訪・河野
ワークショップとは	田口				田松・鎌下・ 諏訪・河野
セッションⅠ（望ましい学習）	鎌下	田口	田松	諏訪	河野
セッションⅡ（指導者の役割）	田口	1：河野、2：鎌下、3：田松、4：諏訪			
セッションⅢ（問題点抽出）	河野	諏訪	鎌下	田松	田口
セッションⅣ（問題点分析）	諏訪	田松	河野	鎌下	田口
セッションⅤ（レクチャー）	田口				田松・鎌下・ 諏訪・河野
セッションⅥ（総合討論）	田口				田松・鎌下・ 諏訪・河野
閉講式・修了証授与	田口				田松・鎌下・ 諏訪・河野

1 2) ワークショップ会場

受付： 9階会議室前

全体討論会場： 9階会議室

グループ討論会場： Aグループ：ゼミ室1、Bグループ：ゼミ室2、Cグループ：ゼミ室3

スタッフ控室：第3示説室

【医歯学総合研究科棟1（歯系）】									
9階									
グループ討論室									
	ゼミ室 (6)	ゼミ室 (5)	ゼミ室 (4)	ゼミ室 (3) C	ゼミ室 (2) B	ゼミ室 (1) A	9階会議室	第3示説室	
全体討論室 スタッフ控室 受付									
階段	学生談話室			歯学共同実験室				EV	階段
								トイレ	
								EV	

1 3) 資源

<9階会議室>

机、イス（参加者+TF+スタッフ）、ホワイトボード、スクリーン、液晶プロジェクター、パソコン、マグネット、レーザーポインター(指示棒)、電波時計×1、呼出鈴

<A、B、C グループ討論室(ゼミ室)>

机(×1)とイス(参加者分)、ホワイトボード×1、新聞紙(サインペン汚損防止用)、模造紙(10枚×3)、ポストイットノート×3、文殊カード(30枚×3)、スティックのり×3、マグネット、中太字サインペン(5色セット×3)、電波時計×3、文房具(鉛筆、消しゴム)

<スタッフ控室>

机とイス、文房具、コピー紙など

1 4) 各セッションの概要

セッションⅠ 「望ましい学習活動の特徴」

これまでの生涯で、最も印象に残っている学習体験を絵で表現する。各グループで情報共有し、グループの考える「望ましい学習活動の特徴」をまとめる。

セッションⅡ 「指導者の役割」

「ワールドカフェ」形式を用い、参加者全員が対話(ダイアログ)をする中で、「指導者の役割」というテーマに対して相互理解、協議の中から集約された結論を見出す。

セッションⅢ 「鹿児島大学歯学部を抱える教育上の問題」(問題点抽出)

KJ法を用いて、グループ毎に「鹿児島大学歯学部を抱える教育上の問題」について発散的に思考し、抽出された問題点をカテゴリー別に分類する。

セッションⅣ 「鹿児島大学歯学部を抱える教育上の問題」(問題点分析)

セッションⅢより得られた問題点を、緊急度、優先度、難易度の観点から分析を行い、解決すべき最重要課題を決定する。その後、決めた課題について具体的な解決方法を議論しまとめていく。

1 5) レクチャーの記録 (担当: 増原正明)

セッションⅤ 「学習者中心の教育」

田口則宏教授から「学習者中心の教育」のレクチャーが行われた。

まず「教育目標」については、大学を取り巻く環境の変化とそれに対応していく必要性が増してきたこと、いわゆる「学士力」について考えなければいけないこと、特にディプロマ・ポリシーについて述べられた。

その後、「カリキュラム開発の方向性」として、以下のことがレクチャーされた。

{これまでのカリキュラムにおいては科目ごとの教育目標を積み重ねていき、その結果としての最終目標は「国家試験合格」や「社会の求める歯科医師」といった漠然とした将来像のみであった(= **Planning forward**)。しかし今後これを「どのような医療者が求められているのか?」という問いかけへの返答として具体的な目標・将来像を設定し、そこへ到るためのものとして各講義・実習の到達目標などを設定していかなければならない(= **Planning backward**)。}

この説明内容に関しては非常に考えさせられるものがあった。

次にヨーロッパの事例を紹介された後、「学習者中心の教育」というテーマの下、「どれだけ教え

たか」という教育者中心の考え方から、教育相手が「どれだけ学んだか」という学習者中心の考え方にパラダイムを変換すべきだ、と述べられた。

また学習プロセスに大きく関与するカリキュラムについて、公式／非公式のカリキュラム SPICES モデルなど、目新しい事柄に関しても簡単に紹介された。

以上のレクチャー、及び最後に頂いた資料も合わせると、参加者にとって非常に有意義なFDになったと考えられる。

16) グループプロダクト

セッション I

<A グループ> (担当：楠山譲二)

岩井先生：『猫の解剖』 大学時代に初めて解剖を行った。自主的にやってみたくてやらせてもらった。実際に手を動かすのが楽しかった。現在は解剖の教室に勤務。

迫口先生：『ビール』 学問としての学習のみでなく、人間的に成長するための学習もある。酒を飲みながらの先輩・後輩との関わりあいの中で多くの大切なことを学ぶことができたと思う。

武元先生：『学位審査』 4年間の集大成。苦労は多かったが達成感を味わうことができた。

石畑先生：『ICU での研修』 医学部の ICU に研修に行った際、指導医の先生に教わったことが今の自分の学生への指導のやり方に影響を与えている。図に書いて説明をしてくれたり、良い言葉などを引用して指導してくれた。

梶原先生：『無茶苦茶な実験』 大学時代の専門課程での実習で2つの実験をやった。今考えると良くやったなと思うくらい無茶な実験であったが、そのおかげで自分が学生に実習をやらせる際には、もっとしっかりとフォローをしなければいけないと考えながらやれている。

楠山先生：『学生時代に行った研究』 自分がやりたいと思ってやった研究だった。自分がやりたいという気持ちと、それを助けてくれる先生たち・環境があれば学習効果を延ばすことができると感じた。

<B グループ> (担当：加地彰人)

「各個人の印象に残った教育指導を絵に描いて表現する」

・大学院時代の研究でよく怒られていて、たまに褒められることもあったが、やはり苦労した時期の印象が強く残っている。

・初めて解剖学実習に望んで、最初にメスを持ったとき緊張で手が震えた。

・大学の实習で少し理不尽に怒られたが、夜遅くまで指導してもらった事が国家試験につながり、結果的には感謝している。

・学生時代に友人とタバコを吸いながら情報交換していた。そこでは先生に素行を注意されたこともあったが、意外にそこで得た情報は勉強になる話が多かった。

・学生実習で怒られることも多かったが、最後の打ち上げでは先生方と乾杯して交流が出来たことが良き思い出として残っている。

・小さい時に親の指導のもと「ひまわり」を弟と育てていて、自分の身長より大きくなって感動したのが印象に残っている。その時に「育てる」という経験を得た。

以上のことから、印象に残った教育指導は怒られたイメージが強く記憶に残ることが分かる。さらには厳しさとともに成果(達成感)があっても記憶に残り、最終的に指導者と打ち解けることがある

のであれば良い印象となっている。

{まとめ}

教育指導に厳しさ（怒ることも必要）があり、そこに優しさの裏打ちや友人のフォローがあり、結果的に達成感・成果があれば強く印象に残るものになるということである。

<Cグループ> （担当：遠矢明菜）

今までに印象に残った体験。

竹内先生 高校の時 100m の予選で一番でテープを切ったこと。

植田先生 卒業式の校長先生の個人に向けての言葉。

上川先生 ベルリンでの留学時の言葉の壁を乗り越えたこと。

有川先生 高校の先生答案を点数を告げながら返却していたこと。

三浦先生 生物の先生が最初の授業の時に DNA の話をしてくれたこと。

遠矢先生 語学留学時の体験。

・望ましい教育とは

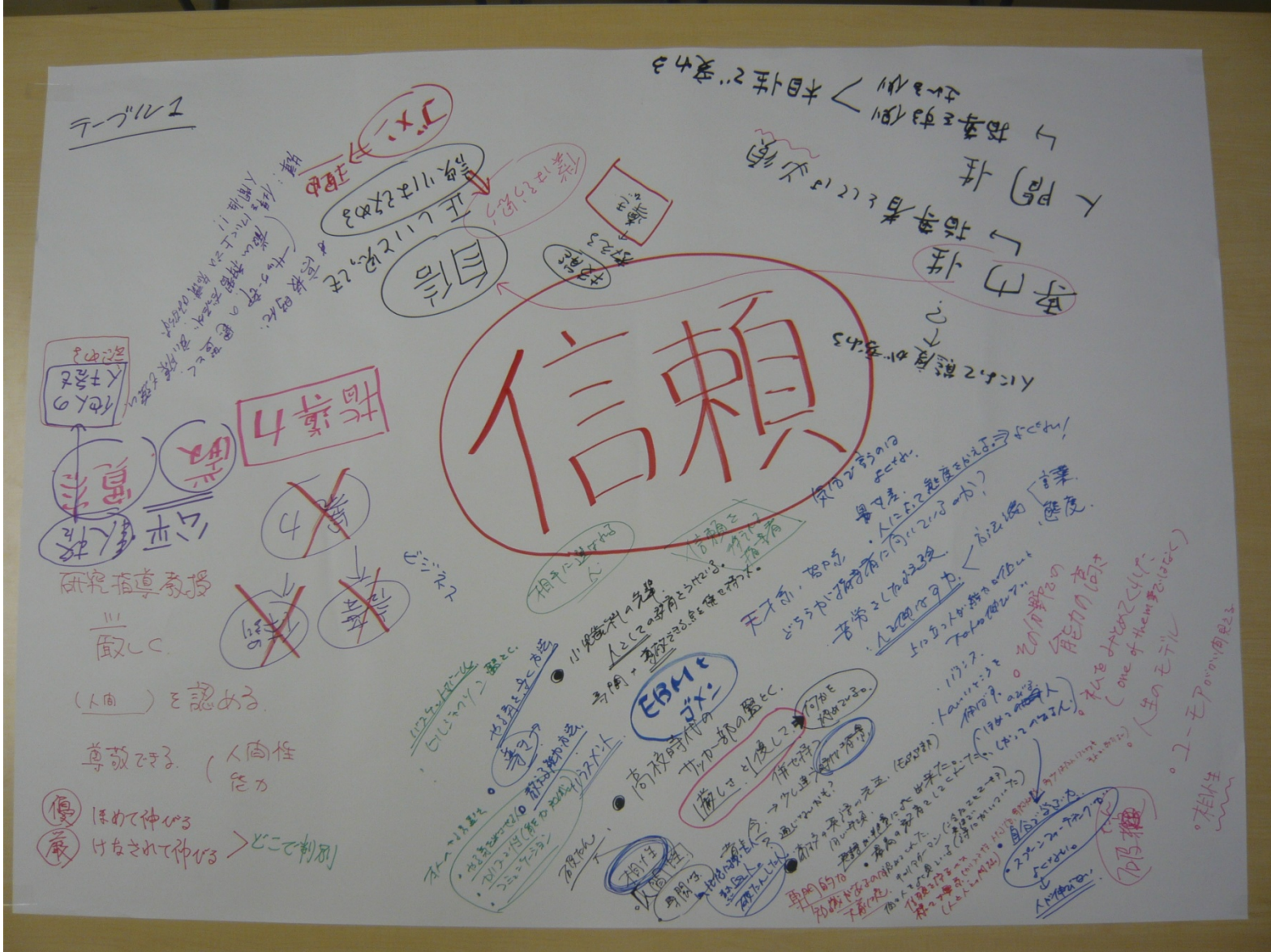
体験を通したもの。

インパクトの大きいもの。

達成感をもたらすことが望ましい。

セッションII 「指導者の役割」

<テーブル1>



<テーブル2>



<テーブル3>

テーブル
③

中学校の英語の先生
実践・動と理論・管理
○ 専門的な知識 → 信頼
○ 人間性
○ 感じ

② 人間性のある (厳は、優は)
 (この人止って行きたい!!!)
 知識は必要 (向エル)
 人の意見を聞く

直接 (向エル)

③ 専門性 (知識・信頼) 熱意
 相手の協力
 問題と理解し、教えること
 厳にのちのフォロー (優は)
 人間性

① 方向を予 (自由にエール) 結果を出す

身近な指導者 (直接関わる)
 大学校時代
 中学の校長
 予備校の塾長
 父の指導者

個人に均等した指導力、能力

相性もある。

団体指導

指導者とは? どういう人
 政治家は指導者?
 スポーツ指導者とは

「表現力」 (相手を知る (厳) 個性をどう)

集団と個人に 対し 頼い...

厳は人間性 { 相手の話をよく聴く }

日本総理大臣
 菅義偉
 菅義偉の経歴 (2017年11月28日現在)
 菅義偉の経歴 (2017年11月28日現在)
 菅義偉の経歴 (2017年11月28日現在)

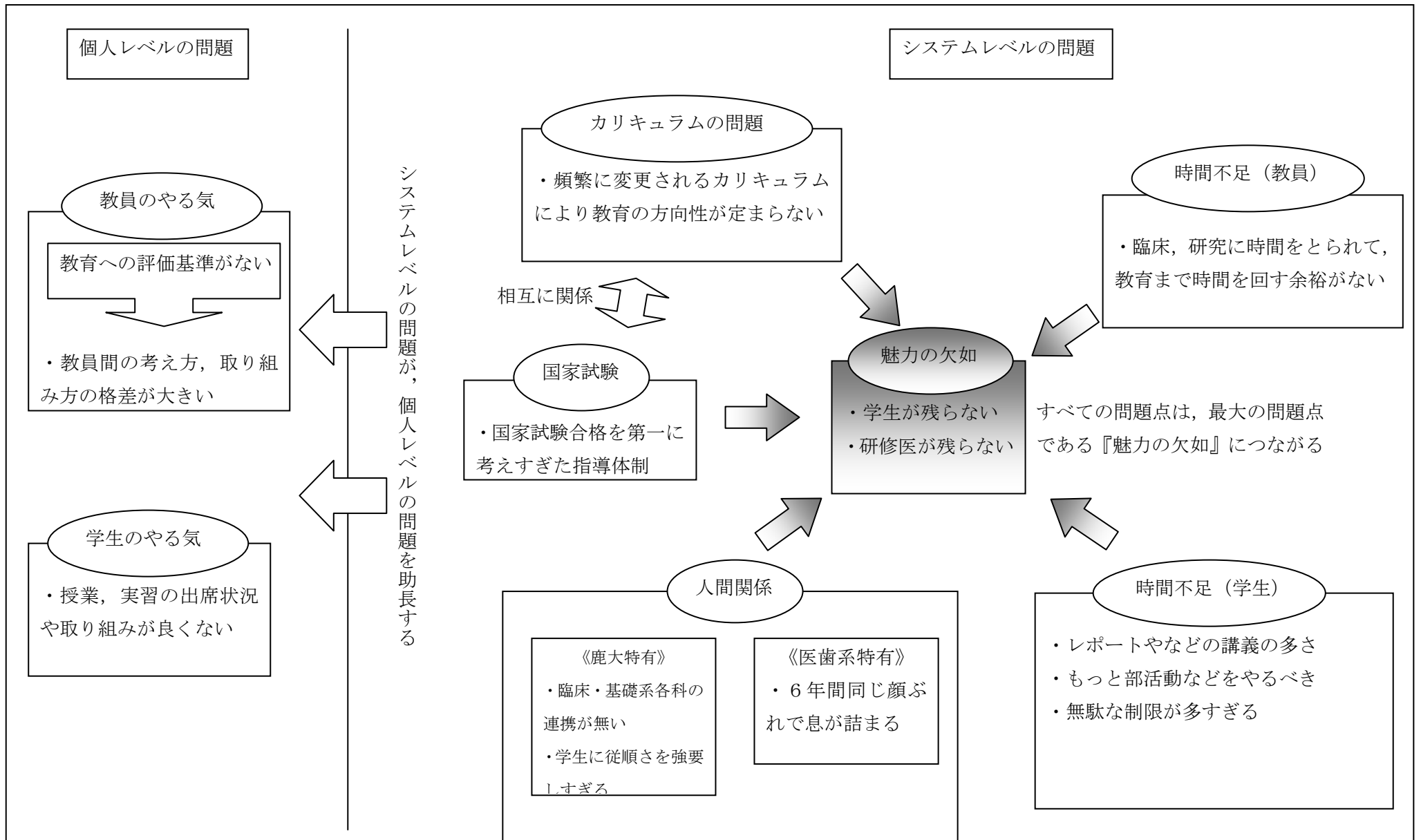
菅義偉の経歴 (2017年11月28日現在)
 菅義偉の経歴 (2017年11月28日現在)
 菅義偉の経歴 (2017年11月28日現在)

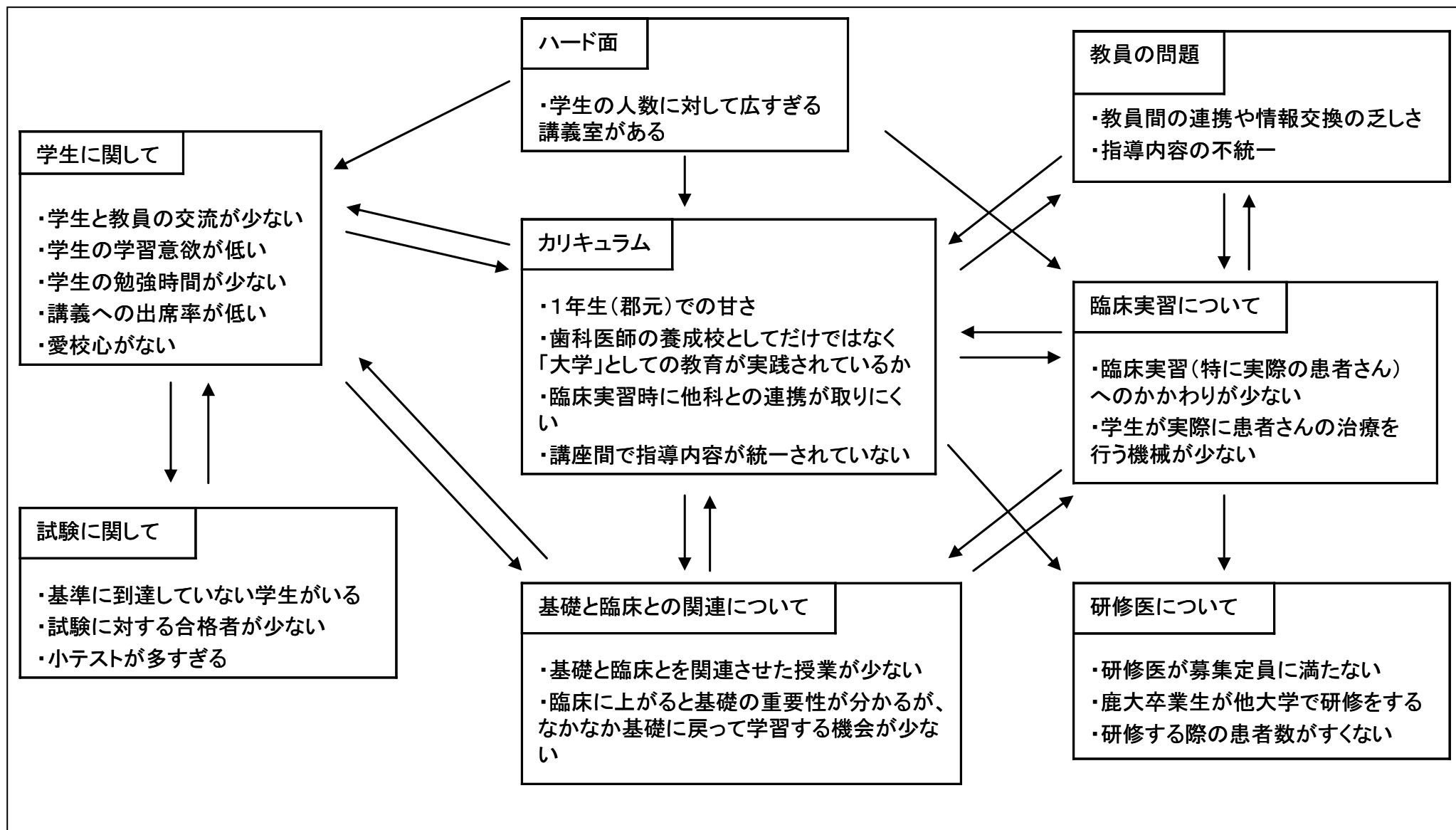
菅義偉の経歴 (2017年11月28日現在)
 菅義偉の経歴 (2017年11月28日現在)
 菅義偉の経歴 (2017年11月28日現在)

<テーブル4>

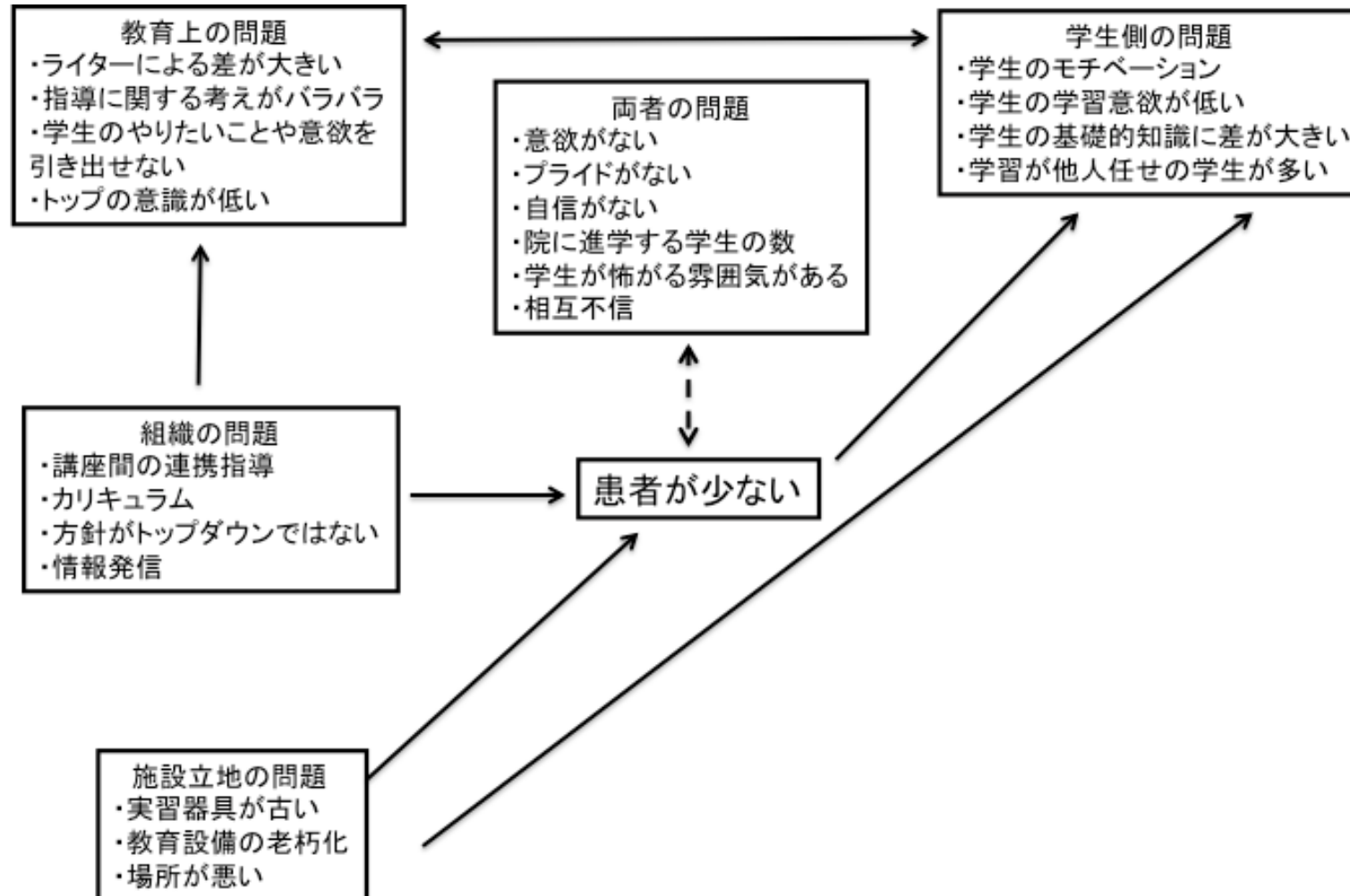


セッションⅢ 「鹿児島大学歯学部を抱える教育上の問題点（問題点抽出）」 <Aグループ> （担当：石畑清秀）



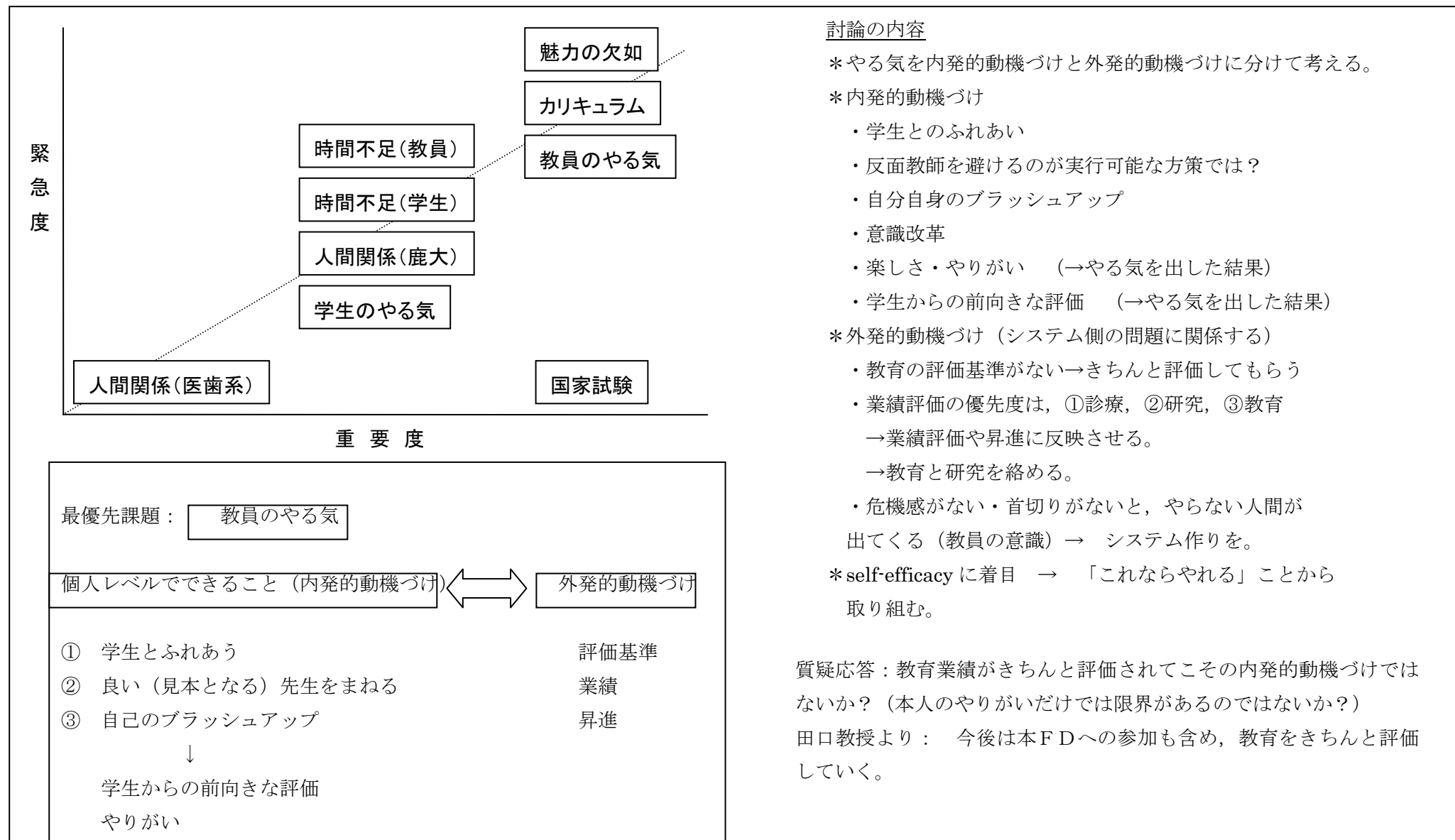


<Cグループ> (担当: 植田紘貴)

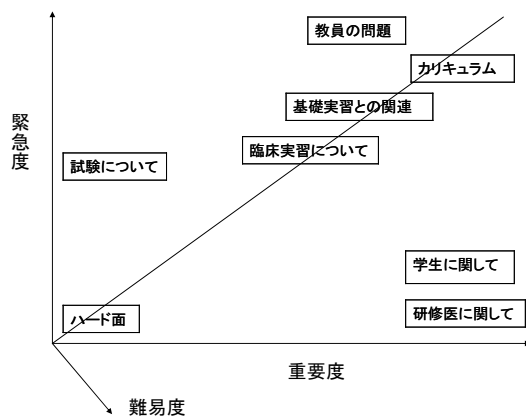


セッションIV 「鹿児島大学歯学部を抱える教育上の問題点（問題点分析）」

<Aグループ> (担当：梶原和美)



<Bグループ> (担当：五月女さき子)



*各テーマを分析し難易度も考えた時に、あえて「臨床実習について」を最優先課題とする。

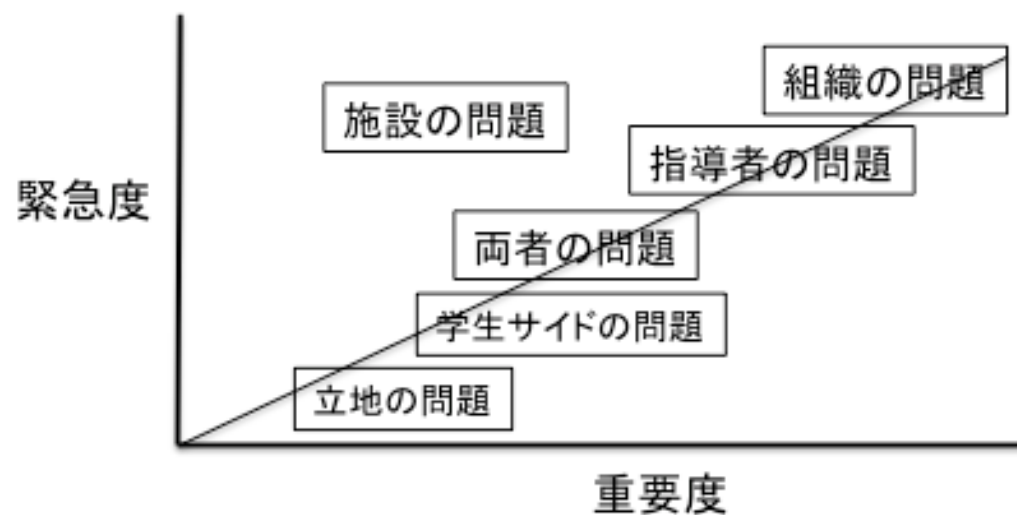
「対応策の協議」

- ・ 他科の教員同士の交流を拡大が必要。同様に教員と学生との交流を拡大する。
- ・ 教育内容に関して臨床と基礎の科間会合を小規模で行う必要がある。
- ・ 学生のゼミへの積極参加を促す（現在は任意参加）。
- ・ 診療科間の連携をもっと行う必要がある。
- ・ 一人の患者さんを担当し、最初から最後までの治療を全て（診療科をまたいで）見学・対応するようにした方が良い。
- ・ 基礎の講義に臨床を想定した内容を入れてもらう。

{対応策のまとめ}

1. 診療科間の連携をもっと取るようにする。
2. 学生には一人の担当患者を実習期間を通して最優先で実習（見学・診療参加）させる。
3. 他科との教員同士の交流拡大と、教員—学生間の交流を拡大していく。
4. 教育に対する評価システムの構築を行う。

<C グループ> (担当: 武内博信)



最優先解決課題

組織指導者の問題

対応策

- ① 講座間のコミュニケーションをとる。定例会合の開催
- ② 学部の教育方針を明確にする。評価の標準化やシラバスの明示
- ③ 教員としての意識を高める。FD参加を促す。

17) 概要と感想

セッション I (担当：武元嘉彦)

<概要>

A グループ

◎猫の解剖：実際に手を動かして印象深い。◎学生時代の研究・発表、学位審査：発表までの苦労は多かったが達成感を味わえた。◎心理学の実習：ボールペンを落として拾ってくれた人にインタビュー…方法自体が印象深かった。◎ICUの指導教官：教官の人柄とICUでの経験。◎ビール：先輩や後輩との腹を割った会話による人生勉強

まとめ：苦労は伴っても自主的に取り組んだ学習が印象に残っている。

B グループ

◎最初の解剖：緊張感が印象に残っている。◎ビールの絵：実習で怒られても、その後お酒を飲みながらフォローをしてくれる。◎ひまわりの絵：弟と一緒に育てて、開花したときの嬉しさ。◎教官：実習のときの指導教官が怖かったが全員が国家試験に合格できた。

まとめ：怒られるときはあっても成果が残った学習が印象に残る。

C グループ

◎教科書を使わない講義：他の先生との違いがあって印象的。◎花の絵：校長先生が、一人一人の絵に違ったメッセージを書いてくれた。◎陸上の絵：100mで一番を取ったときの嬉しさ。◎先生に起こられている絵：高校で怒られたときに、叩かれた経験を元に自分は将来そうならないようにしようと思った。◎部活：指導者は厳しかったが最後は認めてくれた。◎海外留学：日本で知識として学んできたことより、現地の人々の物まねをしたほうが言葉が通じた。

まとめ：恥ずかしいことや厳しいことを乗り越えたことで印象に残り、また達成感があったときに効果が上がる。

<感想>

現在までの学習体験で一番心に残っている出来事を絵にするという、今までに経験したことのない方法での発表であったが、逆に印象に残った。

・A、B、Cグループのまとめ

- ① 部活、実習などで苦しい練習や指導者、実験などを乗り越えて、記録や発表などの成果を出したときの達成感
- ② 今まで出会ったことのない優しい態度や方法で講義や実習を受けたときのインパクト
- ③ 怖く、厳しい指導をされても成果が出たことに対する感謝
- ④ お酒を交えながら会話をすることで、人としての深い話や、怒られたときの切り替えなどができた

最後にレクチャーされた望ましい学習活動の中に、自分たちがあげたものがほとんど含まれており。今後の教育に生かせるヒントがつかめたと感じられた。

セッション II (担当：梶原武弘)

<概要>

「印象に残る指導者は誰か」

- ・大学院時代の恩師

- ・特徴のある中学校の英語の先生
- ・話が上手く人を惹きつける予備校の塾長
- ・個人主義プレイヤーを入れても結果を出せる NBA（バスケットボール）の名監督

「指導者に必要なものは何か」

- ・人間性（厳しさと優しさ）
- ・知識（専門性）。
- ・向上心（熱意）
- ・謙虚さ

「どのような指導者になりたいか」

- ・人間性が高い
- ・知識（向上心）を持つ

この 2 つを持ち合わせる指導者が理想。ただ、他人（部下、学生）の意見も聞きながら、時と場合でバランスよく対応できる能力も必要。

<感想>

印象に残る指導者としては一般的に有名な指導者ではなく、身近で自分に大きな影響を与えてくれた指導者の名前が上がった。これは良い場合も悪い場合にしても、自分自身への影響が大きかったためと考えられる。

指導者に必要なものとしては、人間性、知識、向上心、謙虚さが上がったが、どのような指導者になりたいかという問いに対しての答えも、人間性と知識の 2 つにまとまったのが興味深かった。また指導対象が個人か団体かによって指導方法が変わる可能性があり、指導内容のバランスが大事であるという結論には達したが、いまひとつ明確な解答が得られないという点でも難しい問題だということが興味深かった。

セッションⅢ （担当：三浦裕仁）

<概要>

3つの問題点が抽出された。

①学生側の問題

学習意欲や目的意識の低さに起因する問題

②教員および組織の問題

教員のやる気不足、シラバスや教育方針の不明瞭さ。

これは講座や診療科間の連絡不足が原因が指摘された。

③施設の老朽化や立地の問題

①と②の間には相互作用があり学生と教員の間には不信感が生じていることが指摘された。学生、教員の両者に対して過度の負荷がかかり鹿大の魅力が失われているのではないかと指摘がなされた。

<感想>

講座間の連結、鹿大の魅力がキーワードになると感じた。講座間の連携やコミュニケーションを増やすことは容易である。今回のような FDWS を開くことがその第一歩である。自分自身も今回参加したことで多くの先生方と知り合え、新しい視点で共通の問題意識に触れることができ有意義であった。鹿大の魅力の創出という問題は困難な問題であるが、学内でお互いの情報を交換するなどの解決法が

あるのではなからうか。

セッションⅣ (担当：石畑清秀)

<概要>

C グループの最優先解決課題 『組織、教員の問題』

- ・ 講座間のコミュニケーション (定期的なカンファレンス)
- ・ 評価基準の標準化、シラバスの作成
- ・ 教員の意識向上→定期的な FD への参加等

A グループの最優先解決課題 『教員のやる気』

- ・ 学生と触れ合う
- ・ 良い (見本となる) 先生のまねをする
- ・ 自己のブラッシュアップ

B グループの最優先解決課題 『臨床実習』

- ・ 診療科間の連携
- ・ 1 人の担当患者を実習
- ・ 交流の拡大…教員 - 教員、教員 - 学生
- ・ 教育に対する評価システムの構築

<感想>

- ・ FD そのものが講座間のコミュニケーションの 1 つとなりうる
- ・ 評価基準の設定：研究のみを評価するのか教育を評価対象としていくかなど、今後考えていかなければならない
- ・ 大学は教育をして当たり前場所
- ・ 3 グループに共通していたのは
講座間の交流が重要である
教育に対する評価システムの構築が急務である という認識
教員が思い悩んでいる内容は類似していると感じられた

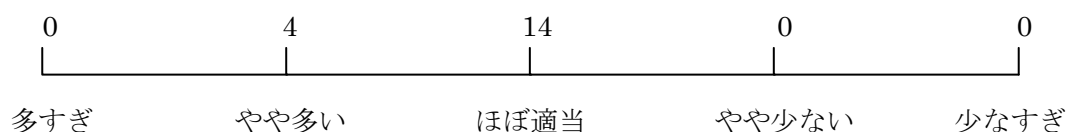
18) ポストアンケート結果

(1) 今回のワークショップを、全般的に評価してください。

内容の価値についてどう評価しますか？



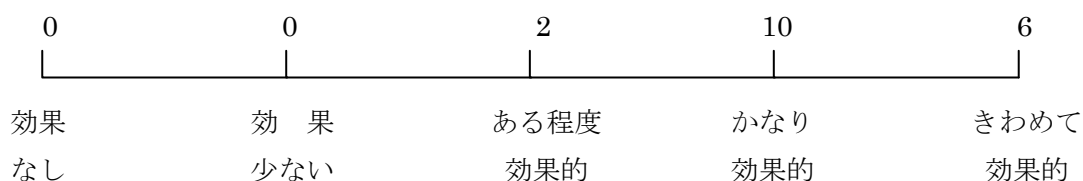
内容に対する時間量はいかがでしたか？



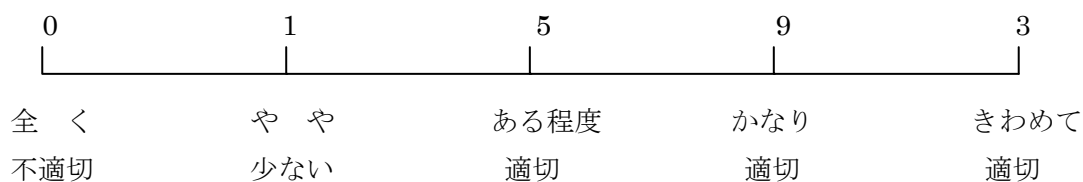
内容の難易をどう感じましたか？



このようなワークショップ形式の教育方法としての効果についてどう思いましたか？



このワークショップの内容はあなたの興味に対して適切でしたか？



(2) 今回のワークショップ全体にわたり、良かったと思われる点

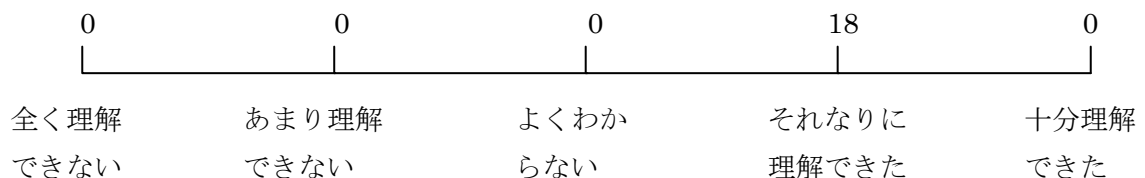
- ・通常では話す機会のない先生方と話し合えることが有意義であった (14)
- ・より効果的な教育方法論を学ぶことができた (5)
- ・自分の教育について見直す機会を得た (5)
- ・大学の現状を知ることができた (3)
- ・適切な時間配分であった (3)
- ・問題解決に対する難しさについて、現場の肉声を聞いたこと (2)

- ・グループでの話し合い。人数的にも丁度よかった
- ・各科まんべんなく参加されていたこと
- ・日頃考えていたことが話題として出せた
- ・現在の歯学部の教育問題を改めて意識化、明確化できたこと
- ・自分と異なる意見を聞いたこと
- ・教員間での問題認識が似かよっていることが分かったこと
- ・何となくではなく、具体的な答えを出すように努力したこと
- ・問題点を共有できたこと
- ・ワールドカフェ等の手法を体験できたこと

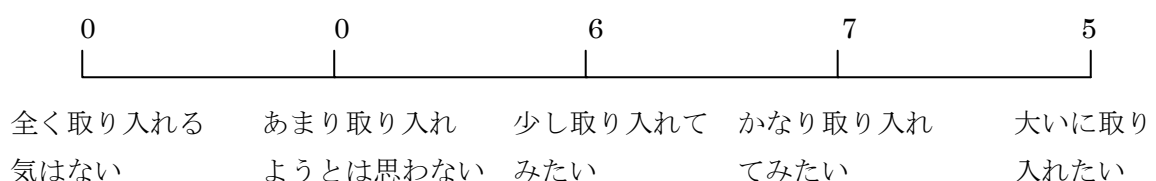
(3) 今回のワークショップ全体にわたり、芳しくなかったと思われる点 (改善すべき点)

- ・時間 (スケジュール) がタイトであった (休憩が欲しい) (6)
- ・行うなら、全ての講座のメンバーが参加すべきであった
- ・最終的な還元方法 (個人あるいは組織) が明確でなかった
- ・発表後の討論がもう少し盛り上がるとういと思う
- ・セッション I の意図が明確でない
- ・他班の意見に対してもっと積極的に考えを述べられたらよかった
- ・今後どうするのか (が明確でない)
- ・(当たり前であり、理解できるが) 効果的かつ簡便な解決策がないこと
- ・KJ法の限界を個人的に感じる
- ・連絡メールが前日に配信された点
- ・タスクフォースが意見を言いすぎているようにも思えた
- ・レクチャーがもう少しあればよいと思う
- ・もう少し説明時間が長くてもよかったと思う
- ・事前に討論内容を理解していない点
- ・9階 (会場) の臭いが気になった。(会場が当初の予定と変更になった点)
- ・1回で終了せずに継続すべきではないか

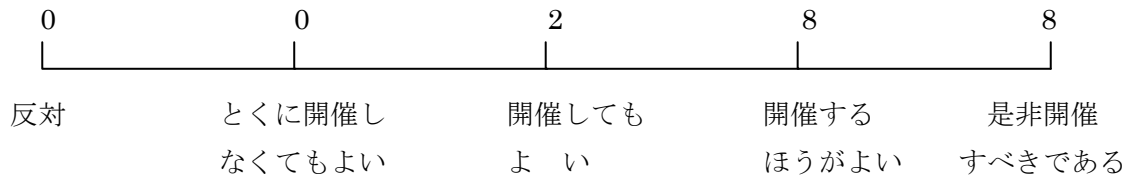
(4) レクチャーで示されたような教育学的理論が理解できましたか?



レクチャーで示されたような教育学的理論を自身の教育に取り入れようと思いますか?



(5) 今後もこういうワークショップを開催することに対して



(6) このワークショップでの経験を通して、今後実施したいと考えていることを箇条書きにしてください。

- ・他講座とのコミュニケーションを増加させる (6)
- ・学生とのコミュニケーションにかかる時間をもう少し多くとった方が良いかもしれないと感じている (4)
- ・今回参加した者の経験を参加していないものにどう反映させるか考えたい (3)
- ・学生の主体性を重視した方法を取り入れる (3)
- ・自身の教育を再検討してみたい (3)
- ・現在実施している教育方法を点検する (特に学生の視点から)
- ・シラバスを書き直す (?)
- ・教育上の改善点を注意深く探したい
- ・FDについて学びたい
- ・「教育」ではなく学生の「学習」を促したい
- ・大学の使命 (研究・教育・臨床) を意識して学生と接したい
- ・若手の教育研修会参加への通達
- ・学生が catch できるように教えたい
- ・普段からあいさつしたり (あいさつを) 返したりしているが、さらに意識したい
- ・SPICES な教育を意識的に取り入れたい
- ・教員は常に無意識下でも教育しているということを肝に銘じる
- ・学生とのより身近な実習での関係
- ・学生の到達度を把握するため、評価を行う
- ・教育カリキュラムなどのシステム作り
- ・学生が習得するためにはどのような工夫が必要か具体的に考える
- ・講義の質の向上
- ・ワークショップで行ったことの、実際の講義への活用

8. 日本歯科医学教育学会主催「第4回医療コミュニケーション・ファシリテータ養成セミナー（中級編）」への教員派遣報告
報告者：吉田礼子（歯科総合診療部）

<セミナーの概要>

- 1) 実施日時：平成22年12月11日（土）－12月12日（日）（2日間）
- 2) 開催場所：邦和セミナープラザ（愛知県名古屋市）
- 3) 主催：日本歯学医学教育学会（教育能力開発委員会）
- 4) 参加者：歯科医療者養成機関の医療コミュニケーション担当教員36名
（医療コミュニケーション・ファシリテータ養成セミナー（初級編）の修了者）
セミナースタッフ：17名

5) 到達目標：

一般目標G I O

歯科医療者の卒前教育・卒後研修における教育指導能力を向上させるために、対人コミュニケーションの基礎並びに医療コミュニケーションの教授・評価法（ファシリテーション）についての態度、技能、知識を修得する。

行動目標S B O s

- 1) 医療現場の対人コミュニケーションを説明する。
- 2) 医療に必要な対人コミュニケーション教育を実施する。
- 3) 面接技法における推理・推論の教授法を行う。
- 4) 面接技法におけるインフォームドコンセントの教授法を実施する
- 5) 面接技法における患者教育（指導）の教授法を説明する。
- 6) チーム医療に必要なコミュニケーション教育について説明する。
- 7) フィードバック困難事例に対応する。

6) 実施形態：ワークショップ形式

7) スケジュールと内容：

第1日：

- 11:00 開講式
11:30 レクチャー1：「臨床現場に求められる医療コミュニケーション教育」
13:00 セッションI：面接技法（推理・推論～察する、押し量る）
15:30 セッションII：フィードバック1－トランスクリプトの作成に習熟する－
17:10 セッションIII：フィードバック2－気づきを促すためのフィードバック－
19:30 レクチャー2：「医療現場の会話とコミュニケーション」
21:00 情報交換会

第2日：

- 8:30 レクチャー3：「安全管理とコミュニケーション」
9:10 セッションIV：OSCEを超えるセッションのファシリテーションを考える
－SPシミュレーション授業－
12:50 セッションV：対人コミュニケーションの教授法（演劇的活動を用いて）
15:00 セッションVI：総合討論 リアリティのあるSPシナリオと演技のために
16:00 修了証授与式

本セミナーは、医療コミュニケーションの教育技法の普及・啓発やそれに携わる教員の教育能力の向上を図るために、日本歯科医学教育学会が、平成19年から3回にわたって開催した「医療コミュニケーション・ファシリテータ養成セミナー（初級編）」のアドバンスコースとして開催された。

共用試験での医療面接を超えて、実際の医療現場に求められるコミュニケーション能力を開発するために、臨床推論、トランスクリプトとその活用、SPシミュレーション授業と体系的に学ぶことができた。また、いわゆる対人コミュニケーションの基礎的理論を体験的に学ぶことができた。タイ

トなスケジュールであったが、意欲的な参加者ばかりで、有意義な2日間であった。

<ワークショップの実際>

セッションⅠ：面接技法（推理・推論～察する、押し量る）

医療面接における臨床推論をテーマにして、臨床推論の方法とその教授法についてグループ討議後、シミュレーション授業を行った。

セッションⅡ：フィードバック1ートランスクリプトの作成に習熟するー

医療面接のビデオを視聴しながら、各自でトランスクリプトを作成し、効果的なフィードバックを行うための分析法を体験した。

セッションⅢ：フィードバック2ー気づきを促すためのフィードバックー困難事例

自己の医療面接に対して振り返りができない事例について、実際のビデオを視聴して、フィードバックの内容と方法についてグループで検討し、発表した。

セッションⅣ：OSCEを超えるセッションのファシリテーションを考えるーSPシミュレーション授業ー

初診医療面接、診察・検査後のインフォームドコンセントという連続した場面設定でSPシミュレーション授業を行う際のファシリテーションについて、実際に面接を行った後にトランスクリプトを作成し、グループ討議後、フィードバック場面のロールプレイを行い、発表した。

セッションⅤ：対人コミュニケーションの教授法（コミュニケーション教育と演劇の活用）

演劇をコミュニケーション教育に取り入れている難波博孝先生（広島大学大学院教育学研究科）のもと、実際の教授法を体験した。

セッションⅥ：総合討論ーリアリティーのあるSPシナリオと演技のために

各機関の医療コミュニケーション教育の実態、問題点、工夫などについて、活発な討議が行われた。

レクチャー1：「臨床現場に求められる医療コミュニケーション教育」

藤崎和彦先生 岐阜大学医学部医学教育開発研究センター

レクチャー2：「医療現場の会話とコミュニケーション」

渡辺義和先生 南山大学総合政策学部

レクチャー3：「安全管理とコミュニケーションークレーマー、モンスターにしないためにー」

木尾哲朗先生 九州歯科大学

9. 歯学部FD委員会委員による学外施設へのFD及び教育研修活動協力実績

田口則宏

平成22年5月29～30日 広島大学霞キャンパス

広島大学病院主催「第12回 中国・四国地区歯科医師臨床研修指導歯科医講習会」

役割：タスクフォース

田口則宏

平成22年12月16～19日 富士教育研修所

日本歯科医学教育学会主催「第1回 歯科医学教育者のためのワークショップ」

役割：タスクフォース

10. 平成22年度鹿児島大学医学部・歯学部附属病院歯科医師臨床研修指導歯科医講習会

実施報告書

別冊

工学部

工学部 FD 報告
(平成 22 年 3 月)

鹿児島大学工学部
ファカルティ・ディベロップメント委員会

はじめに

工学部 FD 委員会は、「工学部の教育と研究の活性化を図るための具体的な方策を審議すること」を目的として活動を行っている。FD 委員会では、国立大学法人化(平成 16 年 4 月 1 日)以降は、本大学が掲げた中期目標、中期計画における FD 関連事項の遂行に精力的に取り組んできた。平成 21 年度からは、部局化により工学部は理工学研究科の中の教育・研究組織となり 7 学科に改組されたが、工学部としての FD 活動は継続して実施している。

平成 16 年度には、工学部が教育に関わる中期目標の一つとして掲げた JABEE (Japan Accreditation Board of Engineering Education 日本技術者教育認定機構) の認証を受けながら工学教育の継続的改善に取り組んでいる。JABEE 認証においては、各教育プログラムに係わる教員や組織の FD 活動に加えて、学部および大学組織としての FD 活動(規則等の制度的整備、講演会や研修会の開催および学生による授業評価等)が認証要件の一つとして評価されている。本工学部は、教育方法の改善を図る PDCA サイクルの一環として、学部 JABEE 委員会と連携・協力しながら FD 活動を行い、平成 15 年度から継続して、それぞれの年度の FD 活動を報告書として総括してきた。

工学部 FD 委員会は、昨年度に続いて FD 活動として、学生による授業評価アンケートの実施とその結果の分析、中間授業アンケートの実施、授業計画改善書の作成とその活用方法の検討、8 年目を迎えた GP 制度の現状分析等に取り組んだ。授業評価アンケートは前期と後期の授業の終了時期に実施しており、その後データ解析を行い、その結果を受けて、授業計画改善書の作成を各授業担当の教員が行っている。授業評価アンケートの経年の推移から推測されるように授業評価アンケートの実施は授業改善に繋がっていると思われる。今年度も授業評価アンケートの実施に関しては、学生に対して学生の正確なアンケート回答が教員側の資料として利用されるばかりでなく、よりよい授業に繋がることを意図して行っていることを工学部のホームページで周知した。現在、大学教育に関して、学士力と質の保証をどの様に実現していくかが問われている。工学部では JABEE 基準を満たすような学部教育に取り組んでいるため質の保証は確保されていると言えるが、絶えずこの問題について点検していくことが重要であると思われる。このような活動を続けることは、工学部学生の評価を高めることになるものと期待される。

一方、JABEE 基準に準じた教育を充実することに取り組むとき、教育活動に多くの時間を割かれることにより研究に充てる時間に影響を及ぼしていることも事実である。研究の成果は論文等による評価を受けやすいのに比べて教育の評価は明確な指標や基準がない。このため教育に対してはどのような貢献が評価されるのか必ずしも明確ではなく、その判断は教員に任されているのが現状である。しかしながら、大学が学生を集めて教育を行う機関であることは主要な目標の一つであり、責任を持って教育を行い学生の能力の向上を図ることは重要な任務だと思われる。このため学生の学習能力を向上させ、公表した学習目標を達成した学生を社会に送り出すことが、教育を担当する教員の主要な仕事の一つであると考えられる。このため全教員が学生の能力向上に繋がる教育を行い、その改善に向けて取り組むことが、非常に重要であると考えられる。

今年度も工学部の教育改善に繋がることを期待して FD 委員会の活動を報告書として公表する。本報告書は 6 章から構成されている。また、巻末には本文の中に記述できなかった資料を参考資料として示している。

第1章では平成22年度のFD活動とそれに関連する中期目標について述べた。鹿児島大学FD委員会に関連する事項の中で工学部FD委員会に関連する項目について述べた。

第2章では工学部FD講演会および鹿児島大学FDワークショップについて述べた。

第3章は学生による授業評価アンケートとそれを生かした授業について述べた。この中ではこれまでの授業評価アンケートの結果と対比しながら本年度の授業評価アンケート結果との比較検討を行った。また、授業計画改善書に対する取り組みについても述べた。

第4章は学科FD活動およびJABEEへの取り組みと卒業生アンケートについて述べた。

第5章は昨年に続いて今年度で8年目を迎えるGP制度の現状と学習成果に関する検討結果を述べた。

第6章はFD活動と授業公開・授業参観および今年度取り組んだ学習成果と質の向上の検討結果について述べた。また、今後のFD活動への期待についても述べた。

本報告書は、大学院専攻委員を兼務する委員各位の協力により作成することが出来ました。また、学科事務支援室の皆様のアンケート調査や整理に関するご協力に感謝します。

平成22年度鹿児島大学工学部ファカルティ・ディベロップメント委員会
委員長(副学部長) 河野健二

平成22年度 鹿児島大学工学部ファカルティ・ディベロップメント委員会委員

委員長	河野 健二	(工学部副学部長、全学FD委員会委員)	H21.4.1 ~ H23.3.31)
委員	林 良太	(機械工学科委員、専門委員会委員)	H21.4.1 ~ H23.3.31)
委員	大島 賢一	(電気電子工学科委員、専門委員会委員)	H22.4.1 ~ H24.3.31)
委員	曾我 和弘	(建築学科委員、専門委員会委員)	H21.4.1 ~ H21.8.31)
委員	黒川 善幸	(建築学科委員、専門委員会委員)	H21.9.1 ~ H23.3.31)
委員	筒井 俊雄	(環境化学プロセス工学科委員、専門委員会委員)	H22.4.1 ~ H24.3.31)
委員	河野 健二	(海洋土木工学科委員、専門委員会委員)	H21.4.1 ~ H23.3.31)
委員	小野 智司	(情報生体システム工学科委員、専門委員会委員)	H22.4.1 ~ H24.3.31)
委員	吉留 俊史	(化学生命工学科委員、専門委員会委員)	H21.4.1 ~ H23.3.31)
委員	肥後 博文	(理工学研究科等事務部長)	H21.4.1 ~ H22.3.31)
委員	田上 豊	(理工学研究科等事務部長)	H22.4.1 ~)
事務	仮屋 誠	(工学系事務課長)	H21.4.1 ~ H23.3.31)
事務	小園 幹雄	(工学系事務課学生係長)	H21.10.1 ~)

目次

はじめに	i
第1章 FD活動と中期目標	
1.1 鹿児島大学の中期目標・年度計画と工学部FD活動	1
1.2 平成21年度鹿児島大学FD委員会と工学部FD委員会	3
第2章 工学部FD講演会および鹿児島大学FDワークショップ	
2.1 工学部FD講演会	6
2.2 全学FDワークショップ	
2.2.1 新入生等クラス担任FD講習会	8
2.2.2 新任教員FD研修会	9
第3章 学生による授業評価とそれを生かした授業	
3.1 学部授業評価アンケート分析結果	11
3.1.1 学部平均値の推移とその分析結果	12
3.1.2 機械工学科における推移とその分析結果	15
3.1.3 電気電子工学科の推移とその分析結果	16
3.1.4 建築学科における推移とその分析結果	18
3.1.5 環境化学プロセス工学科および応用化学工学科（化学工学コース） における推移とその分析結果	20
3.1.6 海洋土木工学かにおける推移とその分析結果	22
3.1.7 情報生体システム工学科における推移とその分析結果	24
3.1.8 化学生命工学科（応用化学工学科応用化学コース、 生体工学科生体機能材料コース）における推移とその分析結果	26
3.2 授業計画改善書の各学科の活用状況	
3.2.1 機械工学科の活用状況	29
3.2.2 電気電子工学科の活用状況	29
3.2.3 建築学科の活用状況	29
3.2.4 環境化学プロセス工学科および応用化学工学科（化学工学コース） の活用状況	29
3.2.5 海洋土木工学科の活用状況	29
3.2.6 情報生体システム工学科の活用状況	30
3.2.7 化学生命工学科（応用化学工学科応用化学コース、 生体工学科生体機能材料コース）	30
3.3 学生による授業評価アンケート結果の学生への公表	31

第4章 学科におけるFDとJABEEへの取り組み

4.1 機械工学科	34
4.2 電気電子工学科	34
4.3 建築学科	36
4.4 環境化学プロセス工学科	36
4.5 海洋土木工学科	36
4.6 情報生体システム工学科	37
4.7 化学生命工学科（応用化学工学科応用化学コース、 生体工学科生体機能材料コース）	37
4.8 卒業生アンケートの結果	38

第5章 GPA制度の現状と学習成果

5.1 年間GPAの推移	44
5.2 年間修得単位数の推移	45
5.3 卒業生数と卒業延期者数の割合の推移	46
5.4 学習成果と質の向上	47
5.4.1 学習成果と質の向上の経年変化	47
5.4.2 平成22年度の学習成果と質の向上	49

第6章 平成22年度工学部のFD活動の総括と今後のFD活動

6.1 平成22年度の工学部のFD活動の総括	58
6.1.1 授業アンケートの実施と授業計画改善書	58
6.1.2 授業公開と授業参観の実施	60
6.1.3 FD講演会の実施	61
6.1.4 質の向上と学習成果	61
6.2 今後のFD活動	62

参考資料

資料-1 平成22年度工学部FD委員会議事要旨集	63
資料-2 学生による授業評価アンケート結果(平成17-22年度)	67
資料-3 平成22年度工学部公開授業科目表	69
資料-4 授業評価(講義・演習用)アンケート質問様式	71
資料-5 授業評価アンケート回答様式	73
資料-6 授業計画改善書の例	74
資料-7 授業参観報告書の例	77
資料-8 中間授業アンケートの様式	79

第1章 FD活動と中期目標

1.1 鹿児島大学の中期目標・年次計画と工学部FD活動

平成22年度の鹿児島大学の中期目標・中期計画に関する年次計画の中でFD活動に関する項目としては、表1.1に示すような次の項目がある。

- (1) 「進取の精神」を有し、学士力を備えた人材を育成する。
- (2) 学生の多様化に対応した心の健康への支援体制を充実する。

これらのFD関連の計画について工学部では、工学部FD委員会、教務委員会、JABEE委員会やJABEEプログラム実施学科の関連委員会の活動と連携しながら、実施を図っている。

すなわち、これらの目標の中で(1)は、今年度学生憲章が制定されたが、それに従った教育の目標と実施の基本的な姿勢となるものである。工学部では、4つの教育・学習目標を定めており、それに則った教育の実施に取り組んでいる。工学教育では、これは社会から要求されている項目に相当するものであり、FD委員会ではこの教育・学習目標の到達度評価法を確立してその点検と分析を行うことにしている。工学部FD委員会では授業アンケートの実施やGPA成績評価の分析などから教育・学習目標の達成度の点検を行った。また、将来も継続して学習できるように自己学習能力の向上を図ることや、各授業を通じて自学自習の仕方が修得できるような評価を行っている。さらに早期に企業の研究者、社会人による講義、実習を拡充し、専門的職業観を育成する教育の実施が示されているが、工学部では講義科目の中で経験豊かな社会人の講義や講演会を実施するとともに、学外実習などにより専門的職業観の育成を図っている。

工学部FD委員会では前期、後期の全ての授業科目について授業評価アンケートを実施している。それに対して授業改善報告書の提出と検討の結果を授業改善に反映することになっている。また、JABEE教育プログラムを実施している学科も含めて工学部では、学生の授業への取り組み、達成度等を考慮した多面的な評価基準を定め周知すると共に、評価法について継続して検討を行なっている。

また、(2)の「学生の多様化に対応した心の健康への支援体制」では、FD講演会で保健センターの先生に依頼して専門的な立場から、「学生のつまずき支援：発達の偏りの見つけ方」という演題で講演を実施して心の問題を抱える学生に対する対応について考える機会を持った。発達を偏りを持ち、支援が必要な学生を見つけることは難しく、対処法も一般的・普遍的な方法は存在せず、専門家によって意見が分かれるとのことであった。「支援が必要な学生に気がつくことが重要であり、支援が必要な学生を見つけることができ、抱えている問題とその理由が分かれば対策を考えることができる。教員と保健管理センターの職員とで情報を共有し、対策を考案することが重要」とのことであり、工学部としても今後の問題として対応を検討していくことが必要であると思われる。

現在の大学教育に問われている重要な項目として「質の保証」と「学士力」がある。工学部で取り組んでいるJABEE教育プログラムの認定は卒業生の「質の保証」を前提にしている。質の保証の実現は学士力に深く関連していると思われる。JABEE教育プログラムの卒業生は、社会に向かって公表した学習目標を達成できた能力を有するものであることを教育組織が保証すること

を前提としている。学習目標の達成基準の設定は、各教育機関に任されており、教育機関では、その基準の継続的な見直しが求められる。従って、JABEE 教育プログラムの認定を受けていれば、質の保証は証明されていると言えるが、質の保証が社会の要求するものになっているのか常に点検することが必要になる。FD 委員会では、工学部で実施している授業評価アンケートの結果と成績評価である GPA の結果を用いて、学習成果と質の保証の関係について検討を加えることにした。工学部では、これらの取り組みを通じて鹿児島大学の掲げる FD 関連の目標は実施されていると考えられる。

第 2 章以下は、継続して実施している学生による授業評価アンケートの実施結果や授業改善の内容を示すことにする。また、学生の質の保証が求められているが、これに関連した検討結果など平成 22 年度の FD 委員会で取り組んだ活動について述べることにする。

表 1.1 平成 22 年度鹿児島大学の中期目標における FD 関連事項

中期目標	中期計画	平成 22 年度計画
(1) 「進取の精神」を有し、学士力を備えた人材を育成する。	「進取の精神」を踏まえた「学生憲章」を策定し、アドミッション・ポリシーを再構築するとともに、全学的・系統的カリキュラムを整備・拡充する。	「進取の精神」を踏まえた「学生憲章」を制定するとともに、各教育課程のアドミッション・ポリシーの見直しに着手する。
	各教育課程のディプロマ・ポリシーを策定するなど、学位の質を保証する方法を確立する。	ディプロマ・ポリシーの策定指針を作成する。
	「進取の精神」を有する人材を育成するために、FD 活動等を充実し、教員の教育力向上に向けた取組を展開する。	鹿児島大学 FD 委員会と戦略的大学連携支援事業 FD・SD 推進委員会の連携による F D 活動を充実する。
(2) 学生の多様化に対応した心の健康への支援体制を充実する。	心のケアができる専門家の支援体制を整備するなど、「保健管理センター」を中心とした支援体制を拡充する。	学生のメンタルケアのための支援体制を強化・充実する。

1. 2 平成 22 年度鹿児島大学 FD 委員会と工学部 FD 委員会

鹿児島大学の FD 委員会は、10 回の委員会が開かれた。その任務は、教員の資質向上や教改善を図るためであるが、共通教育に関連する項目が中心である。

本年度に実施された活動の中で、工学部に関連する事項としては次のようなものがある。

- (1) 平成 22 年度新任教員 FD 研修会の実施
- (2) 前期と後期の授業公開と授業参観
- (3) 平成 22 年度 FD・SD 合同フォーラム
- (4) 平成 21 年度学生・教職員ワークショップの開催
- (5) 共通教育における学習実態・学習成果に関する調査

「新任教員の FD 研修会」には、鹿児島大学に新しく赴任された新任教員を対象にした研修会である。今年度は、「学生を授業に参加させること」、「学生に考えさせる授業」、「地道な勉強をさせること」などが指摘されていることを踏まえて、新任教員が授業を通じて「学生の学びをいかに促がすか」をテーマに議論し、認識を深められる研修会を目指したものである。工学部から参加された教員には、後で示すように感想記を依頼した。

また、「共通教育における学習実態・学習成果に関する調査」では共通教育における学生の学習実態・学習成果を明らかにして、今後の共通教育の改革・改善に利用することを目的に 2 年生全員（平成 21 年度入学生、ただし、留学生を除く）を対象に実施された。実施に当っては、工学部の FD 委員に協力していただいた結果、回収率は約 80%であった。分析結果は平成 22 年 3 月には公表される予定である。

工学部では今年度の工学部 FD 委員会は 5 回（内 1 回はメール審議）行った。委員会の議事録は参考資料-1 に示すことにする。ここでは、委員会の活動について述べることにする。

第 1 回（4 月）の委員会では

- (1) 平成 21 年度工学部 FD 活動報告
- (2) 平成 22 年度 FD 活動計画
- (3) FD 活動の担当委員

を議題とした。初めに平成 21 年度に実施した主な FD 活動について資料を示した。鹿児島大学の中期目標・中期計画に沿った目標として、学位の質を保証する方法の確立を目指すことが FD 活動の中で重要であり、引き続き具体的な実施計画について議論した。

また、昨年度から実施している FD 講演会並びに教育の質の向上と学習成果の検討について担当を決めるため審議を行った結果、FD 講演会是小野委員、教育の質の向上と学習成果の検討については林委員と大島委員が担当することになった。

第 2 回（6 月）の委員会では

- (1) 前期授業評価アンケートの実施
- (2) 授業計画改善書の活用
- (3) 中間授業アンケートの実施状況
- (4) 前期授業公開・授業参観
- (5) 学習成果と質の向上

について議論した。初めに、前期授業評価アンケートの設問項目について審議の結果、原案（21 年度と同じ設問項目で実施）どおりこれを承認した。たま、授業計画改善書が各学科でどのよう

に活用されているか各学科の委員から報告があった。FD 委員に提出された授業計画改善書はどの学科でも学科会議に報告されると共に教員に開示されていること、また、授業満足度の評点と教員の教育貢献度を評価するシステムの資料として活用されていることなどが報告された。次に中間授業アンケートの実施状況について各学科からの報告が行われた。活用状況は、学科によって異なるが、授業アンケートの質問項目にも関連しており、独自のアンケート様式であっても実施することが望まれる。次に、前期授業公開・授業参観について議論した。今年度も前期授業公開・授業参観を行っているが、参観者が少ないので、参観者を増やすにはどの様にすればよいのか、審議した結果、全学 FD 委員会で設定された現在の期間を基本としながらも、工学部内に限っては 1 週間程度期間を延長することとし、後期から実施することにした。

最後に、学習成果と質の向上について議論した。資料に基づき審議を行った。資料（21 年度の分析）の結果では、授業評価アンケートと GPA の間にはほぼ正の相関があることが示された。また、平均 GPA の頻度（科目数）分布について委員から疑問が呈され、審議した結果、学科毎の分析等を行うことにより正確な成績の達成度が把握できると考えられ、今後検討することになった。

第 3 回（10 月）の委員会では

- (1) FD 講演会
- (2) 後期授業公開
- (3) 前期授業アンケートの結果
- (4) 中間授業アンケートの実施

について議論した。

演題 「学生のつまずき支援：発達の偏りの見つけ方」

講師 保健管理センター 伊地知信二准教授

上記の内容で理工学研究科と合同の FD 講演会を開催することになったことが報告された。できるだけ多くの出席者となるよう各学科で働きかけてほしいこと、また内容が職員にも関係するものであるため、職員もできるだけ出席してほしいとの依頼を行った。これに対して、機械工学科、電気電子工学科の各委員から、当日は推薦入試があるため、両学科の教員の出席は難しいとの説明があった。なお、ポスターの作成は小野委員にお願いすることとなった。

後期の授業公開と授業参観を 12 月 1 日（水）から 12 月 24 日（金）の期間として実施する予定であるので、11 月 10 日（水）までに学生係へ実施予定科目を報告してもらうことにした。

次に、前期授業アンケート結果について、各学科の状況について各学科委員からアンケートの分析結果について報告が行われた。昨年と同様に授業アンケート結果をホームページに掲載して学生に周知を図るため、委員長からの原案について審議した結果、一部文言を修正して掲載することにした。

また、中間授業アンケートの実施について議論した。中間授業アンケートを 11 月中旬に実施する予定を確認した後、11 月初旬にメールで必要枚数を照会するので、各学科の委員は 11 月 10 日（水）までに回答してもらうことにした。

第4回（12月）の委員会は議題として、後期授業アンケートの実施に関する事項のみだったのでメール審議を行った。その結果、後期授業アンケートは、昨年の前期のアンケート様式を用いて実施することになった。予定としては、12月27日（月）までに、実施科目をFD委員は調査し事務へ連絡する。また、1月7日（金）までに各学科事務室に授業アンケート用紙を配布する。そして、1月11日（火）－1月27日（木）に授業アンケートの実施期間とすることにした。

第5回（平成23年3月）の委員会は

(1) 平成22年度工学部FD報告書の作成

について議論した。今年度も活動報告を報告書としてまとめるため案として示した資料のとおり委員で分担して報告書を作成することにした。審議した結果、一部担当を変更し、3月23日（水）までに委員長へ提出することにした。

なお、環境化学プロセス工学科に関する部分については、化学生命工学科と同様に改組前の学科名（応用化学工学科化学工学コース）をカッコ書きで併記することにした。

以上が、工学部FD委員会の活動である。委員会の議事録は参考資料-1に示している。

第2章 工学部FD講演会および鹿児島大学FDワークショップ

2.1 工学部FD講演会

平成22年度の理工学研究科FD講演会は、工学部および理学部のFD委員会と理工学研究科FD委員会との共同主催として企画され、平成22年11月25日16時10分から17時30分まで、工学系講義棟3階131教室で開催された。本学保健管理センター伊地知信二先生に講師を依頼した。

講演会に先立ち、福井専攻長による開会挨拶と講演者紹介があり、その後、「学生をつまづき支援：発達の偏りの見つけ方」という演題で講演が行われた。講演会への参加者は58名であった。講演の概要を以下に示す。

- パーソナリティの多様性（個性）が必要であれば発達の偏りは必然
- 発達の偏りがいない人は存在しない。
- あら捜しにならないために
 - ① つまづき支援のため
 - ② 潜在する能力を発揮してもらうため／得意分野を伸ばすため

講演は、「多様性、個性が重要視されるのであれば、発達の偏りはあって然るべきである。発達の偏りがいない人間は存在しない」という前置きから始まった。聴講者は、多数少数変換アンケート（図2.3）への回答を求められた。このアンケートへの回答を通じて、聴講者は発達の偏りという問題の性質を直観的に理解した。

発達の偏りを持ち、支援が必要な学生を見つけることは難しく、対処法も一般的・普遍的な方法は存在せず、専門家によって意見が分かれるとのことであった。本人は一生懸命やっていると知っているがうまくいかず、支援が必要であるが、教員側からみると「まさかこの学生が支援が必要なはずはない」といったギャップがある。「支援が必要な学生に気がつくことが重



図2.1 FD講演会の案内ポスター



図2.2 講演会の様子

要. 支援が必要な学生を見つけることができ、抱えている問題とその理由がわかれば対策を考えることができる. 教員と保健管理センターの職員とで情報を共有し、対策を考案することが重要」とのことであった.

上記の理由により、支援が必要な学生に気がつくための学生の特性の例示が主たる講演の内容であった. 表面的なわかりやすい特性の例として、「友達ができない」、「ゼミやサークルで無用な口論」、「借りたものを返さない」、「声の大きさを調整できない」、「一方的な会話、しつこい会話」、「新しいパターンの課題をこなせない」、「手加減ができない」、「過度な不潔恐怖、バランスの悪い身だしなみ」、「専門教科やゼミで成績が急落」、「整理整頓が苦手」、「無防備、無警戒、不用心」などが紹介された.

また、内在・潜在するわかりにくい特性の例として、「空気が読めない、相手の立場に立てない」、「長文で作文できるが、長文の理解が苦手」、「他人の顔を記憶することが苦手」、「優先順位の重要性を認識していない」、「優先順位が適切でない」、「完璧主義（欠席一回で引きこもり）」、「無視すべきことを無視できない」、「自分の特性を自覚していない」、「二つのことを同時にできない」、「感覚過敏」、「不用意な情報を遮断できない（先生の声と雑音を判別できない）」、「言語性 IQ と動作性 IQ の乖離」などが紹介された.

河野 FD 委員会委員長が座長を務めた質疑応答では、「個性の範囲なのか障害かの判断が難しい. どこから支援が必要か?」との質問があり、伊地知先生からは「線を引くことは非常に難しい. ケースバイケースとしか言いようがない」との回答があった. また、「支援が必要な学生から実験の代行、説明の代筆などの依頼があった. 不正にあたるのか? 支援が必要な学生と一般の学生との間の整合性や、教員間での情報共有が難しい」など、問題の複雑さを象徴する意見があった.

設定

- 普通の男の子が999人. その場の空気が読めずコミュニケーションが苦手な男の子が1人いる世界を想定してください.
- その場の空気が読めずコミュニケーションが苦手な男の子は. 自閉症と診断されて治療の対象となっています.

マジョリティとマイノリティをひっくり返した場合

The diagram illustrates a role reversal. On the left, a large group of 999 normal children (represented by blue cartoon heads) is shown next to a single autistic child (represented by a blue cartoon head with a yellow 'AUTISM' label). A green arrow points down to the right, where the roles are reversed: a single normal child is shown next to a large group of 999 autistic children, all labeled 'AUTISM'.

アンケートB

この、マジョリティとマイノリティの関係が、逆転した世界では、治療の対象となるのは、どちらだと思いますか？

- ①やはり、自閉症児
- ②普通の子供
- ③わからない

図 2.3 多数少数変換アンケート

2. 2 全学FDワークショップ

2. 2. 1 新入生等クラス担任FD講習会

平成 22 年度教育・学生支援担当教職員講習会に参加して

金子 芳郎（化学生命工学科）

教育・学生支援担当教職員講習会の全体を通して、「学生の多様化に対応した指導の必要性」を強く感じました。

まず、門教育センター長より「教育・学生支援の意義と役割について」のご講演をいただきましたが、多様化する学生に対する指導についての重要性を再確認することができました。

続いての伊地知保健管理センター准教授より「ダイバーシティ・マネジメント」について、具体例を用いてご講演いただきました。マジョリティーとマイノリティーは環境により変化するため、これまでの常識だけにとらわれずに、マイノリティーである学生に対して多角的な評価をしていかなければいけないと感じました。しかし、大学教員は教育や研究以外にも、多くの大学業務を抱えており、学生個人の個性を把握してどれだけ以上のことをこなせるか、不安もあります。

次に、西教育センター共通教育企画実施部長より、履修のシステムと手続き方法についての説明がありました。オリエンテーションではこのことも踏まえ、履修申請には十分注意すること、手続きについてはわからない場合は、共通教育係と工学部学生係に直接聞くように指導する必要があると感じました。

新入生は大学に入ったばかりで多くの手続きがあります。新入生の場合は、提出・手続き関係が共通教育と工学部の両方で行う必要があり複雑に思います。クラス担任に聞く事柄と共通教育係や工学部学生係に聞く事柄の区別を学生が出来るように指導する必要性を感じました。私自身も、共通教育係や工学部学生係にわからないことをいろいろ教えていただく必要があると思います。

大学 2 年生に対するアンケートで、高校の時よりも資質が低下していると感じている学生が大半だということに大変驚いたと同時に、大学教員としての責任も感じます。高校までは、大学受験という目標に向かって勉強していれば良かったわけであるが、大学での勉学は就職するためだけでなく、今後の人生を生き抜くための能力を養う場であることを学生に強く意識させ、勉学に励んでもらいたいと思います。

入学後は、いろいろな問題が起こると思いますが、入学者全員が元気で有意義な大学 4 年間を送り、十分な知識、経験、能力を習得して社会へ出て行けるように手伝っていきたいと思います。

平成 22 年度 教育・学生支援担当教職員講習会に参加して

水野 和生（情報生体システム工学科）

平成 23 年 3 月 23 日に「教育・学生支援担当教職員講習会」が開催されました。この講習会に

参加するのは今回で4回目となります。学科のオリエンテーション担当者は鹿児島大学に赴任してまだ1年ほどなので、私も前教務委員としてオリエンテーションに同席するため一緒に講習会に参加しました。この講習会の流れは以前の3回と同じものでしたが、今年からオリエンテーションは学部の担当者が行うなど次第に学部側に比重が移されてきていて、今回からは各学部の事務方も参加しています。

今回も、初めに保健管理センターの教員から最近の学生の多様性の問題について話がありました。以前は問題のある学生の話をとにかく聞いて信頼関係を作る中で、学生が自分で答えを見つけ解決して行くという話でした。それが、前は声掛けを続けて卒業まで持つ行く実態の話になり、今回は学生の問題ではなくて多様性と考え、得意なところをいかに伸ばすかを考えようと変わってきています。声掛けなどの支援を続けて大学を卒業させても、サポートが無くなれば元に戻ってしまうので、問題があっても社会で必要とされるような力をもつ人材に育てることが大事なのだと思います。

後半では共通教育の履修申請の流れが説明されました。時間の関係からか、履修申請の日程など手順の説明が中心になっています。説明者は参加者にとにかく共通教育履修案内を熟読して欲しいと言っていました。熟読することで手順だけでなく全体の仕組みを理解して欲しいのだと思います。私は副副正と3年連続で教務を担当しましたが進級判定や編入生の単位読み替えを行う度に共通教育について調べなおすことが出てきました。いまだに知らないことが沢山あります。指導上の事例や注意点などメモ等を作って、できれば共有したいところです。

英語の習熟度別クラス分けで成績評価の方法について講習会で質問が出ていました。多様な学生を相手に共通教育を担当する立場とJABEEなどで評価基準の明確さを求められる立場では調整すべきことが残っているようです。答えのある話ではないと思います。しかし、共通教育がどのように変化して来たのか、変化していくのか関心を持ち続けようと思います。学部の専門教育で追われていると共通教育のことを忘れがちになります。今回のような講習会は共通教育を知るための貴重な機会です。講習会を企画運営してくださった皆様、ありがとうございます。

2. 2. 2 新任教員FD研修会

新任教員FD研修会に参加して

齋田 倫範（海洋土木工学科）

平成21年11月に開催された新任教員FD研修会に参加させていただいた。私は11月4日の授業参観と意見交換会にのみ参加した。本学に平成22年4月に助教として着任し、これまでに大学で講義を行ったことのなかった私にとって非常に重要な研修であり、また分野の異なる先生方の意見を聴けるよい機会だと思って参加した。

研修の一環として設定されていた授業参観では、農学部曾根晃一教授の「森林科学」を参観した。この講義はパワーポイントを中心とした講義であり、講義中に学生に質問するような双方向の講義ではなかったが、講義の最後にその日の講義内容に関する小レポートを課すことで学生の

理解度を高める努力がなされていた。また、講義で使用されていたスライドの構成、スライドの枚数、写真とテキストのバランスなど非常にしっかりと作りこまれたものが使用されていると感じた。私自身は講義内容を大変興味深く聞くことができ、かつ他分野の講義内容にも関わらず非常に分かりやすかった。講義の組み立て方については大変参考になった。さらに、パワーポイントを使用すると板書と比較して授業のテンポが速くなりがちであるが、各スライドの説明を丁寧にされていたため学生もノートを取りやすかったようである。その一方で、受講者数が多いためか、寝ている学生、私語をする学生、携帯電話でメール等をしている学生の割合が非常に多く非常に残念に感じた。

その後、他学部の新任の先生やFD委員の先生を交えて「『自ら学ぶ学生』をいかに育てるか」をテーマとした意見交換会に参加させていただいた。意見交換会では、学生に対する教育方針について各先生がご自身の経験を交えて意見を述べられていた。多くの先生方の教育方針を聞くことができ非常に有意義であった。経験豊富な先生方でも日々の学生指導において常に悩みながら行動していらっしゃるということを知ることができただけでも、教育経験の乏しい私にとっては意義のあることであったと感じた。その反面、意見交換会中に一度も発言されない先生が数名いらっしゃったようである。教育に対して述べるべき意見を持たない教員がいることを少し残念に感じた。また、議論の中では“『自ら学ぶ学生』を育成する以前に、言われたことすら実行できない学生が少なくない”との意見が多かったのが印象的である。4年間という限られた時間の中で学習意欲の乏しい学生の意欲を向上させ、大学あるいは学科が目標とするレベルまで学生をどのように育てていくかがほぼすべての学部に通ずる課題であると感じた。私自身は助教という立場上、比較的學生と年齢も近く、學生とコミュニケーションを取るための十分な時間がある。學生とのコミュニケーションをとおして學生の学習に対する内発的動機づけの手助けを図っていききたいと強く感じた。

研修会をとおして、先生方が学生指導においてどのようなことを悩んでいるのか、あるいは心を砕いているのかについて生の声を聞くことができ、非常に価値的な時間を過ごすことができた。今回の新任教員FD研修会で学んだことを今後活かしていきたい。また、このような機会を設けてくださったことに感謝いたします。

第3章 学生による授業評価とそれを生かした授業

今年度も「学生による授業評価アンケート」を継続して実施した。授業評価アンケートは15項目と自由記述欄で構成されていて、年度ごとの推移を検証するために平成16年度から若干の文言修正を除いて同じものが使用されている。本アンケートは前期・後期の学期末に実施され、事務支援室によるデータ処理の後、各授業担当教員へ項目毎の評点、学科平均値、レーダーチャートが返却される。各授業担当教員は、授業評価アンケートの集計結果に基づき授業計画改善書を作成しFD委員会に提出している。

本章では、まず3.1節で工学部全体と各学科における授業評価アンケートの推移を報告し、その分析結果について述べる。次に、3.2節で各学科における授業計画改善書の活用状況について報告する。最後に、3.3節で授業評価アンケートの分析結果の学生への公表内容を示す。

3.1 学部授業評価アンケート分析結果

授業評価アンケートにおける工学部全体の平均値の推移とその分析結果を3.1.1節で報告し、3.1.2～3.1.8節に各学科のアンケート評点の推移とその分析結果を示す。なお、中間授業アンケートを参考資料-8に、授業評価（講義・演習用および実験用）アンケート質問様式を参考資料-4に、授業評価アンケート回答様式を参考資料-5にそれぞれ示す。

3.1.1 学部平均値の推移とその分析結果

ここでは、工学部平均値に関して、平成16年度前期～平成22年度後期までの14期分の授業評価の推移をもとに分析する。まず、15項目の授業評価アンケート項目の内、特に重要だと思われる次の6項目に着目して分析を行う。

設問4：授業は理解できた

設問6：宿題・レポート・小テストなどは授業の理解に役立った

設問7：シラバスに記載された授業目標を達成できそう

設問11：講義中やオフィスアワーで質問などに対する教員の対応に満足した

設問14：1コマ（90分）の授業に対して、予習と復習の時間を合わせてどれ位をかけましたか

設問15：この授業は総合的に見て満足できた

これら6項目を以下では簡単のため、「④理解」、「⑥宿題」、「⑦目標」、「⑪質問」、「⑭自習」、「⑮満足度」と記すことにする。図3.1.1(1)～(6)に6項目について、工学部全体における授業評価アンケート評点の推移、すなわち全講義・演習科目の工学部平均値の各期別変化を棒グラフで示している。また、図3.1.1(7)は、その他の9項目について、平成20年度～平成22年度までの工学部平均値の各年度別変化をレーダーチャートで示したものである。

図3.1.1(1)より、「④理解」は平成16年度以来上昇傾向を続けていたが、昨年度と比べて本年度は下降している。これらの結果は、全体的にやや頭打ちの傾向を示しており、授業担当教員による本年度の授業方法等改善努力によって、昨年度以上の効果は得られなかったことが分かる。

評点の値から、学生自身はある程度理解できたと感じているようであるが、より評点を上げるためには、これまでに気づかなかった要改善点を見出す努力が必要であると考えられる。

図 3. 1. 1(2)より、「⑥宿題」に関しては、全体的に上昇傾向にある。授業担当教員による継続的な改善努力が行われていることが分かる。しかし、その一方で「④理解」の評点が下降していることから、学生の基礎学力が年々予想以上に低下してきていることが影響していると考えられる。学生の理解向上のためには、単に課題の量を増やすのではなく、学生の不足がちな基礎学力に合わせた内容を検討していくことが今後迫られているように思われる。

図 3. 1. 1(3)より、「⑦目標」に対しても、「④理解」と同様に、平成 16 年度から上昇傾向にあったが、本年度の結果から頭打ちの傾向が見て取れる。今後評点を上げるためには、これまでに気づかなかった要改善点を見出す努力が必要であると考えられる。

図 3. 1. 1(4)より、「⑩質問」は、近年ほとんど変化が見られず、3. 5～3. 6 の間を推移していることがわかる。学生が授業中やオフィスアワーにおける教員の対応にあまり満足できなかったというわけではなく、質問やオフィスアワーの利用自体が少なかったことが評点に反映されていると推察できる。授業時間中に教員から質問を促したり、オフィスアワーの積極的な利用を呼びかけたりするなど、学生の学習意欲喚起に向けた工夫が必要であろう。

図 3. 1. 1(5)より、「⑭自習」は上昇傾向にある。演習課題やレポートの質の改善、演習書の適切な選定等を工夫して、学生の理解向上に反映させていく必要がある。

図 3. 1. 1(6)より、授業の総合的評価である「⑮満足度」も「④理解度」、「⑦目標」と同様のやや頭打ち傾向を示しているが、評点は低くない。今後も高い評点を維持しつつ学生の理解向上に反映させていくべきと思われる。

図 3. 1. 1(7)から、授業における技術的な項目、すなわち「⑧文字」、「⑨声」における評点もここ数年で着実に改善されてきているが、やや頭打ち傾向にある。しかし、いずれも評点は高い。この結果は、教員の意識的な改善努力はもちろんのこと、教員と学生係等の事務職員との連携による教育施設改善（教室、マイク、黒板、液晶プロジェクタ等）によるところも大きいと考えられる。また、「①シラバス」の評点も高く、各学科によるシラバス整備活動の効果が現れてきていると考えられる。

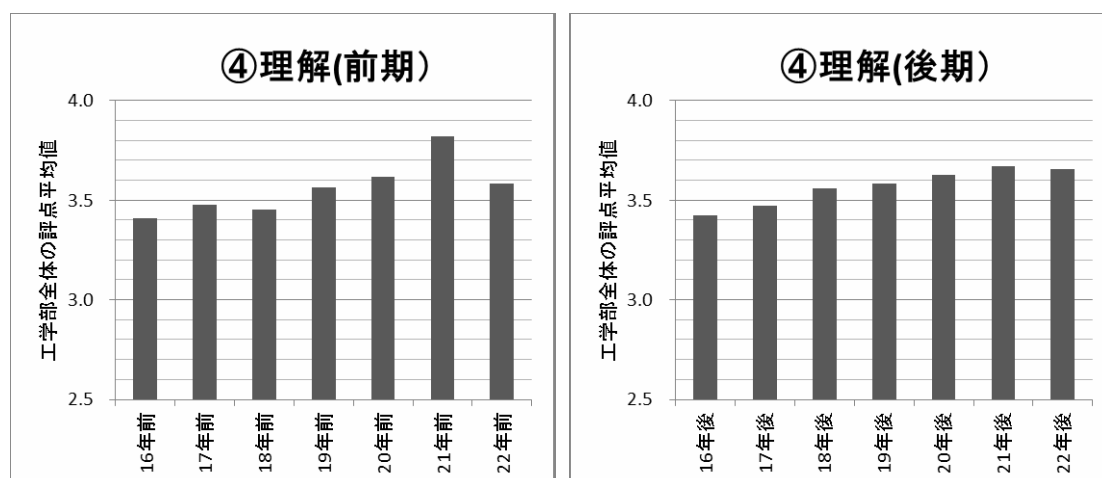


図 3. 1. 1(1) 工学部全体の平均

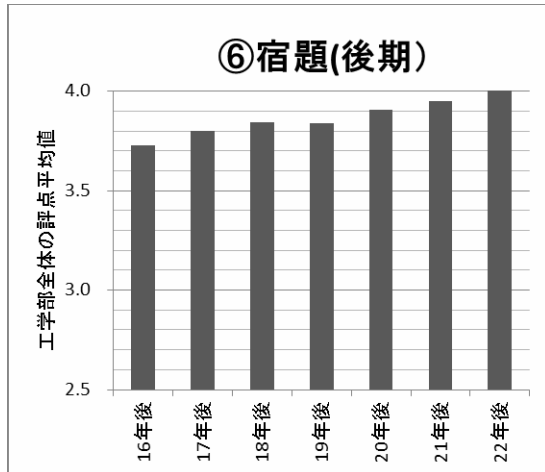
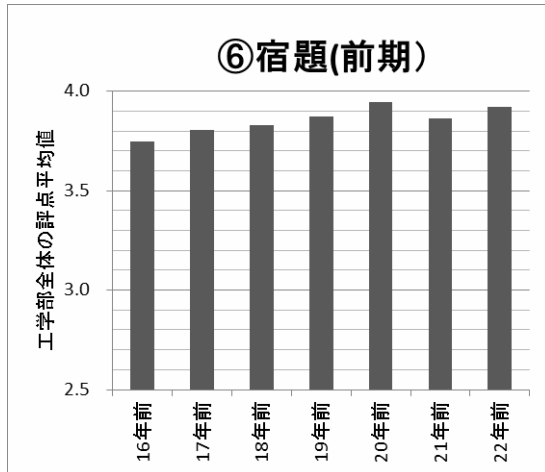


図3. 1. 1(2) 工学部全体の平均値

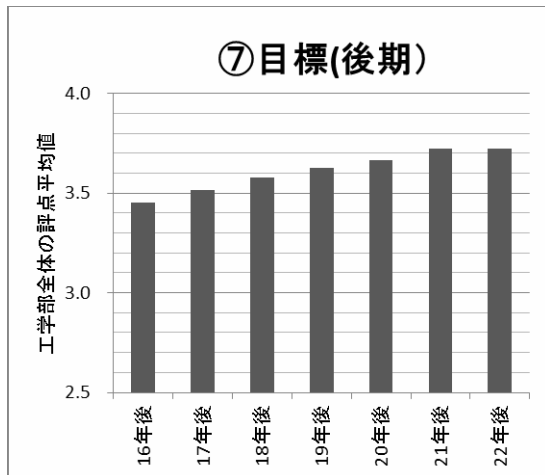
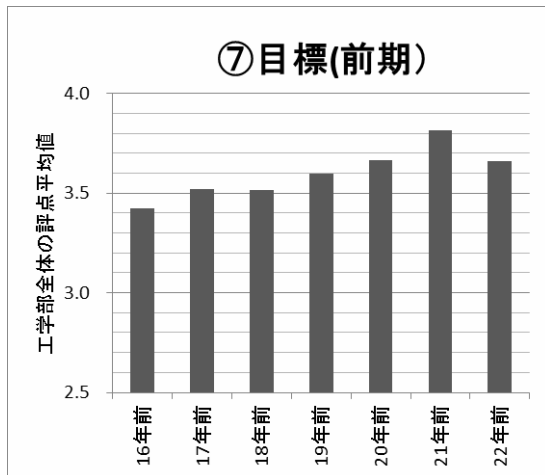


図3. 1. 1(3) 工学部全体の平均

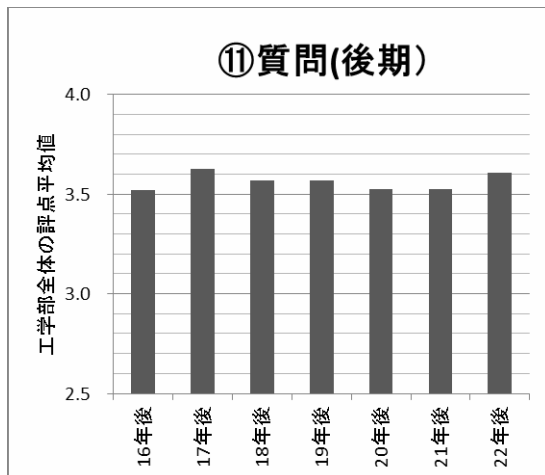
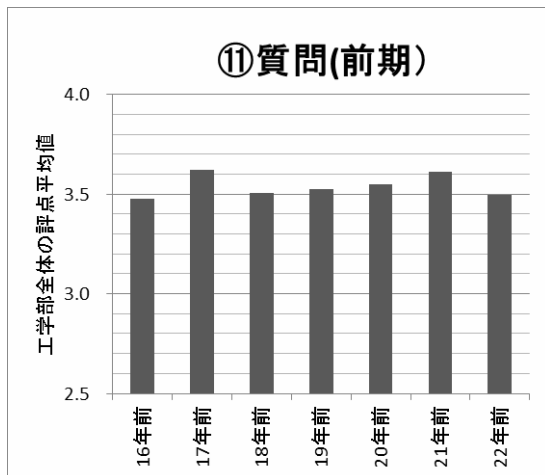


図3. 1. 1(4) 工学部全体の平均値

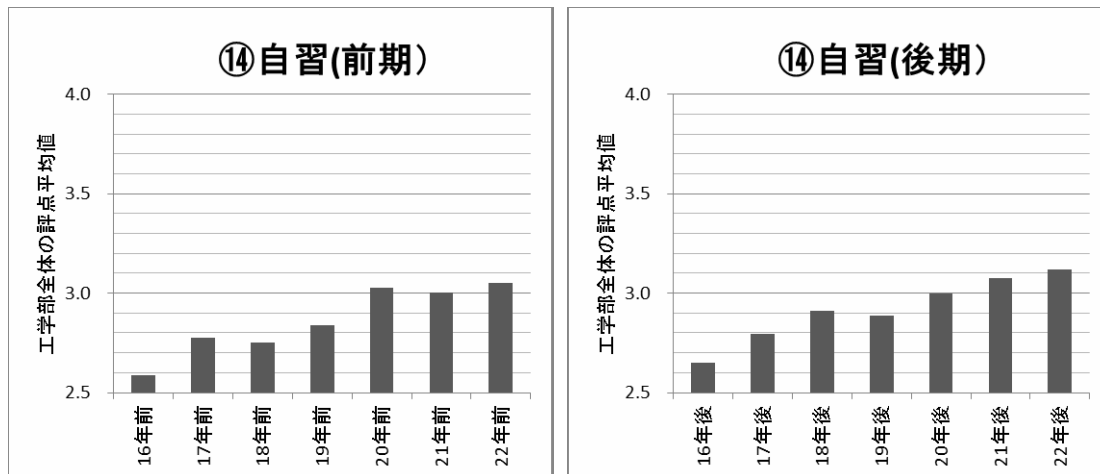


図3. 1. 1(5) 工学部全体の平均

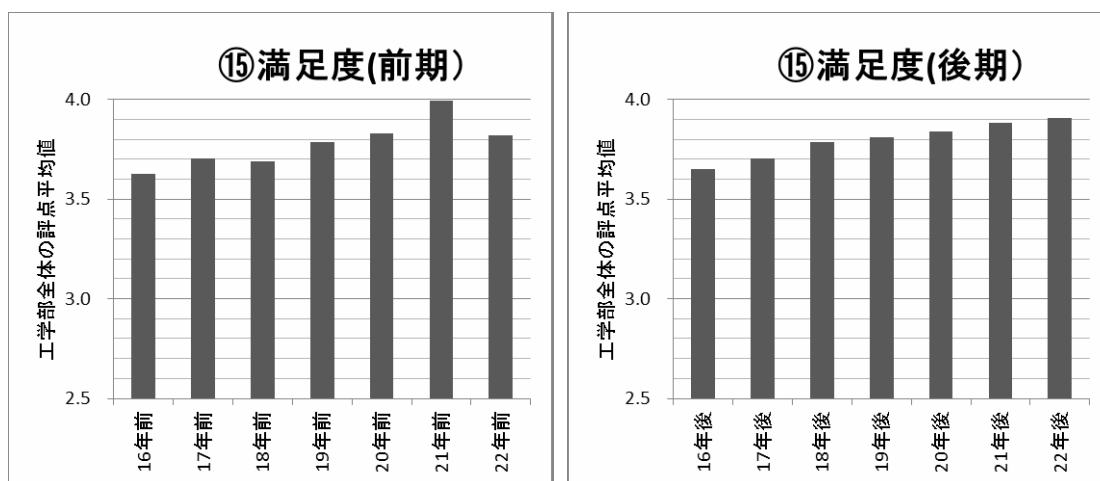


図3. 1. 1(6) 工学部全体の平均値

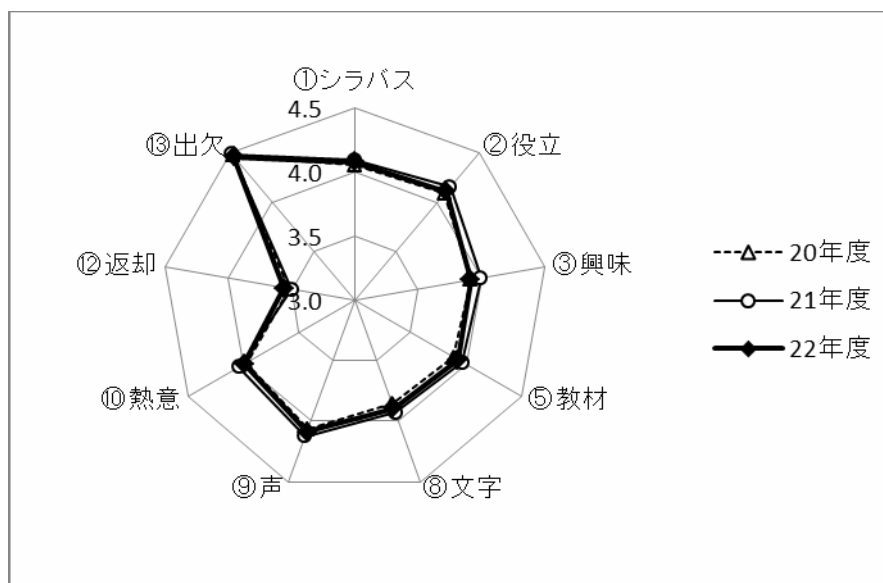


図3. 1. 1(7) 工学部全体の平均

その他、全ての項目で工学部全教職員の改善努力が続けられていることが分かる。先の重視した6項目とこれら9項目とは、言うまでもなく密接に関連しており、今後、頭打ちの傾向を打開するためには、これまでに気づかなかった要改善点を見出す努力が必要である。

自学自習の能力の育成については、これまで重要な項目として指摘されているとことであるが、充分とは言えないまでもこの3年間の間に徐々に増加していることを示している。各科目の掲げる学習目標の達成度については、学生の評価点は昨年度と変化は見られないが、授業を受けての全体としての満足度については、僅かながら向上を示していることが分かる。

3. 1. 2 機械工学科における推移とその分析結果

機械工学科の講義科目に対して実施された授業評価アンケートの結果を図3. 1. 2に示す。この結果は、全アンケート項目の評点について1年間に開講された科目で平均した点の過去7年間における推移を示している。また、表3. 1. 1には平成22年度の評点のばらつきを示す。

図3. 1. 2から、評点は全体的に右方上がりの傾向を示していたが、平成21年度から平成22年度にかけて、評点は平成20年度と比べて横ばいかあるいは下降している。教員による継続的な授業改善の効果が現れているものの、実施が容易な改善策が出尽くしてきた可能性を否めない。そうした中で、アンケート項目「⑥宿題」や項目「⑭自習」は、大幅に下降しないように保たれている。このことから、学生に勉強する時間を確保させるように教員が工夫していることが分かる。

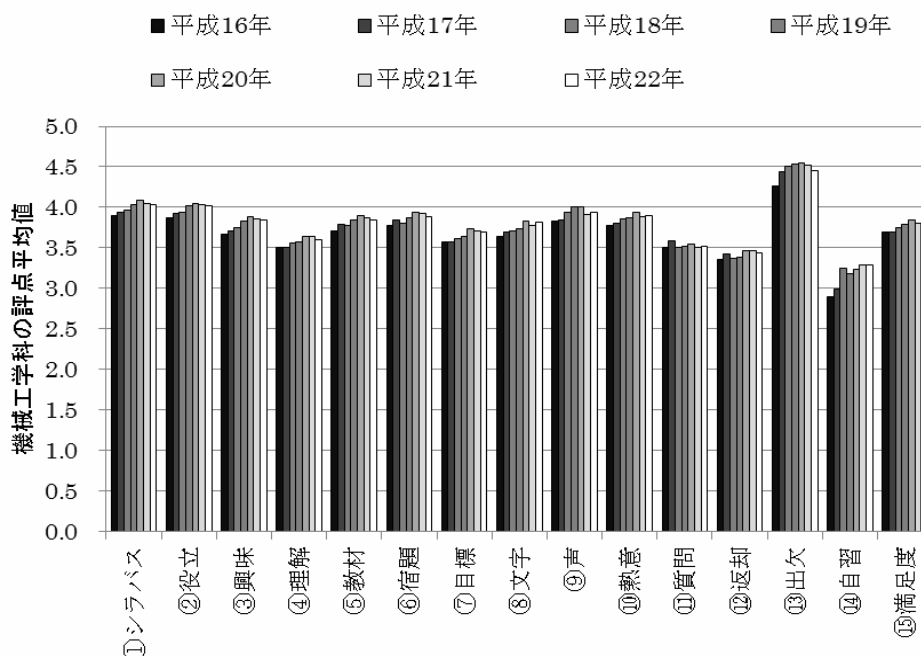


図 3. 1. 2 過去7年間の開講科目における評価点の推移

年々、学生の基礎学力が低下傾向にあることから、授業に対する理解や学習目標達成の評価は

今後とも下降していくことが予想される。よって、継続的に授業評価アンケート結果の推移を確認し、教員それぞれが今後の授業改善にフィードバックすることが重要である。表 3. 1. 1 からは、アンケート項目の多くが、最高点が満点になっていることが分かる。しかしその一方で、平均点から大幅に低い科目がある事実も確認できる。本年度と昨年度の最低点を比べると、アンケート項目「④理解」と項目「⑧文字」の低下が目立っている。反対に、アンケート項目「⑥宿題」、項目「⑨声」、項目「⑫返却」、および「⑭自習」については、本年度の最低点が向上しており、学生に勉強する時間を確保させるように教員が工夫していることが分かる。今後とも、平均点より大幅に低い科目の担当教員にはその事実を認識してもらい、授業改善を積極的に実施してもらう必要がある。

ところで、主観的な分析になるかもしれないが、必修的な科目の評点は選択的な科目より低くなる傾向があるように思われる。同じ教員が同じようなやり方で授業を行っていても、必修的な科目の評点は低く、その一方で選択的な科目の評点は高くなっている例が見られる。このことは、学生が興味を持って授業を受けているかどうかの違いが、評点に反映しているのではないかと考えられる。したがって、授業評価アンケートの評点を分析する際には、このような傾向があることも考慮して検討していく必要がある。

表 3. 1. 1 平成 22 年度開講科目における評価点のばらつき

項目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
平均値	4. 04	4. 03	3. 85	3. 61	3. 84	3. 89	3. 69	3. 82	3. 95	3. 90	3. 53	3. 44	4. 45	3. 30	3. 80
最高点	5. 00	5. 00	5. 00	4. 67	4. 75	5. 00	4. 67	4. 78	5. 00	5. 00	4. 50	5. 00	5. 00	5. 00	5. 00
最低点 (昨年)	3. 00 (3. 28)	3. 09 (3. 11)	2. 81 (2. 91)	2. 33 (2. 77)	2. 49 (2. 80)	3. 11 (2. 89)	2. 79 (3. 07)	2. 00 (2. 60)	2. 64 (2. 27)	2. 57 (2. 80)	2. 80 (2. 93)	2. 40 (2. 00)	3. 00 (3. 00)	2. 48 (2. 00)	2. 44 (2. 76)

3. 1. 3 電気電子工学科の推移とその分析結果

図 3. 1. 3 および図 3. 1. 4 に、電気電子工学科の過去 4 年分（平成 19 年度から 22 年度）の授業評価アンケート結果の推移を示す。ほぼ同じ講義科目で比較できるように、項目毎学科平均点の推移を前期については図 3. 1. 3 に、後期については図 3. 1. 4 に示している。平成 20 年度まではほぼ全ての項目において評点は右肩上がりや推移していたが、それ以降は多くの項目でわずかな上昇か横ばいに止まっている。このことは、特に学科で重視している四つの設問項目③興味深い授業、④理解、⑩熱意、⑮満足度においても同じである。この数年来、教員は授業改善の努力を続けてきたが、授業評価アンケート結果からみれば、全体的に

やや飽和気味となってきたことがうかがえる。特筆すべき点は、設問⑭自習（予習・復習の時間）の評点が昨年度に引き続き上昇傾向を見せている点である。前期は飽和傾向を示しているが、後期は上昇傾向を維持している。これは教員によるレポートや演習課題の質と量の検討、参考書等の選定への努力の結果と考えられる。しかしながら、本年度の⑭自習の評点（前期 3.18、後期 3.39）は予習・復習 1 時間～ 2 時間程度を意味しており、現状を考慮して当面は少なくとも評点 3.5 程度を目指すべきと考えられる。

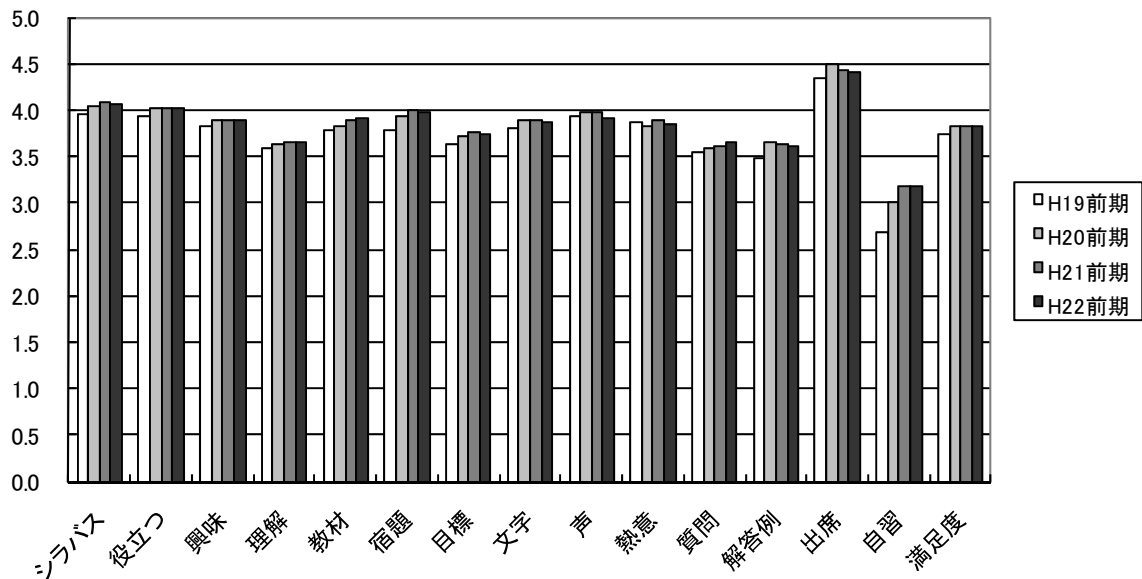


図 3. 1. 3 電気電子工学科の授業評価アンケート結果の推移（平成 19 年度～22 年度（前期））

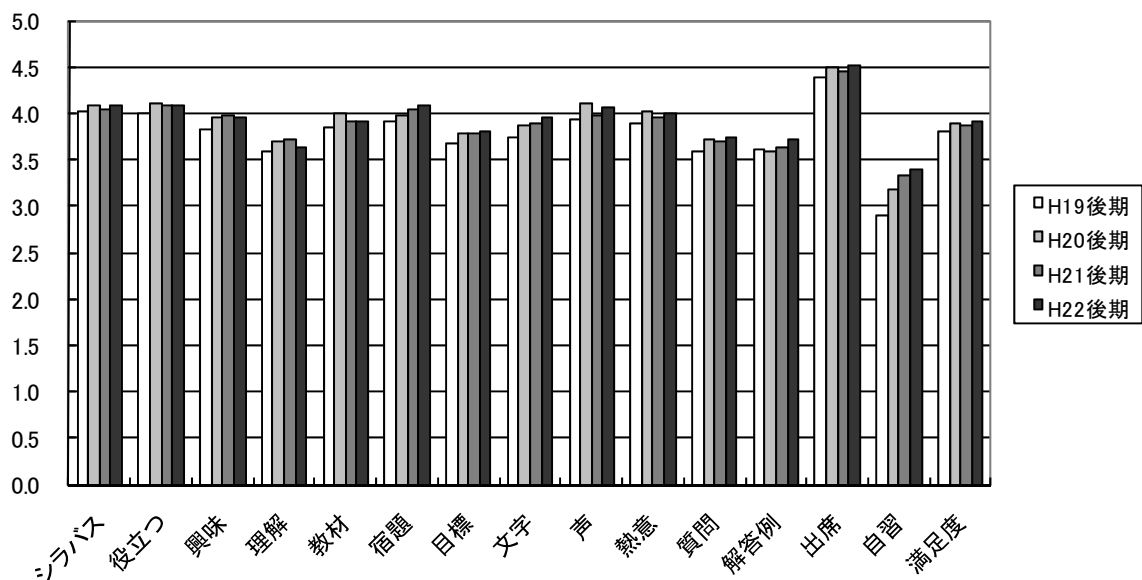


図 3. 1. 4 電気電子工学科の授業評価アンケート結果の推移（平成 19 年度～22 年度（後期））

図 3. 1. 5 は、設問③興味深い授業、④理解、⑩熱意、⑮満足度の 4 項目について、電気電子

工学科平均の評点と工学部平均の推移を比較したものである。H22 年前期は工学部平均が著しく高かったため、全ての項目で電気電子工学科平均は工学部平均より低いですが、それ以外ではほぼ工学部平均と同程度の水準を維持して推移している。学科によって学生の傾向、講義内容や教育方法等が異なるため、工学部平均と比較することの意味は必ずしも明確ではないが、すべての設問で工学部平均以上を目標としていくべきであろうし、工学部平均との距離を把握し、その推移を監視しておくことは重要であると考えられる。

以上、本年度は授業評価アンケート評点の面からは飽和傾向が見られたが、少なくとも現状維持以上に授業改善が進んでいると評価できる。今後とも現状に甘んじることなくさらに講義の質を向上させるために、JABEE への取り組みやFD 活動を通して各教員の不断の努力が求められる。

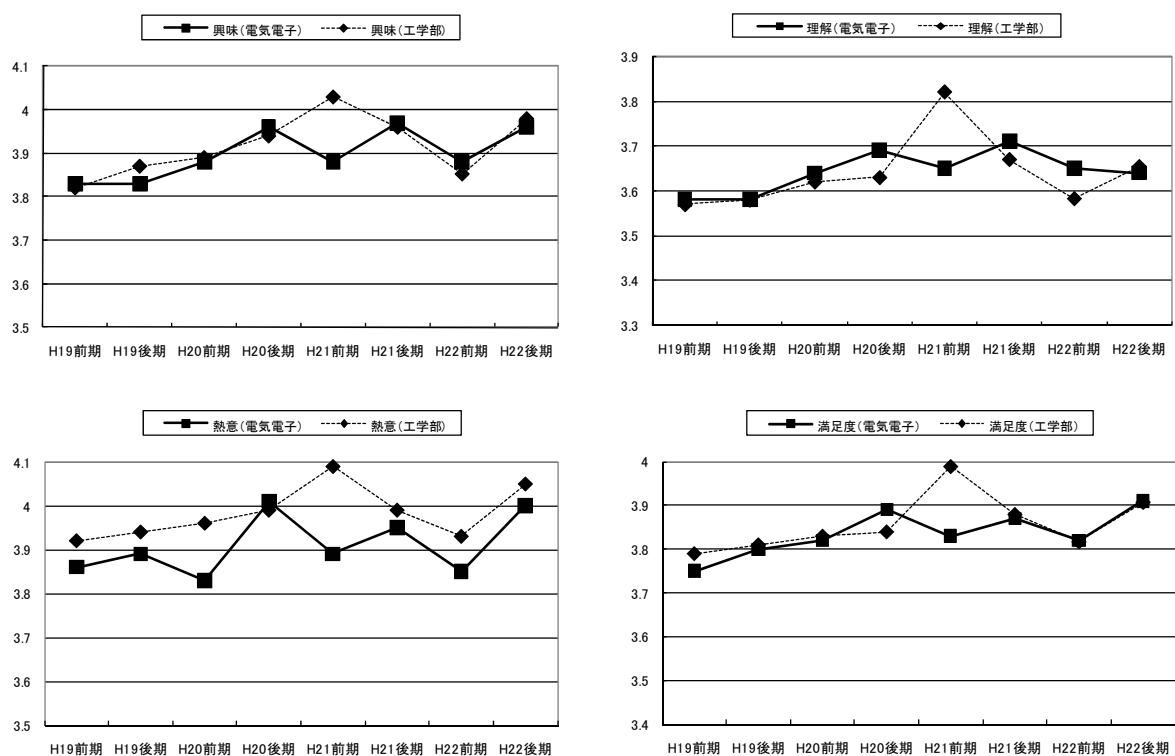


図 3. 1. 5 電気電子工学科平均と工学部平均との比較

3. 1. 4 建築学科における推移とその分析結果

建築学科には建築設計演習の科目が全学年にあり、この講義の形態は講義科目とも実験科目とも異なるが、授業アンケートではこれを講義科目に含めている。実験の科目は1科目だけで比較しにくいので、講義科目について授業アンケートの結果を分析する。

平成22年度の授業アンケートから得られた、各評点の値を図3. 1. 6と図3. 1. 7に示す。図から、いずれの項目もおおよそ例年通りの値であることが判る。後期科目では前年度より低下した項目が目立つが、一昨年度の値からはあまり差が無い。

項目別にみると、項目13が4.5近くとなっており、欠席が1回以下という結果を示している。これはこのアンケート実施時期を考えると、ここまでに欠席が多かった者はアンケートに答えていない可能性が高く、母集団にある程度の偏りがあることが判る。項目14は3以上3.5未満で推移しており予習復習時間が2時間強であることを示している。90分の講義科目で期待される自主学習時間が3時間であることから、若干不足気味であることは否めない。ただ、このアンケートの後に課題のメ切や期末試験が控えているため、実際にはもう少し長くなるものと思われる。もちろん、普段の努力を増加させるための工夫が必要なことには違いない。

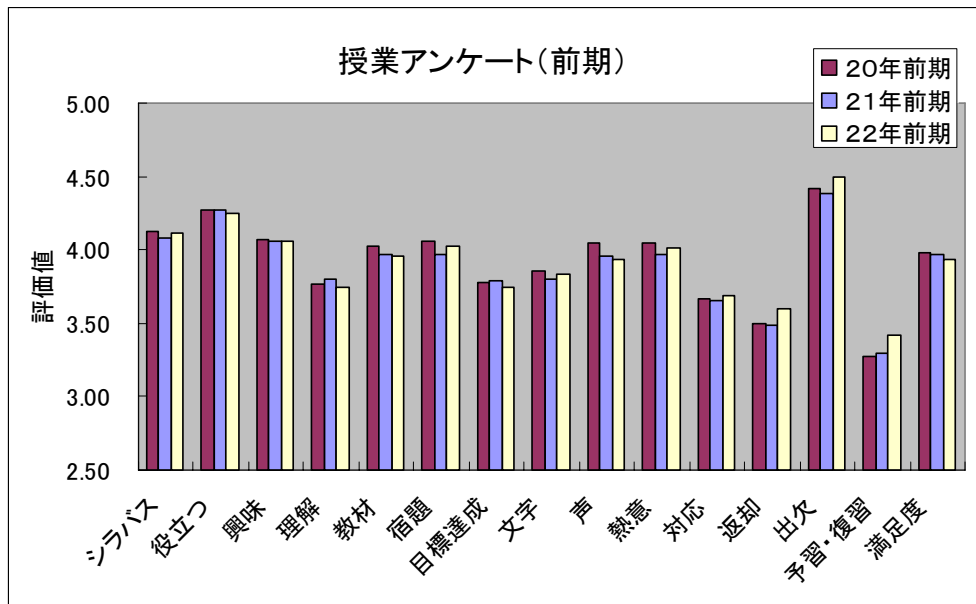


図3. 1. 6 建築学科の講義科目の授業評価アンケート（前期）の結果

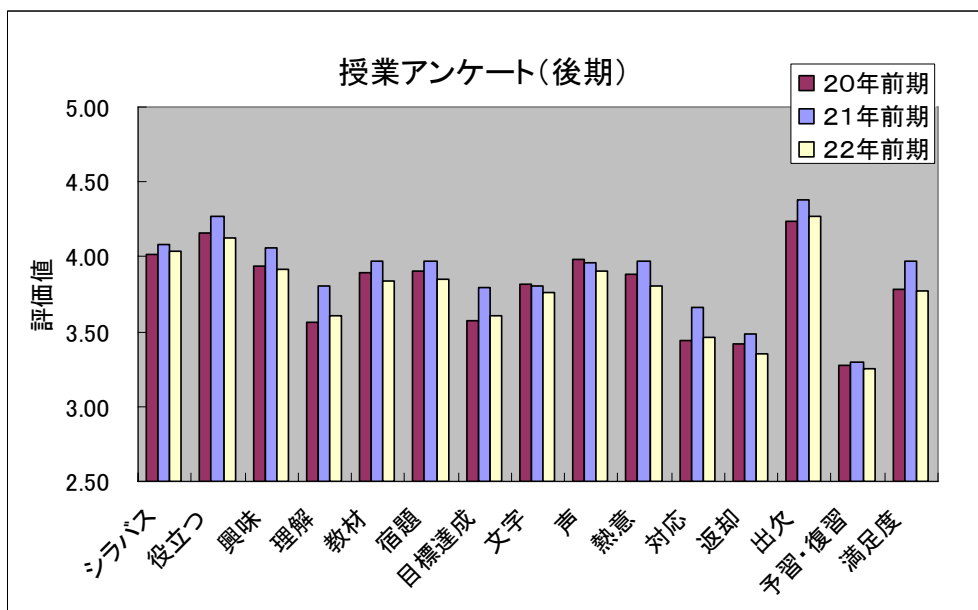


図3. 1. 7 建築学科の講義科目の授業評価アンケート（後期）の結果

その他の項目は3を中立とする5段階評価である。授業に対する教員の努力を示す項目1, 5, 6, 8, 9, 10 に対しては4.0前後の評価がなされていて、建築学科全体としては比較的適切な授業がなされているといえる。なお、項目12は最も評価が低くなっているが、中間試験やレポート等が無ければ評価が1となるため、それによって低下していることが考えられる。もちろんアンケート後の試験の直前にレポートを返却するといったケースもある。

一方、項目2, 3とは学生から見た科目の位置づけの評価であり、これらは比較的高いものの、各自の成果を示す項目4, 7の値が低くなっている。結果として単位の修得に至らない学生も含まれているので自己評価がある程度低いのは当然であるが、このアンケートの後に期末試験があり、実際にはそこで飛躍的に理解を向上させているものと思われる。なお、項目11は一見教員の問題のようであるが、実際には質問をしない学生の方が多いため3が増えているものと思われる。こういった学生に質問を促すような取組みが望まれる。

3. 1. 5 環境化学プロセス工学科および応用化学工学科（化学工学コース）における推移とその分析結果

平成21年4月に大学院理工学研究科が部局化され、工学部の教員は大学院に所属することになった。工学部においては改組も行われ、旧応用化学工学科の「化学工学コース」を母体として環境化学プロセス工学科が設立されてから2年経過した。したがって、本年度は1, 2年生は環境化学プロセス工学科, 3, 4年生は応用化学工学科の「化学工学コース」となっている。当学科は、旧応用化学工学科の化学工学コースの4研究グループと応用化学コースの1研究グループから構成されており、アンケート結果は、概ね、これ迄の応用化学工学科の結果と比較可能と考え分析を加えることとした。

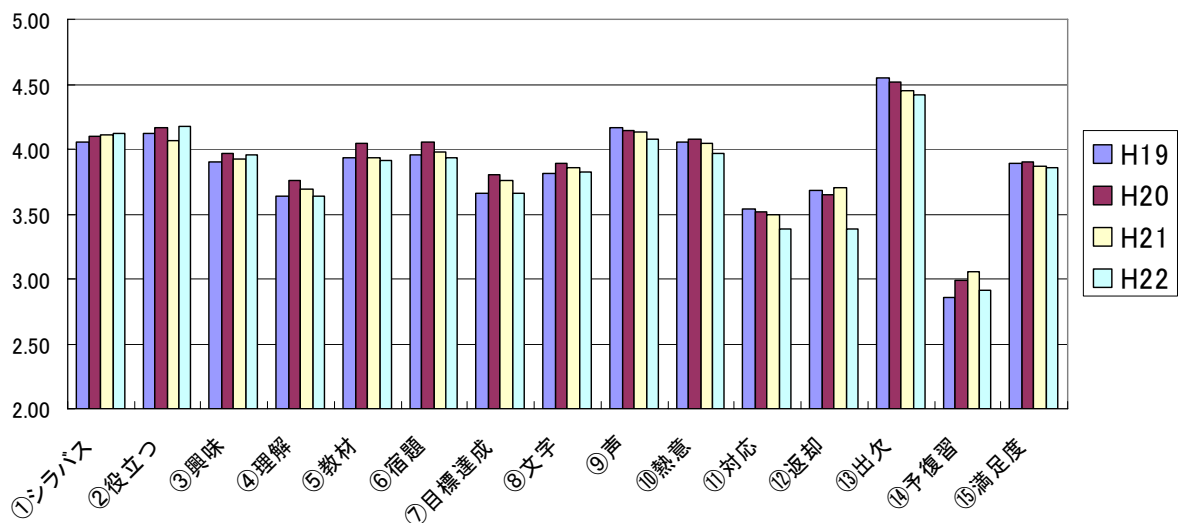


図3. 1. 8 環境化学プロセス工学科および応用化学工学科における開講科目アンケート結果（講義・演習）（H19～22年度）

図 3. 1. 8 は、平成 19, 20 年度の応用化学工学科および平成 21, 22 年度の環境化学プロセス工学科の講義・演習に対するアンケート結果を通年集計したものである。各評価項目は平成 16 年度以降、評価結果が上昇してきたが、ここ数年飽和値（工学部内で上位の評価値）に達しているようである。細かく見ると、授業が②「役立つ」、③「興味」深いといった講義の意義については評価が微増を続けているが、④「理解」できた、⑦「目標達成」度は飽和気味、あるいは新学科への移行後わずかに低下傾向にある。これは、改組の影響、すなわち、教員数の減少により担当講義数がふえるなどの各教員の負担増や、学生数に合致しない大講義室への変更などが影響している可能性がある。事実、⑤「教材」、⑥「宿題」、⑧「文字」や⑨「声」の明瞭さなど、講義方法での評価がわずかに低下していることと対応しており、対策が必要であろう。一方、⑮「満足度」はほぼ一定値を保っているのは教員の努力と少人数制の学科形態によるものと考えられる。

図 3. 1. 9 に、同様に、実験科目についての推移を示す。⑬「予習」・復習の項目を除き、すべての項目で評価の向上が続いており、教員およびTA大学院生の努力によるものと考えている。

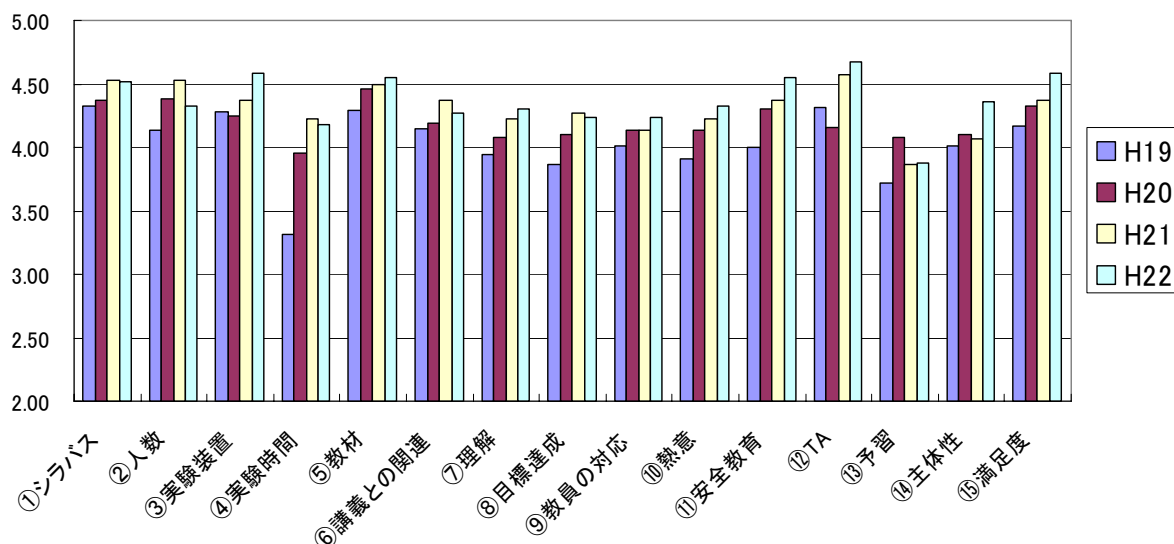


図 3. 1. 9 環境化学プロセス工学科および応用化学工学科における開講科目アンケート結果（実験）（H19～22 年度）

3. 1. 6 海洋土木工学科における推移とその分析結果

海洋土木工学科では授業評価アンケート結果は、各授業担当教員から提出される授業計画改善書と合わせて授業改善の自己点検の資料として活用している。図 3. 1. 10 は海洋土木工学科の前期授業に対する評価値を平成 20 年度から平成 22 年度の推移として示している。前期の結果を見ると、レポートなどの返却と予習・復習の時間を除いてアンケート評価は全体に若干減少している。

「講義はシラバス」に従って行われていること、「講義内容は役立つ」こと、「興味ある内容」であることなどは大体のところ肯定的な評価になっている。

「教材」、「字が明瞭」、「声」および「熱意」は講義における「理解」と密接に関連していると思われる、全体として 21 年度より若干減少している。「宿題」は「自習時間」と関連しているが、こ

の項目については、「理解」は「質問」、「返却」とも関連しており、これらの評価はこの3年間に僅かな変化が見られ程度であることを示している。「目標達成」と「満足度」は、関連の深い項目であり、学習目標を達成できたと学生が判断したときは、満足度は約3.8となっており十分とはまでは言えないが、75%程度の評価になっている。この3年間でこれらの項目は僅かな変化を示しており、教員の授業改善の結果が続いていると推察される。

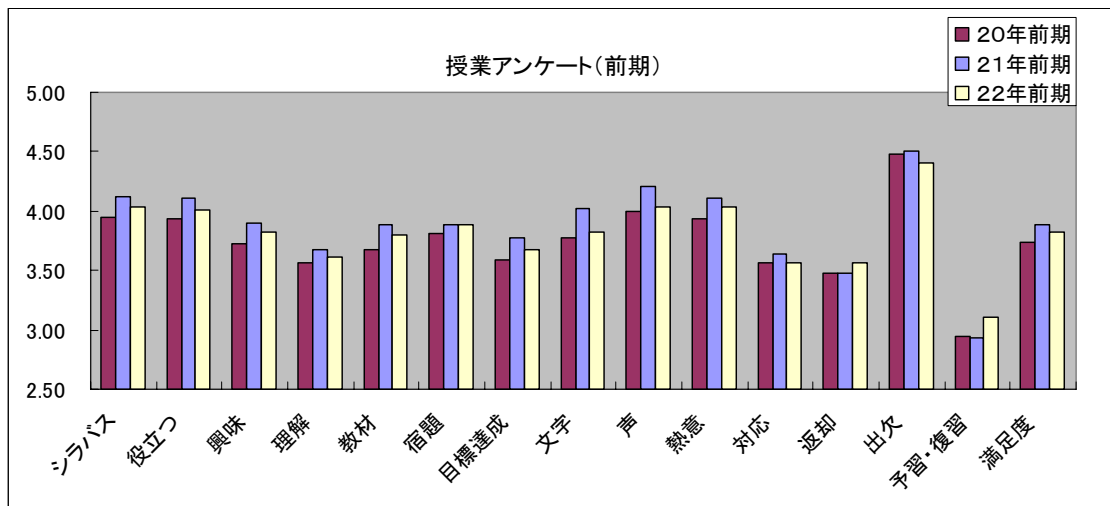


図 3. 1. 10 海洋土木工学科の前期授業アンケート結果

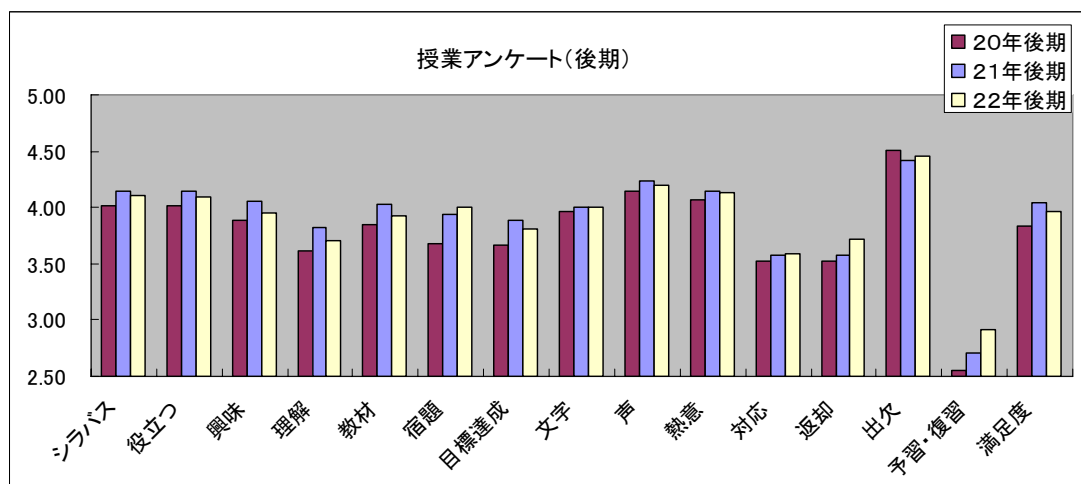


図 3. 1. 11 海洋土木工学科の後期授業アンケート結果

図 3. 1. 11 は後期授業に対する平成 20 年度から平成 22 年度における授業評価アンケート結果を示している。全体としての傾向は前期授業の結果と類似しており、評価値は「自習」を除いて約 3.5 以上あり高い評価を示している。後期科目については、「予習・復習」、「返却」について平成 22 年度は若干の増加を示しており、授業改善の影響が現われているものと推察される。レポート課題や中間試験などの「返却」は、後期とも約 3.7 の評価になっているが、学生の理解を高め、学習意欲を向上させるのに役立っていると思われる。TA などを活用して、レポートの整理などの教育における負担軽減を図ることで、学習成果の向上が期待されることが分かる。

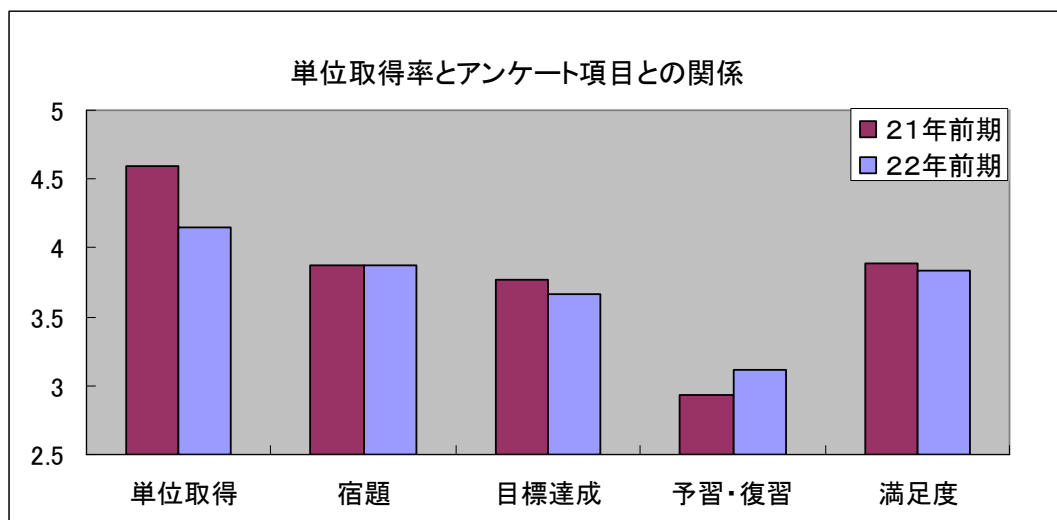


図 3. 1. 12 海洋土木工学科の単位取得率と授業アンケートの関係

図 3. 1. 12 は海洋土木工学科の FD 委員に提出された授業計画改善書に示されている結果を用いて授業評価アンケートとの関連を示したものである。授業計画改善書では受講者の単位取得率を示すことになっているが、単位取得率の 100%を 5 点として評価し、授業評価アンケートの「宿題」、「目標」、「自習」、「満足度」のそれぞれの評価値と比較して示している。平成 21 年度と平成 22 年度を比較すると、取得率は約 80% (評点が 4 に相当) となっているが、若干低下している。一方、「宿題」、「目標」、「満足度」はいずれも僅かながら減少している。予習・復習の時間が僅かながら増加したにもかかわらず単位取得率が減少したことを示している。このため単位取得率と関連の深い学生の満足度や目標達成の評価は減少している。学習目標の達成度を実感させ、その結果として満足度の評価を高めることが、単位取得率の向上に繋がっていくと思われる。

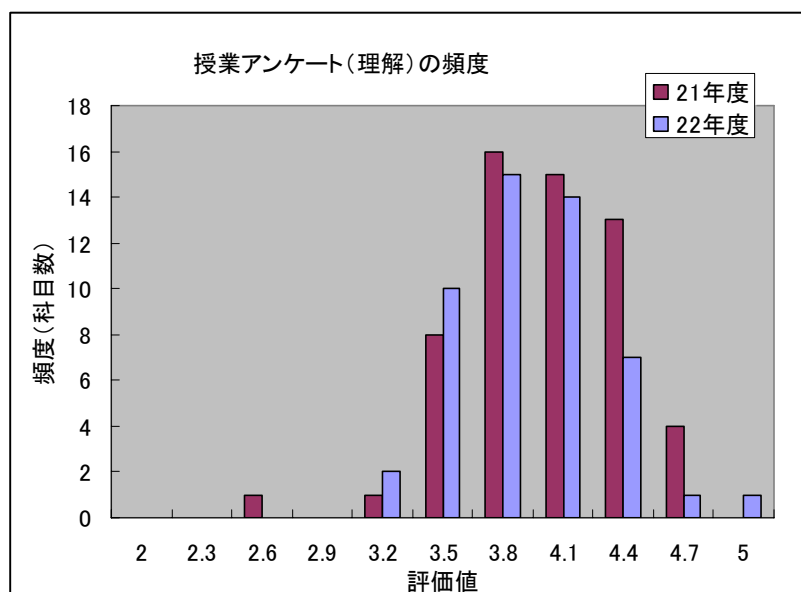


図 3. 1. 13 海洋土木工学科の授業アンケート（理解）の頻度分布

図 3. 1. 13 は授業アンケートの項目④の「理解」に関する全科目の評価値の頻度分布を示している。平成21年度と平成22年度を比較している。平成21年度と平成22年度共に評価値 3. 8 から 4. 1 の頻度が高くなっており、授業アンケートの評価の平均値に相当するものとなっている。平成22年度は、評価値 3. 5 の頻度が平成21年度と比べて少し高くなっており「理解」の程度が減少していることが分かる。次年度に向けては、理解度を図ることが望まれる。

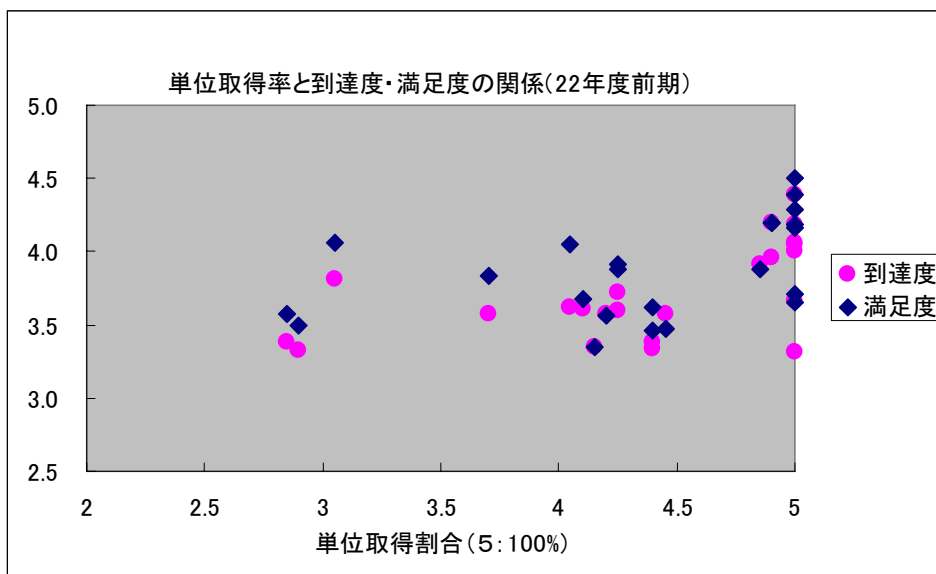


図 3. 1. 14 海洋土木工学科の単位取得率と目標到達度、満足度の関係

図 3. 1. 14 は FD 委員に提出された授業計画改善書に示されている学習目標の到達度、満足度と単位取得率の関係を示している。横軸は単位の取得率であり 100%の取得率を 5 と評価している。縦軸は授業評価アンケートの評価値である。表示した各点は、前期科目の評価値を表している。授業評価アンケートの結果は約 3. 3 から 4. 5 の間にあり、単位取得率は約 2. 8(56%)から 5(100%)の範囲にある。到達度が高いと満足度も高い評価になっており、両者は密接に関連している。一方、到達度が低いと単位取得率も低くなっており、学習目標の到達度の向上が、単位取得率の向上に繋がると思われる。また、単位取得率が 100%の科目でも、到達度は約 3. 3 から 4. 3 程度と幅があり、学生は十分な到達度に達成していない場合もあり、成績評価において検討する必要があると思われる。

3. 1. 7 情報生体システム工学科における推移とその分析結果

情報生体システム工学科は、平成 21 年度の改組により設置されたため、平成 21 年度および 22 年度のみデータ収集されている。このため、平成 16 年から平成 20 年度までの 5 年間のデータは、情報工学科と生体工学科の平均値を使用して分析を行うこととする。講義系科目に関するアンケートの質問項目は、①シラバスの内容と実際の授業との一致性、②授業の今後の有用性、③授業の興味深さ、④授業の理解度、⑤教材等の適切性、⑥レポート等の理解への効果度、⑦授業目標の達成感、⑧文字の明瞭性、⑨声の明瞭さ、⑩教員の熱意度、⑪質問等に対する教員の対応

度，⑫レポート等の評価への満足度，⑬出席回数，⑭予習・復習の時間数，⑮総合的満足度であった。実験系科目の質問項目は，①シラバスの内容と実際の実験との一致性，②実験グループの人数の適切さ，③実験装置の適切さ，④実験時間の適切さ，⑤教材の理解への貢献，⑥講義との関連，⑦理解度，⑧目標達成，⑨教員の対応，⑩教員の熱意，⑪安全教育の実施，⑫TAの熱意，⑬予習の度合い，⑭主体的に実験に取り組めたか，⑮総合的満足度であった。

アンケート結果を講義系科目および実験系科目に分け，さらに，①～⑧および⑨から⑮の2つに分けて図にしたものが，図3. 1. 15～図3. 1. 16である。グラフの横軸は，アンケート項目およびアンケート実施年度を示している。平成20年度までは全体的に上昇傾向であったが，改組が行われた平成21年度より，評点平均が収束あるいは悪化しているように見受けられる。ただし，図3. 1. 16～図3. 1. 18においてまず念頭に入れておくべきは，平成21年度以降では，平成20年度以前と授業科目が異なる点である。また，集計結果は平均のみが示されており，学科平均と学部平均の間の有意な差の有無は不明である。以上の理由により，本集計結果をもとに，平成21年度以降の時系列的な分析や，学部平均との比較などの分析を行うことは適切とはいえない。現時点では，統計的なデータを蓄積すること，および，各授業科目における個別の改善に注力するこ

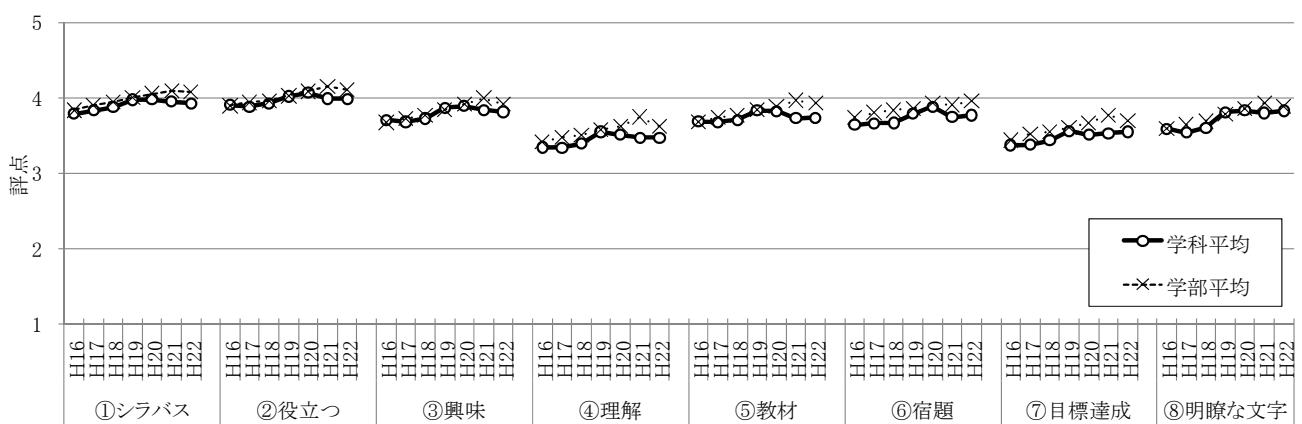


図3. 1. 15 情報生体システム工学科の授業評価アンケート結果の推移
(平成17～22年 講義科目，①～⑧)

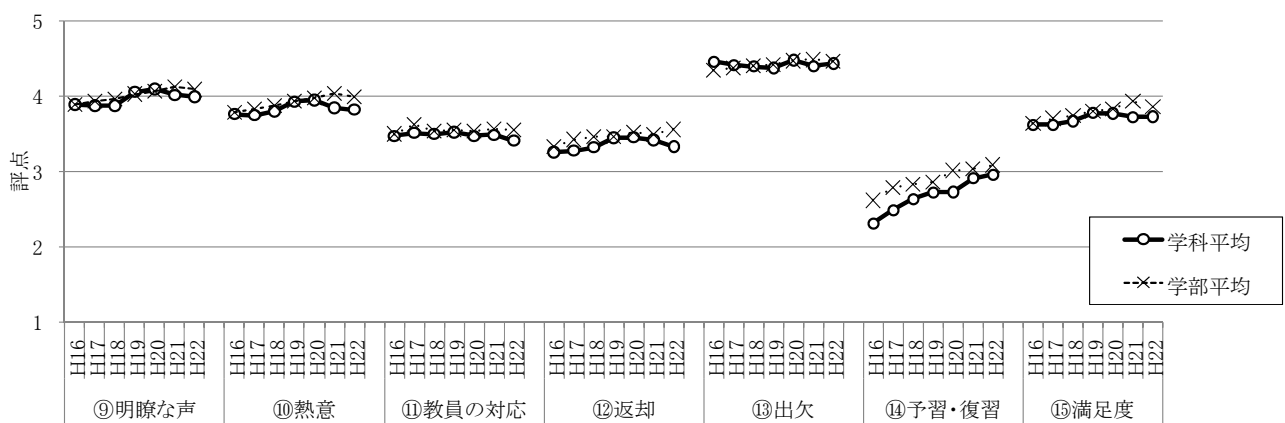


図3. 1. 16 情報生体システム工学科の授業評価アンケート結果の推移

とが重要であると考える。

以上を踏まえた上で本稿では、直観的な分析ではあるが、図3. 1. 17の「④実験時間」の項目に着目する。改組後の評点が低下しているように見受けられる。現在、情報生体システム工学科では、情報工学、生体工学、および両者の境界領域の実験を行えるよう、実験科目の内容の大幅な変更を行っている。来年度までは実験科目の見直しが続くが、担当教員が経験を積み、適切な量の実験内容へ調整を行うことで、適切な時間内に実験を行えるものとする。

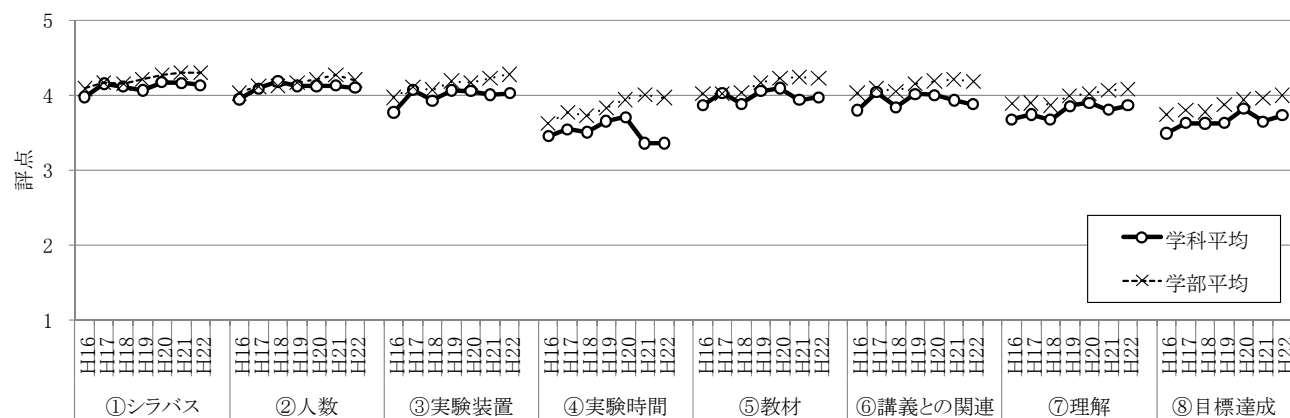


図3. 1. 17 情報生体システム工学科の授業評価アンケート結果の推移
(平成17~22年 実験科目, ①~⑧)

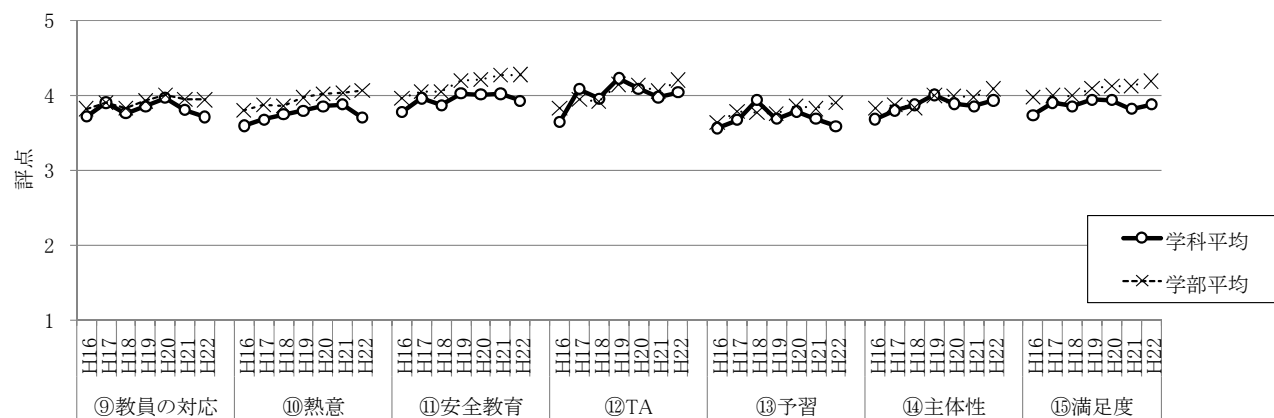


図3. 1. 18 情報生体システム工学科の授業評価アンケート結果の推移

3. 1. 8 化学生命工学科（応用化学工学科応用化学コース，生体工学科生体機能材料コース） における推移とその分析結果

化学生命工学科は、旧応用化学工学科応用化学コースと旧生体工学科生体機能材料コースを学部ベースでの母体として改組により平成21年度に誕生した。まだ新学科であるため推移を十分に分析することはできないが、過去の両学科の評価結果と比較することで誕生に際しての教員のFD活動に対する意識の変化などを分析することができると予想され、意義あることと思われる。図

3. 1. 19 に、旧学科それぞれの平成 20 年度の全科目平均の集計結果、化学生命工学科の平成 21 年度の全科目平均、および化学生命工学科と工学部それぞれの平成 22 年度の全科目平均の集計結果を示す。化生工誕生の平成 21 年度では、化生工の評価が旧学科より上昇したものが 9 項目（1～5, 7, 10, 12, 15）あり、4 項目（6, 8, 9, 13）では評価が低下したものの、その程度は小さかった。化学生命工学科教員の意識向上がうかがえる。しかし、評価が大きく低下したのも 2 項目（項目 11「教員の対応」、項目 14「予習・復習」）あった。教員の学科改変のための業務が増し、学生への対応時間や宿題を準備する時間にしわ寄せが来たことなどを原因として考察した。平成 22 年度では項目 11 と 14 は平成 21 年度よりは上昇し、それ以外は逆に低下して平成 20 年度の旧学科並みかそれより若干低い値となった。項目 11 と 14 が上昇したことは教員間の相互連携、教員評価、情報開示などの FD 活動、PDCA サイクルが効果を与えたと考える。平成 22 年度において、工学部平均と比較すると、ほとんど工学部平均を上回っている。項目 11 と 14 以外の評価が年次推移として低下したとはいえ工学部平均よりは高いこと、そして、特に項目 4「理解」、7「目標達成」、10「熱意」、15「満足度」が、過年度および旧学科も含めて工学部平均より大きく高いことは化学生命工学科関連教員の教育活動の意識の高さを表している。ただし、旧応用化学工学科には他に化学工学コース、旧生体工学科には他に生体電子工学コースがあり、この事情が上記の検討結果には考慮されていないことには留意する必要がある。

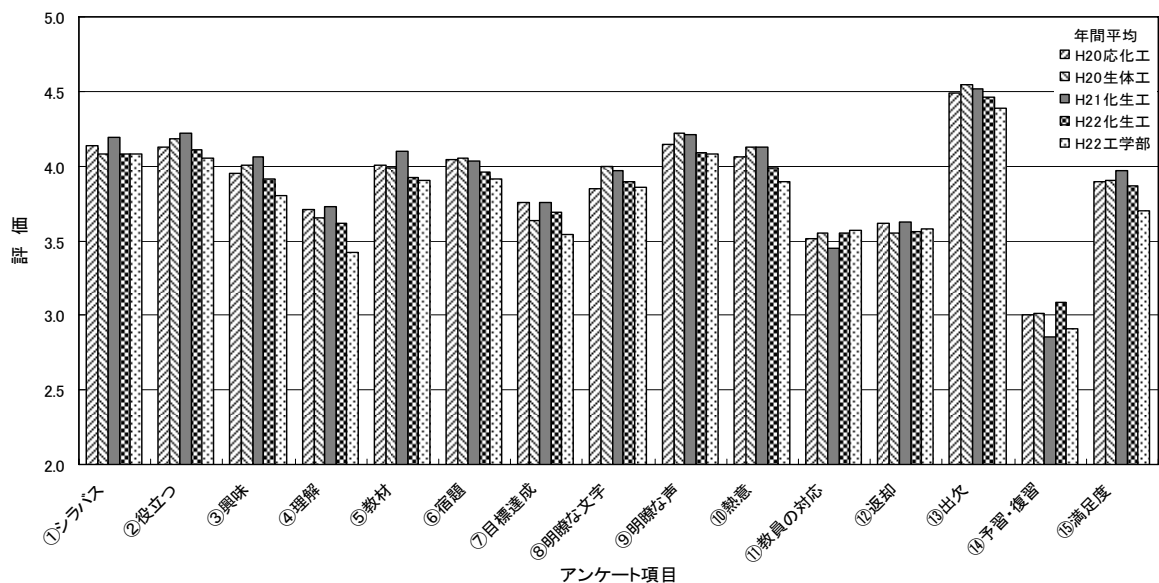


図 3. 1. 19 旧応化工, 旧生体工, 化生工, および工学部のアンケート結果

応用化学工学科応用化学コースおよび生体工生体機能コースのそれぞれにおいて、准教授・教授の担当科目から複数を抽出してコース別に平均をとり、過去 4 カ年に渡ってまとめた結果を図 3. 1. 20 に示す。これによって、コース毎の推移が調べられる。平成 21 年度は、応用化学コースでは項目 11 と 14 以外はその過去 2 年間よりも大きく上昇した。低下した項目 11 と 14 はそれぞれ「教員の対応」と「予習・復習」である。平成 22 年度は 21 年度より、ほぼ全てにおいて低下したが、例年と比較するとまだ若干高い値であり、大局的な上昇傾向にあると考える。しかし、

項目 11「教員の対応」は例年に比較しても低く、依然として学科改変のための業務増加が理由としてうかがえる。旧生体機能コースでは、ほぼ全ての項目において平成 21, 22 年度と上昇し、大局的な上昇傾向が明らかに見られる。特に項目 11「教員の対応」、14「予習・復習」は平成 22 年度に大きく上昇しており、教員間の相互連携、教員評価、情報開示などの FD 活動、PDCA サイクルが効果を与えたと考える。

評価が低下した理由が時間不足であれば、今後徐々に改善されていく。改組が教員の教育への取り組みの意識を高揚させたことであろうが、現在の FD 活動、特に、アンケートの実施、集計、分析、周知、そして改善、という 1 つの PDCA サイクルが機能しつつあることが示されている。

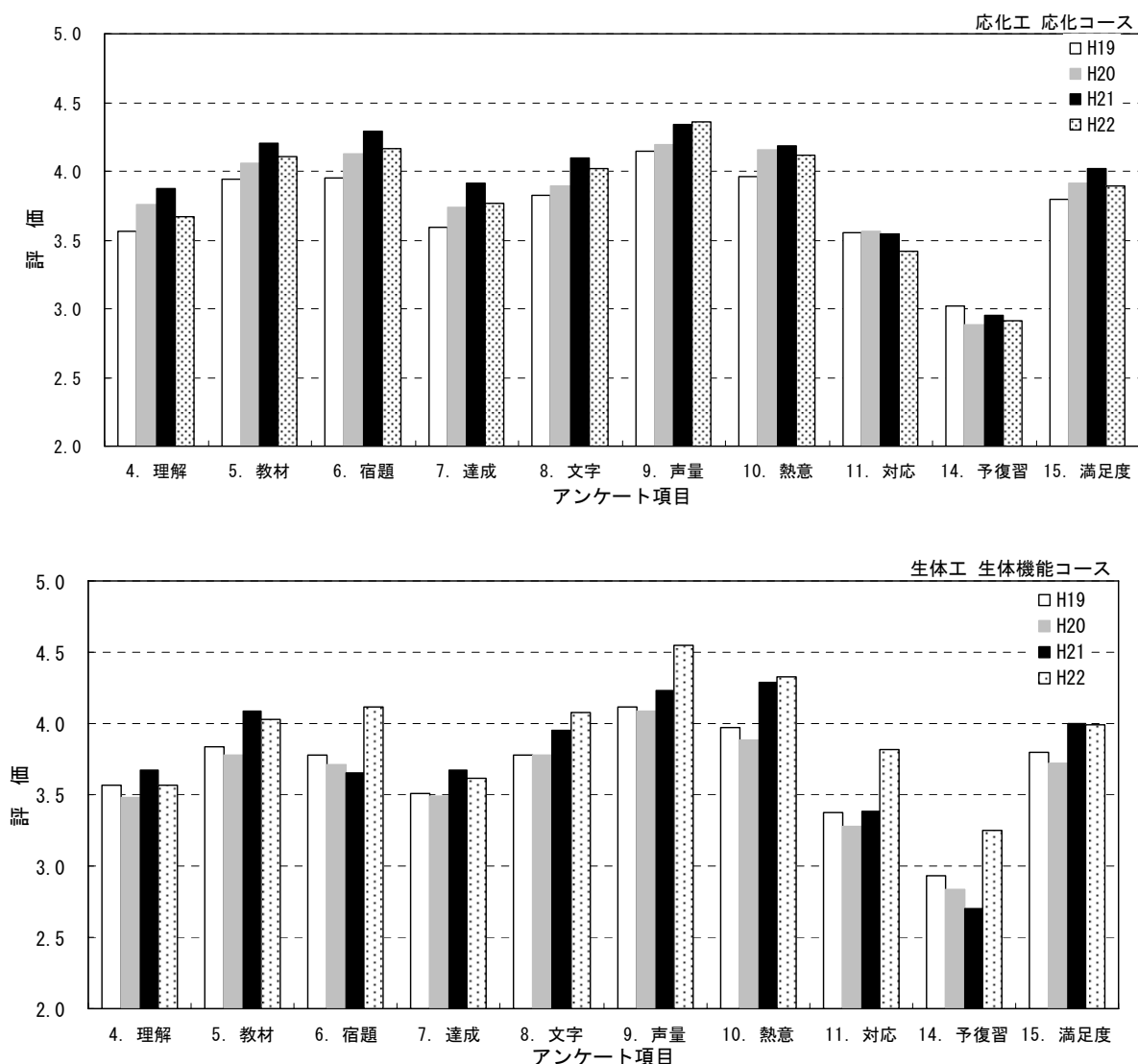


図 3. 1. 20 旧応用化学コースおよび旧生体機能材料コースのアンケート結果

3. 2 授業計画改善書の各学科の活用状況

授業評価アンケートは前期・後期の学期末に実施しており、その結果については3. 1と3. 2で示した。アンケートデータは整理の後、各授業の担当教員に対してアンケート項目毎の評点の平均値、学科平均値などのデータとその結果を図示したレーダーチャートが返却される。各授業担当教員は、授業評価アンケートの集計結果に基づき授業計画改善書を作成しFD委員会に提出している。授業計画改善書は「理解」、「目標達成」などの項目に3年間の評価値を記入してその推移が把握できるようにしている。授業担当者は各項目に関して現時点での自己評価と改善の方策を記入して、次年度の授業改善の参考資料になるようにしている。また、授業の受講者数、単位取得者数を記入することで評価基準の比較もできるようにしている。参考資料-6は提出された授業計画改善書の一例である。

3. 2. 1 機械工学科の活用状況

学科のFD委員が収集した授業計画改善書は、授業評価アンケートの評価点や科目GPAとともに専攻教育評価委員会が整理して分析を行っている。専攻教育評価委員会は、整理した内容と分析した結果を「専攻教育評価委員会報告書」としてまとめている。この報告書は冊子とCD-ROMの形で保管され、授業改善を実施する際の資料として利用できるように全教職員に公開されている。

3. 2. 2 電気電子工学科の活用状況

授業計画改善書は、各科目の授業評価アンケート評点とそのレーダーチャート、および授業評価アンケート回答用紙（実施済みのもの）と共に学科事務室にて保管され、教員はいつでも閲覧できる。主として工学部FD委員が管理し、JABEE活動の一環として、専攻（学科）FD委員会において授業改善に取り組む資料として活用している。

3. 2. 3 建築学科の活用状況

授業計画改善書に関して、全科目の評点を学科内で公開して問題点を共有することになっている。具体的には、全科目の全項目の評点の一覧表と、全項目の目標とする評点の一覧表を作成して、全科目がどのような状況になっているかが簡単に分かるようにしている。また本学科では平成19年より授業満足度の評点と授業担当時間を用いて教員の教育貢献度を評価するシステム導入している。この結果も学科内で公開している。

3. 2. 4 環境化学プロセス工学科および応用化学工学科（化学工学コース）の活用状況

年2回学期末に開催される学科の教員間ネットワーク会議においては、FD委員会のアンケート調査より返却された前期／後期授業科目のレーダーチャートおよびこのチャート結果に基づく授

業改善書は各教員により提示が義務づけられている。また同時に次学期開講予定科目のシラバスも提示し、メンバーとの意見交換による授業内容や授業方法の改善のために利用されている。授業計画改善書は、学科 JABEE 資料室にエヴィデンスとして保管してあり、教員は自由に見ることができる。このように授業計画改善書は本学科の教育点検・継続的改善を図る上で大いに活用されている。このような継続的な取り組みの結果、評価は毎年改善されていると考えられる。

3. 2. 5 海洋土木工学科の活用状況

海洋土木工学科では、授業計画改善書は授業評価アンケートの集計結果に基づいて作成して学科の FD 委員に提出することになっている。学科内に設置されている教育システム評価委員会は、FD 委員から提出された授業計画改善書および学科で別に作成することになっている専門科目の学習目標達成度に関する資料を用いて、授業改善状況の点検を行っている。点検結果は教育システム評価委員会から学科会議に報告されることになっている。学科会議ではこの報告書に示されて改善点に関して、審議して必要な措置をとることになっている。学科としては PDCA の点検システムを構築しており授業計画改善書は、その中で重要な役割を果たしていると言える。

3. 2. 6 情報生体システム工学科の活用状況

情報生体システム工学科では平成 22 年度より、授業計画改善書を学科事務室に保管し、すべての教員が閲覧可能な状態で管理を行うこととなった。各教員による授業改善への取り組みおよび結果を教員全員で共有することで、専攻全体の教育内容の継続的な改善を試みる。また、改組のために JABEE 申請は再出発となったが、学科 JABEE 委員会の下に作られている強化グループ連絡会において、シラバスの内容などを見直す際の基礎資料の 1 つとして活用されることとなる。

3. 2. 7 化学生命工学科（応用化学工学科応用化学コース、生体工学科生体機能材料コース）の活用状況

授業計画改善書は現在、応化工応化コースと生体工生体機能コースのそれぞれにおいて教育改善に既にそれぞれの手法で活用されている。化生工としては教室会議や JABEE 準備委員会等で利用方法を検討しているが、まずは下記の応化コースと同様な方法で活用を図っていく。

応化コースでは授業計画改善書を、アンケート集計結果、授業参観報告書およびそれに対する回答書などとともに、コース会議において提示することが義務づけられている。そこでは、各教員の各科目についての説明、質疑応答、そしてメンバーによる評価が行われる。特に、アンケート集計結果の評価の下落が大きい教員や科目については明文化された申し合わせに従い、その対処が行われることになっている。多数の教員で分担して行う講義・実験・演習に関しても、教務委員や FD 委員等が説明を行い、メンバー全員で評価して結果を真摯に受け止めて改善に努めている。このように応化コースでは、授業計画改善書を始めとする FD 活動書類を資料として、教員間で協力・連携そして切磋琢磨するシステムが構築され、その中で授業内容・方法の改善もなされている。

一方、生体機能コースにおいては、授業改善計画書は FD 委員が管理し、授業アンケート用紙

については学科保管庫に一括保管し、閲覧希望があれば閲覧できるように準備している。不定期ではあるがカリキュラムの再検討を行い、各講義科目とその開講期の順序が、ある学問分野の体系的学習に適しているかを検討しており、特に各科目の内容とその連結性に焦点を当てて検討を加えている。また、授業アンケートの結果が著しく優れていた講義を担当している教員より、学科会議の場で、どのような講義を行っているかを説明する活動を行い、質疑応答と併せて各自の講義の参考としている。

3.3 学生による授業評価アンケート結果の学生への公表

工学部では、授業評価アンケートの結果の概要を工学部のホームページを通して毎年公表している。これは前期授業アンケートの結果が纏まる9月にFD委員会で作成することになっている。授業評価を行う学生にこのアンケート結果がどの様に利用されているのかを知らせることと、それによりアンケートデータの作成に協力してもらい、正確な評価をしてもらうためである。今年度も、前期授業評価アンケートデータを整理して、以下に示すような内容で公表した。

工学部FD委員会

平成22年10月21日

平成21-22年度授業アンケートの結果とその活用について

工学部FD委員会では学生による授業評価アンケートを実施しています。平成22年度前期に実施したアンケートデータの結果と平成21年度の結果の一部を公表します。この授業評価アンケートは、学生が授業内容の理解を深めて学習目標を達成するとともに教育の質の充実に資する活動の一つとして継続して行っています。平成21年度前期～平成22年度前期までの授業アンケート結果を年度(前期・後期)順に比較して示してあります。

授業アンケートでは15項目について質問しました。各質問の内容は5つの回答(評価)に分けて行いました。その質問項目の中で④、⑦、⑭は表3.3.1に示すようなものでした。

表3.3.1 授業評価アンケートの質問項目の例

項目	質問の内容	評価				
		5	4	3	2	1
④	授業は理解できた	大いにそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そうは思わない	全くそうは思わない
⑦	シラバスに記載された授業目標を達成できそうか	大いにそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そうは思わない	全くそうは思わない
⑭	1コマ(90分)の授業に対して、予習と復習の時間を合わせてどれ位をかけたか	3時間より多い	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満

これらの質問について各学科(または工学部全体)の回答結果をまとめてみると、以下のような結果になります。これは学科で開講された全講義科目の平均値であり、以下の棒グラフは3を基準にして示してあります。21年度から学部の改組がありましたが、改組後の学科で示してあります。

- (1) 図3.3.1は、項目④の質問(授業は理解できたか)に対する結果を示します。学科によって若干の相違や多少の年度・学期による上下は見られます。平成22年度は、昨年度と比べて授業の理解が深まったと答えた学科が若干減少していることがわかります。

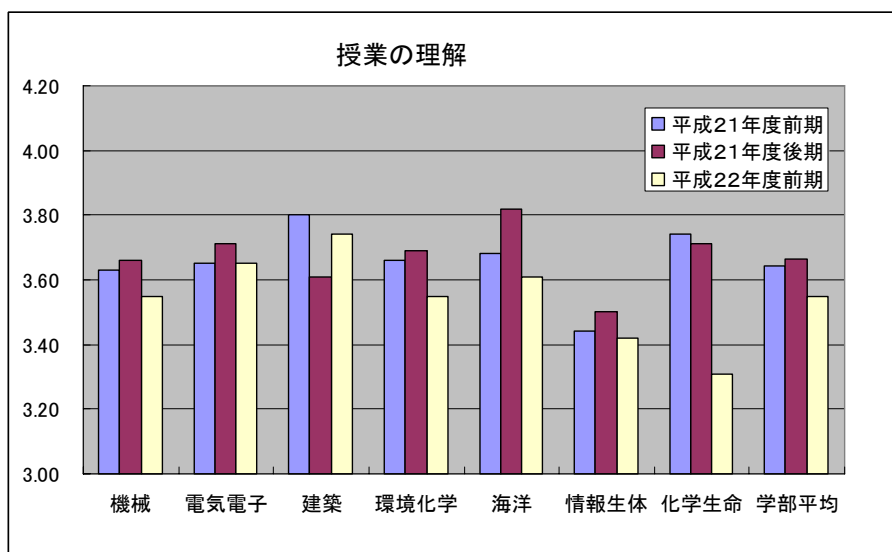


図 3. 3. 1 前期授業アンケート（理解）の結果

(2) 図 3. 3. 2 は、項目⑦の質問（シラバスに記載された授業目標を達成できそうか）に対する回答を示しています。今年度は多くの学科で昨年度と比べて若干減少しています。(1)で示した理解の項目と関連しますが、学習目標の達成が十分で無いと思う学生が多いことを示しています。

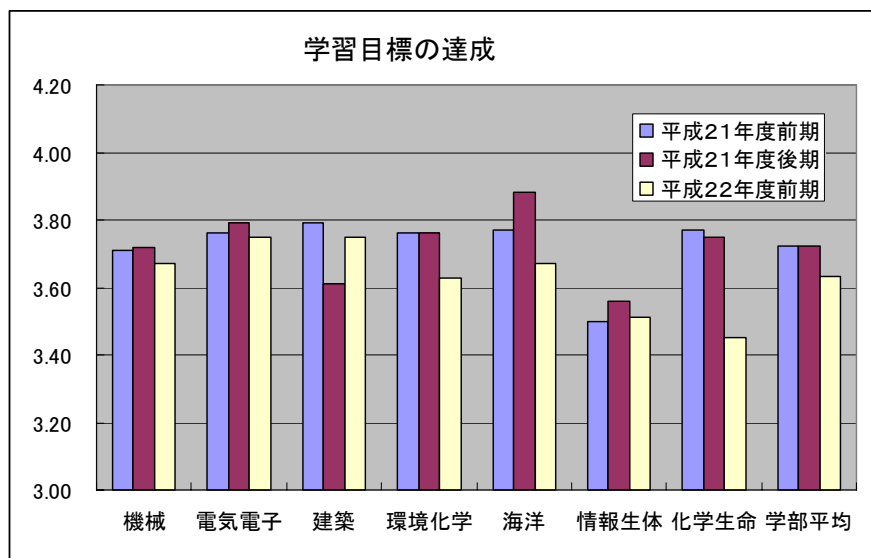


図 3. 3. 2 前期授業アンケート（学習目標の達成）の結果

(3) 図 3. 3. 3 は、項目⑭の質問（1コマの授業に対して、予習・復習の時間を合わせてどれ位かけましたか）に対する結果を示しています。学科によって少し異なっていますが、昨年度と比べて今年度は、減少しています。学部の平均が約 3.6 ですから、約 2 時間程度であることを示しています。予習・復習は授業の理解度を高めるために非常に重要であると、シラバスに示してありますが、④授業の理解に対する結果と、⑦の授業目標の達成は、密接に関連しています。今年度は、多くの学科で予習・復習の時間が減少していることと関連しているようです。

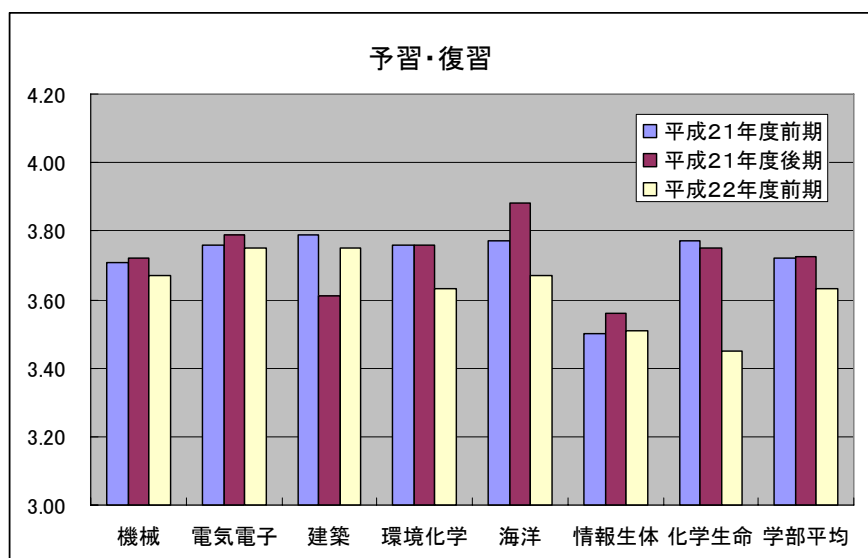


図 3. 3. 3 前期授業アンケート（学習目標の達成）の結果

以上のように前期と後期に実施している授業アンケートは、学生がシラバスに示された学習目標を達成し、それに相応しい十分な学力を有するような学習・教育となっているか等の現状を把握するためのものです。このため、今後実施する授業アンケートには正確に回答してもらうことで、一層の改善に繋がっていくことを理解して下さい。授業アンケートの結果を受けて、授業担当の教員は、科目ごと授業計画改善書を次年度に向けて作成し、「目標の達成度の向上」を図る試みを行っています。

より詳しい学各科の分析結果は、各年度毎に工学部 FD 委員会報告書で報告しています。

4章 FD と JABEE への取り組み

工学部の JABEE への取り組みとしては、平成 22 年度は電気電子工学科が継続審査を受審した。これまでの実績に加えて新たな改善点も指摘された。特に、エンジニアリング・デザイン教育の具体的な取り組みの実施が指摘された。学科の学習目標やカリキュラムの修正など今後の課題として取り組むことになるため工学部 JABEE 委員会とも連携して改善することが必要になった。ここでは継続審査を受審した学科の指摘事項、それに伴って工学部の FD 委員会で対応する必要がある項目などについて述べることにする。工学部 JABEE 委員会で 2 月に実施した卒業生アンケートの結果を示してエンジニアリング・デザイン教育として取り入れる項目等について検討結果を示した。今後の予定としては、平成 23 年度における建築学科、応用化学工学科(応用化学コース)の継続審査が挙げられる。さらに、平成 21 年度からの改組により、情報工学科、生体工学科、応用化学工学科を母体として発足した情報生体システム工学科、化学生命工学科、環境化学プロセス工学科においては、それぞれ新規申請および継続申請などの準備が進行中である。

4. 1 機械工学科

機械工学科は、平成 16 年度に JABEE 認定の審査を受けている。平成 18 年度の JABEE 中間審査においては、平成 16 年度に評価 W の指摘を受けていた全ての評価項目を改善している。さらに、平成 21 年度に実施された JABEE 再審査では、評価 C を受けた項目が 10 箇所あったが、W 以下の評価を受けた項目は無く、6 年間の JABEE 認定継続が認められている。

本学科は、平成 22 年度から広範囲にわたる機械工学領域の教育研究を 3 つのコース(生産工学コース、エネルギー工学コース、機械システム工学コース)で分担実施している。各コースは、複数の研究室により構成されており、それぞれコース長をおいている。この 3 名のコース長および副専攻長から組織される「専攻教育委員会」があり、学科の教育プログラムを点検している。また、教育の現状を分析する委員会として、教務委員と FD 委員からなる「専攻教育評価委員会」がある。その他に、「JABEE 委員会」、「専攻 JABEE ワーキンググループ」があり、それぞれの目的に沿って活動している。これらの委員会やワーキンググループによって、教育方法や教育改善を継続的に検討している。

4. 2 電気電子工学科

電気電子工学科では、平成 19 年 10 月に JABEE 中間審査を受け、それまで不十分とされてきた教育改善の FD 活動に係る評価項目すべてがクリアされた結果、平成 20 年 5 月に 3 年間の継続認定を受けた。さらに、平成 22 年 11 月に JABEE 継続審査を受けた。

今年度は、専攻(学科)FD 委員会を計 2 回開催し、その他専攻会議や電子メールでの議論、シラバス点検などで学科の教育改善に取り組んできた。今年度の専攻 FD 委員会を含む学科の教育改善活動は以下の通りである。

(1) シラバス点検

専攻 FD 委員会において、全てのシラバスの記述方法や評価方法・基準が妥当であるかを点検し、不備や問題がある場合は担当教員にフィードバックすることにより、シラバスの整備を行なっている。

(2) 授業評価アンケート結果等を活用した授業改善

専攻 FD 委員会において、全ての科目の授業評価アンケート結果、合格率や各評価割合のデータ、および授業計画改善書をもとに講義の検証を行なっている。特に授業評価アンケートの項目のうち、③興味深い授業、④理解、⑩熱意、⑮満足度の4項目を重点的に検証し、著しく評点の低い科目については専攻 FD 委員長（専攻長）が担当教員と面談し、原因の分析と今後の改善策等について話し合うことにより授業改善を進めている。また、全ての科目の授業評価アンケート結果は学科内で閲覧可能とし、情報と問題点の共有を図っている。

(3) 学生履修自己評価アンケートの実施

工学部で実施されている中間授業アンケート、授業評価アンケート、授業計画改善書に加えて、平成 17 年度より学科独自の学生履修自己評価アンケートを実施し、平成 18 年度からはアンケート実施後に担当教員による「まとめ」の作成を継続的に行なっている。これらのアンケート結果や「まとめ」は学科事務室に保管し、学科内で閲覧できるようにしている。

(4) 訪問企業アンケートの実施

平成 18 年度から、就職担当教員と連携の上、企業からの来訪者に学科独自のアンケートを依頼し、その結果を専攻 FD 委員会で検討している。アンケート結果のうち、「企業が求める人物像」については学生に掲示し、フレッシュマン・セミナー等でも紹介することで、学習の動機付けを行なっている。

(5) 新入生アンケートと追跡アンケートの実施

新入生オリエンテーション特別企画の際に、新入生に対して学習姿勢、将来の進路希望、電気電子工学分野への関心・認知度、JABEE に対する認知度等を問うアンケートを実施し、「フレッシュマン・セミナー I, II」の受講等により、どれだけ改善・向上したか検証するための追跡アンケートを約 1 年後実施している。

(6) 学生定期面談の実施

各期末の指導教員による学生定期面談を義務化し、履修上の問題点の把握やその解決方法などを指導・助言する体制を整えている。

(7) 教員間連絡ネットワークの構築

平成 20 年度より専攻 FD 委員会が専門基礎科目連携、デバイスコース専門科目連携、電気エネルギー専門科目連携、通信システム専門科目連携会議を取りまとめ、教員間で講義における問題点とその改善策等を議論している。また、その結果を踏まえて、具体的なカリキュラム改変等を専攻教務委員会で検討している。

(8) 卒業生アンケートの実施

大学教育への社会からの要請を探るため、電気電子工学科の卒業生を対象にアンケートを実施した。アンケート結果は専攻 FD 委員会で整理、分析し、専攻会議で議論した。これらの結果は、学科教務委員会へフィードバックし、教育改善の一助としている。

4. 3 建築学科

建築学科は平成 23 年度に JABEE の再審査を受審する。平成 22 年度においてはその準備を行った。建築学科では全教員で構成する学科会議が原則として毎週開催されて情報の共有を行っているため、JABEE の活動は「授業改善委員会」のみでカバーしている。その中で実務的な作業は JABEE の基準 1 から基準 6 に対応する WG (Working Group) で行うこととし、教授 2 名、准教授 4 名をそれぞれの WG の主査に割り当てて、他の教員とともに作業を分担した。具体的には以下のような活動を行った。

- ① 教員の教育負担を調べて教育貢献度を評価し資料を作成した。
- ② 科目別の単位修得率を調べて問題点と改善策を検討した。
- ③ 中間授業アンケートをグループ形式で実施し、進行中の授業の改善を促した。
- ④ 学生の学習保証時間の達成度を調査して問題点を検討した。
- ⑤ 修得単位数および GPA の結果を分析して問題点と改善策を検討した。
- ⑥ カリキュラムを見直して問題点を検討し、一部を変更した。

平成 23 年度は JABEE 再審査の受審が FD 活動の中心となる。

4. 4 環境化学プロセス工学科および応用化学工学科（化学工学コース）

本学科においては、学期末および学期中間に行われる学生授業アンケートやその結果に対する授業改善計画書の作成、FD 講演会への参加などの FD 活動に取り組んでいる。さらに、本学科教職員は、原則として毎月開催される教育システム検討委員会と、前期末および後期末に開催される教員間ネットワークに参加している。教育システム検討委員会では、教育プログラムの計画、点検、改善、フィードバックを行っている。年 2 回開催の教員間ネットワークでは、開講期の直前に開催されるもので、各教員がどのような講義を行うのか教員間の相互理解を深めている。さらに、学部 2、3 年生を対象に個人の学習達成目標の到達度を再確認・自己評価させる意味でポートフォリオの作成を義務づけ、4 年生には、日々の卒業研究の従事記録表の作成を義務づけている。

また、JABEE に関しては、2009 年度に化学および化学関連分野（化学工学コース）の継続認定を受けている。

4. 5 海洋土木工学科

学科の FD 活動は JABEE プログラムの実施・点検にともなう教育改善の一環として行っている。工学部の FD 委員会で実施している授業アンケートの実施結果に関して各授業担当教員は授業計画改善書を作成して FD 委員に提出している。FD 委員はこの結果を学科の教育システム評価委員会に提出している。学科ではこれに加えて各授業科目の担当教員は、専門科目の学習目標の達成度評価を作成して学科の教育システム評価委員会に提出している。教育システム評価委員会では、学生による授業評価である授業計画改善書と、教員による評価である学習目標達成度の結果を対

比して検討することになっている。その検討結果を学科会議に報告して、提起された問題点や改善点については、担当する学科内の委員会で検討や実施方法を策定することになっている。特に JABEE に関連する事項に関しては JABEE-WG を設けている。学科の FD 活動は、PDCA サイクルとして実施している。今年度は、教員の教育貢献の評価法について見直しを行った。内容としては、教育活動に関する事項、教育改善に関する事項、学生支援に関する事項、授業評価アンケートの結果などを点数化して評価する方法である。これにより教員の教育貢献を教員自身による評価と学生による評価も含めて総合的に評価するようにした。今後、今年度から始めた点検結果が教員貢献の評価として適切なものか検討する予定である。

4. 6 情報生体システム工学科の活用状況

平成 21 年度に、情報工学科と生体工学科生体電子工学コースが統合されて情報生体システム工学科となった。このため、JABEE への取り組みは平成 21 年度より新たにスタートしており、現在、新学科の学生は 1 年生および 2 年生が在籍しており、新 2 年生までの資料の収集が終了したこととなる。情報生体システム工学科では、教育企画、FD 推進、入試、教務、評価の各委員会とその規則・申し合わせが存在している。FD 推進委員会の下には、教科グループ WG（情報基礎科目、ソフトウェア科目、工学基礎・教養科目、語学科目、実験科目）があり、新学科の教育内容について検討を行っている。例えば、工学基礎・教養科目 WG では、数学に関する授業の内容を科目間で調整しており、ソフトウェア科目 WG でも同様に、プログラミング言語に関する講義や演習の内容を検討し、科目間での調整を行っている。特に、実験科目 WG では今年度、新学科として特色ある教育を行うために、実験内容の全面的な見直しを行った。

また、情報生体システム工学科では今年度より、授業計画改善書を教員間で互いに閲覧できるよう、学科事務室に保管している。今後、各教科グループ WG で積極的に活用する予定である。

4. 7 化学生命工学科（応用化学工学科応用化学コース、生体工学科生体機能材料コース）

化学生命工学科においては、JABEE への取り組みを開始し、JABEE 準備委員会を立ち上げるなど、準備を開始している。応化工応化コースが平成 23 年度に 2 回目の受審をするのにあわせて化生工としての第 1 回目の受審を予定している。教育プログラム改善検討委員会を立ち上げて機能させるため、その原案を作成した。授業評価・改善、教員の教育評価の方法を検討して、まずは応化コースと同様な要領で開始することにした。JABEE の評価項目にある学生支援の一環として、生体機能コースの手法を取り入れ、個別面談を行うようにした。すなわち 1 年生については指導担当教員が個別に面談することで一緒に問題を把握しその解決に取り組む方法について討論する体制を整えている。

応化工応化コースは平成 18 年度に JABEE プログラムの審査を受け、その結果、2006 年度の認定プログラムとして認められた。平成 23 年度に 2 回目の受審を予定している。応化コースは 8 月を除く毎月コース会議をおこない、JABEE プログラム関連や教務関連事項を審議している。また、授業アンケート集計結果、授業計画改善書、授業参観報告書およびそれに対する回答書を各教員や科目について検討したり、FD 講演会への参加推進や結果報告を行ったりしている。平成 20 年

10月6日に中間審査を受け、2～3の指摘をうけたものの最終的にすべての改善が認められた。その詳細は「FD委員会報告書 平成20年度」に報告済みである。中間審査で受けた指摘事項のうち特に大きな課題である「共通教育との連携の強化」に対して、コース科目と同様に共通教育科目の授業参観を積極的に行い、参観報告書を提出することになっている。このためにコース会議等で参観者を決め、コースとして共通教育科目の参観すなわち共通教育との連携に努めている。他の指摘事項「デザイン能力に関する具体的な考え方の提示」に対しては、各研究グループにおいてそれを設定し、特に卒業論文において指導するよう申し合わせ、その活動の一つとして卒論の評価を行っている。本年度は更に JABEE 準備委員会や教育プログラム改善検討委員会などでデザイン能力の定義やその教育方法について検討を重ね、カリキュラム全般にわたって見直しを行い、デザイン能力を教育する科目を検討抽出してその位置づけや内容を新たにするとともに当該教育の一連の道筋を完成させた。

旧生体工学科では、教育改善（FD活動）のため以下のことを実施している。

(1) 少人数教育 各教員は1学年あたり5名程度の担当学生を指定し、学習カリキュラム全般にわたって方針から学習内容そのものについても指導・助言する体制をとっている。

(2) 予習・復習の徹底 授業評価アンケートでの対策課題である授業外学習時間を確保するため、レポートや課題演習に留まらずさまざまな形で学習する機会を与え、またそれに自発的に取り組むよう促す活動を続けている。

(3) 個別面談 1年生については指導担当教員が個別に面談することで一緒に問題を把握しその解決に取り組む方法について討論する体制を整えている。

(4) カリキュラムの柔軟な変更 学習の進捗や成績の推移、進級状況や留年・休学状況を分析してカリキュラムの変更を柔軟に施し学習環境の向上に努めている。

(5) 厳格な評価 シラバスに評価基準を明確に示すのみならず、評価の証拠主義、本人への評価方法・結果の開示、再履修者への改善点の指摘などを通して評価の透明性とルールに基づいた評価の体制を確立するよう努めている。

化生工として、旧学科・コースのFD活動やJABEEへの取り組みを教室会議等で紹介し合い、良い点を取り入れながら独自の活動様式を構築しつつある。

4. 8 工学部卒業生アンケート結果

工学部では平成16年からJABEE(日本技術者教育機構)の認定を受けた教育に取り組んでいる。これは最近の経済、社会システム、環境などの急速な変化に合わせて、大学の教育・研究の在り方も大きな変化を迫られていることに密接に関連している。

現在、工学教育ではエンジニアリング・デザイン教育の充実が求められおり、そのためには教育改善を図ることが必要だと考えられる。そこで、卒業生の意見を取り入れて、それを教育改善に活かしていきたいと考えて下記のアンケート実施した。以下は工学部JABEE委員会によって平成22年3月にまとめられた結果を示している。

4. 本学で学習した JABEE 基準に準じた教育・学習目標は、仕事の中でどのような役割を有していると思われますか。下記の項目の中から枠内に該当する番号で記入して下さい。

⑤非常に重要 ④ある程度重要 ③どちらとも言えない ②少し重要 ①重要でない

- (a) 地球視点から多面的に物事を考える能力とその素養・・・
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果，および技術者が社会に対して負っている責任に対する理解（技術者倫理）・・・
- (c) 数学，自然科学および情報技術に関する知識とそれを応用できる能力・・・
- (d) 専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力・・・
- (e) 種々の科学，技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力・・・
- (f) 日本語による論理的な記述力，口頭発表力，討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力・・・
- (g) 自主的，継続的に学習できる能力・・・
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め，まとめる能力・・・

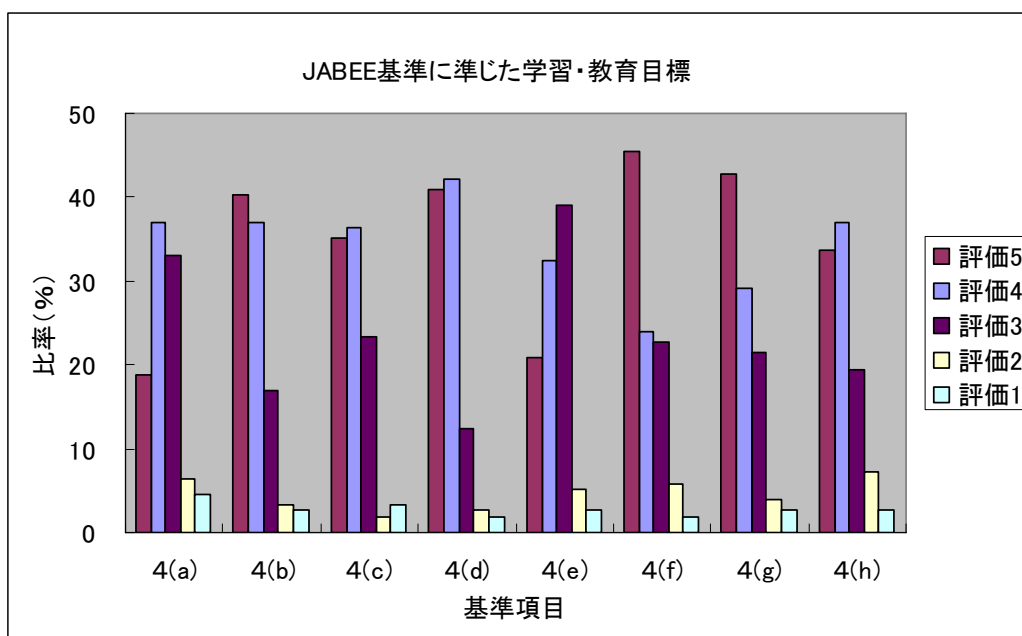


図 4. 8. 1 JABEE 基準に準じた教育・学習目標に関するアンケート結果

図 4.8.1 は JABEE 基準に準じた学習・教育目標に関する結果を示している。(a)の「地球視点から多面的に物事を考える能力とその素養」に関しては、約 20%が「非常に重要」、約 35%が「ある程度重要」と答えている。日常業務と密接に結びついている項目であり、その素養を身につけることは、工学教育の中の基本的な項目であることを示している。(b)の「技術者倫理」については、約 40%が「非常に重要」、約 35%が「ある程度重要」と回答している。技術者倫理の学習は、社会人になってからその重要性が認識される項目であることが分かる。(c)の「数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれを応用できる能力」に関しては、「非常に重要」と「ある程度重要」であるが共に約 35%であり、工学系の仕事に従事する場合の基本的な素養であることが分かる。今後の教育でもその充実を図ることが望まれる。(d)の「専門技術に関する

知識とそれらを問題解決に応用できる能力」に関しては、「非常に重要」と「ある程度重要」であるが共に約40%あり、専門分野を活かした仕事に従事する場合の主要な意見だと思われる。今後とも専門技術教育の充実を図っていくことが望まれる。(e)の「種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためのデザイン能力」に関しては、約20%が「非常に重要」、約30%が「ある程度重要」と回答しているのに対して、「どちらとも言えない」が約35%となっている。デザイン能力の育成に関する重要性に関しては、回答者の意見は分かれている。(f)の「日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力」に関しては、約45%が「非常に重要」、約20%が「ある程度重要」と回答している。この項目は、口頭発表や論理的な記述力、国際的に通用するコミュニケーションの基礎能力の育成など範囲の広い内容であるが、特に卒業生が重要と考えている項目であり、今後の教育の中でもその充実に努めることが必要である。(g)の「自主的、継続的に学習できる能力」に関しては、約40%が「非常に重要」、約30%が「ある程度重要」と回答しており、卒業後における継続的学習の重要性を実感していることが分かる。学部教育においても、継続して学習できる能力の育成に努めることが求められていると思われる。(f)の「与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力」に関しては、約30%が「非常に重要」、約35%が「ある程度重要」と回答している。学部の教育では、特に卒業論文がこの項目に相当すると思われるが、様々の条件下で課題を解決する能力の育成を図ることの重要性が推察される。

これらを総合すると、いずれの項目に関しても、「非常に重要」と「ある程度重要」を合わせた回答数が約50%以上になっている。各学科の学習・教育目標はJABEE基準に準じた学習・教育目標として設定されているが、卒業生からは概ね評価されており、工学部では教育内容の充実を継続して行なうことが要望されていると思われる。

5. 現在、工学部教育ではエンジニアリング・デザイン教育への対応が重要になってきています。本学の学部教育の改善を図るとした場合、以下のような項目についてどの様に思われますか。下記の項目の中から枠内に該当する番号で記入して下さい。

⑤非常に重要 ④ある程度重要 ③どちらとも言えない ②少し重要 ①重要でない

- (a) 幅広い専門知識を応用して問題解決を図る科目・・・
- (b) 複数の解を提示できる科目・・・
- (c) コミュニケーションならびにチームワーク力を必要とする科目・・・
- (d) 創造性を発揮できる科目・・・
- (e) コストなどの制約条件について考察を行える科目・・・
- (f) 自然や社会（公衆の健康・安全，文化，経済，環境，倫理など）について考察を行える科目・・・

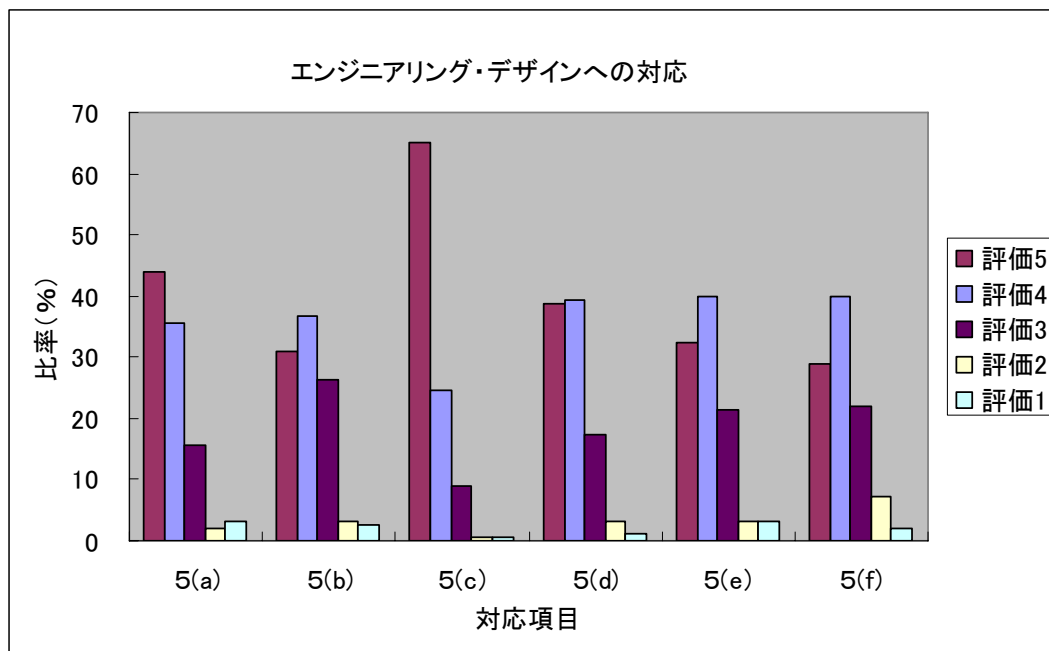


図 4. 8. 2 エンジニアリング・デザイン教育への対応に関するアンケート結果

図 4. 8. 2 はエンジニアリング・デザイン教育への対応に関する回答結果を示している。(a)の「幅広い専門知識を応用して問題解決を図る科目」については、約 50%が「非常に重要」、約 35%が「ある程度重要」と回答している。学部の教育においても複数の分野を含む幅広い知識を応用して問題の解決を試みるような科目が設けられているか検討してみる必要があると思われる。(b)の「複数の解を提示できる科目」については、約 30%が「非常に重要」、約 35%が「ある程度重要」と回答している。(a)の質問とも関連するが、エンジニアリング・デザイン教育への対応の一つとして複数の解を提示できるような内容を含む科目の設定が望まれるところである。(c)の「コミュニケーションならびにチームワーク力を必要とする科目」では、約 65%が「非常に重要」、約 25%が「ある程度重要」と回答している。仕事の内容にもよるが、分担した仕事の遂行においてコミュニケーションとチームワーク力が非常に重要な役割を果たしていることが認識されていることを示している。学部の教育においてもこれらの教育内容を反映した科目の継続的な実施が求められていると思われる。(d)の「創造性を発揮できる科目」に関しては、「非常に重要」として「ある程度重要」とであるが共に約 40%となっている。仕事の中では創造性が強く求められており、学部教育においても創造性の育成に繋がる科目の充実が求められていることが分かる。(e)の「コストなどの制約条件について考察を行える科目」については、約 30%が「非常に重要」、約 40%が「ある程度重要」と回答している。学部教育の中でもコストの制約条件を考える機会を増やすことが必要であると思われる。(f)の「自然や社会(公衆の健康・安全、文化、経済、環境、倫理など)について考察を行える科目」に関しては、約 30%が「非常に重要」、約 40%が「ある程度重要」と回答している。環境問題への対応が注目される中で、仕事を行うためには技術が自然や社会に及ぼす影響を常に考えることが求められていることが推察される。学習の中で、自然や社会について考察する機会を充実していくことが望まれる。

これらを総合すると、各学科の教育内容としてエンジニアリング・デザイン科目を導入する場

合、上記 (a) ～(e)の各項目を反映していくことが重要と思われる。特に課題に取り組む際にチームワーク力を必要とする科目の設定が望まれる。

6. 卒業論文は複数の学習目標に関連した科目になっています。本学で卒業論文に取り組んだ結果として、以下の項目に関してどの様に思われますか。下記の該当する番号から選んで下さい。

⑤非常に重要 ④ある程度重要 ③どちらとも言えない ②少し重要 ①重要でない

- (a) 技術者としての基礎的能力の向上に関して・・・
- (b) 問題解決能力の向上に関して・・・
- (c) コミュニケーション能力の向上に関して・・・
- (d) 文章作成や自分の考えをまとめる能力の向上に関して・・・
- (e) 結果を分かり易く説明する能力の向上に関して・・・

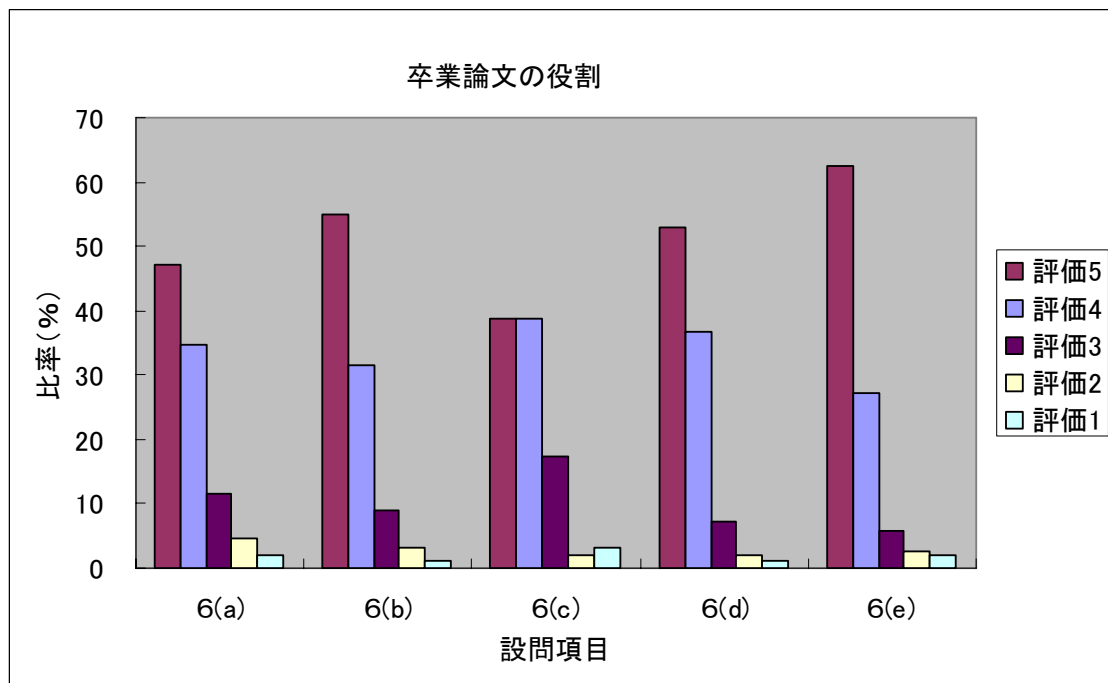


図4. 8. 3 卒業論文に取り組んだ結果に関するアンケート結果

図4.8.3は卒業論文に取り組んだ結果に関するアンケート結果を示している。(a)の「技術者としての基礎的能力の向上」に関しては、約45%が「非常に重要」、約35%が「ある程度重要」と回答している。この項目は他の質問項目とも関連しているが、技術者としての基礎能力の向上を図る教育の重要性を改めて確認することができる。(b)の「問題解決能力の向上」に関しては、約55%が「非常に重要」、約30%が「ある程度重要」と回答している。問題解決能力の向上は、JABEE 基準やエンジニアリング・デザイン教育の中でも主要な項目であり、卒業論文の中でもその重要性は変わらないと言える。(c)の「コミュニケーション能力の向上」に関しては、「非常に重要」と「ある程度重要」が共に約40%となっている。この項目も工学教育の中では重要なものであり、回答してくれた卒業生の大部分は卒業論文がそれに取り組む中でコミュ

ニケーション能力の向上に大きな役割を果たしたと評価していることが分かる。(d)の「文章作成や自分の考えをまとめる能力の向上」に関しては、約50%が「非常に重要」、約40%が「ある程度重要」と回答している。社会人になると、報告書や提案書の作成など仕事内容を整理して分かり易く説明することが求められるため、卒業論文の作成がその能力育成に大きく寄与していると評価したものと考えられる。(e)の「結果を分かり易く説明する能力の向上」に関しては、約60%が「非常に重要」、約30%が「ある程度重要」と回答している。説明能力の向上を図ることは、特に卒業論文の学習目標として、各指導教員が留意して取り組む項目であることを示している。

以上のアンケート結果からも分かるように卒業論文は、問題解決能力の向上を図るとともに自分の考えを分かり易く纏めて説明する能力の向上を図る重要な機会であるとする回答が多いことが分かる。卒業論文の指導では、項目(d),(e)に十分に留意した指導を行うことが望まれる。

第5章 GPA 制度の現状と学習成果

平成 18 年度の FD 報告書において、GP 制度の現状と問題点の整理がなされ、GPA の推移、分布、GP 制度と JABEE との関係、授業アンケート調査結果との関係について調査・検討がなされた。平成 19 年度と平成 20 年度は年間 GPA の推移、年間修得単位数の推移、入学者数に対する卒業生数の割合の推移が調査された。平成 21 年度は、平成 20 年度の調査を継続するとともに、GPA と授業評価アンケートのデータの関係が調査され、学習成果と学習の質の関連性についての分析が試みられた。本年度も、継続してこれらの調査・分析を試みた。

5. 1 年間 GPA の推移

図 5.1.1 に、2003 年～2010 年度入学生の年間 GPA の平均値を学年別に示す。在学 1 年目の年間 GPA は 2.41 から 2.53 の範囲であるのに対して、在学 2 年目のそれは 2.11 から 2.45 程度に一旦低下し、在学 3 年目に至って 2.4 前後に回復する傾向が見られた。1 年目は入学直後の学生自身の緊張感や高揚感、各種オリエンテーションやフレッシュマンセミナーの影響などに加え、受講対象の多くが共通教育科目であること等のため、年間 GPA が高くなっていると考えられる。しかし 2009 年度から 2010 年度にかけて、在学 1 年目の年間 GPA は低下を続けている。背景として、入学生の学力の低下が影響していることを否めない。一方、2 年目は大学生活に慣れる一方で関心が多様化し、緊張感と勉強意欲がやや希薄になること、専門科目の割合が高くなり講義内容が高度化すること、レポート等が課される専門の学生実験等が必須であることなどのために、低い成績で合格あるいは不合格となる学生が増加し、年間 GPA の低下を招いていると考えられていた。しかし、2 年目の年間 GPA は年々徐々に増加しており、本年度の年間 GPA は、2.45 まで改善されている。これとは対称的に、3 年目の本年度の年間 GPA は、2.15 と極端に低下している。この原因は定かでないが、現状を認識して今後の更なる調査・分析が望まれる。

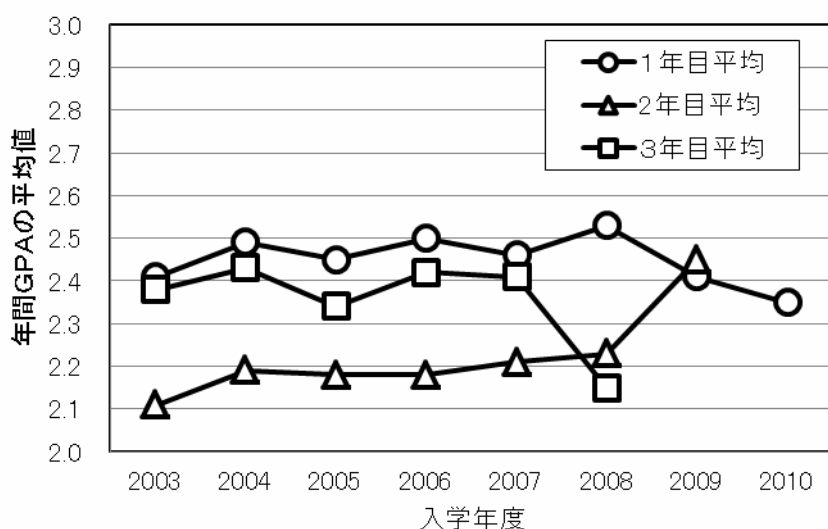


図 5. 1. 1 学年別年間 GPA の入学年度による相違

入学年度毎の比較では、全般的に 2003 年度入学生の年間 GPA が 2004 年度以降入学生のそれと比べて低い傾向がある。2003 年度は工学部で GPA が導入された年であり、この年度の入学生に対しては教員側も試行錯誤的状况にあったためと考えられる。2004 年度以降入学生に対しては、2005 年度入学生の 3 年目平均年間 GPA が他年度入学生のそれと比べて低めであることを除き、年間 GPA の推移には特に大きな変動が見られない。これは、2004 年度以降 2008 年度までの入学生に対しては、GPA 制度下における各教員の教育方法がある程度確立し、継続的な改善が実施されている結果であると考えられる。しかし、2008 年度まではやや上昇傾向にあった 1 年目の年間 GPA が、2009 年度に 2003 年度並に低下し、2010 年度はさらに低下する状況にある。これは、入学生の学力の低下が影響していることを否めない。また、2 年目の年間 GPA は徐々に増加している一方で、3 年目の年間 GPA は極端に低下している。3 年次の講義内容は、2 年次までに学習した内容が基礎になっているので、2 年目の年間 GPA が向上している中で、教育の質が低下していないことに注意する必要がある。

5. 2 年間修得単位数の推移

図 5.2.1 に 1 年から 3 年までの各学年における年間修得単位数の入学年度による相違を示す。現状で定量的な評価が下せるだけの情報にはなっていないが、次の特徴がある。

いずれの入学年度においても 1 年目の修得単位数が最も多い。これは、1 年目はまだ専門教育が本格的に始まっておらず、比較的単位修得が容易であるためと推測される。2 年目で専門教育が本格的に始まると、3 2 ～ 3 4 単位程度まで低下している。2005 年度入学は、2 年目と 3 年目が他の入学年度に較べて年間修得単位数が最も少なくなっているが、2006 年度以降は回復して 2008 年度はこれまでの中でも最も多くなっている。

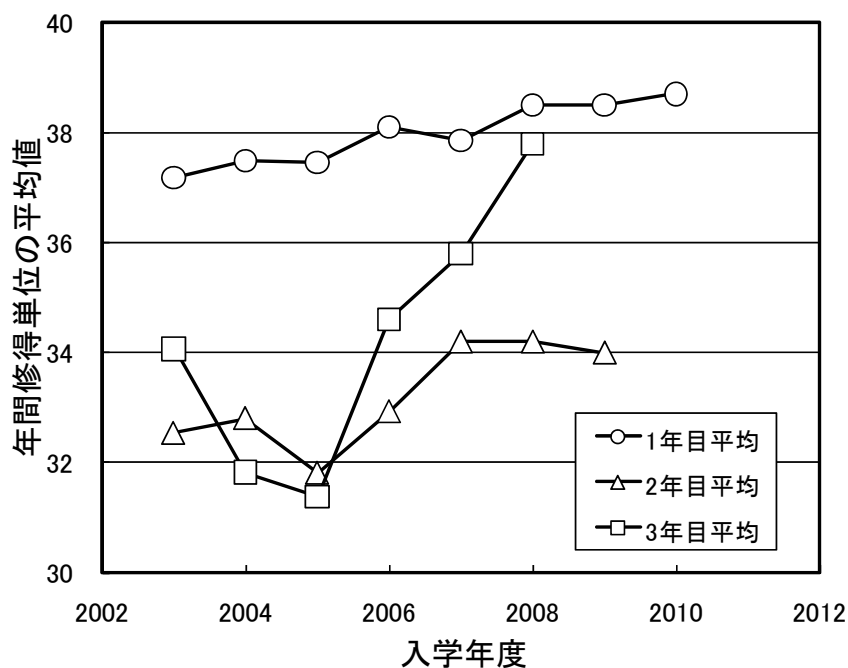


図 5.2.1 学年別年間修得平均単位数の相違

5.3 卒業生数と卒業延期者数の割合の推移

卒業生数と卒業延期者数の合計に対する卒業生数が占める割合（以下、卒業生数が占める割合という）を、2002年度から2010年度まで年度ごとに求めて図5.3.1に示す。今回解析した年度は、GP制度が導入された2003年度以降である。卒業生数が占める割合は、入学年度による整理がなされていないために、留年回数による補正が行われていない。したがって、今回解析した卒業生数が占める割合からGP制度の効果を検討することは不可能である。

そこで、本来の目的にしたがい、卒業生数が占める割合の経年変化に特筆すべき変化が見受けられるか否かを検討した。図5.3.1より、2003年度で卒業生数が占める割合が低くなるが、2004年度から改善され、2008年度は97.5%となり、ほぼ満足する値に近づいてきた。しかし、2009年度は、2003年度を下回り93.2%まで低下している。その後、2010年度では94.2%まで回復した。2009年度の卒業生の多くは2006年度入学者であるが、同入学年度学生の年間修得平均単位数（図5.2.1の）には特に問題は見られない。景気低迷により就職先を決められなかった学生が、就職留年した可能性がある。

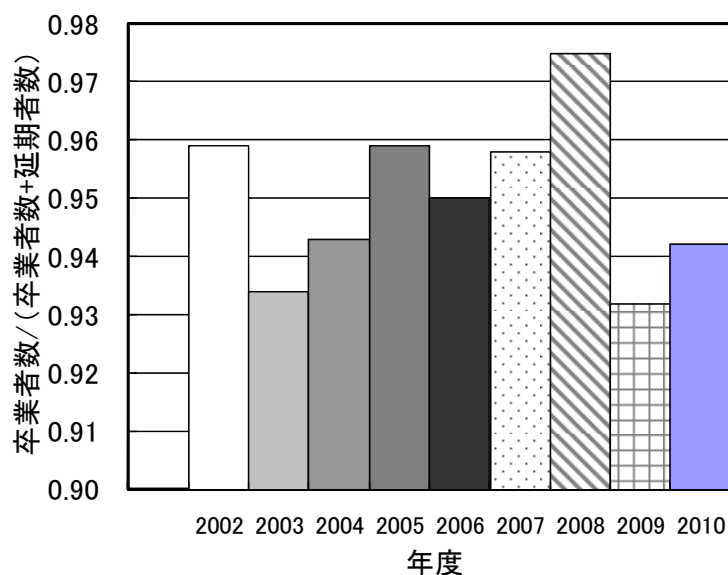


図5.3.1 学年別年間修得平均単位数の相違

5. 4 学習成果と質の向上

近年、学士力の確保、教育の質の向上と保証を推進することが重要な課題となっている。工学部 FD 委員会では、平成 18 年度の FD 報告書以降、継続的に年間 GPA を用いて学習成果の推移を分析してきたが、平成 20 年度まで学習成果の推移と学生の学習の質との関連性は検討していなかった。GPA に対して、学習の質を定量的に判断する指標を見出すことは容易ではないが、平成 21 年度は、それまでに蓄積されてきた講義・演習科目の授業評価アンケート項目の中から、学生の学習の質と関連があると考えられる「学習目標の達成⑦」、「予習・復習の時間⑭」、「理解④」、「満足度⑮」の評点を取り上げて、これらと GPA の関係を調べることで、学習成果と質の向上について検討を試みている。そこで本年度は、平成 21 年度に引き続き同じ内容で、学習成果と質の向上について検討することにした。

5. 4. 1 学習成果と質の向上の経年変化

工学部の全体的な傾向を把握するために、授業評価アンケートの評点と年間 GPA の工学部平均値を用いて、これらの経年変化の関係を調べた。図 5.4.1 に 2004 年度から 2010 年度までの前後期の全講義・演習科目の「学習目標の達成⑦」、「予習・復習の時間⑭」、「理解④」、「満足度⑮」の工学部平均値を示す。同図から、2004 年度から 2009 年度までは、これらの評点は向上してきていることから、学習の質が徐々に改善されてきているものと推察される。しかし、2010 年度に至って、「学習目標の達成⑦」、「理解④」、「満足度⑮」は高い評点を維持してはいるが、前年度に比べて下降している。その一方で、「予習・復習の時間⑭」の評点が向上していることから、学習の質の改善努力は継続されていることが分かる。改善が容易な問題点について、ほとんど対策が施されたために、評点の向上が停滞した可能性がある。今後は高い評点を維持しつつ、さらに改善を要する問題点を洗い出すことが重要になる。

学習の質の向上と学習成果である GPA との関係を調べるために、2004 年度から 2010 年度までを対象に、年度別に工学部全体の年間 GPA の平均値を求めた。図 5.4.2 に年度別の年間 GPA の工学部平均値と「学習目標の達成⑦」、「予習・復習の時間⑭」、「理解④」、「満足度⑮」の工学部平均値の相関図を示す。年間 GPA の工学部平均値と「学習目標の達成⑦」の相関係数の値は 0.39、「予習・復習の時間⑭」との相関係数の値は 0.43、「理解④」との相関係数の値は 0.39、「満足度⑮」との相関係数の値は 0.36 となり、年間 GPA の工学部平均値と最も相関が高いのは「予習・復習の時間⑭」であった。図 5.4.2 のように工学部全体を平均すると、予習・復習時間の改善傾向は学習成果の向上にある程度寄与する傾向を持つものと推測されるが、このような傾向の一般性については、学科別および学期別の詳しい分析に基づいて、総合的に判断する必要があると考えられる。

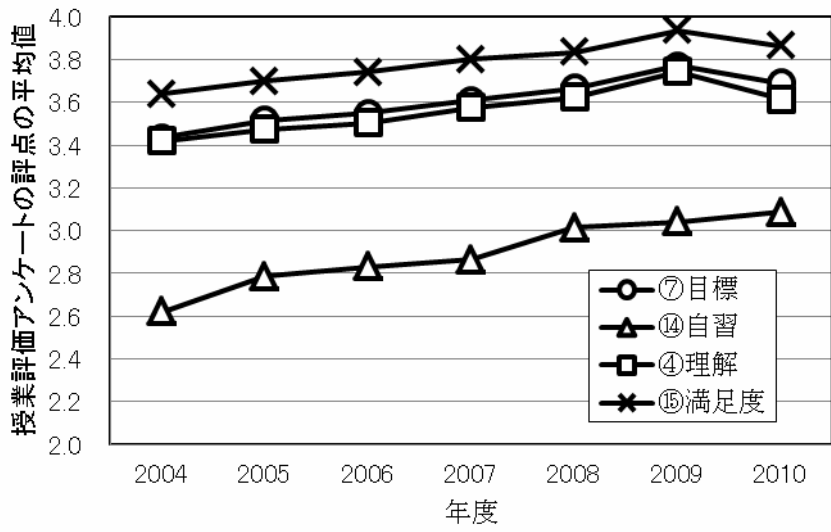


図 5. 4. 1 年度別の授業評価アンケートの学部平均値

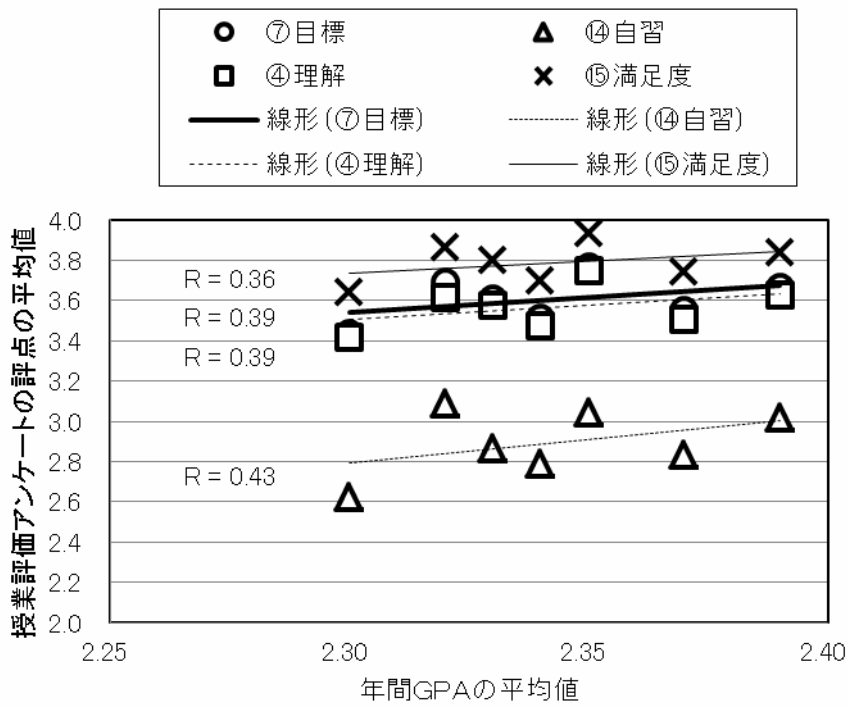


図 5. 4. 2 年間 GPA と授業評価アンケートの学部平均値の関係

5. 4. 2 平成22年度の学習成果と質の向上

本年度における学習成果と質の関係について、その傾向を分析する。まず、GPA の分布状況を把握するために、図 5. 4. 3 および図 5. 4. 4 に比較のために平成 21 年度と平成 22 年度の科目平均 GPA の頻度分布を示した。全体的に科目平均 GPA の分布はバラツキが大きいことが確認できる。本年度前期の科目平均 GPA の工学部平均は、2. 42 で平成 21 年度と比べて変化はなかった。後期の科目平均 GPA についても、前年度と同様に 2. 42 であった。また、科目平均 GPA の標準偏差は 0. 71～0. 75 であった。GPA の頻度分布を比較すると、各年度ともにバラツキがあることが分かる。いずれの年度も科目平均 GPA が 1. 6 未満の科目が 30 科目ほど見られ、前年度から本年度にかけて改善は見られない。担当科目以外の GPA に関する統計資料は、昨年度からようやく教員側にフィードバックされるようになったばかりであるため、成績に関する担当科目の工学部全体における位置づけは、授業担当者によって未だ十分認識されていないと思われる。ここに示した図 5. 4. 3 あるいは図 5. 4. 4 の頻度分布と担当科目の平均 GPA を比較すれば、担当科目の成績の位置づけを概ね把握することが可能と考えられるので、引き続き推移を観察していきたい。

本年度の授業評価アンケートの評点の分布状況を把握するために、図 5. 4. 5 および図 5. 4. 6 に平成 22 年度前期・後期の授業評価アンケート科目平均の頻度分布を示した。「学習目標の達成⑦」、「満足度⑮」の科目平均は、4. 0 前後をピークとした高得点側に分布がまとまっているのに対して、「予習・復習の時間⑭」の科目平均は 3. 2 前後にピークが見られ、科目によるバラツキが大きいことが確認できる。「予習・復習の時間⑭」については、図 5. 4. 1 において改善傾向が確認されたが、図 5. 4. 5 および図 5. 4. 6 においては、低めの評点に分布が広がっている様子が見られることから、学習の質の向上を図るには、今後も継続的に改善する余地が残されている項目と言える。

平成 22 年度の科目平均 GPA と授業評価アンケートの科目平均の関係を調べるために、改組による影響が少ない機械工学科、電気電子工学科、建築学科、環境化学プロセス工学科、海洋土木工学科の計 5 学科を対象として、前期の 117 科目、後期の 110 科目の科目平均 GPA とそれに対応した授業アンケート評点の科目平均を調べた。図 5. 4. 7 に前期の 117 科目、図 5. 4. 8 に後期の 110 科目の科目平均 GPA とアンケート評点の科目平均値の相関図を示す。相関係数の値が 0. 30～0. 42 と低く明確ではないが、「学習目標の達成⑦」、「理解④」、「満足度⑮」に関しては、アンケート評点の科目平均が高くなるにつれて、わずかに科目平均 GPA も高まる傾向が見られた。一方、「予習・復習の時間⑭」については、バラツキが大きく科目平均 GPA との相関はほとんど認められなかった。

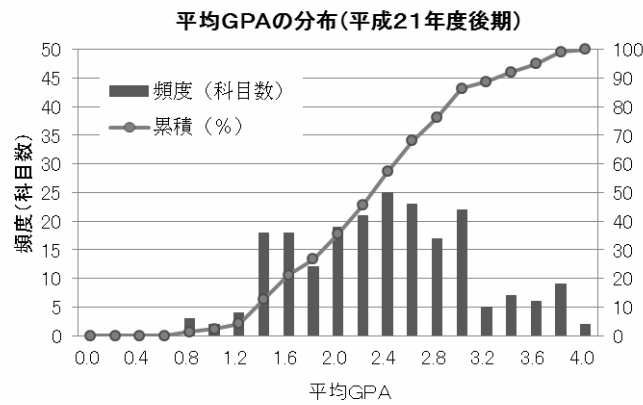
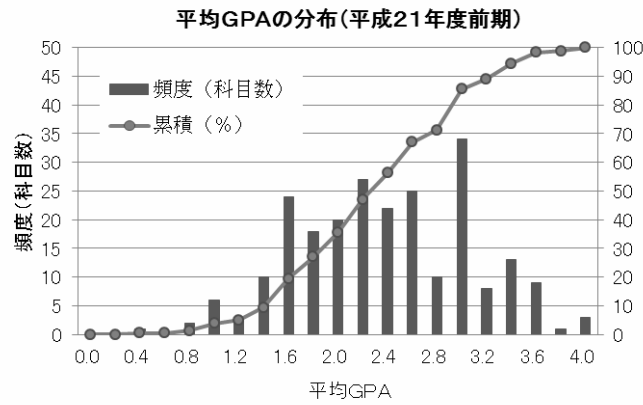


図 5. 4. 3 平成 21 年度の科目平均 GPA の分布

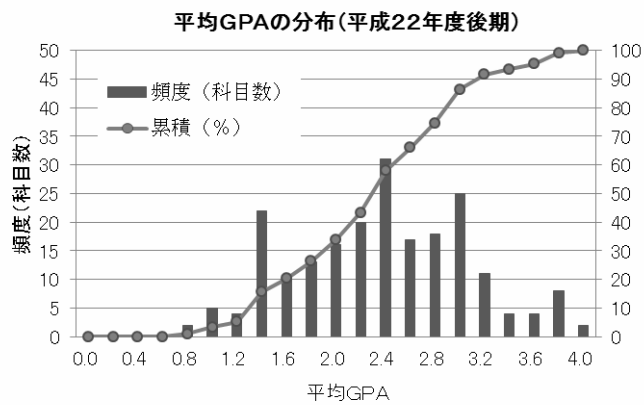
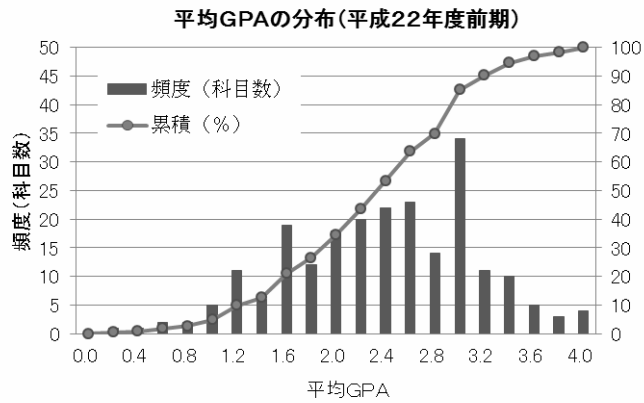


図 5. 4. 4 平成 22 年度の科目平均 GPA の分布

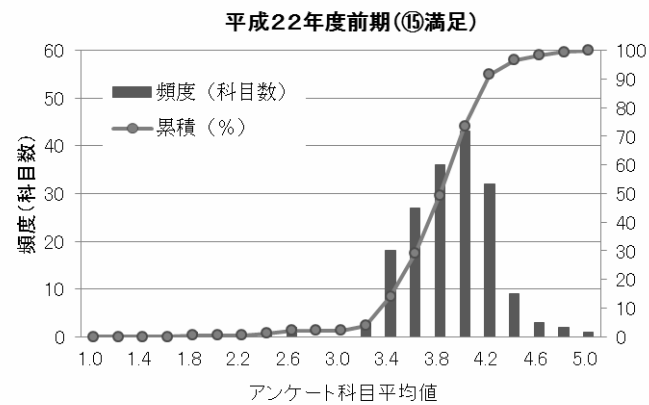
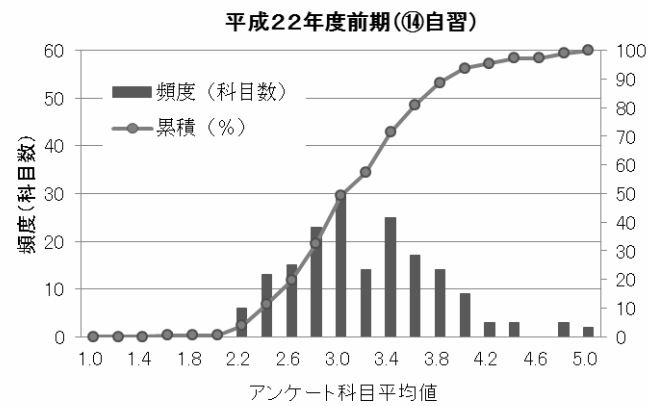
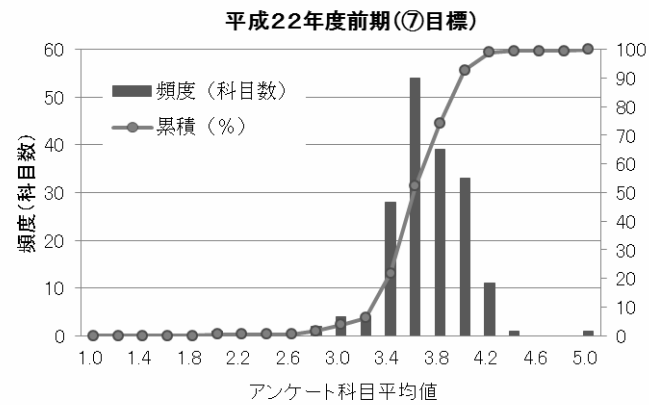
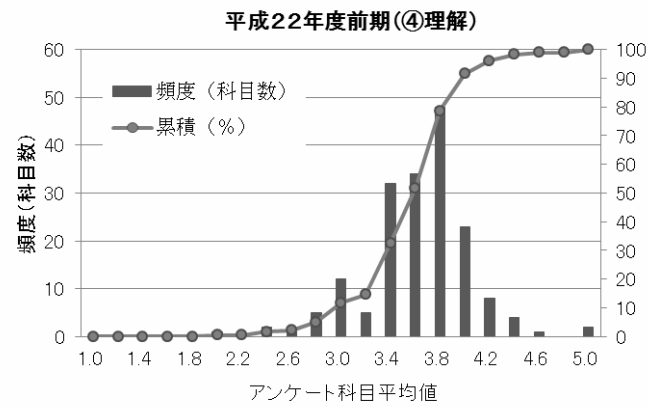


図 5. 4. 5 平成 22 年度前期の授業評価アンケート評点の分布

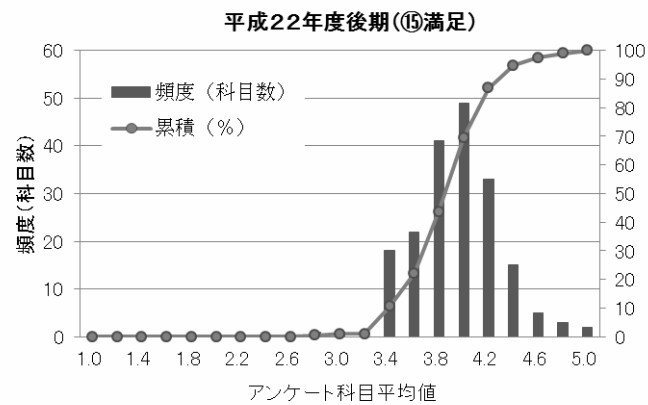
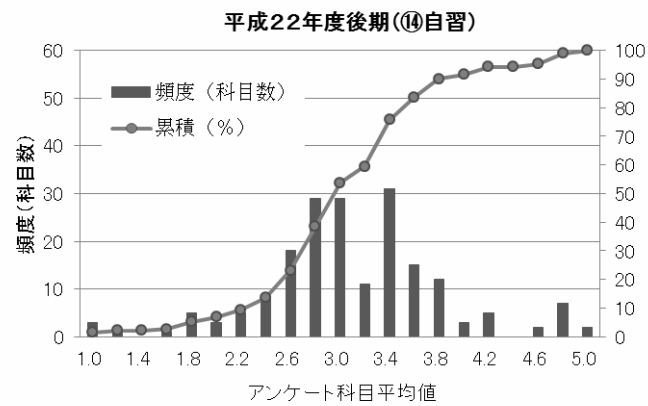
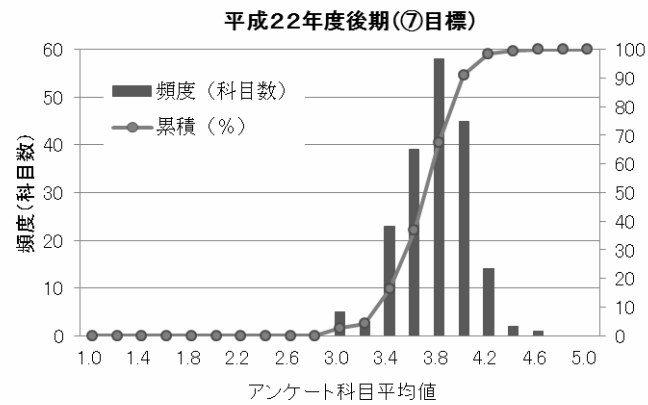
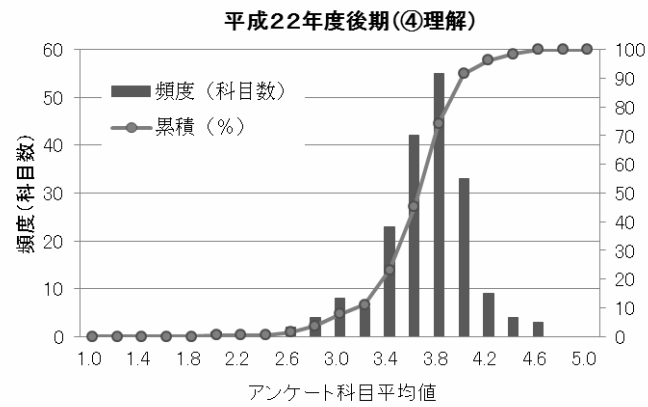


図5.4.6 平成22年度後期の授業評価アンケートの科目平均の分布

つぎに学科別にデータを分類し、アンケート評点および GPA の学科平均値を算出して、これらの相関を図 5.4.9 と図 5.4.10 に示した。平成 22 年度は、アンケートの学科平均値および学科平均 GPA が 5 つの学科で接近した値となっている。このことから、各学科の改善努力の結果が横並びに揃ってきている様子がうかがえる。そのために、図 5.4.9 および図 5.4.10 とともに相関は低い結果となっている。そのなか、平成 22 年度前期の「満足度⑮」は相関係数の値が 0.77 と比較的高く、アンケート評点の学科平均が高くなるにつれて、わずかに学科平均 GPA も高まる傾向が見られた。しかし、図 5.4.10 の平成 22 年度後期における「予習・復習の時間⑭」については、「予習・復習の時間⑭」の評点が低い学科、すなわち自習時間が短い学科ほど学科平均 GPA が高くなる傾向が見られた。このような傾向は、授業科目の内容の難易度や授業の達成目標等が学科によって異なることに左右されるので、このデータのみから一概に問題があるとは言えないが、自習をあまりしなくても簡単に良い成績が取れる状況や、自習をかなりしてもなかなか良い成績が取れない状況は健全ではないので、今後、各学科で状況を確認する必要があると思われる。

最後に、授業評価アンケートと GPA の関連性を分析する際には、当然ながら授業評価アンケートの信頼性が問題となる。このような分析を継続する場合は、授業評価アンケートの信頼性を向上させる方策についても検討が必要である。また、GPA に関しては、各教員の授業科目の成績が工学部あるいは学科の科目の中において、どのような位置づけにあるのか把握することは、授業改善を図る上でも参考になると考えられる。授業評価アンケート評点の学部あるいは学科における位置づけだけではなく、担当科目の学部あるいは学科における GPA の位置づけが把握できる情報を継続して授業担当教員にフィードバックして、認識を深めてもらうことが重要である。

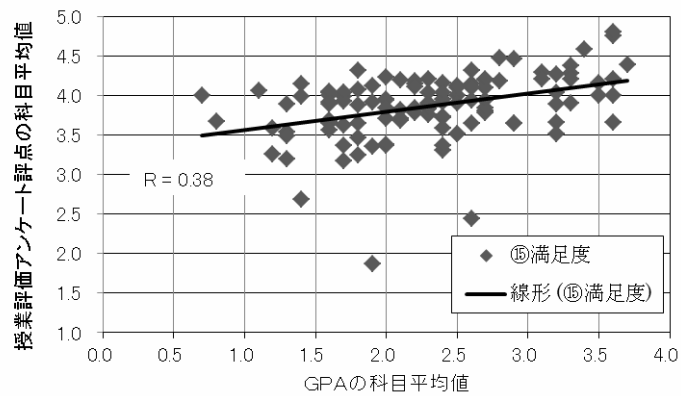
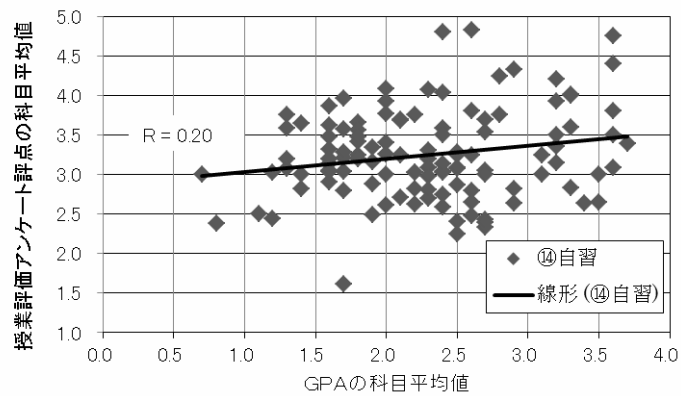
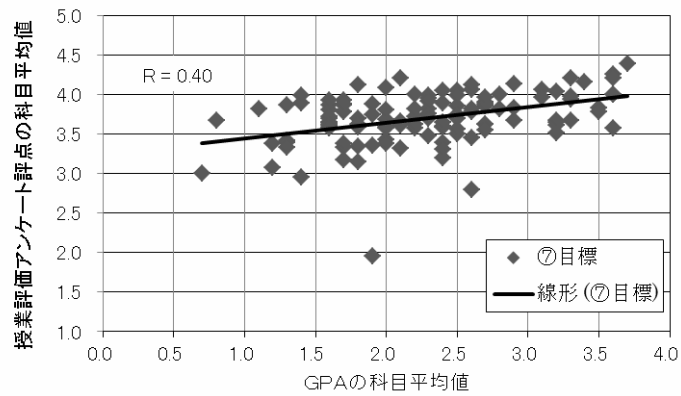
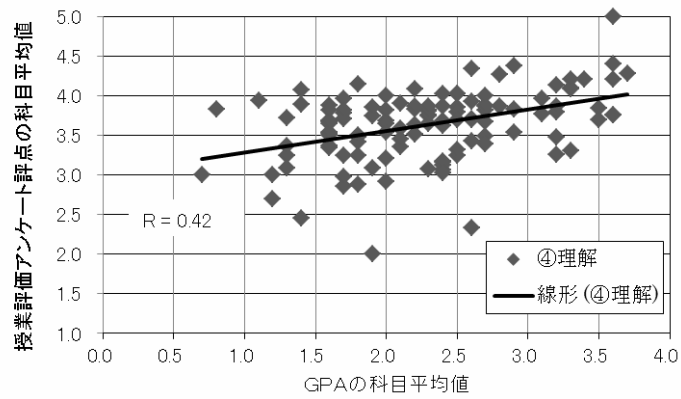


図5.4.7 平成22年度前期の科目平均GPAと授業評価アンケートの科目平均の相関

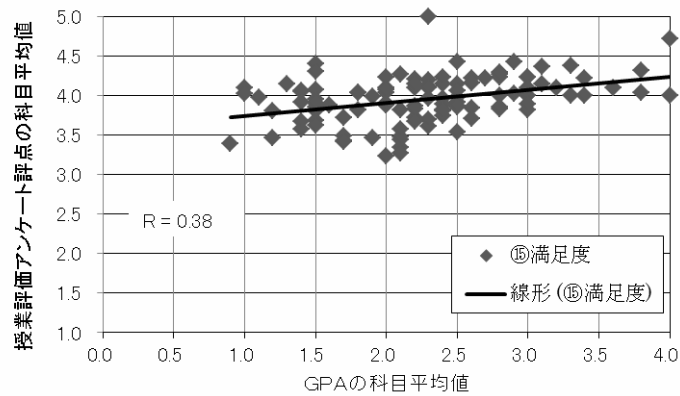
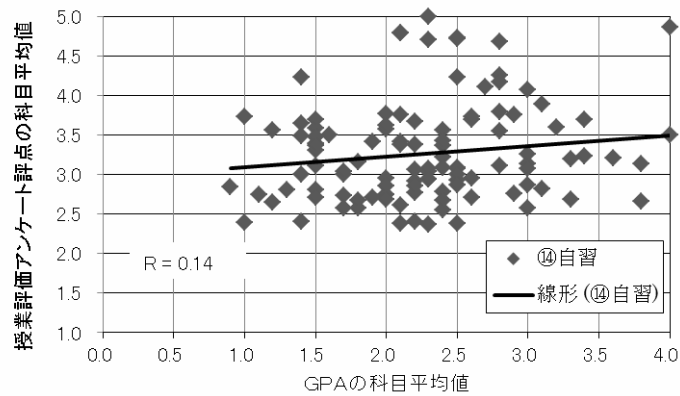
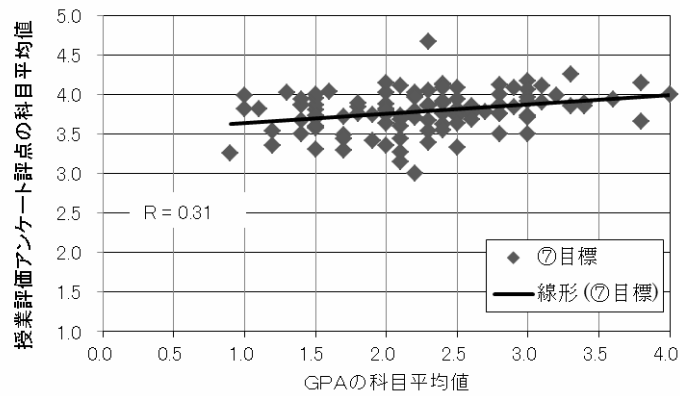
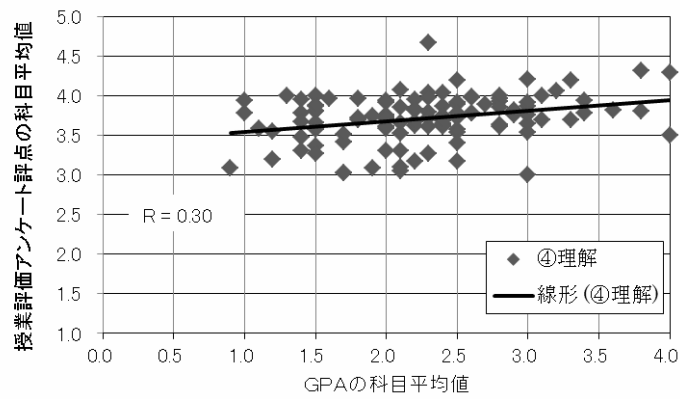


図 5. 4. 8 平成 22 年度後期の科目平均 GPA と授業評価アンケートの科目平均の相関

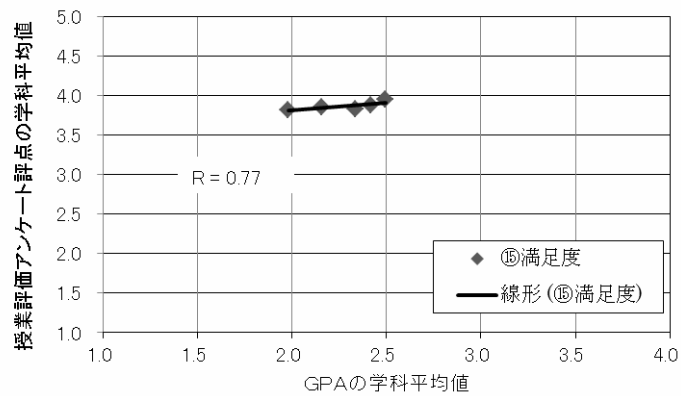
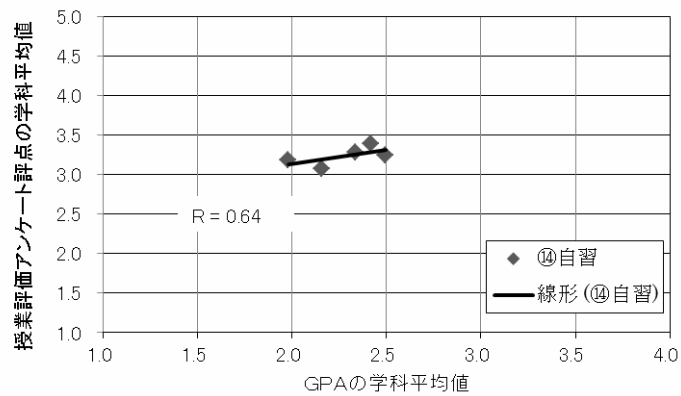
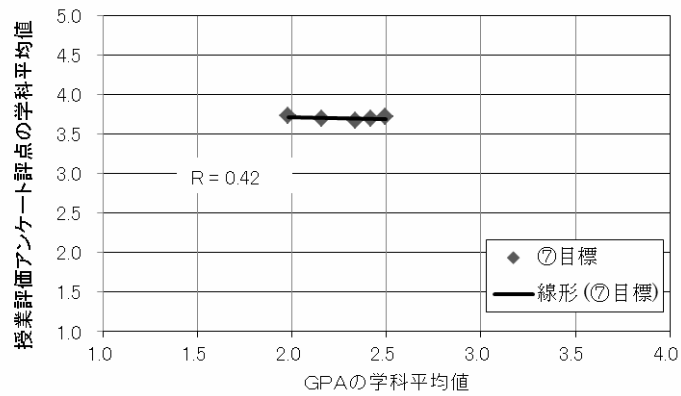
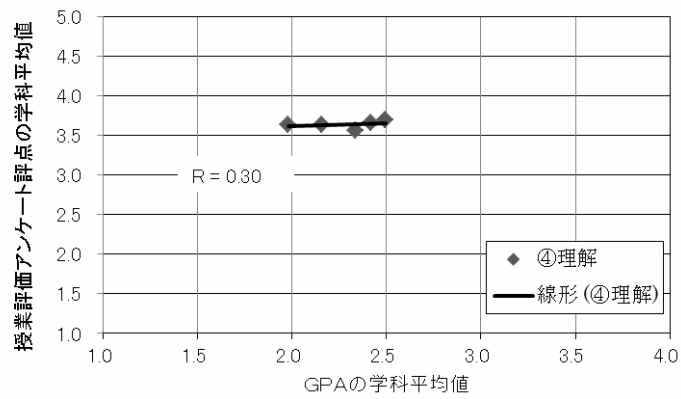


図 5. 4. 9 平成 22 度前期の学科平均 GPA と授業評価アンケートの学科平均の相関

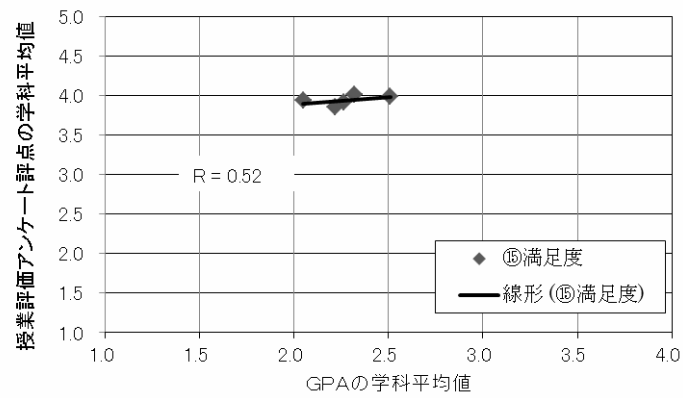
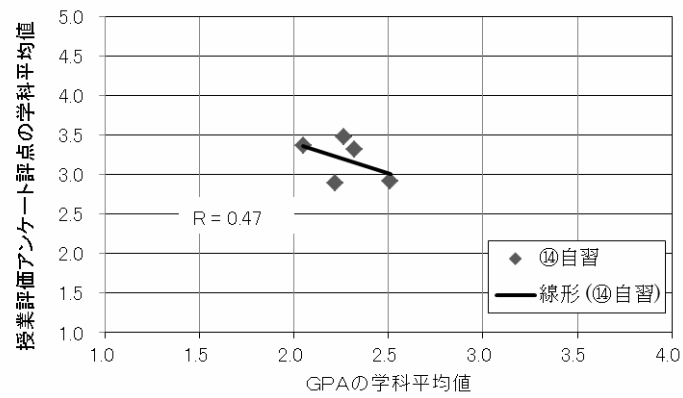
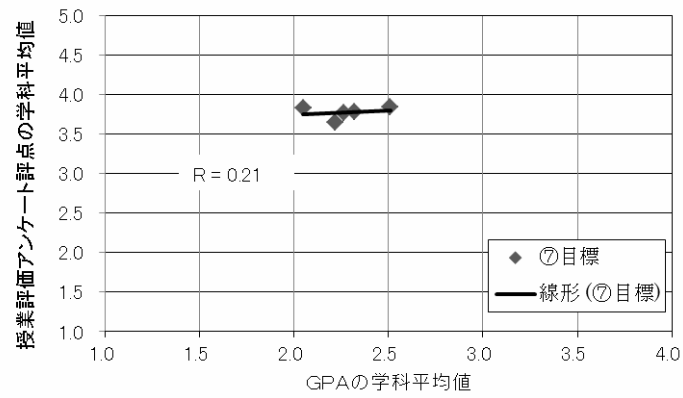
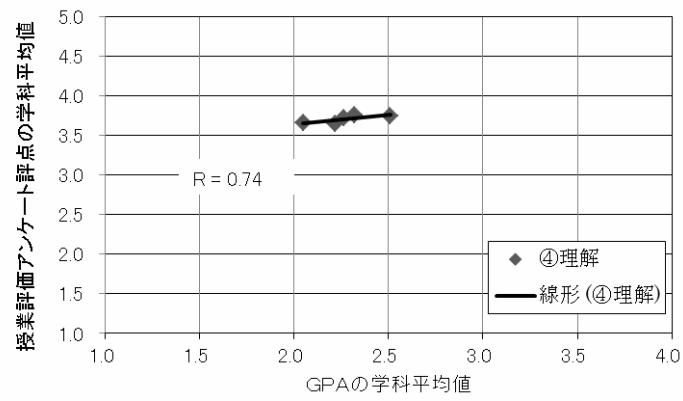


図5.4.10 平成22年度後期の学科平均GPAと授業評価アンケートの学科平均の相関

第6章 平成22年度の工学部FD活動の総括と今後のFD活動

6.1 平成22年度の工学部FD活動の総括

工学部の平成22年度のFD委員会の活動は、前年度に実施した活動項目について検討した後、今年度も工学部の教育理念・教育目標に基づき教育の内容及び方法の改善を図るための活動を継続することにした。工学部ではJABEEプログラムに準拠した教育が実施されており、教育改善については継続的な活動が行われているので、今年度の活動項目は昨年準じたものとなる。平成22年度に実施した主な活動として、次の項目がある。

- (1) 授業アンケートの実施と授業計画改善書の作成
- (2) 授業公開と授業参観の実施
- (3) FD講演会の実施
- (4) 学習成果と質の向上の検討

これらの項目についての活動について述べることにする。

6.1.1 授業アンケートの実施による授業改善

工学部の学生による授業評価アンケートは、前期は7月に後期は1月にそれぞれ実施した。授業評価アンケートは参考資料-4に示すように講義・演習科目及び実験科目とも15項目の質問についてアンケート調査を実施している。授業評価の傾向を見るため質問項目については、平成16年度から軽微な修正に留めてアンケートを実施しており、各質問とも5段階の評価点で行っている。授業評価アンケートの実施は、毎回多くの時間を要するものであるが継続することで、学部としての授業改善の試みに関する状況の把握ができるように思われる。各学科の授業評価アンケートの結果の分析については、第3章に示しているので、ここでは全体の傾向について述べることにする。

各質問項目について、評価値は僅かながら増加する傾向を示している。対象とする学生は毎年変わるため授業改善の評価については、年度ごとの変動はあるものの授業評価アンケートの継続した実施により授業改善の姿勢が現れていることが分かる。シラバスの充実とそのホームページによる公開により授業が役立つと考えて受講することで理解も向上するものと思われる。授業の出席では高い評価を示しており、殆どの学生が授業には出席していることが分かる。授業では声の大きさや熱意などは、高い評価になっており学生は教員の姿勢を評価していることが分かる。自学自習の能力の育成については、これまで重要な項目として指摘されていることであるが、充分とは言えないまでもこの3年間の間に徐々に増加していることを示している。各科目の掲げる学習目標の達成度については、学生の評価点は昨年度と変化は見られないが、受講した後の全体としての満足度については、僅かながら向上を示していることが分かる。図6.1.1は平成22年度の前期の授業アンケートの中で「理解」に関する評価値の頻度分布と累積分布を示している。横軸はアンケートの評価値であり、左側の縦軸は科目の頻度数、右の縦軸は累積分布を示している。評価値が3.7から3.9が最も高い頻度を示しており、比較的高い評価を示している。評価値が4以上の「理解」の割合は、約20%であり、更に向上を図ることが望まれる。

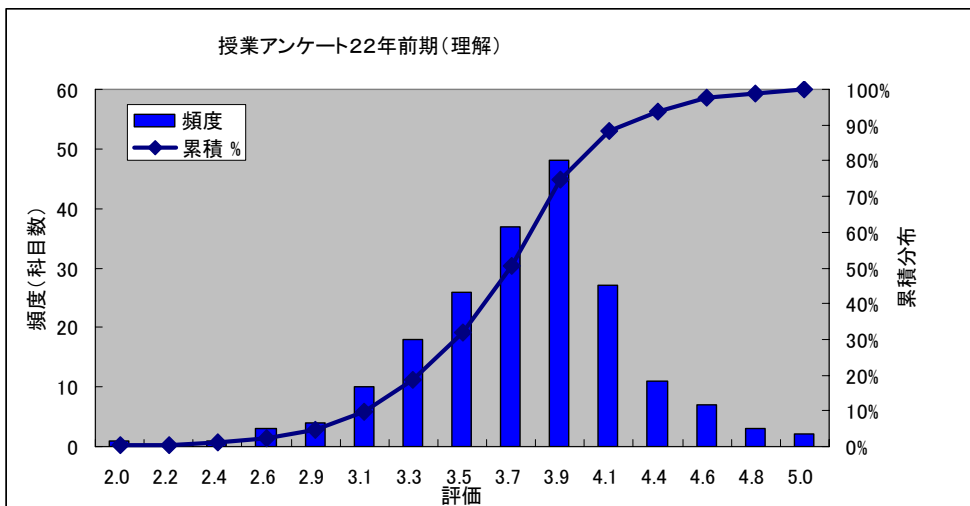


図6. 1. 1 授業アンケートの評価値の分布 (理解)

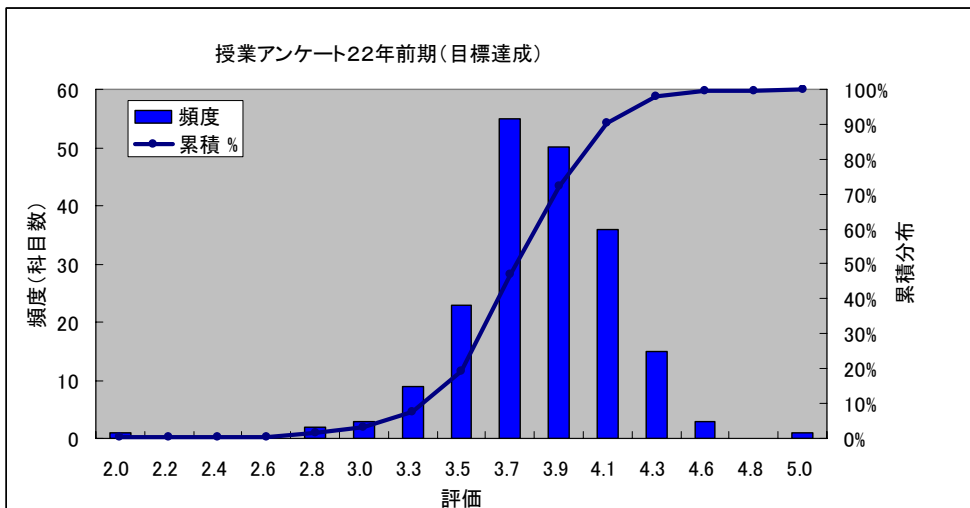


図6. 1. 2 授業アンケートの評価値の分布 (目標達成)

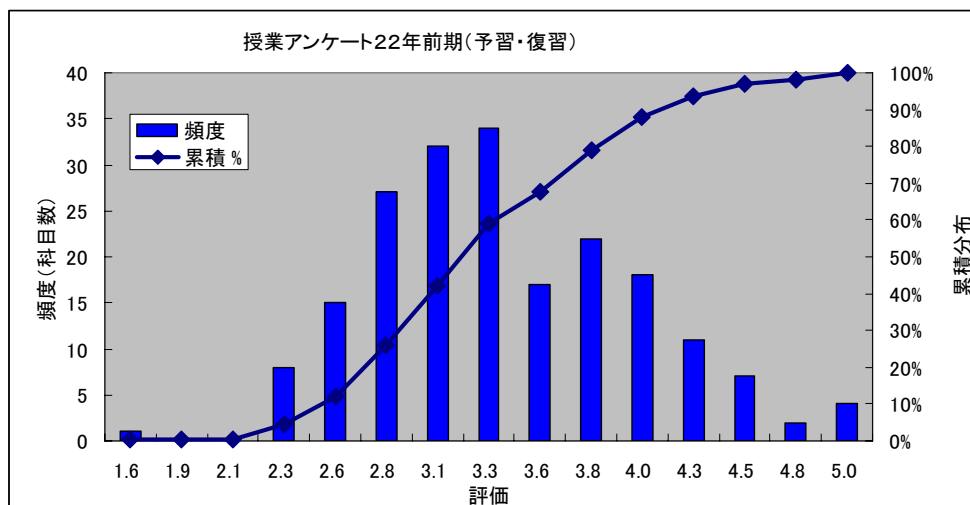


図6. 1. 3 授業アンケートの評価値の分布 (予習・復習)

図 6.1.2 は平成 22 年度の前期の授業アンケートの中で「目標達成」に関する評価値の頻度分布と累積分布を示している。「理解」と同様に評価値が 3.7 から 3.9 が最も高い頻度を示しているが、「目標達成」の評価は「理解」と比べて少し低い分布になっている。特に高い「目標達成」に相当する評価 4 以上の割合は約 10%であり、今後も「目標達成」の評価の向上を継続して図ることが望まれる。

また、図 6.1.3 は平成 22 年度の前期の授業アンケートの中で「予習・復習」に関する評価値の頻度分布と累積分布を示している。「予習・復習」に関しては、毎年低い評価になっており、学生による自学・学習を進める試みがなされてきた。今年度の「予習・復習」に関しても、評価値は 2.8 から 3.3 が最も高い頻度を示しており、十分な予習・復習の時間は確保されていない。「理解」や「目標達成」とは、異なった分布を示しており、評価値が 4 を超える割合は約 10%である。これは「目標達成」や「理解」とも一致するものであり、「予習・復習」に十分な時間をかけるようになれば、「目標達成」や「理解」も高い評価になることが分かる。このため「予習・復習」の評価を取り入れた講義の改善を図ることが、必要になるものと思われる。

表 6.1.1 授業公開科目数と授業参観者数

学科	公開授業科目数			参観報告者数(出席者数)		
	H20年度	H21年度	H22年度	H20年度	H21年度	H22年度
機械工学科	17	13	12	3(3)		
電気電子工学科	17	17	11	5(5)	4	2(2)
建築学科	15	11	12			2(2)
応用化学工学科	16			4(6)		
海洋土木工学科	12	8	8	1(1)		
情報工学科	14					
生体工学科	11			2(2)		
環境化学プロセス工学		8	9			3(3)
情報生体システム工学		15	16			
化学生命工学		11	12		11(11)	18(8)
合計	102	83	80	17	15(11)	25(15)

() : 授業参観報告書数

6. 1. 2 授業公開と授業参観の実施

工学部では平成 18 年度から授業公開・授業参観を実施している。授業担当教員は前期（6 月）及び後期（12 月）に開講されている全授業科目の中から少なくとも 1 科目以上を公開することにしており、平成 18 年 1 月の鹿児島大学研究教育評議会で「鹿児島大学の全ての教員が授業公開・授業参観に取り組むことを原則的な義務とする」との決定がなされことを反映したものである。授業公開に関しては、次のようなことを目標にしている。

- (1) 授業公開月間を設けて全教員による授業公開と授業参観を実施し、改善点について提言する。

(2) 全教員による授業公開と授業公開を推進し、教員相互による授業改善の体制を充実する。平成 22 年度も昨年度と同様に授業公開・授業参観を実施するため公開授業の予定表リストを作成し全学 FD 委員会に報告するとともに、工学部ホームページ等に公表した。公開授業の詳細リストを参考資料-3 に示した。授業参観した教員には、授業参観報告書を提出してもらい授業担当者の授業改善の参考にしてもらっている。提出された授業参観報告書の例を参考資料-7 に示している。現在、工学では現在 6 つの JABEE 教育プログラムによる教育が行われており、継続して教育改善に取り組んでいる。この中で授業公開も授業改善を図る方法の一つとなっている。表 6.1.1 に示すように授業参観が必ずしも活発に行われているとは言えない。専門基礎科目の担当者については、応用科目との関連において授業改善の参考になる場合もあると考えられ、科目間のネットワークの中での教員相互の理解による教育改善の体制を充実させるためにも、授業参観が増えることを期待したい。

6. 1. 3 FD講演会の実施

FD 講演会は、他大学や研究機関などの優れた FD 活動の例を参考にして、工学部教員の授業改善の向上をはかるため毎年実施している。今年度は 4 月の委員会で担当者を決め実施計画を検討してきた。今年度は学生への支援、特に心のケアを必要とするようなケースが増加していることもあり、教員がどの様に指導し対処していけば良いのかについて講演していただける方に講師をお願いした。講師は、本学保健管理センター 伊地知 信二先生に依頼して 11 月 25 日に講演を実施した。FD 講演会の参加者数は約 60 名であった。講演は、「学生のつまづき支援：発達の偏りの見つけ方」という演題で講演が行われた。毎年のものであるが、FD 講演会の出席者が多いとは言えないが、参加者には熱心に講演を聴いていただいた。講演では、「支援が必要な学生に気がつくことが重要であり、支援が必要な学生を見つけることができ、抱えている問題とその理由がわかれば対策を考えることができる。教員と保健管理センターの職員とで情報を共有し、対策を考案することが重要」との指摘があった。

FD 講演会の参加も FD 活動の一つであるが、FD 活動が大学院まで適用されてことをも FD 活動の継続性が必要であると思われる。FD 講演会の詳細については、第 2 章に示している。

6. 1. 4 質の向上と学習成果

現在の大学教育に問われている重要な項目として「質の保証」と「学士力」がある。工学部で取り組んでいる JABEE 教育プログラムの認定は卒業生の「質の保証」を前提にしている。質の保証の実現は学士力に深く関連していると思われる。JABEE 教育プログラムの卒業生は、社会に向かって公表した教育・学習目標を達成できた能力を有するものであることを教育組織が保証することを前提としている。教育・学習目標の達成基準の設定は、各教育機関に任されており、教育機関では、その基準の継続的な見直しが求められる。従って、JABEE 教育プログラムの認定を受けていれば、質の保証は証明されていると言えるが、質の保証が社会の要求するものになっているのか常に点検することが必要になる。

FD 委員会では、工学部で実施している授業評価アンケートの結果と成績評価である GPA の結果を用いて、学習成果と質の保証の関係について検討を加えることにした。第 5 章では昨年度に引

き続き今年度の学習成果と質の保証について検討した結果を示している。工学部の全体的な傾向を把握するために、授業評価アンケートの評点と年間 GPA の工学部平均値を用いて、これらの経年変化の関係を調べた。

平成 22 年度の前期の GPA の頻度分布と累積分布をみると、GPA は約 2.4 から 3.1 に高い頻度を示しているが、分布の幅が広い評価を示している。GPA が 3.2 以上は約 10% であり、この分布は授業アンケートの結果である「目標達成」や「理解」の分布と対応している。つまり、GPA が高い学生は授業アンケートでも「目標達成」や「理解」に高い評価をしていることが推察される。

同様に、平成 22 年度の後期の授業に関して行われた GPA の頻度分布と累積分布をみると、GPA が約 2.1 から 3.0 で頻度の高い分布を示している。GPA が約 3.2 以上の割合が約 10% あり、これは授業アンケートの「目標達成」や「理解」の評価では約 4.1 以上に相当する。このため「目標達成」や「理解」の評価を高めることが、成績の向上に繋がると思われる。

現状では、担当している科目以外の GPA に関する統計資料は教員側にフィードバックされていないため、成績に関する担当科目の学科や工学部における位置付けは、授業担当者によって十分認識されていないと思われる。学科あるいは学部の頻度分布や平均 GPA と担当科目の結果を比較すれば、担当科目の成績の位置づけを概ね把握することができると考えられる。今後は、授業アンケートデータに加えて担当科目の学部あるいは学科における GPA の位置づけが把握できる情報を授業担当教員にフィードバックする仕組みを検討することが望まれる。

6. 2 今後のFD活動

今後の工学部の FD 活動としては、鹿児島大学の中期目標・中期計画の中で示されている項目に関連して、工学士としての質を保証する方法の確立を図ることが重要になると考えられる。

工学部では、4つの教育・学習目標を定めており、それに則った教育の実施に取り組んでいる。これは工学教育で社会から要求されている項目に相当するものであり、工学部 FD 委員会では授業アンケートの実施や GPA 成績評価の分析などから学習目標の達成度の点検を実施しており、今後も継続することが望まれる。工学部 FD 委員会では前期と後期の全ての授業科目について提出された授業改善報告書の分析により、その結果を授業改善に反映することになっている。工学部では、学生の授業への取り組みや学習目標の達成度等を考慮した多面的な評価基準を定めそれに準じた評価を実施している。特に、JABEE 教育プログラムを実施している学科では、多面的な評価法について継続して検討を行なうことが望まれる。

工学部の教育・学習目標を実現し、社会で信頼される卒業生を今後とも輩出していくためには、学士課程の教育の実現・実施は非常に重要な役目を果たすことになる。そのためには教職員の相互連携も重要になる。FD 活動の主要な目標は、工学部の教育・学習目標にも示されているように社会の要請に応えられる人材養成を継続して行なうことであり、それが工学部の発展に繋がっていくと思われる。

参考資料-1

平成22年度第1回FD委員会議事要旨（案）

日 時：平成22年4月22日（木）16：30～17：00

場 所：共通棟203号室

出席委員：河野（委員長）、林（機械）、大畠（電気）、曾我（建築）、筒井（環化）、小野（情生）、吉留（化生）、田上（事務）

陪 席 者：仮屋、小園（事務）

議 題

1. 平成21年度工学部FD活動について

委員長から、配布資料に基づき、平成21年度に実施した主なFD活動について説明があった。

2. 平成22年度FD活動計画について

委員長から、配布資料に基づき、はじめに中期目標・中期計画に沿った目標として、学位の質を保証する方法の確立を目指したい旨述べられ、引き続き、具体的な実施計画について、スケジュールに沿って説明があった。

3. 委員の活動分担について

委員長から、配布資料に基づき、昨年度から実施しているFD講演会並びに教育の質の向上と学習成果の検討について担当者を決めたい旨諮られ、審議の結果、FD講演会は小野委員、教育の質の向上と学習成果の検討については林委員と大畠委員が担当することになった。

次回予定

理工学研究科FD委員会に併せて開催する。

平成21年度第2回FD委員会議事要旨（案）

日 時：平成22年6月17日（木）17：10～18：20

場 所：共通棟203号室

出席委員：河野（委員長）、井手（機械：林代理）、大畠（電気）、曾我（建築）、筒井（環化）、小野（情生）、吉留（化生）

欠席委員：田上（事務）

陪 席 者：仮屋、小園（事務）

議事に先立ち、第2回FD委員会議事要旨が確認された。

議 題

1. 前期授業評価アンケートの実施について

委員長から、議題1資料のとおり前期授業評価アンケートの設問項目を設定したので、審議願いたい旨諮られ、審議の結果、原案どおりこれを承認した。

2. 授業計画改善書の活用について

委員長から、資料2に基づき、授業計画改善書が各学科でどのように活用されているか報

告願いたい旨依頼があり、委員から報告があった。

- 機械：学科評価委員会で報告書を作成し、冊子と CD-ROM で保管され、学科会議に報告されている。また、教職員に公開している。
- 電気：学科事務室に保管し、閲覧できる。学科 FD 委員会でアンケートの結果をチェックして、授業改善に取り組む資料として活用している。また、JABEE 活動の一環としても活用している。
- 建築：全科目の評点を公開して問題点を共有している。授業満足度の評点と教員の教育貢献度を評価するシステムを導入し、この結果も公開している。
- 環化：教員間ネットワーク会議で公開されている。授業改善書は各教員により提示が義務付けられ、意見交換による授業内容や授業方法の改善のために利用されている。
- 海洋：授業計画改善書の点検は教育システム評価委員会で行っており、その結果は学科会議で報告されている。資料は JABEE 室に資料として保管し、教員は自由に見ることができる。学科で構築している PDCA 点検システムで重要な役割を果たしている。
- 情報：学科評価委員会に集約され、JABEE 申請に向けて活用される予定である。教員による活用はいま今ひとつの状況である。
- 化生：旧応化コース、旧生体機能コースの教育改善に利用されており、化生工としての利用方法を検討する準備段階である。
旧応化コースでは、コース会議においてメンバーによる評価が行われ、教育内容・方法の改善に役立っている。
旧生体機能コースでは、授業改善計画書は FD 委員が管理している。また、授業アンケートの結果が優れている教員に対して、質疑を行い、授業改善に役立っている。

引き続き委員長から、授業計画改善書の様式について諮られ、審議した結果、従来どおりの様式を今年度も使用することとした。

3. 中間授業アンケートの実施状況について

委員長から、中間授業アンケートの実施状況について報告願いたい旨依頼があり、各学科から報告が行われた。

- 機械：実施しなかった。
- 電気：全科目で実施した。
- 建築：必修科目について、アンケートに学科独自の設問を付加して実施した。また、回答方法は個人ではなく、グループ回答とした。
- 環化：3分の1程度の科目が実施した。
- 海洋：全体の1～2割の科目が実施した。
- 情生：10科目前後が実施した。
- 化生：4～5人の教員が実施した。

引き続き委員長から、議題3資料に基づき、中間授業アンケート様式についてご意見を伺いたい旨諮られ、審議した結果、委員から設問にチェックするだけでは、具体的な要望が分からないので、要望を具体的に記入出来るようにしたほうがよいのではないかとの意見があり、次回委員会で修正した様式を提示することにした。

また、委員から中間アンケートよりも翌年にアンケートをとる方が、客観的な意見が得られて有益ではないかとの意見があった。これに対して他の委員から、卒業前の学生に行っている学科独自のアンケートの事例紹介があった。

4. 前期授業公開・授業参観について

委員長から、議題4資料に基づき、現在前期授業公開・授業参観を行っているが、参観者が少ないので、ご意見を伺いたい旨諮られ、審議した結果、全学 FD 委員会で設定された現在の期間を基本としながらも、工学部内に限っては1週間程度期間を伸長することとし、後

期から実施することにした。

5. 学習成果と質の向上について

委員長から、議題5資料に基づき審議願いたい旨諮られ、審議の結果、授業評価アンケートとGPAの間にはほぼ正の相関がある、との結論を得た。

また、平均GPAの頻度(科目数)分布について委員から疑問が呈され、審議した結果、学科毎の分析等を行うことも検討することになった。

平成22年度第3回FD委員会議事要旨(案)

日 時：平成22年10月21日(木) 13:50～15:10

場 所：共通棟203号

出席委員：河野(委員長)、林(機械)、大島(電気)、黒川(建築;代理)、伊地知(環化;代理)、小野(情生)、吉留(化生)

欠席委員：田上(事務)

陪席者：仮屋、小園(事務)

議事に先立ち、第3回FD委員会議事要旨を確認した。

議 題

1. FD講演会について

委員長から、下記のとおりFD講演会を開催する旨説明があり、各学科できるだけ多くの出席者となるよう働きかけてほしい、また内容が職員にも関係するものであるので、職員もできるだけ出席してほしいとの依頼があった。これに対して、機械工学科、電気電子工学科の各委員から、当日は推薦入試があるため、両学科の教員の出席は難しいとの説明があった。なお、ポスターの作成は小野委員にお願いすることとなった。

演題 学生をつまづき支援：発達の偏りの見つけ方

講師 保健管理センター 伊地知信二准教授

日時 11月25日(木) 16:10～

2. 後期授業公開について

委員長から、12月1日(水)から12月24日(金)を期間として後期授業公開を実施したい、については11月初めに様式を送信するので、11月10日(水)までに学生係へ実施科目を報告するよう依頼があった。

3. 前期授業アンケートの結果について

委員長から、議題資料3に基づき、各学科の状況について伺いたい旨説明があり、各学科委員からアンケートの分析結果について報告が行われた。

続いて委員長から、アンケート結果をホームページに掲載して学生に周知したいとの説明があり、審議した結果、一部文言を修正して掲載することにした。

4. 中間授業アンケートの実施について

委員長から、中間授業アンケートを11月中旬に実施したい、については、11月初旬にメールで必要枚数を照会するので、11月10日(水)までに回答願いたいとの依頼があった。

次回FD工学部委員会予定 ・ ・ ・ ・ ・ 12月24日(金) 調整する

平成22年度第5回FD委員会議事要旨（案）

日 時：平成23年3月2日（水） 14：45～15：15

場 所：共通棟203号

出席委員：河野（委員長）、林（機械）、大島（電気）、黒川（建築）、筒井（環化）、小野（情
生）、吉留（化生）、田上（事務）

欠席委員：

陪 席 者：仮屋、小園（事務）

議事に先立ち、第3回、第4回FD委員会議事要旨を確認した。

議 題

1. 平成22年度工学部FD報告書の作成について

委員長から、今年度の活動報告をまとめたので、議題1資料のとおり委員で分担したい旨
諮られ、審議した結果、一部担当を変更し、3月23日（水）までに委員長へ提出すること
にした。

なお、環境化学プロセス工学科に関する部分については、化学生命工学科と同様に改組前の
学科名（応用化学工学科化学工学コース）をカッコ書きで併記することにした。

参考資料－２ 学生による授業評価アンケート結果（平成19年—平成21年）

講義・演習科目

平成21年度前期

項目	①シラバス	②役立つ	③興味	④理解	⑤教材	⑥宿題	⑦目標達	⑧明瞭な	⑨明瞭な	⑩熱意	⑪教員の	⑫返却	⑬出欠	⑭予習・復	⑮満足度
機械工学科	4.04	4.02	3.84	3.63	3.87	3.92	3.71	3.76	3.86	3.93	3.50	3.48	4.54	3.21	3.80
電気電子工学科	4.09	4.01	3.88	3.65	3.88	4.00	3.76	3.88	3.98	3.89	3.60	3.64	4.42	3.18	3.83
建築学科	4.08	4.27	4.06	3.80	3.97	3.97	3.79	3.80	3.96	3.97	3.66	3.49	4.38	3.30	3.97
建築学科の共通	4.12	4.22	3.89	3.82	3.90	4.03	3.75	3.86	4.01	3.85	3.62	3.48	4.53	3.49	3.90
環境化学プロセス工	4.09	4.14	3.92	3.66	4.00	4.11	3.76	3.91	4.09	4.08	3.65	3.74	4.55	3.17	3.90
応用化学工学科	3.93	3.92	3.89	3.76	3.87	3.75	3.77	3.64	4.07	3.93	3.27	3.34	4.61	2.79	3.69
海洋土木工学科	4.12	4.11	3.90	3.68	3.88	3.88	3.77	4.02	4.21	4.11	3.64	3.48	4.50	2.93	3.89
情報生体システム工	3.86	3.88	3.73	3.44	3.65	3.67	3.50	3.65	3.89	3.76	3.46	3.31	4.38	2.84	3.63
集中講義:情報工	4.00	4.18	4.09	4.00	3.73	3.73	4.09	4.09	4.27	4.09	3.91	3.18	4.64	2.73	4.09
集中講義:情報科	4.30	4.74	4.57	4.43	4.70	4.61	4.00	4.61	4.83	4.78	4.04	3.91	4.83	4.09	4.83
化学生命工学科	4.16	4.22	4.07	3.74	4.06	3.96	3.77	4.00	4.20	4.07	3.45	3.57	4.58	2.85	3.94
生体工学科の集	4.18	4.33	4.23	3.93	4.21	3.40	3.91	4.23	4.38	4.33	3.76	2.99	4.70	2.55	4.25
教職科目	4.16	4.39	4.29	4.12	4.26	3.16	4.02	4.23	4.48	4.35	3.38	2.99	4.45	1.92	4.19
学部平均	4.09	4.19	4.03	3.82	4.00	3.86	3.82	3.98	4.17	4.09	3.61	3.43	4.55	3.00	3.99

平成21年度後期

項目	①シラバス	②役立つ	③興味	④理解	⑤教材	⑥宿題	⑦目標達	⑧明瞭な	⑨明瞭な	⑩熱意	⑪教員の	⑫返却	⑬出欠	⑭予習・復	⑮満足度
機械工学科	4.06	4.05	3.88	3.66	3.86	3.93	3.72	3.80	3.96	3.84	3.51	3.45	4.49	3.36	3.81
電気電子工学科	4.05	4.09	3.97	3.71	3.92	4.04	3.79	3.88	3.98	3.95	3.69	3.64	4.44	3.33	3.87
建築学科	4.04	4.13	3.92	3.61	3.84	3.85	3.61	3.76	3.90	3.81	3.46	3.35	4.27	3.25	3.77
環境化学プロセス工	4.11	4.07	3.92	3.69	3.93	3.98	3.76	3.86	4.13	4.04	3.49	3.70	4.45	3.05	3.87
海洋土木工学科	4.14	4.14	4.06	3.82	4.03	3.94	3.88	4.00	4.23	4.15	3.57	3.58	4.42	2.71	4.04
情報生体システム工	4.04	4.10	3.94	3.50	3.81	3.82	3.56	3.95	4.14	3.93	3.51	3.53	4.41	2.98	3.81
化学生命工学科	4.22	4.22	4.05	3.71	4.14	4.10	3.75	3.93	4.22	4.18	3.45	3.68	4.46	2.86	3.99
学部平均	4.09	4.11	3.96	3.67	3.93	3.95	3.72	3.88	4.08	3.99	3.53	3.56	4.42	3.08	3.88

平成22年度前期

項目	①シラバス	②役立つ	③興味	④理解	⑤教材	⑥宿題	⑦目標達	⑧明瞭な	⑨明瞭な	⑩熱意	⑪教員の	⑫返却	⑬出欠	⑭予習・復	⑮満足度
機械工学科	3.99	4.02	3.84	3.55	3.78	3.89	3.67	3.78	3.92	3.91	3.52	3.38	4.50	3.27	3.78
電気電子工学科	4.06	4.03	3.88	3.65	3.91	3.98	3.75	3.87	3.92	3.85	3.65	3.61	4.41	3.18	3.82
建築学科	4.11	4.25	4.06	3.74	3.96	4.03	3.75	3.83	3.94	4.01	3.69	3.60	4.49	3.42	3.93
環境化学プロセス工	4.02	4.09	3.80	3.55	3.98	4.01	3.63	3.78	3.99	3.95	3.41	3.52	4.45	3.03	3.86
海洋土木工学科	4.04	4.01	3.83	3.61	3.80	3.88	3.67	3.83	4.04	4.03	3.56	3.57	4.40	3.11	3.83
情報生体システム工	3.91	3.89	3.70	3.42	3.64	3.68	3.51	3.65	3.85	3.71	3.39	3.27	4.43	2.96	3.67
化学生命工学科	3.99	3.90	3.64	3.31	3.80	3.73	3.45	3.76	4.05	3.79	3.41	3.44	4.39	2.86	3.59
応用化学工学科	4.20	4.06	3.94	3.78	4.14	4.19	3.80	3.98	4.26	4.06	3.50	3.72	4.52	2.83	3.95
生体工学科	4.15	4.32	3.98	3.64	3.98	3.89	3.73	3.81	4.24	4.06	3.35	3.48	4.61	2.82	3.92
学部平均	4.05	4.06	3.85	3.58	3.89	3.92	3.66	3.81	4.02	3.93	3.50	3.51	4.47	3.05	3.82

平成22年度後期

項目	①シラバス	②役立つ	③興味	④理解	⑤教材	⑥宿題	⑦目標達	⑧明瞭な	⑨明瞭な	⑩熱意	⑪教員の	⑫返却	⑬出欠	⑭予習・復	⑮満足度
機械工学科	4.08	4.03	3.86	3.66	3.90	3.88	3.71	3.85	3.97	3.89	3.53	3.50	4.40	3.32	3.82
電気電子工学科	4.08	4.08	3.96	3.64	3.92	4.09	3.81	3.95	4.06	4.00	3.74	3.72	4.51	3.39	3.91
建築学科	4.15	4.20	4.07	3.80	4.09	4.01	3.81	3.92	3.98	3.98	3.63	3.63	4.31	3.28	3.96
環境化学プロセス工	4.12	4.18	3.96	3.64	3.91	3.93	3.66	3.82	4.08	3.97	3.38	3.39	4.42	2.91	3.86
海洋土木工学科	4.10	4.09	3.95	3.71	3.93	4.00	3.81	4.00	4.20	4.13	3.59	3.72	4.45	2.91	3.96
情報生体システム工	3.94	4.08	3.92	3.52	3.83	3.86	3.59	4.00	4.13	3.93	3.43	3.39	4.43	2.96	3.78
化学生命工学科	4.17	4.21	3.97	3.54	4.01	4.10	3.64	3.96	4.11	4.00	3.73	3.71	4.39	2.96	3.81
応用化学工学科	4.23	4.24	4.07	3.81	4.05	4.03	3.86	4.16	4.29	4.22	3.62	3.75	4.53	3.08	4.08
生体工学科	4.10	4.24	4.06	3.57	4.03	4.12	3.62	4.08	4.55	4.33	3.82	3.66	4.67	3.25	3.99
学部平均	4.11	4.15	3.98	3.65	3.96	4.00	3.72	3.97	4.15	4.05	3.61	3.61	4.46	3.12	3.91

実験・実習科目

平成21年度前期

項目	①シラバス	②人数	③実験装	④実験時	⑤教材	⑥講義と	⑦理解	⑧目標達	⑨教員の	⑩熱意	⑪安全教	⑫TA	⑬予習	⑭主体性	⑮満足度
機械工学科	4.38	4.23	4.33	4.09	4.14	4.17	3.97	3.91	3.87	3.93	4.36	3.98	3.51	3.84	4.05
電気電子工学科	4.34	4.26	4.00	3.86	4.23	4.18	4.01	3.88	3.92	3.82	4.23	3.96	3.74	3.92	4.03
建築学科	4.08	3.95	4.23	4.27	3.97	4.10	3.93	3.70	3.52	3.73	3.95	3.82	3.88	3.72	3.95
環境化学プロセス工	4.53	4.53	4.37	4.23	4.50	4.37	4.23	4.27	4.13	4.23	4.37	4.57	3.87	4.07	4.37
海洋土木工学科	4.38	4.20	4.38	4.42	4.40	4.40	4.22	4.08	3.92	4.38	4.42	4.55	3.98	4.15	4.25
情報生体システム工	4.16	4.18	3.98	3.51	3.99	3.92	3.86	3.74	3.84	3.86	4.00	3.92	3.72	3.90	3.87
化学生命工学科	4.32	4.38	4.38	4.42	4.49	4.26	4.09	4.15	4.09	4.17	4.34	4.45	4.09	4.04	4.25
学部平均	4.31	4.25	4.24	4.11	4.25	4.20	4.04	3.96	3.90	4.02	4.24	4.18	3.83	3.95	4.11

平成21年度後期

項目	①シラバス	②人数	③実験装	④実験時	⑤教材	⑥講義と	⑦理解	⑧目標達	⑨教員の	⑩熱意	⑪安全教	⑫TA	⑬予習	⑭主体性	⑮満足度
機械工学科	4.35	4.39	4.61	3.94	4.39	4.35	4.24	4.18	4.12	4.41	4.55	3.00	3.53	3.94	4.35
電気電子工学科	4.21	4.23	3.83	3.97	4.13	4.17	3.99	3.88	3.87	3.84	4.13	4.11	3.78	3.92	4.04
建築学科															
環境化学プロセス工															
海洋土木工学科	4.25	4.32	4.10	4.12	4.28	4.17	4.02	4.00	3.87	3.92	4.22	4.03	3.92	4.00	4.07
情報生体システム工	4.16	4.07	4.03	3.20	3.88	3.94	3.75	3.55	3.77	3.90	4.04	4.03	3.65	3.81	3.77
化学生命工学科	4.46	4.39	4.46	4.25	4.44	4.48	4.36	4.16	4.31	4.20	4.52	4.49	4.21	4.34	4.49
学部平均	4.29	4.28	4.21	3.90	4.22	4.22	4.07	3.95	3.99	4.05	4.29	3.93	3.82	4.00	4.14

平成22年度前期

項目	①シラバス	②人数	③実験装	④実験時	⑤教材	⑥講義と	⑦理解	⑧目標達	⑨教員の	⑩熱意	⑪安全教	⑫TA	⑬予習	⑭主体性	⑮満足度
機械工学科	4.35	4.20	4.33	4.07	4.13	4.24	4.08	4.04	3.89	4.00	4.42	3.82	3.75	3.94	4.11
電気電子工学科	4.34	4.22	4.27	3.76	4.18	4.19	4.07	4.03	3.89	4.00	4.24	4.27	3.83	4.09	4.12
建築学科	4.49	4.36	4.61	4.59	4.41	4.40	4.15	4.05	3.80	4.24	4.41	4.56	3.93	4.07	4.37
環境化学プロセス工	4.52	4.33	4.58	4.18	4.55	4.27	4.30	4.24	4.24	4.33	4.55	4.67	3.88	4.36	4.58
海洋土木工学科	4.31	4.11	4.33	4.19	4.22	4.22	4.19	4.19	4.17	4.33	4.39	4.42	4.17	4.00	4.19
情報生体システム工	4.08	4.08	3.89	3.46	3.98	3.83	3.80	3.64	3.69	3.60	3.86	3.95	3.43	3.86	3.81
化学生命工学科															
応用化学工学科	4.00	4.21	4.21	4.29	4.29	4.29	4.00	3.92	3.88	4.21	4.25	4.67	4.17	4.12	4.29
生体工学科	4.24	4.35	4.57	4.14	4.41	4.03	4.14	4.00	4.32	4.35	4.51	4.32	4.30	4.38	4.32
学部平均	4.29	4.23	4.35	4.09	4.27	4.18	4.09	4.01	3.99	4.13	4.33	4.34	3.93	4.10	4.22

平成22年度後期

項目	①シラバス	②人数	③実験装	④実験時	⑤教材	⑥講義と	⑦理解	⑧目標達	⑨教員の	⑩熱意	⑪安全教	⑫TA	⑬予習	⑭主体性	⑮満足度
機械工学科	4.56	4.40	4.49	4.02	4.56	4.40	4.26	4.07	3.93	4.28	4.60	3.67	3.74	4.12	4.40
電気電子工学科	4.36	4.14	4.02	3.68	4.16	4.22	3.97	3.83	3.98	3.88	4.13	4.21	3.86	3.98	4.08
建築学科															
環境化学プロセス工															
海洋土木工学科	4.12	4.07	4.10	3.90	4.07	4.24	4.15	4.08	4.03	4.13	4.14	4.00	3.93	4.09	4.19
情報生体システム工	4.18	4.11	4.16	3.25	3.96	3.92	3.92	3.82	3.73	3.80	3.99	4.13	3.75	4.00	3.95
化学生命工学科	4.29	4.11	4.24	4.37	4.13	4.08	4.05	4.08	3.82	3.87	4.26	4.34	4.05	4.18	4.16
応用化学工学科															
生体工学科															
学部平均	4.30	4.17	4.20	3.84	4.18	4.17	4.07	3.98	3.90	3.99	4.22	4.07	3.87	4.07	4.16

参考資料-3

工学部 平成22年度 授業公開科目表(前期分)

実施予定期間(6月7日(月)～6月25日(金))

【 機械工学科 】

月	日	曜日	授業科目名	担当者名	時間	場所	連絡先(メール)
6	10	木	機械制御工学基礎A&B	熊澤 典良	10:30～12:00	機械工学科1号棟13号	kumazawa@mech.kagoshima-u.ac.jp
6	10	木	機械制御工学基礎A&B	林 良太	10:30～12:00	機械工学科1号棟11号	hayashi@mech.kagoshima-u.ac.jp
6	14	月	熱機関	木下 英二	14:30～16:00	機械工学科1号棟11号	kinoshit@mech.kagoshima-u.ac.jp
6	17	木	工業熱力学基礎及び演習A&B	小山 隆行	14:30～16:00	機械工学科1号棟13号	oyama@mech.kagoshima-u.ac.jp
6	21	月	機械設計工学A&B	上谷 俊平	12:50～14:20	機械工学科2号棟13号	kamitani@mech.kagoshima-u.ac.jp
6	22	火	応用数学Ⅰ及び演習A&B	門 久義	14:30～16:00	機械工学科1号棟11号	kado@mech.kagoshima-u.ac.jp

【電気電子工学科】

月	日	曜日	授業科目名	担当者名	時間	場所	連絡先(メール)
6	7	月	電気電子設計製図	住吉 文夫	16:10～17:40	共通棟201号	sumi@eee.kagoshima-u.ac.jp
6	18	金	デジタル電子回路	八野 知博	14:30～16:00	共通棟201号	hachino@eee.kagoshima-u.ac.jp
6	22	火	光通信工学	大島 賢一	12:50～14:20	電気電子棟23号	k-ohhata@eee.kagoshima-u.ac.jp
6	24	木	電気エネルギー工学II	川畑 秋馬	8:50～10:20	電気電子棟23号	kawabata@eee.kagoshima-u.ac.jp

【建築学科】

月	日	曜日	授業科目名	担当者名	時間	場所	連絡先(メール)
6	7	月	基礎構造	黒川 善幸	12:50～14:20	共通棟305号	kurokawa@aae.kagoshima-u.ac.jp
6	9	水	鉄骨構造	松村 和雄	8:50～10:20	共通棟302号	matsumura@aae.kagoshima-u.ac.jp
6	10	木	環境工学II	曾我 和弘	8:50～10:20	共通棟302号	soga@aae.kagoshima-u.ac.jp
6	11	金	建築物の耐震設計	松村 和雄	10:30～12:00	共通棟301号	matsumura@aae.kagoshima-u.ac.jp
6	29	火	構造力学Ⅰ	塩屋 晋一	12:50～14:20	建築学科棟01号	shin@aae.kagoshima-u.ac.jp

【環境化学プロセス工学科】

月	日	曜日	授業科目名	担当者名	時間	場所	連絡先(メール)
6	10	木	反応工学	甲斐 敬美	8:50～10:20	工学系講義棟131号	t.kai@cen.kagoshima-u.ac.jp
6	17	木	無機材料化学Ⅰ	鮫島 宗一郎	12:50～14:20	工学系講義棟111号	samesima@apc.kagoshima-u.ac.jp
6	18	金	反応工学演習	中里 勉	8:50～10:20	工学系講義棟111号	nakazato@cen.kagoshima-u.ac.jp

【海洋土木工学科】

月	日	曜日	授業科目名	担当者名	時間	場所	連絡先(メール)
6	11	金	構造解析学	河野 健二	10:30～12:00	共通棟303号	kawano@oce.kagoshima-u.ac.jp
6	18	金	海岸環境工学	浅野 敏之	8:50～10:20	共通棟303号	asano@oce.kagoshima-u.ac.jp
6	21	月	コンクリート構造設計学	山口 明伸	8:50～10:20	共通棟303号	yamaguch@oce.kagoshima-u.ac.jp
6	24	木	建設材料学	武若 耕司	10:30～12:00	共通棟303号	takewaka@oce.kagoshima-u.ac.jp

【情報生体システム工学科】

月	日	曜日	授業科目名	担当者名	時間	場所	連絡先(メール)
6	7	月	神経情報システム	王 鋼	10:30～12:00	共通棟301号室	gwang@ibe.kagoshima-u.ac.jp
6	7	月	生体情報工学	内山 博之	14:30～16:00	情報工学科棟73号	uchiyama@ibe.kagoshima-u.ac.jp
6	8	火	プログラミング言語演習	小野 智司	10:30～12:00	情報工学科棟電算機演習室	ono@ibe.kagoshima-u.ac.jp
6	8	火	情報論理回路	佐藤 公則	16:10～17:40	情報工学科棟71号	kimi@ibe.kagoshima-u.ac.jp
6	10	木	プログラミング序論	水野 和生	16:10～17:40	情報工学科棟71号	mizuno@ibe.kagoshima-u.ac.jp
6	10	木	制御情報システム	湯ノ口 万友	10:30～12:00	共通棟101号	ykazu@ibe.kagoshima-u.ac.jp
6	17	木	知識工学	渡邊 睦	8:50～10:20	情報工学科棟72号	mutty@ibe.kagoshima-u.ac.jp
6	17	木	情報通信工学	大橋 勝文	16:10～17:40	情報工学科棟73号	mohashi@ibe.kagoshima-u.ac.jp
6	22	火	情報生体システム工学基礎	大塚 作一	10:30～12:00	情報工学科棟71号	otsuka@ibe.kagoshima-u.ac.jp
6	24	木	電気化学	吉本 稔	12:50～14:20	情報工学科棟71号	myoshi@ibe.kagoshima-u.ac.jp
6	24	木	数値解析	二宮 公紀	10:30～12:00	建築学科棟01号	kohki@ibe.kagoshima-u.ac.jp

【化学生命工学科】

月	日	曜日	授業科目名	担当者名	時間	場所	連絡先(メール)
6	7	月	機器分析	大木 章	10:30～12:00	工学系講義棟121号	ohki@be.kagoshima-u.ac.jp

平成22年度 授業公開科目表(後期分)

実施予定期間(12月1日(水)～12月24日(金))

【機械工学科】

月	日	曜日	授業科目名	担当者名	時間	場所	連絡先(メール)
12	2	木	応用数学II及び演習A&B	片野田 洋	12:50～14:20	機械工学科1号棟2階11号	katanoda@mech.kagoshima-u.ac.jp
12	7	火	機械力学基礎及び演習A&B	近藤 英二	8:50～10:20	機械工学科1号棟2階11号	kondo@mech.kagoshima-u.ac.jp
12	13	月	工業力学I及び演習A&B	郭 永明	12:50～14:20	機械工学科1号棟3階13号	guoy@mech.kagoshima-u.ac.jp
12	14	火	機械力学基礎及び演習A&B	有富 正男	8:50～10:20	機械工学科1号棟2階13号	aritomi@mech.kagoshima-u.ac.jp
12	17	金	流体力学基礎及び演習A&B	福原 稔	8:50～10:20	機械工学科1号棟2階11号	fukuhara@mech.kagoshima-u.ac.jp
12	17	金	流体力学基礎及び演習A&B	井手 英夫	8:50～10:20	機械工学科1号棟3階13号	ide@mech.kagoshima-u.ac.jp

【電気電子工学科】

月	日	曜日	授業科目名	担当者名	時間	場所	連絡先(メール)
12	13	月	電気回路学II及び演習	飯盛 憲一	14:30～16:00	建築学科棟01号	iimori@eee.kagoshima-u.ac.jp
12	1	金	電子デバイス工学	白樂 善則	10:30～12:00	電気電子工学科棟23号	hakuraku@eee.kagoshima-u.ac.jp
12	21	火	電子材料工学	土井 俊哉	10:30～12:00	電気電子工学科棟23号	doi@eee.kagoshima-u.ac.jp
12	13	月	電気磁気学II及び演習	堀江 雄二	8:50～10:20	建築学科棟01号	horie@eee.kagoshima-u.ac.jp
12	16	木	制御工学II	田中 哲郎	8:50～10:20	電気電子工学科棟23号	tetsu@eee.kagoshima-u.ac.jp
12	3	金	通信工学	重井 徳貴	10:30～12:00	建築学科棟01号	shigei@eee.kagoshima-u.ac.jp
12	8	水	パワーエレクトロニクス	山本 吉朗	10:30～12:00	電気電子工学科棟23号	yamamoto@eee.kagoshima-u.ac.jp

【建築学科】

月	日	曜日	授業科目名	担当者名	時間	場所	連絡先(メール)
12	13	月	建築材料	黒川 善幸	08:50～10:20	共通棟301号	kurokawa@aae.kagoshima-u.ac.jp
12	14	火	建築史	木方 十根	08:50～10:20	共通棟301号	kikata@aae.kagoshima-u.ac.jp
12	17	金	都市計画	鈴木 健二	12:50～14:20	共通棟302号	suzuki@aae.kagoshima-u.ac.jp
12	21	火	環境計画II	二宮 秀與	10:30～12:00	共通棟301号	nimiva@aae.kagoshima-u.ac.jp
12	22	水	地域調査法	友清 貴和	10:30～12:00	建築学科棟ゼミ室	tomokiyo@aae.kagoshima-u.ac.jp
12	24	金	建築構造のしくみ	本間 俊雄	10:30～12:00	共通棟301号	honma@aae.kagoshima-u.ac.jp
12	24	金	設備計画II	二宮 秀與	10:30～12:00	共通棟302号	nimiva@aae.kagoshima-u.ac.jp

【環境化学プロセス工学科】

月	日	曜日	授業科目名	担当者名	時間	場所	連絡先(メール)
12	2	木	化学プロセス工学	筒井俊雄	12:50～14:20	工学系講義棟131号	tsutsui@cen.kagoshima-u.ac.jp
12	3	金	分離工学II	伊地知 和也	8:50～10:20	工学系講義棟121号	kiiichi@cen.kagoshima-u.ac.jp
12	3	金	無機化学	鮫島宗一郎	8:50～10:20	工学系講義棟131号	samesima@apc.kagoshima-u.ac.jp
12	14	火	熱力学および化学量論演習	吉田昌弘	10:30～12:00	共通棟201号	mvoshida@cen.kagoshima-u.ac.jp
12	14	火	無機化学基礎	平田好洋/松永直樹	10:30～12:00	工学系講義棟131号	n-matsunaga@apc.kagoshima-u.ac.jp
12	14	火	応用数学II	中里 勉	14:30～16:00	共通棟121号	nakazato@cen.kagoshima-u.ac.jp

【海洋土木工学科】

月	日	曜日	授業科目名	担当者名	時間	場所	連絡先(メール)
12	9	木	海洋建設工学実験I	三隅浩二 山本健太郎	12:50～16:00	海洋土木工学科棟1F 土質実験室	misumi@oce.kagoshima-u.ac.jp yamaken@oce.kagoshima-u.ac.jp
12	10	金	海洋建設工学実験II	河野健二 木村至伸	12:50～16:00	海洋土木工学科棟2F実習室	kawano@oce.kagoshima-u.ac.jp y-kimura@oce.kagoshima-u.ac.jp
12	21	火	海洋学総論	山城 徹	16:10～17:40	共通棟303号	toru@oce.kagoshima-u.ac.jp
12	21	火	応用数学II	柿沼 太郎	8:50～10:20	共通棟111号	taro@oce.kagoshima-u.ac.jp

【情報生体システム工学科】

月	日	曜日	授業科目名	担当者名	時間	場所	連絡先(メール)
12	6	月	プログラミング序論演習	福元 伸也	14:30～16:00	情報工学科棟2F電算機演習室	fukumoto@ibe.kagoshima-u.ac.jp
12	13	月	情報理論	川崎 洋	14:30～16:00	情報工学科棟71号	kawasaki@ibe.kagoshima-u.ac.jp
12	16	木	電気磁気学及び演習	加藤 龍蔵	12:50～14:20	情報工学科棟71号	ryu@ibe.kagoshima-u.ac.jp
12	20	月	量子コンピュータ	中山 茂	16:10～17:40	情報工学科棟73号	shignaka@ibe.kagoshima-u.ac.jp
12	21	火	応用数学I演習	大野 裕史	12:50～14:20	共通棟 201号	ohno@ibe.kagoshima-u.ac.jp

【化学生命工学科】

月	日	曜日	授業科目名	担当者名	時間	場所	連絡先(メール)
12	8	水	化学計測II	肥後盛秀	10:30～12:00	工学系講義棟121号	higo@apc.kagoshima-u.ac.jp
12	9	木	機能材料化学	金子芳郎	8:50～10:20	工学系講義棟121号	ykaneko@eng.kagoshima-u.ac.jp
12	14	火	物理化学基礎	橋本雅仁	8:50～10:20	工学系講義棟121号	hassy@eng.kagoshima-u.ac.jp

- (1) 授業参観をするときは、事前に担当教員にe-mailで御連絡下さい。
- (2) 授業参観された場合は、担当教員へ授業参観報告書を提出して下さい。

参考資料－４

学生による授業評価（講義用・演習用）アンケート（平成２２年度・後期）

鹿児島大学工学部では、授業を受けた諸君の評価を参考にして、授業内容の改善と理解度の向上を目指しています。各設問に対して、選択肢の中から一つだけ選び、**回答用紙の該当する番号欄に○印を記入**して下さい。なお、このアンケートは統計的に処理され、個人名が出たりすることはありませんし、成績評価にも関係ありませんので、適切な評価や率直な意見を記入して下さい。

設問１ この授業の内容はシラバスに記載された内容と一致していた。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問２ 授業の内容はこれから役立つと思う。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問３ この授業は興味深いものであった。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問４ 授業は理解できた。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問５ 使用した教科書や教材は授業の理解に役立った。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問６ 宿題・レポート・小テストなどは授業の理解に役立った。

(宿題・レポート・小テストなどが全くなかった場合は、1.を選んで下さい。)

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問７ シラバスに記載された授業目標を達成できそうだ。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問８ 黒板やスクリーンなどの字は明瞭だった。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問９ 教員の声は良く聞こえた。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問１０ 学生に理解させようとする教員の熱意が感じられた。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問１１ 講義中やオフィスアワーで、質問などに対する教員の対応に満足した(質問しなかったときは3とする)。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問１２ 中間試験・レポート・小テストなどについて、解答例の説明や開示と採点後の返却に満足した。

(中間試験・レポート・小テストなどが全くなかった場合は、1.を選んで下さい。)

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問１３ 授業は全て出席しましたか。

5. 全て出席 4. 1回欠席 3. 2回欠席 2. 3回欠席 1. 4回以上欠席

設問１４ 1コマ(90分)の授業に対して、予習と復習の時間(レポート作成時間も含む)を合わせてどれ位をかけたか。

5. 3時間より多く 4. 2～3時間 3. 1～2時間 2. 30分～1時間 1. 30分未満

設問１５ この授業は総合的に見て満足できた。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問１６ この授業及び中間授業アンケートへの対応について、感じたこと、考えたこと、不満な点、良かった点など、授業改善に役立つ意見を**回答用紙の自由記述欄**に簡潔に書いて下さい。

学生による授業評価（実験用）アンケート（平成22年度・後期）

鹿児島大学工学部では、実験授業の内容、進め方を改善する目的で、授業に出席した諸君にアンケートの回答を求めています。各設問の選択肢の中から1つ選んで回答用紙の設問回答箇所の番号欄に○印を記入して下さい。なお、実施した実験全体を通して評価して下さい。設問の最後は自由記述です。実験授業に関する率直な意見を回答用紙に簡潔に書いて下さい。

設問1 実験の内容は、シラバスに書かれていた内容と一致していた。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問2 実験のグループの人数は適当であった。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問3 実験装置は、指定された実験を行うために適していた。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問4 実験テーマは、時間内に終了するように配慮されていた。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問5 実験に使用したテキストあるいはプリントは理解に役立った。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問6 この実験から講義だけでは理解できないことが分かるようになった。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問7 実験テーマの目的が理解できた。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問8 シラバスに記載された授業目標を達成できそうだ。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問9 教員は、オフィスアワーなどを利用して、レポートを熱心に見てくれた。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問10 担当教員の熱意を感じた。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問11 教員は学生に対し実験を行う上で必要な安全教育を行った。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問12 TA(ティーチングアシスタント)は実験の指導を熱心にしてくれた。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問13 実験書をあらかじめ読んで実験に取りかかった。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問14 グループ実験は自ら進んで主体的に行った。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問15 この授業は総合的に見て満足できた。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらとも言えない 2. そうは思わない 1. 全くそうは思わない

設問16 この実験授業及び中間授業（実験）アンケートへの対応について、感じたこと、考えたこと、不満な点、良かった点など、授業改善に役立つ意見を回答用紙の自由記述欄に簡潔に書いて下さい。

参考資料-5

授業評価アンケート回答用紙

実施日 年 月 日

科目名: _____

※注意事項

HB、Hの鉛筆又は0.5mmシャープペンシル(HB)で濃く記入し、それら以外のボールペンなどの筆記用具は使用しないで下さい。

隣のマーク領域へかからないようにして下さい。

間違った場所に○を記入した場合は、消しゴムできれいに消して下さい。

学科コード 機械:21 電気:22 建築:23 応化:24 海土:25 情報:26 生体:27

環化工:28 情生:29 化生:30

良い例 しっかり枠内に記入して下さい。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

数字は、枠線にかからないように真ん中にはっきりと書いて下さい。

開講学科

講義:0 実験:1

あなたの所属学科

科目コード

<設問の回答>

	5	4	3	2	1		5	4	3	2	1		5	4	3	2	1
設問1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	設問6	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	設問11	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
設問2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	設問7	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	設問12	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
設問3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	設問8	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	設問13	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
設問4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	設問9	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	設問14	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
設問5	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	設問10	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	設問15	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

設問16 自由記述(100字以内で、枠線にかからないように楷書で記入して下さい。)

(ここに○を記入してから、記述して下さい。記述しない場合は、○は記入しないで下さい。)

科目名:	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

参考資料－6

鹿児島大学工学部 F D 委員会

授業計画改善書（平成22年度前期講義・演習用）

1. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
2. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
3. この文書を9月24日（金）までに学科のFD委員に添付ファイルで送付して下さい。
4. この文書は3年間保管して下さい。

記入年月日：平成22年9月4日

授業科目名：基礎工学—1

授業担当者（代表者）名：工学 太郎

評価項目 項目番号	アンケートの評点			現時点での自己評価と改善の方策
	今回	前回	前々回	
理解 ④	3.90	3.78	3.74	前々回から上昇傾向にあり、学科平均(3.65)を上回っている。理解できたと感じる学生が比較的多かったのではないかと考えられる。さらに演習方法等の改善を検討し、学生の理解度を点検しながら講義を進める。
教材等 ⑤	4.10	3.92	3.56	昨年度より向上した。本年度から複素解析の教科書を変えたが、特に問題ないようである。
宿題・レポート ⑥	4.49	4.31	4.24	前回より引き続き上昇し、学科平均(3.98)を上回っており、ほとんどの学生が演習課題を授業の理解に役立ったと考えているようである。今後も現行通り毎回演習課題を課していきたい。
目標達成 ⑦	4.20	3.86	3.73	前回からさらに向上した。時折復習を交えるなどした効果があった可能性がある。講義中の演習などをさらに充実させ、理解度の向上をはかりたい。
明瞭な文字 ⑧	4.42	4.06	4.00	昨年度と同様に板書したつもりであるが、昨年度より大幅に上昇した。今後も意識的に明瞭な文字で明確に板書する、最後列で板書文字の状態を確認する、なるべく前につめて着席するよう指導する、等を継続する。
明瞭な声 ⑨	4.41	4.18	3.98	マイクの使用と意識的に大きく明瞭な声で講義を行なうよう心がけたため、昨年度よりさらに向上した。なるべく前につめて着席するよう指導する、などを継続する。
熱意 ⑩	4.32	4.08	3.73	前回より向上し、ある程度の熱意は伝わったと思われる。講義中やオフィスアワーなどをより有効に活用し、学生の理解度や意見・希望の把握に努める。
オフィスアワー ⑪	3.93	3.71	3.86	前回まで下降傾向にあったが、本年度は回復し、学科平均(3.65)を上回っている。講義中に、オフィスアワーの積極的な利用等呼びかけていく。
予習・復習の時間 ⑭	3.68	3.88	3.65	前回から減少したが、学科平均(3.18)より上回っている。さらなる演習課題の充実を図っていきたい。
満足度 ⑮	4.19	4.00	3.98	前々回から上昇傾向にあり、学科平均(3.82)より上回っているが、より多くの学生が満足できるようオフィスアワーや演習課題を充実させていきたい。

登録者数 = 91 名 : 受験者数 A = 88 名 : 単位取得者数 B = 80 名 : 比率 (B/A) = 91 %

総括

- ・ 成績の評価基準： シラバスに従い、中間試験（40%）、期末試験（40%）、レポート（20%）の割合で評価した。来年度もこの割合で成績評価を行なう予定である。
- ・ 学習目標の達成： 昨年度と比べると、ベクトル解析の成績が向上し、合格率は微増した。本年度は演習補助担当なしに、講義演習ともに同一の担当者だったことの良い面が表れた可能性がある。また、学生が講義中に演習問題を解く時間を設けたり、復習の時間を設けたことも効果があったと考えられる。かなりの学生がしっかりと学習して良い成績を収めているが、学習が不十分と思われる学生や、試験を放棄する学生も見受けられる。講義の時間配分を再検討し、学生の苦手とする項目をより丁寧に講義するようにしたい。
- ・ その他：

授業計画改善書（平成22年度前期講義・演習用）

5. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
6. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
7. この文書を9月24日（金）までに学科のFD委員に添付ファイルで送付して下さい。
8. この文書は3年間保管して下さい。

記入年月日： 平成 22 年 9 月 2 日

授業科目名： 工学演習-1

授業担当者（代表者）名： 桜島 次郎

評価項目 項目番号	アンケートの評点			現時点での自己評価と改善の方策
	今回	前回	前々回	
理解 ④	3.56	3.77	3.33	ほぼ横ばい。演習書の解答を解説するのではなく、より根本的で基礎的な解答を示して解説している。これが逆に難しくしているとのアンケートが以前あった。これを受けて易しい内容は早く、難しい内容はゆっくり行っている。教材を工夫する。目標の3.5は超えたので、次は3.8を目標としたい。
教材等 ⑤	3.96	4.12	3.95	ほぼ横ばい。講義用の教科書も演習書として使った。指定の演習書に加え、平易なあるいは高度な教科書も場合に応じて使用していく。良い教科書の紹介を行う。ほぼ目標の4.0。
宿題・レポート ⑥	4.36	4.23	4.14	上昇傾向。毎回の演習のために約15問を解く必要があり、これが宿題となっている。また、演習中に解答できなかった問題はレポートするよう勧めており、毎回2人くらいがレポートして来る。更に強くレポートを勧める。この評価を維持したい。
目標達成 ⑦	3.64	3.73	3.38	ほぼ横ばい。合格者の割合が100%であり、受験者の54%が8割以上の評価を取得しており、十分に学習目標を達成しているが、昨年度より7ポイント低かった。また7割以下の評価のものが4人(15%)と、昨年度より3ポイント改善したが、ひきつづき底上げに努める。3.8を目標としたい。
明瞭な文字 ⑧	3.12	3.96	3.48	これまでより大きく低下。きれいではないが十分読める文字である。OHPと板書を併用して時間を有効に使い、乱筆を避けている。プロジェクターの不具合が2回ほどあったことが原因と考えられる。時間前早めに行って準備をしっかりとる。4.0を目標としたい。
明瞭な声 ⑨	4.4	4.38	4.1	横ばい。十分な音量と自負している。語尾にまで注意する。この評価を維持したい。
熱意 ⑩	4.12	4.27	4.05	ほぼ横ばい。十分な熱意をもって行っている。休み時間にずれ込まないように留意している。この評価を維持したい。
オフィスアワー ⑪	3.4	3.73	3.57	前回より大きくて以下。なかなか自ら質問を発しない。レポートを持ってきた際こちらから質問するようにしている。終了後に質問時間をとるという、目標が不十分だった。3.8を目標としたい。
予習・復習の時間 ⑭	3.72	3.65	3.24	上昇傾向。学科平均より0.9ポイント高い。範囲を指定して小試験形式で進める（毎回の演習のために約15問を解く必要がある）ので多くの予習をしているはずである。前回の質問をしたりして復習も行うようさらに努める。4.0を目標としたい。
満足度 ⑮	3.8	3.96	3.71	ほぼ横ばい。単なる演習だけでなく、講義で漏れた内容の補充や難解な内容の再説明も行い、理解を進めるよう務めている。更にこの方針で充実させる。4.0を目標としたい。
登録者数＝ 26 名： 受験者数A＝ 26 名： 単位取得者数B＝ 26 名： 比率（B/A）＝ 100 %				
総括 <ul style="list-style-type: none"> ・成績の評価基準： シラバスに従い成績は毎回の小テスト、期末試験、平常点で評価した。小テストは隣人による相互評価で40点満点、期末試験は60点満点、平常点は演習ノート、欠席・遅刻状況、授業への取り組み、口頭試問に対する回答などにより加減点した。総合的で、良い評価法と考えている。 ・学習目標の達成： 合格者の割合が100%であり、受験者の54%が8割以上の評価を取得しており、十分に学習目標を達成しているが、昨年度より7ポイント低かった。また7割以下の評価のものが4人(15%)と、昨年度より3ポイント改善したが、ひきつづき底上げに努める。 ・「授業参観報告書」“時間配分に改善の余地がある”を受けて： 問題数は若干多いと思う。そこで、1問を任意問題として優秀で余裕のある者には解かせる。任意問題の解説は行うが、評価からははずす、という案を考えている。 ・その他： 時間が不足気味なので、特に授業計画通り進むよう努め、終了後に質問時間をとりたい。 				

授業計画改善書（平成22年度前期講義・演習用）

9. 授業アンケート結果に基づいて、授業科目ごとに記載して下さい。
 10. 複数で担当されている科目は、アンケートに応じて代表者の方あるいは分担者が記載して下さい。
 11. この文書を9月24日（金）までに学科のFD委員に添付ファイルで送付して下さい。
 12. この文書は3年間保管して下さい。

記入年月日：平成22年9月24日

授業科目名：工学基礎—3

授業担当者：屋久島 繁

評価項目 項目番号	アンケートの評点			現時点での自己評価と改善の方策
	今回	前回	前々回	
理解 ④	3.82	3.88	3.75	評価点の目標値を4点として、毎年、新たな情報を加えたり、話し方を工夫するなどの対応はしているが、ここ3年間の評価は横ばいである。ただし、この項目に対しては毎年、学科平均を上回っていることから、来年も目標値は4に設定し努力を続ける。
教材等 ⑤	3.96	3.98	3.77	昨年と同様に、目標値を4と定めて、学生によりわかりやすい説明を心がけた。昨年に続き、その目標をほぼ達成していると考え、さらにわかりやすくするような工夫は続けていきたい。
宿題・レポート ⑥	4.05	4.31	4.07	目標とする評価点4点台をキープしているが、昨年よりも若干評価を下げた。今年は6回の小テストに加えてレポートも課外として加えたが、十分には評価に反映されていないようである。この原因については現状では不明であるが、当面は、同様の取り組みを続ける。
目標達成 ⑦	3.62	3.88	3.52	今回は、シラバスに記載する内容の90%程度の講義内容であった。これは、本講義の導入部で、シラバスには記載していない「公共工事のあり方」についての講義を加えたことによる。このことが、評点が下がった理由の1つとも考えられるが、この追加講義内容自体は重要なことなので、今後も続けることにし、シラバスの目標設定を少し変えたい。評価点の目標は今後も4とする。
明瞭な文字 ⑧	4.18	4.33	4.29	パワーポイントスライドを使用し、しかも一方的な講義にならないような工夫はしているつもりである。結果として、特に問題は出ていないと考えている。
明瞭な声 ⑨	4.47	4.49	4.39	問題はないと考える。
熱意 ⑩	4.44	4.51	4.57	目標を4.5と設定しており、今年はこれをクリアできなかった。ただ、高い評価は受けていると考えるので今後も熱意をもって授業にあたりたい。
オフィスアワー ⑪	3.53	3.65	3.48	昨年同様、授業後やオフィスアワーに質問に来る学生は確実に増えている。今回も昨年同様、ほぼ学科平均程度となっており、学生との対話を増やす工夫を続けたい。
予習・復習の時間 ⑭	3.05	2.84	2.96	当面の目標としている評価3を超えることはできたが、未だ学科の平均以下(0.98)であり、さらに工夫したい。今年は、これまで改善点の1つとして挙げていた「レポート課題」を取り入れ、これまでに比べ向上させることはできたが、更なる努力が必要である。
満足度 ⑮	4.05	4.16	3.91	2年連続で目標としていた4点台に到達したが、昨年より幾分下がっており、その理由を検証したい。
登録者数 = 58名 : 受験者数A = 57名 : 単位取得者数B = 47名 : 比率(B/A) = 81%				
総括				
<ul style="list-style-type: none"> 成績の評価基準：今回は、事前に学生に周知したうえで、レポート課題を加えてシラバスの内容を若干変更し、試験(60%)、小テスト7回(25%)、レポート(5点)とし、これに授業態度や出席状況なども考慮した平常点(10点)を加味して最終評価を行った。 学習目標の達成：合格率は81%であり、受験者の8割以上は学習目標を達成している。ただし、前々回の84%、前回の88%からは減少した。ただし、学生の満足度との比較では前回は下回ったが、前々回は上回っており、必ずしも対応していない。合格者の平均点は72点であり、前回並み(71点)である。 				

参考資料－7 授業参観報告書の例

平成22年度前期授業参観報告書

平成 22年 6月10日	
工学部授業参観報告書	
授業公開・参観科目： (学科名)	工学専門科目
授業公開実施日： 平成 年 月 日	平成22年6月10日
授業参観者名： (学部学科名)	桜島 次郎
本授業の改善に参考となる ご意見など	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の演習の授業を担当しているが、データ整理法についての重きの置き方に違いがあることが今回参観して分かった。演習することの意味を意識してもらうためにも、データ整理法の説明を加えていきたい。 ・授業の最後にまとめの解説と予習項目を指定している点は参考になったので、自分の授業に取り入れたい。
本授業に対するご感想など	大学・企業の研究・化学装置の設計の立場を意識させたデータ整理法を交えての講義なので、分かりやすかった。
その他	

平成22年度前期授業参観報告書

平成22年6月24日	
工学部授業参観報告書	
授業公開・参観科目： (学科名)	基礎工学－2
授業公開実施日： 平成 年 月 日	平成22年6月24日
授業参観者名： (学部学科名)	大隈 太郎
本授業の改善に参考となる ご意見など	約60名の学生が比較的小さめの部屋で講義を受けていた。授業の後半では、朝1時間目の講義ということもあってか、5、6名の学生が居眠りしていた。また、筆記具を手に持たないで話を聞いているだけの学生が(特に教室の後ろで)多かった。講義に使用するスライドが資料として配布してあるので、安心しているのだろう。配布資料について、一部分でも空欄にしておき、そこに書き込ませる、またはモノクロ資料にカラーでマークさせる、などで、講義内容がもっと頭に残るかもしれません。
本授業に対するご感想など	<ol style="list-style-type: none"> 1. 話し方が丁寧で落ち着いた講義、また、十分に準備された講義という印象であった。 2. 授業途中で、設問に対する複数解答例を示し、学生に正解を挙手で答えさせるなど、講義に参加させる工夫がなされていた。 3. スライドは、大きな文字で見やすく、また内容も整理してあると感じた。 4. スライドが次々に映し出されて説明が進むので、学生に伝えようとする情報量が多すぎて消化不良を起こすのではないかと、という感じもした。
その他	

平成22年度前期授業参観報告書

平成 22年 6月 8日

工学部授業参観報告書	
授業公開・参観科目: (学科名)	工学基礎—3
授業公開実施日: 平成 年 月 日	平成22年6月8日
授業参観者名: (学部学科名)	霧島 一郎
本授業の改善に参考となる ご意見など	講義での説明は簡潔かつクリアで、時間的余裕もあり、テンポが良く、総じて全てがよく計画された講義だった。遅刻者が多く、30分以上の遅刻者が4名(内、2名は終業間際の入室)いた。これは何らかの対処が必要であろう。大講義室のため、後部では声が聞き取りにくいところもあった。特に黒板側を向いているときにそうであった。
本授業に対するご感想など	ほぼ始業時刻に授業が開始され、前回の復習と補足説明が10分ほどあった。それを受けての演習問題が15分ほどあり、本論に入った。プロジェクターを中心に、それに教科書を引用したり、板書も用いたりして進められた。これら3者が計画的に効果的に使用されていると感じた。いずれも文字は最後部からでも良く見えた。講義での説明は簡潔かつクリアと感じた。開始当初に講義内容の資料配布があり、途中でも演習の資料が配布され、十分な情報量と感じた。残り15分でその回の講義は終わり、演習問題が行われた。また次回の簡単な紹介があった。講義途中で次回へのつなぎの話が盛り込まれ、興味を持つよう工夫されており、教育効果が高いと感じた。終業時刻前には全てが終了しており、全てがよく計画された講義だった。一限目のためか遅刻者が多く、30分以上の遅刻者が4名いた。何らかの対処が必要と感じた。
その他	電子講義ノートを教科書以外の資料も使って作成しており、また演習問題も自作してあった。演習が多いため理解も進むと感じた。自身の参考にしたい。

参考資料－8

平成21年度後期 中間授業アンケート

工学部では授業科目について各学期末に授業アンケートを実施しています。このアンケート結果を受けて授業の改善に努めているところです。今回は学期の中間にアンケートを行い、その結果を現在の授業に反映するため、皆さんの意見を述べて下さい。以下の点に関して率直な回答をお願いします。このアンケート用紙は教員の指示に従って必ず提出して下さい。

授業名： _____

担当教員名： _____

質問1 この授業で改善してもらいたいところがあれば、該当項目の□欄にチェックして下さい。

- | | | | |
|------------------------------------|---------------------------------|------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 説明が分かりにくい | | | |
| <input type="checkbox"/> 字や図表が見にくい | (<input type="checkbox"/> 黒板 | <input type="checkbox"/> OHP | <input type="checkbox"/> パワーポイント) |
| <input type="checkbox"/> 授業の速度 | (<input type="checkbox"/> 早い | <input type="checkbox"/> 適当 | <input type="checkbox"/> 遅い) |
| <input type="checkbox"/> 課題 | (<input type="checkbox"/> 多すぎる | <input type="checkbox"/> 適当 | <input type="checkbox"/> 少ない) |

その他改善を希望する点があれば記載して下さい。

質問2 これまでの授業で、よく理解できた内容を記載して下さい。

質問3 これまでの授業で、よく理解できなかった内容を記載して下さい。

農学部・

農学研究科

鹿児島大学農学部・農学研究科 FD 活動報告書

平成22年度

(2010)

鹿児島大学農学部 FD 委員会

平成23年3月

目 次

まえがき

第1節 平成22年度農学部FD活動の記録

1. 農学部FD活動組織（FD委員会の構成と活動状況）	1
2. 授業公開と授業参観の取り組み	3
3. 授業アンケートの改善	11
4. 農学部FDワークショップ	11
5. 学生による授業評価	
ー平成21年度後期から平成22年度前期の概要ー	25
アンケートグラフ	
2009年度 後期（講義・演習）【学部】	
質問項目ごとの授業形態別の比較	32
授業形態ごとの質問項目間の関係	36
質問項目ごとの受講者規模別の比較	42
受講者規模別特徴	48
2009年度 後期（実験・実習）【学部】	
質問項目ごとの授業形態別の比較	59
授業形態ごとの質問項目間の関係	63
質問項目ごとの受講者規模別の比較	71
受講者規模別特徴	76
2009年度 後期（講義・演習）【大学院】	
質問項目ごとの授業形態別の比較	85
授業形態ごとの質問項目間の関係	89
質問項目ごとの受講者規模別の比較	95
受講者規模別特徴	98
2010年度 前期（講義・演習）【学部】	
質問項目ごとの授業形態別の比較	102
授業形態ごとの質問項目間の関係	106
質問項目ごとの受講者規模別の比較	112
受講者規模別特徴	117
2010年度 前期（実験・実習）【学部】	
質問項目ごとの授業形態別の比較	126
授業形態ごとの質問項目間の関係	130
質問項目ごとの受講者規模別の比較	138
受講者規模別特徴	143

2010年度 前期（講義・演習）【大学院】

質問項目ごとの授業形態別の比較	152
授業形態ごとの質問項目間の関係	153
質問項目ごとの受講者規模別の比較	162
受講者規模別特徴	166

6. 平成22年度農学セミナー	172
-----------------	-----

第2節 全学FD活動への参加

1. 鹿児島大学FD委員会への出席	173
2. 全学FD活動への参加	175
3. 戦略的GPへの協力	183

少子化・多様化時代のFD活動

大学の教員は一般に教育スキルについての教育を受けていない。したがってこれも一般論だが、大学での教育は自己流である。自分がこれまで受けてきた教育の経験に基づいて自分で授業を組み立ててきた。これを組織的に改善し、経験だけでなく、学習に基づいて教育の体系化を図り、教育スキルを向上させようという取り組みがFD活動であると理解している。

しかも、少子化時代を迎え、大学全入時代が来たともいわれる今日、大学へ入学する学生の質や要求が多様化しているなかでのFD活動である。これまでは厳しい入学者選抜試験に合格した学生を、その才能を伸ばし、豊かな知識と感性を持った学士として輩出していくことが大学の教育目標であり、入学時点での学生の質がある程度保証されていたといっている。つまり質の高いものをより質の高いものへ教育するのが、大学であった。大学の使命は同じであっても、今日入学してくる学生は、一般選抜試験に合格してくる学生だけではなく、推薦入学、社会人入学の学生など質が多様化しているだけではなく、学生自体の大学に対する期待や要求も多様化している。その意味ではFD活動の対象も講義だけではなく、実習や実験、卒業研究なども含むものになる必要があるかもしれない。

また、各種国家試験への合格率や進路決定率、卒業率などの数値目標の達成度が問題にされるようになると、優秀な学生のみを対象とする教育ではなく、基準に達しない学生がいかに関心を満たすようにするか、その基準をどのように作り、明示するかということも課題となる。教員能力の向上が求められる。FD活動が一層重視されるゆえんである。

FD活動も始まってから10年近くになろうとしており、マンネリ化が懸念される反面、改善点もより明確になるように工夫されているように思われる。

来年度からは、農学部全体でMoodleが活用される事になっており、さらに改善が期待できる。

平成22年度のFD活動報告書を取りまとめるに当たり、労を執られた各先生方に深く感謝致し、本報告書が広く活用されることを願っております。

平成23年3月23日

農学部長 岩元 泉

第1節 平成22年度農学部FD活動の記録

1. 農学部FD活動組織(FD委員会の構成と活動状況)

委員長	曾根 晃一	(全学FD委員)
委員	岡本 新	(副教務委員)
委員	津田 勝男	(生物生産学科)
委員	花城 勲	(生物資源化学科)
委員	地頭菌 隆	(生物環境学科)
委員	田仲 哲也	(獣医学科)
事務担当者	木田 博明	(学生係長)
データ処理	池田 日出男	(技術職員)

第1回FD委員会 平成22年4月22日(木)

- 議 題： 1. 平成22年度FD委員会の行動予定について
2. 平成22年度前期農学部公開授業について
3. その他

第2回FD委員会 平成22年5月27日(木)

- 議 題： 1. 平成22年度FD活動経費について
2. 平成22年度前期農学部公開授業について
3. その他

第3回FD委員会 平成22年6月24日(木)(メール会議)

- 議 題： 1. 授業参観報告書(感想文)の依頼について
2. その他

第4回FD委員会 平成22年7月22日(木)

- 議 題： 1. 公開授業参観の感想文について
2. 大学院の授業アンケートのあり方について
3. 外部評価報告書について
4. その他

第5回FD委員会 平成22年9月30日(木)

- 議 題： 1. 後期の行事日程について
- (1) 公開授業(授業参観)について
 - ①公開授業(授業参観)の後期日程について
 - ②「公開できない科目」について
 - ③「授業参観の予約」について
 - ④「特に学生の満足度の高かった教科」について
 - (2) 農学部FDワークショップ・教育実習事後研究について
 - ①11月24日(水)14:30～ 201号教室及びセミナー室
 - ②講演者の依頼(附属中学校教頭)
2. その他

第6回FD委員会 平成22年11月25日(木)

- 議 題： 1. 大学院の授業アンケートのあり方について
- 2. FD報告書作成の方針・分担について
 - 3. その他

第7回FD委員会 平成22年12月24日(金)

- 議 題： 1. 大学院の授業アンケートのあり方について
- 2. FD報告書作成の方針・分担について
 - 3. その他

第8回FD委員会 平成23年3月17日(木)

- 議 題： 1. 平成23年度への申し送りについて
- 2. その他

2. 授業公開と授業参観の取り組み

農学部では、平成15年度後期より公開授業および授業参観の取り組みを実施している。平成17年度前期までは、農学部の全ての教育コースで1科目以上の公開授業を実施した。その際、各教育コースで公開授業世話役と公開授業担当者を決め、FD委員会は公開授業の案内をメールで全教職員に連絡し、授業参観者を募ることにした。一方、平成17年度後期からは、公開授業と授業参観が教員による教育の質の向上に果たす役割を認め、毎年度前期と後期それぞれに1週間FDウィークを設定し、全教員による授業公開と、1教員1科目以上の授業参観を行うことを義務づけている。

平成22年度は、平成22年4月22日に開催された平成22年度第1回農学部FD委員会において、例年通り、前期と後期に各1週間のFDウィークを設け、原則としてその期間中開講されている全授業科目（集中講義や特別な実習は除く）を授業公開の対象とすること、農学部の全ての教員に対し前期、後期あわせて1科目以上の授業参観を義務づけることを確認し、FDウィークの開催時期と期間について議論し、前期は7月5日（月）～9日（金）、後期は11月29日（月）～12月3日（金）とすることにした。

今年度からは、授業公開科目と授業参加希望科目の登録を、すべてFD-WE B行うように変更した。その手順について、5月19日の教授会で説明し、教員に周知した。

昨年度と同様に、学生の評価が高い授業科目を農学部の全教員に周知し、多くの教員にその授業を参観してもらうことで、各自、授業の質の向上を図ってもらうことにした。これらの授業の選抜は、以下のように行った。まず、学生の授業評価中の授業の満足度に関する質問事項で、「満足した」、「どちらかといえば満足した」という回答が100%であった受講者数が35名以上の授業科目を洗い出した。そして、それぞれの学科から、満足度が最も高かった授業科目を3科目選出した。選出された授業科目は、以下の通りである。

【前期】

生物生産学科：昆虫学（担当者：坂巻）、野生、実験動物学（担当者：吉田）、園芸発育生理学（担当者：久保）

生物資源化学科：動物細胞工学（担当者：侯）、代謝生化学（担当者：南）、植物性食品学（担当者：北原）

生物環境学科：森林政策学Ⅱ（担当者：遠藤）、木材材料学（担当者：服部）、森林気象学（担当者：井倉）

獣医学科：獣医内科学各論（担当者：遠藤）、微生物学Ⅱ（担当者：高瀬）、獣医外科学総論（担当者：三角）

【後期】

生物生産学科：生物統計学（担当者：下桐）、鑑賞園芸学（担当者：坂田）、害虫学（担当者：津田）

生物資源化学科：細胞分子生物学（担当者：玉置）、機器分析化学（担当者：徳永）、

食品部生物学（担当者：石橋）

生物環境学科：水利システム学（担当者：初井）、バイオマス資源学（担当者：岩崎）、
森林計測学（担当者：寺岡）

獣医学科：解剖学Ⅱ（担当者：松元）、放射線学（担当者：桃井）、薬理学（担当者：
宮本）

今年度も、授業公開は農学部教職員に対してのみならず、全学の教職員も対象にすることとし、鹿児島大学教育センターのホームページを通して、全学の教職員に公開授業科目を周知した。また、FD ウィークにどうしても希望した授業を参観が出来ない場合は、授業担当者に事前に連絡し、FD ウィーク以外でも授業参観が出来るように配慮した。

授業参観者と授業担当者は、授業終了後可能な限り授業参観で感じたこと、授業に対する感想などについてディスカッションを行うこととした。授業参観報告書は、FDWEBシステム上で作成・提出し、授業担当者に参観者の意見や感想が直接伝わるようにした。

授業公開と授業参観のスケジュールは以下の通りであった。

前期

5月19日：授業参観の手順についての説明（教授会）

5月20日～6月10日：公開不可能な授業科目調査

6月11日～：授業参観予約

7月5日～9日：授業公開（農学部FDウィーク）

後期

10月12日：公開授業の実施についてのお知らせ（メール配信）

10月10日～30日：公開不可能な授業科目調査

10月31日～：授業参観予約

11月29日～12月3日：授業公開（農学部FDウィーク）

本年度の授業公開科目は、前期177科目、後期161科目で、授業参観者数は、前期が23科目にのべ27人、後期が39科目にのべ65人であった。授業参観者数は前年度と比較して減少したが、依然として他学部と比較すると高いレベルを維持し、教員による相互の授業参観が定着いたことが伺える。また、平成22年度戦略GPのなかの高大教育連携支援事業の一環として、他大学や高等学校の先生に対する授業公開を、後期の農学部FDウィーク中に実施した。害虫学（担当者：津田）と森林動物学（担当者：曾根）を公開し、志学館大学、鹿児島中央高校、甲南高校、錦江湾高校、玉龍高校の教員が参観した。授業後、教育、授業方法などについて議論を行った。

公開授業参観について

生物資源化学科 花城 勲

平成22年度前期公開授業の中から、木曜日2時限目の「動物細胞工学」の授業を参観した。本講義は生物資源化学科3年生対象の講義で、食品機能化学コースは必修、生命機能化学および焼酎学の両コースでは専門の選択科目となっている。また、本講義を参観した理由のひとつは、前年度の受講生による授業評価アンケートの結果に基づいて、評価結果の高かった科目を各学科の提供科目の中から複数ずつ抽出して教員へ紹介するという、今期より始められた試みで、その該当科目のひとつとなっていたことである。受講生による評価で高い評価を受けた授業とはどのようなものか、大変興味を持って参観した。

参観した回では、その前回講義の内容に関する受講生の質問に対する解説から始まった。この学生からの質問は、授業の最初に質問用紙を配布して授業終了後に回収するという方法を取っていた。この方法では学生が授業内容について疑問に思った点を広く収集するという点では、よい方法のひとつであると思われる。また、講義内容の理解度の不十分な点は何か、また、それが受講生の多くに共通する点なのかどうか、などの傾向を捉えるのにも効果的であると思われる。一方で、多岐に渡る質問事項が寄せられる場合もあるであろうが、その全てに解説を再度加えることは時間の制約もあり、難しいであろう。今回は8項目の質問に対する解説を行っていたが、寄せられた質問内容の取捨選択や解説に費やす時間の配分などに配慮されているようであった。視聴覚機器の利用について、本講義ではホワイトボードとプロジェクターを併用していたが、教員の話の内容にそれぞれ適した利用法であった。プロジェクター利用の場面では、映写内容のプリントも配布されていたが、このプリントが手元にあることで、受講生は教員の話をお聴くことに意識を集中させられる環境をつくるのに役立っていると思われる。また、映写内容には図が多用されており、学生の理解を助けるのに大いに役立っている様子であった。

以上、今回の授業参観を通して感じたことは、受講生が講義内容について「分かった」という感覚が持てることが、アンケート結果における高評価に通じているのではないかと、ということであり、今回参観した授業の中にはそのための仕掛けが確かにあった。この点については他の高評価を受けている授業科目との共通点の洗い出しや、アンケート中の他の評価項目との関連性の調査などによって一般化できれば、他の教員にとってより良い参考材料になると思われる。他方、現行の授業評価の方法等について、ある程度の年数を継続して実施してきているが、継続的な見直し、改善なども必要ではないかと思われる。例えば評価者の人数・質や、評価結果をどの程度重視して対応策を考えるか、などの点について、定期的な検証、検討等が必要ではないだろうか。



授業参観風景

公開授業参観について

生物環境学科 地頭菌 隆

授業担当教員に対する感想

- ・最初に前回の復習をしながら、学生の質問・疑問点に丁寧に答えているのはよかったです。
- ・ゆっくり説明しているのでわかりやすかったです。
- ・途中で学生に質問したりして双方向の授業を心がけていました。
- ・鹿児島島の気象データや災害など、身近な話題を取り入れて説明しているので、わかりやすく、興味がわきました。

受講している学生に対する感想

- ・教員の話をよく聞いているが、手が動いていない学生が多かったようです。
(私の授業もそうですが)
- ・遅刻する者、授業中に入出入りする者は少なかったです。
- ・社会人(?)の受講生から授業途中で何回も意見・質問が出て活気がありました。(意見・質問の内容は別として)

自分の授業に活かしたい点

- 先生の話，スクリーン，キーワードを書き入れるプリントをうまく連携させて授業を進める方法は，学生の注視を継続させることにもなり，たいへん参考になりました。（私も使ってみよう）

- 「出席簿 兼 ミニレポート」は学生の質問・疑問点をくみ取りやすい方法です。

その他

- 受講生が非常に多く，双方向の授業の実現がたいへんのようにでした。

- 「気象と災害」がテーマでしたが，最新の情報を取り入れたらもっと理解しやすいかもしれません。



授業風景

学生に質問しながら授業を進めていた。

公開授業参観に参加して

農学部獣医学科 松尾 智英

昨年12月に着任し、公開授業参観は初めての参加でしたが、専門が寄生虫病学ということで、私自身の職務上も実験動物に関してはしっかりとした知識が必要となりますので、少しでも勉強させていただきたく実験動物学を参観致しました。

今回の講義内容は実験動物およびそれに由来する人獣共通感染症のテーマで、専門の寄生虫以外の感染症の話も聞くことが出来て有意義でした。授業は配布された資料とスライドを基にスムーズに解説がなされており、要点を明らかにした説明は分かりやすいものでした。また、実際の発生例などに関しても、ごく最近の資料なども含めてよく準備されていました。

学生に関しては、おおむね全員がきちんとメモを取りながら聞いている印象でした。実際に実験動物を扱う現場のタイムリーな情報を提供するというスタイルの講義は学生の興味を引くものなのだと思います。

講義の最後に、スライドで問題が映し出され、学生一人一人に一問ずつ口頭で答えさせるという形式は、学生を「参加」させるという点で有意義だと感じましたが、これは自分の講義に不足している部分かもしれません。今後の参考にさせていただきたいと思います。寄生虫病を含む感染症について、このように他の講義でも解説がされているというのを目の当たりにし、自分の寄生虫病学の講義をリンクさせ、より詳細な情報を伝えることで総合的に価値ある内容にしていく必要性を実感しました。



授業参観風景

授業参観報告

生物生産学科 津田 勝男

平成 22 年度後期は館野隆之輔先生の「森林環境学」の授業を参観した。自分の専門とは直接の関わりはないが、間接的には多くの関わりがあって個人的にも興味がある分野でもある。

授業は、先ず前回までのあらすじを概説したうえで「今日の狙い」を説明してから始められた。授業内容の位置づけが確認できるので、分かりやすいと感じた。授業の形式は、板書せずにスライドで項目を映しておいて、それぞれの項目を説明していくという方法で進められた。この方法であれば板書している間に学生に背を向けることはないと感じた。各項目はしっかりと分かりやすく構成されており、ノートやメモを一切見ないで話をする講義は共感できた。1枚1枚のスライドに十分な時間を確保していたので、学生がこれらの項目を書き写すのに苦勞することはないと思った。ただし、手の動きを見ていると、項目を書き写しているだけで、教員の説明内容を書き留めている者は少なかった。教員は詳しくて分かりやすい内容で説明していたので、その時は分かったつもりになると思われるが、後でノートを読み返した時に覚えているのかは疑問に感じた。

授業内容は十分に準備されていて説明も理路整然としており、非常に分かりやすかった。自分自身は十分に理解できたつもりであるが、受講している学生はどれくらい理解できたのかが気になった。



授業風景

公開授業に参加して

生物生産学科 一谷勝之

公開授業の期間を利用して後期に二つの講義を聴講した。

一つは今年度末に退職される方の講義で、自分の専門からはやや離れるが、この機会を逃すとなかなか聞けなくなる、ということで受講した。その日は、通常の講義から離れて、一流学術雑誌に掲載された論文の紹介であった。英語で書かれた論文の図表の内容を理解するのは学部生にとっては困難かもしれない。しかし、授業で聞いてすぐ理解できるような内容だけが勉強ではなく、授業が終わってからじっくり考えさせるという講義担当者の意図があったのであろう。このような講義は期末の学生アンケートの評価は下がるかもしれないが、卒業時の評価は高くなるかもしれない。

もう一つは、自分の専門に近く、自分の講義を受講した学生が次の年以降に受講するであろう講義であった。自分の講義内容と重なっている部分が少しあることに気づいた。科目ごとに異なる内容を講義する必要はなく、むしろ若干重なりを持たせつつ講義を進めた方が学生にとっては復習になり、これまでの知識の再確認になり、有益であると思われる。

現在、学部改組が議論されており、今後のコースをどうするかも重要な議題の一つである。10年ほど前に自分が赴任したときには担当講義が既に決まっていた、他の講義名や開講時期を見たり、前任者の資料を参考にしたりするだけで、特に関連する講義の担当者と議論して、講義内容を決めることはなかった。しかし、改組に際して、卒業までに学生ができるだけ成長するコースを本気で作るためには、コースの体制が決まってからの中身一個々の担当講義内容だけでなく、コース全体の講義・実験内容の体系付けも重要になると思われる。その流れの中で、講義内容の重複（≒復習）の割合が決まるのだろう。もっとも、学生の理解度は年ごとに違うので、なかなか意図したとおりにならないかもしれない。



授業風景

3. 授業アンケートの改善

平成22年度には、学生の授業評価について検討を加えた。大学院の授業は、学部の授業に比べ受講者が著しく少ないので、学部のような数値化による評価が難しいし、質問項目も実態にそぐわないものがあるなどの意見が出され、審議した結果、①質問事項を絞り込み、具体的な記述を増やす、②質問は特論に限定することにした。12月24日開催の第7回農学部FD委員会で、アンケートは以下のようにすることが決定した。

質問事項

4 択の回答と自由記述の組み合わせ

- ・この授業は知力・学力の向上に役立ちましたか？(204)
(そう思う、どちらかというと思う、あまりそう思わない、そう思わない)の4択
知力・学力の向上に役立ったと思われる点について、具体的に記述してください。

4 択の回答のみ

- ・使用したテキストや教材は適当であると思えましたか？(302)
(そう思う、どちらかというと思う、あまりそう思わない、そう思わない)の4択

自由記述のみ

- ・この授業が修士論文作成にあたり役に立つと思った点について記述してください。
- ・この授業で改善してもらいたい点や続けてもらいたい点があれば、具体的に指摘してください。

なお、授業の開講状況、授業への出席状況、予習・復習の状況についての質問は削除する。
このアンケートは、平成23年度前期から実施することに決定した。

4. 農学部FDワークショップ

農学部FDワークショップ開催の経緯

平成22年度の農学部FDワークショップの実施にあたっては、平成22年4月22日に開催された平成22年度第1回農学部FD委員会で、教育実習終了後の11月に実施することを決定した。実施内容については、昨年度までの方式を踏襲し、教育実習の事後指導と共同で講演会を開催し、その後学生たちから授業に対する感想や要望を聞き、教員と学生の間でよりよい授業とは？どうすればよりよい授業にできるのか？などの点について意見交換を行うことにした。

9月30日開催の第5回農学部FD委員会で審議を経て、FDワークショップを11月24日14時30分から実施することを決定した。また、講演会の講師を鹿児島大学教育学部附属小学校の永田孝哉先生にお願いすることにした。

農学部FDワークショップの実施

当日は教育事後指導対象学生29名の学生(2名欠席)と10名の教員が参加した(参加者は別表のとおり)。まず、曾根晃一農学部FD委員長から、教育実習事後指導と農学部FD講演会・FDワークショップを共催した目的と当日のスケジュールの説明があった。つぎに、津田勝男農学部教務委員長から教育実習事後指導が成された。次いで講演に移り、最初に鹿児島大学教育学部附属小学校教頭永田孝哉先生から『学校の先生に求められるもの』と題する講演があった。その後、参加者全員が5つの班に分かれ、教育実習の体験をもとにした魅力的な授業とは？大学の授業についてどのように感じるか、改善点は何かについてディスカッションを行った。約1時間のディスカッションの後、各グループの代表がグループで出された意見を発表し、最後に曾根晃一農学部FD委員長が全体を総括して、17時過ぎに終了した。

各班でのディスカッションで出された内容について、以下に示す。

テーマ

- ① 教育実習で感じた教えることの「難しさ」や「楽しさ」について
- ② どのような工夫をして教えたか。
- ③ 大学の講義(授業)と中学校・高校での授業の「違い」や「差」について
- ④ 大学の講義(授業)に対する「要望」又は「改善すべき点」について
- ⑤ その他

第1班

- ① 教育実習で感じた教えることの「難しさ」や「楽しさ」について
 - ・ 生徒を飽きさせない授業の展開が難しい。
 - ・ 生徒から予想外の反応があったときは大変うれしい。
 - ・ 生徒の理解度の差の見極めが難しい。
- ② どのような工夫をして教えたか。
 - ・ 板書する図のディテールの工夫、板書を書き写すための時間の確保を工夫した。
 - ・ 生徒が考えやすい質問に心がけた。
 - ・ 実験では、体感できるようにした。
- ③ 大学の講義(授業)と中学校・高校での授業の「違い」や「差」について
 - ・ 中学校、高校の授業は、受動的で生徒全員に理解させる工夫がある。大学は、学生に自由・責任があり授業時間内の学生とのやり取りもなく、長い授業時間で深く学べて能動的。
- ④ 大学の講義(授業)に対する「要望」又は「改善すべき点」について
 - ・ 講義中の質疑応答があってもよい。

- ・ パワーポイント多用の授業では、書取る時間が不足する。
- ・ 出席の取り方を統一して欲しい。
- ・ 小テストなどで最低限の知識の定着をさせて欲しい。

第2班

- ① 教育実習で感じた教えることの「難しさ」や「楽しさ」について
 - ・ 専門を一年生に教えること、生徒との接し方、興味を引く教え方、板書のタイミングと時間の取り方、学年毎に教える内容が異なる等が難しい。
 - ・ 生徒と年令が近い相談相手になれたこと、授業感想を聴くこと、生徒が理解してくれて交流が深まったこと等が楽しかった。
- ② どのような工夫をして教えたか。
 - ・ メリハリのある授業を心掛けた。
 - ・ サンプルを持込むなど生徒の注目を引くような授業にした。
 - ・ ディスカッション的に授業を行い、生徒に積極的に参加させるよう工夫した。
 - ・ 生徒の身近な話題を取り上げ、答えられるような質問を用意するよう工夫した。
 - ・ チョークの色で重要度を分けた。
 - ・ 授業開始の話題で生徒を引き付ける工夫をした。
- ③ 大学の講義(授業)と中学校・高校での授業の「違い」や「差」について
 - ・ 大学は、教える立場のものが中心で読むだけの講義、理解度を深めるには教える側が丁寧でなく甚だ不親切なものである。
 - ・ 中学校・高校は、生徒を引き付け参加させる講義で授業を受ける立場のものが中心、教える内容が限られ、生徒の理解度を重要とした授業。
- ④ 大学の講義(授業)に対する「要望」又は「改善すべき点」について
 - ・ オフィスアワーを使いやすくして欲しい。時間が有効になっていない。
 - ・ 質問をしてバカにされると二度と聴く気がしない。
 - ・ 先生方が時間にルーズ。
 - ・ 休講が突然で、補講も設定が一方的である。(掲示板で知らせたら「決定」とは如何なものか。)
 - ・ 小テストの結果を実名で公表するのは、プライバシーの侵害ではないか。

第3班

- ① 教育実習で感じた教えることの「難しさ」や「楽しさ」について
 - ・ 生徒と一緒に部活の定期戦の応援をしたこと、理解した反応があったこと、挙手して発表したこと、質問をしたこと等が、楽しかった。
 - ・ 言葉遣い、朝礼の進行、指導案の作成、時間の配分、やる気の無い生徒の扱い、他の先生と

の付き合い等が難しかった。

② どのような工夫をして教えたか。

- ・ 模型、プリント作成、写真や図、本物を使う工夫をした。
- ・ 事前に板書しておいた。
- ・ 大きな声を心がけ、授業の感想を書いてもらった。

③ 大学の講義(授業)と中学校・高校での授業の「違い」や「差」について

- ・ 中学校・高校では、授業時間が、大学の半分。
- ・ 中学校・高校は、生徒との距離が近い。
- ・ 中学校・高校では、生徒に問いかけながら授業を進めているが、大学は、講義を聴いて学生が考える。
- ・ 大学では、パワーポイントが多いが、中学校・高校では板書。

④ 大学の講義(授業)に対する「要望」又は「改善すべき点」について

- ・ 講義(授業)をもっと元気にして欲しい。
- ・ その時間になにを伝えるか目標を明確にし、教える内容を理解させる意識、システムづくりを工夫して欲しい。
- ・ 配布資料・教科書・講義の内容を合致させて欲しい。

第4班

① 教育実習で感じた教えることの「難しさ」や「楽しさ」について

- ・ 授業の時間配分が難しい。
- ・ 難しい質問に答えられなかった。
- ・ 興味のない生徒へ興味を持たせるのは難しい。
- ・ 話したい内容を時間内にまとめるのは難しい。
- ・ 寝ている生徒などへ授業内容を平等に伝達するのが難しい。
- ・ 放課後、大学のことや部活のことで話しかけてくれたことがうれしかった。
- ・ 先生と生徒の一言日記のやり取りが楽しかった。
- ・ 実習生同士の助け合いがうれしかった。

② どのような工夫をして教えたか。

- ・ 板書の代わりに紙に書いて貼る工夫。
- ・ 板書は、1枚の黒板に納まるように工夫した。
- ・ カラフルに板書するよう工夫した。

③ 大学の講義(授業)と中学校・高校での授業の「違い」や「差」について

- ・ 中学校・高校は、時間の配分がはっきりしている。
- ・ 中学校・高校は、板書もしっかりとっている。
- ・ 授業は、大学は、一方通行で中学校・高校はリアクションをとっている。

- ・ 中学校・高校は、生徒の興味を引くことに必死、生徒中心の授業、授業の準備が多い。
- ④ 大学の講義(授業)に対する「要望」又は「改善すべき点」について
 - ・ 教育実習・事後指導をもっと早い時期にして欲しい。
 - ・ 90分授業は、長い。
 - ・ 板書が単語のみでわけの分からない板書になっている。
 - ・ 板書の文字がきたない。改善されていない。

第5班

- ① 教育実習で感じた教えることの「難しさ」や「楽しさ」について
 - ・ 教職科目を理解するのは難しい。
 - ・ 生徒によって理解度が違うので予定通りにいかない。
 - ・ 伝達することは難しい。
 - ・ 時間配分と関心の引き付け方が難しい。
 - ・ 生徒とのコミュニケーション、距離感、視線をどこに置くか難しい。
 - ・ 自分を頼ってくれるとうれしい。
 - ・ 短期間で生徒の個性を知るのは難しい。
 - ・ 実験の再現性が難しい。
 - ・ 実験結果がうまくいった時、感動していたのでうれしかった。
- ② どのような工夫をして教えたか。
 - ・ 分子模型を使って分子構造を説明した。
 - ・ 質問をして生徒を退屈させないように工夫した。
 - ・ コミュニケーションのために生徒の名前を覚えるよう努力した。
 - ・ できない生徒をできるだけフォローした。
 - ・ 授業開始前に絵などのモデルを準備した。
 - ・ 担当する先生の引継ぎを大切にした。
 - ・ 注意すべきことと褒めるべきことについてメリハリをつけた。
- ③ 大学の講義(授業)と中学校・高校での授業の「違い」や「差」について
 - ・ 教える側も教えられる側も意識が違う。
 - ・ 大学では、発信も受信も意識が低い。
 - ・ 授業は、大学は、一方通行で中学校・高校はレスポンスを大事にしている。
 - ・ 到達目標が、中学校・高校は明確である。
- ④ 大学の講義(授業)に対する「要望」又は「改善すべき点」について
 - ・ 教員も学生目線で授業を行って欲しい。
 - ・ 大学に入ってからモチベーションをキープできなくなっているのを、大学卒業のゴールを明確にすべきである。

- ・ 声をおおきくして欲しい。
- ・ 授業に引き込む工夫が欲しい。

また、永田先生の講演に際し配布された資料を掲載する。各講座、教育コース、学科での教育内容やシラバスの点検に参考にさせていただければ幸いである。



永田 孝哉先生による講演



学生と教員によるグループ討論・意見交換



学生と教員によるグループ討論・意見交換



学生と教員によるグループ討論・意見交換



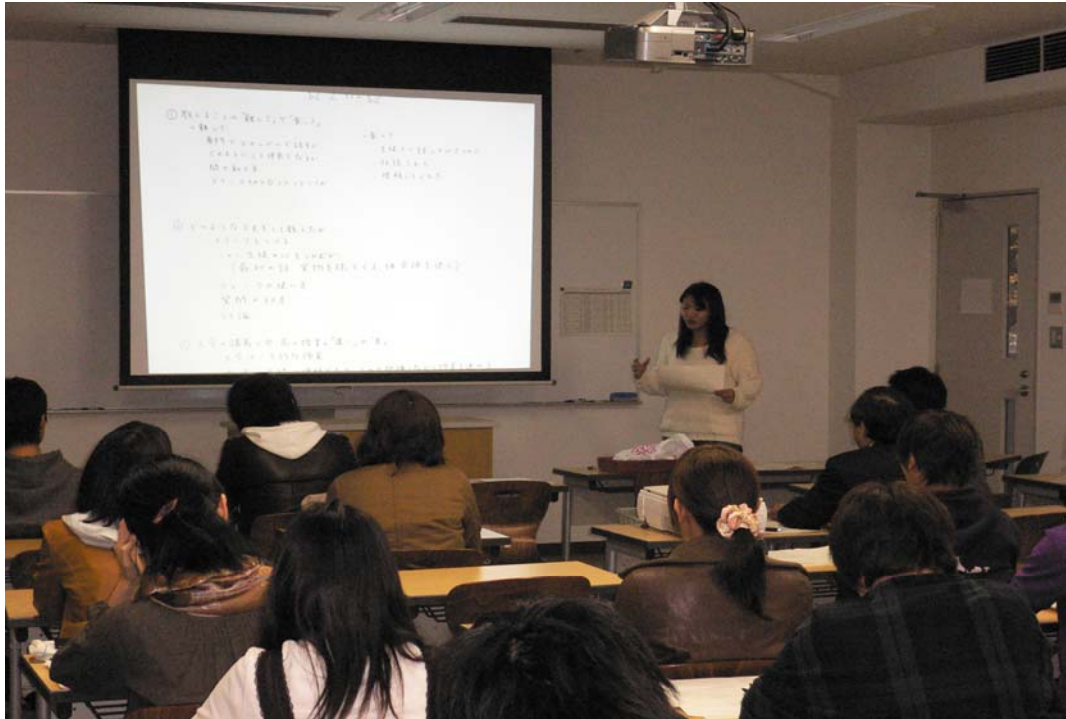
学生と教員によるグループ討論・意見交換



学生と教員によるグループ討論・意見交換



グループでの討議内容の紹介



グループでの討議内容の紹介



グループでの討議内容の紹介



グループでの討議内容の紹介



グループでの討議内容の紹介

平成22年度 FDワーケーション教育実習事後研究グループ分け

2010/11/5

平成22年11月24日(水)
共通棟 201号教室

No	グループ別	セミナー室番号	担当教員	実習県	実習学校名	実習校種	教科	科目	学 科	コース	学年	学籍番号	氏 名	性別	
1	1班 (6名)	21	花城先生(資源) 寺岡先生(環境)	鹿児島県	鹿児島県立加治木高等学校	高校	理科	(生物)	生物生産学科	病害虫制御学	4	3407210070	伊藤由香	女	
2				長崎県	長崎南山高等学校	高校	理科	(生物)	生物生産学科	家畜生産学	家畜生産学	4	3407210365	笹山琢洋	男
3				山口県	下関市立垢田中学校 山口県立下関西高等学校	中学校 高校	理科	(生物)	生物生産学科	園芸生産学	園芸生産学	4	3407210580	二宮隆徳	男
4				鹿児島県	鹿児島県立川内高等学校	高校	理科	(化学)	生物資源化学科	焼酎学	焼酎学	4	3407220076	井ノ下友加	女
5				鹿児島県	鹿児島県立松元中学校	中学校	理科		生物環境学科	環境システム学	環境システム学	4	3407230386	田中健一	男
6				鹿児島県	鹿児島県立武岡台高等学校	高校	理科	(生物)	生物環境学科	森林管理学	森林管理学	4	3407230411	中島彩夏	女
7	2班 (6名)	22	岡本(新)先生(生産) 川口先生(獣医)	鹿児島県	志學館高等部学校	高校	理科	(生物)	生物生産学科	病害虫制御学	4	3404210782	松下智恒	男	
8				長崎県	長崎県立諫早農業高等学校	高校	農業		生物生産学科	家畜生産学	家畜生産学	4	3407210113	植田尚子	女
9				熊本県	熊本県立八代高等学校	高校	理科	(化学)	生物生産学科	園芸生産学	園芸生産学	4	3407210534	中村 萌	女
10				大分県	大分県立大分上野丘高等学校	高校	理科	(化学)	生物資源化学科	食品機能化学	食品機能化学	4	3407220316	泊 奈緒子	女
11				熊本県	熊本県立矢部高等学校	高校	農業		生物環境学科	森林管理学	森林管理学	4	3407230297	下田一之	男
12				大阪府	大阪府立八尾高等学校	高校	理科	(生物)	生物環境学科	森林管理学	森林管理学	4	3407230439	仲野翔太	男
13	3班 (6名)	23	津田先生(生産) 玉置先生(資源)	大分県	大分県立山香農業高等学校	高校	農業		生物生産学科	園芸生産学	4	3407210276	北 大志	男	
14				福岡県	福岡県立小倉高等学校	高校	理科	(化学)	生物生産学科	農業経営経済学	農業経営経済学	4	3407210356	佐々木智暁	女
15				鹿児島県	鹿児島県立市来農芸高等学校	高校	農業		生物生産学科	病害虫制御学	病害虫制御学	4	3407210463	鶴屋健太	男
16				熊本県	熊本県立玉名高等学校	高校	理科	(生物)	生物環境学科	森林管理学	森林管理学	4	3407230388	滝下裕己	男
17				鹿児島県	鹿児島県立龍高高等学校	高校	理科	(生物)	生物環境学科	地域資源環境学	地域資源環境学	4	3407230626	山口愛子	女
18				鹿児島県	出水中央高等学校	高校	理科	(生物)	生物資源化学専攻	焼酎製造学	焼酎製造学	M1	3410820203	吉田友美	女
19	4班 (6名)	24	曾根先生(環境) 岩井(久)先生(生産)	熊本県	熊本県立阿蘇清峰高等学校	高校	農業		生物生産学科	作物生産学	4	3407210267	河野 遼	男	
20				熊本県	熊本県立済々黈高等学校	高校	理科	(生物)	生物生産学科	家畜生産学	家畜生産学	4	3407210605	高野敏宏	男
21				愛媛県	愛媛大学附属高等学校	高校	農業		生物生産学科	農業経営経済学	農業経営経済学	4	3407210777	八木香菜子	女
22				宮崎県	宮崎県立宮崎南高等学校	高校	理科	(生物)	生物資源化学科	生命機能化学	生命機能化学	4	3407220343	原 礼子	女
23				鹿児島県	鹿児島県立志布志高等学校	高校	理科	(化学)	生物環境学科	環境システム学	環境システム学	4	3407230617	八木康介	男
24				鹿児島県	鹿児島県立伊集院高等学校	高校	理科	(生物)	生物環境学科	森林管理学	森林管理学	4	3407230733	木之瀬佳菜	女
25	5班 (5名)	34	田中先生(獣医) 中川先生(環境)	鹿児島県	鹿児島県立市来農芸高等学校	高校	農業		生物生産学科	作物生産学	4	3407210131	内田惇平	男	
26				熊本県	熊本県立八代高等学校	高校	理科	(生物)	生物生産学科	家畜生産学	家畜生産学	4	3407210392	菅村 容子	女
27				福岡県	福岡県立小倉高等学校	高校	理科	(化学)	生物環境学科	生産環境工学	生産環境工学	4	3407230143	大島 卓	男
28				熊本県	熊本県立宇土高等学校	高校	理科	(生物)	生物環境学科	森林管理学	森林管理学	4	3407230288	佐藤政宗	男
29				鹿児島県	鹿児島県立鶴丸高等学校	高校	理科	(生物)	生物生産学専攻	病害虫制御学	病害虫制御学	M1	3410810092	小磯愛美	女

「学校の先生に求められること」

平成22年11月24日

鹿児島大学教育学部附属小学校

教頭 永田 孝哉

はじめに

- 「夢と希望+志」 ○なぜ教師になりたいのか→「働く」という意味から考える。

1 教師(学級担任)として

- 学校経営案→学年経営案→学級経営案(学級目標の設定) ▲学級王国
学習指導・生徒指導・保健指導, 学級事務(迅速・適正・美), 環境整備, 学年との連携,
保護者(学級PTA)・地域との連携+学校の組織人として校務分掌や地域活動へ取組も
PDCAサイクルを生かした学級経営(評価・説明責任・改善プラン)
- 学級担任としての一日
登庁してから退庁まで(退庁してからも…どこまでも先生)
※演習①「朝の時間の様子」
- 学級担任としての一年
最初の出会ってから別れまで(担任ではなくなっても…)

2 学級づくり

- 安全・安心な学級づくりがベースとなる。(命を守り, 命を輝かせる)
- 特別支援教育・人権教育の視点
- 一人一人が大切にされる学級(オンリーワン), 向上心に満ちた学級(ナンバーワン)
【認め合い, 励まし合い, 語り合い→共感と共有, 時間と空間と仲間=人間】
【担任「1:40の視点と1:1×40の視点」(観察力・判断力・行動力)・】
※演習②「担任の言動で感動したこと, 勉強になったこと, etc…」

3 地域社会・保護者との連携

- 子どもの思いはもちろん, その背景にある親の思いがあることを忘れない。様々な家庭環境。
- PTA活動は, 活動であり仕事ではない。学校教育への理解, 感謝の気持ちと生涯学習の視点。
- 地域の中の学校。地域が子どもを育てる。進んで参加する教師でありたい。人を知ることは, 自分の人生を豊かにする。

4 学級担任として【信頼される担任になるために】

- 教師であり(使命感, 専門的な知識と実践力), 社会人であり(コモンセンス, コンプライアンス, コミュニケーション), 一人の人間(柔軟なライフスタイル)である。
<どれが重要ではなく, バランスよく身に付けていくことが大切>
人間性(ベース)・職責感または使命感(モチベーション)・専門性(レベル)
- 子ども目線を大切にする。迷ったら, 子どものためになっているかを常に問え!
※演習③「こんなとき, 担任だったらどうしますか。いじめトラブル。」

おわりに

- ① 「情熱」のある教師でありたい
子どもたちの未来を考え, いつも子どもと真剣勝負することを大切にしたい。叱るときは叱り, 認めるときは認める教師でありたいと思います。「子どもが好き」は当たり前であり, やはり「教育が好き」でありたいと思っています。
- ② 「感動」する心をもつ教師でありたい
子どものちょっとした成長に感動できる教師でありたいと思います。また, 子どもと共に感動できる教師でありたいと思います。そしてその感動をきちんと言葉で子どもたちに伝えられる教師でありたいと思っています。
- ③ 「謙虚」に学ぶ教師でありたい
教師として学ぶ姿勢を忘れたくないと思います。経験年数から身に付いた考えを絶対と思いがちですが, やはり「自分はまだまだだなあ」と思う姿勢を大切にしたいと思っています。実践家であり研究者でもありたいものです。

**平成22年度農学部FDワークショップ「教育実習事後指導」
「これまでの先生とのかかわりで心に残っている言動」**

- お前は弱い人間だ。けれど、強い人間はいない。自分に負けるな。
 - 英語の先生が詩の読み聞かせをしてくれた。病気と闘いながら授業を続けてくれた。
 - 薬で治らない病気。福沢諭吉「自由とわがままの界」。
 - お前は何でも進んでやってくれるから先生は本当に助かるよ。でも、本当に嫌なことはみんなで決めような。みんなの学級なんだから。
 - 人が困っているときは、すぐに助けない。
 - 人生において、いろんな選択で悩んだときは難しい方を選び。
 - 雨の降った日の翌朝、部活動の顧問の先生が自ら水抜きをしていた。
 - やりたいことと、できることは違う。
 - 朝礼のとき、いつも励ますような言葉を言ってもらった。
 - クラスで友達ノート隠しがあったとき、先生が怒らずに泣いて話をした。
 - 友人が勝手に自分の宿題を写したとき、最初自分も叱られたが、事情を知った先生が、自分のこれまでの取組を認めてくれると同時に垂直に頭を下げて叱ってしまったことを謝ってくれた。
 - 進路のことは気にしなくてもいいよ。また遊びにおいて。
 - アクションがなければリアクションはない。
 - 試験は本番じゃなくて練習なんだから、本番でがんばれ。
 - これからの先の人生で壁にぶち当たることもあるだろう。そのときは喜びなさい。頑張っていない者に壁は現れないのだから。
 - 合唱コンクールで歌の先生を呼んでくれた。
 - 人の道を踏み外した際、本気怒ってくれた。
 - 自分がされて嫌なことは、人にしてはいけない。
 - 人をいじめたり悪口を言ったりする人は、可哀想な人。人を悪く言わないと自分を保てない。そんなみじめな人から言われたことなんて気にするな。
- ※ 学生のみなさんが書かれた分を一覧にしました。それぞれに参考になれば幸いです。表現を若干変えているところもあります。御了承ください。

5. 学生による授業評価 ー平成 21 年度後期から平成 22 年度前期の概要ー

【平成 21 年度後期】

農学部

(講義・演習)

1. 授業形態別の比較

講義と演習について比較すると、質問 101, 102, 103, 201 および 202 において、演習の方が講義より授業に対して前向きな回答が得られている。特に質問 201「この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。」については、授業形態が異なるとはいえ、講義よりも演習に対する受講生の高い期待が伺える。

2. 受講者規模別の比較

質問 101 の出席状況については受講者規模による違いは認められない。しかし、その他の設問については受講者規模が大きくなるに従いネガティブな意見が多くなっている。

(実験・実習)

1. 授業形態別の比較

授業形態間では、特に違いは認められない。

2. 受講者規模別の比較

質問 102「この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。」について、5人以下ではほぼ 100%が読んでいるのに対し、その他の受講者規模ではすべて 50%に満たない受講者しか読んでいない。この傾向は質問 103「この実験・実習について、1 コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。」についても同様である。

大学院

(講義・演習)

1. 授業形態別の比較

質問 102 および 103 において、講義と演習では逆の回答となっている。

2. 受講者規模別の比較

すべての質問について受講者規模間に大きな差は認められない。

【平成 22 年度前期】

農学部

(講義・演習)

1. 授業形態別の比較

質問 102 および 103 において、講義よりも演習の方が授業に関する参考書、論文、雑誌を読んでおり、結果的にこれは予習や復習の時間に反映されている。

2. 受講者規模別の比較

質問 101「この授業の出席状況を教えてください。」において、受講者が増えるに従い出席率が良くなっている。これと対照的に、質問 103 において予習および復習にかかる時間は、受講規模が多くなるに従い減少傾向にある。

(実験・実習)

1. 授業形態別の比較

授業形態間では、特に違いは認められない。

2. 受講者規模別の比較

質問 301「この実験・実習はシラバスに沿って進められましたか」において、5人

以下では 100%「そう思う」という回答であるが、6人以上になるとそう考える受講生は 50%前後を推移している。

大学院

(講義・演習)

1. 授業形態別の比較

質問全体をとおして、講義より演習の方がポジティブな回答が得られている。特に予習および復習の取り組みは、圧倒的に演習の方が時間をかけている。

2. 受講者別の比較

受講人数の多い、少ないに関わらずほぼ同じ回答が得られている。しかし、質問 103「この授業について、1 コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。」については、受講人数が増えるに従い明らかに費やす時間が減っている。

○学生からのコメントを以下に列記する。授業改善に利用していただければ幸いである。

生物生産学科

平成 21 年度(後期)

講義・演習

- ・ 概論なのに内容が難しすぎる。
- ・ 内容が多すぎる。
- ・ 範囲が広くて難しかったが、興味深くておもしろかった。
- ・ 内容が専門的についていくのに必死だった。
- ・ 細かいことを丁寧に指導してくれるので分かりやすかった。
- ・ 内容も理解しやすかった。
- ・ 専門用語やよく分からない言葉が多くて説明が分かりづらかった。
- ・ 質問の対応がすごく丁寧だった。
- ・ 質問にきちんと答えてもらえるのが良かった。
- ・ 体験を交えた話はおもしろかった。
- ・ 板書が適当すぎる。
- ・ 板書が項目のみの時が多く分かりにくかった。
- ・ 板書をもう少し増やしてほしい。
- ・ ビデオや写真を用いながらの講義で分かりやすかった。
- ・ パワーポイントの画面の切り替えが早い。
- ・ プリントに番号をふってほしかった。
- ・ もう少し図での説明のプリントが欲しかった。
- ・ 内容は難しかったが、図などの説明は分かりやすかった。
- ・ 参考資料を配布してくれたので分かりやすく、まとめやすかった。
- ・ スライドで写真を見せていただいたところはとても分かりやすかった。
- ・ 出席をちゃんととってほしい。
- ・ 遅刻してきた者への対応が甘い。
- ・ 先生が早口すぎて聞き取れないことがあった。

- ・ いろいろ興味がわいてきて楽しい授業だった・
- ・ 講義に出席した時に得られる充実感を得ることができなかった・
- ・ 自分達で調べて発表をすることで授業内容の理解が深まった。

実験・実習

- ・ 冬の寒い時期にする必要はない内容だった。
- ・ 3年の前期までの実習は長いと思った。
- ・ きつい時もあったが楽しかった。
- ・ 初めてやることばかりで勉強になった。
- ・ 授業で聞くだけでは分からないことが体験できて楽しかった。

生物生産学専攻

講義・演習

- ・ マンツーマンで親切に指導してもらった。
- ・ 質問に対して丁寧に答えてもらった。
- ・ 質問に優しく答えてもらえた。

平成 22 年度(前期)

講義・演習

- ・ 授業のスピードが早い。
- ・ 声が聞き取り難い。
- ・ マイクの調子が悪いと声が聞こえないことがある。
- ・ 指名して答えを求めることは良いことだが、前の席ばかり当てないでほしい。
- ・ 質問に丁寧に答えてくれて良かった。
- ・ 板書が細かく分かりやすかった。
- ・ 板書が整理されてなくて分かりにくかった。
- ・ 板書を書き写す時間が短い時があった。
- ・ 板書してくれた方が分かりやすい。
- ・ スライドのプリントが配布されたので分かりやすかった。
- ・ プリントが分かりやすかった。
- ・ もっと分かりやすい資料が欲しかった。
- ・ 配布されたプリントが分かりにくかった。
- ・ 授業後にレポートを書く場合はその時間をとってほしい。
- ・ moodleはつながらない時があった。
- ・ 中間テストをすることがシラバスに書いてなかった。

実験・実習

- ・ 質問に対して丁寧に答えてもらえた。
- ・ 英語はついていくのに必死だったが、良かった。
- ・ 授業で習ったことを課外で観察して理解が深まった

生物生産学専攻

実験・実習

- ・ 質問に対して丁寧に答えてもらった。
- ・ きめ細かい授業で良かった。

生物資源化学科

平成 21 年度(後期)

講義・演習

- ・ スライドが見やすく話も分かりやすかった。
- ・ 宿題などが模範解答とともに毎回返却され、理解にとっても役立った。
- ・ 「遅刻厳禁」の体制は緩みがちな大学生活の良い刺激かと思います。
- ・ 1年次の序論と違いがあまりない授業もあったので、もう少し詳細な話が聞きたかった。
- ・ OHPが見えづらかった。OHPの内容をプリントで配布して欲しい。
- ・ 板書の文字が(小さい、乱雑等の理由で)読みづらい、下の方に書かれると見えない。
- ・ 板書の色を変える、口頭での説明で強調するなどして、重要な点が分かるようにして欲しい。
- ・ 声が小さく聞き取りづらく、スライドが見にくかった。
- ・ 中間テストや小テストの予定をもっと早めに連絡して欲しい。

実験・実習

- ・ 考察する部分が大きく、非常に有意義だった。
- ・ 身近な材料を用いての実験は面白く、新しい興味、関心が生まれた。
- ・ 高校の実験とのレベルの違いを感じ取ることができ、実験への興味、関心が深まった。
- ・ 器具や薬品の数はもっと多い方がスムーズに出来たと思う。
- ・ 個人へアドバイスするのではなく、全体に言って欲しかった。

平成 22 年度(前期)

講義・演習

- ・ スライドがプリントとしても配られていて分かりやすかった。
- ・ ホームページに講義内容が掲載されていたので、復習するのにとても良かったです。
- ・ 話が聞き取りにくかった。
- ・ スライドに見えにくい色(黄色)は使わないで欲しい。
- ・ スライドの枚数が多く、重要なところが分かりにくかった。
- ・ 図書館には参考書などがあまりなかったので、参考図書があれば提示して欲しい。
- ・ プリントが多すぎた。
- ・ 毎回の小テストがあるにも係わらず最終試験の量が多い。
- ・ 最終試験の内容を授業で説明していない。
- ・ 用語解説のプリントが欲しかった。
- ・ 休講・補講の連絡は早めにして欲しい。

実験・実習

- ・ 指示が聞こえなかったことがあったので改善して欲しい。
- ・ 板書で見えにくい場所があった。

生物環境学科

平成 21 年度(後期)

講義・演習

- ・ 教科書、資料、スライドを使ってわかりやすかった。
- ・ 前回のまとめで、よい感想はプリントしてほしい。

- ・ 聞き取りにくいときがある。
- ・ 考えさせる講義がおもしろかった。
- ・ 興味深く、楽しめる授業だった。
- ・ 今後に生かしたい。
- ・ 自分の興味・関心が増した。
- ・ 一つの講義で二人の教員が話をすると中途半端になる。
- ・ 鹿児島ならではの研究ができるのはいい。
- ・ 農業に関することに興味がわいた。
- ・ 演習問題の答えを配ってほしい。
- ・ パワーポイントの字が小さい。
- ・ レポートにチェックの印をいれてほしい。
- ・ 資格を取得するのに役立った。
- ・ 答えを教えてほしい。
- ・ 全体的によく分からない授業だった。
- ・ 量が多いときがあつて大変だった。
- ・ 板書を消すのが早すぎる。
- ・ 難しかった。
- ・ 計算は難しかった。
- ・ 配布されたプリントが分かりやすかった。
- ・ 数学的なところが難しかった。
- ・ 授業の準備が不足している。
- ・ 「たぶんわからないけど・・・」という進め方では理解する気がなくなる。
- ・ 板書のスピードがよかった。
- ・ パソコンの授業は進めるスピードが速い。
- ・ 明るくてスクリーンが見えないときがある。
- ・ 教科書を買ったが、使われなかった。
- ・ 物理的な式が難しかった。

実験・実習

- ・ レポート提出がテスト期間に集中するときつい。
- ・ レポートの書き方は勉強になった。

平成 22 年度(前期)

講義・演習

- ・ 他の学生の考えを聞けて勉強になった。
- ・ はっきり話してほしい。
- ・ 分かりやすい授業だった。
- ・ パワーポイントの資料を配付してほしい。
- ・ スクリーンの送りが速くて書き取れないときがある。
- ・ プリントが分かりにくかった。
- ・ Moodle は不満。
- ・ 板書がきたない。
- ・ 詰め込みすぎてわからない。
- ・ 板書がみやすい。
- ・ もっと演習の時間がほしい。
- ・ プリントの字が読めない。
- ・ プリントの配置が不規則で見にくい。

- ・ 動画はよかった。
- ・ 計算が多くて難しかった
- ・ 教材が少し多い。
- ・ サンプルを示されたので分かりやすかった。
- ・ 質問によく答えてくれた。
- ・ 最初にシラバスを配ってほしかった。
- ・ 発表する機会を増やしてほしい。
- ・ テストの時間を短くしてほしい。
- ・ 毎回の意見，質問，感想をプリントにして配布するのはよかった。
- ・ 丁寧に説明してくれた。

実験・実習

- ・ 口蹄疫で実習ができず残念だった。
- ・ よく理解できた。
- ・ 様々な器具を使えて楽しかった。
- ・ もっと丁寧に教えてほしい。
- ・ 連絡が不徹底だ。
- ・ 野外見学は良い経験になった。

獣医学科

平成 21 年度(後期)

講義・演習

- ・ 授業での質問に対し、次の授業できちんと答えてくれるのがとても助かった。
- ・ 生物選択をしていない人がいるので、もう少し基礎から教えてほしい。
- ・ 内容が多く、難しかったが、先生の噛み砕いた表現で理解し易くなった。
- ・ 理解し易くするためにプリントを配布してほしい。
- ・ 教科書の内容を図で説明してくれたので分かり易かった。
- ・ はじめて学ぶことばかりだったので、授業についていくのが大変だった。
- ・ スライドの説明がとても分かり易かった。
- ・ もう少し板書を増やしてほしい。
- ・ 具体的な例を挙げてもらえると授業内容を理解するのに助かる。
- ・ 予習・復習をすればもっと授業内容を理解できると思った。
- ・ 授業が早すぎてついていけないことがあった。
- ・ スライドとプリントの字をなるべく大きくしてほしい。
- ・ 授業の進行がやや要領悪いと感じた。
- ・ 時々教科書のどの部分を説明しているのか分からなくなった。
- ・ ノートがとりづらいので、スライドのために部屋を真っ暗にしないでほしい。
- ・ 客員教授は呼ばなくていいと思う。
- ・ 中間試験を増やしてくれると期末試験の範囲が減るので、試験勉強が楽になると感じた。

実験・実習

- ・ 色々な実験器具についての説明や新しい実験器具の説明が新鮮だった。
- ・ 説明・解説をゆっくりしてほしい。
- ・ 先生と先輩の実験指導が優しく丁寧であった。
- ・ 普段の研究室の研究とかけ離れた実習だったので、かえって新鮮であった。

- ・ 夜遅くかかる実習は休憩を入れてほしい。

平成 22 年度(前期)

講義・演習

- ・ 授業にもう少し深みがほしい。
- ・ プリントが分かりやすく有難かった。
- ・ 説明の時、時々主語がないので、今どこを説明しているのか分からないことがあった。
- ・ 板書の時、重要なポイントは色を使ってほしい。
- ・ 授業内容の量が多いので、日々の勉強が大切なことを痛感した。
- ・ 授業が速すぎてついていけないので、もう少し理解しやすく説明してほしい。
- ・ スライドに動画が多かったので、記憶に残り易かった。
- ・ 板書をもっと増やしてほしい。
- ・ 生徒に質問するのを減らしてほしい。
- ・ 教員への質問が出来る時間帯を知りたい。
- ・ 研究室紹介で最新の研究内容を知ることが出来て、専門授業への意欲が高まった。
- ・ スライドや参考書が分かり易かった。

実験・実習

- ・ 剖検をもっと増やしてほしい。
- ・ 口蹄疫の影響で実習の一部が出来なくなったのが残念であった。
- ・ 普段では出来ない体験が出来た。
- ・ 動物を対象とする実験が多く戸惑うこともあったが、いい経験になった。
- ・ スケッチは大変であったが、楽しかった。

2009年度 後期 授業評価アンケート(講義・演習用)【学部】

《質問項目ごとの授業形態別の比較》

101 この授業の出席状況を教えてください。				
講義 (3401)	1696	944	482	279
演習 (74)	53	14	6	1
全体 (3475)	1749	958	488	280
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席	

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。		
講義 (3386)	1297	2089
演習 (72)	37	35
全体 (3458)	1334	2124
はい	いいえ	

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)				
講義 (3390)	304	619	1646	821
演習 (75)	15	19	21	20
全体 (3465)	319	638	1667	841
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった	

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。				
講義 (3378)	1135	1750	425	68
演習 (74)	32	33	9	0
全体 (3452)	1167	1783	434	68
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	

202 この授業内容の水準はどうでしたか。				
講義 (3391)	942	2390	53	6
演習				

(73)	25	48	0	0
全体 (3464)	967	2438	53	6
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった	

203 この授業の分量はどうでしたか。

講義 (3392)	867	2478	38	9
演習 (74)	12	58	4	0
全体 (3466)	879	2536	42	9
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった	

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。

講義 (3394)	1705	1546	110	33
演習 (74)	46	27	1	0
全体 (3468)	1751	1573	111	33
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

205 この授業は、将来役立つと思いますか。

講義 (3387)	1694	1465	192	36
演習 (74)	39	25	10	0
全体 (3461)	1733	1490	202	36
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。

講義 (3389)	1060	2023	261	45
演習 (74)	27	46	1	0
全体 (3463)	1087	2069	262	45
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。

講義 (3387)	1418	1709	202	58
演習 (74)	42	29	3	0
全体 (3461)	1460	1738	205	58
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。

講義 (3366)	1583	1654	108	21
演習 (73)	42	28	3	0
全体 (3439)	1625	1682	111	21
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。

講義 (3383)	1621	1534	205	23
演習 (74)	43	28	3	0
全体 (3457)	1664	1562	208	23
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思いましたか。

講義 (3394)	1614	1433	268	79
演習 (74)	43	30	1	0
全体 (3468)	1657	1463	269	79
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。

講義 (3395)	1743	1492	131	29
演習 (75)	41	32	2	0
全体 (3470)	1784	1524	133	29
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。				
講義 (3278)	1511	1607	122	38
演習 (67)	39	27	1	0
全体 (3345)	1550	1634	123	38
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

2009年度 後期 授業評価アンケート(講義・演習用)【学部】
《授業形態ごとの質問項目間の関係》

講義			
101 この授業の出席状況を教えてください。(3401)			
1696	944	482	279
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席
102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(3386)			
1297	2089		
はい	いいえ		
103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (3390)			
304	619	1646	821
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった
201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(3378)			
1135	1750	425	68
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
202 この授業内容の水準はどうでしたか。(3391)			
942	2390	53	6
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
203 この授業の分量はどうでしたか。(3392)			
867	2478	38	9
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(3394)			
1705	1546	110	33
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
205 この授業は、将来役立つと思いますか。(3387)			
1694	1465	192	36
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(3389)			

1060	2023	261	45
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(3387)

1418	1709	202	58
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(3366)

1583	1654	108	21
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(3383)

1621	1534	205	23
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(3394)

1614	1433	268	79
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(3395)

1743	1492	131	29
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(3278)

1511	1607	122	38
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

演習

101 この授業の出席状況を教えてください。(74)

53	14	6	1
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(72)

37	35
----	----

はい	いいえ
----	-----

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (75)

15	19	21	20
----	----	----	----

90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった
-------	---------	-------	-------

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(74)

32	33	9	0
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(73)

25	48	0	0
----	----	---	---

高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
------	-------	--------	---------

203 この授業の分量はどうでしたか。(74)

12	58	4	0
----	----	---	---

多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
------	-------	---------	----------

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(74)

46	27	1	0
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

205 この授業は、将来役立つと思いますか。(74)

39	25	10	0
----	----	----	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(74)

27	46	1	0
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(74)

42	29	3	0
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(73)

--	--	--	--

42		28		3	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(74)

43		28		3	0
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない		

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(74)

43		30		1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(75)

41		32		2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(67)

39		27		1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

全体			
-----------	--	--	--

101 この授業の出席状況を教えてください。(3475)

1749	958	488	280
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(3458)

1334	2124
はい	いいえ

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (3465)

319	638	1667	841
90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をたくまりましたか。(3452)

1167	1783	434	68
------	------	-----	----

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(3464)

967	2438	53	6
-----	------	----	---

高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
------	-------	--------	---------

203 この授業の分量はどうでしたか。(3466)

879	2536	42	9
-----	------	----	---

多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
------	-------	---------	----------

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(3468)

1751	1573	111	33
------	------	-----	----

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

205 この授業は、将来役立つと思いますか。(3461)

1733	1490	202	36
------	------	-----	----

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(3463)

1087	2069	262	45
------	------	-----	----

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(3461)

1460	1738	205	58
------	------	-----	----

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(3439)

1625	1682	111	21
------	------	-----	----

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(3457)

1664	1562	208	23
------	------	-----	----

そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
------	--------	-----------	----------

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。(3468)

--	--	--	--

1657	1463	269	79
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(3470)

1784	1524	133	29
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(3345)

1550	1634	123	38
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

2009年度 後期 授業評価アンケート(講義・演習用)【学部】
《質問項目ごとの受講者規模別の比較》

101 この授業の出席状況を教えてください。				
5人以下 (10)	6	2	1	1
6人～10人 (85)	32	24	19	10
11人～30人 (1179)	624	292	173	90
31人～50人 (1060)	536	317	125	82
51人～100人 (1040)	495	300	153	92
101人～ (101)	56	23	17	5
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席	

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。	
5人以下 (10)	8 2
6人～10人 (86)	49 37
11人～30人 (1177)	476 701
31人～50人 (1051)	365 686
51人～100人 (1035)	399 636
101人～ (99)	37 62
はい	いいえ

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)				
5人以下 (10)	0	4	6	0
6人～10人 (85)	12	16	51	6
11人～30人 (1178)	148	211	552	267
31人～50人 (1055)	69	202	536	248

51人～100人 (1035)	86	185	466	298
101人～ (102)	4	20	56	22
90分以上	60分～90分		60分未満	しなかった

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。

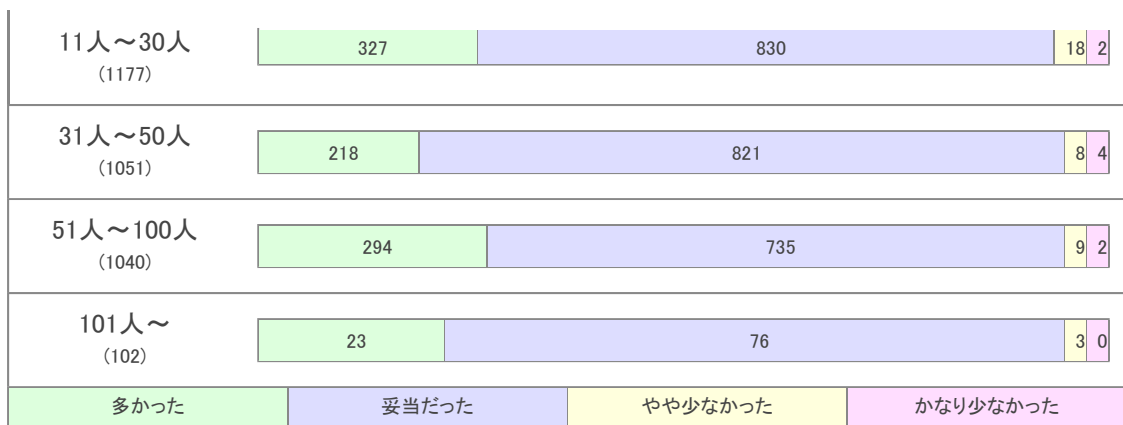
5人以下 (10)	2	8	0	0
6人～10人 (85)	34	47	4	0
11人～30人 (1176)	457	551	144	24
31人～50人 (1048)	312	577	138	21
51人～100人 (1033)	343	536	132	22
101人～ (100)	19	64	16	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	

202 この授業内容の水準はどうでしたか。

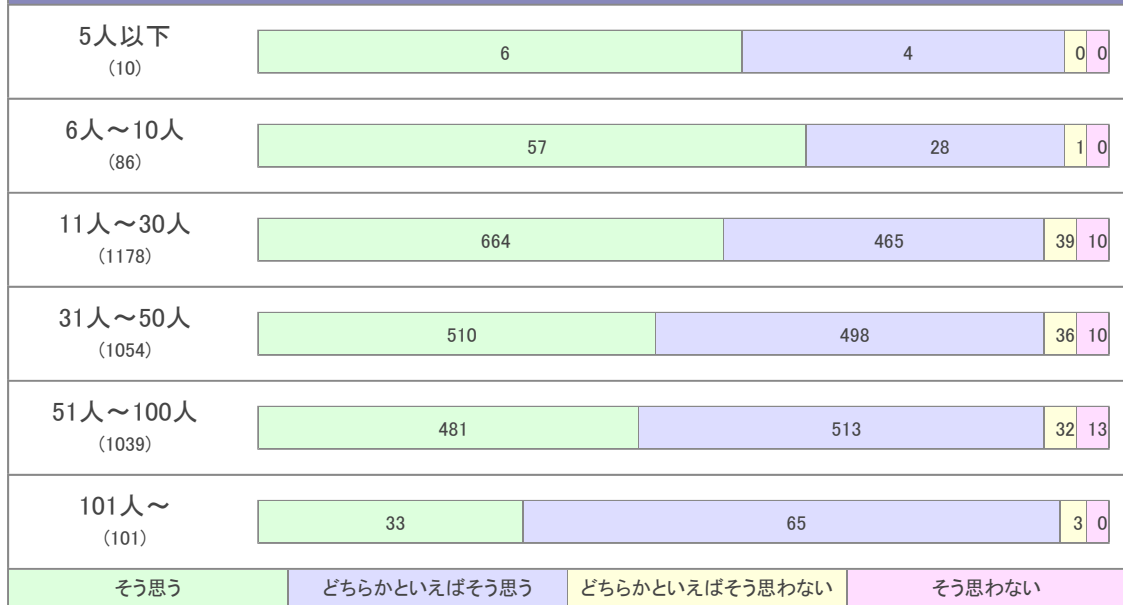
5人以下 (10)	2	8	0	0
6人～10人 (86)	29	56	1	0
11人～30人 (1171)	344	806	19	2
31人～50人 (1055)	238	795	20	2
51人～100人 (1040)	317	710	11	2
101人～ (102)	37	63	2	0
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった	

203 この授業の分量はどうでしたか。

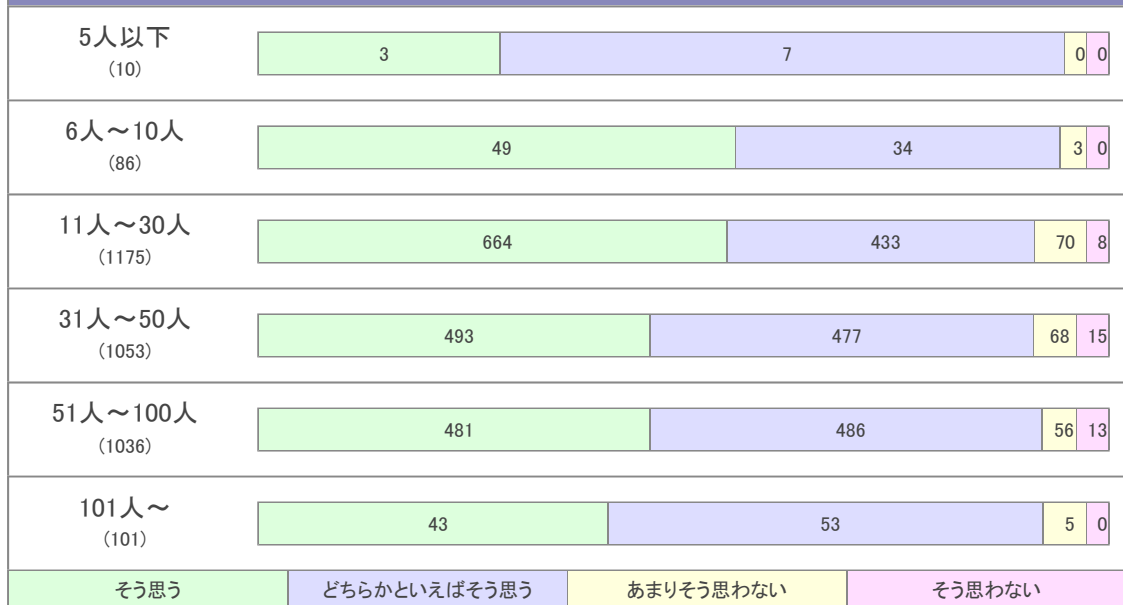
5人以下 (10)	0	7	3	0
6人～10人 (86)	17	67	1	1



204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。



205 この授業は、将来役立つと思いますか。



206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。




5人以下 (10)	1	9	0	0
6人～10人 (86)	28	50	8	0
11人～30人 (1177)	427	649	92	9
31人～50人 (1055)	311	645	83	16
51人～100人 (1034)	307	639	68	20
101人～ (101)	13	77	11	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。

5人以下 (10)	3	7	0	0
6人～10人 (85)	45	38	2	0
11人～30人 (1174)	565	523	67	19
31人～50人 (1055)	442	539	57	17
51人～100人 (1036)	387	560	68	21
101人～ (101)	18	71	11	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。

5人以下 (10)	2	6	2	0
6人～10人 (86)	42	40	3	1
11人～30人 (1166)	601	508	49	8
31人～50人 (1046)	518	493	29	6
51人～100人 (1031)	437	564	24	6
101人～	25	71	4	0

(100)			
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。				
5人以下 (10)	4	4	2	0
6人～10人 (85)	46	38	1	0
11人～30人 (1167)	629	471	63	4
31人～50人 (1055)	489	499	60	7
51人～100人 (1038)	471	486	69	12
101人～ (102)	25	64	13	0
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。				
5人以下 (10)	4	3	3	0
6人～10人 (86)	54	29	2	1
11人～30人 (1177)	612	459	81	25
31人～50人 (1055)	508	459	65	23
51人～100人 (1039)	451	454	105	29
101人～ (101)	28	59	13	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。				
5人以下 (11)	6	4	1	0
6人～10人 (86)	54	30	2	0
11人～30人 (1177)	650	464	54	9
31人～50人	540	475	31	10

(1056)				
51人～100人 (1038)	500	489	39	10
101人～ (102)	34	62	6	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。				
5人以下 (9)	4	4	1	0
6人～10人 (84)	50	32	1	1
11人～30人 (1132)	593	486	44	9
31人～50人 (1005)	453	513	28	11
51人～100人 (1017)	427	534	40	16
101人～ (98)	23	65	9	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

2009年度 後期 授業評価アンケート(講義・演習用)【学部】
《受講者規模別特徴》

5人以下			
101 この授業の出席状況を教えてください。(10)			
6		2	1
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席
102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(10)			
8		2	
はい		いいえ	
103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)(10)			
0	4	6	0
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった
201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(10)			
2	8		0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
202 この授業内容の水準はどうでしたか。(10)			
2	8		0
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
203 この授業の分量はどうでしたか。(10)			
0	7	3	0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(10)			
6		4	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
205 この授業は、将来役立つと思いますか。(10)			
3	7		0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(10)			

1	9			0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(10)

3	7			0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(10)

2	6		2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(10)

4	4		2	0
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(10)

4	3		3	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(11)

6	4		1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(9)

4	4		1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

6人～10人

101 この授業の出席状況を教えてください。(85)

32	24		19	10
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席	

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(86)

--	--

49		37	
はい		いいえ	

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (85)

12	16	51	6
90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(85)

34	47	4	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(86)

29	56	1	0
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった

203 この授業の分量はどうでしたか。(86)

17	67	1	1
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(86)

57	28	1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

205 この授業は、将来役立つと思いますか。(86)

49	34	3	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(86)

28	50	8	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(85)

45	38	2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(86)

42		40		3	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(85)

46		38		1	0
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない		

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。(86)

54		29		2	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(86)

54		30		2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(84)

50		32		1	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

11人～30人

101 この授業の出席状況を教えてください。(1179)

624		292		173		90	
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席				

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(1177)

476		701	
はい	いいえ		

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)(1178)

148		211		552		267	
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった				

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(1176)

457	551	144	24
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(1171)

344	806	19	2
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった

203 この授業の分量はどうでしたか。(1177)

327	830	18	2
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(1178)

664	465	39	10
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

205 この授業は、将来役立つと思いますか。(1175)

664	433	70	8
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(1177)

427	649	92	9
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(1174)

565	523	67	19
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(1166)

601	508	49	8
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(1167)

629	471	63	4
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(1177)

612		459		81	25
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(1177)

650		464		54	9
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(1132)

593		486		44	9
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

31人～50人

101 この授業の出席状況を教えてください。(1060)

536		317		125	82
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席		

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(1051)

365		686			
はい		いいえ			

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (1055)

69	202	536		248
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった	

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(1048)

312		577		138	21
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(1055)

238		795		20	2
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった		

203 この授業の分量はどうでしたか。(1051)

--	--	--	--	--	--

218	821			8	4
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった		
204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(1054)					
510	498			36	10
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
205 この授業は、将来役立つと思いますか。(1053)					
493	477			68	15
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		
206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(1055)					
311	645			83	16
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(1055)					
442	539			57	17
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(1046)					
518	493			29	6
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(1055)					
489	499			60	7
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない		
303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。(1055)					
508	459			65	23
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(1056)					
540	475			31	10
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(1005)

453		513		28	11
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

51人～100人

101 この授業の出席状況を教えてください。(1040)

495		300		153	92
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席		

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(1035)

399		636	
はい	いいえ		

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)(1035)

86	185	466	298
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(1033)

343		536		132	22
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(1040)

317		710		11	2
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった		

203 この授業の分量はどうでしたか。(1040)

294		735		9	2
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった		

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(1039)

481		513		32	13
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

205 この授業は、将来役立つと思いますか。(1036)

--	--	--	--	--	--

481	486	56	13
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(1034)

307	639	68	20
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(1036)

387	560	68	21
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(1031)

437	564	24	6
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(1038)

471	486	69	12
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思いましたか。(1039)

451	454	105	29
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(1038)

500	489	39	10
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(1017)

427	534	40	16
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

101人～

101 この授業の出席状況を教えてください。(101)

56	23	17	5
----	----	----	---

全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席
------	------	------	--------

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(99)

37	62
はい	いいえ

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (102)

4	20	56	22
90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(100)

19	64	16	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(102)

37	63	2	0
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった

203 この授業の分量はどうでしたか。(102)

23	76	3	0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(101)

33	65	3	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

205 この授業は、将来役立つと思いますか。(101)

43	53	5	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(101)

13	77	11	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

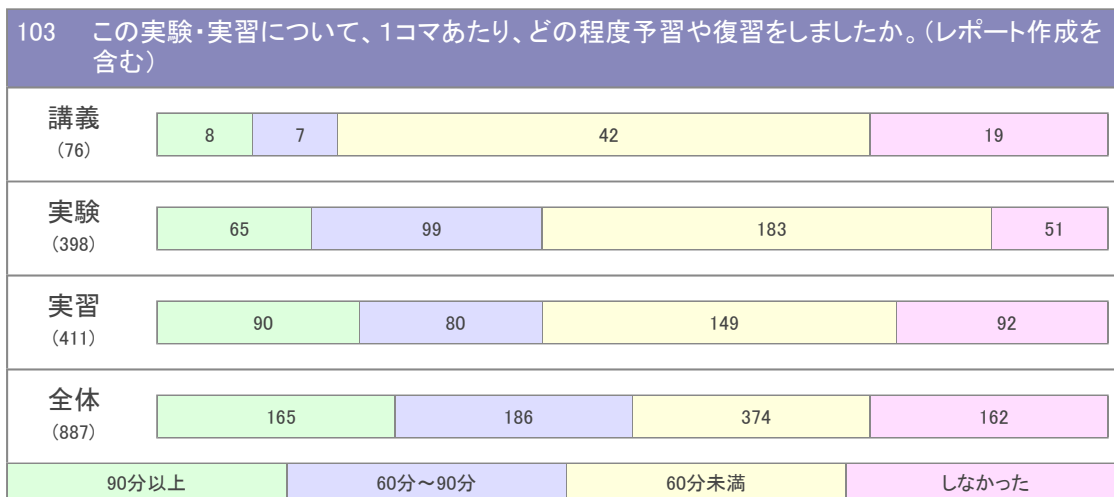
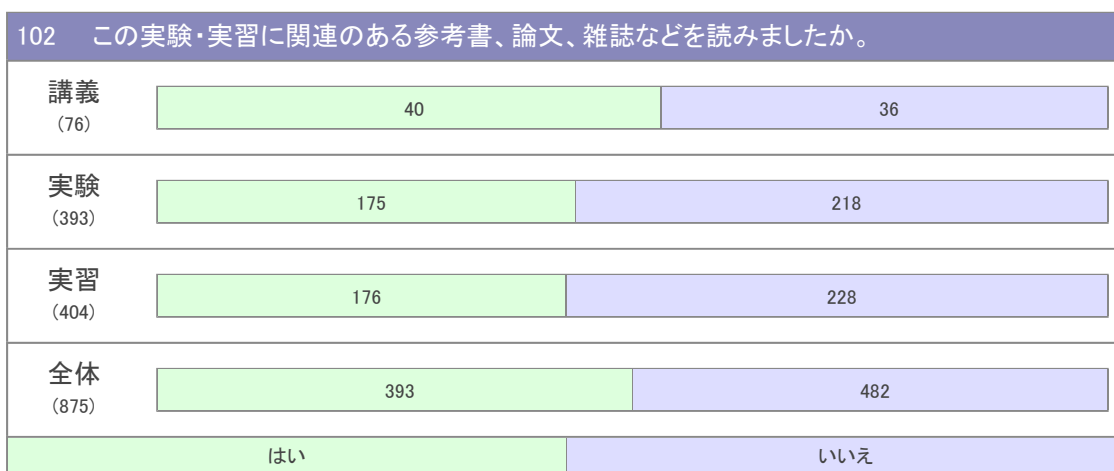
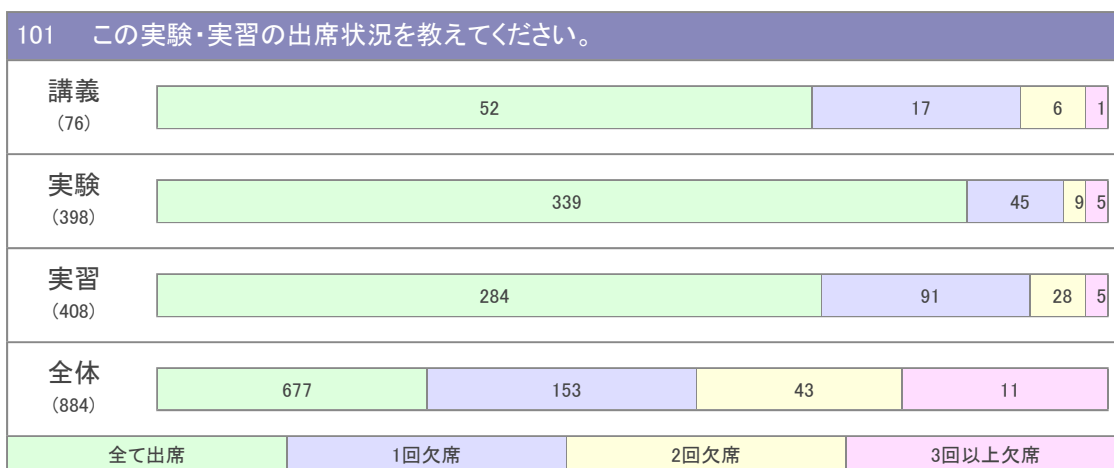
207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(101)

--	--	--	--

18	71	11	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(100)			
25	71	4	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(102)			
25	64	13	0
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(101)			
28	59	13	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(102)			
34	62	6	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(98)			
23	65	9	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

2009年度 後期 授業評価アンケート(実験・実習用)【学部】

《質問項目ごとの授業形態別の比較》



(404)	91	216	81	16
全体 (872)	191	483	175	23
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。

講義 (74)	37	33	4	0
実験 (397)	191	194	11	1
実習 (406)	177	194	34	1
全体 (879)	407	421	49	2
	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。

講義 (75)	5	70	0	0
実験 (396)	30	363	3	0
実習 (407)	43	360	3	1
全体 (880)	78	795	6	1
	高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった

203 この実験・実習の分量はどうでしたか。

講義 (75)	10	65	0	0
実験 (396)	53	334	9	0
実習 (405)	64	336	4	1
全体 (878)	127	737	13	1
	多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった

204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。

講義 (76)	49	27	0	0
------------	----	----	---	---

実験 (396)	238	156	2	0
実習 (406)	231	168	7	0
全体 (880)	519	352	9	0
	そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。

講義 (77)	29	45	3	0
実験 (395)	193	196	6	0
実習 (405)	174	220	10	1
全体 (879)	397	462	19	1
	そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。

講義 (76)	43	31	2	0
実験 (395)	228	160	7	0
実習 (406)	208	186	11	1
全体 (879)	481	377	20	1
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。

講義 (74)	46	28	0	0
実験 (392)	245	143	4	0
実習 (403)	223	171	8	1
全体 (871)	516	342	12	1
	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。

講義 (75)	49	25	1	0
実験 (395)	249	136	10	0
実習 (407)	233	164	9	1
全体 (879)	532	326	20	1
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。

講義 (75)	49	26	0	0
実験 (396)	243	143	10	0
実習 (415)	221	162	25	7
全体 (888)	515	331	35	7
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。

講義 (74)	51	22	1	0
実験 (401)	257	137	5	2
実習 (408)	250	152	5	1
全体 (885)	560	311	11	3
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。

講義 (73)	51	21	1	0
実験 (392)	249	142	1	0
実習 (401)	235	156	6	4
全体 (868)	537	319	8	4
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

2009年度 後期 授業評価アンケート(実験・実習用)【学部】
《授業形態ごとの質問項目間の関係》

講義				
101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(76)				
52		17		6
1				
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席	
102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(76)				
40		36		
はい		いいえ		
103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)(76)				
8	7	42		19
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった	
104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(76)				
16		44		14
2				
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	
201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(74)				
37		33		4
0				
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	
202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(75)				
5		70		0
0				
高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった	
203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(75)				
10		65		0
0				
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった	
204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(76)				
49		27		0
0				
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	
205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(77)				

29	45			3	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(76)

43	31			2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(74)

46	28			0	0
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(75)

49	25			1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(75)

49	26			0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(74)

51	22			1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(73)

51	21			1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

実験

101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(398)

339	45			9	5
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席		

102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(393)

175	218		
-----	-----	--	--

はい		いいえ	
103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (398)			
65	99	183	51
90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった
104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(390)			
82	223	80	5
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(397)			
191	194	11	1
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(396)			
30	363	3	0
高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(396)			
53	334	9	0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(396)			
238	156	2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(395)			
193	196	6	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(395)			
228	160	7	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(392)			

245		143		4	0
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(395)

249		136		10	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。(396)

243		143		10	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(401)

257		137		5	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(392)

249		142		1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

実習

101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(408)

284		91		28	5
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席		

102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(404)

176		228			
はい		いいえ			

103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)(411)

90	80	149	92
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった

104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(404)

91	216		81	16
----	-----	--	----	----

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(406)			
177	194	34	1
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(407)			
43	360	3	1
高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(405)			
64	336	4	1
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(406)			
231	168	7	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(405)			
174	220	10	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(406)			
208	186	11	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(403)			
223	171	8	1
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(407)			
233	164	9	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。(415)			
221	162	25	7

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(408)

250	152	5	1
-----	-----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(401)

235	156	6	4
-----	-----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

全体

101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(884)

677	153	43	11
-----	-----	----	----

全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席
------	------	------	--------

102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(875)

393	482
-----	-----

はい	いいえ
----	-----

103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)(887)

165	186	374	162
-----	-----	-----	-----

90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった
-------	---------	-------	-------

104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(872)

191	483	175	23
-----	-----	-----	----

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(879)

407	421	49	2
-----	-----	----	---

そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------	-----------	--------

202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(880)

78	795	6	1
----	-----	---	---

高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
------	-------	--------	---------

203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(878)

127	737	13	1
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった

204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(880)

519	352	9	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(879)

397	462	19	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(879)

481	377	20	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(871)

516	342	12	1
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(879)

532	326	20	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。(888)

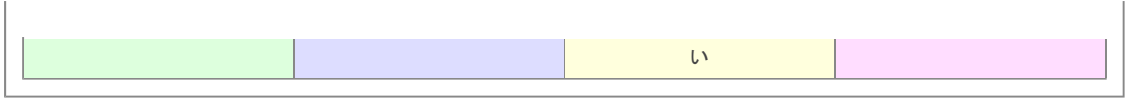
515	331	35	7
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(885)

560	311	11	3
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(868)

537	319	8	4
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない



2009年度 後期 授業評価アンケート(実験・実習用)【学部】

《質問項目ごとの受講者規模別の比較》

101 この実験・実習の出席状況を教えてください。						
5人以下 (22)	21			0	0	1
6人～10人 (15)	4	4	6	1		
11人～30人 (381)	274		82	21	4	
31人～50人 (290)	212		58	15	5	
51人～100人 (176)	166			9	1	0
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席			

102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。		
5人以下 (22)	22	0
6人～10人 (13)	5	8
11人～30人 (380)	186	194
31人～50人 (287)	100	187
51人～100人 (173)	80	93
はい	いいえ	

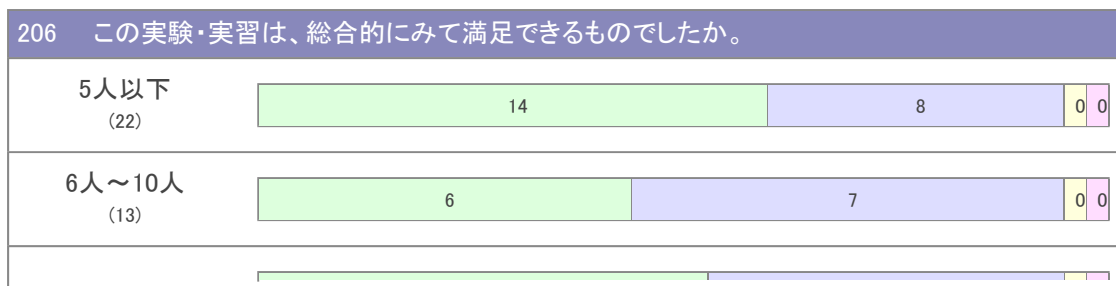
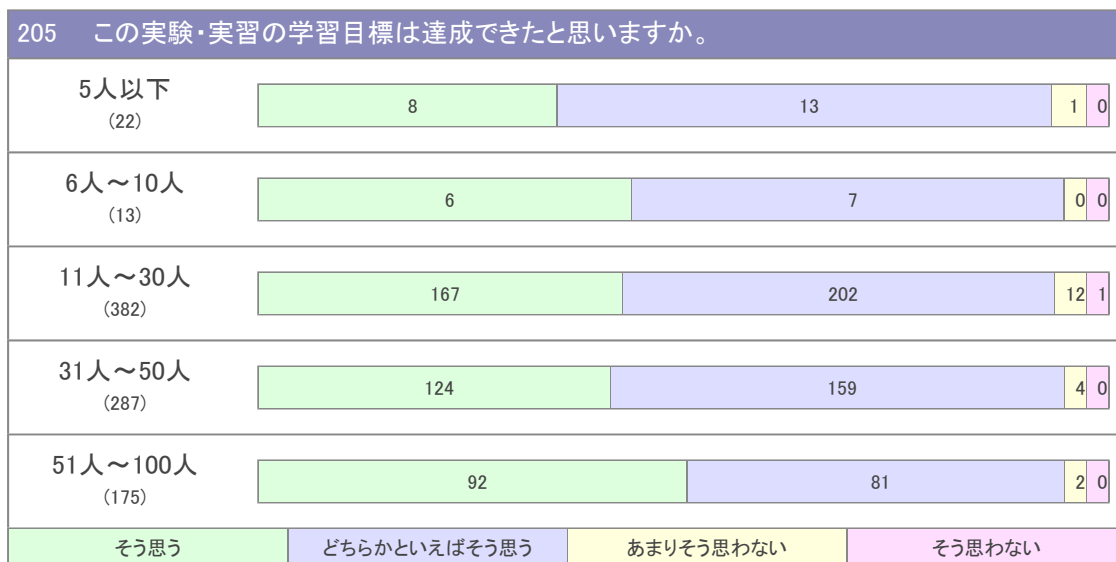
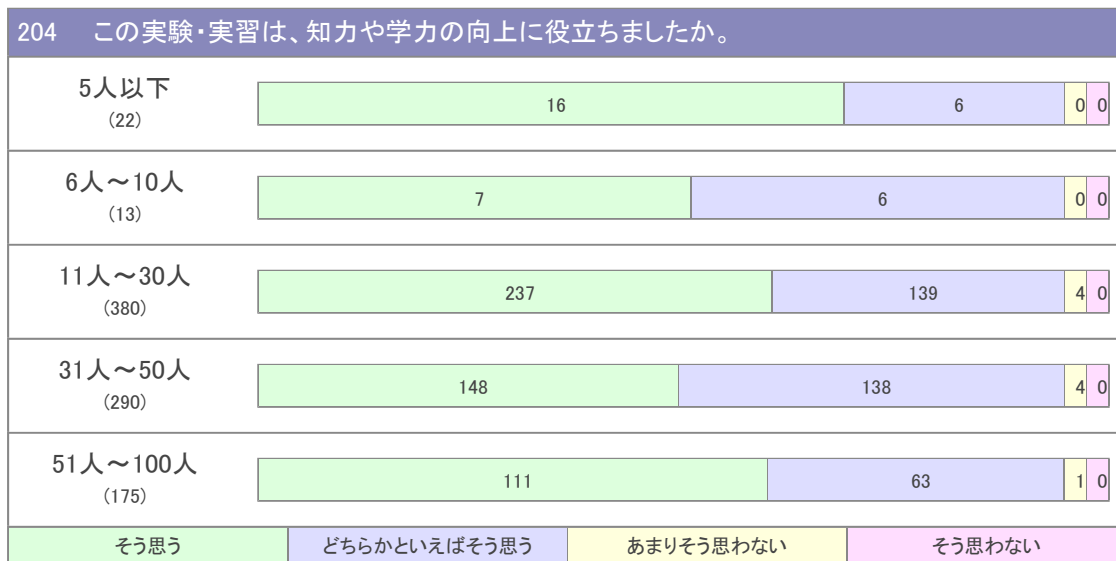
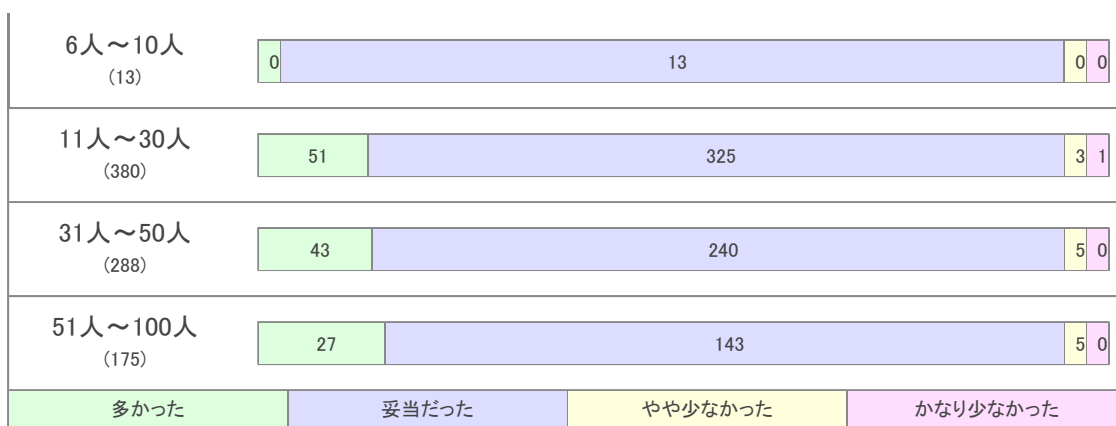
103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)						
5人以下 (22)	19			1	2	0
6人～10人 (13)	1	1	6	5		
11人～30人 (384)	60	75	174	75		
31人～50人 (292)	56	51	109	76		
51人～100人 (176)	29	58	83	6		
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった			

104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。				
5人以下 (22)	11	7	4	0
6人～10人 (13)	3	7	3	0
11人～30人 (380)	93	210	70	7
31人～50人 (283)	51	158	60	14
51人～100人 (174)	33	101	38	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。				
5人以下 (21)	13	8	0	0
6人～10人 (13)	2	10	1	0
11人～30人 (380)	187	174	19	0
31人～50人 (289)	123	139	26	1
51人～100人 (176)	82	90	3	1
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	

202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。				
5人以下 (22)	6	16	0	0
6人～10人 (13)	0	13	0	0
11人～30人 (380)	34	344	1	1
31人～50人 (288)	28	257	3	0
51人～100人 (177)	10	165	2	0
高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった	

203 この実験・実習の分量はどうでしたか。				
5人以下 (22)	6	16	0	0



11人～30人 (380)	208	163	9	0
31人～50人 (289)	146	137	5	1
51人～100人 (175)	107	62	6	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。

5人以下 (22)	14	6	2	0
6人～10人 (13)	3	8	2	0
11人～30人 (375)	221	147	6	1
31人～50人 (287)	161	125	1	0
51人～100人 (174)	117	56	1	0
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。

5人以下 (22)	13	8	1	0
6人～10人 (13)	6	6	1	0
11人～30人 (381)	235	137	8	1
31人～50人 (288)	155	132	1	0
51人～100人 (175)	123	43	9	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思いましたか。

5人以下 (22)	17	5	0	0
6人～10人 (13)	5	8	0	0
11人～30人 (388)	232	130	19	7

31人～50人 (290)	154	129	7	0
51人～100人 (175)	107	59	9	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。

5人以下 (22)	19	3	0	0
6人～10人 (14)	6	8	0	0
11人～30人 (384)	257	121	4	2
31人～50人 (290)	157	129	4	0
51人～100人 (175)	121	50	3	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。

5人以下 (22)	17	5	0	0
6人～10人 (13)	4	9	0	0
11人～30人 (373)	249	118	4	2
31人～50人 (286)	156	125	3	2
51人～100人 (174)	111	62	1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

2009年度 後期 授業評価アンケート(実験・実習用)【学部】
《受講者規模別特徴》

5人以下							
101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(22)							
21				0	0	1	
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席				
102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(22)							
22				0			
はい			いいえ				
103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)(22)							
19				1	2	0	
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった				
104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(22)							
11		7		4		0	
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない				
201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(21)							
13			8		0	0	
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない				
202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(22)							
6		16			0	0	
高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった				
203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(22)							
6		16			0	0	
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった				
204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(22)							
16				6		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない				
205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(22)							

8		13		1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(22)

14		8		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(22)

14		6		2	0
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(22)

13		8		1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(22)

17		5		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(22)

19		3		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(22)

17		5		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

6人～10人

101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(15)

4	4	6	1
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席

102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(13)

5	8
---	---

はい	いいえ
----	-----

103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (13)

1	1	6	5
90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった

104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(13)

3	7	3	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(13)

2	10	1	0
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(13)

0	13	0	0
高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった

203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(13)

0	13	0	0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった

204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(13)

7	6	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(13)

6	7	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(13)

6	7	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(13)

--	--	--	--

3	8	2	0
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(13)

6	6	1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(13)

5	8	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(14)

6	8	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(13)

4	9	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

11人～30人

101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(381)

274	82	21	4
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席

102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(380)

186	194
はい	いいえ

103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (384)

60	75	174	75
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった

104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(380)

93	210	70	7
----	-----	----	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(380)

187	174	19	0
-----	-----	----	---

そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------	-----------	--------

202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(380)

34	344	1	1
----	-----	---	---

高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
------	-------	--------	---------

203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(380)

51	325	3	1
----	-----	---	---

多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
------	-------	---------	----------

204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(380)

237	139	4	0
-----	-----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(382)

167	202	12	1
-----	-----	----	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(380)

208	163	9	0
-----	-----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(375)

221	147	6	1
-----	-----	---	---

そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------	-----------	--------

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(381)

235	137	8	1
-----	-----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(388)

--	--	--	--

232		130		19	7
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(384)

257		121		4	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(373)

249		118		4	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

31人～50人

101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(290)

212		58		15	5
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席		

102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(287)

100		187			
はい		いいえ			

103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)(292)

56	51	109	76	
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった	

104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(283)

51	158		60	14
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(289)

123		139		26	1
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(288)

28	257			3	0
----	-----	--	--	---	---

高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
------	-------	--------	---------

203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(288)

43	240	5	0
----	-----	---	---

多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
------	-------	---------	----------

204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(290)

148	138	4	0
-----	-----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(287)

124	159	4	0
-----	-----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(289)

146	137	5	1
-----	-----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(287)

161	125	1	0
-----	-----	---	---

そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------	-----------	--------

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(288)

155	132	1	0
-----	-----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。(290)

154	129	7	0
-----	-----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(290)

157	129	4	0
-----	-----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(286)

156			125			3	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない				

51人～100人

101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(176)

166				9	1	0
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席			

102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(173)

80		93			
はい		いいえ			

103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (176)

29	58	83	6
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった

104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(174)

33	101		38	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(176)

82		90		3	1
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(177)

10	165			2	0
高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった		

203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(175)

27	143			5	0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった		

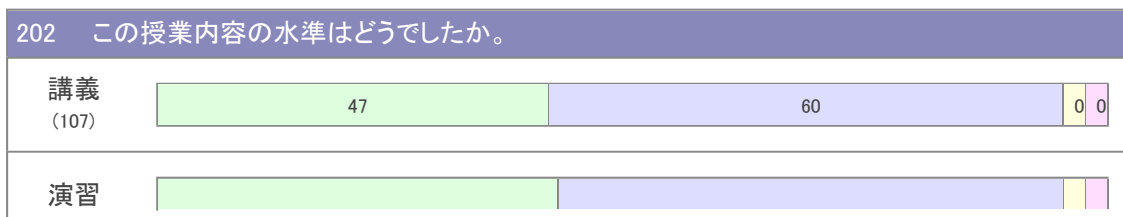
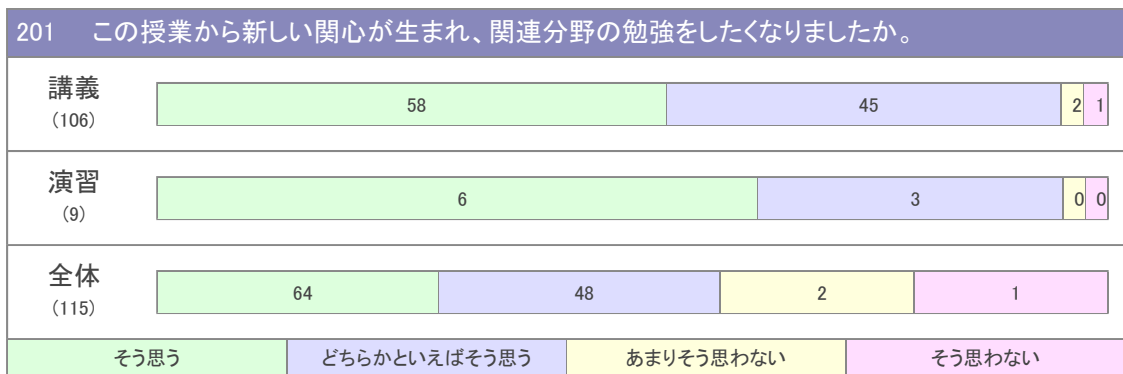
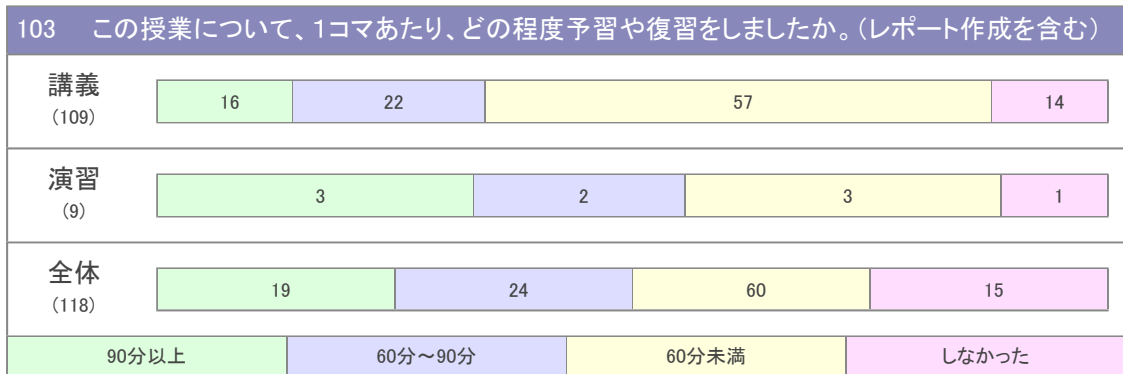
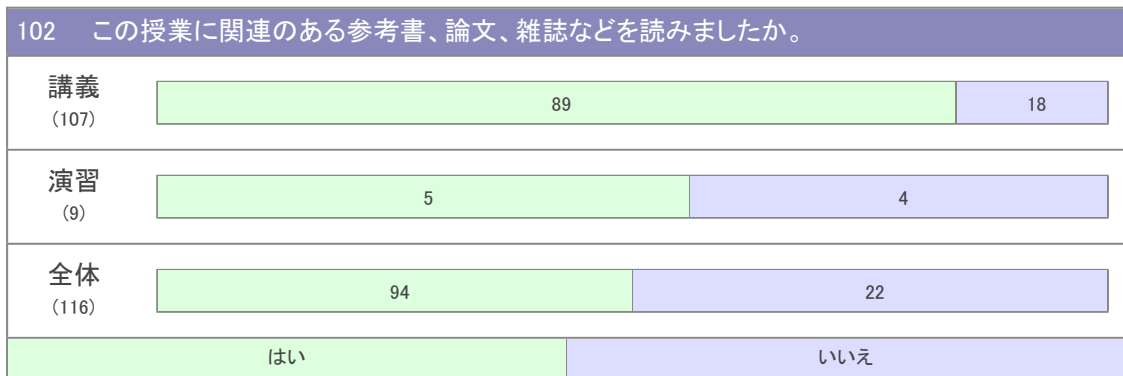
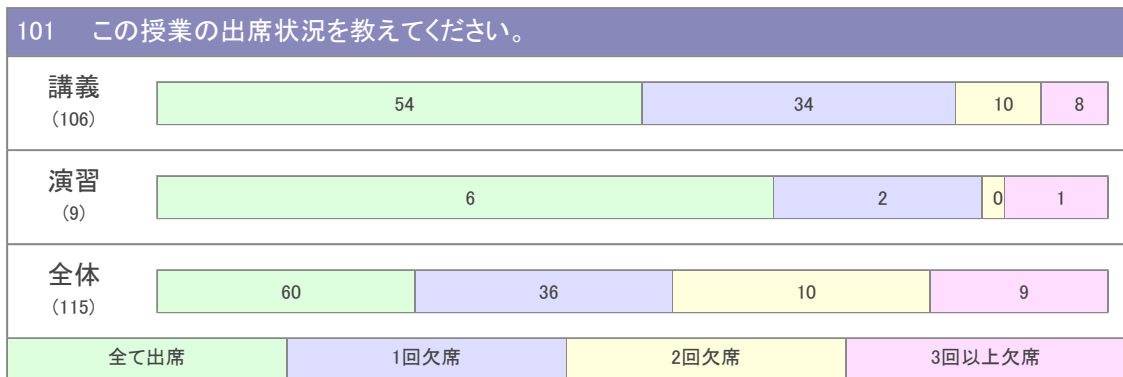
204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(175)

111		63		1	0

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(175)			
92	81	2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(175)			
107	62	6	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(174)			
117	56	1	0
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(175)			
123	43	9	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。(175)			
107	59	9	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(175)			
121	50	3	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(174)			
111	62	1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

2009年度 後期 授業評価アンケート(講義・演習用)【大学院】

《質問項目ごとの授業形態別の比較》



(9)	4	5	0	0
全体 (116)	51	65	0	0
	高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった

203 この授業の分量はどうでしたか。

講義 (108)	8	98	2	0
演習 (9)	2	7	0	0
全体 (117)	10	105	2	0
	多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。

講義 (106)	80	26	0	0
演習 (9)	5	4	0	0
全体 (115)	85	30	0	0
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

205 この授業は、将来役立つと思いますか。

講義 (107)	74	32	1	0
演習 (9)	5	4	0	0
全体 (116)	79	36	1	0
	そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。

講義 (107)	53	53	1	0
演習 (9)	3	6	0	0
全体 (116)	56	59	1	0
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。

講義 (107)	74	33	0	0
演習 (9)	4	5	0	0
全体 (116)	78	38	0	0
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。

講義 (106)	59	43	2	2
演習 (9)	6	2	0	1
全体 (115)	65	45	2	3
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。

講義 (107)	66	40	1	0
演習 (9)	5	3	1	0
全体 (116)	71	43	2	0
	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。

講義 (107)	88	18	1	0
演習 (9)	5	3	1	0
全体 (116)	93	21	2	0
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。

講義 (106)	84	22	0	0
演習 (9)	5	4	0	0
全体 (115)	89	26	0	0
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。				
講義 (107)	79	27	0	1
演習 (8)	6	1	0	1
全体 (115)	85	28	0	2
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

2009年度 後期 授業評価アンケート(講義・演習用)【大学院】
《授業形態ごとの質問項目間の関係》

講義			
101 この授業の出席状況を教えてください。(106)			
54	34	10	8
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席
102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(107)			
89	18		
はい	いいえ		
103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)(109)			
16	22	57	14
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった
201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(106)			
58	45	2	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
202 この授業内容の水準はどうでしたか。(107)			
47	60	0	0
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
203 この授業の分量はどうでしたか。(108)			
8	98	2	0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(106)			
80	26	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
205 この授業は、将来役立つと思いますか。(107)			
74	32	1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(107)			

53		53		1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(107)

74		33		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(106)

59		43		2	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(107)

66		40		1	0
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない		

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(107)

88			18		1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(106)

84			22		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(107)

79		27		0	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

演習

101 この授業の出席状況を教えてください。(9)

6		2		0	1
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席		

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(9)

5		4	
---	--	---	--

はい	いいえ
----	-----

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)
(9)

3	2	3	1
90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(9)

6	3	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(9)

4	5	0	0
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった

203 この授業の分量はどうでしたか。(9)

2	7	0	0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(9)

5	4	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

205 この授業は、将来役立つと思いますか。(9)

5	4	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(9)

3	6	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(9)

4	5	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(9)

--	--	--	--

6		2	0	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(9)

5		3	1	0
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(9)

5		3	1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(9)

5		4	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(8)

6		1	0	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

全体			
-----------	--	--	--

101 この授業の出席状況を教えてください。(115)

60	36	10	9
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(116)

94	22
はい	いいえ

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)(118)

19	24	60	15
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(115)

64	48	2	1
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(116)

51	65	0	0
----	----	---	---

高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
------	-------	--------	---------

203 この授業の分量はどうでしたか。(117)

10	105	2	0
----	-----	---	---

多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
------	-------	---------	----------

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(115)

85	30	0	0
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

205 この授業は、将来役立つと思いますか。(116)

79	36	1	0
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(116)

56	59	1	0
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(116)

78	38	0	0
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(115)

65	45	2	3
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(116)

71	43	2	0
----	----	---	---

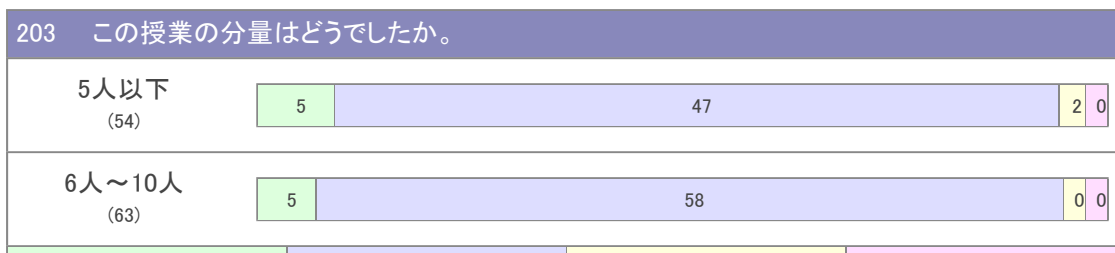
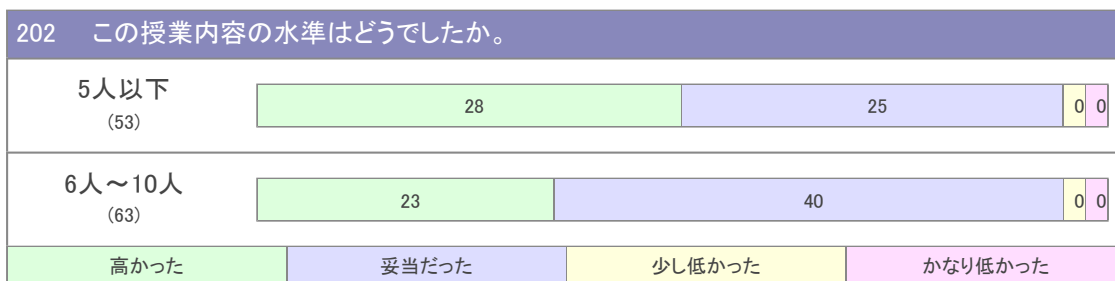
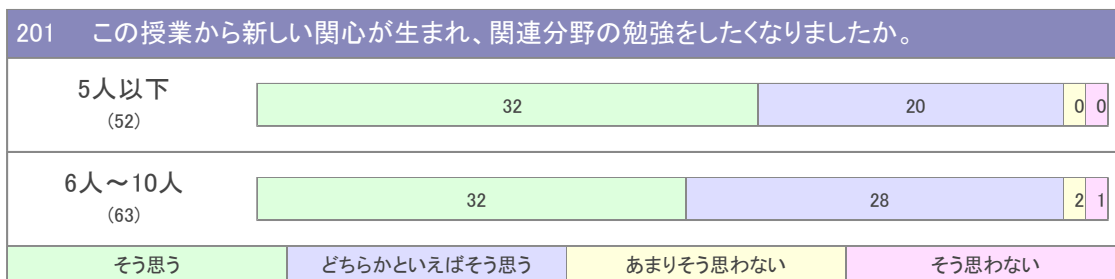
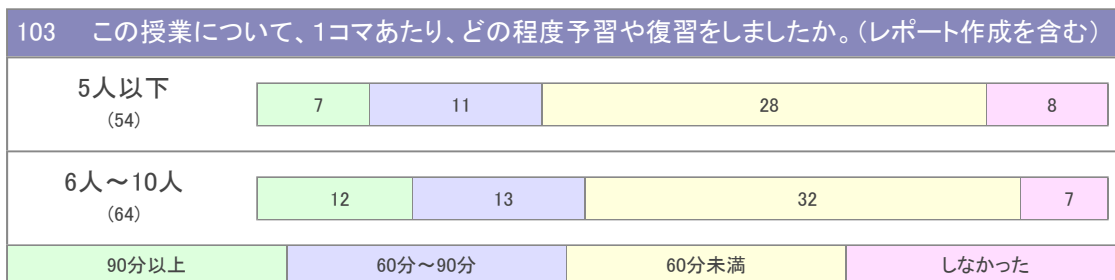
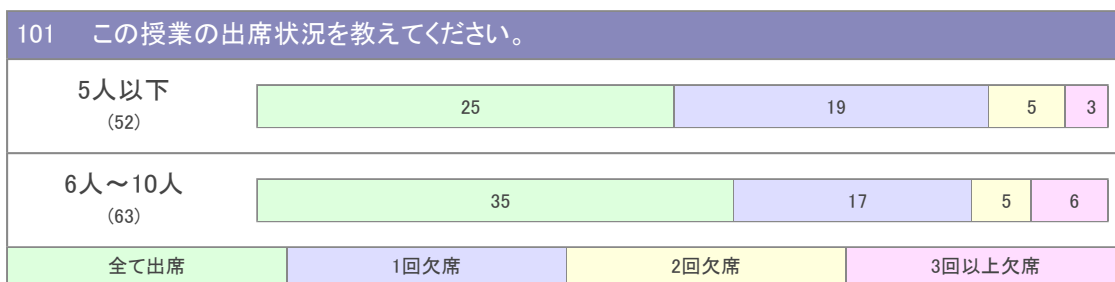
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
------	--------	-----------	----------

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思いましたか。(116)

--	--	--	--

93	21	2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(115)			
89	26	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(115)			
85	28	0	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

2009年度 後期 授業評価アンケート(講義・演習用)【大学院】
 《質問項目ごとの受講者規模別の比較》



	多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。				
5人以下 (52)	40	12	0	0
6人～10人 (63)	45	18	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	
205 この授業は、将来役立つと思いますか。				
5人以下 (53)	37	16	0	0
6人～10人 (63)	42	20	1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	
206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。				
5人以下 (53)	24	28	1	0
6人～10人 (63)	32	31	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	
207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。				
5人以下 (53)	38	15	0	0
6人～10人 (63)	40	23	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	
301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。				
5人以下 (53)	26	24	2	1
6人～10人 (62)	39	21	0	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	
302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。				
5人以下 (53)	30	22	1	0
6人～10人 (63)	41	21	1	0
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。				
5人以下 (53)	43	10	0	0
6人～10人 (63)	50	11	2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。				
5人以下 (52)	38	14	0	0
6人～10人 (63)	51	12	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。				
5人以下 (53)	38	15	0	0
6人～10人 (62)	47	13	0	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

2009年度 後期 授業評価アンケート(講義・演習用)【大学院】
《受講者規模別特徴》

5人以下			
101 この授業の出席状況を教えてください。(52)			
25	19	5	3
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席
102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(53)			
43	10		
はい	いいえ		
103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (54)			
7	11	28	8
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった
201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(52)			
32	20	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
202 この授業内容の水準はどうでしたか。(53)			
28	25	0	0
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
203 この授業の分量はどうでしたか。(54)			
5	47	2	0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(52)			
40	12	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
205 この授業は、将来役立つと思いますか。(53)			
37	16	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(53)			

24		28		1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(53)

38		15		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(53)

26		24		2	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(53)

30		22		1	0
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない		

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。(53)

43		10		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(52)

38		14		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(53)

38		15		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

6人～10人

101 この授業の出席状況を教えてください。(63)

35		17		5	6
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席		

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(63)

--	--	--	--	--	--

51		12	
はい		いいえ	

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (64)

12	13	32	7
90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(63)

32		28		2	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(63)

23		40		0	0
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった		

203 この授業の分量はどうでしたか。(63)

5	58			0	0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった		

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(63)

45		18		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

205 この授業は、将来役立つと思いますか。(63)

42		20		1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(63)

32		31		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(63)

40		23		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(62)

39			21		0	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(63)

41			21		1	0
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない			

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(63)

50			11		2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(63)

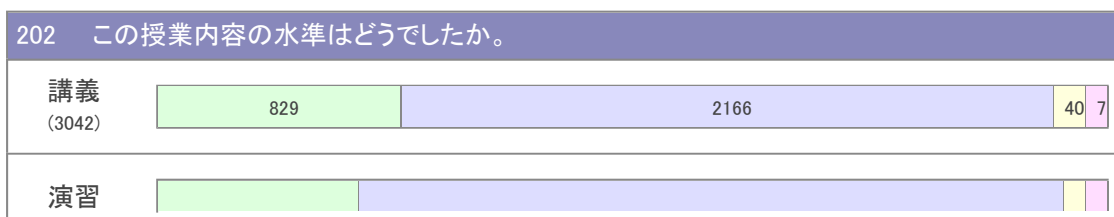
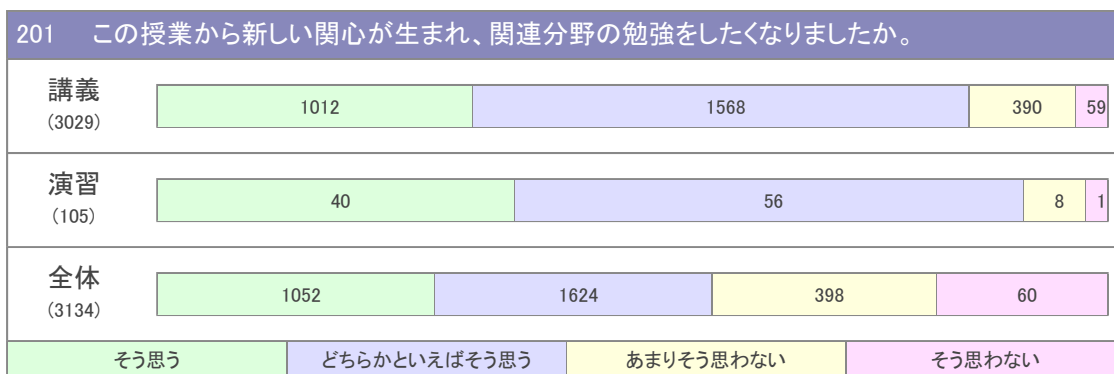
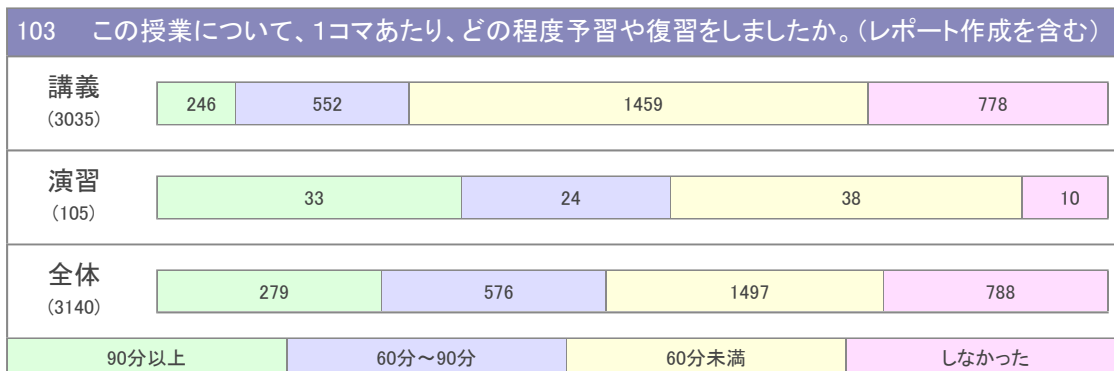
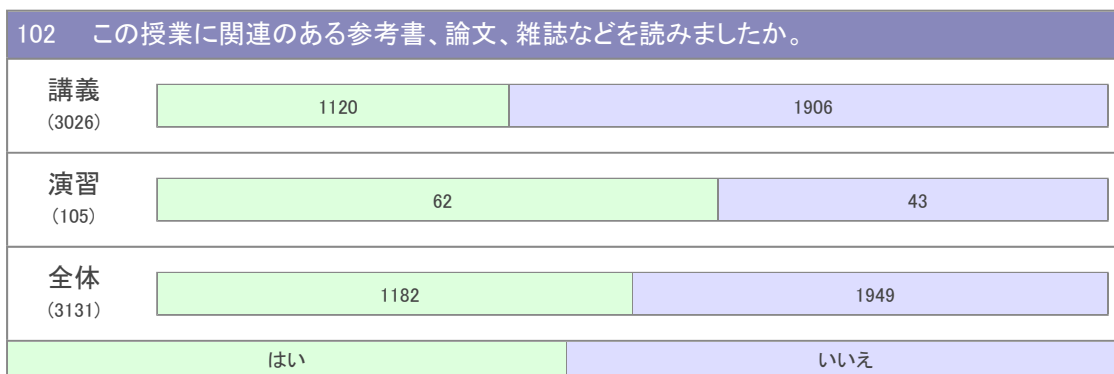
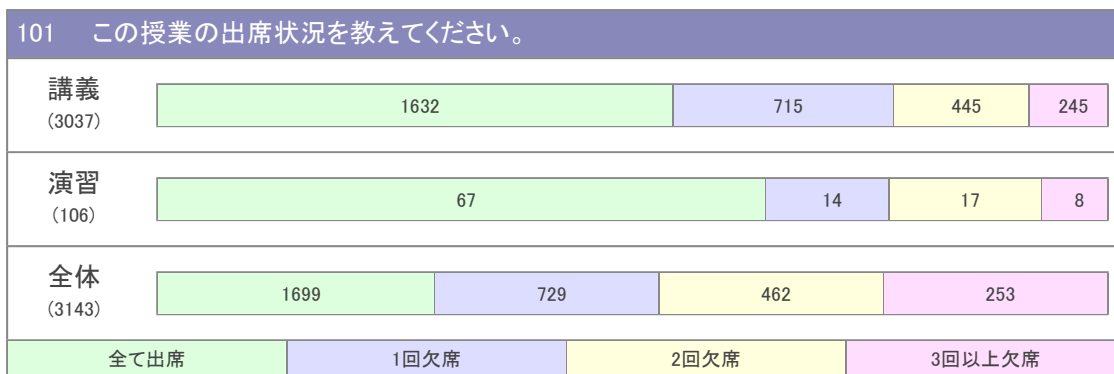
51			12		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(62)

47			13		0	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

2010年度 前期 授業評価アンケート(講義・演習用)【学部】

《質問項目ごとの授業形態別の比較》



(107)	24	83	0	0
全体 (3149)	853	2249	40	7
	高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった

203 この授業の分量はどうでしたか。

講義 (3033)	824	2184	23	2
演習 (107)	25	82	0	0
全体 (3140)	849	2266	23	2
	多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。

講義 (3025)	1471	1436	98	20
演習 (106)	66	39	1	0
全体 (3131)	1537	1475	99	20
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

205 この授業は、将来役立つと思いますか。

講義 (3024)	1516	1333	158	17
演習 (106)	64	39	3	0
全体 (3130)	1580	1372	161	17
	そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。

講義 (3023)	989	1802	193	39
演習 (105)	44	59	2	0
全体 (3128)	1033	1861	195	39
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。

講義 (3027)	1280	1531	178	38
演習 (105)	55	47	3	0
全体 (3132)	1335	1578	181	38
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。

講義 (3015)	1472	1453	78	12
演習 (104)	63	38	1	2
全体 (3119)	1535	1491	79	14
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。

講義 (3019)	1486	1361	151	21
演習 (106)	57	48	0	1
全体 (3125)	1543	1409	151	22
	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。

講義 (3038)	1449	1305	226	58
演習 (106)	64	38	4	0
全体 (3144)	1513	1343	230	58
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。

講義 (3031)	1618	1301	93	19
演習 (105)	61	42	2	0
全体 (3136)	1679	1343	95	19
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。				
講義 (2946)	1408	1424	95	19
演習 (105)	55	48	2	0
全体 (3051)	1463	1472	97	19
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

2010年度 前期 授業評価アンケート(講義・演習用)【学部】
《授業形態ごとの質問項目間の関係》

講義			
101 この授業の出席状況を教えてください。(3037)			
1632	715	445	245
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席
102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(3026)			
1120	1906		
はい	いいえ		
103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (3035)			
246	552	1459	778
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった
201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(3029)			
1012	1568	390	59
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
202 この授業内容の水準はどうでしたか。(3042)			
829	2166	40	7
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
203 この授業の分量はどうでしたか。(3033)			
824	2184	23	2
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(3025)			
1471	1436	98	20
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
205 この授業は、将来役立つと思いますか。(3024)			
1516	1333	158	17
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(3023)			

989	1802	193	39
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(3027)

1280	1531	178	38
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(3015)

1472	1453	78	12
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(3019)

1486	1361	151	21
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(3038)

1449	1305	226	58
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(3031)

1618	1301	93	19
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(2946)

1408	1424	95	19
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

演習

101 この授業の出席状況を教えてください。(106)

67	14	17	8
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(105)

62	43
----	----

はい	いいえ
----	-----

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (105)

33	24	38	10
----	----	----	----

90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった
-------	---------	-------	-------

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(105)

40	56	8	1
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(107)

24	83	0	0
----	----	---	---

高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
------	-------	--------	---------

203 この授業の分量はどうでしたか。(107)

25	82	0	0
----	----	---	---

多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
------	-------	---------	----------

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(106)

66	39	1	0
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

205 この授業は、将来役立つと思いますか。(106)

64	39	3	0
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(105)

44	59	2	0
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(105)

55	47	3	0
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(104)

--	--	--	--

63		38		1	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(106)

57		48		0	1
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない		

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(106)

64		38		4	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(105)

61		42		2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(105)

55		48		2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

全体			
-----------	--	--	--

101 この授業の出席状況を教えてください。(3143)

1699	729	462	253
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(3131)

1182	1949
はい	いいえ

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (3140)

279	576	1497	788
90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をたくまりましたか。(3134)

1052	1624	398	60
------	------	-----	----

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(3149)

853	2249	40	7
-----	------	----	---

高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
------	-------	--------	---------

203 この授業の分量はどうでしたか。(3140)

849	2266	23	2
-----	------	----	---

多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
------	-------	---------	----------

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(3131)

1537	1475	99	20
------	------	----	----

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

205 この授業は、将来役立つと思いますか。(3130)

1580	1372	161	17
------	------	-----	----

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(3128)

1033	1861	195	39
------	------	-----	----

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(3132)

1335	1578	181	38
------	------	-----	----

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(3119)

1535	1491	79	14
------	------	----	----

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(3125)

1543	1409	151	22
------	------	-----	----

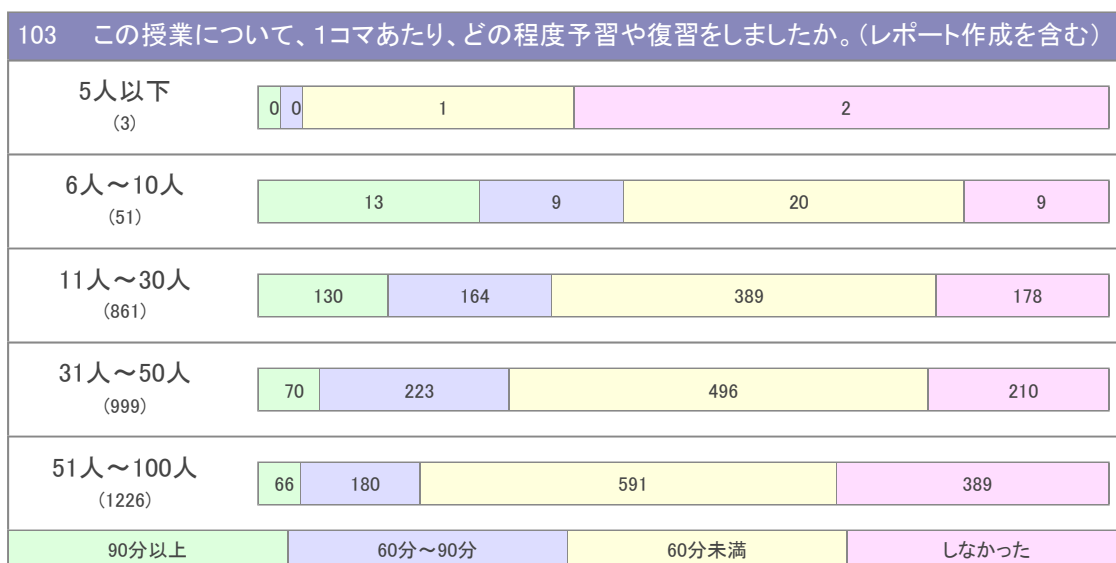
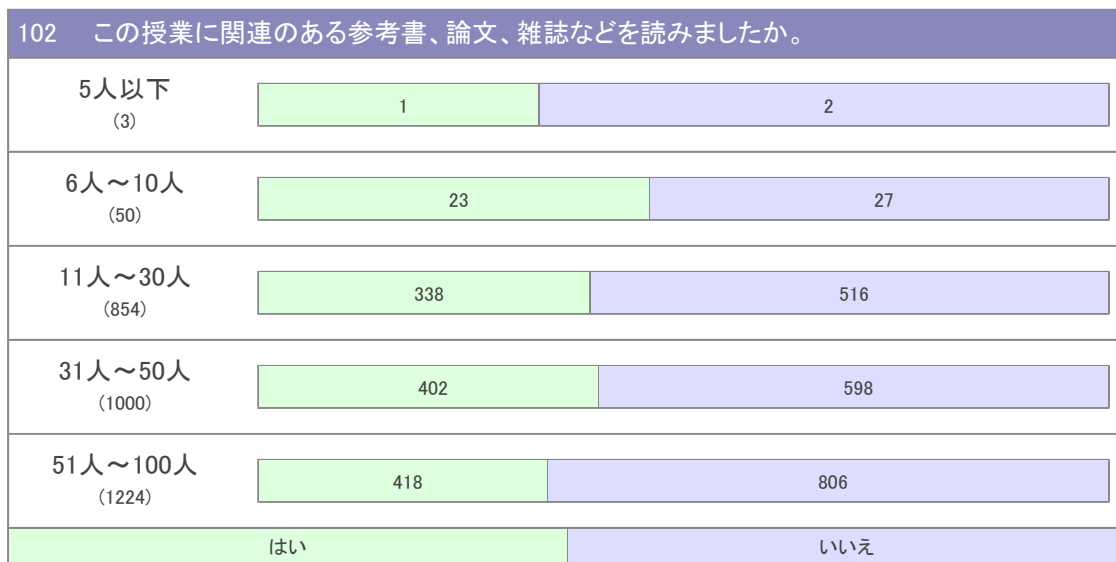
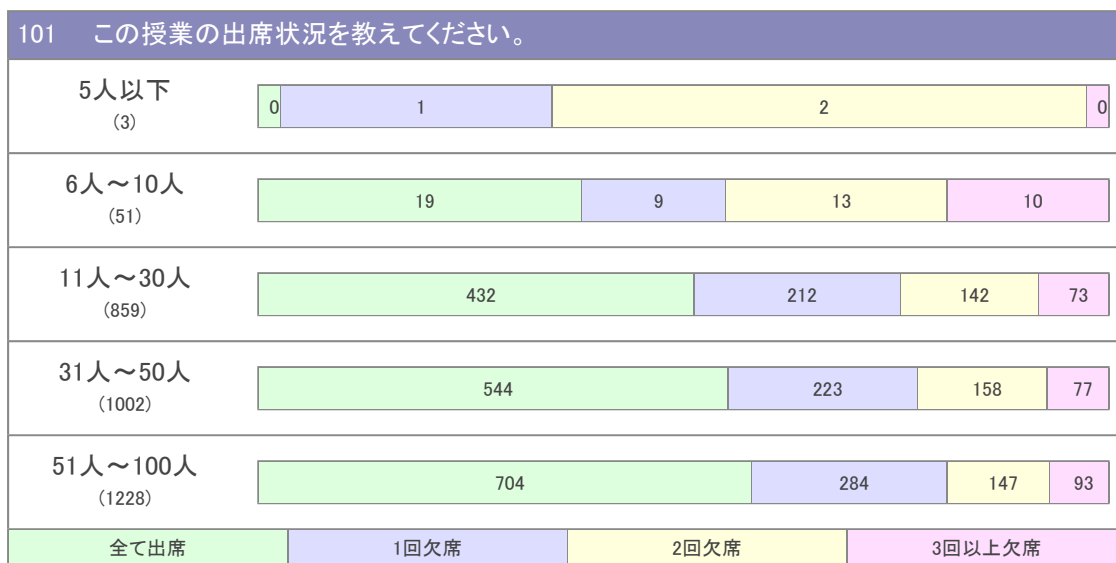
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
------	--------	-----------	----------

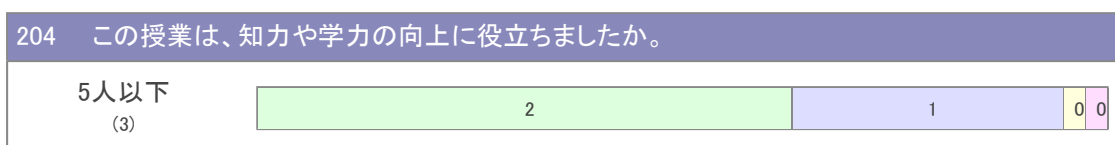
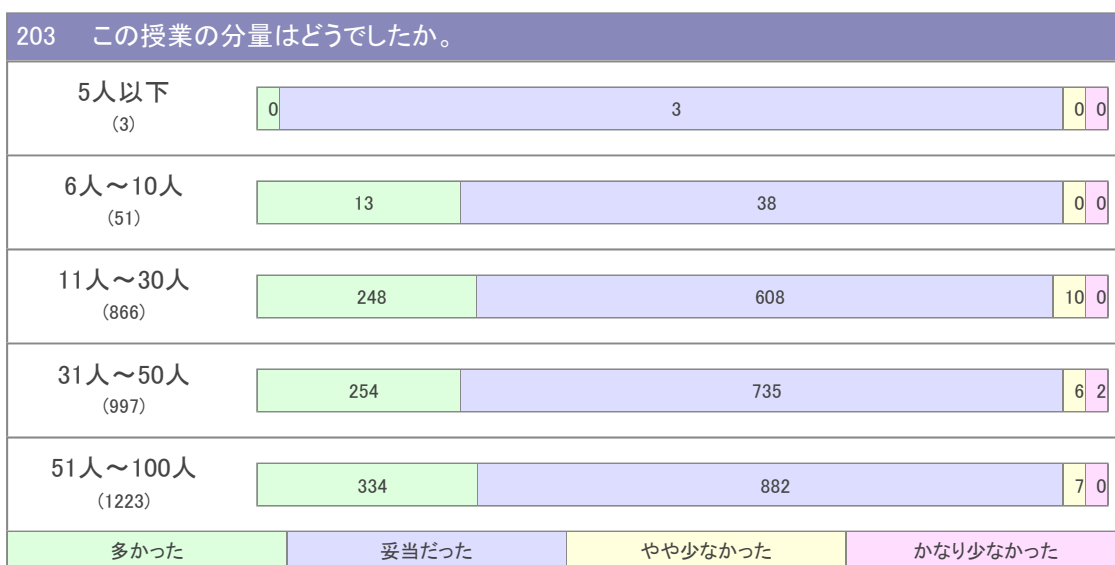
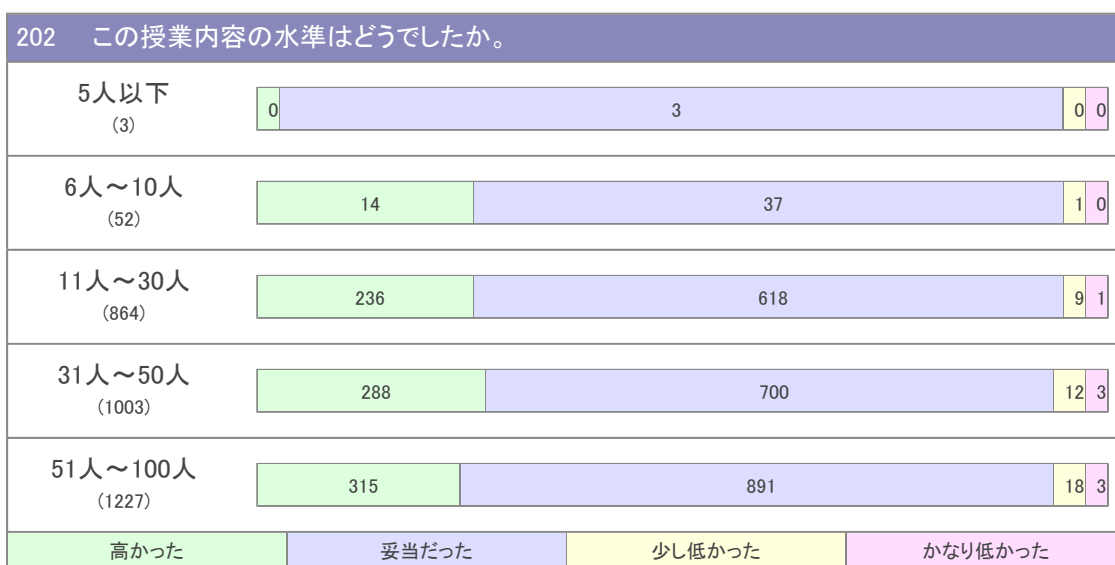
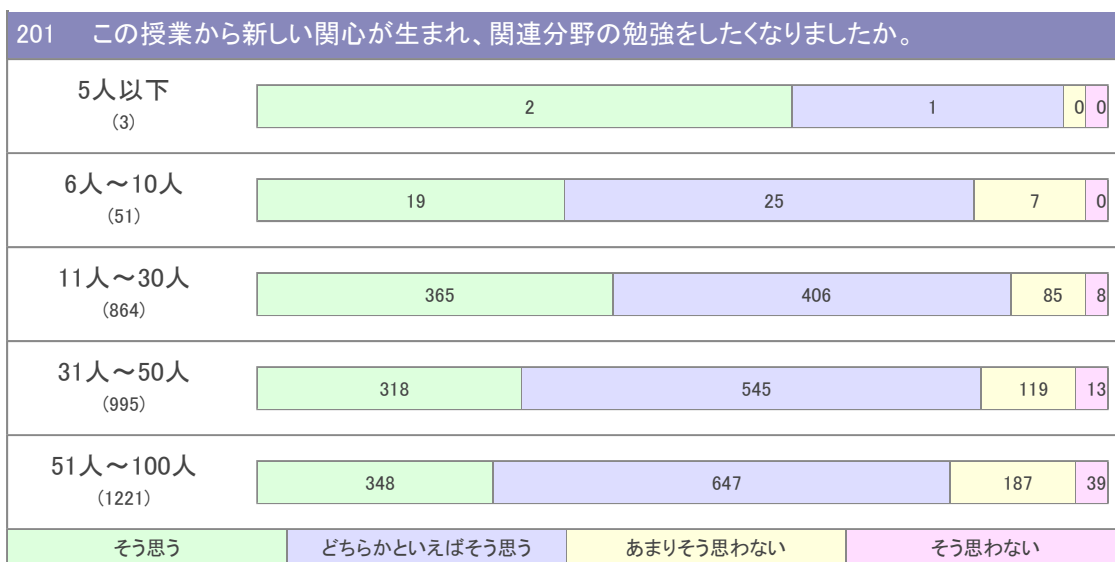
303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。(3144)

--	--	--	--

1513	1343	230	58
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(3136)			
1679	1343	95	19
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(3051)			
1463	1472	97	19
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

2010年度 前期 授業評価アンケート(講義・演習用)【学部】
《質問項目ごとの受講者規模別の比較》





6人～10人 (51)	31	20	0	0
11人～30人 (861)	506	335	18	2
31人～50人 (994)	481	478	28	7
51人～100人 (1222)	517	641	53	11
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

205 この授業は、将来役立つと思いますか。

5人以下 (3)	1	2	0	0
6人～10人 (51)	27	19	5	0
11人～30人 (859)	491	338	26	4
31人～50人 (996)	498	442	49	7
51人～100人 (1221)	563	571	81	6
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。

5人以下 (3)	2	1	0	0
6人～10人 (51)	18	31	1	1
11人～30人 (860)	351	455	44	10
31人～50人 (996)	308	621	54	13
51人～100人 (1218)	354	753	96	15
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。

5人以下 (3)	3	0	0	0
6人～10人 (51)	18	31	2	0

11人～30人 (859)	438	380	33	8
31人～50人 (998)	411	518	56	13
51人～100人 (1221)	465	649	90	17
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。

5人以下 (3)	2	0	1	0
6人～10人 (49)	23	24	2	0
11人～30人 (858)	481	355	19	3
31人～50人 (993)	479	489	23	2
51人～100人 (1216)	550	623	34	9
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。

5人以下 (3)	2	1	0	0
6人～10人 (51)	20	30	1	0
11人～30人 (858)	479	344	29	6
31人～50人 (995)	475	460	54	6
51人～100人 (1218)	567	574	67	10
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思いましたか。

5人以下 (3)	2	1	0	0
6人～10人 (51)	23	24	4	0
11人～30人 (864)	490	312	49	13

31人～50人 (1000)	450	460	69	21
51人～100人 (1226)	548	546	108	24
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。

5人以下 (3)	2	1	0	0
6人～10人 (51)	21	28	2	0
11人～30人 (861)	537	305	17	2
31人～50人 (997)	508	449	31	9
51人～100人 (1224)	611	560	45	8
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。

5人以下 (3)	3	0	0	0
6人～10人 (50)	23	26	1	0
11人～30人 (843)	487	334	18	4
31人～50人 (972)	464	469	31	8
51人～100人 (1183)	486	643	47	7
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

2010年度 前期 授業評価アンケート(講義・演習用)【学部】
《受講者規模別特徴》

5人以下			
101 この授業の出席状況を教えてください。(3)			
0	1	2	0
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席
102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(3)			
1		2	
はい		いいえ	
103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (3)			
0	0	1	2
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった
201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(3)			
2		1	0 0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
202 この授業内容の水準はどうでしたか。(3)			
0	3		0 0
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
203 この授業の分量はどうでしたか。(3)			
0	3		0 0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(3)			
2		1	0 0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
205 この授業は、将来役立つと思いますか。(3)			
1		2 0 0	
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(3)			

2			1		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(3)

3					0	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない				

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(3)

2			0	1		0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(3)

2			1		0	0
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない			

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。(3)

2			1		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(3)

2			1		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(3)

3					0	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない				

6人～10人

101 この授業の出席状況を教えてください。(51)

19	9	13	10
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(50)

--	--	--	--

23	27
----	----

はい	いいえ
----	-----

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (51)

13	9	20	9
----	---	----	---

90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった
-------	---------	-------	-------

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(51)

19	25	7	0
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(52)

14	37	1	0
----	----	---	---

高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
------	-------	--------	---------

203 この授業の分量はどうでしたか。(51)

13	38	0	0
----	----	---	---

多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
------	-------	---------	----------

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(51)

31	20	0	0
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

205 この授業は、将来役立つと思いますか。(51)

27	19	5	0
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(51)

18	31	1	1
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(51)

18	31	2	0
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(49)

23		24		2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(51)

20		30		1	0
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない		

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(51)

23		24		4	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(51)

21		28		2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(50)

23		26		1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

11人～30人

101 この授業の出席状況を教えてください。(859)

432		212		142		73	
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席				

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(854)

338		516	
はい	いいえ		

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)(861)

130		164		389		178	
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった				

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(864)

365	406	85	8
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(864)

236	618	9	1
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった

203 この授業の分量はどうでしたか。(866)

248	608	10	0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(861)

506	335	18	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

205 この授業は、将来役立つと思いますか。(859)

491	338	26	4
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(860)

351	455	44	10
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(859)

438	380	33	8
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(858)

481	355	19	3
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(858)

479	344	29	6
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(864)

490		312		49	13
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(861)

537		305		17	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(843)

487		334		18	4
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

31人～50人

101 この授業の出席状況を教えてください。(1002)

544		223		158	77
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席		

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(1000)

402		598	
はい	いいえ		

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (999)

70	223	496	210
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(995)

318		545		119	13
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(1003)

288		700		12	3
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった		

203 この授業の分量はどうでしたか。(997)

--	--	--	--	--	--

254	735			6	2
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった		
204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(994)					
481	478			28	7
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
205 この授業は、将来役立つと思いますか。(996)					
498	442			49	7
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		
206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(996)					
308	621			54	13
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(998)					
411	518			56	13
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(993)					
479	489			23	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(995)					
475	460			54	6
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない		
303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(1000)					
450	460			69	21
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		
304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(997)					
508	449			31	9
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(972)

464		469		31	8
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

51人～100人

101 この授業の出席状況を教えてください。(1228)

704		284	147	93
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席	

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(1224)

418		806		
はい		いいえ		

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)(1226)

66	180	591	389
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(1221)

348		647		187	39
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(1227)

315		891		18	3
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった		

203 この授業の分量はどうでしたか。(1223)

334		882		7	0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった		

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(1222)

517		641		53	11
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

205 この授業は、将来役立つと思いますか。(1221)

--	--	--	--	--	--

563	571	81	6
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(1218)

354	753	96	15
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(1221)

465	649	90	17
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(1216)

550	623	34	9
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(1218)

567	574	67	10
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(1226)

548	546	108	24
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(1224)

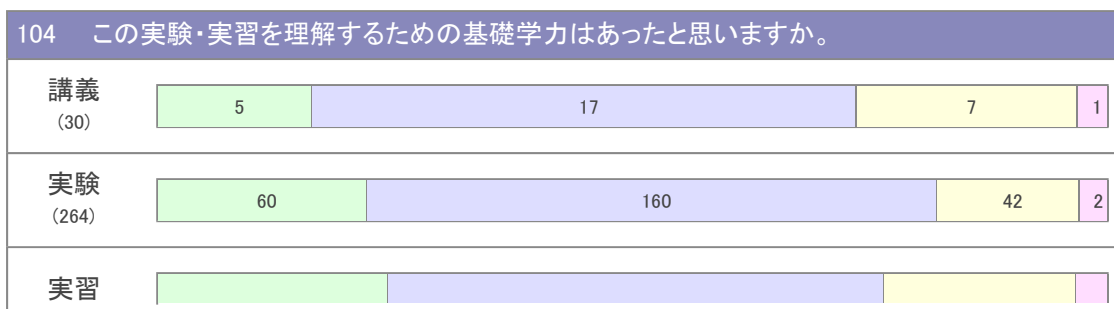
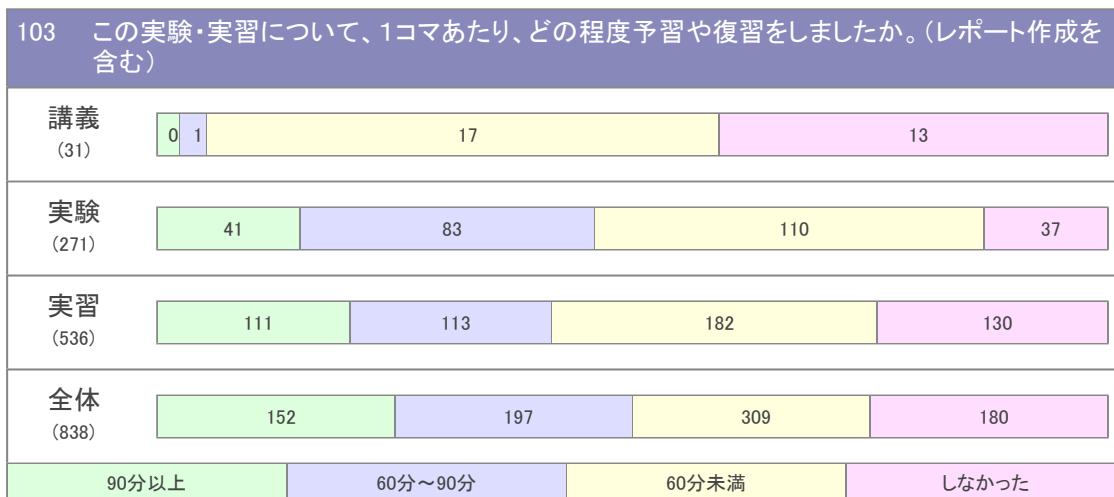
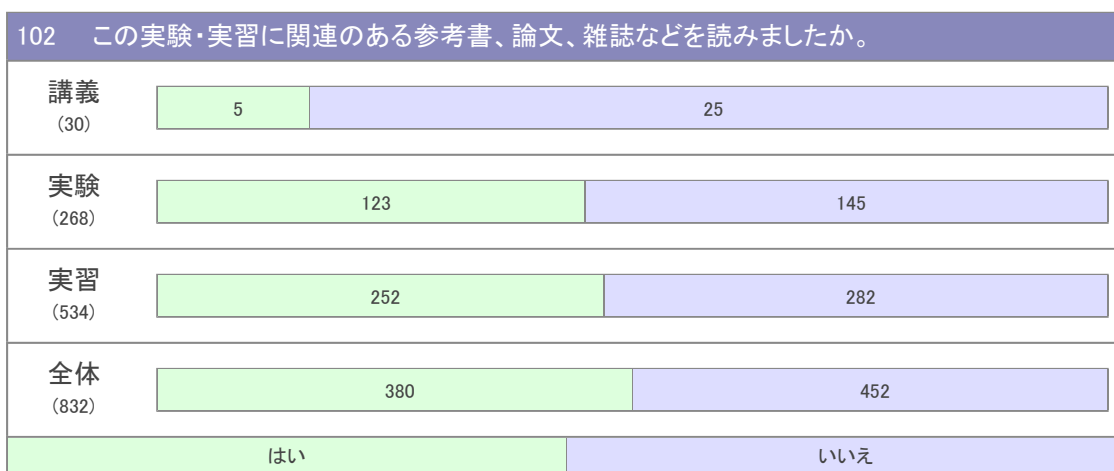
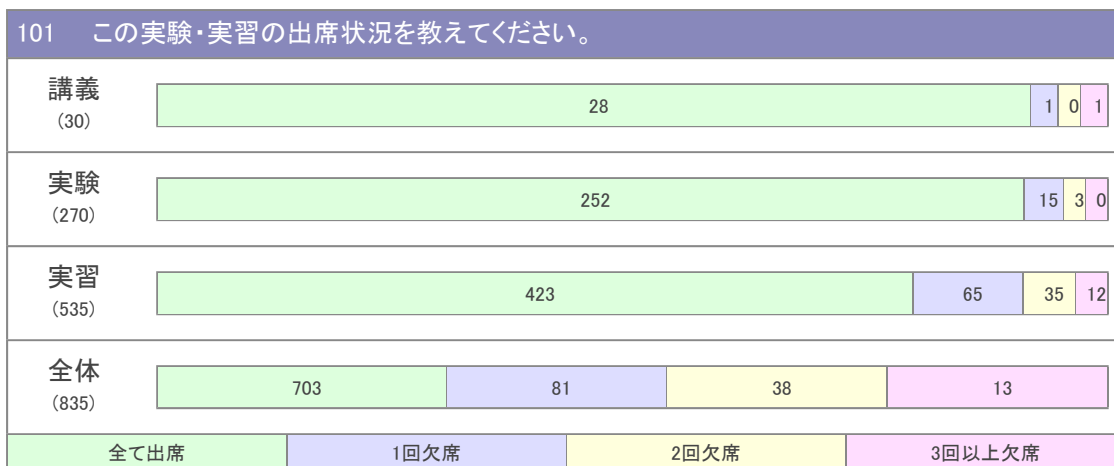
611	560	45	8
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(1183)

486	643	47	7
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

2010年度 前期 授業評価アンケート(実験・実習用)【学部】

《質問項目ごとの授業形態別の比較》



(535)	131	277	110	17
全体 (829)	196	454	159	20
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。

講義 (30)	17	12	0	1
実験 (270)	119	138	11	2
実習 (536)	251	227	51	7
全体 (836)	387	377	62	10
	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。

講義 (30)	1	28	0	1
実験 (270)	16	252	2	0
実習 (535)	85	445	4	1
全体 (835)	102	725	6	2
	高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった

203 この実験・実習の分量はどうでしたか。

講義 (30)	0	27	2	1
実験 (270)	22	239	9	0
実習 (538)	105	417	15	1
全体 (838)	127	683	26	2
	多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった

204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。

講義 (30)	24	4	1	1
------------	----	---	---	---

実験 (266)	154	109	3	0
実習 (535)	320	200	13	2
全体 (831)	498	313	17	3
	そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。

講義 (30)	15	12	2	1
実験 (270)	135	132	3	0
実習 (537)	245	254	35	3
全体 (837)	395	398	40	4
	そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。

講義 (30)	22	6	1	1
実験 (269)	159	108	2	0
実習 (531)	293	216	20	2
全体 (830)	474	330	23	3
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。

講義 (29)	20	7	1	1
実験 (269)	178	90	1	0
実習 (536)	307	206	18	5
全体 (834)	505	303	20	6
	そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。

講義 (30)	22	6	1	1
実験 (271)	180	87	3	1
実習 (532)	315	196	17	4
全体 (833)	517	289	21	6
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。

講義 (29)	25	3	0	1
実験 (270)	173	91	6	0
実習 (535)	293	204	28	10
全体 (834)	491	298	34	11
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。

講義 (30)	26	3	0	1
実験 (269)	183	83	3	0
実習 (535)	333	183	15	4
全体 (834)	542	269	18	5
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。

講義 (30)	26	3	0	1
実験 (266)	181	81	3	1
実習 (519)	319	189	7	4
全体 (815)	526	273	10	6
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

2010年度 前期 授業評価アンケート(実験・実習用)【学部】
《授業形態ごとの質問項目間の関係》

講義						
101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(30)						
28				1	0	1
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席			
102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(30)						
5	25					
はい		いいえ				
103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (31)						
0	1	17	13			
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった			
104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(30)						
5	17		7	1		
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			
201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(30)						
17			12	0	1	
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない			
202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(30)						
1	28			0	1	
高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった			
203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(30)						
0	27			2	1	
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった			
204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(30)						
24			4	1	1	
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない			
205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(30)						

15		12		2	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(30)

22		6	1	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(29)

20		7	1	1
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(30)

22		6	1	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(29)

25		3	0	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(30)

26		3	0	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(30)

26		3	0	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

実験

101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(270)

252			15	3	0
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席		

102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(268)

123	145
-----	-----

はい		いいえ	
103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (271)			
41	83	110	37
90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった
104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(264)			
60	160	42	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(270)			
119	138	11	2
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(270)			
16	252	2	0
高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(270)			
22	239	9	0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(266)			
154	109	3	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(270)			
135	132	3	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(269)			
159	108	2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(269)			

178		90		1	0
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(271)

180		87		3	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。(270)

173		91		6	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(269)

183		83		3	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(266)

181		81		3	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

実習

101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(535)

423		65	35	12
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席	

102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(534)

252	282
はい	いいえ

103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (536)

111	113	182	130
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった

104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(535)

131	277	110	17

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(536)

251	227	51	7
-----	-----	----	---

そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------	-----------	--------

202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(535)

85	445	4	1
----	-----	---	---

高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
------	-------	--------	---------

203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(538)

105	417	15	1
-----	-----	----	---

多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
------	-------	---------	----------

204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(535)

320	200	13	2
-----	-----	----	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(537)

245	254	35	3
-----	-----	----	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(531)

293	216	20	2
-----	-----	----	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(536)

307	206	18	5
-----	-----	----	---

そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------	-----------	--------

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(532)

315	196	17	4
-----	-----	----	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思いましたか。(535)

293	204	28	10
-----	-----	----	----

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(535)

333	183	15	4
-----	-----	----	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(519)

319	189	7	4
-----	-----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

全体

101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(835)

703	81	38	13
-----	----	----	----

全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席
------	------	------	--------

102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(832)

380	452
-----	-----

はい	いいえ
----	-----

103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)(838)

152	197	309	180
-----	-----	-----	-----

90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった
-------	---------	-------	-------

104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(829)

196	454	159	20
-----	-----	-----	----

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(836)

387	377	62	10
-----	-----	----	----

そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------	-----------	--------

202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(835)

102	725	6	2
-----	-----	---	---

高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
------	-------	--------	---------

203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(838)

127	683	26	2
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった

204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(831)

498	313	17	3
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(837)

395	398	40	4
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(830)

474	330	23	3
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(834)

505	303	20	6
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(833)

517	289	21	6
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。(834)

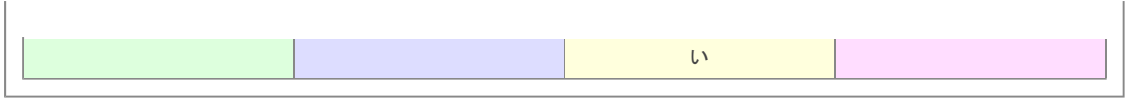
491	298	34	11
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(834)

542	269	18	5
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(815)

526	273	10	6
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない



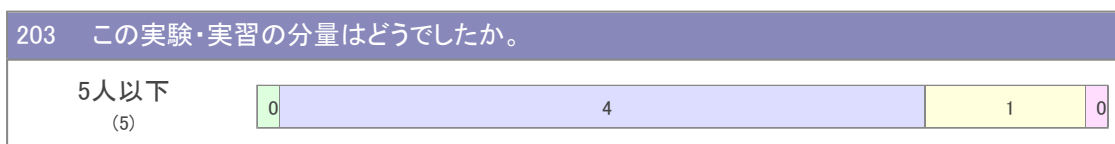
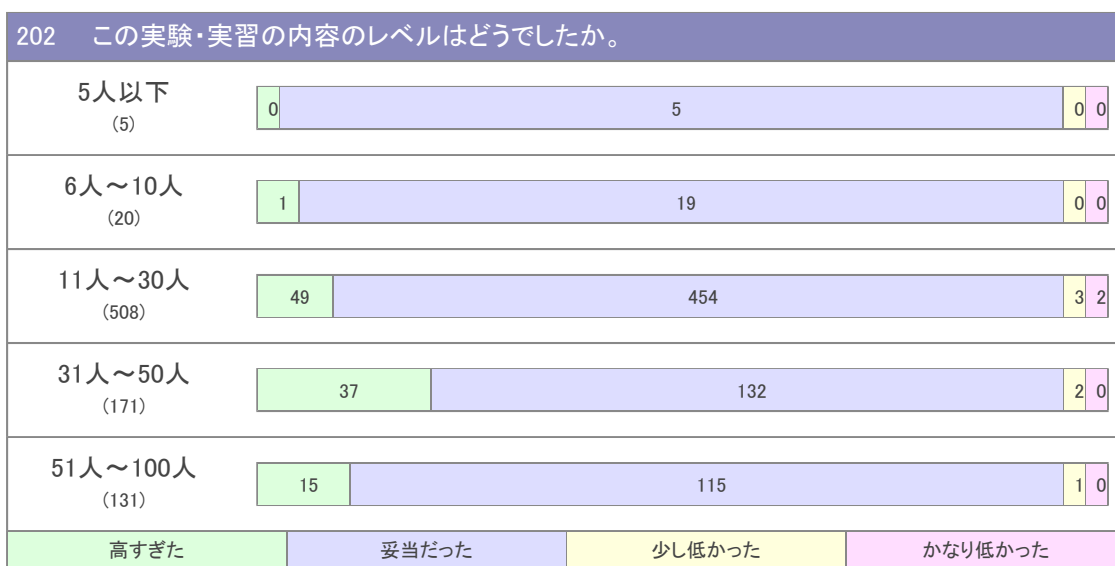
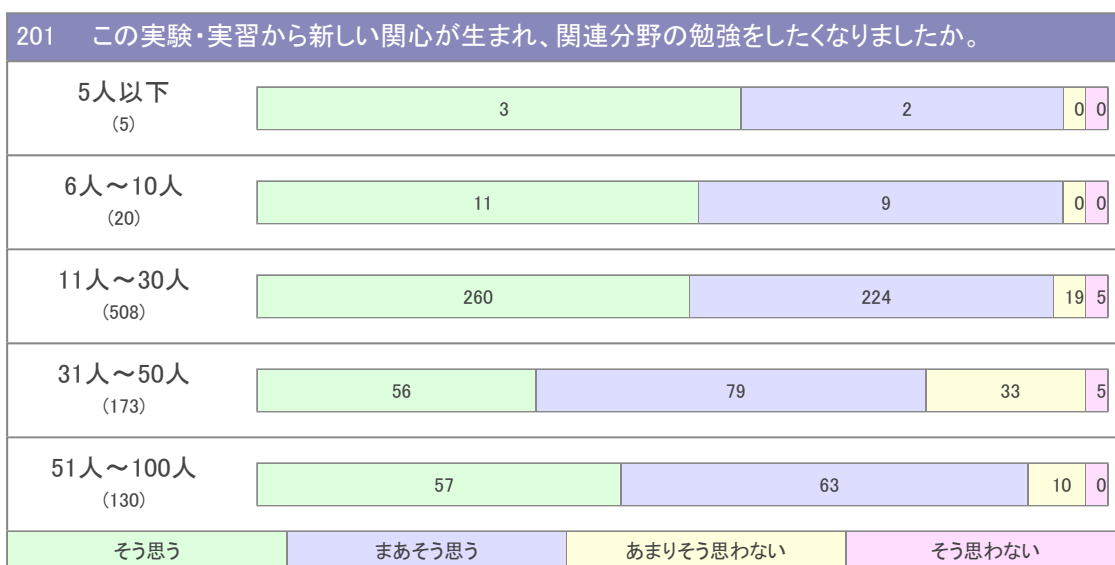
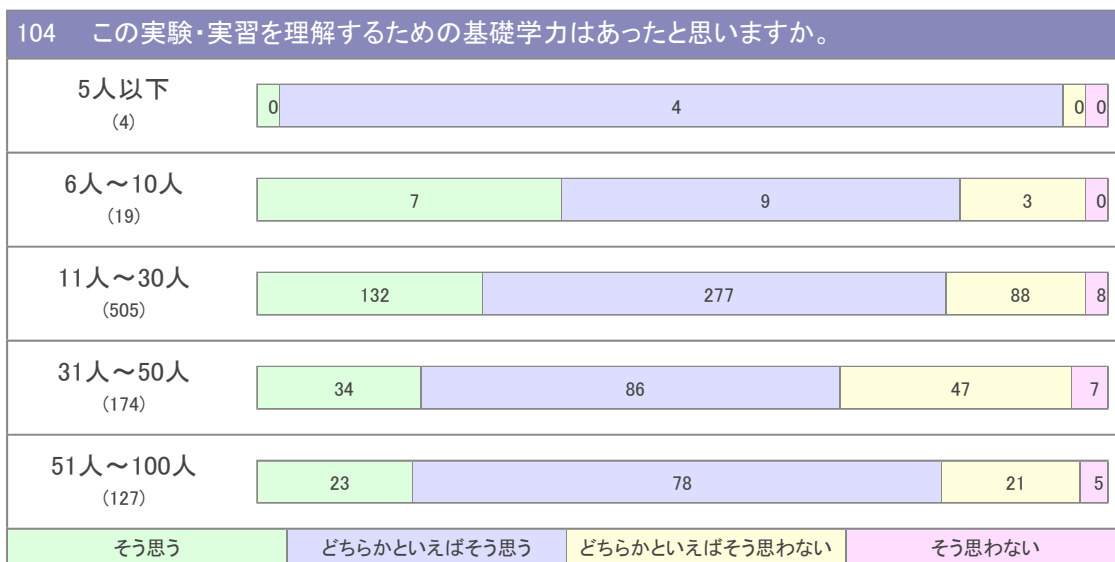
2010年度 前期 授業評価アンケート(実験・実習用)【学部】

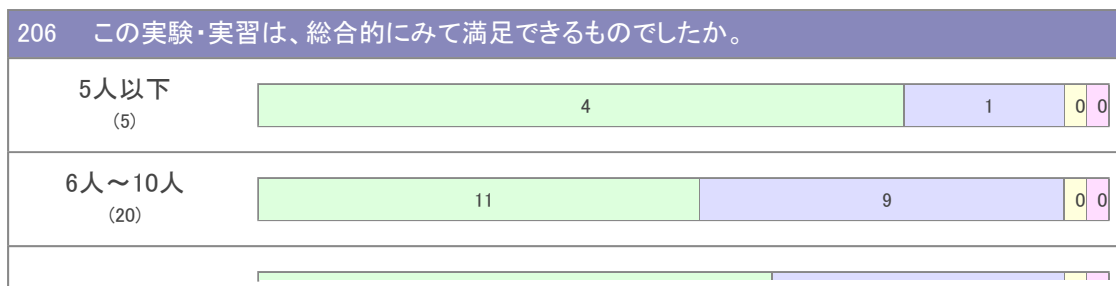
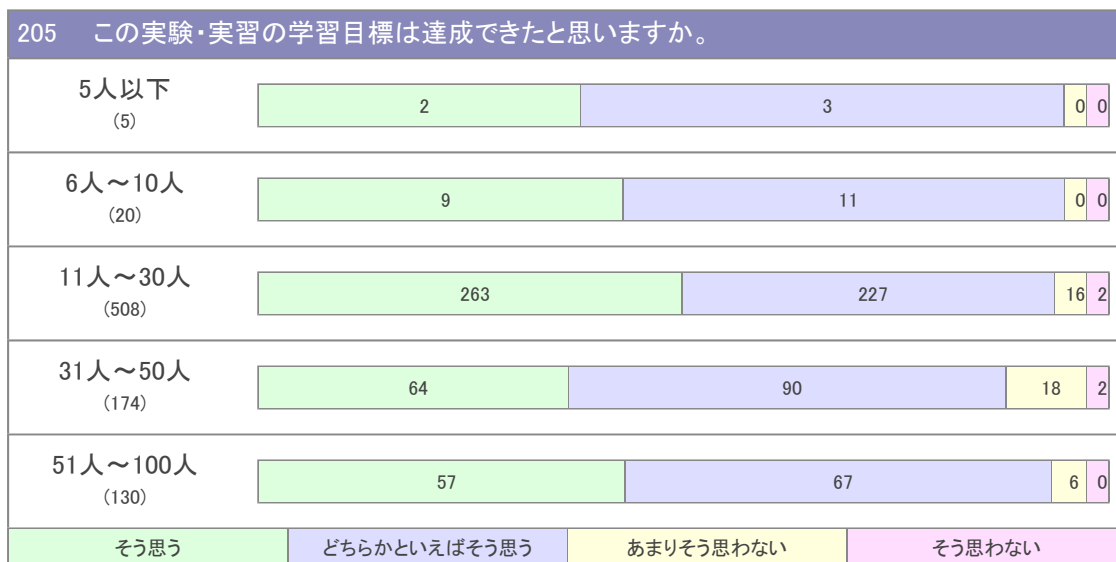
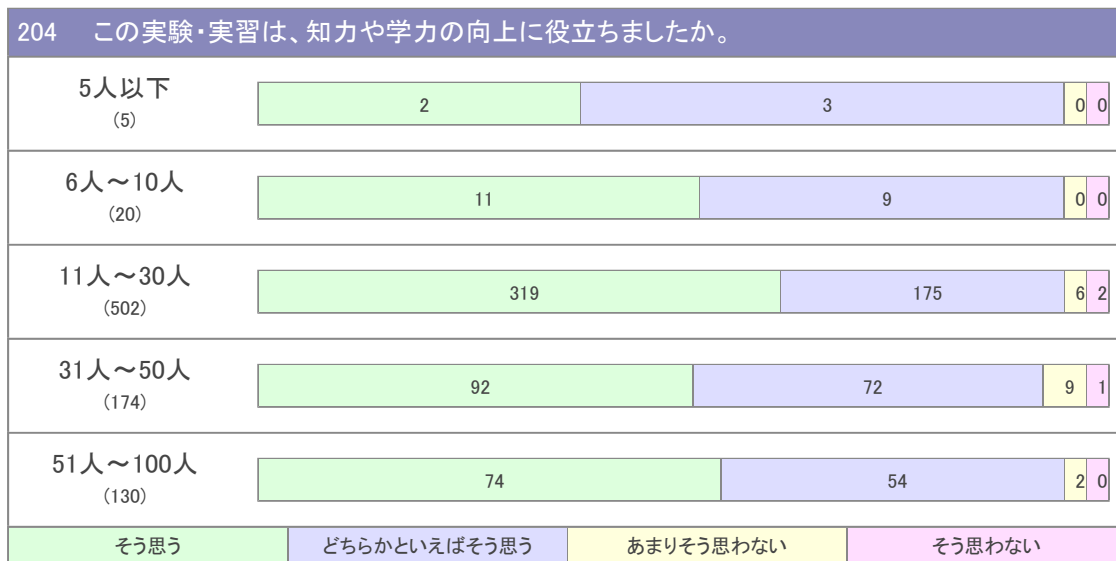
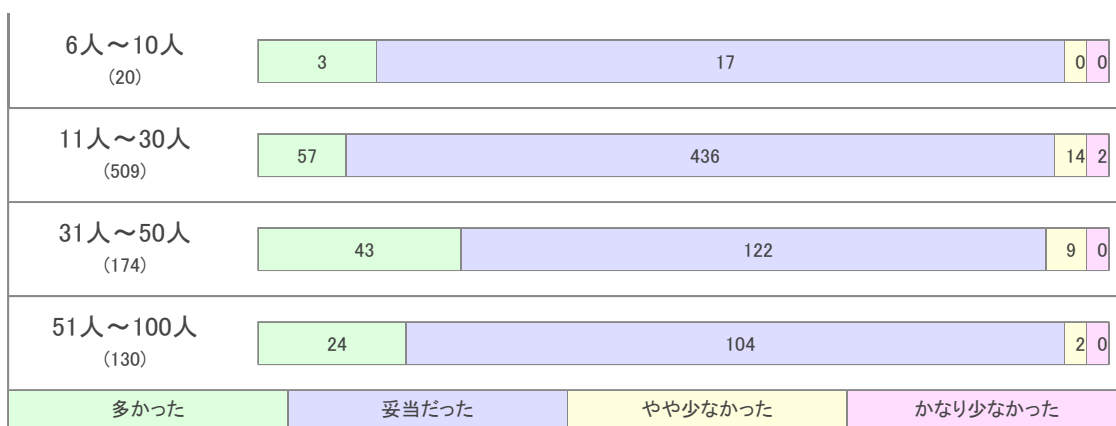
《質問項目ごとの受講者規模別の比較》

101 この実験・実習の出席状況を教えてください。				
5人以下 (5)	2	2	1	0
6人～10人 (20)	19	1	0	0
11人～30人 (507)	441	43	19	4
31人～50人 (173)	166	5	0	2
51人～100人 (130)	75	30	18	7
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席	

102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。	
5人以下 (5)	4
6人～10人 (20)	14
11人～30人 (504)	230
31人～50人 (174)	76
51人～100人 (129)	56
はい	いいえ

103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)				
5人以下 (5)	1	4	0	0
6人～10人 (19)	4	8	7	0
11人～30人 (509)	77	124	213	95
31人～50人 (174)	65	42	34	33
51人～100人 (131)	5	19	55	52
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった	





11人～30人 (505)	316	182	6	1
31人～50人 (171)	69	87	13	2
51人～100人 (129)	74	51	4	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。

5人以下 (5)	5	0	0	0
6人～10人 (20)	10	10	0	0
11人～30人 (504)	335	160	6	3
31人～50人 (174)	76	83	12	3
51人～100人 (131)	79	50	2	0
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。

5人以下 (5)	5	0	0	0
6人～10人 (20)	9	11	0	0
11人～30人 (507)	342	156	7	2
31人～50人 (172)	84	73	12	3
51人～100人 (129)	77	49	2	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思いましたか。

5人以下 (5)	5	0	0	0
6人～10人 (20)	12	7	1	0
11人～30人 (505)	342	152	10	1

31人～50人 (174)	65	84	18	7
51人～100人 (130)	67	55	5	3
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。

5人以下 (5)	4	1	0	0
6人～10人 (20)	11	9	0	0
11人～30人 (505)	358	141	5	1
31人～50人 (175)	85	77	10	3
51人～100人 (129)	84	41	3	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。

5人以下 (5)	4	1	0	0
6人～10人 (20)	11	9	0	0
11人～30人 (497)	358	133	4	2
31人～50人 (170)	82	80	6	2
51人～100人 (123)	71	50	0	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

2010年度 前期 授業評価アンケート(実験・実習用)【学部】
《受講者規模別特徴》

5人以下			
101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(5)			
2	2	1	0
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席
102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(5)			
4			1
はい		いいえ	
103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (5)			
1	4		0 0
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった
104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(4)			
0	4		0 0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(5)			
3		2	0 0
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(5)			
0	5		0 0
高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(5)			
0	4		1 0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(5)			
2		3	0 0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(5)			

2		3		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(5)

4			1	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(5)

5				0	0	0
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない			

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(5)

5				0	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(5)

5				0	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(5)

4			1	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(5)

4			1	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

6人～10人

101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(20)

19				1	0	0
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席			

102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(20)

14		6	
----	--	---	--

はい		いいえ	
103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (19)			
4	8	7	0
90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった
104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(19)			
7	9	3	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(20)			
11	9	0	0
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(20)			
1	19	0	0
高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(20)			
3	17	0	0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(20)			
11	9	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(20)			
9	11	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(20)			
11	9	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(20)			

10		10		0	0
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(20)

9		11		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(20)

12		7		1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(20)

11		9		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(20)

11		9		0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

11人～30人

101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(507)

441			43	19	4
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席		

102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(504)

230		274	
はい	いいえ		

103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (509)

77	124	213	95
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった

104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(505)

132	277	88	8
-----	-----	----	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(508)

260	224	19	5
-----	-----	----	---

そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------	-----------	--------

202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(508)

49	454	3	2
----	-----	---	---

高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
------	-------	--------	---------

203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(509)

57	436	14	2
----	-----	----	---

多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
------	-------	---------	----------

204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(502)

319	175	6	2
-----	-----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(508)

263	227	16	2
-----	-----	----	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(505)

316	182	6	1
-----	-----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(504)

335	160	6	3
-----	-----	---	---

そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------	-----------	--------

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(507)

342	156	7	2
-----	-----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。(505)

--	--	--	--

342			152		10	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(505)

358			141		5	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(497)

358			133		4	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

31人～50人						
---------	--	--	--	--	--	--

101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(173)

166				5	0	2
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席			

102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(174)

76		98				
はい			いいえ			

103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)(174)

65		42		34		33	
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった				

104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(174)

34		86			47		7	
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない					

201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(173)

56		79			33		5	
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない					

202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(171)

37		132					2	0
----	--	-----	--	--	--	--	---	---

高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
------	-------	--------	---------

203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(174)

43	122	9	0
----	-----	---	---

多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
------	-------	---------	----------

204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(174)

92	72	9	1
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(174)

64	90	18	2
----	----	----	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(171)

69	87	13	2
----	----	----	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(174)

76	83	12	3
----	----	----	---

そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------	-----------	--------

302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(172)

84	73	12	3
----	----	----	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思いましたか。(174)

65	84	18	7
----	----	----	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(175)

85	77	10	3
----	----	----	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(170)

82		80		6	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

51人～100人

101 この実験・実習の出席状況を教えてください。(130)

75		30		18	7
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席		

102 この実験・実習に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(129)

56		73	
はい	いいえ		

103 この実験・実習について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (131)

5	19	55	52
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった

104 この実験・実習を理解するための基礎学力はあったと思いますか。(127)

23	78		21	5
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

201 この実験・実習から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(130)

57		63		10	0
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

202 この実験・実習の内容のレベルはどうでしたか。(131)

15	115			1	0
高すぎた	妥当だった	少し低かった	かなり低かった		

203 この実験・実習の分量はどうでしたか。(130)

24	104			2	0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった		

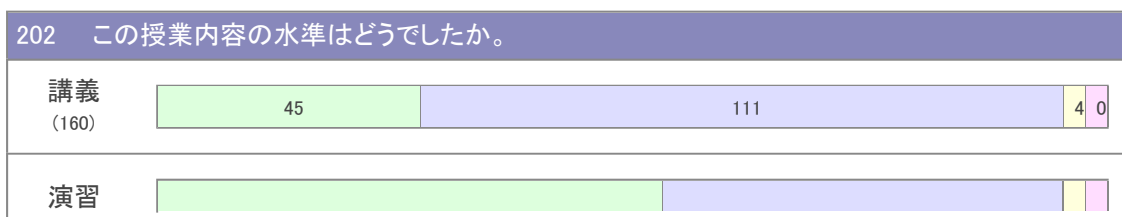
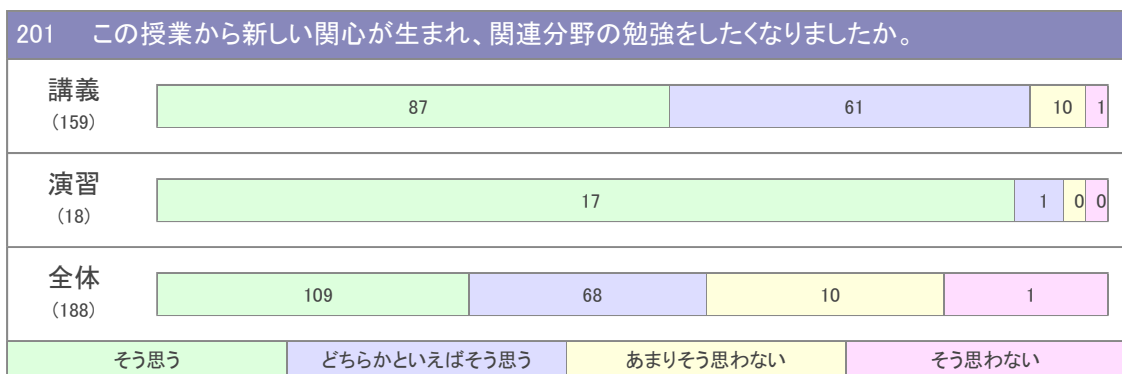
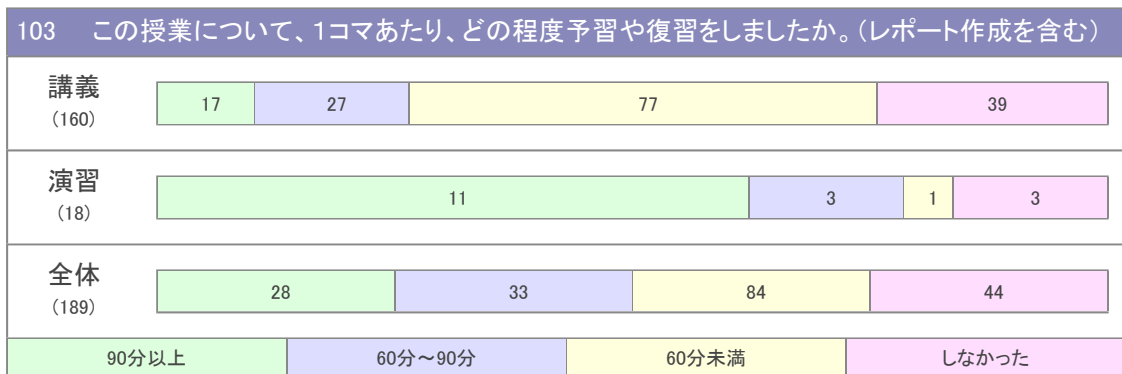
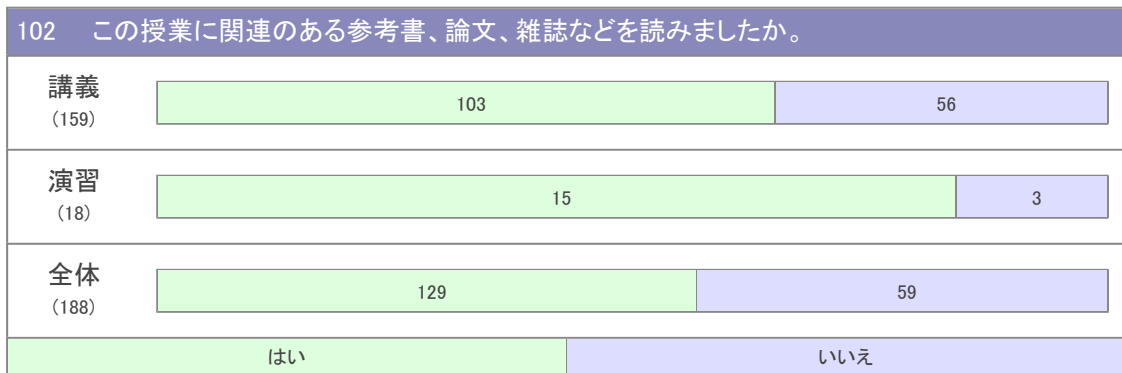
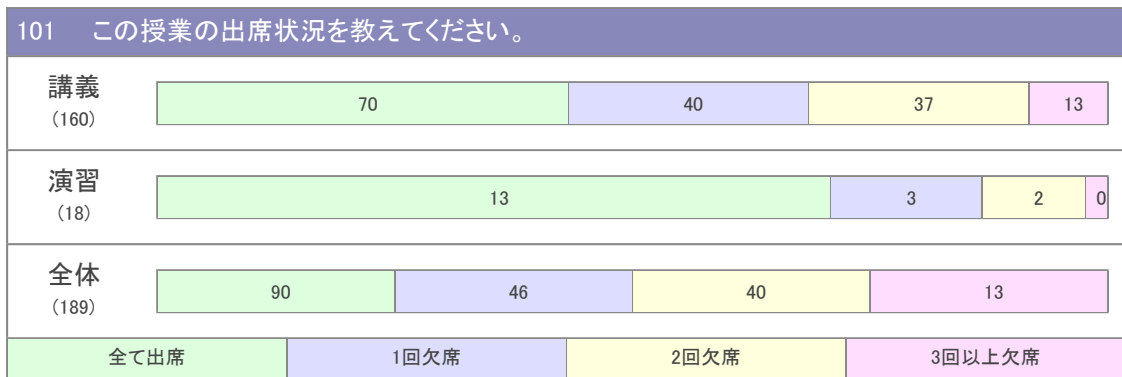
204 この実験・実習は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(130)

74		54		2	0

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
205 この実験・実習の学習目標は達成できたと思いますか。(130)			
57	67	6	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
206 この実験・実習は、総合的にみて満足できるものでしたか。(129)			
74	51	4	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
301 この実験・実習は、シラバスに沿って進められましたか。(131)			
79	50	2	0
そう思う	まあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
302 板書、配布資料、実験マニュアルなどは実験・実習の内容理解と実施に役立ちましたか。(129)			
77	49	2	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。(130)			
67	55	5	3
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
304 教員の準備は十分で、実験・実習に対する熱意が感じられましたか。(129)			
84	41	3	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
305 実験・実習中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(123)			
71	50	0	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

2010年度 前期 授業評価アンケート(講義・演習用)【大学院】

《質問項目ごとの授業形態別の比較》



2010年度 前期 授業評価アンケート(講義・演習用)【大学院】
《授業形態ごとの質問項目間の関係》

講義			
101 この授業の出席状況を教えてください。(160)			
70	40	37	13
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席
102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(159)			
103	56		
はい	いいえ		
103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)(160)			
17	27	77	39
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった
201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(159)			
87	61	10	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
202 この授業内容の水準はどうでしたか。(160)			
45	111		4 0
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
203 この授業の分量はどうでしたか。(159)			
16	139		3 1
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(159)			
111		45	2 1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
205 この授業は、将来役立つと思いますか。(160)			
104		46	10 0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(159)			

65		83		9	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(160)

108		45		5	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(160)

97		62		1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(160)

104		53		3	0
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない		

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。(161)

118		35		7	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(157)

122		34		0	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(156)

110		44		1	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

演習

101 この授業の出席状況を教えてください。(18)

13		3	2	0
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席	

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(18)

15		3
----	--	---

はい	いいえ
----	-----

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (18)

11	3	1	3
----	---	---	---

90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった
-------	---------	-------	-------

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(18)

17	1	0	0
----	---	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(18)

10	8	0	0
----	---	---	---

高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
------	-------	--------	---------

203 この授業の分量はどうでしたか。(18)

6	12	0	0
---	----	---	---

多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
------	-------	---------	----------

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(18)

16	2	0	0
----	---	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

205 この授業は、将来役立つと思いますか。(18)

16	2	0	0
----	---	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(18)

14	4	0	0
----	---	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(18)

17	1	0	0
----	---	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(18)

--	--	--	--

14			4	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(18)

14			4	0	0
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない		

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(18)

17				1	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(18)

17				1	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(18)

16				2	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			

全体			
-----------	--	--	--

101 この授業の出席状況を教えてください。(189)

90	46	40	13
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(188)

129		59	
はい		いいえ	

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)(189)

28	33	84	44
90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(188)

109	68	10	1

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(188)

57	127	4	0
----	-----	---	---

高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった
------	-------	--------	---------

203 この授業の分量はどうでしたか。(188)

22	162	3	1
----	-----	---	---

多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった
------	-------	---------	----------

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(188)

136	49	2	1
-----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

205 この授業は、将来役立つと思いますか。(189)

127	52	10	0
-----	----	----	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
------	--------------	-----------	--------

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(188)

84	93	9	2
----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(189)

129	53	5	2
-----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(188)

117	70	1	0
-----	----	---	---

そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
------	--------------	----------------	--------

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(189)

123	63	3	0
-----	----	---	---

そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない
------	--------	-----------	----------

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。(191)

--	--	--	--

145	38	7	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(186)

149	36	0	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(185)

135	48	1	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

(18)	10	8	0	0
全体 (188)	57	127	4	0
	高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった

203 この授業の分量はどうでしたか。

講義 (159)	16	139	3	1
演習 (18)	6	12	0	0
全体 (188)	22	162	3	1
	多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。

講義 (159)	111	45	2	1
演習 (18)	16	2	0	0
全体 (188)	136	49	2	1
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

205 この授業は、将来役立つと思いますか。

講義 (160)	104	46	10	0
演習 (18)	16	2	0	0
全体 (189)	127	52	10	0
	そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない

206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。

講義 (159)	65	83	9	2
演習 (18)	14	4	0	0
全体 (188)	84	93	9	2
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。

講義 (160)	108	45	5	2
演習 (18)	17	1	0	0
全体 (189)	129	53	5	2
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。

講義 (160)	97	62	1	0
演習 (18)	14	4	0	0
全体 (188)	117	70	1	0
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。

講義 (160)	104	53	3	0
演習 (18)	14	4	0	0
全体 (189)	123	63	3	0
	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。

講義 (161)	118	35	7	1
演習 (18)	17	1	0	0
全体 (191)	145	38	7	1
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。

講義 (157)	122	34	0	1
演習 (18)	17	1	0	0
全体 (186)	149	36	0	1
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。				
講義 (156)	110	44	1	1
演習 (18)	16	2	0	0
全体 (185)	135	48	1	1
	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない

2010年度 前期 授業評価アンケート(講義・演習用)【大学院】
 《質問項目ごとの受講者規模別の比較》

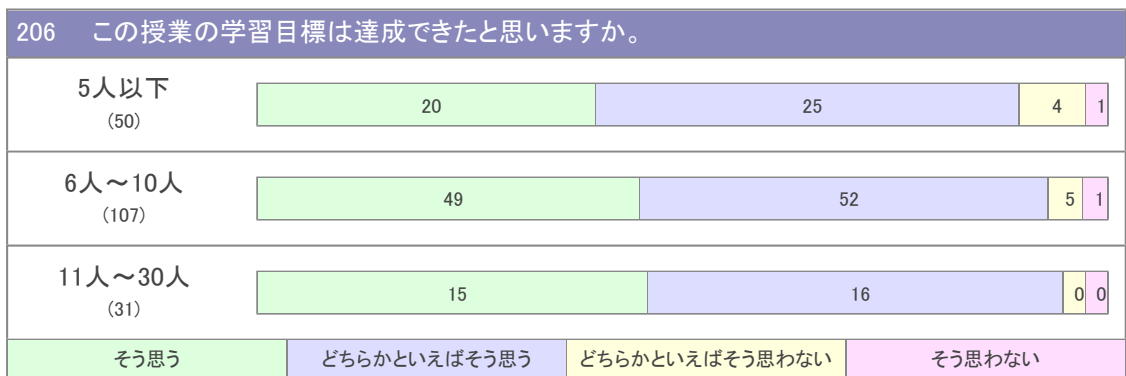
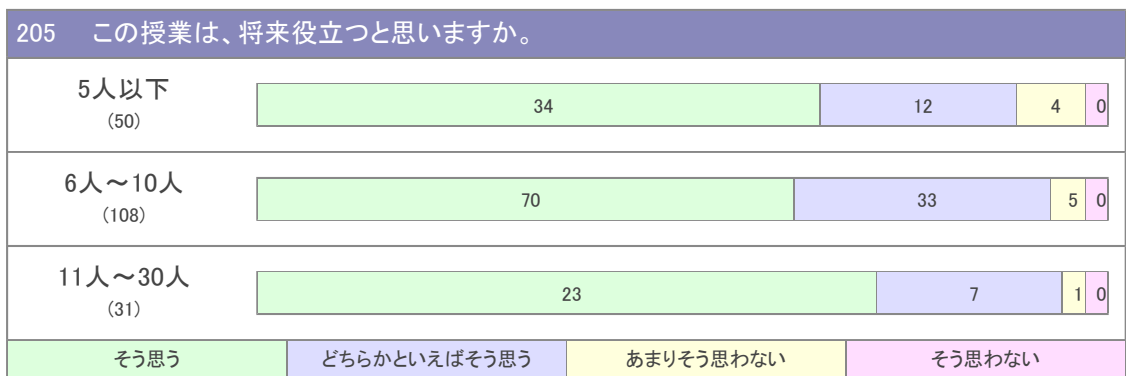
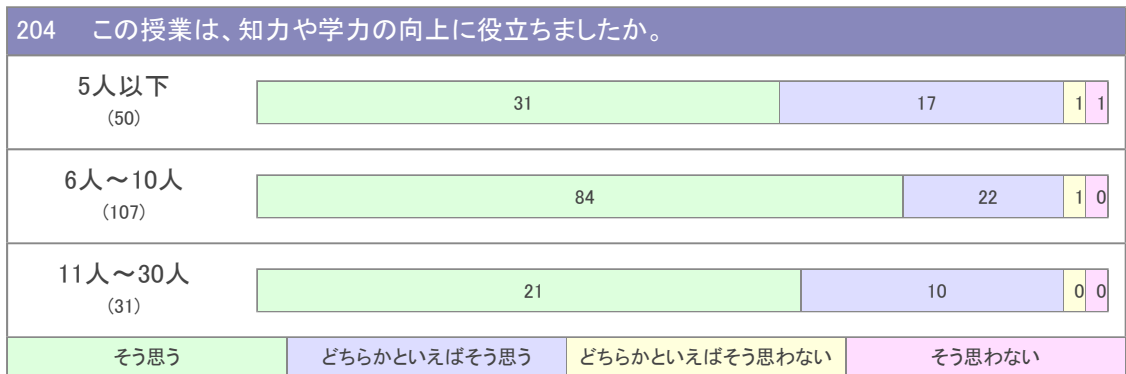
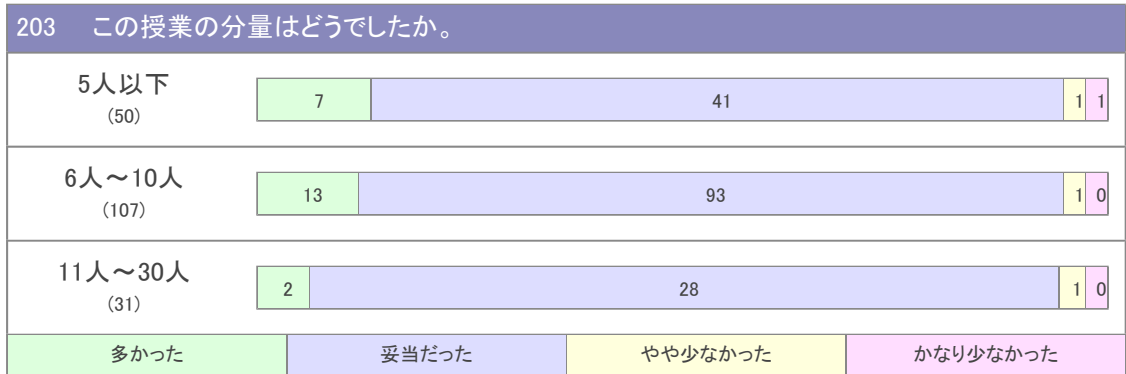
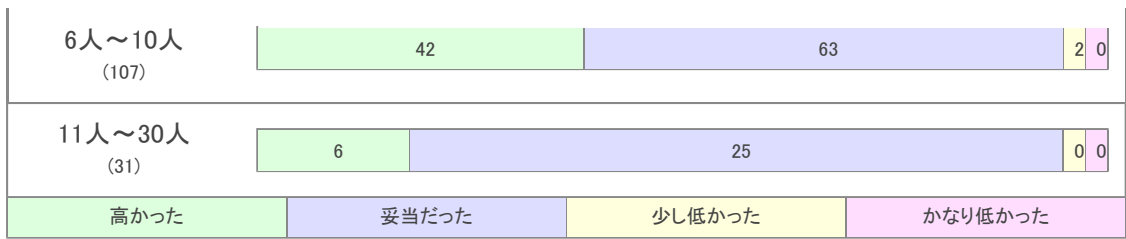
101 この授業の出席状況を教えてください。				
5人以下 (50)	29	15	4	2
6人～10人 (108)	53	25	22	8
11人～30人 (31)	8	6	14	3
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席	

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。	
5人以下 (50)	34
6人～10人 (107)	81
11人～30人 (31)	14
はい	いいえ

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)				
5人以下 (50)	11	9	25	5
6人～10人 (108)	17	21	44	26
11人～30人 (31)	0	3	15	13
90分以上	60分～90分	60分未満	しなかった	

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。				
5人以下 (50)	26	20	4	0
6人～10人 (108)	64	39	4	1
11人～30人 (30)	19	9	2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	

202 この授業内容の水準はどうでしたか。				
5人以下 (50)	9	39	2	0



207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。				
5人以下 (50)	31	14	3	2
6人～10人 (108)	76	30	2	0
11人～30人 (31)	22	9	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。				
5人以下 (50)	27	22	1	0
6人～10人 (107)	71	36	0	0
11人～30人 (31)	19	12	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。				
5人以下 (50)	25	23	2	0
6人～10人 (108)	73	34	1	0
11人～30人 (31)	25	6	0	0
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思えましたか。				
5人以下 (51)	37	11	2	1
6人～10人 (109)	87	19	3	0
11人～30人 (31)	21	8	2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。				
5人以下 (50)	35	14	0	1
6人～10人 (105)	89	16	0	0
11人～30人				

(31)	25		6	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。					
5人以下 (50)	35		13	1	1
6人～10人 (105)	78		27	0	0
11人～30人 (30)	22		8	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

2010年度 前期 授業評価アンケート(講義・演習用)【大学院】
《受講者規模別特徴》

5人以下				
101 この授業の出席状況を教えてください。(50)				
29		15		4
2				
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席	
102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(50)				
34			16	
はい			いいえ	
103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む)(50)				
11	9	25		5
90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった	
201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(50)				
26		20		4
0				
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	
202 この授業内容の水準はどうでしたか。(50)				
9	39			2
0				
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった	
203 この授業の分量はどうでしたか。(50)				
7	41			1
1				
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった	
204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(50)				
31		17		1
1				
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	
205 この授業は、将来役立つと思いますか。(50)				
34			12	4
0				
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	
206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(50)				

20		25		4	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(50)

31		14		3	2
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(50)

27		22		1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(50)

25		23		2	0
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない		

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(51)

37		11		2	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(50)

35		14		0	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(50)

35		13		1	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

6人～10人

101 この授業の出席状況を教えてください。(108)

53		25		22		8
全て出席	1回欠席	2回欠席	3回以上欠席			

102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(107)

--	--	--	--	--	--

81		26	
はい		いいえ	

103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (108)

17	21	44	26
90分以上	60分~90分	60分未満	しなかった

201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(108)

64		39		4	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

202 この授業内容の水準はどうでしたか。(107)

42		63		2	0
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった		

203 この授業の分量はどうでしたか。(107)

13	93			1	0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった		

204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(107)

84		22		1	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

205 この授業は、将来役立つと思いますか。(108)

70		33		5	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない		

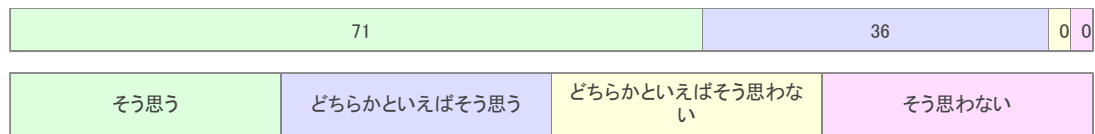
206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(107)

49		52		5	1
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

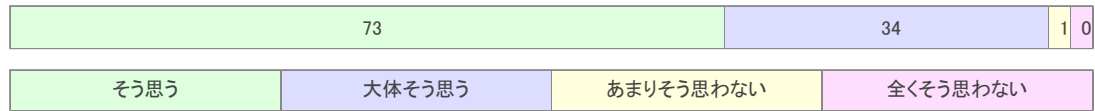
207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(108)

76		30		2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

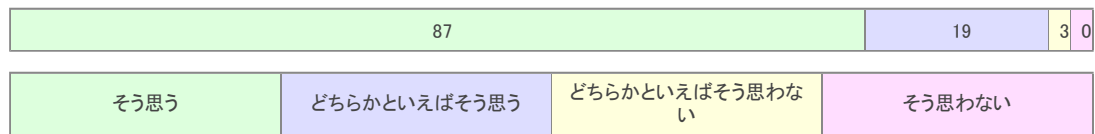
301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(107)



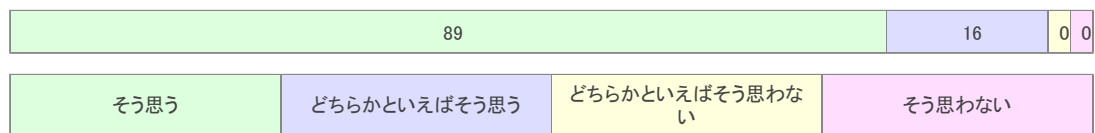
302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(108)



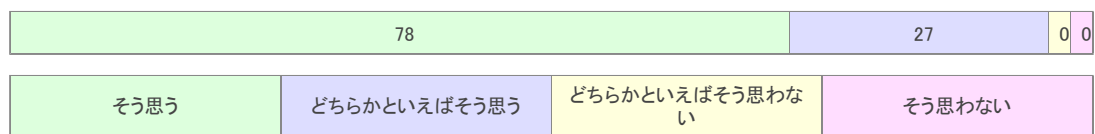
303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(109)



304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(105)

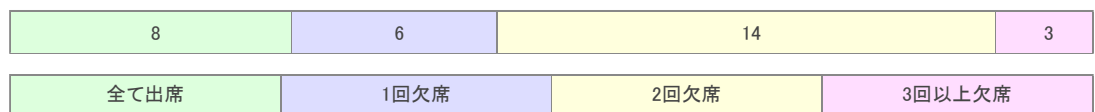


305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(105)

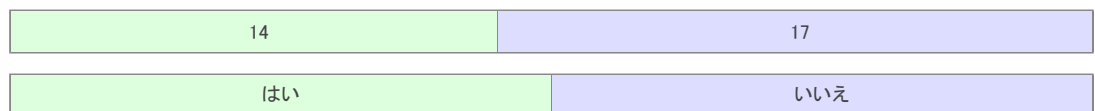


11人～30人

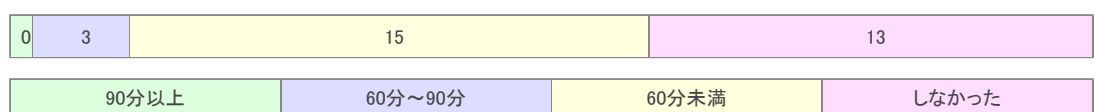
101 この授業の出席状況を教えてください。(31)



102 この授業に関連のある参考書、論文、雑誌などを読みましたか。(31)



103 この授業について、1コマあたり、どの程度予習や復習をしましたか。(レポート作成を含む) (31)



201 この授業から新しい関心が生まれ、関連分野の勉強をしたくなりましたか。(30)

19		9		2	0	
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない			
202 この授業内容の水準はどうでしたか。(31)						
6		25			0	0
高かった	妥当だった	少し低かった	かなり低かった			
203 この授業の分量はどうでしたか。(31)						
2		28			1	0
多かった	妥当だった	やや少なかった	かなり少なかった			
204 この授業は、知力や学力の向上に役立ちましたか。(31)						
21		10		0	0	
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			
205 この授業は、将来役立つと思いますか。(31)						
23		7		1	0	
そう思う	どちらかといえばそう思う	あまりそう思わない	そう思わない			
206 この授業の学習目標は達成できたと思いますか。(31)						
15		16			0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			
207 この授業は、総合的にみて満足できるものでしたか。(31)						
22		9		0	0	
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			
301 この授業は、シラバスに沿って進められましたか。(31)						
19		12		0	0	
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない			
302 板書や使用した教科書と教材は授業の理解に役立ちましたか。(31)						
25			6		0	0
そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない			

303 教員の話し方は明瞭で聞きやすく、説明はわかりやすいと思われましたか。(31)

21			8	2	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

304 教員の準備は十分で、授業に対する熱意が感じられましたか。(31)

25			6	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

305 授業中やオフィスアワーでの質問に対する教員の対応に満足しましたか。(30)

22			8	0	0
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない		

6. 平成22年度農学セミナー

第46回 農学セミナー

日 時：平成22年5月26日（水） 16:00～17:15

場 所：農学部共通棟101教室

演 題：「平成20年度若手教員育成のための学部長裁量経費研究成果報告」

研究課題：グローバル下における南西諸島農業の展開と可能性

講 師：坂井 教 郎 先生（生物生産学科）

研究課題：小動物の播種性血管内凝固の新規診断法 d-dimer 測定の開発

講 師：三浦 直 樹 先生（獣医学科）

参加人数：22名（農学部教員18名、農学部事務職員4名）

第47回 農学セミナー

日 時：平成22年7月28日（水） 16:00～17:00

場 所：農学部共通棟101教室

内 容：平成21年度若手教員育成のための学部長裁量経費研究成果報告

○生物生産学科 清水 圭一 助教

研究課題：トルコギキョウのアントシアニン合成酵素遺伝子座の解析

○附属演習林 奥山洋一郎 助教

研究課題：森林管理における新たな主体の形成：協働の場としての学校林

参加人数：28名（農学部教員18名、農学部事務職員6名、農学部学生4名）

第48回 農学セミナー

日 時：10月27日（水） 16:00～17:30

場 所：農学部共通棟101講義室

講 師：東京農業大学名誉教授 小泉 武夫 先生

演 題：「発酵の神秘」

参加人数：59名（農学部教員26名、農学部事務職員8名、農学部学生25名）

第49回 農学セミナー

日 時：12月22日（水） 16:00～17:00

場 所：農学部共通棟101講義室

講 師：伊仙町長 大久保 明 氏

演 題：「徳之島農業の未来 ―もてなしの町― 」

参加人数：38名

（農学部教員20名、農学部事務職員10名、農学部学生7名、学外1名）

第2節 全学FD活動への参加

1. 鹿児島大学FD委員会への出席

農学部FD委員長が、鹿児島大学FD委員会に出席し、鹿児島大学の教育改善の一翼を担った。鹿児島大学FD委員会の開催日程とそこで討議された議題は以下の通りである。

平成22年度第1回鹿児島大学FD委員会

日時：平成22年4月28日（水）13時30分～14時50分

場所：共通教育棟1号館2階第1会議室

議題：

1. 平成21年度FD経費執行状況報告について
2. 平成22年度のFD経費について
3. 平成22年度FD活動計画について

平成22年度第2回鹿児島大学FD委員会

日時：平成22年6月4日（金）9時～9時50分

場所：共通教育棟1号館2階第1会議室

議題：

1. 平成22年度FD活動経常経費計画書について
2. 全学FD報告書の体裁について

平成22年度第3回鹿児島大学FD委員会

日時：平成22年7月2日（金）9時～10時10分

場所：共通教育棟1号館2階第1会議室

議題：

1. 平成22年度FD活動重点経費申請について

報告事項：

1. 「進取の精神」講演会及び学生憲章ワークショップ（仮題）について

平成22年度第4回鹿児島大学FD委員会

日時：平成22年7月30日（金）9時～9時25分

場所：共通教育棟1号館2階第1会議室

議題：

1. 平成22年度FD活動重点経費の配分について

報告事項：

1. 平成22年度新任教員FD研修会の企画案について

平成22年度第5回鹿児島大学FD委員会

日時：平成22年9月30日（木）10時～10時50分

場所：共通教育棟1号館2階第1会議室

議題：

1. 平成22年度新任教員FD研修会の実施について
2. 平成22年度FD活動の実施体制について

報告事項：

1. 「鹿児島大学FD報告書（仮称）」の作成について

平成22年度第6回鹿児島大学FD委員会

日時：平成22年10月28日（木）9時15分～10時20分

場所：共通教育棟1号館2階第1会議室

議題：

1. 平成22年度FD・SD合同フォーラムの開催について
2. Q・Links 賛同校への登録について
3. 鹿児島大学FD報告書検討WG（仮称）の設置について

報告事項

1. 平成22年度新任教員FD研修会の実施について
2. 共通教育における学習実態・学習成果調査について

平成22年度第7回鹿児島大学FD委員会

日時：平成22年12月3日（金）9時～10時

場所：共通教育棟1号館2階第1会議室

議題：

1. 共通教育における学習実態・学習成果調査について

報告事項：

1. 平成22年度新任教員FD研修会の実施について
2. 平成22年度FD・SD合同フォーラムの開催について
3. 平成22年度学生・教職員ワークショップについて
4. Q・Links 賛同校の参加承認について
5. ハラスメント防止のための研修会について

平成22年度第8回鹿児島大学FD委員会

日時：平成23年1月13日（木）9時～10時

場所：共通教育棟1号館2階第1会議室

議題：

1. 平成22年度学生・教職員ワークショップの開催について

報告事項：

1. 共通教育における学習実態・学習成果調査について
2. 今後の平成22年度活動計画について
3. Q-conference 2010 ポスターセッションの産下について
4. 大学コンソーシアム京都の第16回FDフォーラムについて

平成22年度第9回鹿児島大学FD委員会

日時：平成23年2月10日（木）10時00分～11時00分

場所：共通教育棟1号館2階第1会議室

議題：

1. 平成22年度教育・学生支援担当教職員講習会の開催について
2. FDガイドの作成について

報告事項

1. 平成22年度学生・教職員ワークショップの開催について
2. 共通教育における学習実態・学習成果に関する調査の回収状況について

平成22年度第10回鹿児島大学FD委員会

日時：平成23年3月14日（月）14時00分～15時40分

場所：共通教育棟1号館2階第1会議室

議題：

1. FDガイドの作成について
2. 平成22年度FD活動について

報告事項

1. 平成22年度教育・学生支援担当教職員講習会の開催について
2. 平成22年度学生・教職員ワークショップについて
3. Q-Links 拡大担当者会議及びQ-conference2010への参加について
4. 共通教育における学習実態・学習成果に関する調査の集計について

2. 全学FD活動への参加

平成22年8月20日開催の「進取の精神に関する講演会及び学生憲章策定のためのワークショップ」に、16名の教員と学生1名が参加した。平成22年11月初旬に開催された「平成22年度新任教員FD研修会」にFD委員長と2名の教員が参加した。平成22年12月4日に開催された「戦略的連携支援事業FD・SD合同フォーラム」に13名

の教員と3名の事務職員が参加した。平成23年2月15日に開催された「平成22年度学生・教職員ワークショップ」に、教員2名、学生係事務職員1名、学生1名が参加した。さらに、平成23年3月22日に開催された「平成23年度教育・学生支援担当教職員講習会」に5名の教員が参加した。

平成22年度 FD活動参加者

研修等名	開催年月日	参加者			
		学科	職名	氏名	
進取の精神に関する講演会及び学生憲章策定のためのワークショップ	平成22年8月20日	金	生産	助教	清水 圭一
			生産	准教授	坂巻 祥孝
			生産	准教授	豊 智行
			生産	教授	富永 茂人
			生産	教授	田代 正一
			資源	教授	林 國興
			資源	准教授	渡部 由香
			資源	教授	安部 淳一
			資源	教授	菅沼 俊彦
			環境	教授	曾根 晃一
			環境	准教授	寺岡 行雄
			環境	教授	岩崎 浩一
			環境	准教授	地頭蘭 隆
			獣医	教授	三角 一浩
			獣医	教授	小島 敏之
獣医	講師	瀬戸口明日香			
平成22年度 新任教員FD研修会	平成22年11月5日	金	環境	教授	曾根 晃一
			環境	准教授	紙谷 喜則
			資源	助教	赤木 功
平成22年度 戦略GP FD・SD合同フォーラム	平成22年12月4日	土	生産	教授	岩井 久
			生産	教授	岡本 新
			生産	教授	津田 勝男
			資源	准教授	大塚 彰
			資源	准教授	花城 勲
			資源	助教	赤木 功

			環境	教授	曾根 晃一
			環境	准教授	地頭菌 隆
			環境	准教授	肥山 浩樹
			獣医	教授	小島 敏之
			獣医	教授	高瀬 公三
			獣医	准教授	田仲 哲也
			獣医	准教授	松尾 智英
				事務長	稲葉 成人
			総務係	係員	曾山 明佳
			総務係	係員	井上 祐子
平成22 年度学生・教職員ワークショップ	平成23 年2 月15 日	火	環境	教授	曾根 晃一
			獣医	教授	川崎 安亮
			学生係	係長	木田 博明
平成22 年度 教育・学生支援担当教職員講習 会	平成23 年3 月22日	火	生産	准教授	高山 耕二
			生産	准教授	坂井 教郎
			資源	准教授	花城 勲
			環境	准教授	地頭菌 隆
			獣医	准教授	田仲 哲也

学生憲章ワークショップに参加して

生物環境学科 岩崎浩一

平成22年8月20日に鹿児島大学の学生としての行動指針となる「鹿児島大学学生憲章」の原案策定に向けて学生と教職員協働によるワークショップが開催された。当日は午前中に稲盛会館において全学の教職員・学生を対象に「進取の精神に関する講演会」が行われた。その後、学生憲章ワークショップの参加者は、稲盛アカデミーに移動してワークショップに参加した。

ワークショップには各学部から選ばれた学生31人と教職員16人が参加した。全体説明の後、学生8人と教職員4人で一つの班を作り、4つのグループに分かれて作業を行った。参加した学生はお互いにほとんど初対面であったため、まず、班ごとにアイスブレイキングで自己紹介などをしながら昼食をとり、その後、班長、副班長と書記の選出を行った。

私が参加した班では、学生憲章草案作りにあたって、それぞれの学生からどのような内容を学生憲章に盛り込みたいか、自由に意見を出し合い、共通する部分を見つけながら少しずつまとめていくという手順が進められた。今回のワークショップについては、教員で構成されるワーキンググループが事前に検討・準備を進めており、私もそのメンバーの一

人であった。ワークショップを計画する段階で、草案作りの進め方についても検討し、基本的には学生主導で議論を進め、場合によって教員がアドバイスを行う、というスタイルで行うということになっていた。ただ、学生だけではなかなか話が進まず、教員側がかなりリードする必要があるであろう、との予想を立てていた。しかし、実際に学生憲章の草案作りが始まってみると、予想に反して学生は意欲的で、積極的に学生憲章作りに参加していこうとする姿勢が見られた。今回は各学部から学生憲章作りにふさわしい学生が推薦されてきていたようであるが、自分たちにとって鹿児島大学とは何なのか、学部や学年の異なる学生の間で議論を進める内に色々な観点での意見が出され、参加した学生にとってはそのプロセスが自分自身をも振り返る良い機会になったのではないかと思われた。各グループでの草案作りを終えて、全体会が開かれ、各班からそれぞれの草案についての考え方や表現について説明が行われたが、それぞれに特徴があり、個性豊かな草案が作られていた。

さらに、各班の代表者が後日参集して草案をまとめる作業を行い、草案に対する全学の教職員・学生への意見聴取、代表者によるさらなる議論が重ねられ、最終原案が作られた。それぞれの班で出された多くの意見のうち原案に採用されたのはその一部にならざるを得なかったが、結果として示されたものよりも、参加した学生にとってはその議論の過程で考える機会を持てたことに大きな意義を見いだせるワークショップではなかったかと思われる。また、我々教職員にとっても、学生の考え方や意欲的な面に接することができた印象深いワークショップであった。

学生憲章ワークショップに参加して

生物環境学科 4年 佐藤政宗

最初は特に考えもせず、先生に勧められるままに軽い気持ちで参加した。しかしながら回を重ねるごとに学生憲章を作成することの重要性を認識するとともに、自らに課せられた責務を全うすべく、様々なことに思いを巡らせ学生生活を振り返るいい機会を頂けたことに感謝した。

私は2班として参加し、リーダーとして話し合いを運営していくなかで、今までに関わることの少なかった他学部の方々と意見を交わし、それぞれの価値観を聞くことができ、実に興味深かった。屋久島や霧島等の素晴らしい自然、種子島宇宙センターなどの先端技術、様々なことを成し遂げた先達、雄大な桜島等、自分の大学生活の中では深く考え得なかった鹿児島大学の恵まれた環境に改めて気づくことができた。そうした中で出来上がった案も4つの班でそれぞれに特徴があり、自分達の案と鑑みるとその多様な考え方に多くの意見があり、自分の学生生活を省みる上で重要な学びがあった。

そうして第一回は終了したが、リーダーをしていたこともあり、その後も学生憲章検討ワーキンググループにも参加する機会をいただいた。各班のリーダーを中心に話し合いが

進められることもあり、より具体的に表現にも趣向を凝らし、「学生らしい」表現を考えた。ここでは語り尽せないなので内容については割愛するが、何度も議論を重ね、内容や表現を詳細まで考慮し完成に至った。

こうして日の目を見ることになった学生憲章だが、完成に至るまでは決して平坦な道ではなかった。時には学生同士で、時には先生方と意見をぶっつけ合い、ワーキンググループに参加していない方からの厳しいながら思いの籠った意見も頂戴した。悔しい思いをしたこともあったが全てとは言わないまでも、多くの方の思いを酌んだ学生憲章を作成することができたのではないかと思う。

しかしながら、私個人としては今回の学生憲章の作成に当たり、前述した他学部との意見交換、様々な意見や思いを形にするという2つのことが重要だったのではないかと感じている。私は現在の鹿児島大学ではサークル活動等以外では他学部生と話をする機会は多くないと感じているのだが、異なる学部で学んでいる人との交流は人としての幅を広げることに繋がると思う。また、多くの異なる価値観を一堂に会し、その意見を形にするという作業も決して数多く経験できるものではないが非常に貴重な経験であると思う。そういった意味で今回のワークショップは学生憲章作成という目標達成とともに、私の学生生活における人的成長を語る上で大きなファクターの一つになったといえる。今回は学生憲章の作成という大きな目標の上に持たれたワークショップであったが、鹿児島大学という多くの学生が集う場で、今後もこのような機会を持つことができるなら是非参加したいと思う。そして何より自分達が代表となって作らせて頂いた学生憲章に恥じぬ学生で在れるよう、残りの学生生活を充実したものにしていきたい。

最後に、学生憲章作成に当たり、尽力していただいた先生方、ワーキンググループに参加した学生の皆さん、そして鹿児島大学に係わる全ての方に感謝します。

鹿児島大学新任教員研修会 感想

農学部 生物環境学科 紙谷 喜則

平成22年度の赴任された教員に対する研修会が平成22年11月5日（金曜日）に行われ参加したので報告いたします。

報告書の作成を依頼受けたのが平成23年2月であり、内容について忘れていますが、本研修会で印象に残ったことのみを報告します。

本研修会で印象に残っているのは、各学部における教育の問題点を自由と討論することでした。各先生方から、学生の質が下がっている（これは全国的なこと）ため、旧来の授業カリキュラムでは、学生の理解が進まない。そのため、授業の内容を減らしていることが多いと伺いました。小職は民間から転任したので、学生の質について考えたことが無かったので非常に衝撃的でした。これらの討論では、全てが学生の質が低下していることを理由に、授業内容の簡素化を正当化する発言が多かったような気がしま

す。民間企業では、この 7-8 年前から新入社員教育プログラムを作成する等して、入社後 3-6 か月の勉強を行うようになってきています。まさに、学生の質が低下＝授業理解到達点の下落＝企業での研修の長期化（企業で必要な知識の教育）と同じ構図であることが理解されました。しかし、大学側の出口はこれで良いのだろうか？との疑問があります。

大学では指導要領、卒業教育レベル到達点は明確ではありません。基礎学問と研究を通じて行う、思考回路（問題解決手法）を教育することは両方とも必要なことだと思っています。大学で学んだ知識（基礎学問）は、民間に就職してそのまま使える知識で無いことは、どの教員も理解しているところですが、だからといって基礎学問を無くして、研究的な思考のみを体験させて意味があるのでしょうか？小職の所属が理系なので特に考えさせられる問題でありました。私は、赴任してから講座の先生方に、担当している授業の到達点（卒業までに教えなければいけない定理・理論）を何度と無く質問させていただき、その上で、講座（教育コース）としての到達点がどこにあるのか、シラバスはこれで良いのか議論を重ねましたが、他の学部ではこういった議論がなされず、長期にわたりコース内の教育到達点を全て授業担当研究室に任せているところもあると聞きました。それでは、学生質が下がったから授業内容の縮小を個人が勝手に行うことになり、卒業生のレベルの単純な低下になるだけだと思います。学生は多種多様な職種に就くので全ての分野に対して必要な知識を与えることは大変難しいことですがし、無理かもしれません。でも、歴史ある鹿児島大学の卒業生を受け入れてくれる企業との情報交換を行い出口（学生の就職）に向けた教育の再考を行うことが重要であると、この会議で実感しました。今後、出口を意識した教育カリキュラムを作成できるような指導がこの様な会議で議論されることを願っています。

平成 22 年度 FD・SD 合同フォーラムに参加して

生物資源化学科 赤木 功

12月4日に開催されたFD・SD合同フォーラムに参加させていただいた。本フォーラムでは、「大学教育改善の新たなステージへー学生と創るFD・SDの試みー」というテーマで、基調講演およびパネルディスカッションが行われた。2名の講師による基調講演では、大学運営への学生参加は高等教育における古くからの課題であったことが紹介されるとともに、形骸化・形式化が進みつつあるFD活動の充実向上に学生の力を取り入れていくべきであること、学生の声をカリキュラムの構築や大学運営などに活用できるようなFD活動をめざすべきであることなどが提案された。パネルディスカッションでは、地域の大学教員・職員の連携による人的ネットワーク構築、あるいは、学生参加によるFDシンポジウムの開催などの取り組みが紹介されるとともに、FD活動の充実化には大学内・大学間のネットワークづくりが必要であると感じていること、大学から社会に対して問いかけを起こせるようなFD活動をめざしていることなどの意見が交わされた。試行錯誤しながらも積極的にFD活動に臨まれている講師の先生方の熱意が伝わる充実したフォーラムであった。ただ、

着任して一年足らずで、大学教育の経験が乏しい私にとって、「FD 活動への学生参加」というテーマはやや難解であり、今回のフォーラムで語られたことの本質について十分に理解できなかったかもしれない。そのような中でも、私なりに考えさせられることがいくつかあった。そのひとつは、講演の中で提示された、授業における学習者は学生だけか、という問いかけであった。確かに、自分自身を振り返って考えてみると、学生の疑問・質問に答えられず、改めて教科書を開いて調べ直すことがしばしばある。あるいは、演習課題のレポートから、今の学生の世代はどのように考え理解しているのかと新たに教えられる場面もある。このような、学生から学ぶことの大切さを認識することが、教員として「FD 活動への学生参加」を考える上で、必要な姿勢なのかもしれないと感じた。

FD・SD合同フォーラムに参加して

生物環境学科 肥山 浩樹

戦略的大学連携支援事業 FD・SD 活動推進委員会と鹿児島大学 FD 委員会の共催による、平成 22 年度 戦略 GP FD・SD 合同フォーラムが 12 月 4 日に開催された。今回のテーマは「大学教育改善の新たなステージへー学生と創る FD・SD の試みー」であり、鹿児島県内の大学から約 100 名の教職員が参加した。これまでの FD セミナー等と異なり、教員と職員が一堂に会してのフォーラムであった。

プログラム第 1 部は基調講演であり、慶應義塾大学 井下 理 教授による「FD 活動の実質化と大学教育改善」と広島大学 大場 淳 准教授による「大学における学生参加と SD」を聴講した。井下教授の講演では、これまでの FD 活動を振り返り、質的な変化を迫られている大学の現状を踏まえて、新たな視点からの今後の活動が提案された。この中で、FD は学生の学習や成長を最終目標としていることの再確認がなされ、教授者個人の資質向上だけでなく、集団としての教育力向上が求められた。従来教員だけによる FD から、職員も含めた大学組織全体での SD に発展させ、最終的に BD に到達させようとする意識の重要性が説かれた。

大場准教授の講演は、大学運営への学生参加に関する SD について、欧米諸国の歴史と現状についての報告であった。ボローニャ・プロセスを推進する欧州では、過去の伝統から学生の参画には肯定的ではあるものの、学生自身の関心が低く、十分な成果が上がっていないとのことであった。近年、日本でも文科省調査会議の提案に基づいて、管理運営への学生参加が勧められており、岡山大学の例などが挙げられた。

プログラム第 2 部はパネルディスカッションであり、3 つの事例報告とフロアを含めた討論で構成されていた。事例報告では、鹿児島大学教育学部が 3 年前から実施している教育改善委員会学生実行委員会の活動紹介、志學館大学の FD 活動の現状および鹿児島大学も参画している Q-Links の SD 取り組み事例が報告された。中でも教育学部の取り組みは先進的であり、約 30 名の学生委員が主体となって大学の環境やカリキュラムに関するシ

ンポジウムを年1回企画開催している。討論では、基調講演や事例報告に関する多くの質問や意見がやり取りされた。その主な内容は、大学教育における最大の情報源である学生といかに協同して大学運営にあたるか、学生中心の大学へ視点を移して彼らから学ぶ姿勢の重要性、さらには、彼らのリーダーシップを育成する方法に関するものであった。

FD活動がスタートして約10年の歳月が経過し、講義アンケートに代表される学生の声を聞くシステムはほぼ構築され、教員個人の教育資質の向上にも一定の成果が認められる。しかしながら、一部の教職員の厚意だけで成り立っている現行のFD活動では将来性に乏しく、教育業績の評価基準を明確にする必要がある。次代のFD活動の推進に向けて、教員、職員および学生の総員が一体で取り組む、チームとしての教育力改善の必要性が痛感された。

FD 考

農学部獣医学科 小島敏之

慶応義塾大学の井下 理教授の講演を聴く機会に恵まれた。私自身、昨年度から鹿児島大学教育センター高等教育研究開発部会の委員を務めており、FDという言葉に触れる機会が多い。しかし、大学教員としては自明なのか、FDの意味をしっかりと理解している人が委員になるのが前提なのか、部会でFDの意味についての説明は一切なく、私も聞くに聞けず今に至っていた。しかし、この種の講演会でFDの定義が話されるぐらいなので、皆が個々まちまちな解釈のもと行動していることが多いということなのであろうか。とにかく、FDの定義を聞くことができただけでも今日は収穫があった。井下先生によれば、FDの狭義の意味は、「授業力の改善・強化・向上」であり、広義には「大学の組織的教育力の向上・改善」を指すらしい、もともとは、「教授団の資質開発」ということであつたらしい。

大学教員は程度の差こそあれ、FDという言葉が闊歩する前から、自らの授業の質を上げようと日夜考えてきたと思う。このことは井下先生も講演の中で仰っていた。したがって、FDは、今まで個々の教員が試行錯誤しながら行ってきた授業改善の試みを、もっと効率的に行えるような仕組みを伝授するという機能を果たさなければならないのではないかと思う。一方、大学全体としての教育力の向上を目指そうとは、おそらく個々の教員は考えもしなかったし、今も教育関連の委員を務める機会がなければ考えることすらないと思う。さらに、大学の質を比較する際に、ノーベル賞受賞者を何人輩出したか、科研費の獲得教員数や獲得額がどのくらいか、外部資金を稼ぐプロジェクトをどれだけやっているか、有名一流企業への就職や国家公務員になるのに有利だとか、弁護士等の国家資格の合格率が高いことなどが判断基準になっているように思うが、そもそも世界大学ランキングの評価の基準（雇用者による評価、研究者からの評価、教員一人当たりの論文引用数、学生一人当たりの教員比率、留学生比率、外国人教員比率など）に、授業の質を云々する評

価項目は直接的には存在しない。また、個々の教員が行う授業の質、ひいて大学全体で組織的教育力の質の高低を大学の比較判断基準に考える大学関係者、受験生、父兄もまたそうはいないのではないか。その一つの理由は、目に見える数字として表しにくいことがあるかも知れない。さらに、この先に、最近盛んに登場してくる「学士力」や「在校生や卒業生の質保証」をどう表現したらいいのかという課題が見えてくるように思う。

その他、井下先生の講演を拝聴して、特に印象深かったのは、FDの活性化に学生の力をどう活かすかという問いかけに対し、学生はFDの目的・目標や対象でありえても、そのための資源や道具ではないということにジレンマを感じるという感性であった。FDのために学生がいるのではなく、学生の活性化のためにFDは何をすべきか、FDとして何ができるかというように元の形(教授団の資質開発)に再定義が必要と訴えておられた(少なくとも、私にはそう思えた)。その際に、集団としての力量形成(チームとしての教育力、チームとしてのルールや価値観、行動規範、指導態度、意欲や方法の共通性を高める)が不可欠であり、また、教授者もある意味で学習者であって、学生の意欲を引き出す力量が問われている。「教員は何を教えたか」から「学生は何を学んだか」へ、最終的には「学生は学んだことで何を得たか」が問われるべきであると主張されていた。

大学が、本当の意味で学生と教授者の「学び舎」となり、大学の教育力を高める努力こそが現在の閉塞感に覆われたわが国を変えていくひとつの根本的な解決策になりそうな気がしてきた。

3. 戦略的GPへの協力

平成22年度戦略的GPの高大教育連携支援事業の一環として、他大学や高等学校の先生に対する授業公開を、後期の農学部FDウィーク中に実施した。害虫学(担当者:津田)と森林動物学(担当者:曾根)を公開し、志学館大学、鹿児島中央高校、甲南高校、錦江湾高校、玉龍高校の教員が参観した。授業後、教育、授業方法などについて議論を行った。

水産学部・

水産学研究科

水産学部・水産学研究科 FD 活動報告

1. 初めに

水産学部では、教育システムに対する学生満足の実現を目的として水産学部教育システム運用マニュアルを策定し、ISO9001 を取得しています。このマニュアルにおいて、水産学部ファカルティ・デベロップメント委員会（以下 FD 委員会）は、教職員の力量を維持し高めるための教育、訓練の計画並びにその評価、学生満足度の情報源としての授業アンケートの作成、実施から集計、担当教員へのフィードバック、評価を担うこととなっています。従って、FD 委員会は、ISO9001 が求める PDCA サイクルの Check（授業アンケートの実施とアンケート集計結果の教員へのフィードバック）を中心に Action（授業改善の依頼、教育・訓練の実施）にも関わり、授業改善、教育改善において重要な役割を果たしているといえます。

FD 委員会は、年度初めに年間教育訓練計画を策定し、それに基づいて教育訓練を実施します。平成 22 年度に計画した教育訓練は以下の通りです。

- 第 1 回 平成 22 年度前期授業公開・授業参観
- 第 2 回 水産学部 FD ワークショップ「水産学部の教育体制をみんなで議論しよう」
- 第 3 回 平成 22 年度後期授業公開・授業参観
- 第 4 回 平成 23 年度新入生クラス担任等講習会（主催：鹿児島大学ファカルティ・デベロップメント委員会）

それでは、以下に、それぞれの教育訓練の概要とその成果を報告します。

2. 授業アンケートと授業改善

FD 委員会は、各学期末に、受講学生に対し授業アンケートを行っています。授業アンケートでは、教室の環境、授業内容、教員の授業の進め方、受講生の授業への取り組みについて受講生に質問し（表 1）、各質問項目について 4 段階での評価を受けています。ここでは、平成 21 年度後期と平成 22 年度前期に水産学部で開講された授業の授業アンケートについてまとめます。

各質問項目の科目間の平均値を図 1～2 に、質問項目間の相関係数を図 3～4 にまとめました。講義・演習科目の平均値は、受講生人数別に示しています。質問項目 A～C 群では、いずれの質問項目

表 1. 水産学部授業アンケートの質問項目（講義・演習科目）

質問項目 A 群：教室の環境に関する質問 A-1. 教室の大きさは受講人数に対して適していた A-2. 授業中は私語がなく、授業に集中できた
質問項目 B 群：授業内容に関する質問 B-1. シラバスには、授業の目的、内容が分かりやすく示されていた B-2. 授業内容はシラバスに沿っていた B-3. 授業内容は理解可能な範囲であった B-4. 授業時間外にも学習を求める内容であった B-5. この授業は知識や考える力を深めるのに役立つ
質問項目 C 群：教員の授業の進め方に関する質問 C-1. 授業は時間通りに行われた C-2. 教員の声、話し方は聞き取りやすかった C-3. 説明は分かりやすかった C-4. 板書、配付資料、パワーポイント等は授業理解に効果的だった C-5. 授業中または時間外に質問する機会を設けてあった
質問項目 D 群：受講生の授業への取り組みに関する質問 D-1. あなたはこの授業に何回出席しましたか D-2. この授業のシラバスを読みましたか D-3. この授業を理解するための基礎学力はありましたか D-4. この授業を意欲的に学ぼうとしましたか D-5. 予習、復習など、時間外に勉強しましたか D-6. あなたがこの科目を受講した理由を選んで下さい

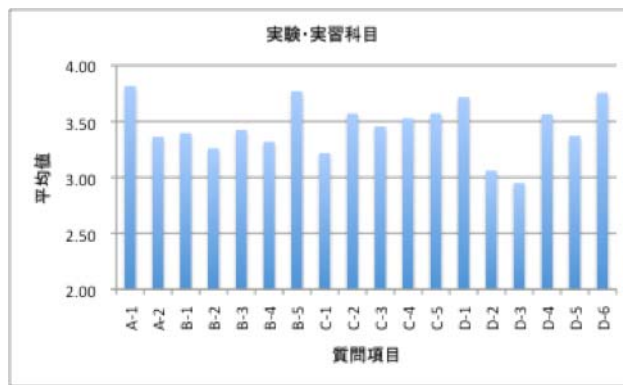
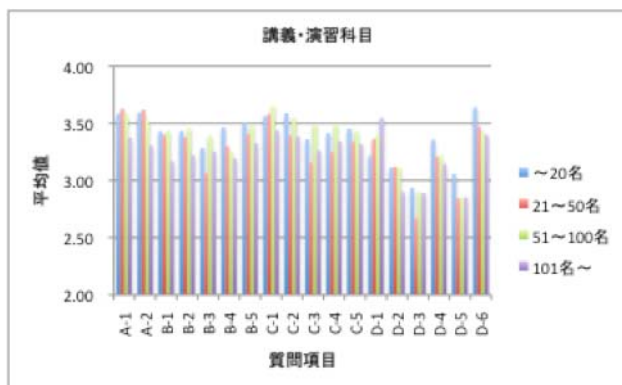


図1. 平成21年度後期開講科目の授業アンケート集計結果

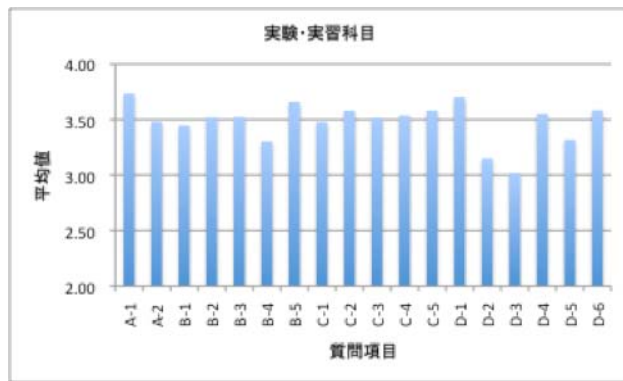
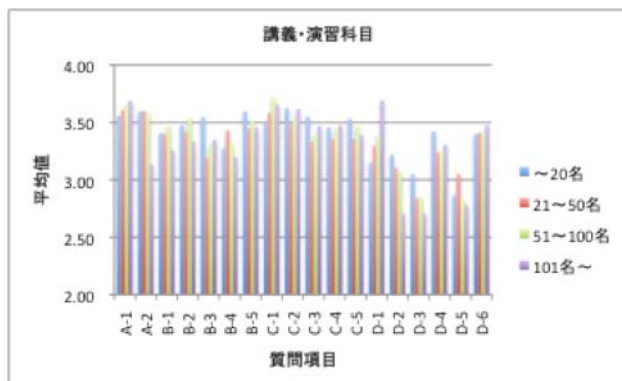
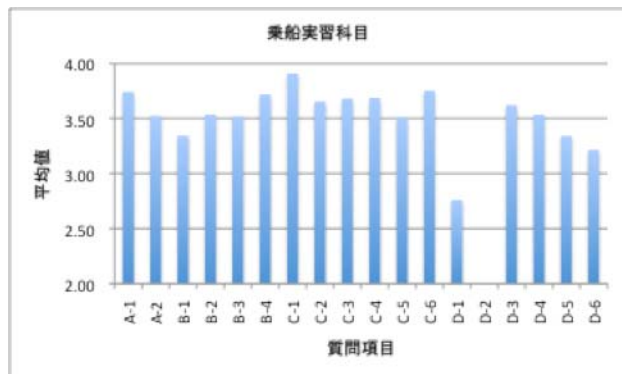


図2. 平成22年度前期開講科目の授業アンケート集計結果

もおおよそ3.2以上の値を示し、教員の授業改善への努力が受講生にも理解されていることが伺えます。特に、乗船実習では高いポイントを示す傾向が見て取れます。その一方で、質問項目D-2のポイントが低く、受講に際しシラバスを余り参照していないことが分かります。この傾向は受講人数が多い科目で顕著です。これは、受講人数が多い科目には学部基盤科目などの必修科目が多く、履修に際し選択の余地がないこととも関連していると思われます。シラバスは授業概要や授業の到達目標、理解すべき項目、参考書などが示されており、履修申請の参考としてのみならず、受講生が学習方針を立てる上での基礎資料として重要です。今後、受講生に対しシラバスの役割と重要性を認知させる努力が必要ではないかと思えます。

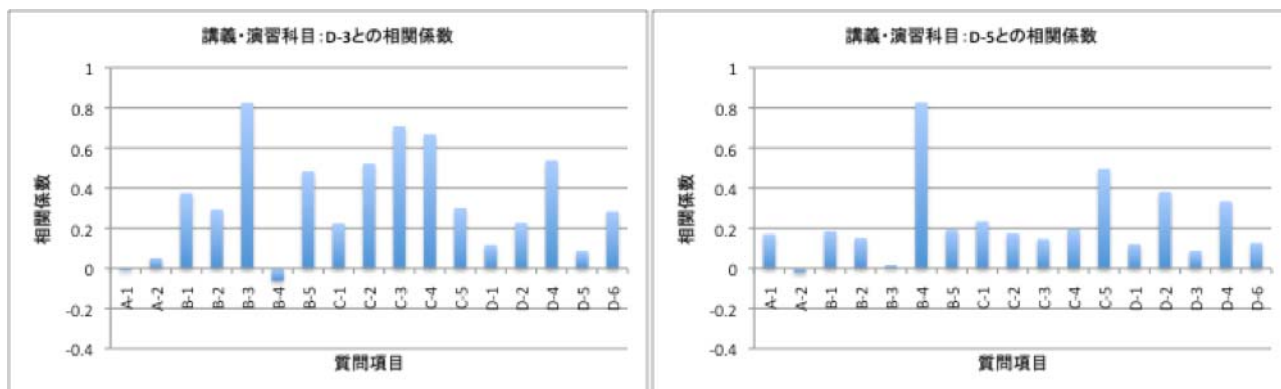


図3. 平成21年度後期講義・演習科目における質問項目間の相関係数

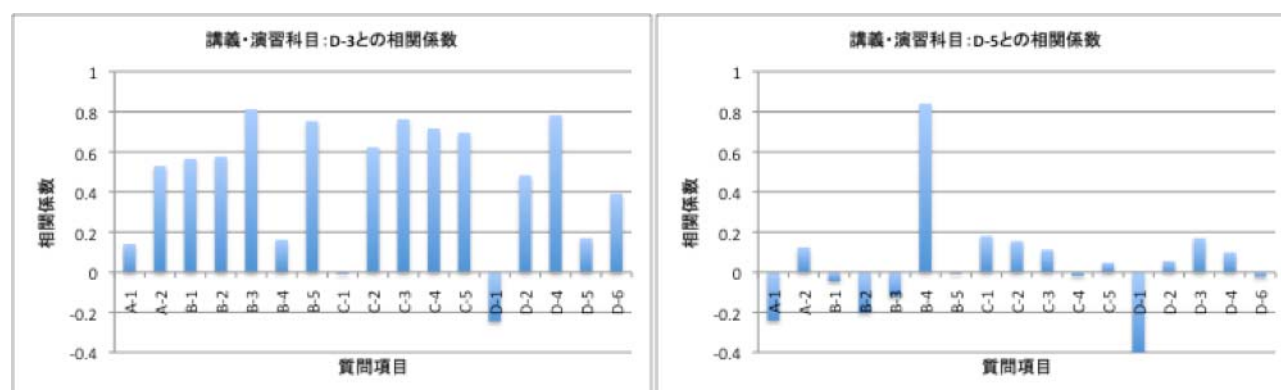


図4. 平成22年度前期講義・演習科目における質問項目間の相関係数

また、講義・演習科目では、質問項目D-3、D-5で顕著に低い値が得られています。特に、平成21年度後期では受講生20名以下の科目で20科目中5科目が、また受講生21～50名の科目で24科目中6科目がD-3において2.5未満のポイントを示しています。このことから、受講生が少ない専門性の高い科目において授業内容に基礎学力が追いつかなくなる様子が見て取れます。質問項目D-3はB-3との相関が高く、基礎学力の充実が授業内容の理解に欠かせないと思われます。特に、基礎からの積み重ねが重要な専門科目では、予習、復習を指導する中で受講生の基礎学力の充実を図る必要があるように感じます。一方、質問項目D-5はB-4と高い相関が見られます。予習、復習は、受講生の自主性に任せるのではなく、教員が積極的に時間外学習の課題を提供する必要がありそうです。

一方、実験・実習科目では、質問項目D-3は低いものの、D-5は3.32～3.37と高いポイントを示しています。これは、多くの実験・実習科目でレポートを成績評価の対象としていることと関係していると思われます。また、質問項目「この授業を意欲的に学ぼうとしましたか（講義・演習科目、実験・実習科目ではD-4、乗船実習科目ではD-3）」については、実験・実習科目、乗船実習科目においていずれも3.50を超えるポイントを示していました。このことから、受講生は具体的な事例や現象を体験できる実践的科目により興味を持っていることが分かります。しかしながら、その理解には講義・演習科目で教授される基礎的知識が欠かせません。今後、なお一層講義・演習科目と実験・実習科目の連携を図ると共に、その関連性について受講生に十分な情報提供を行う必要があると思われます。

3. FDワークショップ「水産学部の教育体制をみんなで議論しよう」

学生の声を聞くためのワークショップ

水産学部では教育全般に対する満足度を向上させるため、色々なFDの取り組みがなされています。例えば、他学部よりもずっと前から授業アンケートを行って授業改善の参考にしています。また、全国の国立大に先駆けて教育の品質を管理する体制（ISO9001）を整え、学生のNeedsを理解し、期待以上の教育を提供する努力

をしています。鹿児島大学の中でも、水産学部はより学生の声に耳を傾けている学部といえます。しかし、これらの取り組みは教職員主体によるものであるため、学生のNeedsを十分に把握しきれていない可能性があります。そこで、もっと生の声を聴こうということで、一昨年度から幾つかの新しい取り組みを始めました。そのひとつが水産学部でのキャンパスライフで感じていることを自由にディスカッションする学生主体のワークショップです。このワークショップでは、各分野に所属する学生さんに集ってもらい、授業科目の選び方、分野分属、卒業研究のための研究室配属、就職活動などについての疑問や現在の問題点などを挙げてもらい、どのようにすればもっとよくなるかを議論してもらいました。これによって、これまでなかなか聞こえてこなかった学生の生の声がより教職員に届くようになりました。

生の声からファカルティ・デベロップメントを図ろう！

本ワークショップでは、学生に意見を出してもらい、それを学生自ら「良い点」と「悪い点」に区別してもらいました。FDを図るためにはやはり、現在の問題点としてあげられた「悪い点」を吟味して、その改善を行っていくことが、効果的な手法であろうと考えています。

本ワークショップでまず、注目されるのは分野配属の項目で、この項目に関する全意見の中で「良い点」に関する意見が40%を越えていました。これは下記に述べる項目と比べると、かなり多い数字です。ここ数年、教員サイドでは各分野の定員についての議論が盛んに行われている感があります。しかし、学生は配属後、その分野の魅力を知ることが多々あることが伺え、今回参加してくれた学生の間ではある程度、自分が配属された分野に納得している様子がうかがえました。目先の動向に右往左往するのではなく、数年間、今の方法で分野配属を継続して行ってみて、様子を見るのも手かもしれません。本項目で「悪い」とされた意見では、

●分野配属の時にどういう研究室があるのかとか明確にしてほしかった。

という意見が圧倒的に多く、この解決法として学生は、

●手引きに各研究室の説明を加えて欲しい。

●研究室の名前からイメージがわきにくい。分野わけをする前に強制的に、見学をするシステムを構築していれば、自分の将来に生かすことができそう。

などの解決法を提示しています。これに関しては、一部の研究室ではオープンラボなどを行っているのですが、積極的に活用する学生はごく少数であり、学生の自主性にも大きな問題があります。しかし、一方でこのような意見が多く上がるということは何らかの手段を考える必要があるかもしれません。また、分野配属の主たる目的は「高度職業人の養成」なのですが、学生は卒論を念頭に置いて分野配属を考えていることが伺えました。卒論生を集めて本ワークショップを行ったということもあるとは思いますが、「分野配属＝就職」というように捕らえている意見はほとんどありませんでした。この点については教員サイドがしっかりとした認識を持って、1年次から学生を指導する必要があると考えます。

その他、授業科目選択、研究室配属、就学支援、就職支援の項目について話し合ってもらいましたが、これらは圧倒的に「悪い」が「良い」意見を上回りました。その中でも、

●講義内容の専門性が高く、自身の知識が追いつかなかった

という意見が散見されました。このような学生にどうやって対応していき、学生全体の底上げを図るかは今後の水産学部の課題かもしれません。また、

●専門にかかわる実験、授業が少ない（現在、学部で検討中）。

●履修登録の際に、シラバスを読んでもわかりにくい。

●3年次の後期（第6期）に講義が多い（現在、学部で検討中）。

など、授業に関する意見が上げられました。また、

●本学と水産で授業があると移動時間が足りない。

という意見もありました。これは安全面でも問題であり、改善が望まれる点です。また、時代を反映してか、就職活動に関する不満が多く寄せられました。例えば、

- 就職相談員が常駐していない。講義の関係で、本学に頻繁にいけるわけではないので、水産にも就職相談員にいてほしい。
- 遠方から来ている学生が就活で帰省する際に授業を欠席すると、考慮してくれる先生としてくれない先生がいる。
- 就活期間が長く、学業に支障をきたす。
- 鹿児島は遠隔地にあり、就活に交通費が多額にのぼる。

などが挙げられました。これらは深刻な問題も含まれているので学部を挙げて考えるべきだと思います。

その他、多くの意見が挙がりましたが、これらの詳細については水産学部のHPにアップする予定ですので、教職員個人だけでなく、委員会や分野会議などでも議論して頂きたいと思います。このワークショップの意見は、これまで実はあまり生かされていません。そろそろ真摯な対応を望みます。

今回、このワークショップではMoodleを活用しました。幾つかトラブルがあり、その利便性があまり生かされなかったのは残念でしたが、一方で、匿名で意見を述べるができるために、このようなワークショップでは学生が受け入れやすく、積極的な参加を促す良い手段になり得ると考えます。

今後はいかに学生に情報を伝えるかが鍵となる！

学生からの意見を受けて行われた、教員を対象としたワークショップでは様々な意見交換がなされました。その中でも特に議論されたのは情報発信のあり方です。学生が今、科目選択、分野配属、研究室配属および就職活動を行う上で、学部からの積極的な情報発信を求めているというのが学生同士のワークショップでも浮き彫りにされました。これを受けて、水産学部ホームページの充実を図り情報発信の主たる場所にする事、研究室に配属されている卒論生・修論生の低学年学生との交流会などを設けるなどの意見が挙がりました。

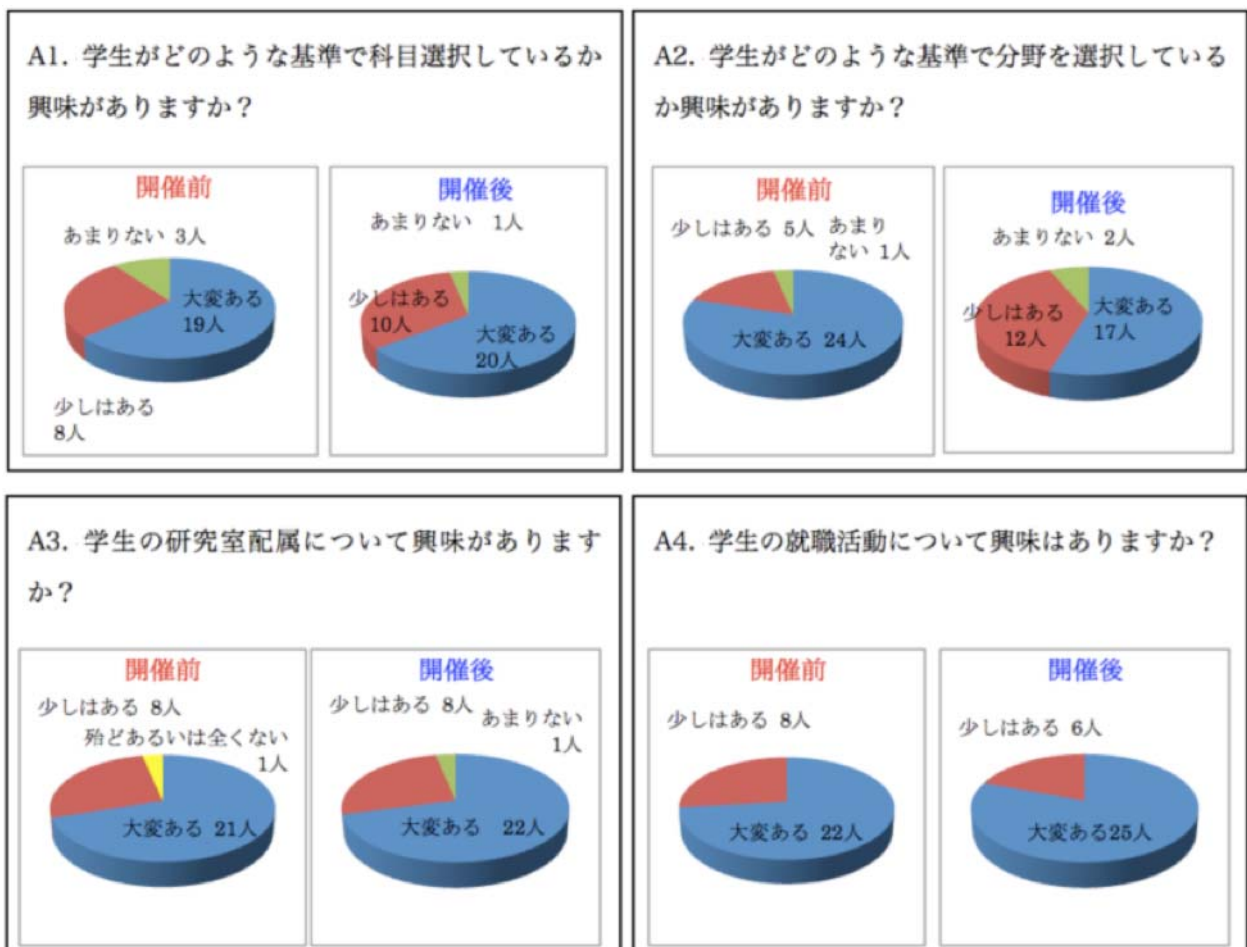


図5. FD ワークショップ事前・事後アンケートの各質問項目の回答数の比較 (1)

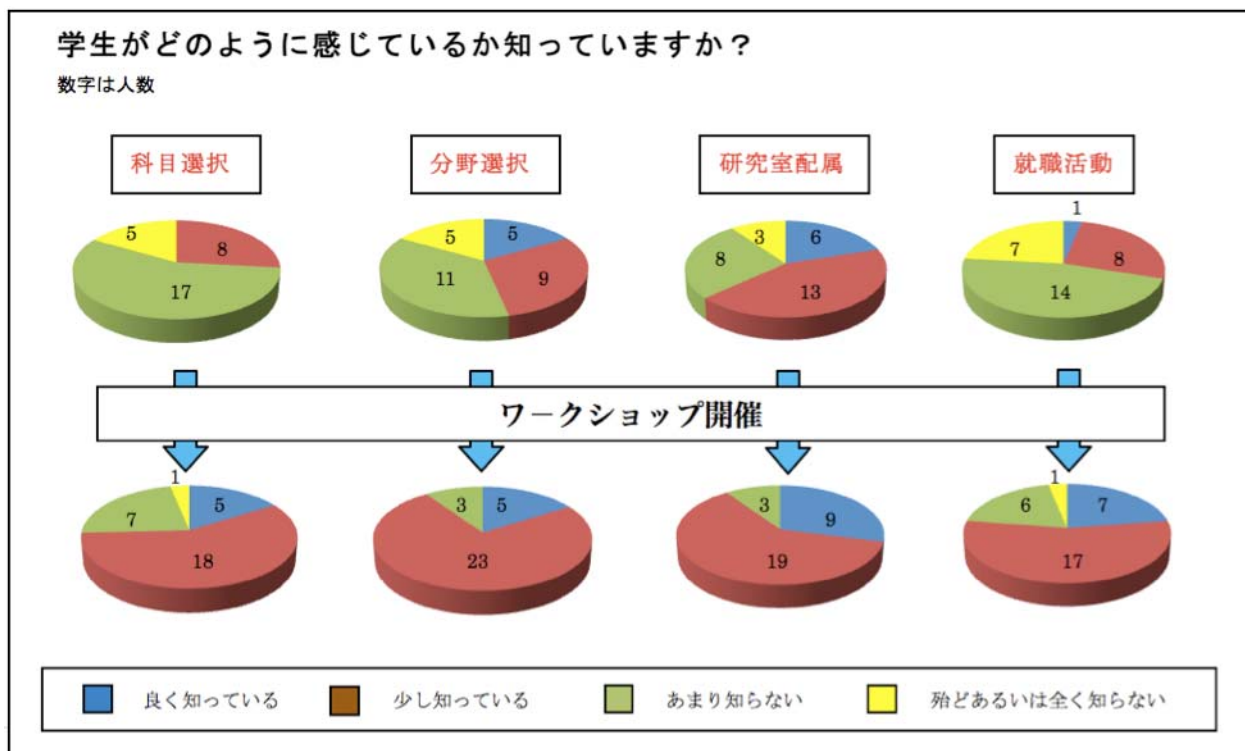


図6. FD ワークショップ事前・事後アンケートの各質問項目の回答数の比較 (2)

教員からの歩み寄りも必要！

開催前後にそれぞれほぼ同じ質問項目のアンケート調査を行いました。質問項目は、科目選択、分野選択、研究室配属、就職活動の関する4項目です。この調査の結果、いずれの項目の学生の動向にも、ほとんどの教員が「興味がある」と答えています(図5、A1~A4)。これは本ワークショップ開催後のアンケートでもほとんど変わる事はありません。しかし、これら4つの項目に対して、学生が実際にどのように感じているか知っているか?、という問いには、開催前の調査では「あまり知らない」あるいは「知らない」、という答えが漸並み増える結果となりました。これらの問いにはワークショップ実施後、多少知っているという答えに転じています(図6)。この結果から考えると、教員と学生間で本音で話し合う機会というのは実際あまり多くないのではないかと推測されます。もう少し、教員側から学生へ頻繁にアプローチするように心がける必要があるかもしれません。

FD委員会でもこのようなワークショップの試みを行うのは今年度で3回目ですが、当委員会が学生の声を直接FDに繋げる役割を果たしているとは言い難く、残念ながらこれまでのワークショップで得られた学生の声の大半は生かされていないが現状でしょう。FD委員会では今後ともこのようなワークショップを毎年開催して、教員が学生の生の声を知る機会を設けていく予定です。それと共に、今度は学生の声を受けて「今、我々はどんなFDを行うべきか?」ということを教員間で真剣に議論する場を設けたり、各委員会や分野がもっと有機的な繋がりを持ち、学生の意見を受けて議論すべきところは積極的に議論して、学部の活性化に繋げて頂きたいと思えます。

4. 授業公開・参観と授業改善

FD委員会では、教育従事者の教育訓練の一環として授業公開・授業参観を行っています。各

表2. 授業公開・授業参観報告書の記入項目

本授業の長所 授業担当者からの意見を記入。 学生から良い点として寄せられた意見、特に留意している点、工夫している点など
本授業の改善に参考となる意見など 参観者からの意見を記入。
本授業に対する感想など 授業担当者が自身の感想、参観者からのその他の感想を自由に記述。

表 3. 平成 22 年度授業公開・授業参観のまとめ

	授業公開科目数	授業改善報告書提出科目数	参観者数 (うち学生の参観者数)
平成 22 年度前期	16	14	8 (2)
平成 22 年度後期	10	4	6 (0)

学期の初めに、予め学部教員に授業公開への協力を依頼し、公開可の回答をいただいた授業科目について授業公開をします。全学の教職員に対し広く参観を呼びかけると共に、前年度より以前に当該授業を受講したことのある水産学部の学生や大学院生の参観も可としています。授業公開にご協力いただいた教員の皆様には授業公開・授業参観報告書(表 2)を提出いただき、授業改善の基礎資料としています。2 年間で全ての教員が授業公開を終えるように授業公開は計画されています。平成 22 年度前期には 16 科目、後期には 10 科目の授業公開を行い、それぞれ 8 名(うち 2 名が学生)、6 名の参観者を得ました(表 3)。

授業公開・授業参観報告書の記載内容を以下にまとめます(表 4)。授業改善のための工夫として、多くの教員が受講生との双方向のコミュニケーションを図るためにミニツッパーパーを活用しています。特に、Moodle が双方向授業に効果的であると指摘されています。また、受講生の理解度を深め、時間外学習を促すために、小テストや復習プリントを活用したり、講義ノートを評価対象として利用する例もあります。加えて、重要なポイントの意識付けにスロースタディの手法、例えば板書の重要性を指摘する声もありました。このように、多くの授業で受講生の「学び」を促すための積極的な工夫と受講生への働き掛け、そのためのツールの活用が定着しつつあることが分かります。授業内容についても、現場の見学やビデオの有効活用、最近のトピックの紹介など、具体的な事例を積極的に取り入れることにより受講生の興味を喚起し理解度を高める取り組みが注目されます。このような教員の努力が、授業アンケートにおける質問項目 C 群の高評価につながっていると思われれます。

一方で、授業参観者数は、授業公開・授業参観報告書が提出された公開授業 1 科目当たり平均 0.5 名で、授業参観者がいなかった公開授業は 62.5 %に上ります。これは、授業公開・授業参観が形骸化の傾向にあり、授業公開者、授業参観者共にその意義を見出すのが困難になっているためと思われる。今後、授業参観に留まらず、授業公開の場で授業公開者と授業参観者が授業改善、教員の資質向上の観点から十分な議論ができるような仕組み作りを検討する必要があるのではないかと思います。また、その議論も、個々の授業に留まるのではなく、各授業の連携を図るためのカリキュラム体系全体に広げるべき段階に来ているのではないかと感じます。

表 4. 平成 22 年度授業公開・授業参観報告書から抜粋した授業改善への取り組み事例

理解度向上を目的とした工夫
・ ミニレポート、小テストの活用
集中力の喚起、重要なポイントの意識付けのための工夫
・ 空欄としたキーワード欄への書き込み
・ 板書の積極的な活用
興味を喚起させるための工夫
・ 具体的な事例の活用(現物の展示、ビデオの活用、最近のトピックの紹介、ケーススタディ)
・ 就職先との関連性の意識付け
時間外学習を促すための工夫
・ 時間外での現場見学の課題提供とそのレポートの提出
・ 予習・復習成果や講義ノートの提出とその評価
双方向授業の工夫
・ ミニツッパーパーの活用と受講生からの質問への回答
・ Moodle の利用

5. 終わりに

水産学部 FD 委員会では、教育システム運用マニュアルに規定された教職員の力量の維持、向上を実現するために、授業公開・授業参観を企画し、FD 講習会、FD ワークショップを開催しています。また、学生満足度の調査を目的として授業アンケートを行い、その結果を教職員にフィードバックして授業改善に役立てていただいています。近年は、教職員の間でFDの意義や重要性が認識され、授業改善報告書や授業公開・授業参観報告書にも各教員が様々な工夫や努力を重ねている様子が見えてきます。その一方で、近年の授業参観者数の減少に見られるように、FD活動が形骸化しつつあることも否めません。今後、学生の満足度や要望がより担当教員に伝わるよう授業アンケートの質問項目や質問方法を見直す必要があると考えています。また、授業公開・授業参観についても、授業改善に資するような授業を公開し、それをもとに授業参観者や受講生が授業改善、資質向上の観点から活発な議論ができるようFD講習会やワークショップとの連携も視野に検討したいと考えています。このような取り組みを続ける中で、FD活動の次の段階として、他の教育関連の委員会などとの協力を得ながら、個々の教員の資質向上、個々の授業の改善から、教育システム全体の改善へつなげるべく教員間、授業間の連携を議論しよりよいものにする取り組みへとつなげていければと考えています。

平成22年度水産学部ファカルティ・デベロップメント委員会

委員長：重廣律男

副委員長：吉川 毅

委員：宇野誠一、江幡恵吾、寺田竜太、山本美穂

6. 資料編

表3.1 後期開講科目の3年間にわたるシラバスに対応した授業と学生満足度の比較(アンケート回答数別)

平成21年度後期(講義・演習)										
平均評価点	シラバス					満足度				
	20名以下	21~50名	51~100名	101名以上	計	20名以下	21~50名	51~100名	101名以上	計
1~2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2~3	1	0	0	1	2	0	3	0	1	4
3~4	19	24	12	4	59	20	21	12	4	57
平成18年度後期(講義・演習)										
平均評価点	シラバス					満足度				
	20名以下	21~50名	51~100名	101名以上	計	20名以下	21~50名	51~100名	101名以上	計
1~2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2~3	2	0	1	0	3	0	1	1	0	2
3~4	19	22	9	6	56	21	21	9	6	57
平成17年度後期(講義・演習)										
平均評価点	シラバス					満足度				
	20名以下	21~50名	51~100名	101名以上	計	20名以下	21~50名	51~100名	101名以上	計
1~2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2~3	0	0	0	0	0	1	4	3	1	9
3~4	17	27	11	7	62	16	23	8	6	53

平成21年度後期(実験・実習)			平成18年度後期(実験・実習)			平成17年度後期(実験・実習)		
平均評価点	シラバス	満足度	平均評価点	シラバス	満足度	平均評価点	シラバス	満足度
1~2	0	0	1~2	0	0	1~2	0	0
2~3	1	0	2~3	0	0	2~3	0	0
3~4	7	8	3~4	19	19	3~4	17	17

平成21年度後期(乗船実習)			平成18年度後期(乗船実習)			平成17年度後期(乗船実習)		
平均評価点	シラバス	満足度	平均評価点	シラバス	満足度	平均評価点	シラバス	満足度
1~2	0	0	1~2	0	0	1~2	0	0
2~3	1	0	2~3	0	0	2~3	2	0
3~4	5	6	3~4	12	12	3~4	4	6

表3.2 後期授業アンケート・授業改善報告書の提出状況

	授業アンケート			授業改善報告書	
	授業科目数	提出科目数	提出率(%)	提出科目数	提出率(%)
平成21年度後期	79	70	88.6	46	65.7 (79.3)
平成18年度後期	—	85	—	39	45.9
平成17年度後期	—	85	—	41	48.2

授業改善報告書提出率は、授業アンケート提出科目数当たり。

授業改善報告書提出率のカッコ内は、平成21年度末退職者、外部講師担当科目を除いた場合の数値。

表6.3 授業アンケートから見た前期開講科目の3年間にわたるシラバスに対応した授業と学生満足度の比較(アンケート回答数別)

平成22年度前期(講義・演習)										
平均評価点	シラバス					満足度				
	20名以下	21~50名	51~100名	101名以上	計	20名以下	21~50名	51~100名	101名以上	計
1~2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2~3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
3~4	8	14	10	4	36	8	13	10	4	35
平成19年度前期(講義・演習)										
平均評価点	シラバス					満足度				
	20名以下	21~50名	51~100名	101名以上	計	20名以下	21~50名	51~100名	101名以上	計
1~2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2~3	1	0	0	1	2	0	2	2	0	4
3~4	13	19	15	6	53	14	17	13	7	51
平成18年度前期(講義・演習)										
平均評価点	シラバス					満足度				
	20名以下	21~50名	51~100名	101名以上	計	20名以下	21~50名	51~100名	101名以上	計
1~2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2~3	3	2	3	1	9	3	2	6	0	11
3~4	16	16	15	3	50	16	16	12	4	48

平成22年度前期(実験・実習)			平成19年度前期(実験・実習)			平成18年度前期(実験・実習)		
平均評価点	シラバス	満足度	平均評価点	シラバス	満足度	平均評価点	シラバス	満足度
1~2	0	0	1~2	0	0	1~2	0	0
2~3	0	1	2~3	1	2	2~3	2	2
3~4	16	15	3~4	19	18	3~4	18	18

平成22年度前期(乗船実習)			平成19年度前期(乗船実習)			平成18年度前期(乗船実習)		
平均評価点	シラバス	満足度	平均評価点	シラバス	満足度	平均評価点	シラバス	満足度
1~2	0	0	1~2	0	0	1~2	0	0
2~3	0	0	2~3	0	0	2~3	1	0
3~4	9	9	3~4	7	7	3~4	34	34

表6.4 前期授業アンケート・授業改善報告書の提出状況

	授業アンケート			授業改善報告書	
	授業科目数	提出科目数	提出率(%)	提出科目数	提出率(%)
平成22年度前期	66	61	92.4	50	82.0 (92.6)
平成19年度前期	—	82	—	49	60.0
平成18年度前期	—	79	—	40	50.6

授業改善報告書提出率は、授業アンケート提出科目数当たり。

授業改善報告書提出率のカッコ内は、外部講師担当科目を除いた場合の数値。

表6.5 平成21年度後期授業アンケートにおける各質問項目の平均値と質問項目間の相関係数

講義・演習科目	質問項目																	
	A-1	A-2	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	C-1	C-2	C-3	C-4	C-5	D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	D-6
平均値	3.58	3.57	3.40	3.40	3.22	3.34	3.45	3.58	3.49	3.30	3.36	3.39	3.34	3.10	2.82	3.25	2.92	3.51
B-5との相関係数	0.41	0.23	0.72	0.62	0.68	0.13	1.00	0.49	0.58	0.70	0.72	0.45	-0.03	0.21	0.48	0.80	0.19	0.35
D-3との相関係数	-0.01	0.05	0.38	0.29	0.82	-0.06	0.48	0.22	0.52	0.71	0.67	0.30	0.12	0.23	1.00	0.54	0.09	0.28
D-4との相関係数	0.41	0.19	0.73	0.53	0.54	0.22	0.80	0.49	0.50	0.62	0.68	0.52	-0.06	0.37	0.54	1.00	0.33	0.49
D-5との相関係数	0.17	-0.02	0.19	0.15	0.02	0.83	0.19	0.23	0.17	0.15	0.19	0.50	0.12	0.38	0.09	0.33	1.00	0.13
D-6との相関係数	0.26	0.31	0.42	0.39	0.24	0.20	0.35	0.42	0.26	0.27	0.33	0.40	0.06	0.17	0.28	0.49	0.13	1.00

実験・実習科目	質問項目																	
	A-1	A-2	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	C-1	C-2	C-3	C-4	C-5	D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	D-6
平均値	3.82	3.36	3.4	3.26	3.42	3.32	3.77	3.22	3.57	3.46	3.53	3.57	3.72	3.06	2.95	3.56	3.37	3.76
B-5との相関係数	0.65	0.36	0.08	-0.1	-0.1	0.42	1	-0.3	0.35	-0.2	0.64	0.47	0.61	-0.1	-0.3	0.11	0.59	0.68
D-3との相関係数	-0.3	-0.1	0.61	0.74	0.87	-0.1	-0.3	0.34	-0.4	0.15	-0.3	0.12	0.36	0.58	1	0.43	-0.1	-0.1
D-4との相関係数	0.34	-0.5	-0.1	-0.1	0.36	-0.5	0.11	-0.3	0.12	0.62	0.15	0.65	0.53	-0.3	0.43	1	-0.1	0.14
D-5との相関係数	0.26	0.82	0.57	0.32	0.12	0.86	0.59	-0.2	0.13	-0.4	0.3	-0.2	0.05	0.45	-0.1	-0.1	1	0.1
D-6との相関係数	0.76	-0.2	-0.1	-0.1	-0.1	0.06	0.68	0.33	0.18	-0.2	0.43	0.31	0.67	-0.1	-0.1	0.14	0.1	1

乗船実習科目	質問項目																	
	A-1	A-2	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	C-4	C-5	C-6	D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	D-6
平均値	1.10	1.01	1.30	1.21	1.31	0.91	1.43	1.20	1.27	1.33	1.36	1.17	0.84	0.98	1.21	1.40	0.88	1.16
B-5との相関係数	0.94	1.00	0.95	0.92	0.86	1.00	0.96	0.91	0.94	0.82	0.95	0.86	0.90	0.94	0.77	0.80	0.99	0.94
D-3との相関係数	0.83	0.79	0.92	0.95	0.99	0.77	0.77	0.96	0.85	0.95	0.81	0.91	0.92	0.92	1.00	0.95	0.76	0.86
D-5との相関係数	0.95	1.00	0.94	0.90	0.85	0.99	0.98	0.90	0.96	0.84	0.97	0.88	0.91	0.92	0.76	0.82	1.00	0.95
D-6との相関係数	0.99	0.95	0.94	0.92	0.92	0.94	0.98	0.95	0.99	0.94	0.99	0.98	0.99	0.92	0.86	0.93	0.95	1.00

表6.6 平成22年度前期授業アンケートにおける各質問項目の平均値と質問項目間の相関係数

講義・演習科目	質問項目																	
	A-1	A-2	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	C-1	C-2	C-3	C-4	C-5	D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	D-6
平均値	3.62	3.55	3.40	3.45	3.32	3.34	3.50	3.61	3.54	3.41	3.42	3.43	3.33	3.08	2.88	3.29	2.92	3.42
B-5との相関係数	0.22	0.38	0.52	0.62	0.78	-0.01	1.00	-0.01	0.66	0.80	0.77	0.53	-0.07	0.42	0.75	0.77	0.00	0.52
D-3との相関係数	0.14	0.53	0.57	0.58	0.81	0.16	0.75	0.00	0.62	0.76	0.72	0.69	-0.24	0.48	1.00	0.78	0.17	0.39
D-4との相関係数	0.18	0.43	0.50	0.53	0.73	0.06	0.77	-0.18	0.62	0.75	0.66	0.62	-0.14	0.38	0.78	1.00	0.10	0.52
D-5との相関係数	-0.24	0.12	-0.04	-0.20	-0.12	0.84	0.00	0.18	0.15	0.11	-0.02	0.05	-0.40	0.06	0.17	0.10	1.00	-0.02
D-6との相関係数	0.15	0.05	0.39	0.57	0.34	0.05	0.52	-0.03	0.15	0.31	0.35	0.06	-0.14	0.38	0.39	0.52	-0.02	1.00

実験・実習科目	質問項目																	
	A-1	A-2	B-1	B-2	B-3	B-4	B-5	C-1	C-2	C-3	C-4	C-5	D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	D-6
平均値	0.94	0.78	0.86	0.81	0.86	0.79	1.00	0.73	0.81	0.76	0.89	0.89	0.95	0.75	0.78	0.91	0.85	0.96
B-5との相関係数	0.98	0.97	0.95	0.92	0.91	0.95	1.00	0.93	0.99	0.94	0.99	0.96	0.94	0.92	0.86	0.94	0.95	0.97
D-3との相関係数	0.88	0.91	0.95	0.96	0.99	0.86	0.86	0.95	0.90	0.96	0.89	0.91	0.91	0.95	1.00	0.94	0.84	0.88
D-4との相関係数	0.96	0.94	0.96	0.96	0.97	0.91	0.94	0.96	0.96	0.99	0.95	0.98	0.95	0.94	0.94	1.00	0.91	0.94
D-5との相関係数	0.97	0.96	0.93	0.92	0.89	0.99	0.95	0.93	0.96	0.91	0.95	0.97	0.95	0.95	0.84	0.91	1.00	0.95
D-6との相関係数	0.98	0.99	0.96	0.94	0.92	0.96	0.97	0.95	0.98	0.94	0.97	0.98	0.96	0.94	0.88	0.94	0.95	1.00

乗船実習科目	質問項目																	
	A-1	A-2	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	C-4	C-5	C-6	D-1	D-2	D-3	D-4	D-5	D-6
平均値	0.68	0.84	0.89	0.93	0.98	0.74	1.09	0.60	0.96	1.02	0.98	0.90	0.39	0.80	1.00	1.08	0.69	0.97
B-5との相関係数	0.95	0.67	0.95	0.87	0.80	0.26	1.00	0.86	1.00	0.83	1.00	0.88	-0.62	0.88	0.64	0.84	0.16	0.98
D-3との相関係数	0.44	-0.14	0.83	0.93	0.97	-0.58	0.64	0.94	0.68	0.95	0.66	0.87	-0.54	0.72	1.00	0.95	-0.66	0.62
D-5との相関係数	0.37	0.83	-0.14	-0.34	-0.46	0.99	0.16	-0.37	0.11	-0.40	0.13	-0.25	0.12	-0.07	-0.66	-0.39	1.00	0.17
D-6との相関係数	0.98	0.65	0.91	0.83	0.78	0.26	0.98	0.84	0.99	0.83	0.99	0.91	-0.46	0.80	0.62	0.83	0.17	1.00

理工学研究科

大学院理工学研究科 FD 報告

(平成 23 年 3 月)

鹿児島大学大学院理工学研究科

ファカルティ・ディベロップメント委員会

はじめに

理工学研究科のFD委員会は、昨年度に引き続いて活動を行った。理工学研究科として部局化になって2年目になるが、教員は研究科と合わせて理学部と工学部を兼担して教育・研究に当たっている。大学院教育におけるFD活動は、「教員が授業及び研究指導等の内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称」とされている。大学院教育の共通の認識として、

- (1) どのような学位を出すのか
- (2) どのような教育プログラム（カリキュラム）を組むのか
- (3) どのような人材を入学させるのか

を明確にすると共に点検を継続して実施することが重要になる。これは修了生の質の保証と学位水準について研究科として取り組む問題である。

一方、中央教育審議会（平成23年1月31日）の答申「グローバル化社会の大学院教育～世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために～」では、大学院教育の改善の方向性が示されている。この中では、明確な学位プログラムとしての大学院教育を確立し、学生の質を保証する体系の整備が重要なものとして指摘されている。学生の質を保証する組織的な教育・研究指導體制の確立としては、FD活動に関連する項目として次の項目がある。

- (1) FDの充実、ピアレビューの実施による教員の教育・研究指導能力の向上
- (2) 教員の教育業績や能力の評価の充実、人事や処遇への反映などの推進、教員の教育研究活動の評価に関する指標の開発推進

また、「教員の教育・研究指導能力の向上」に関して、答申の中では、「体系的な大学院教育を充実させるためには、大学院教育に携わる教員の教育・研究指導能力の向上が不可欠である。FDや教育指導評価に関する取り組みは、学士課程段階が中心であるため、研究科や専攻の教員が互いに教育について活発に議論するとともに、諸外国の大学院の教育・研究指導の経験を活用するなど大学院教育に関する組織的な研修体制を充実させる必要がある。」としている。これまで大学院でのFD活動は、重要な項目として見なされてきたとは言えない。しかし、FD活動が学生の質を保証する組織的な教育・研究指導體制の一環であるとする、現在理工学研究科で行っているFD活動を改めて考えてみる必要がある。

理工学研究科では、アドミッションポリシーの中で求める学生像を示しており、入学後は学生の能力の向上を図ると共に各専攻の掲げる目標達成を目指した教育・研究指導に取り組んでいる。理工学研究科のFD委員会では、平成22年度の活動計画として、昨年度に続いて（1）学生による授業評価とそれに基づいた授業改善、（2）FD講演会の実施（3）学生の研究活動と教育成果の点検を目標にした。最後にFD報告書の作成によるPDCAの現状分析と総括を主たる活動項目とした。

なお、本報告書は、学部委員を兼務している委員各位の協力により作成することが出来ました。また、事務支援室の皆様のアンケート調査や整理に関するご協力に感謝します。

平成22年度鹿児島大学理工学研究科ファカルティ・ディベロップメント委員会
委員長 河野健二(全学FD委員会委員)

平成 22 年度 鹿児島大学工学研究科ファカルティ・ディベロップメント委員会委員

委員長	河野 健二	(全学 FD 委員会委員(工学部副部長),	H21. 4. 1~H23. 3. 31)
委員	林 良太	(機械工学専攻,	H21. 4. 1~H23. 3. 31)
委員	大 畠 賢一	(電気電子工学専攻,	H22. 4. 1~H24. 3. 31)
委員	曾 我 和弘	(建築学専攻,	H21. 4. 1~H22. 7. 31)
委員	黒 川 善幸	(建築学専攻,	H22. 8. 1~H23. 3. 31)
委員	筒 井 俊雄	(化学生命・化学工学専攻,	H22. 4. 1~H24. 3. 31)
委員	安 達 貴浩	(海洋土木工学専攻,	H21. 4. 1~H23. 3. 31)
委員	小 野 智司	(情報生体システム工学専攻,	H22. 4. 1~H24. 3. 31)
委員	近 藤 正男	(数理情報科学専攻,	H22. 4. 1~H23. 3. 31)
委員	末 谷 大道	(物理・宇宙専攻,	H22. 4. 1~H23. 3. 31)
委員	蔵 脇 淳一	(生命化学専攻,	H22. 4. 1~H23. 3. 31)
委員	宮 本 旬子	(地球環境科学専攻,	H22. 4. 1~H23. 3. 31)
委員	田 上 豊	(理工学研究科等事務部長)	
事務	深 見 直	(研究科事務課長)	
	仮 屋 誠	(工学系事務課長)	
	坂 口 智子	(理学系事務課長)	
	大 園 久裕	(研究科事務課総務係長)	
	山 口 聡	(研究科事務課総務係員)	
	竹 下 淳哉	(研究科事務課総務係員)	

目次

はじめに	i
第1章 平成22年度鹿児島大学理工学研究科のFD活動	
1.1 鹿児島大学の中期目標・年次計画と理工学研究科のFD活動	1
1.2 理工学研究科FD委員会	1
第2章 理工学研究科FD講演会とFD活動	
2.1 理工学研究科FD講演会	5
2.2 海外実習報告	7
第3章 学生による授業評価	
3.1 博士前期課程の授業評価アンケートの分析結果	9
3.1.1 工学系専攻の授業評価アンケートの結果報告	9
3.1.2 理学系専攻の授業評価アンケートの結果報告	10
3.2 博士前期課程の各専攻における授業評価アンケート分析結果	
3.2.1 機械工学専攻	12
3.2.2 電気電子工学専攻	13
3.2.3 建築学専攻	15
3.2.4 化学生命・化学工学専攻	16
3.2.5 海洋土木工学専攻	17
3.2.6 情報生体システム工学専攻	17
3.2.7 数理情報科学専攻	19
3.2.8 物理・宇宙専攻	21
3.2.9 生命化学専攻	22
3.2.10 地球環境科学専攻	23
3.3 授業計画改善書の活用	24
第4章 学生の研究活動と教育成果	26
第5章 今後の理工学研究科FD活動への期待	31
参考資料-1 平成22年度理工学研究科FD委員会議事要旨	33
参考資料-2 授業評価アンケート質問様式（平成22年）	38
参考資料-3 授業計画改善書の例	39

第1章 平成22年度鹿児島大学理工学研究科のFD活動

1.1 鹿児島大学の中期目標・年次計画と理工学研究科のFD活動

理工学研究科のFD委員会では、昨年度に引き続き鹿児島大学の中期目標と22年度計画を参考にしてFD活動を行った。大学院教育におけるFD活動は、「教員が授業及び研究指導等の内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称」とされている。平成19年度から大学院設置基準の中で義務化が規定されている。学部のFD活動に比べて大学院に関するFD活動は活発に議論されてはいないと思われる。FD活動は大学院の学生数が増大したことにより多様な能力を有する学生の教育・研究指導に対応したような大学院教育の展開も必要になってきている。これまでは各教員の能力に大きく依存してきた大学院の教育・研究を研究科として点検して改善していくことが必要になる。FD活動に関しても、大学院教育の共通認識として教育・研究指導の点検を行うことで、理工学研究科の目標の実現を図ることができると考える。

大学院教育の共通の認識として、

- (1) どのような学位を出すのか
- (2) どのような教育プログラム（カリキュラム）を組むのか
- (3) どのような人材を入学させるのか

を明確にすると共に、継続して点検していくことが求められている。

全学のFD委員会では特別に大学院のFD活動についての議論はなされていないが、鹿児島大学の中期計画の中の平成22年度の実施計画について大学院のFDに関連が深い項目を見てみると、表1.1のような項目が上げられる。

表 1.1 鹿児島大学の中期目標と22年度計画

中期目標	中期計画
○知識社会を担う高度専門職業人や研究者等の育成をめざした大学院教育の質を向上する。	○大学院教育カリキュラムを整備・拡充するなど、大学院課程における学位の質を保証する方法を確立する。
○グローバル化の進展に対応した、国際的に活躍できる人材を育成する。	○幅広い国際的視野を育成する実践的な教育プログラムを実施する。

前述した項目は、大学院における修了生の質の保証と学位水準と密接に関連しており、理工学研究科のFD委員会も含めて全体で取り組む問題であると考えられる。理工学研究科のFD委員会ではこのような観点から、昨年度に続いて平成22年度の活動を行った。

1.2 理工学研究科FD委員会

理工学研究科は平成21年度から部局化に伴って新しい理工学研究科としてスタートした。前期課程は工学系が6専攻、理学系が4専攻の10専攻から構成されている。これによりFD委員会は、機械工学専攻、電気電子工学専攻、建築学専攻、化学生命・化学工学専攻、海洋土木工学専攻、情報生体システム工学専攻、数理情報科学専攻、物理・宇宙専攻、生命化学専攻、地球環境科学専攻の各委員から構成されている。

本年度は理工学研究科のFD委員会を4回行った。委員会の議事録は参考資料-1に示している。

ここでは、委員会の活動について述べることにする。

第1回（4月）の委員会では

- (1) 平成21年度研究科FD活動報告について
- (2) 平成22年度FD活動計画について
- (3) 委員の活動分担について

について議論した。

(1)は昨年度のFD活動の報告であり活動について報告した。その内容は、授業評価については、アンケートの内容・実施について議論した結果、前年と同じように実施することとしたが、大学院授業の形式や少人数受講科目などがあることから、設問の整理を行った。授業アンケートの実施については、より良い授業の実施に繋げていくという目標に沿っていけば、専攻(授業担当者)の判断に任せることとした。また、FD講演会については、開催そのものに賛否が議論されたが、前年と同様に開催することにして講演会への参加は、自主的な参加の呼び掛けで実施することにした。

昨年度から始めた学生の研究活動の報告については、学生の研究成果発表の情報を収集することにより、研究活動を示す一つの指標になるのではないかとこの合意で収集を行った。これについては大学院生の質の向上をどのように評価していくのかFD活動として取り組んでみる必要があり、今年度も収集を行い分析することを予定していることを報告した。

(2)では鹿児島大学が掲げている次期中期目標・中期計画中の「学位の質を保証する方法の確立」に係るFD委員会の活動として、前年度の4活動項目に沿って今年も実施することにした。

- (1) 講演会の実施
- (2) 海外実習報告
- (3) 学生による授業評価
- (4) 学生の研究活動と教育成果

第2回（6月）の委員会では

- (1) 平成22年度授業評価アンケートについて
- (2) 授業計画改善書について
- (3) 大学院生の研究成果について

について議論した。

(1)については、平成21年度の実施に向けた協議のなかで、大学院での授業評価アンケートの実施は、受講人数が限られていることから実施するまでもないとの意見もあった。しかし、今年度も各授業担当教員の判断を尊重することとして授業評価アンケートの実施を行うことにした。検討の結果、本年度も昨年同様の設問で実施することにした。

(2)の授業計画改善書については、各専攻での活用の検討予定の有無、活用方法等について報告してもらった。理学系および工学系では活用に関して違いがあるが、学部におけるほどには活用されておらずFD委員へ提出されたものが預かり状態(専攻によっては専攻会議等に諮り、分析等

を行ってはいらぬ) となっていることが報告された。しかし、本年度も引き続き授業計画改善書の提出を行うこととして、活用については今後も検討することとした。

(3)の大学院生の研究成果については、大学院生の場合にも基本的には、どのような学位を出すのかが問われていることを考慮すると、どのような教育プログラムを構築し、実施しているのかを明らかにしておくことが求められる。そのためどのような人材を入学させるのかについて説明が求められ、その結果としてどのような学位を出しているのかが問われることになる。大学院における質の保証とは何かを考えたとき、講義だけでは評価できないことから、学生の研究活動を調査することが一つの指標になると考え前年度は委員会で協議して論文数等の調査を行った。今年度も昨年同様の調査で良いか、新たな指標項目等を設定するか等の意見、また、入学者が増える一方、学力低下が懸念される状況のなかで、学位を取得させるために専攻内で講じている取組み等について状況を報告してもらった。その結果として、

- ・専攻全体としての検討はない。
- ・教員個人、研究グループ単位に委ねられている。
- ・資格取得との関係で、質の保証を担保してはとの議論がなされたことがあるが進んでいない。
- ・研究面における質の保証としては、学会等での発表等を進めることで意識している。
- ・質の向上として、主テーマ以外に主指導教員以外の指導教員の指導によるサブテーマを半年間行うようにしている。
- ・授業に縛られ、長期の研究に時間が取れなくなり、研究における質の保証を担保することが厳しい状況もある。

以上の状況から、本年度についても昨年同様の調査を継続して行うこととした。すなわち、大学院生の研究成果に関しては、その研究発表の概要を把握することで、どのような学位を出しているのか状況を知ることとした。また院生の学会などへの参加、指導する教員の支援活動の状況を把握するためのデータの収集を行うこととした。

第3回(10月)の委員会では

- (1) 平成22年度FD講演会について
- (2) 前期授業評価アンケートの実施結果について
- (3) 大学院生の学習・研究成果について
- (4) FDニュースレターについて

について議論した。

(1)の本年度のFD講演会については、学生対応の面から、保健管理センター医師による「学生のつまずき支援」と題して、11月25日(木)16時10分から開催予定として準備している旨提案があり、了承された。また、開催の案内については、ポスター、メールおよび教授会で案内する予定であることが報告された。

(2)では前期授業評価アンケートの実施および授業改善計画書の提出状況等について各専攻の状況が報告された。その結果、

- ・アンケートの実施は、工学系専攻においては、殆ど実施されている。一方、理学系専攻に

おいては、少人数受講者の科目を除き、大体実施されている状態である。

- ・授業改善計画書の提出及び内容については、一部提出されていない科目があるが、提出されているものの内容については大きな問題はない。

この授業評価アンケートの実施結果についての意見交換の後、後期授業評価アンケート（1月実施）を引き続き継続して実施することが了承された。

(3)については、昨年同様に大学院生の質の向上が問われていることから、何か見える形での活動とそれによる結果を報告書に示すことが考えられる。そのため、実施案として当該年度ごとの授業評価アンケートの評価結果と成績評価(GPA)とを比較検討し、教育面における改善の指標を模索する案が提示された。議論の結果、成績評価の向上が、授業によるものか学生本人によるものか分からない部分が不明であり、授業評価アンケートの何の評価をもって比較検討しようとするのか分からない等の意見が述べられた。その結果、新たに多くのデータを集める作業は各教員やFD委員の負担増となり協力が得られにくいことから、既に集められた授業評価アンケートにより、質の保証を検討するために作業可能なデータを用いて行う予定であること、また、今年度の活動目標としてFD活動報告書においても記載しておくべき項目であることから、各委員において次回委員会までに再度提案してもらうことにした。

(4)のFDニューズレターについては、発行に関し具体的な掲載案の提示を担当委員に諮ったが、担当委員から発行の賛否が確定していなかったため、具体案はできていない旨説明があった。また、活動報告書と重複する記載内容を敢えてレター化することに意味があるかとの意見があったため、他学部発行のレター等を参考に発行の是非について検討したが、今年度については、発行しないが次年度以降の検討事項として残すこととした。

第4回（3月）の委員会では

(1)平成22年度研究科FD活動報告書の作成について
について議論した。平成22年度研究科FD活動報告書の原稿作成について、分担を決めた。また、原稿の体裁等については、資料の要領で作成することになった。

なお、原稿提出期限は、3月23日（水）とし、研究科総務係へ提出することが確認された。

第2章 理工学研究科 FD 講演会と FD 活動

2.1 理工学研究科 FD 講演会

平成 22 年度の理工学研究科 FD 講演会は、工学部および理学部の FD 委員会と理工学研究科 FD 委員会との共同主催として企画され、平成 22 年 11 月 25 日 16 時 10 分から 17 時 30 分まで、工学系講義棟 3 階 131 教室で開催された。本学保健管理センター 伊地知 信二先生に講師を依頼した。

講演会に先立ち、福井専攻長による開会挨拶と講演者紹介があり、その後、「学生のつまづき支援：発達の違いの見つけ方」という演題で講演が行われた。講演会への参加者は 58 名であった。講演の概要を以下に示す。

- パーソナリティの多様性（個性）が必要であれば発達の違いは必然
- 発達の違いがない人は存在しない。
- あら捜しにならないために
 - ① つまづき支援のため
 - ② 潜在する能力を発揮してもらうため／得意分野を伸ばすため

講演は、「多様性、個性が重要視されるのであれば、発達の違いはあって然るべきである。発達の違いがない人間は存在しない」という前置きから始まった。聴講者は、多数少数変換アンケート（図 2.3）への回答を求められた。このアンケートへの回答を通じて、聴講者は発達の違いという問題の性質を直観的に理解した。

発達の違いを持ち、支援が必要な学生を見つけることは難しく、対処法も一般的・普遍的な方法は存在せず、専門家によって意見が分かれるとのことであった。本人は一生懸命やっているとと思っているがうまくいかず、支援が必要であるが、教員側からみると「まさかこの学生が支援が必要なはずはない」といったギャップがある。「支援が必要な学生に気がつくことが重要。支援が必要な学生を見つけることができ、抱えている問題とその理由がわかれば対策を考



図 2.1 FD 講演会の案内ポスター



図 2.2 講演会の様子

えることができる。教員と保健管理センターの職員とで情報を共有し、対策を考案することが重要」とのことであった。

上記の理由により、支援が必要な学生に気がつくための学生の特性の例示が主たる講演の内容であった。表面的なわかりやすい特性の例として、「友達ができない」、「ゼミやサークルで無用な口論」、「借りたものを返さない」、「声の大きさを調整できない」、「一方的な会話、しつこい会話」、「新しいパターンの課題をこなせない」、「手加減ができない」、「過度な不潔恐怖、バランスの悪い身だしなみ」、「専門教科やゼミで成績が急落」、「整理整頓が苦手」、「無防備、無警戒、不用心」などが紹介された。

また、内在・潜在するわかりにくい特性の例として、「空気が読めない、相手の立場に立てない」、「長文で作文できるが、長文の理解が苦手」、「他人の顔を記憶することが苦手」、「優先順位の重要性を認識していない」、「優先順位が適切でない」、「完璧主義（欠席一回で引きこもり）」、「無視すべきことを無視できない」、「自分の特性を自覚していない」、「二つのことを同時にできない」、「感覚過敏」、「不用意な情報を遮断できない（先生の声と雑音を判別できない）」、「言語性IQと動作性IQの乖離」などが紹介された。

設定

- ・ 普通の男の子が999人、その場の空気が読めずコミュニケーションが苦手な男の子が1人いる世界を想定してください。
- ・ その場の空気が読めずコミュニケーションが苦手な男の子は、自閉症と診断されて治療の対象となっています。

マジョリティとマイノリティをひっくり返した場合

The diagram illustrates a role reversal. On the left, a large group of 999 normal children (represented by cartoon faces) is shown next to a single autistic child (represented by a real photo of a child with the word 'AUTISM' below it). A green arrow points down to the right, where the roles are reversed: a single normal child is shown next to a large group of 999 autistic children.

アンケートB

この、マジョリティとマイノリティの関係が、逆転した世界では、治療の対象となるのは、どちらだと思いますか？

- ① やはり、自閉症児
- ② 普通の子供
- ③ わからない

図 2.3 多数少数変換アンケート

河野 FD 委員会委員長が座長を務めた質疑応答では、「個性の範囲なのか障害かの判断が難しい。どこから支援が必要か？」との質問があり、伊地知先生からは「線を引くことは非常に難しい。ケースバイケースとしか言いようがない」との回答があった。また、「支援が必要な学生から実験の代行、説明の代筆などの依頼があった。不正にあたるのか？ 支援が必要な学生と一般の学生との間の整合性や、教員間での情報共有が難しい」など、問題の複雑さを象徴する意見があった。

2. 2 海外実習報告

鹿児島大学理工学研究科（工学系）では、学生の海外研修を支援するために、「岩崎国際学術交流基金」が設けられている。大学院生の海外研修の例として、上記基金の助成によって実施された研修の内容や、理工学研究科（理学系）を主たる実施母体として実施されている、独立行政法人日本学術振興会（JSPS）によるインター・ナショナル・トレーニングプログラム（ITP）による研修内容を以下に紹介する。

①「インド・カルナタカ国立工科大学での研修」

海洋土木工学専攻 北村 良介 教授

平成 23 年 3 月 19 日～24 日に、理工学研究科・海洋土木工学専攻の齋田倫範助教と修士 1 年生の 2 名が、学術交流期間であるインド・カルナタカ国立工科大学（マンガロール）を訪問し、テクニカル・プレゼンテーションとテクニカル・ツアーに参加した。テクニカル・プレゼンテーションでは、鹿児島大学とカルナタカ国立工科大学の修士学生の発表が行われ、研修に参加した修士 1 年生 2 名いずれもが英語により研究成果の発表とディスカッションを行った。さらに、カルナタカ国立工科大学長を表敬訪問、関連分野の研究者との学術交流を行った。

②「国際協力イニシアチブ」教育拠点形成事業「連帯による持続可能なエネルギー教育」

電気電子工学専攻 小原 幸三 教授

このプロジェクトは鹿児島大学と地域が有する知的な資産を広く海外で活用することで、研究・教育の国際協力を推進することを目的としている。今年度の対象地域は、インドネシアでカウンターパートは、インドネシア大学工学部であった。発展途上のインドネシアが抱える廃棄物処理を、鹿児島県大崎町の先進事例を応用することで改善する。アルミ缶と PET ボトルを対象に、回収、分析、発展のプロセスを取り入れて、教育機関と地域行政が一体となった持続可能なシステムを形成した。9 月 22 日にインドネシア大学で国際ワークショップを開催し、人口 170 万人のデポック市と大崎町の国際交流が実現し、現地の新聞で報道された。長い時間のかかる事業を推進する意思形成がはじまった。2 月 12 日に鹿児島でこの事業の成果報告会を国際シンポジウムとして開催した。この事業を推進するために、工学部岩崎国際交流基金からの助成は、補完的役割を果たし非常に有効であった。

③「インターナショナル・トレーニング・プログラム」

地球環境科学専攻 鈴木 英治 教授等

平成 19 年度から理工学研究科（理学系）では、大学院生以上の若手研究者にインターナショナル・トレーニング・プログラム（ITP）「熱帯域における生物資源の多様性保全のための国際教育プログラム」称して、海外で調査や研究を行う場の提供を試みている。このプログラムは、独立行政法人日本学術振興会（JSPS）によるもので、平成 19 年 10 月に採択された後、継続的に実施されてきた。主に生物多様性をテーマに研究を進める若手研究者が、一定期間、熱帯域に派遣され、現地パートナー機関の協力のもとで、主体的に調査や研究に専念する機会が提供される。海外で研鑽を積んでもらい、生物資源の多様性保全などについて国際的に貢献できる人材を育成

することが最終目標である。今年度は、マレーシア、インドネシア、タイなどへ、13名（理工学研究科所属はそのうち10名）の大学院生が概ね2ヶ月ずつ派遣され、それぞれ研究成果を挙げて帰国した。本学の大学院生が、海外での研究スキルを磨き、国際交流を行い、大学院修了後に国際的に活躍する基礎力を養う機会の充実強化を図るためには、極めて有効なプログラムである。

第3章 学生による授業評価

3.1 博士前期課程の授業評価アンケートの分析結果

理工学研究科では、平成22年度も前年度と同様に授業評価アンケートを実施した。大学院の授業に対する学生の意見を適切に抽出するために授業アンケートの設問項目と内容は前年度と同じとした。平成22年度のアンケートの設問を参考資料-2に示す。

3.1.1 工学系専攻の授業評価アンケートの結果報告

理工学研究科で実施されたアンケートの結果を表3.1.1に示す。この結果を見ると、ほぼ全ての項目において、4程度ないしはそれ以上の評価が得られており、大学院講義に対して学生は所定の満足を得ているものと判断できる。ただし、アンケート項目「②予習と復習は毎週どれくらいしましたか。(レポート作成時間も含まれます)」の評価のみが3.00以下となっており、他の設問の評価に比べて低い結果が得られている。なお、アンケート項目「②予習と復習」の評価のみが低くなる傾向は、昨年度も同様に確認されている(参考のために、同一の設問と見なせる項目に対して、平成21年度と平成22年度のアンケート結果を比較した結果を図3.1.1に示す)。

理工学研究科の授業評価アンケートの設問は、大きく(A)授業態度、(B)授業内容、(C)授業法方に分類されるが、(A)に分類されるアンケート項目は、その他の項目と違い、定量的な数値を示して回答させるものになっている。アンケート項目「②予習と復習」において、特に低い評価が得られるということは、目標とすべき数値が、学生に十分理解されていない可能性がある。評価を向上させるためには、学生の努力が不足している実態を学生自身に理解させて、学習時間を確保するように指導していくことが必要であると考えられる。

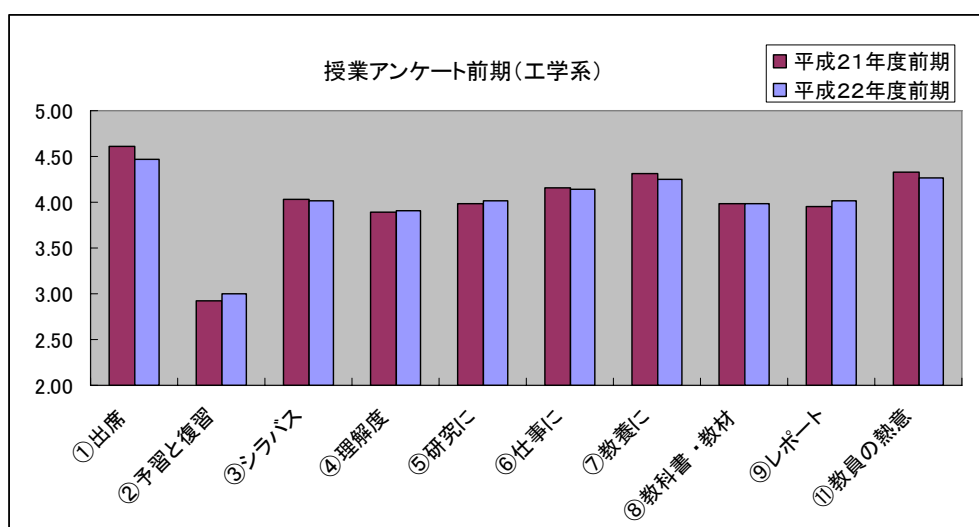


図3.1.1(1) アンケート結果の昨年度との比較(工学系)

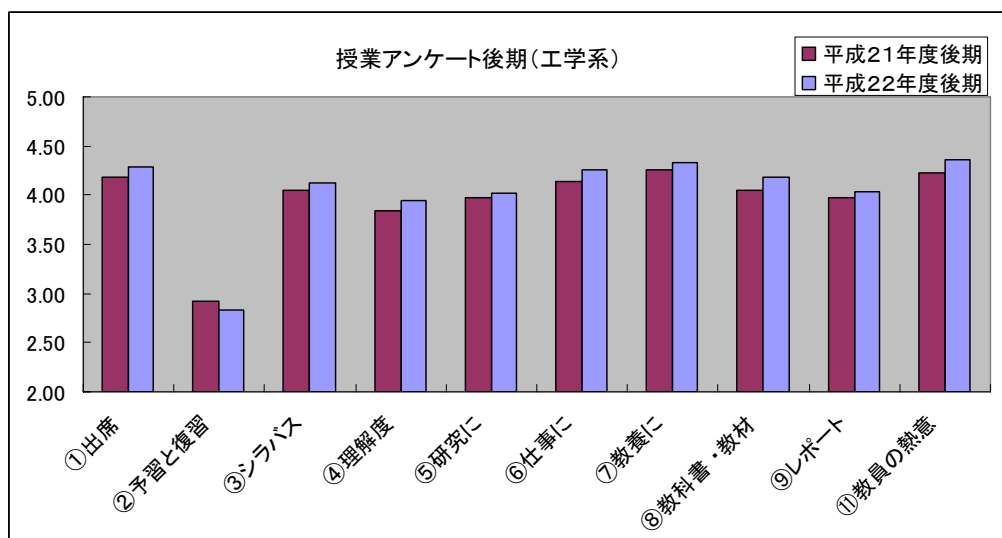


図 3.1.1(2) アンケート結果の昨年度との比較 (工学系)

3.1.2 理学系専攻の授業評価アンケートの結果報告

図 3.1.2 の理工学研究科授業アンケートの結果をみると、理学系の場合も工学系とほぼ同様の傾向が見られているようである。しかしながら、理学系の場合、「予習と復習は毎週どれくらいしましたか。(レポート作成時間も含まます)」の評価が他の項目と比べて非常に低く、また年度ごとの違いも顕著である。具体的には、平成 21 年度前期の「予習・復習」の評価は改善傾向にあったものが平成 22 年度前期では減少している。

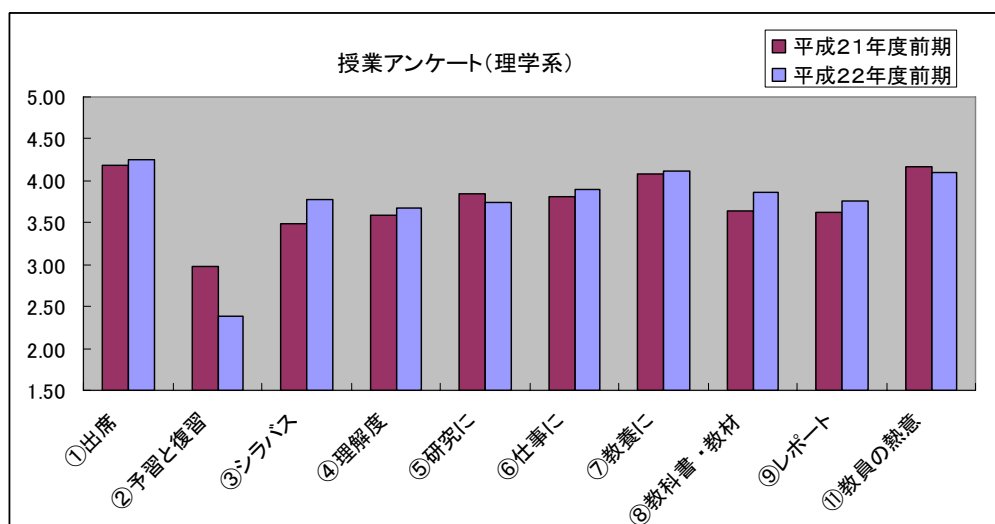


図 3.1.2(1) アンケート結果の昨年度との比較 (理学系)

また、後期についての結果を平成 21 年度と平成 22 年度で比較すると、平成 22 年度はかなりの改善がなされているといえる。学生自身の努力がなぜ、年度ごとにこのようなばらつきを示すのかは現在調査中であるが、今回の結果は次年度に向けた新たな取り組みが必要であることを示唆している。

しかしながら、博士前期課程の場合、受講している学生数が講義に依存して格段に受講生数の多い講義、格段に少ない講義と多種多様であり一概に比較することはできないという側面もあり、アンケートの継続実施を行い、データ母集団を充実することが必要であろうと考えられる。

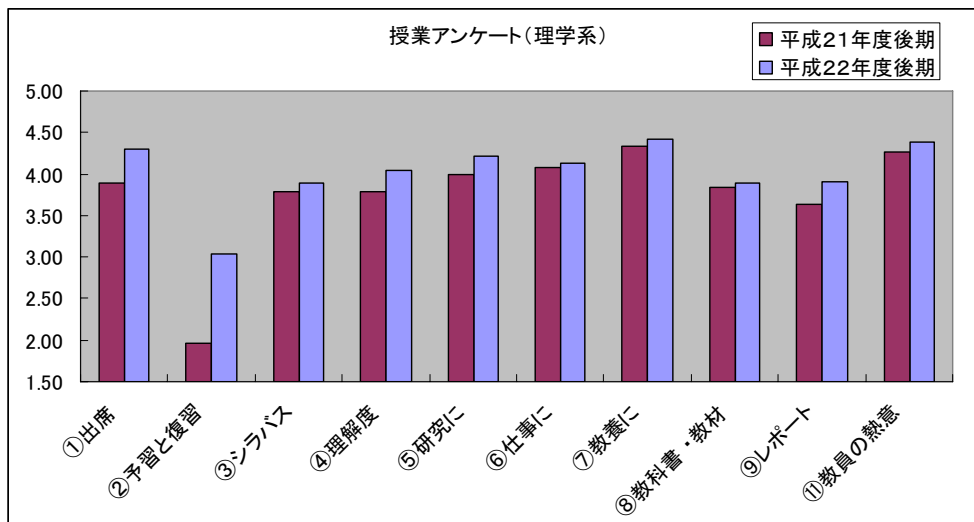


図 3.1.2(2) アンケート結果の昨年度との比較 (理学系)

表 3.1.1 理工学研究科授業評価アンケートの結果 (平成 22 年度)

学生による授業評価アンケート(講義・演習)集計結果

平成22年度前期

項目	①出席	②予習と復習	③シラバス	④理解度	⑤研究に	⑥仕事に	⑦教養に	⑧教科書・教材	⑨レポート	⑩板書等の明瞭さ	⑪教員の熱意
機械工学専攻	4.67	3.56	4.12	4.01	4.08	4.23	4.29	4.18	4.05	4.07	4.34
電気電子工学専攻	4.45	2.82	3.93	3.77	3.90	3.96	4.12	3.88	3.94	3.91	4.09
建築学専攻	4.40	3.49	4.02	3.97	3.99	4.35	4.38	3.92	4.07	3.95	4.33
化学生命化学工学専攻	4.42	2.84	4.08	4.08	4.20	4.10	4.19	3.91	4.04	4.07	4.24
海洋土木工学専攻	4.51	2.86	4.05	3.97	4.11	4.29	4.38	4.10	4.03	4.20	4.43
情報生体システム工学専攻	4.38	2.47	3.91	3.61	3.77	3.91	4.10	3.91	3.94	3.97	4.17
数理情報科学専攻	4.00	2.20	3.53	3.58	3.51	3.89	3.87	3.69	3.78	4.07	4.07
物理・宇宙専攻	4.48	2.22	3.71	3.53	3.72	3.78	3.86	3.81	3.55	3.59	3.91
生命化学専攻	4.43	2.47	3.97	3.78	3.74	3.97	4.25	3.93	3.76	3.84	4.37
地球環境科学専攻	4.08	2.67	3.90	3.82	4.00	3.95	4.46	4.03	3.97	3.82	4.08
理工学研究科(工学系)平均値	4.47	3.01	4.02	3.90	4.01	4.14	4.24	3.98	4.01	4.03	4.27
理工学研究科(理学系)平均値	4.25	2.39	3.78	3.68	3.74	3.90	4.11	3.87	3.77	3.83	4.11
理工学研究科平均値	4.38	2.76	3.92	3.81	3.90	4.04	4.19	3.94	3.91	3.95	4.20

平成22年度後期

項目	①出席	②予習と復習	③シラバス	④理解度	⑤研究に	⑥仕事に	⑦教養に	⑧教科書・教材	⑨レポート	⑩板書等の明瞭さ	⑪教員の熱意
機械工学専攻	4.59	3.62	4.23	4.15	4.24	4.38	4.42	4.14	4.11	4.23	4.45
電気電子工学専攻	4.17	2.64	4.06	3.95	4.05	4.20	4.30	4.26	3.94	4.16	4.40
建築学専攻	4.33	3.21	4.10	3.85	4.01	4.28	4.35	3.95	3.82	3.76	4.21
化学生命化学工学専攻	4.21	3.06	4.32	4.14	4.31	4.42	4.52	4.45	4.37	4.33	4.54
海洋土木工学専攻	4.35	2.69	4.08	3.94	4.01	4.24	4.25	4.31	4.20	4.18	4.39
情報生体システム工学専攻	4.09	1.79	3.92	3.62	3.54	4.00	4.17	3.95	3.74	3.99	4.14
数理情報科学専攻	4.18	3.04	4.06	4.04	4.32	4.02	4.30	4.04	3.78	4.08	4.34
物理・宇宙専攻	4.27	2.77	3.90	3.93	4.33	4.20	4.43	3.70	3.90	4.10	4.40
生命化学専攻	4.60	3.00	4.00	4.27	4.00	4.13	4.47	3.67	4.07	4.60	4.33
地球環境科学専攻	4.14	3.36	3.59	3.91	4.18	4.14	4.45	4.14	3.91	4.05	4.45
理工学研究科(工学系)平均値	4.29	2.84	4.12	3.94	4.03	4.25	4.34	4.18	4.03	4.11	4.36
理工学研究科(理学系)平均値	4.30	3.04	3.89	4.04	4.21	4.12	4.41	3.89	3.92	4.21	4.38
理工学研究科平均値	4.29	2.92	4.03	3.98	4.10	4.20	4.37	4.06	3.98	4.15	4.37

3. 2 博士前期課程の各専攻における授業評価アンケート分析結果

3. 2. 1 機械工学専攻

機械工学専攻の講義科目に対して実施された授業評価アンケートの結果を図 3. 2. 1 に示す。この結果は、主なアンケート項目の評価点について1年間に開講された科目で平均した点の過去7年間における推移を示している。

平成19年度後期から理工学研究科FD委員会として新規にアンケートの実施を始めたことによるアンケート項目の変更があった。また、平成21年度にはアンケート項目の簡素化と精査が行われた。よって、過去のアンケート項目のうち変更のあった項目については、内容が同じと見なせる最新の項目に対応させて図に載せている。平成21年度から平成22年度にかけては、アンケート項目の変更は無かった。授業改善への取り組みの効果を過去の評点の推移から検討するためにはアンケート項目は変更されていないことが望ましい。以下では、アンケート項目の変更による影響はないものとして考察する。

図より、全体的に評点は右方上がりの傾向にある。教員による継続的な授業改善の効果が表れているようである。また、学部で行っている授業評価アンケートの評点と比べて全体的に高得点である。これは、学部で開講されている授業と比べて、専攻で開講されている授業は専門性が高く、学生が興味をもって授業を受けていることが影響しているものと考えられる。

項目「②予習と復習」について見ると、年々増加していることが分かる。教員がレポートを積極的に課すことで、学生に授業に関する勉強時間を確保するようになった結果であろう。しかし、授業のレポートに多くの時間がとられて研究に割く時間が削られないように配慮する必要がある。今後は、研究に関する時間との関係について検討していきたい。

項目「③シラバス」について見ると、他の項目とは異なって増加していない。過去3年間はやや下降していたが、本年度になって回復している。ただし、評価点が4.0以上であり、別のアンケート項目にある「受講申請に役立ちましたか」に対する回答が、4.0＝「そう思う」であるので妥当な評価であると考えられる。今後とも評点が下がらないようにシラバスの周知を徹底する必要がある。

項目「④理解度」について、平成19年度～平成20年度でやや下降しているが、平成21年度と平成22年度では順調に上昇している。授業評価アンケートの結果がフィードバックされて、教員による授業改善が行われた結果であると考えられる。年々、学生の学力が下がってきていることから今後は頭打ちの傾向が見られると予想されるので、継続的な授業評価アンケートの実施と分析が必要である。

項目「⑤研究に（役立つ）」については、平成19年度～平成20年度でやや下降しているが、平成21年度と平成22年度で回復している。専攻の授業は専門性が高い分だけ少しでも分野が異なれば個々の学生の研究とは直接結びつかないことがあるが、全体的に高い評価が維持されている。

項目「⑥仕事に（役立つ）」と項目「⑦教養に（役立つ）」については、役立つと考えている学生が多く、今後ともこの傾向を維持していきたい。項目「⑩教員の熱意」についても高い点を維持していることが分かる。今後とも、教員だけでなく学生自身も熱意をもって授業を受けるこ

とができるように授業評価アンケートを役立てていくことが重要である。

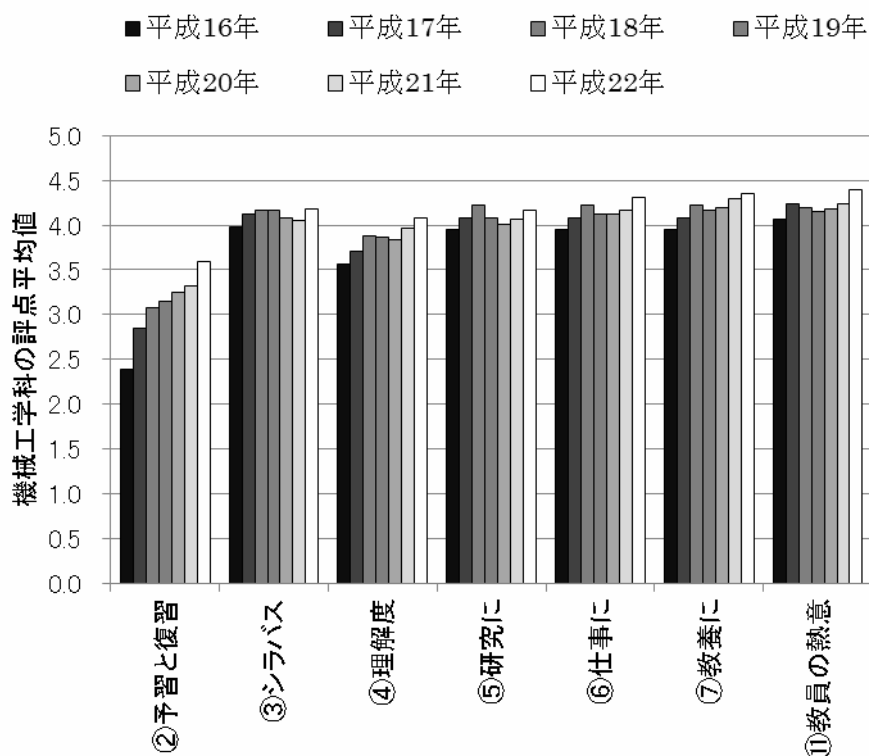


図 3.2.1 機械工学専攻の授業評価アンケート結果の推移

3.2.2 電気電子工学専攻

図 3.2.2 および図 3.2.3 に、電気電子工学専攻の過去 5 年分（平成 18 年度から 22 年度）の授業評価アンケート結果の推移を示す。ほぼ同じ講義科目で比較できるように、項目毎専攻平均点の推移を前期については図 3.2.2 に、後期については図 3.2.3 に示している。なお、両図において、平成 19 年度前期以前の旧授業評価アンケートについては、現行の授業評価アンケート項目に該当するもののみ記載している。まず、前期では昨年度まで上昇し続けてきた「設問 4：理解度」、
「設問 11：教員の熱意」の評点がさらに上昇していることがわかる。後期においても、これらの項目は上昇傾向を維持している。これらの結果は、前後期ともに担当教員の演習問題やレポート、発表方法等の改善に向けた継続的な熱意と努力によると考えられる。また、「設問 5：研究に役立つ」、「設問 6：仕事に役立つ」、「設問 7：教養に役立つ」といった設問に対する評点も、概ね上昇傾向を示しており、本年度のこれらの結果は歓迎すべきものであろう。

以上のように、本年度の授業評価アンケート結果を総体的に見る限り、授業改善は順調に進んでいると考えられるが、さらに講義形式の工夫、演習課題・レポートの質と量の改善などを継続していく必要がある。

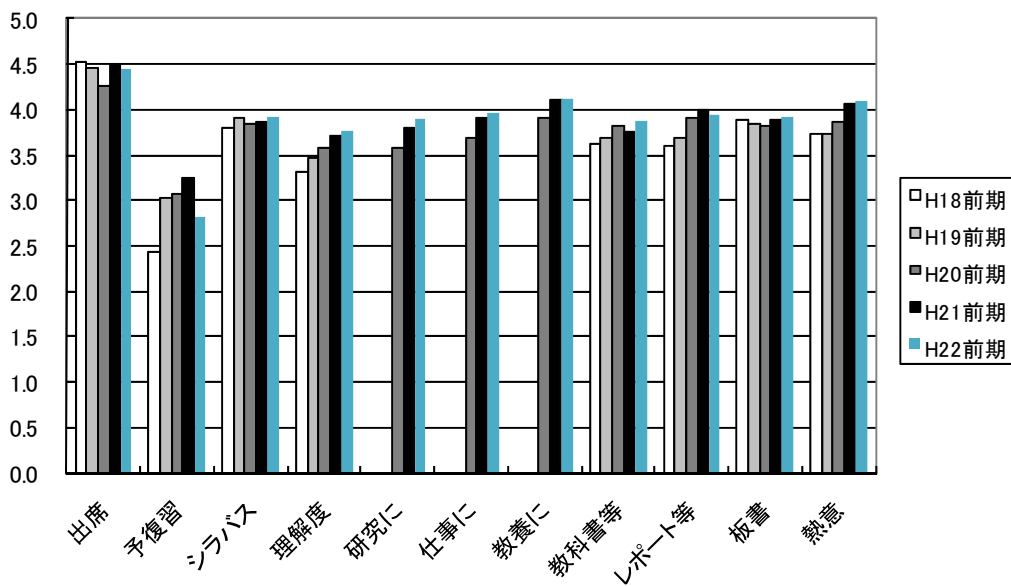


図 3.2.2 電気電子工学専攻の授業評価アンケート結果の推移
(平成18年度～21年度(前期))

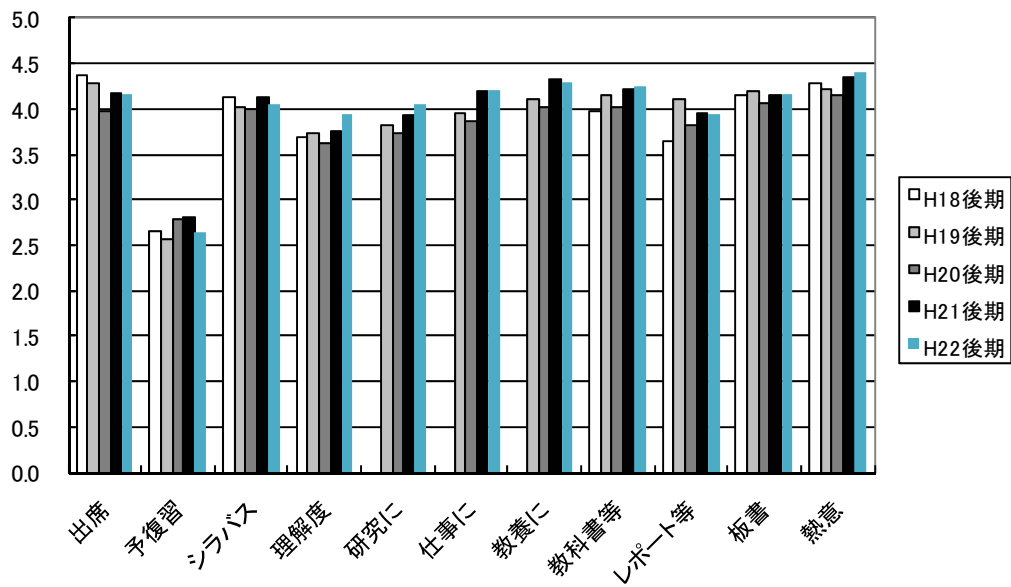


図 3.2.3 電気電子工学専攻の授業評価アンケート結果の推移
(平成18年度～21年度(後期))

3.2.3 建築学専攻

建築学専攻の平成22年度の授業アンケートについて、設問項目の平均を図3.2.4に示す。前年度より授業アンケート項目に変更が加えられたため、比較は2カ年で行う。特に評点が高いのは、項目6の「仕事に」と項目7の「教養に」である。これは、コースワーク制度の充実による効果と考えられる。これらに比べると項目5の「研究に」は低くなっているが、大学院では授業内容も学生の研究テーマも細分化されているのが普通であり、授業内容が研究と直接結びつかないケースが増えるのも当然である。したがってこの項目は、授業の評価というよりむしろ受講者の属性を示すものである。奇しくも項目4「理解度」が項目5と同程度であることが、その傍証である。

項目1の「出席」は、前年に比べて改善されている。特に後期の出席においてはインフルエンザや就職活動の影響が生じているが、その中での改善は評価されよう。ただし、予習復習時間が低下しているため、その改善が課題である。

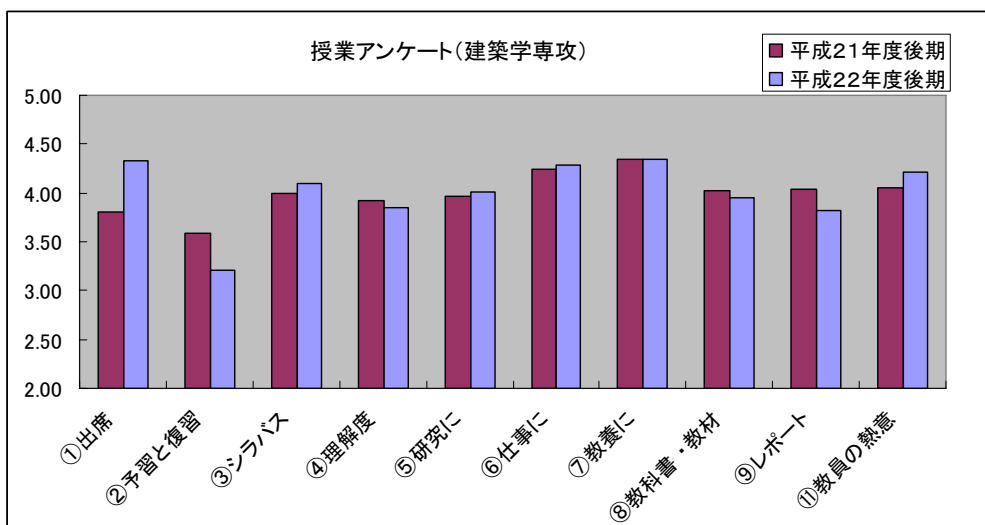
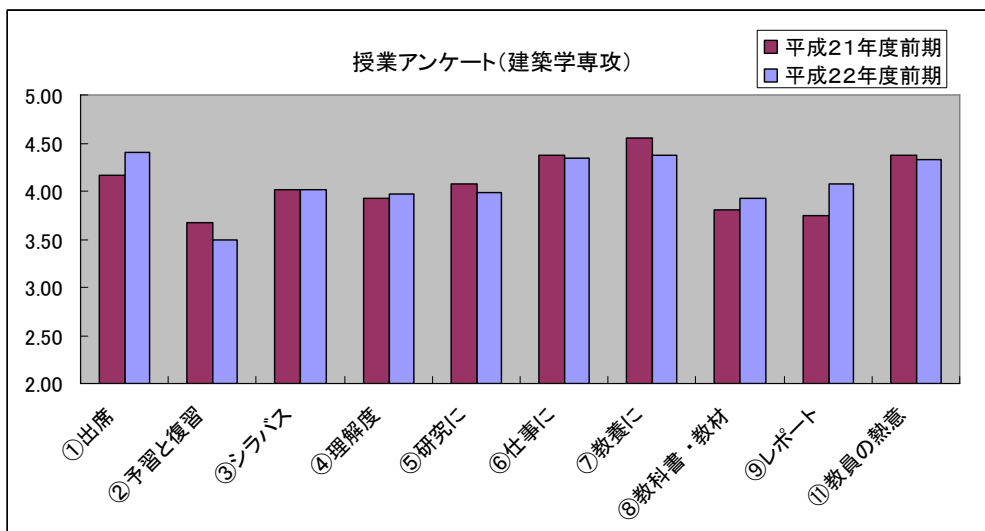


図 3.2.4 建築学専攻の21年度の講義科目の授業アンケートの結果

3.2.4 化学生命・化学工学専攻

化学生命・化学工学専攻は、平成21年度に改組により旧応用化学工学専攻、旧生体工学専攻の一部、旧ナノ構造先端材料工学専攻の一部を母体として誕生してから2年経過した。図3.2.5に平成21、22年度の集計結果を20年度の旧応化工学専攻、旧生体工学専攻、旧ナノ構造先端材料工学専攻の結果とともに3年間の推移として示す。いずれの項目も、改組前に比べ評価が向上している。とくに、項目④「理解度（授業はほぼ理解でき、学習目標は達成）」や、項目⑤「研究に（授業の内容は自身の研究を進める上で役立つ）」、項目⑥「仕事に（授業の内容は目指す（職業上の）高度専門知識として役立つ）」、⑦「教養に（授業の内容は自身の教養や学力を高める上で役立つ）」などの評価が上昇した。このことは、項目⑪「熱意（教員の熱意が感じられた）」、項目⑨「レポート（レポートなどは授業の理解に役立った）」、項目⑩「板書（板書などは明瞭だった）」などの評価が向上していることからわかるように、講義に対する教員の努力によるものと考えられる。項目②「予復習」については平成20年度には旧3専攻間でばらつきがあったが、21、22年度と予習・復習にかける時間が増加傾向にある。

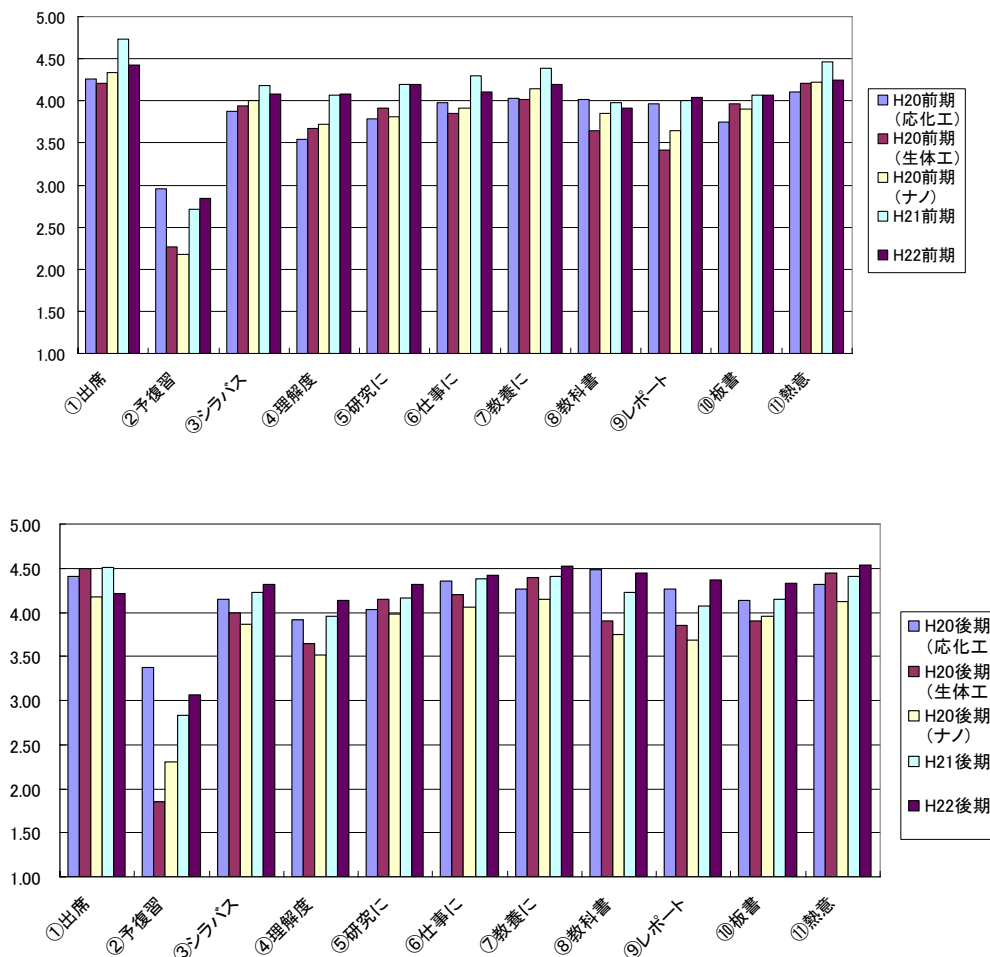


図 3.2.5 化学生命・化学工学専攻，旧応化工学専攻，生体工学専攻，ナノ専攻の授業評価アンケート結果の推移（平成20～22年度）

次に、化学生命・化学工学専攻の研究科内での位置付けを分析するため、平成 22 年度の化生・化工専攻、理工学研究科工学系、および理工学研究科全体の集計結果を分析した。図 3.2.6 にその結果を示す。化生・化工専攻は①「出席」回数を除く全ての項目で理工学研究科工学系および全体を上回っており、ほとんどの項目の評価も 4 以上と高い値であった。一方、②「予復習」にかかる時間はまだ十分とはいえない。動機付けなど、講義での工夫が更に必要と考えられる。

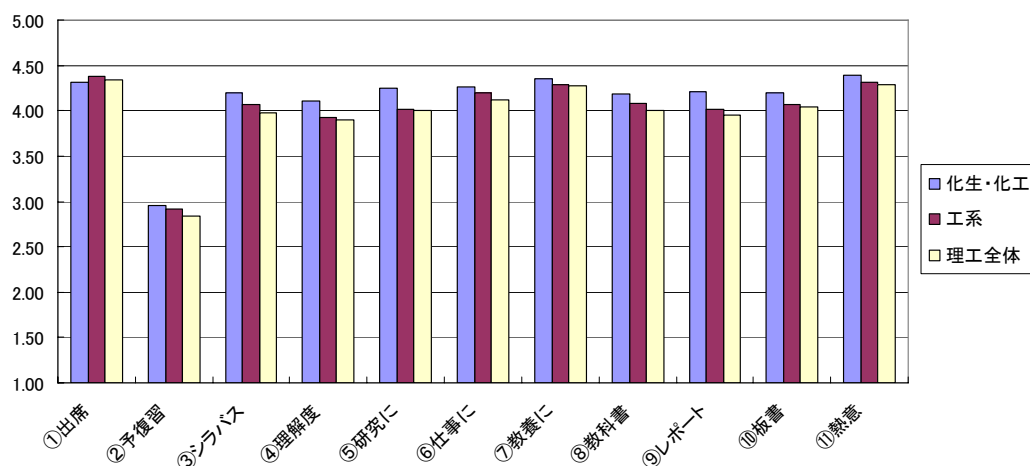


図 3.2.6 化学生命・化学工学専攻，理工学研究科工学系，理工学研究科全体の集計結果（平成 22 年度）

3.2.5 海洋土木工学専攻

海洋土木工学専攻の授業アンケートの結果を表 3.2.1 に示す。この結果を見ると、ほぼ全ての項目において、4 程度ないしはそれ以上の評価が得られており、大学院の講義に対して学生は所定の満足を得ているものと判断される。ただし、理工学研究科の全体の結果と同様に、設問 2「予習と復習は毎週どれくらいしましたか。（レポート作成時間も含まれます）」の評価のみが 3.00 となっており、他の設問の評価に比べて低い評価点となっており、全体的な傾向は昨年度と同様の結果が得られている。

また、理工学研究科全体と海洋土木工学専攻の評価結果を比べると、いずれの設問においても、海洋土木工学専攻の結果は、理工学研究科全体よりも高い評価となっている。

表 3.2.1 海洋土木工学専攻のアンケート結果

①出席	②予習と復習	③シラバス	④理解度	⑤研究に	⑥仕事に
4.37	3	3.985	3.84	4.075	4.25
⑦教養に	⑧教科書・教材	⑨レポート	⑩板書等の明瞭さ	⑪教員の熱意	
4.295	4.095	4.09	4.1	4.42	

3.2.6 情報生体システム工学専攻

平成 21 年度から改組により情報工学専攻と生体工学専攻の一部が合流して情報生体システム工学専攻が立ち上がった。そのため、情報生体システム工学専攻の FD 授業評価アンケートは平成

21年度および22年度分のみが取られたことになる。経年変化を見ることができないわけであるが、ここでは平成20年度の評価を情報工学専攻と生体工学専攻の平均値を採用することで、今年度との比較評価を行いたい。

平成21年度から質問内容に若干の修正が施されているため、比較対象となった項目は、①出席、②予習と復習、③シラバス、④理解度、⑤研究に役に立つか、⑥仕事に役に立つか、⑦教養になるか、⑧教科書・教材は適切か、⑨レポート、⑩板書等の明瞭さ、⑪教員の熱意、の11項目となる。集計結果を前期および後期に分け、図3.2.7および図3.2.8に示す。

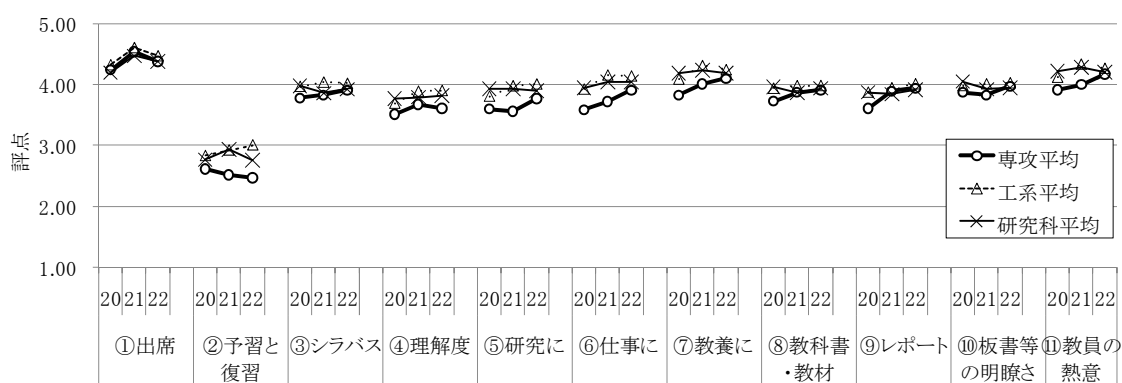


図 3.2.7 情報生体システム工学専攻の授業評価アンケート結果の推移
(平成20~22年 前期)

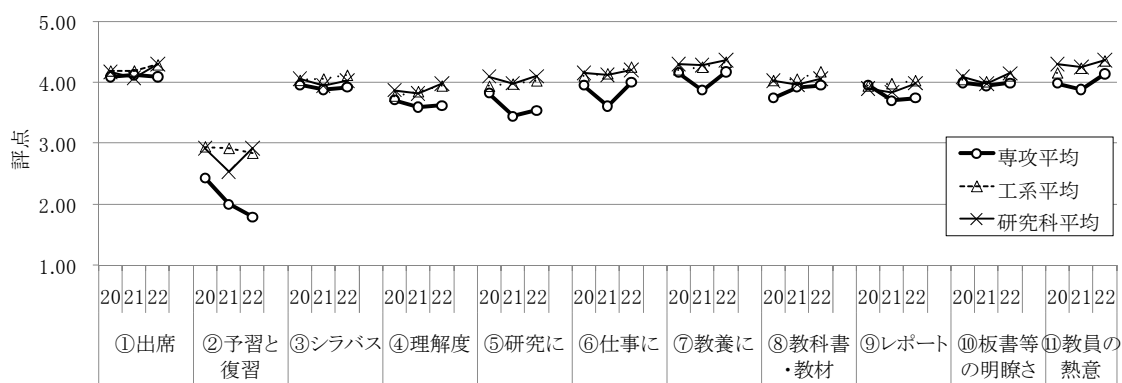


図 3.2.8 情報生体システム工学専攻の授業評価アンケート結果の推移
(平成20~22年 後期)

図3.2.7および図3.2.8においてまず念頭に入れておくべきは、各年度で行われている授業がすべて異なる点である。平成20年度は1年次および2年次とも情報工学専攻、生体工学専攻の授業が開講されている。平成21年度は1年次を対象とした授業のみが情報生体システム工学専攻の授業に変更となり、平成22年度は、1年次、2年次とも情報生体システム工学専攻の授業へと変更された。また、集計結果は平均のみが示されており、専攻平均と研究科平均の間の有意な差の有無は不明である。以上の理由により、本集計結果をもとに、時系列的な分析や研究科平均との

比較などの分析を行うことは適切とはいえない。現時点では、統計的なデータを蓄積すること、および、各授業科目における個別の改善に注力することが重要であると考える。

以上を踏まえた上で本稿では、直観的な分析ではあるが、図 3.2.7 および図 3.2.8 において、「②予習・復習」の項目に着目する。「②予習・復習」の専攻平均は、研究科平均よりも低い評点にみえる。特に平成 22 年度後期は、専攻平均が研究科平均よりも評定平均が 1 点ほど低い。改組の影響に加え、学生が研究活動に注力している結果、授業の予習および復習の時間が限られた可能性がある。事実、平成 22 年度の大学院生の研究成果の発表数は、口頭発表の件数が平成 21 年度以前と比較して 1.5 倍程度に増加している。次年度以降も「②予習・復習」の評点の変化に留意が必要である。

3.2.7 数理情報科学専攻

数理情報科学専攻では、受講者がきわめて少数の講義を除き、授業評価アンケートを実施した。専攻の授業評価アンケートの結果については各項目の平均値を表 3.2.2 にまとめた。数理情報科学専攻の平均値は、全ての項目で、研究科及び理系全体の平均値に近いものであった。

表 3.2.2 授業アンケート結果

項目	平成 22 年度前期の平均値			平成 22 年度後期の平均値		
	数理情報	理系全体	研究科全体	数理情報	理系全体	研究科全体
①出席	4.00	4.25	4.38	4.18	4.30	4.29
②予習と復習	2.20	2.39	2.76	3.04	3.04	2.92
③シラバス	3.53	3.78	3.92	4.06	3.89	4.03
④理解度	3.58	3.68	3.81	4.04	4.04	3.98
⑤研究に	3.51	3.74	3.90	4.32	4.21	4.10
⑥仕事に	3.89	3.90	4.04	4.02	4.12	4.20
⑦教養に	3.87	4.11	4.19	4.30	4.41	4.37
⑧教科書・教材	3.69	3.87	3.94	4.04	3.89	4.06
⑨レポート	3.78	3.77	3.91	3.78	3.92	3.98
⑩板書等の明瞭さ	4.07	3.83	3.95	4.08	4.21	4.15
⑪教員の熱意	4.07	4.11	4.20	4.34	4.38	4.37

また、授業の担当者は、各授業の授業評価アンケートに基づいて、授業計画改善書を作成し提出している。授業計画改善書に記載されている今年度の授業の評価（自己分析）と、来年度の授業計画（改善の方策）のコメントを抜粋する：

■受講生のほぼ 7 割が、講義内容の分野と異なる分野の研究をしているため、④理解度や⑤研究に、で評点が低いのはやむを得ない。一方で、⑥仕事に、⑦学力・教養に、で割と良い評価を得ているのは、好ましいことであると思う。

■教科書は特に使用していないが、時に参考資料を配布しているので、それは役立っているようであ

る。

■レポート問題が少し難しかったりしたため、評点が若干低いのであろう。熱意は感じてくれているようである。板書は、いつも指摘されることである。出来るだけ、ゆっくりと綺麗な文字で書くように今後も努力したい。

■昨年度は、限られた時間数に理論の説明と演習の両方を詰め込んだ結果、理解度の項目の評価が低かったことが問題であった。今年度、内容を見直すことにより理解度を上げることが最大の目標であったが、やや改善が見られたといえる。来年度、さらに内容を充実させたい。

■来年度は、講義の区切りやレポート課題の内容などをより工夫したい。

■毎回の授業中に出席を取ったが、すべて出席が5名、1回欠席4名、2回欠席4名、3回欠席1名であり、出席率は良かったと思う。次年度も出席は毎回取る予定である。予習と復習の時間は専攻平均を下回っていたので、復習に時間をかけるような部分を増やしたい。

■教材は独自に作成した資料（50ページ程度）を利用して講義を行ったが、専攻平均を上回った評点であった。

■理解度を高めるためにも、適宜、レポート等の課題を与え復習の機会を与えるようにしたい。

■様々な専門の院生を対象にしているため、講義内容の選択をなるべく共通な領域にしばって計画を立てたい。また、それぞれの専門領域で役に立つような内容にできるように工夫したい。

■教科書は使わず自分の講義ノートで行った。適宜プリント等を準備して院生の学習支援になるようにしたい。

■講義の実践については、講義内容をわかりやすく、できるだけ丁寧な説明を行うよう心がけたい。

■各教員によって、教材などの準備がまちまちだったと思われる。「最低でもXXは配布する」などある程度の方針を決めるべきかもしれない。

■以前から自習用プリントを配布していますが、これはよかったです。また頻繁に文献の紹介をしました。気軽に読める読み物風の本も含めて紹介しました（実際に読んでいた学生は多くはないと思いますが）。

■今年度から、毎回出席を取ることにした。来年度も毎回出席を取ることにしたい。

■レポートを時々課して、復習の機会を増やしたい。

■具体例を増やして、少し易しい内容にしたい。

■式が複雑なところは、プリントを準備したい。

■専門が異なる（予備知識が不足している）学生に考えさせる授業をするのは難しい。出来るだけ丁寧な説明を行いたい。

■レポートを途中でだすことを考える。

■式が難しいところはプリントがよいかもしれない。

■毎回出席をとっているので、出席状況は良い。

■予習と復習の時間が少ない。特にその日の復習をしてもらいたいので、演習問題を与えて復習するような状況を作りたい。

■液晶プロジェクターを利用して、学生がより理解できるように授業を行っているが、さらなる工夫を行いたい。

3.2.8 物理・宇宙専攻

物理・宇宙専攻では、論文講読・特別研究を除く全科目でアンケートを実施し、4科目計30人からのアンケートが得られた。個々の科目毎については少数のアンケートなのでその数値のもつ統計的意味には疑問があるものの、他専攻との比較、前年度からの推移などについて分析を行う。

表 3.2.3 は本専攻における授業アンケート各項目の平均点である。アンケートの設問形式を簡略化した昨年度からの推移を示す。

表 3.2.3 物理科学専攻における授業アンケート各項目
の平均点の推移(平成21年～平成22年)

	22 年後期	21 年後期
1. (出席)	4.27	4.57
2. (予習と復習)	2.77	2.07
3. (シラバス)	3.9	3.71
4. (理解度)	3.93	3.64
5. (研究に)	4.33	3.93
6. (仕事に)	4.2	4
7. (学力に)	4.43	4.36
8. (教科書・教材)	3.7	3.86
9. (レポート等)	3.9	3.86
10. (板書等の明瞭さ)	4.1	3.57
11. (教員の熱意)	4.4	4

まず、全科目に共通した顕著な特徴として、予習と復習にあてる時間の低さ(30分～1時間程度)が上げられる。これは去年のみならず、過去数年間同様の結果を示しており、一定の傾向がある。出席率については若干下がったが、理解度、研究に役立つという点で上昇が見られた。また、板書の明瞭さや教員の熱意に関しても改善傾向にある。残りの項目については、3点台後半～4点と過去数年間と同様な結果であった。本専攻の授業は受講者が数名で、教員と学生のやりとりが密なゼミ形式が主であり、理解度の点数に不満が残る。これは予習・復習にあてる時間の低さと関連があるように思われる。学生に予習・復習する時間を増やし、また授業中に質問や議論を活発するよう喚起すると共に、教員側でも、授業で教える内容を多少取捨選択して学生の理解度の向上を優先するように授業方法を工夫する必要があるであろう。また、予習と復習に充てる時間が自動的に増えるように、例えば宿題や小レポートの回数を増やすなどの方法も考えられる。

3.2.9 生命化学専攻

生命化学専攻では今年度も授業アンケートを前期と後期について実施した。図 3.2.9 は平成 21 年度と平成 22 年度の結果を示している。前期では平成 21 年度と比較して大きな相違はないが、②予習と復習、④理解度が昨年度と比較して減少していることが分かる。

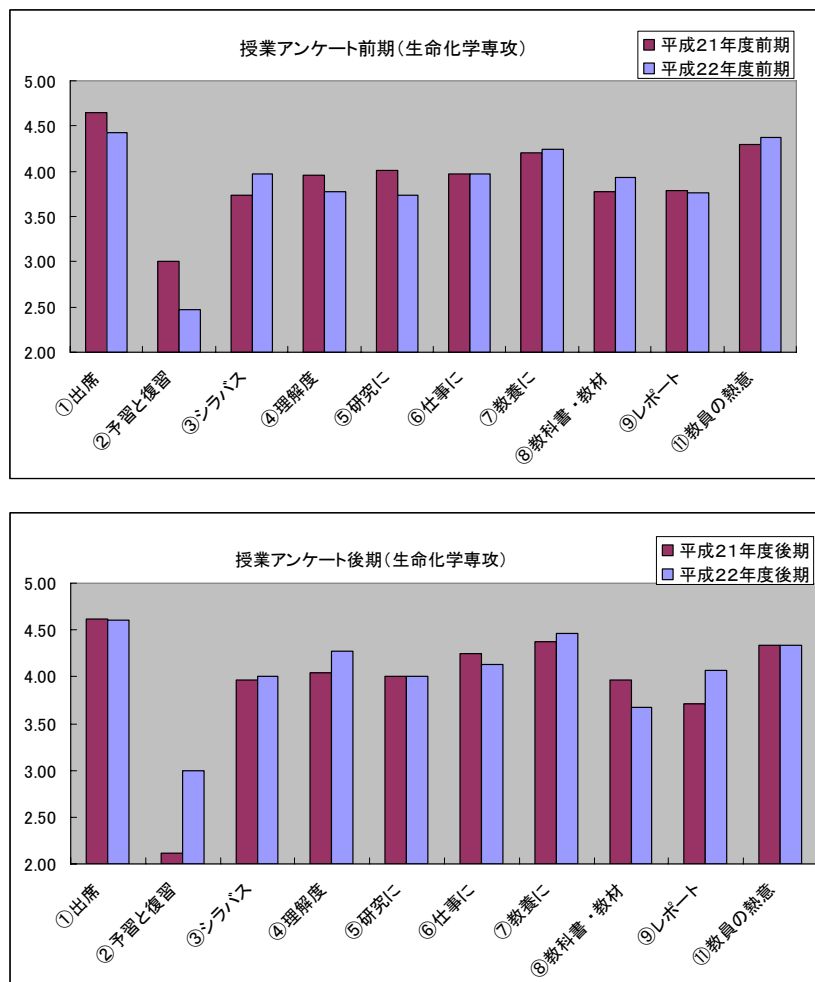


図 3.2.9 生命化学専攻の授業評価アンケート結果の推移

一方、後期では前年度と比較して②予習と復習、④理解度も含めて全体に増加していることが分かる。授業アンケート結果は担当教員に返却し、結果の分析と今後の対応策をとりまとめて、学科および担当教員が提出する方式が定着しており、様々な改善策が示されるようになった。来年度以降も同様の方式で授業アンケートを続けることによって、経年的な変化も追跡できるようになるであろう。今後大学院のFD活動がより高い理解度、満足度が得られるように活用していくべきと考える。

3.2.10 地球環境科学専攻

地球環境科学専攻では、前期、後期について授業評価アンケートを実施した。ただし、論文講読、特別研究、および受講生が極めて少人数の授業科目については、回答者が特定されてしまうなどの不都合が指摘されているため、アンケートの実施については、各担当教員の判断にゆだねた。

表 3.2.4 授業アンケート結果

設問	22年度前期 の平均値			22年度後期 の平均値		
	地球環境	理系全体	研究科全体	地球環境	理系全体	研究科全体
1 出席	4.08	4.25	4.38	4.14	4.30	4.29
2 予習と復習	2.67	2.39	2.76	3.36	3.04	2.92
3 シラバス	3.90	3.78	3.92	3.59	3.89	4.03
4 理解度	3.82	3.68	3.81	3.91	4.04	3.98
5 研究に	4.00	3.74	3.90	4.18	4.21	4.10
6 仕事に	3.95	3.90	4.04	4.14	4.12	4.20
7 教養に	4.46	4.11	4.19	4.45	4.41	4.37
8 教科書・教材	4.03	3.87	3.94	4.14	3.89	4.06
9 レポート	3.97	3.77	3.91	3.91	3.92	3.98
10 板書等	3.82	3.83	3.95	4.05	4.21	4.15
11 教員の熱意	4.08	4.11	4.20	4.45	4.38	4.37

アンケート結果に基づいて、各項目の平均値を表 3.2.4 にまとめた。地球環境科学専攻の平均値はおおむね昨年度より高く、理系全体および研究科全体の平均と大きく異なることもなかった。前期では、「理解度、研究に役立つ、教養に役立つ、教科書・教材、レポート」の5項目において、後期では、「予習と復習、研究に役立つ、教養に役立つ、教科書・教材、教員の熱意」の項目において、地球環境科学専攻の授業は研究科および理系全体の平均を上回る良好な評価が得られた。

一方、前期後期とも「出席」に関する評価が低い。昨今の就職活動の厳しさや長期化に加えて、地球環境科学専攻では、ITP など海外研究機関における滞在型のプログラムへの参加や種々の野外調査活動を奨励していることが理由としてあげられる。突発的な地震や噴火、季節性のある生命現象の解明などの地球環境科学独特の調査研究活動に熱心に取り組む学生ほど、毎週開講される授業への出席との両立に苦勞している可能性がある。また、「仕事に役立つか」という設問についての評価がやや低い。各授業の目的や意義について受講生の理解を促すことによって改善されうると考える。

3. 3 授業計画改善書の活用

第1章でも述べたように理工学研究科の教育活動に係わる項目として「どのような人材を入学させるのか」と「どのような教育プログラム（カリキュラム）を組むのか」がある。入学した学生の質の保証をどの様に実現していくのか，継続して点検することが必要になる。基本的には各教員の責任で点検を行い，その結果を次年度の教育に活かしていくことが実施されていれば，理工学研究科の教育に関しては，教育改善についての基本的な認識が共有されることになる。FD委員会では，授業評価アンケート結果に対する授業計画改善書を作成することで，そのような点検に繋がると考えている。

以下に幾つかの専攻で実施された授業計画改善書の取り扱いについて述べる。

（1）機械工学専攻

学部（学科）と同様に，専攻のFD委員が収集した授業計画改善書は，授業評価アンケートの評価点や科目 GPA とともに専攻教育評価委員会が整理して分析を行っている。専攻教育評価委員会は，整理した内容と分析した結果を「専攻教育評価委員会報告書」としてまとめている。この報告書は冊子とCD-ROMの形で保管され，授業改善を実施する際の資料として利用できるように全教職員に公開されている。

（2）電気電子工学専攻

授業計画改善書は，各科目の授業評価アンケート評点とそのレーダーチャート，および授業評価アンケート回答用紙（実施済みのもの）と共に学科事務室にて保管され，教員はいつでも閲覧できる。主として理工学研究科FD委員が管理し，専攻FD委員会において授業改善に向けた活用方法等を議論している。

（3）海洋土木工学専攻

海洋土木工学専攻は，環境システム工学講座と建設システム工学講座という二つの講座に分けられている。講座毎に専門性や取得すべき必修科目が異なっているため，各講座で科目部会（環境システム科目部会と建設システム科目部会）を開催し，担当科目数のバランスや授業改善等について検討を行っている。また，授業アンケートに対して担当教員は授業計画改善書を作成し，本専攻の教育点検を継続的に改善するために活用している。

（4）情報生体システム工学専攻

情報生体システム工学専攻では平成22年度より，授業計画改善書を学科事務室に保管し，すべての教員が閲覧可能な状態で管理を行うこととなった。各教員による授業改善への取り組みおよび結果を教員全員で共有することで，専攻全体の教育内容の継続的な改善を試みる。

（5）地球環境科学専攻

地球環境科学専攻では、地学系、化学系、生物系の科目が含まれている。授業アンケートを見ると、それぞれの分野の専門性が高まる大学院レベルでは、各学生の研究課題や就職に直結する科目については理解度や有用感が高いが、周辺分野の科目ではやや低くなり、受講生によって評価が割れる傾向がある。担当教員は授業アンケートに対して授業計画改善書を作成し、それらをFD委員がとりまとめて保管している。改善書によると、各教員とも各自の授業を見直し、授業形態や教材などについて受講生の状況に応じた様々な工夫を試みている。改善書作成という作業自体を「活用」して各自の授業を改良していつていることがわかる。

第4章 学生の研究活動と教育成果

大学院生の研究発表の支援はFD活動の目的の一つであることから、その実績を把握するために調査を実施した。

表 4.1. 大学院生の研究成果の発表数

年度	分類		機械工学	電気電子工学	建築学	化学生命・化学工学	海洋土木工学	情報生体システム工学	数理情報科学	物理・宇宙	生命化学	地球環境科学	計
平成20年度	口頭発表（含ポスター発表）	国際会議	7	14	0	37	10	4	3	3	9	1	88
		国際会議以外	40	64	69	126	34	28	5	30	45	16	457
	論文	査読あり	21	28	11	46	18	18	2	16	16	3	179
		査読なし	4	16	64	25	24	17	5	2	1	1	159
平成21年度	口頭発表（含ポスター発表）	国際会議	9	5	1	34	6	1	1	2	16	7	82
		国際会議以外	31	67	46	125	42	32	8	28	35	15	429
	論文	査読あり	29	20	7	54	32	9	4	11	26	3	195
		査読なし	3	16	32	17	21	9	3	8	0	3	112
平成22年度	口頭発表（含ポスター発表）	国際会議	3	7	2	53	4	2	1	6	27	11	116
		国際会議以外	44	65	38	126	29	46	4	9	41	19	421
	論文	査読あり	19	12	3	39	17	19	1	4	29	2	145
		査読なし	7	30	26	20	2	36	0	6	7	2	136

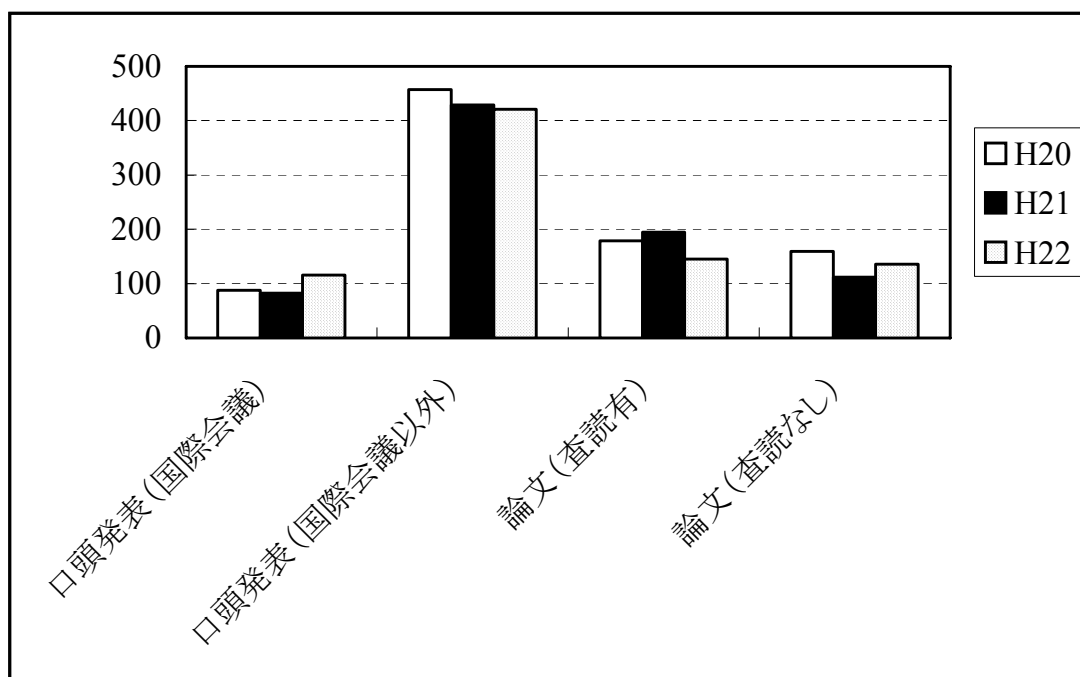


図 4.1. 大学院生の研究成果の発表数 (論文及び口頭発表)

表 4.1 および図 4.1～4.5 に平成 20 年度～22 年度の大学院生の研究発表数をまとめた。教員との共著を含めてカウントし、複数の学生が関わっているものはまとめて一つと数えている。ただし口頭発表と論文がセットになっているものは、重複して口頭発表 1・論文 1 と数えている。また博士後期課程の学生については指導教員の属する専攻に組み入れてカウントしている。

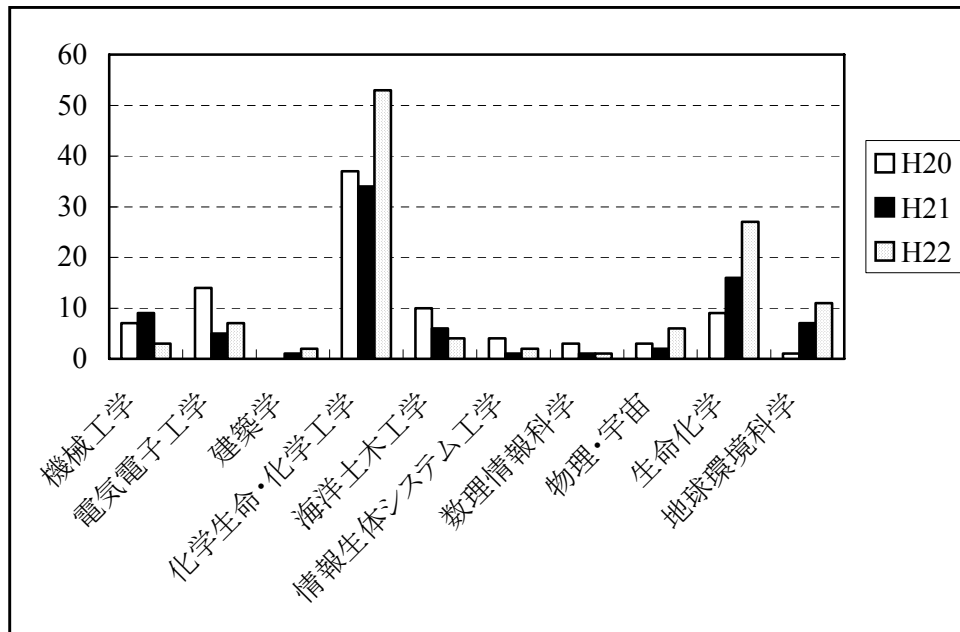


図 4.2. 各専攻の大学院生の論文数 (査読有)

参考のため大学院生の在籍者数についても表 4.2 および図 4.6 にまとめた (博士前期課程のみ)。また論文・学会発表以外の特筆すべき成果についてデータを集めた (表 4.3)。

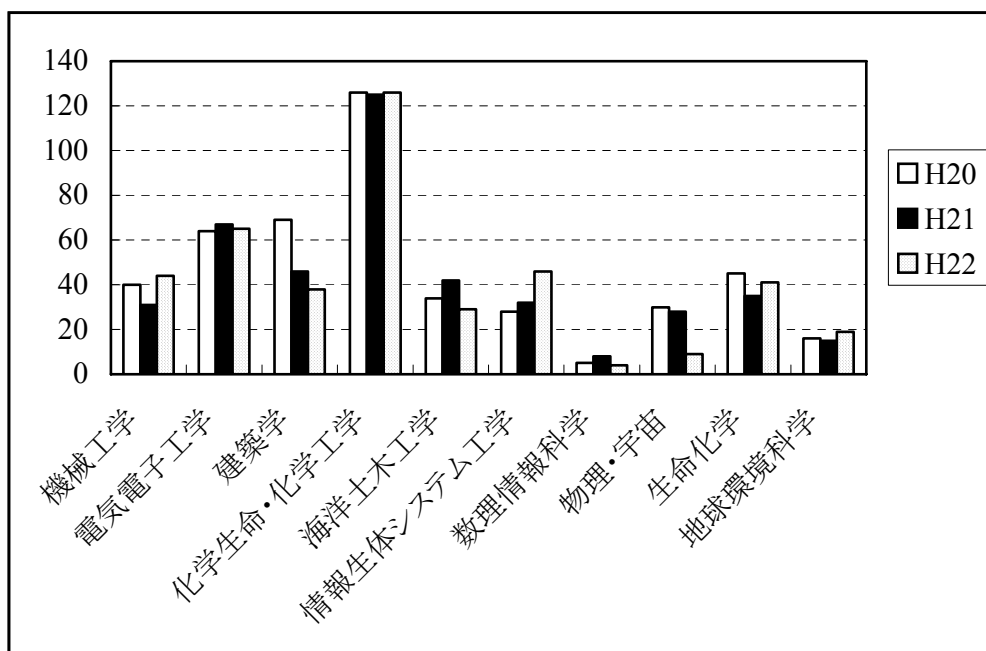


図 4.3. 各専攻の大学院生の論文数 (査読無)

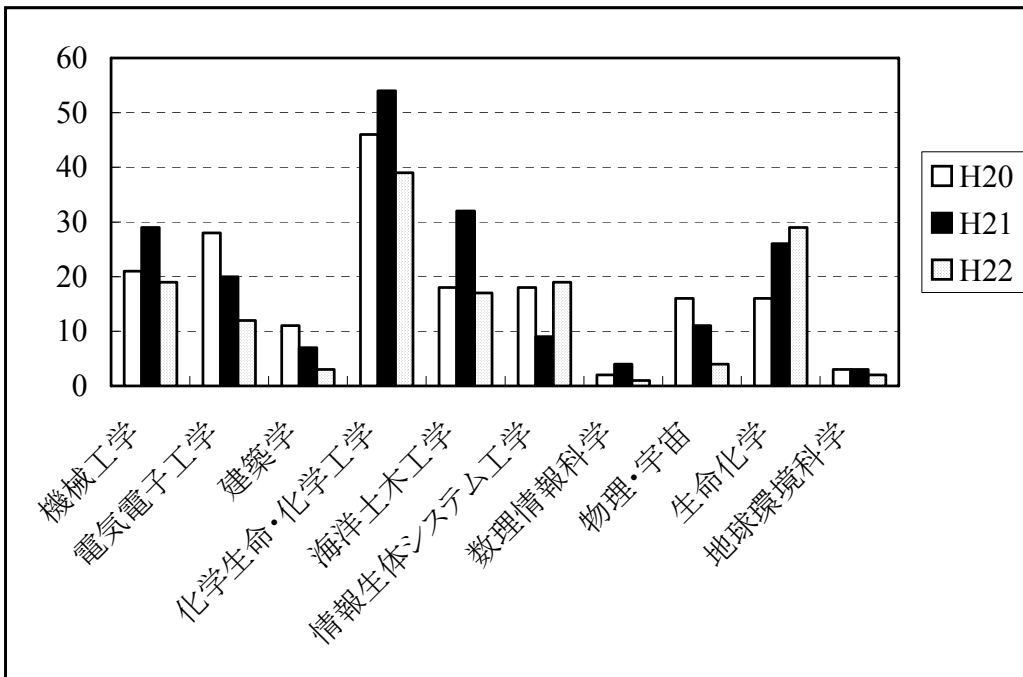


図 4.4. 各専攻の大学院生の口頭発表数 (含ポスター発表) (国際会議)

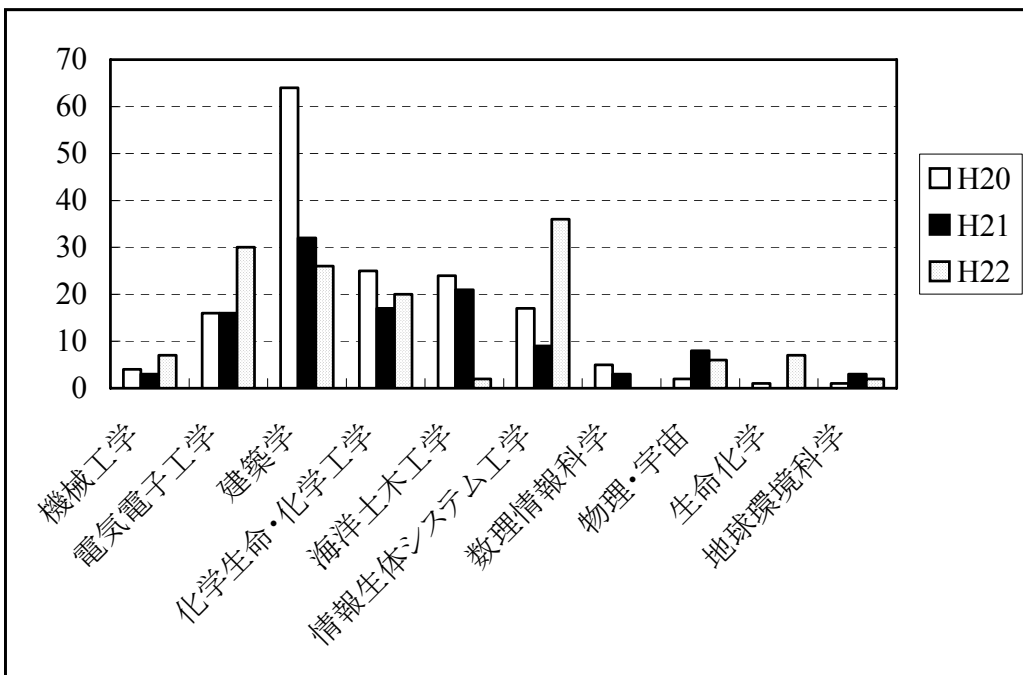


図 4.5. 各専攻の大学院生の頭発表数 (含ポスター発表) (国際会議以外)

専攻名	H20年度	H21年度	H22年度
機械工学	111	115	109
電気電子工学	97	98	106
建築学	42	46	46
化学生命・化学工学	97	116	132
海洋土木工学	35	36	39
情報生体システム工学	78	80	85
数理情報科学	24	23	25
物理・宇宙	38	32	30
生命化学	32	37	36
地球環境科学	42	38	36
計	596	621	644

表 4.2. 大学院生の在籍者数

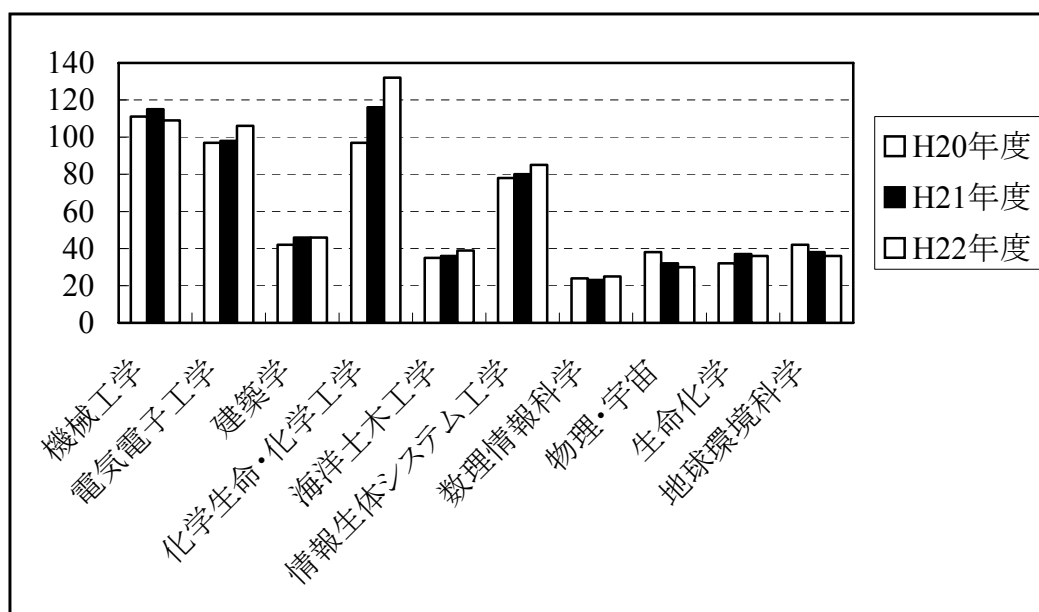


図 4.6. 各専攻の大学院生数(博士前期課程)

表 4.3. 受賞など

専攻名	受賞等
電気電子	藺田 聖貴 (M1) 電気学会優秀論文発表賞
	羽生 大仁 (M2) 低温工学・超伝導学会 優良発表賞
	谷口隆哉 (M2) 電子情報通信学会デザインガイア ポスター賞
	谷口隆哉 (M2) 電子情報通信学会 学術奨励賞
	立石直宏 (M1) 電子情報通信学会九州支部学生会講演奨励賞
建築	建設コンサルタンツ協会九州支部 第八回まちづくりに関する提案 優秀賞 M2 味園将矢
	2010年度日本建築学会支部共通事業設計競技「大きな自然に呼応する建築」九州支部入選 M2 野見山周作・野崎尊・和田大典・花原裕美子
	日本建築学会 コロキウム構造形態の解析と創生2010 形態創生コンテスト 入選 M2 和田大典
	日本建築学会 コロキウム構造形態の解析と創生2010 一般講演優秀講演賞 M2 和田大典
	日本コンクリート工学協会 第32回コンクリート工学講演会「年次論文奨励賞」 M2 山田 直樹
化学生命・化学工学	梅尾清志郎：第23回化学工学に関する国際シンポジウム学生賞 (Gold Award) (2010.12.4)
	岸田美紗子：博士研究奨励賞(2010.09.08, 日本水環境学会)
	小藤菜緒：第21回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会ポスター賞 (2010.07.18化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会)
	久留須太郎：第21回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会ポスター賞 (2010.07.18化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会)
	田邊健太：第21回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会ポスター賞 (2010.07.18化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会)
海洋土木	高橋良尚：第21回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会ポスター賞 (2010.07.18化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会)
	日本コンクリート工学協会九州支部長賞 福留祐一 土木学会西部支部優秀講演者賞 山下啓
情報生体	中川原 豪：第2回CiNiiウェブAPIコンテスト 優秀賞 「cinii coco」
	松下 翔太：平成22年度電子情報通信学会インターネットと運用技術研究会学生奨励賞「twitter 投稿文脈による個人情報推定と個人情報漏えいの防止方法の提案と試作」
	杉田 裕次郎：平成22年度電子情報通信学会インターネットと運用技術研究会学生奨励賞「P2Pを利用した画面配信システムの性能改善」
	東 剛秀：平成22年度電子情報通信学会インターネットと運用技術研究会学生奨励賞「携帯端末を用いた全方位パノラマ画像作成システムの試作」
	梅谷綾：平成21年度(第62回)電気関係学会九州支部連合大会 情報処理学会九州支部奨励賞 「親和的情報空間における自律移動ロボット制御に関する研究」
数理情報科学	科研費 特別研究員奨励費 (22-7560) 金額は22年度 70万円
生命化学	2010PACIFICHEM優秀ポスター賞受賞・鹿児島大学学長表彰 (環太平洋国際化学会議) H22.12.15-19・H23・2月
地球環境	研究費獲得1件・・・前田芳之 (博士後期課程1年) および亀之園春菜 (博士前期課程2年)、平成21? 22年度、Pro Natura Fund研究助成「奄美群島における絶滅危惧植物の生育地調査と保全遺伝学的研究」 (代表：宮本句子) 100万

第5章 今後の理工学研究科 FD 活動への期待

理工学研究科は平成 21 年度からの部局化により新しい組織としてスタートした。大学院教育における FD 活動は、「教員が授業及び研究指導等の内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みの総称」とされている。大学院教育の共通の認識として、「はじめに」で述べたように、

- (1) どのような学位を出すのか
- (2) どのような教育プログラム（カリキュラム）を組むのか
- (3) どのような人材を入学させるのか

を明確にすると共に点検を継続して実施することが重要になる。

一方、中央教育審議会（平成 23 年 1 月 31 日）の答申「グローバル化社会の大学院教育～世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために～」では、大学院教育の改善の方向性が示されている。この中では、明確な学位プログラムとしての大学院教育を確立し、学生の質を保証する体系の整備が重要なものとして指摘されている。学生の質を保証する組織的な教育・研究指導體制の確立に関して、FD 活動に関連する項目としては次の項目がある。

- (1) FD の充実、ピアレビューの実施による教員の教育・研究指導能力の向上
- (2) 教員の教育業績や能力の評価の充実、人事や処遇への反映などの推進、教員の教育研究活動の評価に関する指標の開発推進

また、「教員の教育研究活動の適切な評価」に関しては、「教員の教育・研究指導能力を向上させるためには、組織的な研修体制の充実、学生に対する厳格な成績評価とともに、教員の教育研究活動を適切に評価する仕組みが一体となって機能することが必要である。その際、教員の教育研究活動評価においては、論文数のみではなく研究業績を適切に評価するとともに、授業の研究指導の実施状況、修了者の活躍状況など教育面の取り組みを可能な限り客観的に把握、可視化し、教育業績や能力の多面的な評価を充実させ、人事や処遇への反映せる工夫が必要である。」としている。

このように大学院のおかれた環境は、益々厳しい状況になっている。理工学研究科の教育プログラムでは、コースワークあるいはコア科目によるカリキュラム編成によって「大学院と学生の量的増大」の中で「学位プログラム等を通した大学院教育の実質化」が図られている。すなわち、理工学研究科においても、各専攻の独自の教育・研究指導の実績に加えて、コースワーク科目により広範囲の学習を可能にした教育プログラムが実施されている。大学院の学生数が増大しことにより多様な能力を有する学生の教育・研究指導に対応したような大学院教育の展開も必要になってきている。これまでは各教員の能力に大きく依存してきた大学院の教育・研究を研究科として点検して改善していくことが必要になる。FD 活動に関しても、大学院教育の共通認識として前述した 3 項目の再確認を行ない教育・研究指導の点検と行うことで、理工学研究科の目標の実現を図ることができる。と考える。

このような観点から FD 活動の一つとして、学生による授業評価アンケートの実施がある。学生の意見、考えの一端を汲み取ることで、高度の学習・研究能力の育成といった学習目標の到達度に対する評価を行うことができると考えられる。また、今年度も昨年度に引き続き、学生の質の保証の一つとして研究発表の状況の調査を試みた。「どのような学位を出すのか」と言った要望

に対して、本研究科の修了生の有する能力の評価の一つの指標なると思われる。単なる研究発表数だけでは、その質の評価になるのかと言った見方もあると思われるが、学外での評価を受けた指標の一つである研究発表数は、専攻による特性なども考慮することで本研究科の修了生の質の保証と学位水準の評価の指標の一つになるものと思われる。

FD委員会では、研究科として「どのような学位を出すのか」、「どのような教育プログラムを組むのか」、「どのような人材を入学させるのか」の課題に継続的に取り組むことで、中央教育審議会から示された大学院教育の改善の方向性にも対応できると考えており、今後も修了生の質の保証と学位水準の明確化に貢献できるようにFD活動を実施することが望まれる。

FD委員会議事録

平成22年度 第1回 理工学研究科FD委員会 議事要旨

日時：平成22年4月22日(水)16:00～16:20

場所：共通棟203ゼミ室

委員：河野(健)、林、大畠、曾我 筒井、安達、小野、近藤、蔵脇、末谷、宮本、
田上事務部長

委員外：深見研究科事務課長、坂口理学系事務課長、仮屋工学系事務課長、大園総務係長、山口
総務係員

議事に先立ち、各委員の自己紹介があった後、前回議事要旨が確認された。

議題

1. 平成21年度研究科FD活動報告について

委員長から、資料に基づき平成21年度中の活動状況等の概略について、次のとおり説明があった。

- ・授業評価については、アンケートの内容・実施について議論がなされ、例年どおり実施することとなったが、大学院授業の形式や少人数受講科目などがあることから、設問の整理がなされ、また、実施そのものについては、より良い授業の実施に繋げていくという目標に沿っていけば、専攻(授業担当者)の判断に任せることとした。
- ・FD講演会については、開催そのものに賛否が議論されたが、例年どおり開催し、講演会への自主的参加の呼び掛けにとどめた。
- ・研究活動については、学生の研究成果発表の情報を収集することにより、研究活動を示す一つの指標になるのではないかとこの合意で収集を行った。これについては、今年度も収集を行い、分析することを予定している。

2. 平成22年度FD活動計画について

委員長から、資料に基づき、大学が掲げている次期中期目標・中期計画中の「学位の質を保証する方法の確立」、「実践的な教育プログラムの実施」に係る本委員会の活動は、前年度の4活動項目に沿って実施したい旨提案があり、了承された。

- (1) FD講演会の実施
- (2) 海外実習報告
- (3) 学生による授業評価
- (4) 学生の研究活動と教育成果

3. 委員の活動分担について

委員長から、4活動項目における担当委員を選出したい旨提案があり、(1)FD講演会の担当者として、小野委員及び蔵脇委員、(4)学生の研究活動と教育成果については、安達委員及び末谷委員が選出され、了承された。

なお、(2)海外実習報告及び(3)学生による授業評価については、各専攻委員がそれぞれ担当することとなった。

4. その他

委員長から、今後の委員会開催日程について年4～5回(6、10、12、2月)を予定し、状況によりメールによる照会等を行いたい旨提案があり、了承された。

なお、前期中の開催については、第3木曜日の16時10分から開催することで調整することとなった。

配布資料：

- ・平成22年度理工学研究科FD委員会(22年4月22日)・・・資料

平成22年度 第2回 理工学研究科FD委員会 議事要旨

日時：平成22年6月17日(水)16:10～17:05

場所：共通棟203ゼミ室

委員：河野(健)、井手【林(代理)】、大島、曾我 筒井、安達、小野、近藤(正)、
蔵脇、末谷、宮本

委員外：深見研究科事務課長、坂口理学系事務課長、仮屋工学系事務課長、大園総務係長、山口
総務係員

議事に先立ち、前回議事要旨が確認された。

議題

1. 前期授業評価アンケートの実施について

委員長から、資料1に基づき事前に設問事項について照会を行ったが、特段の意見はなかったことの報告があり、アンケートの概略説明があった。

また、前年度の実施に向けた協議のなかで、大学院での授業評価アンケートの実施は、受講人数が限られていることから実施するまでもないとの意見もあったが、各授業担当教員の判断により、実施することとしたものであることの経緯説明があった後、意見を求められたが、特段の意見もなかったため、本年度も昨年同様の設問で実施することが了承された。

2. 授業計画改善書の活用について

委員長から、各専攻での活用の検討予定の有無、活用方法等について報告願いたい旨発言があり、次のとおり報告があった。

機械：

- ・学科教育評価委員会を立ち上げ、報告書を作成し、ファイルにより閲覧可能な状態としている。

電気電子：

- ・学科事務室に保管し、閲覧できる。専攻FD委員会で活用方法等を議論していく予定である。

建築：

- ・全科目の評点を公開して問題点を共有している。授業満足度の評点と教員の教育貢献度を評価するシステムを導入し、この結果も公開している。

化学生命・化学工学：

- ・最近の改組等により専攻内組織の統一性が十分でないため活用方法等の検討は頓挫している状況である。
- ・委員が収集した改善書を学部学科単位での参考として提供できるが、コース毎の活用方法までは検討できていない。

海洋土木：

- ・専攻内科目部会において、改善書の活用等について議論するシステムは構築されているが、実績としてまだ機能していない。

情報生体システム：

- ・事務室に保管され、公開されている。

数理情報：

- ・委員が取り纏めてはいるが、公開までの作業はとられておらず専攻としての活用はない。各教員がそれぞれで活用している。

宇宙・物理：

- ・受講者そのものが少ないことから、科目間の活用は特にとられておらず、専攻内での検討もなされていない。
- ・集められた改善書は、委員が保管している状態であり、専攻内での公開もしていない。

生命化学：

- ・改善書は、(理学部)副学部長が目を通し、その後は、FD委員(生命化学では専攻長)に返され、データは、専攻長が管理し、閲覧可能な状態ではあるが、実態として閲覧はなされていない。

地球環境：

- ・基本的にFD委員が管理し、閲覧したい場合にはFD委員に申し出ることにより、閲覧することは可能である。
- ・提出された改善書について、FD委員が問題提起するものについては、専攻会議へ提出し、意見聴取等を行っており、改善書内容のフィードバックが行われた事例もある。

以上の報告の後、委員長から、理学系及び工学系で事情の違いがあり、活用については、FD委員へ提出されたものが預かり状態（専攻によっては専攻会議等に諮り、分析等を行ってはいる）となっていることが見受けられるが、本年度も引き続き資料のとおり提出をお願いしてもらいたいこと、また、活用については今後も検討することとしたい旨提案があり、特に意見はなく了承された。

3. 大学院の質の向上・研究成果について

委員長から、大学院生の場合にも基本的には、どのような学位を出すのかが問われている。そのために、どのような教育プログラムを構築し、実施しているか。付随してどのような人材を入学させるのかについて、説明が求められているのが現状であり、大学院における質の保証は何かを考えたとき、講義だけでは評価できないことから、学生の研究活動を調査することが一つの指標になるであろうと前年度委員会で協議し、論文数等の調査を行ったことの説明があり、今年度も昨年同様の調査で良いか、新たな指標項目等を設定するか等の意見、また、入学者が増える一方、学力低下が懸念される状況のなかで、学位を取得させるために専攻内で講じている取組み等について状況を聴取したい旨発言があり、

- ・専攻全体としての検討はない。
- ・教員個人、研究グループ単位に委ねられている。
- ・資格取得との関係で、質の保証を担保してはとの議論がなされたことがあるが進んでいない。
- ・研究面における質の保証としては、学会等での発表等を進めることで意識している。
- ・質の向上として、主テーマ以外に主指導教員以外の指導教員の指導によるサブテーマを半年間行うようにしている。
- ・授業に縛られ、長期の研究に時間が取れなくなり、研究における質の保証を担保することが厳しい状況もある。

以上の状況から、委員長から、本年度についても昨年同様の調査を継続して行うこととしたい旨提案があり、了承された。

なお、本委員会において質の保証を検討していく上で、各専攻の意見等も必要であるので、専攻内会議等での協議を実施してもらい、本委員会で継続して協議を進めたい旨発言があった。

4. その他

委員長から、前回委員会で、研究科で発行予定のニューズレターについて発行担当委員を選出したい旨発言があり、宮本委員(理学系)、筒井委員(工学系)が選出された。

次回委員会の開催について、10月第3木曜日の16時10分（後期授業カリキュラムの状況により調整する）から開催することを確認した。

配布資料：

- 資料1 授業評価アンケート(平成22年度版)
- 資料2 授業計画改善書(平成21年度版)
- 資料 ニュースレター(案)

参考資料

平成21年度研究科FD委員会報告書

平成22年度 第3回 理工学研究科FD委員会 議事要旨

日 時：平成22年10月21日(木)13:00～13:40

場 所：共通棟203ゼミ室

委 員：河野(健)、林、大島、黒川、伊地知【筒井(代理)】、安達、小野、近藤(正)、
蔵脇、秦【末谷(代理)】、宮本

委員外：深見研究科事務課長、大園総務係長、竹下総務係員

議事に先立ち、前回議事要旨が確認された。

議事

1. FD講演会について

委員長から、本年度のFD講演会については、学生対応の面から、保健管理センター医師による「学生のみずき支援」と題して、11月25日(木)16時10分から開催予定として準備している旨提案があり、了承された。

なお、委員長から、開催の案内については、ポスター、メール及び教授会で案内することとしている旨説明があった。

2. 前期授業評価アンケートの実施結果について

委員長から、前期授業評価アンケートの実施状況及び授業改善計画書の提出状況等について報告が求められ、各専攻から順次報告があった。

以下、報告の概要は次のとおり。

- ・アンケートの実施は、工学系専攻においては、ほぼ実施され、理学系専攻においては、少人数受講者の科目を除き、ほぼ実施されている状態である。
- ・授業改善計画書の提出及び内容については、一部提出されていない科目があるが、提出されているものの内容については大きな問題はない。

また、委員長から、後期授業評価アンケート(1月実施)を引き続き継続して実施することとしているが、何か意見があれば伺いたい旨発言があったが、特に意見はなく了承された。

3. 大学院生の学習・研究成果について

委員長から、前回の議事でも協議したが、大学院生の質の向上が問われることから、何か見える形での活動とそれによる結果を報告書に示すことが考えられる。そのため、実施案を収集したいこと、一例として、当該年度ごとの授業評価アンケートの評価結果と成績評価(GPA)とを比較検討し、教育面における改善の指標を模索する案が提示された。議論の結果、一部の委員から、成績評価の向上が、教員によるものか学生本人によるものか分からないのではないかと、アンケートの何の評価をもって比較検討しようとするのか分からない等の意見が述べられた。委員長から、新たに多くのデータを集める作業は各教員やFD委員の負担増となり協力が得られにくいことから、既に集められた資料(アンケートデータ)により、質の保証を検討するために作業可能なデータを用いて行う予定であること、また、FD活動報告書においても記載しておくべき項目であることから、各委員において次回委員会までに再度提案してもらいたい旨発言があった。

4. FDニュースレターについて

委員長から、発行に関し具体的な掲載案の提示が担当委員へ求められたが、理学系担当委員(工学系担当委員欠席)から、発行の賛否が確定していなかったため、具体案はできていない旨説明があった。

また、活動報告書と重複する記載内容を取敢えてレター化することに意味があるかとの意見があったため、委員長から、他学部発行のレター等を参考に発行の是非について意見があれば伺いたい旨発言があったが、特に意見がなかったため、今年度については、発行しないが次年度以降の検討事項として残すこととしたい旨説明があり了承された。

5. その他

委員長から、次回委員会開催については、スケジュール確認の上、メール通知する旨発言

があった。

次回FD委員会予定 ・ ・ ・ ・ ・ 12月24日(金) 調整する。

平成22年度 第4回 理工学研究科FD委員会 議事要旨

日 時：平成23年3月2日(水)14:30～14:50

場 所：共通棟203ゼミ室

委 員：河野(健)、林、大島、黒川、筒井、安達、小野、近藤(正)、蔵脇、
秦【末谷(代理)】、宮本、田上事務部長

委員外：深見研究科事務課長、坂口理学系事務課長、仮屋工学系事務課長、
大園総務係長、竹下総務係員

議事に先立ち、前回議事要旨が確認された。

議事

1. 平成22年度研究科FD活動報告書の作成について

委員長から、平成22年度研究科FD活動報告書の原稿作成について、議題1資料のとおり分担を割り振ったこと、また、原稿の体裁等については、議題2資料の要領で作成願いたいことの提案があり、了承された。

なお、原稿提出期限は、3月23日(水)とし、研究科総務係へ提出することが確認された。

2. その他

特になし

理工学研究科博士前期課程

学生による授業評価アンケート（平成22年度・前期）

鹿児島大学大学院理工学研究科では、授業の改善と理解度の向上を目指して、授業を受けた諸君の評価や意見を参考にしたいと思います。以下の各設問に対して、選択肢の中から一つだけ選び回答用紙の該当する番号欄に○印を記入し、また、記述欄に意見を記入ください。なお、このアンケートは統計的に処理され、個人名が出たりすることはありませんし、成績評価にも関係ありませんので、適切な評価や率直な意見を記入してください。

A（受講態度等について）

設問1 授業にどれだけ出席しましたか。

5. 全て出席 4. 1回欠席 3. 2回欠席 2. 3回欠席 1. 4回以上欠席

設問2 予習と復習は毎週どれくらいしましたか。（レポート作成時間も含まれます）

5. 3時間より多く 4. 2～3時間 3. 1～2時間 2. 30分～1時間 1. 30分未満

【自由記述A】その他、受講態度等を含めて感想や授業改善に役立つと思われる意見を回答用紙の自由記述欄に簡潔に書いてください。

B（授業内容等について）

設問3 この授業のシラバス記載内容は受講申請に役立ちましたか。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

設問4 授業はほぼ理解でき、学習目標は達成できそうか。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

設問5 授業の内容は自身の研究を進める上で役立つと思う。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

設問6 授業の内容は目指す(職業上の)高度専門知識として役立つと思う。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

設問7 授業の内容は自身の教養や学力を高める上で役立つと思う。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

【自由記述B】授業内容全般について感想や授業改善に役立つと思われる意見を回答用紙の自由記述欄に簡潔に書いてください。特に、理解できない場合にはどこに原因があると考えますか。

C（授業方法等について）

設問8 使用した教科書や教材は授業の理解に役立った。（教材等を使用しなかった場合には記入しなくて良い。）

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

設問9 レポートなどは授業の理解に役立った。（無かった場合には記入しなくて良い。）

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

設問10 板書などは明瞭だった。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

設問11 教員の熱意が感じられた。

5. 大いにそう思う 4. そう思う 3. どちらともいえない 2. そう思わない 1. 全くそう思わない

【自由記述C】授業方法全般について感想や授業改善に役立つと思われる意見を回答用紙の自由記述欄に簡潔に書いてください。

授業計画改善書（平成22年度 前期 講義・演習用）

記入年月日：平成22年 9月24日

授業科目名：工学特論

授業担当者名：霧島 一郎

評価項目		アンケートの評点			現時点での自己分析と改善の方策
		今回	前回	前々回	
(A) 受講態度について	①出席	4.00	4.09		昨年度は、レポート等を課さなかったために予習の時間があまりとられなかったと考え、今回、レポート課題を出した。しかし、予習・復習の時間は、このデータからは、増えたと言えない。
	②予習と復習	1.74	1.91		
(B) 授業内容について	③シラバス	4.00	3.82		これらすべての項目で評点の増加が見られる。
	④理解度	3.95	3.82		
	⑤研究に	4.11	4		
	⑥仕事に	4.32	4.18		
	⑦学力・教養に	4.32	4		
(C) 授業方法について	⑧教科書・教材	4.05	3.45		これらすべての項目で評点の増加が見られる。
	⑨レポート等	4.00	3.73		
	⑩板書等の明瞭さ	4.47	4.27		
	⑪教員の熱意	4.47	4.45		
登録者数＝ 21 名： 受験者数A＝ 20 名： 単位取得者数B＝ 20 名： 比率(B/A)＝100 %					
総括 <ul style="list-style-type: none"> 成績の評価基準：平常点及びレポートで評価した。 学習目標の達成：平常時の解答等より、学習目標が達成されたと考えられる。 その他：複数の学生より出された意見は、次のようであった。					
難しくとらえがちな分野を簡潔にわかりやすく説明されたので理解しやすかった。写真や動画を授業に入れる事で内容の理解やイメージにつながり非常に良いと思いました。また、授業のアクセントにもなっており、その後の授業への集中力回復にもつながっていたと思います。授業内容は、わかりやすく説明していただき理解がしやすかったです。毎回、授業内容に関連した配布資料があれば、なお良い講義になったと思います。					

授業計画改善書（平成22年度 前期 講義・演習用）

記入年月日：平成22年9月10日

授業科目名：工学特論－2

授業担当者（代表者）名：大隈 次郎

評価項目		アンケートの評点			現時点での自己分析と改善の方策
		今回	前回	前々回	
(A) 受講態度について	①出席	4.93	4.6		①、②とも専攻平均を上回っており、満足できる結果であると考えます。
	②予習と復習	3.6	4.2		
(B) 授業内容について	③シラバス	4.2	4.2		⑥を除いて、すべての項目で専攻平均を上回っている。 ⑥の点数が低かったのは、この科目が学生の修士論文とは直接関連のないテーマを選ぶことを求めたためと考えられる。⑤については、今後の修士論文や学会などの発表に役立つ内容であったために、高得点が得られたものと考えている。本科目は定型的な講義科目ではなく、教員と学生が相互に議論しながら行う科目である。自由記述欄には記述がなかったが、学生からの記述が欲しかった。
	④理解度	4.27	4.0		
	⑤研究に	4.33	4.4		
	⑥仕事に	4.13	3.6		
	⑦学力・教養に	4.47	3.8		
(C) 授業方法について	⑧教科書・教材	4.0	3.8		学生1人ずつ違ったテーマを与え、発表させるもので、教科書はない。教材は学生が自分で探し、自ら問題解決する能力を養成するもので、この評価項目は本科目には必要ない。 上に同じで、こうした設問はこの科目にはそぐわない。ただし、最後の⑩については、学生の発表の前に教員と学生が1対1で入念な指導をしておき、教員の熱意が伝わっていると考えます。
	⑨レポート等	3.27	3.6		
	⑩板書等の明瞭さ	3.8	3.8		
	⑪教員の熱意	4.47	4.8		

登録者数＝15名：受験者数A＝15名：単位取得者数B＝15名：比率（B/A）＝100%

総括

- ・ 成績の評価基準：学生に1人ずつ中間発表、最終発表をさせ、その内容、理解度、プレゼンテーション能力を前端等教員が採点し、その平均値で成績を評価しており、現状は十分であると考えます。
- ・ 学習目標の達成：十分、達成できた。
- ・ その他（自由記述）

医歯学総合研
究科

医歯学総合研究科 FD 活動報告

1. はじめに

医歯学総合研究科 FD 委員会は大学院教育に特化した FD 活動を行うこととし、平成 22 年度も学生による授業評価アンケートの実施による授業（講義、演習、実験科目）の評価、公開授業、及び講演会を実施した。また医学部 FD 委員会の活動への共催により、桜ヶ丘キャンパスの教員に対する FD 活動を支援した。

2. 学生による授業評価アンケート

実施方法の概要

平成 21 年度にアンケートの項目の変更と、対象を拡大するための演習・実験科目のアンケートの開発、留学生用の英語のアンケート用紙の利用を開始した。平成 22 年度は 21 年度と同様の方法で授業評価アンケートを実施した。大学院係がアンケート用紙を作成、対象者に配布、回収して集計業務を行った。集計結果は教授会に報告した。

講義科目アンケート

講義を主体とする科目アンケートは授業評価 7 項目、自己評価 2 項目、全体評価とし、無記名により各項目について 7 段階の評定尺度で回答し、さらに自由な意見を記載してもらった。

アンケート結果（表 1）

前期に 5 科目 36 枚、後期に 8 科目 46 枚の回答が得られた。

● 授業評価

前期後期ともに 1 科目あたりの学生数も少ないことも影響し、科目による評価の差が大きい。科目および全体の傾向を結論することは難しいが、ニーズ、有用性、理解、配布資料、質問、発展的学習の全ての項目について概ね良好と判断された。教員は資料をよく準備し授業に臨んでいる傾向が示された。数%に 2 ないし 3 の評価がある点は、各科目での改善が求められる。講義時間は適切と回答しているものが前期 47%、後期 62%である。

- 自己評価

学習の自己評価は例年回答に学生の差が大きいことが認められていたが、本年も同様の傾向がみられ、学習成果は2から7、積極的な学習態度については3から7まで回答が分散していた。学生個人に応じた学習を支援し、学習成果が乏しいと感じている学生に対応することが今後の課題と考えられる。

- 全体評価

4から7に評価されており、学生の評価は良好であった。「どちらとも言えない」と回答した理由については明らかではないが、科目ごとに改善を検討していただきたい。

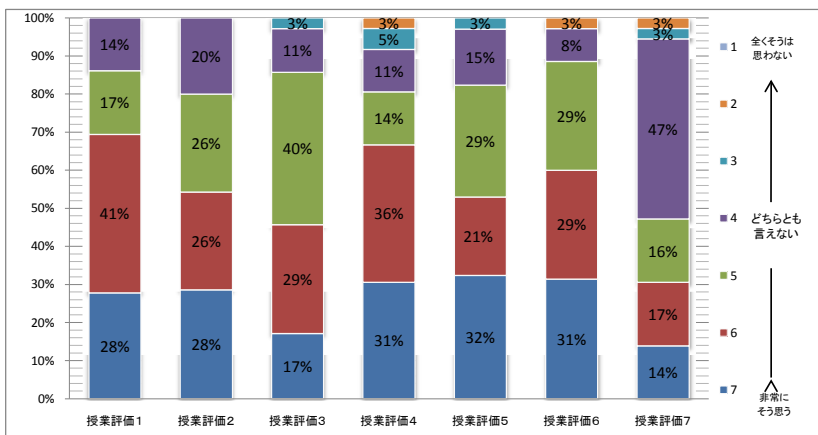
(表1)

医歯学総合研究科 授業に関するアンケート全体集計(2010 前期)

集計5科目 アンケート回収枚数 36枚

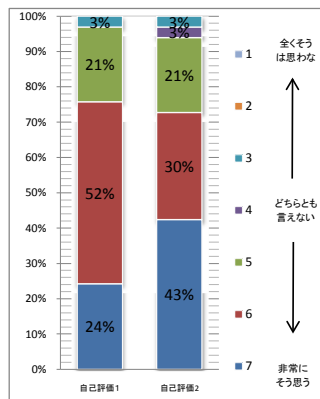
【授業評価】

- 1 この授業はあなたのニーズに合っていましたか
- 2 この授業はあなたの現在、将来の研究に有用な内容でしたか
- 3 講義の内容はよく理解できましたか
- 4 講義内容や配付資料の掲示など、発展的な学習、研究を支援しましたか
- 5 教員はあなたの質問を促し、適切に対応しましたか
- 6 教員は参考資料の掲示など、発展的な学習、研究を支援しましたか
- 7 講義時間は適切でしたか



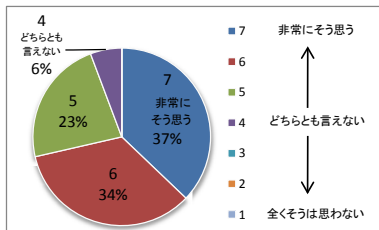
【自己評価】

- 1 この授業で新しい知識や考え方を習得しましたか
- 2 授業日は積極的に参加しましたか(質問、自習など)



【全体評価】

- 1 この授業に満足し、他の学生にも受講を薦めますか

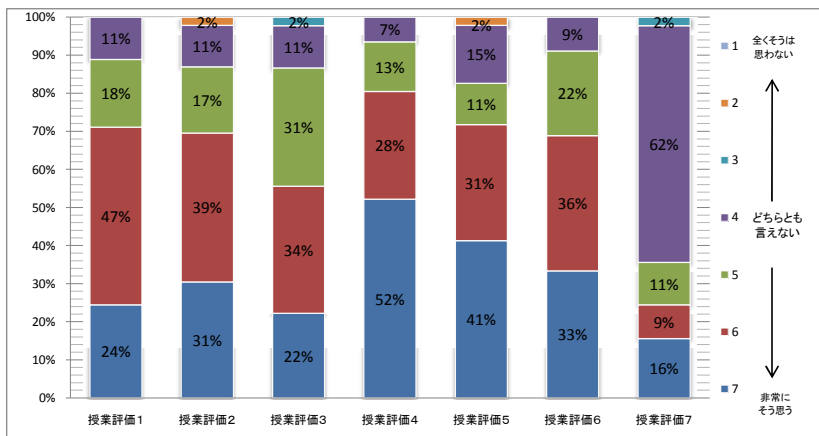


医歯学総合研究科 授業に関するアンケート全体集計(2010 後期)

集計 8科目 アンケート回収枚数 46枚

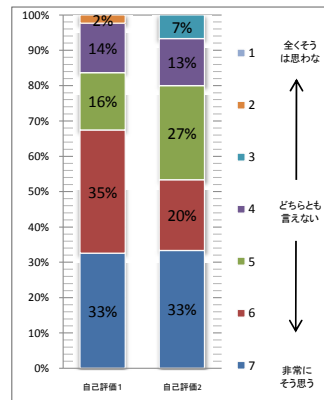
【授業評価】

- 1 この授業はあなたのニーズに合っていましたか
- 2 この授業はあなたの現在、将来の研究に有用な内容でしたか
- 3 講義の内容はよく理解できましたか
- 4 講義内容や配付資料の掲示など、発展的な学習、研究を支援しましたか
- 5 教員はあなたの質問を促し、適切に対応しましたか
- 6 教員は参考資料の掲示など、発展的な学習、研究を支援しましたか
- 7 講義時間は適切でしたか



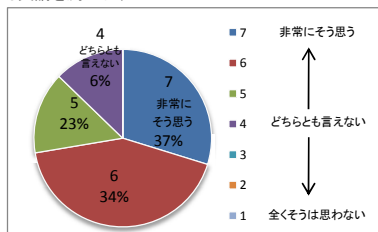
【自己評価】

- 1 この授業で新しい知識や考え方を習得しましたか
- 2 授業日は積極的に参加しましたか(質問、自習など)



【全体評価】

- 1 この授業に満足し、他の学生にも受講を薦めますか



演習、実験科目のアンケート

演習、実験科目についてのアンケートは後期に実施し、無記名で医系歯系の別、入学年度、演習科目の授業形態、内容と指導3項目、実験科目（研究指導）6項目、研究中断の有無について回答を求めた。選択項目以外は、5段階の評定尺度で回答した。

アンケート結果（表2）

医系 59 枚、歯系 30 枚の回答が得られた。

医系

入学年度は平成 15 年から平成 22 年までの 8 年にわたり、卒業までの期間が長いことが明らかである。演習科目の授業形態は講義、ミーティング、消毒会、実験・実習など多岐にわたっている。科目の有用性、教員の対応・支援は 8 割が高い評価をしているものの一部で低い評価が認められる。この傾向は実験科目の評価にも見られる。また、7%の学生が個人的な理由以外で研究の中断を経験しており、これらが卒業までの期間が延長しているひとつの原因になっていることが示唆された。自由記載では研究環境には概ね満足が得られていること、また、外国人学生に対するコミュニケーション等の配慮が更に必要であることが指摘された。これは英語でのアンケートを実施して明らかになった点であり、今後の改善につなげていきたい。

歯系

最長在籍年数が 5 年であった。演習科目の有用性、教員の対応・支援は 8 割が良い評価をしており、実験科目もほぼ高い評価となっている。医系と同様に一部の学生が十分は指導や研究環境が不十分と受け止めている事実を改善につなげる必要がある。また、研究の中断は昨年 0%であったが、今年度は 7%であった。今後の推移を注視していく。自由記載では事務手続きの改善点も指摘されている。

昨年度に引き続き実施したアンケートから、学習成果、研究環境を含む様々な情報が得られ有用であった。医歯学総合研究科の研究環境は社会的要因も背景にあり、改善は容易では無い点も多い。その中でより良い環境が維持されているかを、引き続きアンケート調査で明らかにしていきたいと考える。

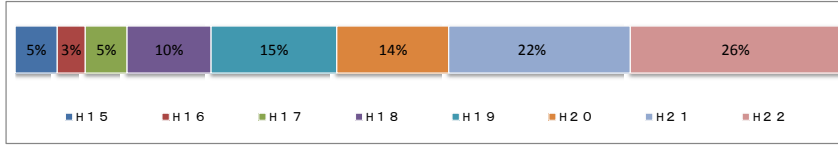
(表2)

学生による授業評価アンケート(2011年 1月実施)

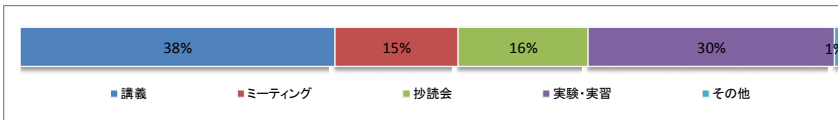
医系

アンケート回収枚数(医系) 59枚

2 入学年度はいつですか



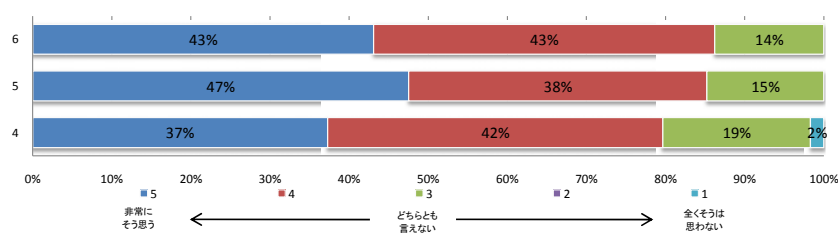
3 あなたが受講している授業科目の授業形態は、次のうちのどれですか(複数回答可)



4 あなたが受講している授業科目はあなたの研究に有用な内容でしたか

5 教員はあなたの質問を促し、適切に対応しましたか

6 教員は発展的な学習、研究を支援しましたか



実験科目(研究指導)

1 直面している問題を解決するために常に教員と討議し、指導を受けることはできましたか

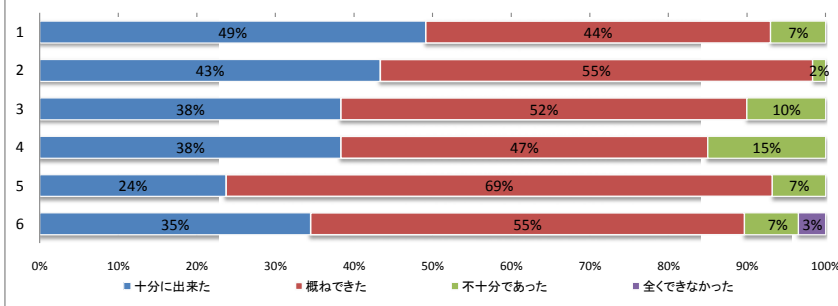
2 研究の遂行と発表に関する倫理的対応の指導を受けましたか

3 論文や参考資料を用いる環境は整備されていましたか

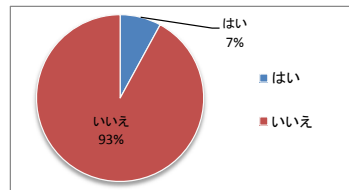
4 効率的、効果的な研究を用いる環境は整備されていましたか

5 研究開発に必要な考え方を修得できましたか

6 論文作成を自ら行うための指導は受けましたか



7 個人的な理由以外で研究を長期にわたって中断せざるを得ないことはありませんでしたか



自由記載

特に良かった点をお聞かせください

- 研究環境はととのっています
- 今まで学会発表の経験がなかったが、教授の熱意ある指導で学会発表に対して積極的になれたこと。社会人の都合に合わせて授業を行ってくれたこと。
- 楽しかったです。
- 実験系の科目がある。
- 受講することで知り合った教員に研究分野について相談に乗っていただけていること。
- 教えて欲しいこと、指導を受けたい時は、いつでも（担当教授の可能な範囲で）対応して頂けた。
- メールでの講義自由な時間できちんと勉強でき良かったです。
- 研究の楽しさが分かりました。
- 研究室での指導には満足しています。
- 研究を行っていく中で、疑問や問題点が出たときに助言や指導をすぐ受けれる環境ができてるのが良い。
- Support from the faculty members whenever required(必要な時に能力のあるメンバーに支えられた)
- all neagents or chemicals always found
all needed equipments wer present with enough conteneews maintenance (試薬、化学物質、設備等十分に環境が整っている)
- good experimental facilities – cooperative labrcratry member(良い実験設備と研究メンバーがいる)
- I found a very good thing in any leb that whenever
I need some shomieel 1 yeagent or apparatus, it is ovable within one week
(研究室で良いと思うのは、いつでも試薬等必要な時1週間もあれば届くこと)

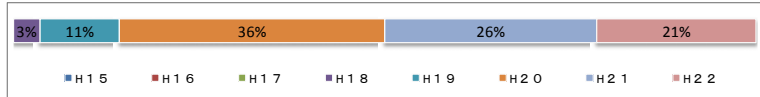
改善すべき点をお聞かせください

- もっとより多くの論文を読めるようにしてほしい
- 直前になるまで日程が分からない。
- 実験を進める予定の研究費が限られているところが、もっと費用があればと思うところ。
- 他の研究室での実験なども交流があるとうれしいです。
- 有用なLectureがあることをしらず、取っていなかったものもありました。次から注意して履修届を出そうと思います。
- As a foreign student, sometimes communication problem is faced due to language; so more communication among faculty and students would be more thecheve
(外国人学生として時々、言語コミュニケーション問題に直面することがあり、もっと組織と学生のコミュニケーションを増やしたい)
- much more considration for foreign students inall document sare needed and application forms should be translated into English(もっと申込用紙など必要書類を英語に訳したものがあればいい)
- I need much more preliminary training and guidelines to use the instruments and to do experiment in the lab
(実験室の使用方法などのガイドラインや訓練があればよい)

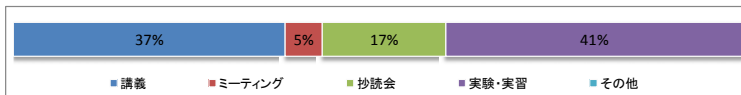
その他、自由に感想をお書きください

- 研究費を取得することができたが、学内でのお金に関するシステムを理解するのに苦労した。説明会などがあればいいかも。
- Putting in consideration that foreign students may remain unable to speak Japanese language to the degree enough to condeuct wark in Jpanese
(日本での考察に外国人学生を入れることは、答えを導くのに十分な程度の日本語を話せないかもしれません)

2 入学年度はいつですか



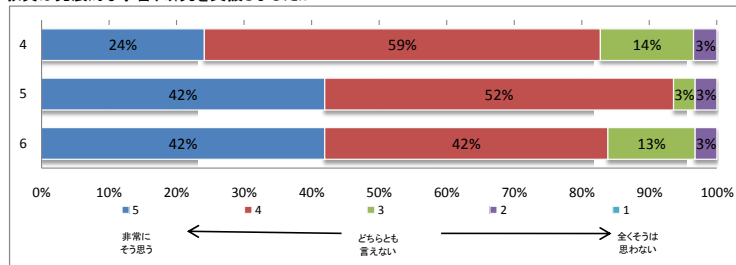
3 あなたが受講している授業科目の授業形態は、次のうちのどれですか(複数回答可)



4 あなたが受講している授業科目はあなたの研究に有用な内容でしたか

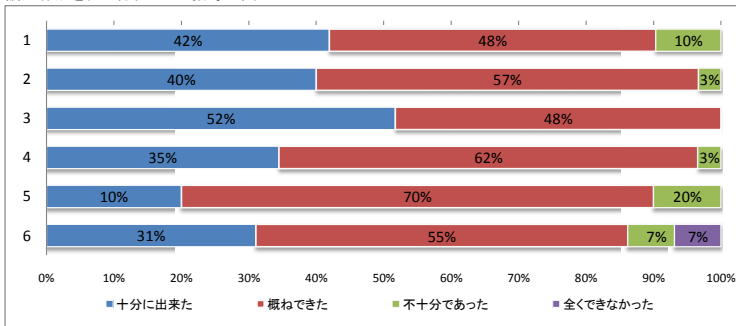
5 教員はあなたの質問を促し、適切に対応しましたか

6 教員は発展的な学習、研究を支援しましたか

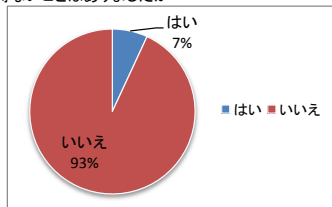


実験科目(研究指導)

- 1 直面している問題を解決するために常に教員と討議し、指導を受けることができましたか
- 2 研究の遂行と発表に関する倫理的対応の指導を受けましたか
- 3 論文や参考資料を用いる環境は整備されていましたか
- 4 効率的、効果的な研究を用いる環境は整備されていましたか
- 5 研究開発に必要な考え方を修得できましたか
- 6 論文作成を自ら行うための指導は受けましたか



7 個人的な理由以外で研究を長期にわたって中断せざるを得ないことはありませんでしたか



自由記載

特に良かった点をお聞かせください

- 概ね良かったと思います。
- 本当に興味のある分野について十分な説明と実験が可能だった。
- 研究に対する教官の熱意と指導を受けることができ、とても良かったと思います。
- 配属していただいた基礎講座の教官の先生の指導が丁寧であった。
- 教授を始め、指導して下さった先生方や、その他の医局員の先生方のサポートが非常に有難かった。
- 個別に担当指導教員がいるのでスムーズな研究が行える。

改善すべき点をお聞かせください

- 大学院セミナーの出席をしたかったのですが、前の週に掲示されて受けられなかった事がありました。学位審査の出席のプリントアウトの場所が分からず、出席したけど、出席にならなかった。
- 博士課程の単位のための講義はもっと少なくとも良いのではないと思う
- 自分自身の積極性
- 論文の添削をなかなかしてくれない

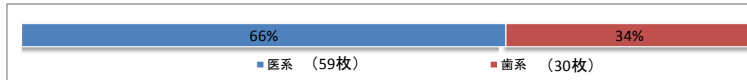
その他、自由に感想をお書きください

- 大学院生の中では幸せな方だと思います。楽しくやっています。
- 特に不満はありません。

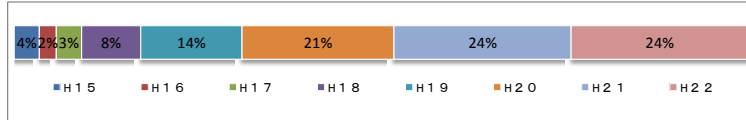
全体集計

アンケート回収枚数 89枚

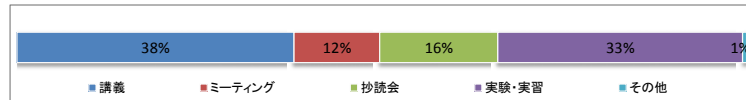
1 あなたの所属分野は、医系、歯系のどちらですか



2 入学年度はいつですか (未回答 1枚)



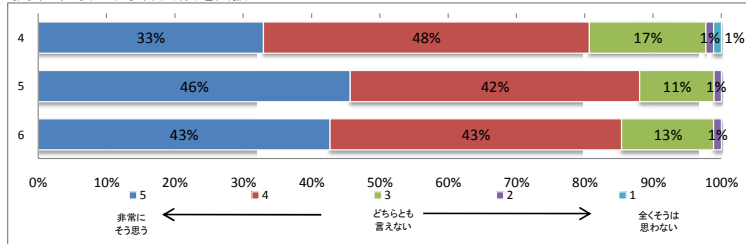
3 あなたが受講している授業科目の授業形態は、次のうちのどれですか(複数回答可)



4 あなたが受講している授業科目はあなたの研究に有用な内容でしたか

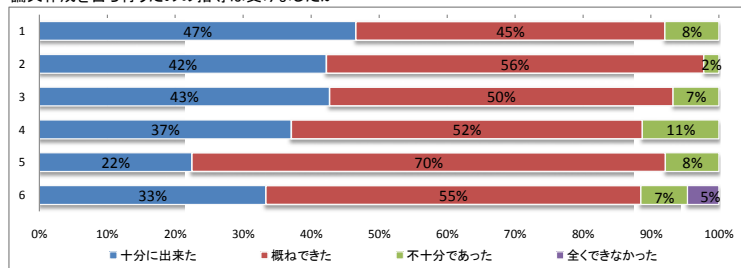
5 教員はあなたの質問を促し、適切に対応しましたか

6 教員は発展的な学習、研究を支援しましたか

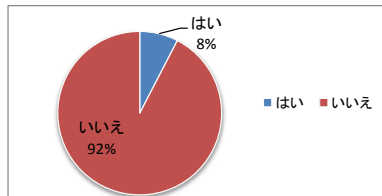


実験科目(研究指導)

- 1 直面している問題を解決するために常に教員と討議し、指導を受けることはできましたか
- 2 研究の遂行と発表に関する倫理的対応の指導を受けましたか
- 3 論文や参考資料を用いる環境は整備されていましたか
- 4 効率的、効果的な研究を用いる環境は整備されていましたか
- 5 研究開発に必要な考え方を修得できましたか
- 6 論文作成を自ら行うための指導を受けましたか



7 個人的な理由以外で研究を長期にわたって中断せざるをえないことはありませんでしたか



3. 授業公開

本研究科の授業公開の主旨を「優れた授業を公開し、参観をした教員が授業方法を学ぶ機会を提供する」とし、昨年度の学生による授業評価結果が優れている科目から対象科目を選考することとした。後期開講科目から科目を検討した結果、各講師から承諾を得ることのできた博士課程医系1科目、修士課程1科目、計4回の授業を公開授業とした。

環境医学・予防医学（修士科目） 竹内 亨（環境医学分野 教授）

平成22年12月10日（金） 6限目 テーマ：環境発癌とその予防について 参観者なし

平成22年12月17日（金） 6限目 テーマ：参加ストレスと健康について 参観者1名

イオインフォマティクスと医学研究（博士科目）古川 龍彦（分子腫瘍学分野 教授）

平成23年1月12日（水） 6限目 参観者なし

平成23年2月16日（水） 6限目 参観者なし

ポスターやメールでのアナウンスで授業参観を呼びかけたが、参観者は1名のみと極めて少ない。公開を依頼した教員には快くお引き受けいただけるものの、参加者が乏しい現状では授業公開によって授業改善を図るという試みは全く効果を上げていない。この傾向は以前より見られているが参加者が少ない状況は悪化している。多忙な教員が授業を参観する時間を確保することが極めて困難であること、授業を参観することによる教育改善への効果が間接的であり、対象者が意義を認めていないこと、大学院の授業は社会人学生向けに夜間実施しているために教員には参加が難しい時間であること、大学院の授業は専門性が高く見学の関心を得られないことなど種々の要因が考えられ、アナウンスの工夫で改善できるものではないと思われる。授業公開については実施の継続も含め、平成23年度は検討が必要である。

4. 講演会（医学部との共催は除く）

実施日 平成23年2月2日 18:00~19:00 鶴陵会館中ホール

講師： 井内 康輝

広島大学大学院医歯薬学総合研究科展開医科学専攻病理学研究室教授

テーマ：「大学院、特に基礎系大学院の振興」

参加者： 23名

医師の臨床研修制度の義務化と長期化する医師不足は、医学系大学院に入学する医学部卒業生の減少、とくに基礎医学に従事する研究者数の減少と論文数の低下を引き起こし、全国的な問題となっている。本研究科でも大学院生の確保と研究の遂行が容易ではない状況が続いており、井内教授を講師として招聘し、これらの問題についての討議を行った。

井内教授から、医学系大学院の特徴と歴史的経緯、大学の部局化(大学院重点化)と臨床研修制度導入後の研究者育成の状況、研究者確保のために特色ある取組を行っている大学の事例が紹介された。低迷する大学院充足率に対しては指導体制に見合う大学院学生定員に抑制し、臨床系大学院と基礎系大学院の位置づけを明確に分けること、さらに大学院生に対して経済的な支援を行って将来の研究者として育成することを提言され、国としての制度改革の必要性も強調された。広島大学医学部でのAO入試による研究に関心の高い学部学生の確保、学部教育での基礎医学教育の工夫のご紹介もあった。講演後参加者との活発な討議が行われた。

5. おわりに

授業評価アンケートは本研究科での教育の実態を明らかにした。また、講演会では本研究科での研究者確保を含めた諸問題について、教員が討議をする機会が得られた。教員がFD活動に時間を費やすことが困難な状況は続いており、教員のニーズが高く、効果が期待されるFD活動に精選して委員会活動を実施していく必要が明らかとなっている。学部FD委員会との連携も含め、今後のFD委員会活動を検討していきたい。

保健学研究科

平成22年度 保健学研究科FD委員会活動報告

1. はじめに

平成22年度の保健学研究科FD委員会の活動として、①学生による授業評価、②教員による修士論文発表の評価を実施した。それぞれの活動について以下に概略を述べる。

2. 学生による授業評価

平成22年度は、前期12科目、後期8科目で学生による授業評価を実施した。評価方法は、アンケート調査であり、調査票には以下に示す質問項目と授業についての意見を述べる自由記載欄を設定した。質問項目5は、「0回」「1・2回」「3・4回」「5回以上」の選択肢から回答してもらい、その他の質問項目に対しては、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらかと言えばそう思わない」「そうは思わない」「判らない」の選択肢から選び、回答してもらった。

あなた自身について

- 1 この授業のシラバスを前もって読みましたか
- 2 この授業の予習又は復習をしましたか
- 3 この授業科目に関連する本（参考書や文献等）を読みましたか
- 4 授業中にノートをとりましたか
- 5 この授業を何回位欠席しましたか

授業に対する評価

- 6 授業はシラバスに沿った内容でしたか
- 7 配布資料は適切であり、授業に役立ちましたか
- 8 授業内容に興味を持ってましたか
- 9 授業の進め方は適切でしたか
- 10 教員は授業に対する熱意がありましたか
- 11 授業中の話し方、声の大きさ、明瞭さは良かったですか
- 12 学生の質問に対して適切な対応がなされましたか
- 13 授業を受講して、知力・学力の向上に役立ちましたか
- 14 この授業は、全体的に満足できるものでしたか

アンケート調査の結果を前期、後期ごとに以下の表に示す。この表では回答を、1：「そう思う」、2：「どちらかと言えばそう思う」、3：「どちらかと言えばそう思わない」、4：「そうは思わない」、5：「判らない」（質問項目5のみ、1：「0回」、2：「1・2回」、3：「3・4回」、3：「5回以上」）として表している。また、オムニバス方式で開講されている科目は、担当教官ごとに評価を行ったため分析対象とした調査票の数は、前期165、後期109となっている（質問項目によっては、未記入の場合もあり、合計がこの数に満たないものもある）。

「授業に対する評価」では、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答している者が多く、概ね良好な評価が得られたが、「あなた自身について」の回答結果からは、シラバスの利用、予習・復習、さらに関連する文献等での学習の不足がうかがわれた。

この学生による授業評価の結果は、当該科目の調査票と共に担当教員にフィードバックした。

平成22年度前期 学生による授業評価の結果

回答では、1:「そう思う」、2:「どちらかと言えばそう思う」、3:「どちらかと言えばそう思わない」、4:「そうは思わない」、5:「判らない」(質問項目5のみ、1:「0回」、2:「1・2回」、3:「3・4回」、3:「5回以上」)を表している。

質問項目	1 この授業のシラバスを前もって読みましたか				
回 答	1	2	3	4	5
人 数	84	68	6	5	2
%	32.9	41.2	3.6	3.0	1.2
質問項目	2 この授業の予習又は復習をしましたか				
回 答	1	2	3	4	5
人 数	64	84	13	4	0
%	38.8	50.9	7.9	2.4	0
質問項目	3 この授業科目に関連する本(参考書や文献等)を読みましたか				
回 答	1	2	3	4	5
人 数	74	71	15	5	0
%	44.9	43.0	9.1	3.0	0
質問項目	4 授業中にノートをとりましたか				
回 答	1	2	3	4	5
人 数	131	27	6	1	0
%	79.4	16.4	3.6	0.6	0
質問項目	5 この授業を何回位欠席しましたか				
回 答	1	2	3	4	-
人 数	118	15	0	7	-
%	84.3	10.7	0	5.0	-
質問項目	6 授業はシラバスに沿った内容でしたか				
回 答	1	2	3	4	5
人 数	100	48	10	3	4

%	60.6	29.1	6.1	1.8	2.4
質問項目	7 配布資料は適切であり、授業に役立ちましたか				
回答	1	2	3	4	5
人数	119	38	5	3	0
%	72.1	23.0	3.0	1.8	0
質問項目	8 授業内容に興味が持てましたか				
回答	1	2	3	4	5
人数	126	30	5	4	0
%	76.4	18.2	3.0	2.4	0
質問項目	9 授業の進め方は適切でしたか				
回答	1	2	3	4	5
人数	119	29	12	5	0
%	72.1	17.6	7.3	3.0	0
質問項目	10 教員は授業に対する熱意がありましたか				
回答	1	2	3	4	5
人数	127	33	3	2	0
%	77.0	20.0	1.8	1.2	0
質問項目	11 授業中の話し方、声の大きさ、明瞭さは良かったですか				
回答	1	2	3	4	5
人数	130	32	2	1	0
%	78.8	19.4	1.2	0.6	0
質問項目	12 学生の質問に対して適切な対応がなされましたか				
回答	1	2	3	4	5
人数	130	22	9	3	1
%	78.8	13.3	5.5	1.8	0.6
質問項目	13 授業を受講して、知力・学力の向上に役立ちましたか				
回答	1	2	3	4	5
人数	124	28	9	4	0
%	75.2	17.0	5.5	2.4	0
質問項目	14 この授業は、全体的に満足できるものでしたか				
回答	1	2	3	4	5
人数	124	28	6	7	0

%	75.2	17.0	3.6	4.2	0
---	------	------	-----	-----	---

平成22年度後期 学生による授業評価の結果

回答では、1:「そう思う」、2:「どちらかと言えばそう思う」、3:「どちらかと言えばそう思わない」、4:「そうは思わない」、5:「判らない」(質問項目5のみ、1:「0回」、2:「1・2回」、3:「3・4回」、3:「5回以上」)を表している。

質問項目	1 この授業のシラバスを前もって読みましたか				
回 答	1	2	3	4	5
人 数	43	45	16	5	0
%	39.5	41.3	14.7	4.6	0
質問項目	2 この授業の予習又は復習をしましたか				
回 答	1	2	3	4	5
人 数	35	50	21	3	0
%	32.1	45.9	19.3	2.8	0
質問項目	3 この授業科目に関連する本(参考書や文献等)を読みましたか				
回 答	1	2	3	4	5
人 数	50	37	18	4	0
%	45.9	33.9	16.5	3.7	0
質問項目	4 授業中にノートをとりましたか				
回 答	1	2	3	4	5
人 数	79	26	3	1	0
%	72.5	23.9	2.8	0.1	0
質問項目	5 この授業を何回欠席しましたか				
回 答	1	2	3	4	-
人 数	80	20	0	0	-
%	80.0	20.0	0	0	-
質問項目	6 授業はシラバスに沿った内容でしたか				
回 答	1	2	3	4	5
人 数	75	28	3	3	0
%	68.8	25.7	2.8	2.8	0
質問項目	7 配布資料は適切であり、授業に役立ちましたか				

回 答	1	2	3	4	5
人 数	82	20	5	2	0
%	75.2	18.4	4.6	1.8	0
質問項目	8 授業内容に興味がありましたか				
回 答	1	2	3	4	5
人 数	85	19	3	2	0
%	78.0	17.4	2.8	1.8	0
質問項目	9 授業の進め方は適切でしたか				
回 答	1	2	3	4	5
度 数	81	22	3	3	0
%	74.3	20.2	2.8	2.8	0
質問項目	10 教員は授業に対する熱意がありましたか				
回 答	1	2	3	4	5
人 数	83	23	3	0	0
%	76.2	21.1	2.8	0	0
質問項目	11 授業中の話し方、声の大きさ、明瞭さは良かったですか				
回 答	1	2	3	4	5
人 数	87	20	1	1	0
%	79.8	18.4	0.9	0.9	0
質問項目	12 学生の質問に対して適切な対応がなされましたか				
回 答	1	2	3	4	5
人 数	86	18	3	2	0
%	78.9	16.5	2.8	1.8	0
質問項目	13 授業を受講して、知力・学力の向上に役立ちましたか				
回 答	1	2	3	4	5
人 数	84	21	2	2	0
%	77.1	19.3	1.8	1.8	0
質問項目	14 この授業は、全体的に満足できるものでしたか				
回 答	1	2	3	4	5
人 数	81	22	4	2	0
%	74.3	20.2	3.7	1.8	0

3. 教員による修士論文内容の評価

修士論文発表会において発表内容について教員が評価を行った。対象となった学生は、24名であった。評価項目は、「発表の態度・仕方はよかったか」「発表の内容は良かったか」「スライド等はよく整理され分かりやすかったか」「質問に対して的確に答えていたか」「独自の発想で研究したことが感じられたか」であり、秀（5点）・優（4点）・良（3点）・可（2点）の4段階で評価した。結果は、各指導教員にフィードバックした。

4. おわりに

学生による授業評価の結果はほぼ例年通りであった。大学院は各授業の受講者が学部の授業の受講者に比べ少なく、アンケート調査に正直に答えにくい可能性もあり、調査方法については、今後、検討していきたい。

(文責 米 和徳)

司法政策研究 科

司法政策研究科 F D 報告

1. はじめに

鹿児島大学大学院司法政策研究科（法科大学院）の平成 22 年度の F D 活動を報告する。

【報告内容】

- F D 活動の実施体制
- F D 委員会 / F D 懇談会の活動
- 授業アンケート
- 授業公開 / 授業参観
- 講義映像配信システム
- ニュース・レター

大学院司法政策研究科（以下、当研究科とする）は、修了者に（新）司法試験の受験資格である「法務博士（専門職）」の学位を与える専門職大学院（法科大学院）である。従来型の研究者の養成を中心とし学究を旨とする研究科とは異なり、高度専門職業人を養成するための場であること、法曹になるための特定の国家試験の受験資格を得られることなどから、そこで行われる教育活動は、他の研究科とは趣を異にしていると同時に、そこでの F D 活動のあり方も、法科大学院に特有の特色を帯びることとなる。

まず、法科大学院における教育の質は、我が国の法曹の水準に直結することになる。そのため、そこでの授業が何を目指し、どのように目標に到達させるのかは、単に学内や研究科内における議論、あるいは各授業担当教員の見識に委ねておけばよいのではなく、①進路である法曹界や将来における潜在的顧客である国民からの、客観的な評価を基準にしなければならないこと、また、その結果として、②各法科大学院で個別にバラバラの取り組みをするのではなく、各法科大学院の交流・連携によって、大学の枠組みを超えたスタンダードが必要とされることが重要である。

こうした観点を踏まえ、当研究科では、設置以来、所定のカリキュラムを適切に展開するとともに、法科大学院に相応しい F D 活動のあり方を模索・実践してきた。特に本年は、P D C A のサイクルで言えば、昨年度実施した、授業アンケートの内容やそれへの教員の対応の改革、授業参観や映像に基づく授業分析の新たな試み、映像配信サーバーを導入した授業研究の推進、他大学の授業参観の実施、ニュース・レターの発行による教員と学生一体となった F D の推進や情報公開の実施と、PLAN から D O までの成果を CHECK, ACTION へと移行し、同時に平成 23 年度にむけた新たな P D C A サイクルを稼働させたことに特徴があったといえる。

振り返ると、平成 22 年度においては、教員・学生が一体となって授業そのものの充実に向けた改善の取り組みを徹底する趣旨から、F D 活動スローガンを「授業と学修の協働改善！」として、授業改善とともに学生の学修到達度を引き上げるための諸配慮に重点を置いた。昨年 6 月に公表した「鹿児島大学法科大学院の新たな取り組み」である、1) 少人数教育の徹底、2) 九州大学での滞在型特別聴講制度、3) 司法政策研究センターの開設などを柱とする新しい教育方法の導入を着実に実施した。

これらの成果を踏まえて、当研究科の理念である「地域に学び、地域を支える」法曹養成を、より充実したものになりたい。

2. FD活動の実施体制

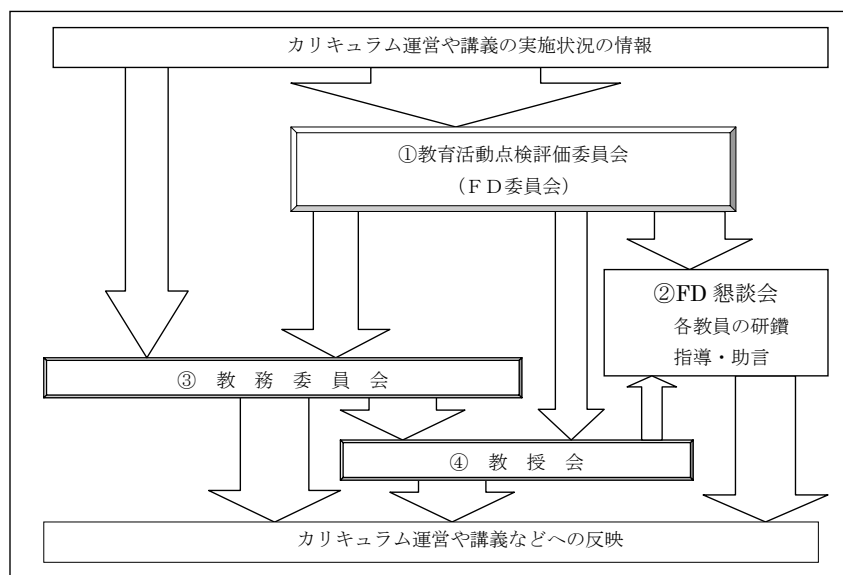
司法政策研究科では、教育活動点検評価委員会（以下、FD委員会と呼ぶ）が中心となって、FD活動を推進している。

（1）FD委員会の位置づけ

平成16年度の当研究科の設置計画においてFD委員会を設置することとされ、研究科設置当初より、副研究科長あるいは前教務委員長が委員長となって委員会を組織し、FD活動と自己点検・評価を担当してきた。その後、組織運営体制とその権限を明確にするため、平成20年3月に組織運営規則を制定した。FD委員会の委員は、公法系、民事系、刑事系、実務系、基礎法隣接科目分野の教員各1名以上を含むように構成されている。

平成22年度におけるFD活動は、平成20年度の法科大学院認証評価や法人評価の中間評価、中央教育審議会大学分科会法科大学院特別委員会第3ワーキンググループによる指摘等を踏まえ、授業内容の検討について組織的な取組を充実させることを目標として、研究科長を含む5名の教員で委員会を構成し、取り組みを企画・実施した。

今年度の当研究科内の組織内でのFD活動は、組織全体で授業改善に取り組むために、各組織が有機的に連関するよう工夫されており、下図のようになっている。



（2）法科大学院としての自己改革の組織的な取り組み体制

FD委員会は副研究科長を委員長とし、研究者教員・実務家教員で構成され、月に一度の定例会議を開催する。いわゆる Faculty Development 活動（以下、FD活動という。）を担当し、自己改革について包括的かつ中心的役割を果たす。

特に、平成20年度以降は、授業評価アンケートの実施やそれへの対応報告の取りまとめ、授業研究、授業内外の学修に関する検討などを素材として、月に1度のFD懇談会を実施してきた。これは、定例教授会の直後に開催されることとなっており、3年目に入った今年度はPDC Aのサイクルを意識し、一層充実した活動となるよう工夫された。

教務委員会は、カリキュラム運営を担当する教員2名と、その他の学修支援を担当する教員1名の3名の教員によって構成されている。FD委員会やFD懇談会の成果は、教務委員会のカリキュラム運営に反映させることで、授業全体に体系的な改善を促している。

教授会は、当研究科の最高意思決定機関であり、運営組織体制、教育内容や方法、学生のケ

ア、入試、図書、施設など、様々な事項の改革・改善を担う組織として、実質的側面においても欠くべからざる機能を果たしている。

このように、FD委員会の活動を中心として、教学上の運営の最前線を担う教務委員会、研究科の意思決定機関である教授会といったそれぞれの活動が、FD懇談会をフォーラムとする教員間の緊密なコミュニケーションを基盤とする有機的な活動を通じて、自己改革への積極的な姿勢が保つことが図られている。

(3) 平成22年度 FD委員会委員 一覧

委員長	米田 憲市	(副研究科長)
委員	采女 博文	(研究科長)
委員	緒方 直人	(民事系/民法/前研究科長)
委員	前田 實	(刑事系/実務家教員)
委員	志田 惣一	(民事系/商法/教務委員長)
委員	土居 正典	(公法系/行政法)

(4) 教育活動点検評価委員会規則と教育活動点検評価に関する申し合わせ

当研究科では、上記の教育活動の点検評価を確実に実施するため、「教育活動点検評価委員会規則（平成20年12月10日司研規則第7号）」を設け、実施についての教授会申合せ（「教育活動点検評価の実施に関する申合せ（平成20年12月10日教授会決定）」）を行い、それに基づいてFD活動等、教育活動の充実を図る態勢を整えている。

3. FD委員会/FD懇談会の活動

当研究科では、原則としてFD委員会を毎月第1火曜日16時30分時から、またFD懇談会を毎月第2水曜日の教授会終了後に実施している。

平成22年度の開催日や活動内容は下記のとおり。

	FD委員会	FD懇談会	FD活動、主な議題
平成22年4月度	4月7日	4月14日	FD実施計画について、
平成22年5月度	5月11日	5月12日	授業参観・アンケートの実施について、今年度FD活動スローガンについて
平成22年6月度	6月1日	6月9日	授業アンケートの結果について、九州大学法科大学院での授業参観について
平成22年7月度	7月6日	7月14日	授業アンケートへの所感と対応の在り方について、ビデオ視聴/授業参観に基づく検討

平成22年8月度	8月30日	—	成績評価の例外の承認について
平成22年9月度	9月7日	9月8日	成績評価総括の内容及びあり方の検討
平成22年10月度	10月5日	10月13日	後期のFD活動の実施計画について
平成22年11月度	11月9日	11月10日	学生の到達度と課業負担を踏まえたレポートの課し方について
平成22年12月度	12月7日	12月8日	授業評価アンケート結果を受けて
平成23年1月度	1月11日	1月12日	授業評価アンケート・授業参観による授業改善、最終試験の在り方について
平成23年2月度	2月7日	2月9日	授業評価アンケート結果を受けて
平成23年3月度	3月1日	3月9日	来年度に向けPDCAを踏まえたFD計画、GPAの評価基準について

また、委員会については、毎回、議事要旨を作成しており、委員以外の教員もシラバス・システムを通じて随時閲覧可能にしている。

4. 授業アンケート

(1) 前年度までの成果

平成20年度前期より、FD活動全般の強化一環として、実施方法やその利用方法について再検討を行い、インターネットを利用した方法ではなく、あらためて個別授業で配布する実施方法を導入することとした。それにより、回答率の劇的な改善がなされ、よりよい授業をするための学生との双方向のやり取りの一部として一層有効に機能するようになった。

(2) 平成22年度の授業アンケートの取り組み

平成22年度の授業アンケート項目は、平成21年度後期から、授業内容の改善をより一層進めるため、法律基本科目や新司法試験の選択科目になっている授業科目のアンケート内容を

<p style="text-align: center;">平成22年度 第4回FD委員会議事要旨</p> <p>日 時 平成22年7月6日(火) 14:35～14:55 場 所 小会議室 出席者 木田、室女、土屋、種方 欠席者 志田、前田 (招請者) 法文字部事務長・後、事務長代理・小澤・専門大学院院長・宮崎、 専門大学院教員・守備、法科大学院事務部長・久木野</p> <p>議 題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業アンケートに対する「所感と対応」について 委員長から、授業アンケートに対する「所感と対応」について諮られ、提出された資料に基づき説明があり、審議の結果、資料の一部について差替することとし、承認された。 2. 授業参観、ビデオ視聴について 委員長から、授業参観、ビデオ視聴について諮られ、提出された資料に基づき説明があり、審議した。審議の結果、この中に限っては、7月7日(水)に授業参観報告書提出締切日のため、7月14日(水)のFD活動において取り扱うことが承認された。 3. 7月14日(水)のFD活動の主題について 委員長から、7月14日(水)のFD活動の主題について説明があり、審議の結果、主題を「授業の質について」とすることが承認された。 4. FD活動報告書について 委員長から、FD活動報告書について報告があり、平成21年度司法政策研究科FD活動報告書作成、平成22年9月末発行予定で編集中心であることが承認された。 5. その他 無し。
--

抜本的に変更したものを、継続して使用している。新たな内容のアンケートでは、法科大学院教育の基本に立ち戻り、法曹が具備すべき能力の涵養をふまえた教育をしているかどうか、という点に焦点を絞ることとしている。特に法律基本科目の授業では、司法試験で問われる法曹に必要な能力を涵養することは当然のことであり、アンケートでは、あらためてその点を意識することとしている。

質問項目は、下記のことからそれぞれを実現する授業となっているかどうかをたずねるものであり、下記のようなものである。

- 【1】受け身の学修姿勢の改善、緊張感のある授業
- 【2】学修意欲や学修上の興味や法曹を目指すモチベーションの喚起
- 【3】基本的な法的知識の習得
- 【4】法的思考能力の涵養
- 【5】事実を把握したり、分析する能力の涵養
- 【6】法的議論をする能力の涵養
- 【7】判例がない事案などに対応するための創造的思考力の涵養
- 【8】法的文章作成能力の涵養

【3】から【8】は、法務省のホームページで公表されている司法試験の問題、出題の趣旨、採点実感（<http://www.moj.go.jp/SHIKEN/index2.html#01> のリンク先参照）から抽出したものである。【1】と【2】は、それ以下を実現するための、全体として充実した授業にする工夫や取り組みがなされているかを点検することを目指している。

（3）アンケートの実施方法

授業アンケートは、通常期に開講している講義の場合、15回の講義が7回程度まで進行した中間期に1回、講義の最終回で1回の、合計2回実施している。集中講義については、講義途中での改善の取り組みが困難と思われるため、最終回の講義の1回のみ、アンケートを実施している。平成21年度後期からは、これに加えて、試験問題と試験後に公表される「採点のポイント」についてのアンケートを実施するようになっており、その取り組みも継続している。

アンケートの実施は、実施回にあたる授業において、教員に授業時間を5分程度縮めるなどの工夫を依頼し、アンケート用紙の配布を教員が行って学生に対して回答の協力を依頼、回収は原則としてその時間の休み時間に事務担当者が行い、院生自習室にも提出ボックスを設けている。その結果、回収率は総じて高いと評価することができ、受講者全体の傾向を把握したうえで、具体的な指摘の意義を判断できる、十分な情報を得られるようになっている。

（4）アンケート結果の公表と授業改善へのフィードバック

アンケート結果のうち自由記載欄をのぞく集計結果を、シラバス・システムの各科目のページを通じて学生に対して開示するとともに、平成21年12月より発行しているニュース・レターにその総括的評価を示すことにより、よりよい授業づくりに向けた学生との双方向のやり取りのサイクルの一部となるように位置づけている。

【平成22年度授業アンケート結果の一覧】

平成22年度前期[中間]授業評価アンケート 択一部分平均点一覧表 [法律基本科目、新司法試験選択科目]

	【1】緊張感のある授業になるような工夫	【2】法書を目指すモチベーションが高まるような工夫	【3】基本的な法的知識を習得するための工夫	【4】法的思考能力を涵養するための工夫	【5】事実を把握・分析する能力を涵養するための工夫	【6】法的議論をする能力を涵養するための工夫	【7】創造的的思考力を涵養するための工夫	【8】法的文章作成能力を涵養するための工夫	1-8平均	3-8平均	全体平均	4.1
選択肢	1/2/4/5	1/2/4/5	1/2/4/5	1/2/4/5	1/2/4/5	1/2/4/5	1/2/4/5	1/2/4/5				
1年次対象A	4.9	4.6	4.4	4.7	4.6	4.6	4.4	3.9	4.5	4.5	必修	1
1年次対象B	4.3	3.3	3.6	4.1	3.9	3.5	3.8	3.0	3.7	3.6	必修	1
1年次対象C	3.4	3.8	3.4	3.7	3.5	3.1	3.6	3.6	3.5	3.5	必修	1
1年次対象D	3.4	3.1	3.6	3.4	3.0	3.1	3.7	2.6	3.3	3.3	必修	1
平均	4.0	3.7	3.8	4.0	3.7	3.6	3.9	3.3	3.7	3.7		
2年次対象A	4.7	4.6	4.7	4.7	4.5	4.5	4.5	4.5	4.6	4.5	必修	2
2年次対象B	4.3	4.3	4.3	4.3	4.7	4.4	4.4	4.8	4.4	4.5	必修	2
2年次対象C	4.1	4.4	4.3	4.5	4.3	4.2	4.4	4.6	4.4	4.4	必修	2
2年次対象D	4.5	4.2	4.1	4.2	4.2	4.0	4.2	3.7	4.1	4.1	必修	2
2年次対象E	4.0	4.0	4.0	4.2	3.9	4.2	4.1	3.9	4.0	4.0	必修	2
2年次対象F	3.1	3.3	3.7	3.7	3.1	2.9	2.8	2.8	3.2	3.1	必修	2
2年次対象H	3.2	3.2	4.0	3.0	3.0	2.7	3.0	3.2	3.1	3.1	必修	2
平均	4.0	4.0	4.1	4.1	3.9	3.8	3.9	3.9	4.0	4.0		
3年次対象A	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	選択	3
3年次対象B	4.5	4.5	4.7	4.6	4.6	4.6	4.2	4.7	4.6	4.6	必修選択	3
3年次対象C	5.0	4.8	4.4	4.8	4.2	4.6	4.6	4.6	4.6	4.5	選択	3
3年次対象D	4.6	4.7	4.6	4.5	4.3	4.3	4.4	4.3	4.5	4.4	必修	3
3年次対象E	4.3	4.2	4.1	4.1	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	必修	3
3年次対象E	4.3	4.0	4.0	4.0	4.0	4.3	3.5	3.5	3.9	3.9	必修	3
平均	4.6	4.5	4.4	4.4	4.3	4.5	4.3	4.3	4.4	4.4		

平成22年度前期[中間]授業評価アンケート 択一部分平均点一覧表 [法律基本科目、新司法試験選択科目以外]

	【1】講義を時間通りおこなっているか	【2】話し方は聞き取りやすいか	【3】説明はわかりやすいか	【4】学生の理解度を確認しながら進められているか	【5】質問等に適切な対応があるか	【6】双方向・多方向の講義か	【7】講義水準は適当か	【8】授業充実のための工夫がされているか	平均	配当年
選択肢	2/4	2/4	1/2/4/5	1/2/4/5	1/2/4/5	1/2/4/5	1/2/4/5	1/2/4/5		
授業科目(1)	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.6	4.1	3.4	3.9	1
授業科目(2)	3.2	4.0	3.6	1.8	3.8	3.4	3.6	3.2	3.3	1
授業科目(3)	2.8	3.6	2.5	2.2	3.2	3.6	3.4	3.1	3.0	1
授業科目(4)	4.0	4.0	4.9	4.7	4.6	3.8	4.7	4.7	4.4	2
授業科目(5)	3.8	4.0	4.7	4.5	4.6	4.8	4.0	4.3	4.3	2
授業科目(6)	3.5	4.0	3.8	3.3	3.5	2.5	3.5	4.0	3.5	2
授業科目(7)	4.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	3
授業科目(8)	4.0	4.0	5.0	5.0	5.0	5.0	4.8	4.8	4.7	3
授業科目(9)	4.0	4.0	5.0	4.9	4.8	4.8	4.4	4.6	4.5	3
授業科目(10)	4.0	4.0	5.0	4.8	5.0	4.8	4.0	4.8	4.5	3
授業科目(11)	4.0	4.0	5.0	4.1	4.6	4.3	4.7	4.9	4.4	3
授業科目(12)	4.0	4.0	4.9	4.4	4.6	4.6	4.6	4.6	4.4	3
授業科目(13)	2.7	4.0	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.3	3
授業科目(14)	3.8	4.0	4.3	3.9	4.3	3.7	4.4	4.4	4.1	3
平均	3.7	4.0	4.4	4.1	4.4	4.2	4.3	4.3	4.2	

平成22年度前期[最終]授業評価アンケート 集計結果一覧【法律基本科目・司法試験選択科目】

回収率:76.3%

授業科目		[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]	[11]	[12]	[13]	[14]	[15]	[16]	[17]	[18]	[19]	[20]	[21]	[22]
		業内外で、授	緊張感のある授業	法曹を目指すモチベーションが	基本的な法的知識を習得するための工夫が	事実を把握したり分析する能力を	法的議論をする能力を	創造的・批判的	法的文章作成能力を	学生の理解度を	質問等について、適切な対応	基本的な法的知識の習得	法的思考能力が向上	法的議論をする能力が向上	創造的・批判的	法的文章作成能力が向上	法的議論をする能力が向上	主体的かつ緊張感のある	モチベーションが高	最も時間と労力を	課題等に対して、積極的に	予習には毎回	復習には毎回
公法系科目	A	3.4	3.5	3.2	3.7	3.4	3.5	3.5	3.4	4.0	4.2	3.2	3.3	3.4	3.5	3.3	3.2	3.4	3.6	2.6	3.4	1.8	2.2
	B	4.4	4.3	3.6	4.5	4.3	4.4	4.1	4.7	4.4	4.2	3.8	4.0	4.0	4.0	3.5	3.8	3.5	3.9	3.4	4.0	2.4	2.5
	C	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.0	4.0	3.6	4.4	4.4	4.2	4.2	4.0	4.0	3.8	3.6	3.8	4.2	4.0	4.0	2.8	2.8
	D	3.1	3.4	3.6	3.1	3.6	3.0	3.4	2.8	3.9	4.0	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.1	3.4	3.3	3.1	3.3	1.9	2.3
	E	4.6	4.5	4.4	4.7	4.8	4.5	4.3	4.7	4.6	4.8	4.5	4.7	4.7	4.4	4.4	4.4	4.3	4.4	4.3	4.5	3.1	2.5
民事系科目	A	4.3	4.2	4.7	4.6	4.5	3.8	3.9	3.6	4.4	4.8	4.5	4.3	4.2	3.5	3.5	3.3	4.0	4.2	3.7	3.8	2.1	2.5
	B	4.1	4.4	4.2	4.2	4.6	4.0	4.1	4.2	4.0	4.4	3.9	3.8	3.8	3.7	3.9	3.7	4.2	4.0	4.3	4.3	3.1	3.1
	C	4.8	4.6	4.8	4.5	4.3	4.4	4.2	4.2	3.9	4.5	4.3	4.4	4.2	4.2	3.9	3.8	4.2	4.2	4.3	3.9	2.8	3.2
	D	5.0	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.8	5.0	4.8	4.8	4.7	4.7	4.5	4.3	4.8	4.8	4.8	4.7	3.5	2.8
	E	4.5	3.5	4.2	4.2	3.7	3.6	4.0	3.2	3.5	4.2	3.7	3.7	3.6	3.5	3.2	3.2	4.0	3.4	3.8	4.0	2.9	2.5
	F	4.0	4.1	4.6	4.7	4.5	4.6	4.8	4.6	4.2	4.4	4.3	4.3	4.3	4.1	4.3	4.2	4.2	4.0	4.3	4.7	2.8	2.9
	G	4.4	4.6	4.6	4.3	4.2	3.8	4.1	4.1	3.8	4.3	4.5	4.5	4.3	4.1	3.9	4.0	4.3	4.4	3.9	4.1	1.7	2.8
刑事系科目	A	3.7	2.5	3.4	3.0	3.0	2.8	2.8	2.8	3.0	4.0	3.2	3.0	3.2	3.0	3.0	3.0	3.3	3.2	3.4	3.5	2.7	2.2
	B	4.7	4.4	4.6	4.5	4.6	4.6	4.6	4.5	4.2	4.7	4.5	4.5	4.2	4.4	4.2	4.1	4.4	4.4	4.5	4.5	3.1	3.1
	C	4.6	4.3	4.3	4.6	4.6	4.4	4.6	4.5	4.2	4.5	4.3	4.4	4.4	4.0	4.3	4.4	4.2	4.0	4.3	4.2	3.1	2.2
	D	4.5	4.4	4.1	4.3	4.2	4.5	4.4	4.4	4.4	4.5	4.1	4.2	4.1	4.2	3.9	3.9	4.5	4.1	4.4	4.3	3.1	2.6
選択科目	A	4.3	4.3	4.7	4.7	4.0	4.2	4.2	4.7	4.8	4.3	4.7	4.3	4.2	4.2	4.7	4.0	4.2	4.3	4.5	4.5	2.3	3.2
	B	4.5	4.3	4.5	4.5	4.3	4.3	4.3	4.2	4.5	4.3	4.0	4.0	3.8	3.8	4.0	3.8	4.2	4.0	4.3	4.2	3.7	3.7

平成21年度前期[最終]授業評価アンケート 集計結果一覧（法律基本科目・新司法試験選択科目以外）

回収率:76.3%

	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]	[11]	[12]	[13]	[14]	[15]	[16]	[17]	[18]			
	か教員は講義を時間通り行っていましたか	か教員は講義を時間通り行っていましたか	教員の説明はわかりやすかったですか	教員の説明はわかりやすかったですか	講義に際しては、教員の準備は十分で	講義の進捗は適切でしたか	（5）の質問で1、2解答者の	講義は、学生	講義は、学生	質問等について、適切な対応はあり	双方向・多方向の講義でしたか	講義内容の水準は適当でしたか	（11）の質問で1、2解答者	日常の学修のなかで、この科目にど	シラバス等	講義の予習はどれくらいでしたか	講義の復習はどれくらいでしたか	この講義で	この講義で		
その他	A	2.9	3.7	3.2	3.4	3.3	2	1	3.5	2.8	3.3	3.8	3.2	1	3	1.8	2.5	1.4	1.3	2.6	2.8
	B	2.0	4.0	3.0	3.0	4.3			4.3	3.0	4.3	4.7	4.0			1.3	4.0	1.3	1.0	2.7	3.3
	C	4.0	4.0	4.6	4.6	4.7			4.7	4.6	4.8	4.7	4.5			2.2	4.1	2.0	2.3	3.6	4.2
	D	3.8	3.8	4.1	4.8	4.8			4.8	4.3	4.7	4.4	4.4	1	1.9	3.8	2.1	1.6	3.8	3.9	
	E	4.0	4.0	4.8	4.6	4.8			4.0	4.6	4.6	4.6	4.6			2.0	4.5	1.2	1.4	4.0	4.2
	F	3.8	4.0	5.0	5.0	4.9			4.9	5.0	4.6	4.6	5.0			2.9	4.5	2.8	2.6	3.3	4.8
	G	4.0	4.0	4.6	4.8	4.8			4.9	3.7	4.7	3.3	4.4			1.6	3.8	1.0	1.2	2.7	3.7
	H	4.0	4.0	4.5	4.8	4.8			4.8	4.8	4.8	4.8	4.8			1.5	4.3	1.0	1.0	4.0	4.5
	I	3.0	4.0	4.0	4.8	4.5			3.8	3.5	4.5	2.8	4.3			1.8	4.0	1.3	1.8	3.0	3.0
	J	4.0	4.0	4.5	5.0	5.0			5.0	5.0	5.0	5.0	5.0			3.5	4.5	3.0	3.0	4.0	5.0
	K	4.0	4.0	4.8	5.0	5.0			5.0	5.0	5.0	5.0	4.8			1.8	4.2	1.0	1.4	4.0	4.6
	L	3.4	3.7	3.9	4.4	4.1		1	4.6	3.1	3.7	2.6	4.3			1.4	3.3	1.1	1.0	3.7	3.9

		[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]	[11]	[12]	[13]	[14]	[15]	[16]	[17]	[18]			
		か 教員は講義を時間通り行っていましたか	か ヒド等は聞き取りやすかったですか	教員の説明はわかりやすかったですか	教員の説明はわかりやすかったですか	講義に際しては、教員の準備は十分にできていましたか	講義の進度は適切でしたか	（5）の質問で1 「いいえ」と思いましたか 講義の進度が適切でなかったか	遅い	速い	講義は、シラバスの講義計画に沿って行われていましたか	講義は、学生の理解度を確認しながら進められていましたか	質問等について、適切な対応はありましたか	双方向・多方向の講義でしたか	講義内容の水準は適切でしたか	（11）の質問で1 「いいえ」と思いましたか 講義内容の水準が適切でなかったか	（11）の質問で1 「いいえ」と思いましたか 講義内容の水準が適切でなかったか	日常の学修のなかで、この科目にどれだけの時間を割きましたか	シラバス等で提示された課題は適切かどうか	講義の予習はどれくらいでしたか	講義の復習はどれくらいでしたか	この講義で予定されている到達度について、自分が達していると思えますか
その他	A	2.0	4.0	4.0	4.0	5.0				4.0	4.0	4.0	5.0	4.0			2.0	—	1.0	1.0	2.0	4.0
	B	4.0	4.0	4.5	5.0	5.0				5.0	5.0	5.0	5.0	4.5			2.0	4.5	1.5	1.5	3.0	4.5
	C	4.0	4.0	4.8	4.9	4.8				4.9	4.6	4.7	4.7	4.6			2.4	3.9	2.6	2.0	2.9	4.0
	D	4.0	4.0	4.9	5.0	4.7		1		5.0	4.7	4.9	4.7	4.7			2.4	4.3	2.3	2.3	3.1	4.5
	E	3.5	4.0	4.5	4.4	4.6				4.3	4.1	4.3	4.5	4.1		1	1.5	3.4	1.5	2.1	4.0	4.5
	F	4.0	4.0	5.0	5.0	5.0				5.0	5.0	5.0	5.0	5.0			3.0	5.0	3.0	3.0	2.0	5.0
	G	4.0	4.0	4.8	4.7	4.8				4.5	4.4	4.6	3.5	4.8			1.3	4.1	1.1	1.2	3.7	4.5

(5) 「授業評価についての所感と対応」

授業アンケートの集計結果とアンケートへの教員からのフィードバックは、アンケート結果と合わせて、「授業評価についての所感と対応」として、科目ごとにシラバス・システムに掲載され、授業の中でも言及される。また、この結果の検討により、授業のやり方などの調整がなされる。

また、集計結果は教員全員に配布され、月1回、教授会のあとに開催されるFD懇談会の主題とされ、結果の点検と改善に向けた議論を行っている。

【授業評価についての所感と対応の例(1)：中間】

授業アンケートに対する所感と対応
(法律基本科目及び司法試験選択科目)

担当教員：志田悠一

科目名：商法A

	教員の重視度 /科目特性	アンケート結果	所感と対応
[1]受け身の学修姿勢の改善、緊張感のある授業	A	4.7	授業中における双方向的やりとり・知識(説明したことが理解されているか)の確認、復習を行わせるための課題などに留意した。
[2]学修意欲や学修上の興味や法曹を目指すモチベーションの喚起	C	4.0	余力がないのでC。必要であれば、他の適切な授業科目において喚起されること。
[3]基本的な法的知識の習得	A	4.5	他人が理解した話を耳に入れるのではなく、他人が整理したレジュメを眺めるのではなく、学生自らが作業する必要性を指摘したつもりである。
[4]法的思考能力の涵養	B	4.5	法的思考力は法律家の総合的な能力のことである。一朝一夕に身に付くものではない(従って重視度はB)。ただし、その「涵養」のスタートは、基礎的な知識の徹底した習得である。かりに、「4以上」であった評価の理由を求めれば、この点の強調が学生に伝わったのかも知れないと思う。
[5]事実を把握したり、分析する能力の涵養	B	3.5	「観察の理論的負荷性」。要件に関する正確な知識がなければ、そもそも与えられた事実を把握することができない。視点のない「事実」の引用は、単なる羅列に過ぎず、評価でも認定でもない。鹿大生の弱点としてチューターの方からも指摘されている。よって、講義で[5]の涵養のため取り組むべきことは明らかだと思う。
[6]法的議論をする能力の涵養	B	3.8	先ず「議論」する能力の涵養を。それには相手の発言・主張を正確に理解することが第1。他者の文章(条文、判決、基本書)を正確に理解する訓練と通じるものがあると思う。次に「法的議論」の特質は、妥当な結論をめざして、一定の制約(条文等)のもと、議論を深めていくという、議論の目的にあるのであって、議論の方法・仕方(あるいは「言い負かす」こと)等にあるのではないと思う。
[7]判例がない事案などに対応するための創造的思考力の涵養	B	3.8	判例がない事案などに対応するためには、基本的な判例の事実関係・判決の構造・論理・射程(判決は、これまで判例がない事案に対する法律家の模範解答である)を理解しながら丁寧に読んでいくことが唯一の勉強方法であるということ授業中繰り返して説明している。
[8]法的文章作成能力の涵養	B	3.7	「授業を通じて」という点で反省すべき点が多い。ただ、法的文章作成能力の涵養に関しては、「定義」「裁判例における事実関係」「判決の論理構造」「基本書で説明されている事項」「基本的・単純な論点」について、自発的、積極的に文章を書いていくことが現段階では求められよう。

総括&自由記載欄へのコメント

- 「作業」を力説したのに、「作業」の指示につき明確さ・適時さを欠いたこと、「作業」の結果に対するレスポンスが遅れたことは、大きな反省点である。
- 「条文・判例・通説を畏るは知識の本なり」とくに「まねる(暗記するではない)」という意識が弱いと思う。(法的)思考も、(法的)知識と同じく、外来のものであって、決して内在するものではない。まず、手本を分析・検討し、ならうことから始める。

【授業評価に関する所感と対応の例（2）：最終】

授業アンケート(最終)に対する所感

担当教員: 前田・中島・南

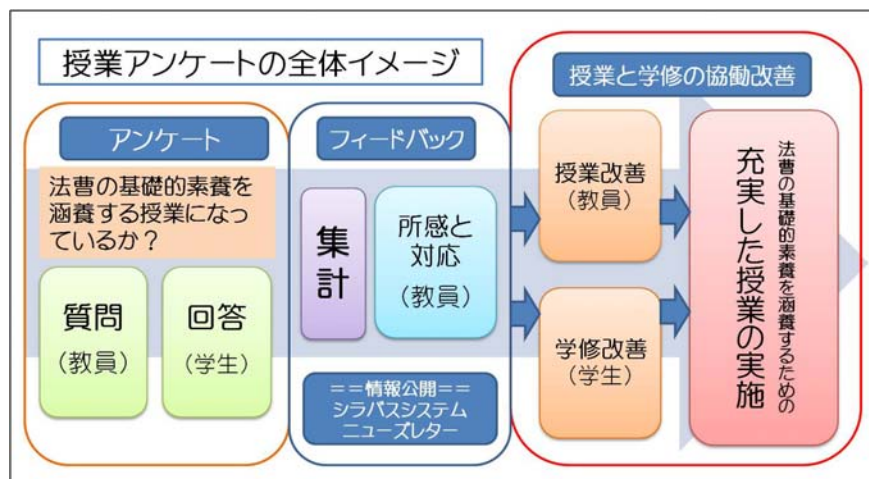
科目名: 刑事法総合問題演習A

	教員の重視度 科目特性	アンケート結果 中間	アンケート結果 最終	所 感		
A 授業の 雰囲気 作り	[1]教員による受け身の学修姿勢の改善、緊張感のある授業	A	4.3	4.5	本項目に関しては、質問内容5を除いて何れも中間評価よりも相当程度アップしており、教員の講義に対する取り組みについて、相応の評価を受けているものと思われる。尚、質問項目5は、学生の事実関係の把握・分析能力の涵養の工夫が講義において為されているか否かについてのアンケートであるが、中間段階では4.3、本講義終了段階では4.2であり、そう思わないという評価の院生が一人増えたことによるものと思われる。評価2の学生が1名増えたことにより、0.1ポイント低下しているもので、この点は、今後の講義運営において重視して検討する必要があると思われる。何れの項目についても、受講生の大半は本講義において、学習意欲を高めることを目指している方向性等を理解してもらっていると思われるもの、今後とも受講生全員に対し、更に学習意欲の向上等を求めていきたい。尚、本講義は、一年次から二年次にかけて修得している刑事系の基本的知識を前提とするものであるが、講義内容によっては、実務的な側面を含めた基本書等で触れられていない部分にわたることもあるが、これは、創造的・応用的な能力のアップを目的とするものであることを受講者においても理解して欲しい。更には、基本的知識については講義の都度、事前の予習及び復習における十分な確認を期待しているところである。	
	[2]教員による学習意欲や学修上の興味や法曹を目指すモチベーションの喚起	B	4.2	4.4		
B 涵養 すべき 能力	[3]教員による基本的な法的知識の習得への配慮	B	4.1	4.1	何れも4.5前後の評価を得ており、概ね講義計画に基づく進捗が受講生にとっても講義内容の理解の進展とマッチしている状況にあるものと思われる。又、質問等については、講義後あるいは掲示板において対応するように心がけており、この点についても受講生の満足を得ているものと思われる。	
	[4]教員による法的思考能力の涵養への配慮	A	4.1	4.3		
	[5]教員による事実を把握したり、分析する能力の涵養への配慮	A	4.3	4.2		
	[6]教員による法的議論をする能力の涵養への配慮	A	4.3	4.5		
	[7]教員による判例がない事案などに対応するための創造的・応用的な能力の涵養への配慮	A	4.2	4.4		
	[8]教員による法的文章作成能力の涵養への配慮	A	4.2	4.4		
C 学生への 配慮	[9]計画的授業進行と学生の理解度への配慮			4.4	何れも4.5前後の評価を得ており、概ね講義計画に基づく進捗が受講生にとっても講義内容の理解の進展とマッチしている状況にあるものと思われる。又、質問等については、講義後あるいは掲示板において対応するように心がけており、この点についても受講生の満足を得ているものと思われる。	
	[10]学生からの質問への対応			4.5		
D 学生の 成果 認識 満足度	[11]基本的な法的知識の習得度の向上の成果	B		4.1	何れも4点前後の評価であるが、受講生において法的思考能力の向上等を実感していることが窺われ、受講生自身の自らに対する評価であることから、控えめな評価とみても満足すべき成果と思われるもの、更にこれらの能力の涵養を図るべく講義における努力をしていきたい。	
	[12]法的思考能力の涵養成果の向上の成果	A		4.2		
	[13]事実を把握したり、分析する能力の涵養の向上の成果	A		4.1		
	[14]法的議論をする能力の涵養の向上の成果	A		4.2		
	[15]判例がない事案などに対応するための創造的・応用的な能力の涵養の向上の成果	A		3.9		
	[16]法的文章作成能力の涵養の向上の成果	A		3.9		
E 学生による 取り組み 状況	[17]学生自身は主体的／緊張感ある取り組みをしたか			4.5	21、22の質問内容を除き、何れも4.1以上の評価であり、しかも、主体的かつ緊張感ある取り組みをしていることを受講生自身が自覚していることは、講義が緊張感の中で進行していることを示すものである。今後も受講生にとって、緊張感を持って臨む講義方式、講義内容としていきたい。尚、21、22については、他の科目との関係もあり、予習・復習時間の割合についてコメントすることは難しいが、復習にももう少し時間を割くことが望まれる。	
	[18]学生自身のモチベーション向上の度合い			4.1		
	[19]学生のこの科目の重視度			4.4		
	[20]課題等への取り組み度合い			4.3		
	[21]予習にかけた時間			3.1		
	[22]復習にかけた時間			2.6		
F 学生からの 見直し の 要望 (件数)	[23]時間通りの進行(0無記載／1遅刻／2延長)	0	14	0	3	講義時間内に講義が終了しないという指摘は、その通りであり、今後は、講義内容を絞り込むなどして時間内の講義を心掛けたい。又、講義の進度・水準についての指摘もみられるが、本講義が刑事系の総まとめの講義であり、法的思考能力のみならず、事実関係の分析能力、判例等と異なる事実関係の把握とこれに対する創造的・応用的な解決能力の涵養を図るためには、講義の進度、又、水準が一定程度に保たれる必要があることから、この点については、受講生自身にも努力を求めたい。
	[23]話すスピード(0無記載／1遅／2速)	16	0	0	1	
	[23]講義の進度(0無記載／1遅／2速)	16	0	0	1	
	[23]講義内容の水準(0無記載／1高／2低)	16	0	0	1	
自由記載欄	[24]授業充実への要望(自由記載欄)	<p>答案返却を早期にして欲しい等の要望がみられるが、答案を時間をかけて慎重に検討する必要性から、返却が受講生にとって遅延しているとの印象があるとと思われる。即日答案については起案終了後の解説を行っている関係で、復習により答案の問題点等の把握に努めているものと想定していたが、復習に際しては、答案との照合も必要であると思われる。今後は、答案の早期返却について検討したい。なお、返却後の答案については、夏休み以降も必要に応じて個別に指導を行うので、質問等があれば、随時、教員にアプローチしてほしい。刑法分野に関する試験内容、採点に関する要望が出されているが、一定時間内に論点を抽出し、その論点中で重要なもの、さほど重要でないもの等の峻別をする能力、重要論点につき、迅速に処理する能力を涵養するために論点の多い出題としており、採点についても、論点処理の時間的な配分が困難で、十分な答案構成ができなかったことにより、採点結果の点数が上がっていないとの不満もあるものと思われるが、法科大学院において、涵養されるべき能力の一つとして、迅速かつ正確な事件処理能力も必要であり、この観点からの出題、採点である。この点に関しては、受講生の最終成績判定においては、受講生の成績分布、試験問題の難易度等を考慮して総合判定することとしている。尚、即日答案の位置付けの趣旨が不明であるとの指摘が為されているが、刑事系の基本的知識を十分に理解し、修得しているか否かを具体的な問題に関連して試すためであり、これにより、受講生が自ら理解不足の部分を自覚し、これについて学習を深めると共に、教員に対し質問等を行うことにより知識の定着を図る趣旨であり、点数評価が主目的ではないことを理解されたい。</p>				

(6) PDCAを意識した「授業と学修の協働改善」

授業改善の取り組みは、継続的に実施することに意味があるが、それは教員のみではなく共通の目標に取り組んでいる学生の取り組みも重要な要素となる。本学の授業アンケートを中核とする取り組みでは、教員の授業技術や内容の改善のみならず、学生の学修改善にもPDCAのサイクルを意識できるよう、授業アンケートの取り組みの全体像をニュース・レターなど紹介し、問題意識の喚起に努めている。

【授業アンケートの全体イメージ】



5. 授業公開／授業参観

(1) 授業公開／授業参観などの取り組み

アンケートを用いたコミュニケーションのほかの授業改善の取り組みには、①公開授業・授業研究の実施、②授業参観の実施、③連携授業の取り組みや研修・プロジェクトへの参加などの取り組みなどがある。平成21年度以来、映像配信システムを利用することによって、学内であれば随時、自らの授業や他の教員の授業を視聴でき、より多くの授業を、効率的に見ることができるようになっている。

(2) 公開授業／授業研究の実施

公開授業と授業研究は、公法系、民事系、刑事系、実務系、基礎法・隣接科目系から、各1科目程度を公開授業対象科目として指定し、専任教員全員が授業参観を行う。公開授業はビデオに収録され、欠席教員にもDVDに収録されたものが配布され、それを視聴の上で、FD懇談会に参加している。

後日、定例のFD懇談会の時間に、当該公開授業についての授業研究が実施され、担当教員の所感、他の教員からのコメントを素材に、授業改善のための検討が行われている。平成21年度に、焦点があてられた点として、学修効果の面から見た授業方法と予習・復習の関係、学生の認識における予習・復習負担と学修効果の検討、基礎科目・演習科目・総合問題演習といった各レベルの科目での成績評価のあり方、ソクラティック・メソッドの効果的な採用方法などを挙げる事ができる。

(3) 授業参観の実施

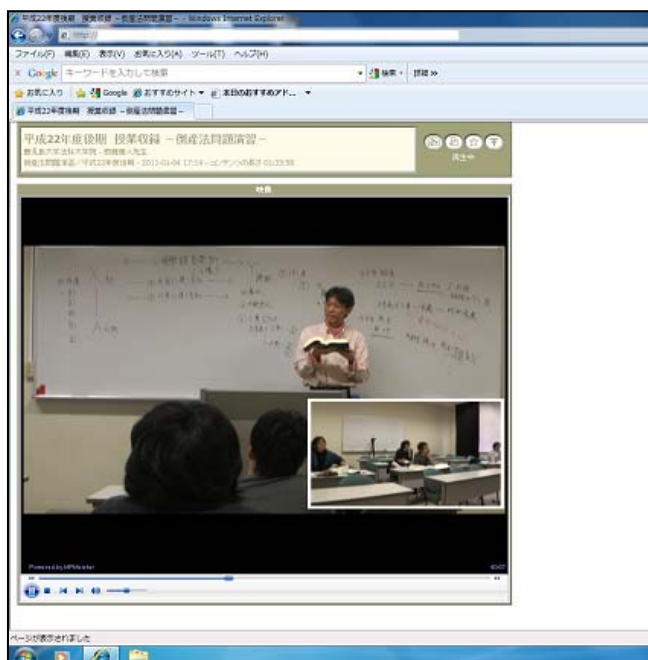
当研究科では、任意に授業を参観できることとされており、これを実施した際は、授業参観報告書を提出することとなっている。平成19年度までは、各学期、1回以上授業参観をすることとされており、各教員は、この授業参観報告書を授業改善に役立てていた。平成20年度以降は、ビデオ撮影の義務化など新たな取り組みを始めたが、現場での授業参観は継続されており、公開授業／授業研究の取り組みと並行して、各教員の授業改善の方法の一部として奨励されている。

(4) ビデオ映像のサーバー発信

平成21年度以来、平成20年度末に導入したビデオ映像の配信サーバーに、従前収録していたビデオをアップロードするとともに、各学期1回の映像収録を義務づけ、FD活動に活用している。

アップロードされている映像は、教室の背後からの教員のパフォーマンスの映像だけではなく、前方から学生のパフォーマンスを収録し、そのふたつを編集したものである。このことによって、授業全体の緊張感、授業そのものの進行の工夫の効果を把握することができる。これを用いて、より多くの授業の事情を教員組織全体として把握し、授業改善に役立てることができる。

【配信される授業映像の一例】



(5) 連携授業の取り組みや研修・プロジェクトへの参加などの取り組み

当研究科は、九州・沖縄4大学教育連携に参加し、共同開講の科目を展開している。この取り組みの対象となっている科目の担当教員は、他大学の教員との授業内容や授業方法の打合せや検討を通じて、自らの取り組みの点検と研鑽の機会を得ている。平成22年度は、平成21年度に続き、九州大学法科大学院の授業を参観するプロジェクトを実施し、8名の教員が参加した。

また、名古屋大学を中心とするPSIMプロジェクトに参加しており、実習科目の教材開発

や共有の共同的取り組みの中で、実習科目で扱う教材や教育方法の改善の契機を得ている。また、各種シンポジウムなどによる研修を奨励しており、個人研究費とは別の共通経費で旅費を負担することとしている。

なお、民法の財産法分野をのぞいては、各法律分野の担当教員が1名で構成されているため、科目毎のFD活動は組織されていない。しかし、すでに述べた九州大学における授業参観とそこでの懇談をはじめ、公法総合問題演習A、同B、民事法総合問題演習A、同B、刑事訴訟法問題演習2、刑事法総合といった、総合問題演習科目の性格を有する科目の担当教員の会合で、科目系毎で教育内容や教育方法の議論がなされており、実質的に科目毎のFD活動を実施している状況にあるといえる。

【授業参観報告書】

平成22 年度 前期

鹿児島大学法科大学院授業参観報告書

報告者 采女

参観日時及び時限	平成 22 年 7 月 2 日 2 限		
授業担当者	村山		
授業科目名	民法B		
対象学年	1 年	受講学生数	15 名
教室	総合教育研究棟 201 号教室		
講義内容の概要	(後半)留置権論。成立要件を本質論に立ち戻りつつ、講ずる。		
教材・授業の進め方・課題・学生の反応等、気が付いた点	授業進行が計画されている。電子シラバス上の資料が丁寧に作成されている。学生が授業に集中しており、一部、教員の質問に対して沈黙を守る学生もいるが、全体として問いに対して一定のレベルの回答をしているとの印象をもった。		
授業参観を行って参考になったこと。	留置権の本質論を概念的に理解させるのではなく、留置権の成立を事例を素材に議論させた後、本質論に立ち戻って解説が加えられた。判例の扱いについても、判例を確認した上で、幾つかの学説(柚木、道垣内、内田)から加えられている批判を紹介しつつ、「答案の書き方(理論構成、価値判断)」にまで指導が及んだ。「判例」→「学説」→「判例」という流れにリズム感があり、大いに勉強になった。学説の紹介、検討でも平板な解説に陥ることなく、まず、幾つかの具体例を説明し、学生に問題意識を持たせたうえでなされている。学生の思考力、法適用能力を育てる素材として学説が活用されているとの印象をもった。		
その他(授業参観に関するご意見、ご感想等を自由にお書きください。)	1年次配当であるから、基本的な部分をわかりやすく語るのが最優先であるが、この授業ではそれに加えて、学生の事例分析力、思考力を育てることが強く意識されていた。学説にかなり深く立ち入った後で、答案としてどう書くか、という点にまで気配りがなされている。参考にして、私の授業でもさらに意識したい。学生の評価の高い授業には、やはり理由がある。		

鹿児島大学法科大学院司法政策研究科・教育活動点検評価委員会

6. 映像配信システム (Media Patio)

平成20年度後期より、講義映像配信システム～Media Patio～を導入した。

これにより、Web上にて講義映像を配信するシステムで、学内であればどこからでもアクセスが可能であり、いつでも映像を視聴することができる。

(1) 用途

このシステムを使い、専任教員に対して各学期1度ずつ義務づけられている授業収録にて収録された講義映像を、教員向けに配信している。

教員はFD活動の一環として、この配信システムを利用し、自己の講義の内容・運営等を検討、または他教員の授業を参観し授業改善に役立てている。

(2) 配信内容

前述したとおり、専任教員には各学期1度ずつの授業収録が義務づけられている。

収録は、教員のパフォーマンス全体が見渡せる様、教壇全体を収録すると共に、法科大学院教育の特色である双方向授業を意識し、学生のパフォーマンスも同時に収録される。

収録後、映像は速やかに編集され、2分割された画面で教員・学生それぞれのパフォーマンスを同時に確認することができる。

また、アクセス先である「講義映像配信システム特設サイト」では、当該授業の電子シラバス掲載内容や授業資料等、各種データを閲覧することができ、より円滑なシステム利用を可能にしている。



配信している講義映像。

画面全体で教員のパフォーマンスを、右下の小窓で学生のパフォーマンスをそれぞれ確認することができる。

上段写真：憲法問題演習A 小栗實教授

下段写真：刑事訴訟法問題演習 中島宏教授

◎授業改善のためのビデオ録画◎

鹿児島大学法科大学院では、学期中に1～2回ずつ、すべての専任教員の授業をビデオに録画しています。これは、①各教員が自分の授業を学生側の視線から客観的に振り返り、授業改善の方向性を検討するため、②すべての専任教員が出席して行われるFD懇談会でいくつかの授業を視聴し、その授業の良い点や問題点を指摘し合い、各自が授業の質を向上させる手かがりを得るため、③これとは別に実施している教員相互の授業参観において、日程の都合で所定の授業を参観できなかったとき代替手段とするために活用することを目的としています。

この録画においては、模擬裁判の収録のために開発・導入したシステムを応用し、2つのカメラで異なる方向から同時に授業を録画します。すなわち、①教室後方のカメラから教壇の方向を撮影する（教員の授業を正面から映し出す）と同時に、②教室前方に設置したカメラから学生の方向を撮影し（斜め前から学生の様子を映し出す）、双方向性のある授業の様子を、双方向から記録することができるよう工夫されています。2方向から収録された映像は、事務補佐員の久木野さんの奮闘により編集され、ひとつの画面の中で、教員が授業をしている姿をメインとしつつ、小さなサブウィンドウに学生の様子が同時に表示される形になって保存されます。このことにより、教員は、自分のパフォーマンスだけでなく、学生たちの反応も確認しながら、授業の様子を振り返ることができるわけです。そこでは、教員の現場における授業技術の優劣だけでなく、学生側の受講姿勢の観察を通じて、学生の意識、予習の実効性なども確認することができます。

編集された各授業の画像は、DVDで当該教員に配布されるほか、専用のサーバーに集積されています。専任教員は常にこのサーバーにアクセスすることにより、研究室などにいながら、ストリーミングで自分の授業や他の教員の授業をいつでも視聴することができます（写真は、その配信画面です）。このシステムがあることによって、教員は多忙を理由に授業改善のための試みをサボることができません。

平成22年度前期も6月7日から6月18日にかけて、ビデオ録画を行いました。本年度からは、学生側の音声をよりクリアに収録するために、学生の手元に設置する据え置き型の無線マイクが導入されました。筆者は、学生に「ビデオ撮影の日は、いつもより講義のテンションが高い」と指摘されてしまいました（それはお互いさま…という気もしますが）。できるだけ撮影を意識せずにいつもどおり授業を進行したいと思いますが、萎縮して元気がなくなるのではなく、撮影をきっかけに授業が双方から活性化するのであれば、むしろ思わぬ「副産物」だといえましょう。今回のビデオ撮影を、前号で紹介した授業評価アンケートおよびそれを受けて実施された特定科目の授業参観と併せて、今後のFD活動に活用していきます。

中島 宏（刑事訴訟法）

（鹿児島大学法科大学院ニューズ・レターNo.10〔2010年7月20日号〕より）

7. ニュース・レター

平成21年12月7日、鹿児島大学法科大学院ニュース・レター第1号「KULS ニュース・レター VOL. 1」が発行された。

ニュース・レターは、A3サイズの用紙に両面刷りで印刷され、第1号発行以降、毎月1回のペースで発行されており、平成22年度は、第6号（平成22年4月5日発行）から第18号（平成23年3月31日発行）までが、発行された。

(1) コンテンツ

ニュース・レターのコンテンツは、多岐に渡るものであるが、基本的には在学院生に向けた情報発信が主要目的であるが故、主に新司法試験論文式試験・各分野の解説（新司法試験関連）、新カリキュラムや各種制度のアナウンス、講演会等の行事報告、FD活動報告、各種コラム等となっている。

1号あたり、4つほどのコンテンツが掲載されている。

(2) 配布

配布は、院生各自のデスクへ一部ずつ直接配布される他、法科大学院教員、法文学部法政策学科教員へも配布されている。また、法文学部事務局各係にも回覧という形で配布を行っている。

それ以外にも、希望者は総合教育研究棟7階、司法政策研究センターにて配布を受けることができる。なお、鹿児島大学法科大学院ホームページ上でも、PDFデータにて閲覧が可能である。

ニュースレター第6号

The image shows the front cover of the 6th issue of the KULS Newsletter. At the top, it says '鹿児島大学法科大学院' (Kagoshima University Faculty of Law) and '平成22年 4月 5日' (April 5, 2010). The main title is 'KULS ニュースレター 第6号'. Below the title is an 'INDEX' section listing various articles. There are also several small images and graphics on the cover, including a map of the university and a photo of a group of people. The cover is designed with a clean, professional layout using blue and white colors.

司法試験論文式試験の解説

1. 新カリキュラムの概要
2. 司法試験論文式試験の解説
3. FD活動報告
4. 法律相談

FD活動報告

FD活動報告の概要、FD活動の重要性、FD活動の進め方、FD活動の効果、FD活動の課題、FD活動の展望、FD活動のまとめ。

法律相談

法律相談の概要、法律相談の重要性、法律相談の進め方、法律相談の効果、法律相談の課題、法律相談の展望、法律相談のまとめ。

新カリキュラムの概要

新カリキュラムの概要、新カリキュラムの重要性、新カリキュラムの進め方、新カリキュラムの効果、新カリキュラムの課題、新カリキュラムの展望、新カリキュラムのまとめ。

FD活動の重要性

FD活動の重要性、FD活動の重要性の理由、FD活動の重要性のまとめ。

法律相談の重要性

法律相談の重要性、法律相談の重要性の理由、法律相談の重要性のまとめ。

新カリキュラムの重要性

新カリキュラムの重要性、新カリキュラムの重要性の理由、新カリキュラムの重要性のまとめ。

本号は、院生各自のデスクへ一部ずつ直接配布される他、法科大学院教員、法文学部法政策学科教員へも配布されている。また、法文学部事務局各係にも回覧という形で配布を行っている。

それ以外にも、希望者は総合教育研究棟7階、司法政策研究センターにて配布を受けることができる。なお、鹿児島大学法科大学院ホームページ上でも、PDFデータにて閲覧が可能である。

8. 終わりに

司法政策研究科のFD活動は、研究科の設置以来着実な取り組みが行われ、平成20年以降、授業アンケートの改善やビデオ収録の導入など、新たなステージでの取り組みを行ってきた。そこで見いだされていたのは、教員の授業改善が真にその成果を上げるには、学生との協働がなければならないということである。すなわち、FD活動は、FD活動をすることが目的ではなく、有為な人材を養成するという大きな目標を達成する数ある方法の1つに過ぎない。しかし、いずれの取り組みも、教員の取り組みの改善という成果の投げかけに、学生の学修が呼応する、すなわちFD活動は学生との応答が成立しなければならない。

そこで、平成22年度には、FD活動そのものに共通の問題意識を持つことを目指して、スローガンを設けることとして、「授業と学修の協働改善」をスローガンとして、教員・学生にFD活動の目標の周知を図ることにした。しかし、思ったような成果を達成することは、いうまでもなく、容易ではないというのが実感であり、FD活動の個々の取り組みが即効性を持つわけではないことを実感している。

今後は、PDCAの考え方を意識することで、現在の取り組みと到達水準を明確にしながら、学生の学修姿勢の改善を含む、組織としてより高度な到達水準を目指すこととなろう。



臨床心理學研
究科

臨床心理学研究科 FD 活動報告

1. はじめに

臨床心理学研究科は、平成 19 年に、高度専門職業人たる臨床心理士養成を目指して設置認可された、独立研究科としての専門職大学院です。平成 22 年 3 月には第 2 期生 14 名が修了し、本研究科を巣立って行きました。平成 21 年度に引き続き、金坂が FD 委員長を担当しております。

今年度の FD 活動を概観するなら、設置認可計画書の『XII 教員の資質の維持向上の方策』の中で謳われている、1. FD 委員会の開催、2. 客観的で厳格な成績評価制度の導入、3. 学生による授業評価の導入、4. 授業研究・実務研修等のうち、21 年度の経験を踏まえて、「3. 学生による授業評価の導入」に大きな改革を試みました。また、FD 研修会では、全国の臨床心理専門職大学院のうち、最も新しく設置認可された関西大学の先生方をお招きしてご講演いただくとともに、本研究科の教員との間でさまざまな観点からの意見交換が行われました。

本研究科は 23 年 4 月には早くも第 5 期の新生生を受け入れると同時に、専門職大学院認証評価のための自己点検評価にむけた準備が最終段階に入ることになります。そうした自己点検評価も踏まえて、23 年度においても、高度専門職業人養成のための専門職大学院にふさわしい質の高い教育の維持向上に今後とも不断に努めて参りたいと思います。

2. FD 委員会、FD 研修会など

平成 22 年度においても、平成 20 年度までに確立された「学生による授業評価」、「GPA 本格導入」および「授業公開・授業参観」という FD 活動の三本柱が踏襲された。平成 22 年度の FD 委員会としての重要案件は、何はともあれ、21 年度の全学的な Moodle 導入によって利便性の向上とそれに伴う回答率のアップが期待された「学生による授業評価」が、期待に反して予想を下回る回答率にとどまった点の改善策の模索であった。また、全国の臨床心理専門職大学院のうち、平成 21 年 4 月に最も新しく設置認可された関西大学大学院の先生方をお招きする FD 研修会の企画立案であった。

以下に平成 21 年度の FD 委員会、FD 研修会の期日と内容、および FD 委員長が参加した FD 公開セミナーについて報告する。

第 1 回 FD 委員会

日時：2010 年 5 月 19 日 15:00 ～ 16:00

場所：研究科長室

出席者：安部研究科長、金坂 FD 委員長、服巻 FD 委員

【議 題】

1. 平成 22 年度 FD 活動経費申請について
2. 平成 22 年度 FD 活動重点経費申請について
3. 授業評価アンケート実施のあり方について

第 2 回 FD 委員会

日時：2010年12月15日11:00～12:30

場所：研究科長室

出席者：安部研究科長、金坂FD委員長、服巻FD委員

【議 題】

1. 平成22年度FD研修会の企画・立案について

第3回FD委員会

日時：2010年12月22日15:00～16:00

場所：研究科長室

出席者：安部研究科長、金坂FD委員長、服巻FD委員、専門職大学院係・山下

【議 題】

1. 平成22年度後期第2回授業評価アンケートの結果について
2. 平成22年度FD研修会の内容について

第4回FD委員会

日時：2011年2月23日11:00～12:00

場所：研究科長室

出席者：安部研究科長、金坂FD委員長、服巻FD委員

【議 題】

1. 平成22年度FD研修会実施に向けた打ち合わせ

平成22年度FD研修会

日時：2011年3月2日（水）14:00～16:30

場所：総合教育研究棟4階カンファレンスルーム

講師：関西大学大学院心理学研究科・岡田弘司教授

関西大学大学院心理学研究科・石田陽彦教授

関西大学大学院心理学研究科・中田行重教授

テーマ：「関西大学臨床心理専門職大学院の教育の現状と課題 ～実習を中心に～」

- ①講義科目・履修コース
- ②実習（学内・学外）
- ③実習の評価・スーパービジョン
- ④今後の検討課題
- ⑤その他

出席者：安部研究科長、松木副研究科長、金坂FD委員長、服巻FD委員、落合教授、中原教授、平川教授、山中教授、土岐准教授

2010年度第16回FDフォーラム

日時：2011年3月5日（火）～3月6日（水）

場所：京都外国語大学 森田記念講堂

出席者：金坂弥起（FD 委員長）

テーマ：組織的 FD の取り組み ～FD 義務化から現在（いま）～

内容：シンポジウム

ミニシンポジウム

分科会

その他

3. 厳格な成績評価制度について（平成 20 年度より GPA 本格導入）

(1) 平成 22 年度の取り組み

1) 成績評価方法についての開示について（表 1）

- ・入学生オリエンテーション、ならびに実習オリエンテーションにおいて、講義、演習、実習について成績評価方法の資料を配布し、教務委員長ならびに実習委員長より説明を行う。
- ・受講生 10 名以上の講義、演習科目においては GPA 評価対象科目であり、成績評価に一定の枠（A 以上の評価を 40%以内の学生にする枠）を設けることの解説を行う。

2) 成績評価方法について（表 2）

- ・講義・演習科目については、100 点満点による採点で、評価は A+、A、B、C、F の 5 段階評価とする。
- ・専任教員、兼担、兼任ともに受講生 10 名以上の講義・演習科目においては厳正な成績評価を求め、成績枠の遵守を求める。
- ・実習科目についての評価は A、B、C、D の 4 段階評価とする。

表 1. 講義、演習科目の評価基準

	評価	評価得点	
合格	A+	90 点以上	特に優れた成績を示した者
	A	80～89 点	優れた成績を示した者
	B	70～79 点	合格と十分認められる者
	C	60～69 点	合格と認められる最低限度の成績を示した者
不合格	F	60 点未満	

(2) 平成 22 年度の実績

1) 前期履修行動ならびに成績分布について

- (a) 1 年 GPA 対象科目：8 科目（受講生 11～22 名）；必修 4 科目、選択 4 科目
- (b) 2 年 GPA 対象科目：5 科目（受講生 11～22 名）；必修 2 科目、選択 3 科目
- ・2 年生必修科目「総合的事例研究 I」は、GPA 対象科目外である。

2) 後期履修行動ならびに成績分布について

- (a) 1 年 GPA 対象科目：11 科目（受講生 11～16 名）；必修 6 科目、選択 4 科目

- (b)2年 GPA 対象科目：5科目（受講生 12～14名）；必修 2科目、選択 3科目
 ・2年生必修科目「総合的事例研究Ⅱ」は、GPA 対象科目外である。

3)前期・後期履修行動（受講生分布）について

- (a)実習科目についての評価は A、B、C、D の 4 段階評価とする。

(3)GPA (Grade Point Average) の計算方法

- ・GPA は、各科目の GP (Grade Point) に各授業科目単位数を乗じ、その総和を GPA 適合の履修登録科目総単位数で割って算出する。
- ・GPA 評価対象科目は受講生 10 名以上の講義、演習科目であり、受講生が 10 名に満たない授業ならびに実習科目は含まれない。

$$\text{例) GPA} = \{(\text{臨床心理学原論 GP} \times 2 \text{ 単位}) + (\text{臨床心理面接学原論 GP} \times 2 \text{ 単位}) + (\quad) + (\quad) \dots\} \div \text{GPA 適合の履修登録科目総単位数}$$

表 2. GPA 適合科目（講義・演習）の GP 配点表

	評価	評価得点	GP 得点	
合格	A+	90 点以上	4.0	特に優れた成績を示した者 (受講者の上位 20% までの人数につけることができる)
	A	80～89 点	3.0	優れた成績を示した者 (A+と A の学生が、合計で 40% 以内の人数になるようにつける)
	B	70～79 点	2.0	合格と十分認められる者
	C	60～69 点	1.0	合格と認められる最低限度の成績を示した者
	不合格	F	60 点未満	0.0

※GPA の最高点は 4.0 であり、通常の 5 段階評価とは異なる。

(4)GPA 通知方法の変更

21 年度までは教務委員 2 名が個々の学生に対して個別に通知書を手渡していたが、作業の煩雑さを解消するために、専門職大学院係から学生に個別に配布してもらうように変更された。

【考察と今後の課題】

平成 20 年度前期から本格的に導入された GPA が、平成 22 年度も引き続き踏襲された。その主な目的は、厳正な成績評価を行い、それに基づくきめ細かい履修指導や学習指導の機会を設けることで、高度専門職業人を養成するための専門職大学院における教育の質を担保することにある。

GPA については、教員には周知が徹底され、その意義についても一定の理解が得られているが、学生における理解の度合いには依然として温度差が大きいと思われる。学部時代からすでに GPA を経験している学生にとっては馴染みのものであろうが、そうでない学生にとっては、いわゆる 5 段階評価との対比において、通知される GPA の数値から不要な落胆を抱く場合も少なくない。

23年度以降も、学生のGPAに対する理解を深めるためのオリエンテーションや、周知を徹底するアナウンスなどが引き続き求められるだろう。一方、受講生が10名に満たない授業や実習科目はGPAの評価対象に含まれていないため、GPAの数値が学生の成績全般を必ずしもトータルに評価しているわけではないという、より本質的な問題も残る。一学年15名という小規模な研究科において、平均値を算出することの意義についても、検討を要する大きな課題である。

いずれにしても、本来GPAとは、あくまでも教育の質を高めるためのひとつの有効なツールである以上、ツールの担い手、すなわち教員サイドは、そのツールの意義や使い方、活かし方に習熟しておく必要がある。GPAならびにその通知を、単なるイニシエーションとして形骸化させないためにも、教員側と学生側との信頼関係や相互理解に基づく共通認識を不断に深めていくことが課題であろう。

4. 学生による授業評価の実施

(1) 紙媒体による実施

平成21年度のはじめ、平成20年度まで活用されていたWebStudyに代わり、新たなオンライン教育システムMoodleが導入され、学生による授業評価システムに活用された。しかしながら、Moodleへのアクセスは学生の自主性に完全に委ねられる形になったことから、回答率の低さの問題が表面化することになった。

そこで、22年度より紙媒体によって実施することにした。評価の回数は、平成21年度以降、1 Semester 2回(7コマ目ごろと15コマ終了時)の実施になっている。また、「臨床心理地域援助実習」(いわゆる学外実習科目)は、その科目の特殊性を考慮し、各 Semester 終了後の1回のみの実施とした。

(2) 各科目の評価項目

専門職大学院である本研究科では、幅広い領域で活躍する高度専門職業人養成に特化した授業科目を網羅しているため、すべての科目に共通する評価項目によって授業評価を実施することには、若干の無理や困難が生じる可能性がある。その科目の特殊性を考慮するならば、普遍的な評価項目を設定することによって捨象されてしまう部分があり得るからである。専門職大学院における教育の質を担保するためにも、必要に応じて、よりふさわしい評価項目への修正・改定が柔軟に行われることが望ましい。そのことは、学生の声を満遍なく拾い上げ、それらを最大限、授業改善に役立てるためのツールのメンテナンスと言える。

現時点での評価項目を以下に挙げる。

<講義科目>

1. 授業を総合的に5段階で評価してください。
2. 授業のテキスト・資料等は適切でしたか(テキスト・資料等を使用した場合のみ回答してください)。
3. 授業の内容は理解できましたか。

4. 授業の内容に満足していますか。
5. 授業を通して臨床心理学の理論に興味が増しましたか。
6. あなたは授業を熱心に受講しましたか。
7. この授業に対するご意見を自由に書いてください。

<演習科目>

1. 授業を総合的に5段階で評価してください。
2. 授業の内容は理解できましたか。
3. 授業の内容に満足していますか。
4. 授業を通して臨床心理学に興味が増しましたか。
5. 授業を通して講義（理論）の理解や実習体験の理解につながりましたか。
6. あなたは授業を熱心に受講しましたか。
7. この授業に対するご意見を自由に書いてください。

<実習科目>

1. 実習を総合的に5段階で評価してください。
2. 実習での体験に満足していますか。
3. 実習体験を通して臨床心理学や臨床業務にイメージが増しましたか。
4. 実習体験の中で講義や演習で学んだことが役に立ちましたか。
5. あなたは実習を熱心に取り組みましたか。

また、「エスノグラフィック心理臨床論」と「臨床心理関連行政論」における評価項目は以下の通りである。

「エスノグラフィック心理臨床論」

1. 授業を総合的に5段階で評価してください
2. 心理臨床を行う上で、状況や文脈の大切さを理解することができましたか
3. 事象を観察し、意味を考える姿勢が身につきましたか
4. 臨床心理学の一つの研究方法として、フィールドワーク技法の基礎を身につけることができましたか
5. 授業に意欲的に取り組むことができましたか
6. レポートなどの課題に意欲的に取り組むことができましたか

「臨床心理関連行政論」

1. 授業を総合的に5段階で評価してください
2. 授業の内容は理解できましたか
3. 授業の内容に満足していますか
4. 授業を通して臨床心理実践と社会システムとの関係に関心が高まりましたか
5. あなたは授業を熱心に受講しましたか

【考察と今後の課題】

平成 21 年度における授業評価アンケートについては、学生による回答率の低迷が最大の問題であった。そのため、22 年度からは紙媒体による実施に変更することにした。一学年 15 名という小規模な研究科であるため、そうした実施方法でも十分に可能であると考えられた。

変更後の回答率は以下の通りである。前期 1 回目 66.7%~92.9%、前期 2 回目 91.7%~100%、後期 1 回目 80.0%~100%、後期 2 回目 58.3%~100 であった。

授業評価の意義は、学生の評価を受けて、各担当教員が自らの授業改善に活かすことにある。それには学生へのフィードバックが不可欠であるが、現在、学生へのフィードバックは教員から直接授業内で口頭によるフィードバックのみである。また、前期、後期とも 2 回目の授業評価アンケートは全ての授業が終了した後に行われているため、学生にフィードバックする機会がない。そうした問題点に関して、将来的には、担当教員による「授業評価を受けての報告書」を学生に開示していくことも必要になってくるかもしれない。そうすれば、学生の声が届きやすく教員に届いている、さらにはそれが何がしかの形で授業改善に反映されているという直接の手応えを学生が実感できるであろう。そのためには、何よりも教員と学生とのコミュニケーションが日頃から維持されることが必要不可欠であり、それがすべての信頼関係のベースになることは言うまでもない。そのことはかねてより指摘されている通りである。

21 年度に低迷した回答率は上記の通り、とりあえずの改善を見た。しかしながら、授業評価アンケート実施の前提となる、教員と学生との信頼関係については、アンケートの自由記述を見る限り、必ずしも十分とは言えない面も認めざるを得ない。教員サイドがよかれと思っていても、学生側は決してそうは思っていないという、すれ違いが起りやすい点が信頼関係構築の難しさである。成績評価や単位認定という最終的な力を持っているのが教員であり、その意味では学生は胸襟を開いて思いの丈を教員側に訴えることが難しい場合もある。だからこそ、教員は学生の声に虚心坦懐に耳を傾ける必要があるし、それが可能となるような関係作り、環境作りを普段から心がけることが求められる。

5. 授業公開・授業参観

本研究科では、平成 22 年度（2010 年度）においても全学的な取り組みを踏襲し、専門職学位課程として守秘義務を要する特殊な授業などへは最大限の配慮のもと、以下のような実施要領にて執り行うこととした。

ただし、個人情報保護や守秘義務の観点から、授業科目によっては授業公開の対象が研究科内に限定されるものも少なくない。臨床心理学や心理臨床においては、なまの事例を検討対象にすることが多いため、やむを得ないことである。

以下の表 3～5 にて、平成 22 年度に実施された授業公開一覧を示す。

表 3. 平成 22 年度前期 臨床心理学研究科授業公開（全学公開）

科目名	担当教員	公開日時	講義室等名
臨床精神薬理学特論	服巻 豊	6 月 28 日（月）3 限	総研棟 4 階カンファレンスルーム
臨床心理学入門	服巻 豊	6 月 29 日（火）4 限	総研棟 4 階カンファレンスルーム

表 4. 平成 22 年度前期 臨床心理学研究科授業公開（研究科内のみ公開）

科目名	担当教員	公開日時	講義室等名
臨床心理学原論	山中 寛	6 月 28 日（月）2 限	総研棟 4 階カンファレンスルーム
医療心理臨床論	金坂 弥起	7 月 2 日（金）3 限	総研棟 4 階カンファレンスルーム

表 5. 平成 22 年度後期 臨床心理学研究科授業公開（研究科内のみ公開）

科目名	担当教員	公開日時	講義室等名
臨床心理査定演習Ⅱ	中原 睦美	12 月 14 日（火）2 限	総研棟 4 階カンファレンスルーム
青年期心理臨床論	松木 繁	12 月 14 日（火）3 限	総研棟 4 階カンファレンスルーム
臨床心理関連行政論	土岐 篤史	12 月 16 日（木）3 限	総研棟 4 階カンファレンスルーム

文責：臨床心理学研究科 FD 委員長・金坂弥起

連合農学研究
科

大学院連合農学研究科 F D 活動報告

1. はじめに

大学院連合農学研究は、農学系の博士養成を目的に、佐賀大学、鹿児島大学、琉球大学の3大学4研究科が連合した博士課程のみからなる大学院で、23年5月1日現在日本人学生64名外国人留学生69名計133名が在籍している。平成19年度宮崎大学の離脱に伴い、21年度に大幅な組織改組を行い、3専攻9連合講座として再出発し、また単位制の導入を行った。学位申請に12単位必須で、新カリキュラムとして職業人教育や国際感覚を養うことを意図した人材養成セミナーや国際農業概論などを創設することで大学院教育の実質化を目指している。地理的に離れた構成大学間の教育をスムーズにするために、年に一度1、2年次の連大生が一堂に会して行う農学特別講義Ⅰ（一般セミナー）の実施や、多地点遠隔教育システムを用いた授業を行うことで教育方法等の工夫を行っている。

FD活動に関しては、平成19年度に代議委員会のサブ委員会としてFD委員会がもえけられ、上記一般セミナーを中心とした授業アンケートの集計・解析評価、改善に向けて取り組んでいる。

22年度は、3年に1度実施してきた自己評価・自己点検を行った。そして、さらにその自己評価書に基づき、平成12年度以来途絶えていた外部評価も受けて、21年改組後の連合農学研究科の教育システムや改善状況を把握することにした。

23年度のFD活動としては5月開催のFD委員会で、大学院博士課程の教育に必要な教員の能力とは何かといった観点から、「教員の研究指導能力の評価法など」を検討テーマに掲げ、意見交換を実施した。

以下にその他の活動内容の概略について記す。

2. 「農学特別講義Ⅰ（一般セミナー）」の改善に向けたアンケート調査の結果と分析

本研究科では、各構成大学の学生が一堂に会し、3日間の集中講義形式で実施する「農学特別講義Ⅰ（一般セミナー）」の改善が、FD活動の第一の取り組みとなると考えている。

「農学特別講義Ⅰ（一般セミナー）」は、全学生を対象として、個人の専門に偏らない幅広い農林水産学分野の知識の習得を目的としており、「共通セミナー（一般）」という名称で開設した当初から、出席者を対象に実施したアンケート結果を参考に、授業内容等の改善に取り組んできた。

「農学特別講義Ⅰ（一般セミナー）」参加学生から徴した平成22年度のアンケートの集計結果は次表のとおりである。〔参加学生：81名 アンケート提出者：74名 アンケート回収率：91%〕

セミナーの理解度について						
〔回答項目〕	セミナー A	セミナー B	セミナー C	セミナー D	セミナー E	セミナー F
ほぼ理解できた	14名 (19%)	35名 (47%)	18名 (24%)	6名 (8%)	53名 (72%)	23名 (33%)
半分程度理解できた	45名 (61%)	32名 (43%)	32名 (43%)	50名 (68%)	18名 (24%)	30名 (44%)
理解できなかった	15名 (20%)	7名 (10%)	24名 (33%)	18名 (24%)	3名 (4%)	16名 (23%)
セミナーの運営・企画等について						
〔回答項目〕	日程 (時期)	日程 (日数)	会場	〔回答項目〕	グループの分け方	
良 い	46名 (73%)	65名 (88%)	67名 (91%)	良 い	58名 (79%)	
悪 い	7名 (11%)	6名 (8%)	1名 (1%)	改善すべき	15名 (21%)	
そ の 他	10名 (16%)	3名 (4%)	6名 (8%)	無 回 答	0名	

専攻・情報交換セミナーについて			
〔回答項目〕	プレゼンテーション	ポスターセッション	交流会について
意義がある	45名 (63%)	55名 (77%)	36名 (51%)
少しは意義がある	21名 (29%)	14名 (20%)	22名 (31%)
その他	6名 (8%)	2名 (3%)	13名 (18%)
無回答	0名	0名	0名

平成 22 年度農学特別講義 I（一般セミナー）アンケート調査結果

①セミナーの理解度について

本研究科の特徴の一つに、外国人留学生が多いことが上げられる。過去に実施したアンケートで、外国人留学生から「英語による講義の実施」を希望する声が多かったことを受け、平成 20 年度にあつては 6 セミナー全てを英語で実施し、平成 21 年度も『セミナーE』以外は全て英語による講義形態を取ったが、アンケートの自由意見で、日本人学生から「英語での講義で、さらに専門外分野だと理解できなかった」といった意見が出された。平成 22 年度は、『セミナーD』以外は英語による講義であったが、やはり、アンケートの自由意見で「英語での講義が難しかった」との意見が見られた。しかし、『セミナーE』に対する自由意見で、「解りやすい英語で、ありがたかった」「とてもシンプルな言葉でわかりやすかった」などの意見があり、今後は、外国人留学生と日本人学生全員に伝達するための対策としての参考になるのではないと思われる。

また、「専門用語が多くて理解できない」「専門分野外の講義は、詳しい内容は理解できない」などの意見が多く、あまり細かい内容に入り込まず、シンプルな内容が学生には有意義であったようである。

②セミナーの運営・企画等について

「時期」「日数」「会場」については 84% の学生から「良い」との評価を得られているため、今後も従来通りのスタイルを踏襲したいと考える。また、グループ分けについては 21% の学生から「改善すべき」との回答が寄せられている。これは、改組後の 3 つの専攻毎にグループ分けして、1 日目の「専攻セミナー」や 2 日目の「情報交換セミナー」（2 年次生が実施するポスターセッション）を実施したが、「専攻セミナー」で人数が偏ってしまったり、他の専攻の内容も聞きたいという意見によるものと思われる。

③専攻・情報交換セミナーについて

「プレゼンテーション」「ポスターセッション」「交流会」とも、『意義がある』『少しは意義がある』を『有意義』との回答と捉えると、いずれも 90% 近い学生が有意義であると感じていることになる。

3. TA 活動実施報告書による TA 活動実態把握

ティーチング・アシスタント (TA) 制度は、大学院学生の処遇の改善とともに、指導者としてのトレーニングの機会提供を目的としているが、平成 17 年度までは TA に採用された学生の意見を聞く機会を設けていなかったため、平成 18 年度から TA 業務に従事する連大生を対象に、アンケート形式の「TA 活動実施報告書」を提出させ、その内容を分析することにより、TA 活動の実態把握に努めている。「指導者になるためのトレーニングとして有益であったか」との質問に対し平成 21 年度にあつては「とても参考になった」「まあまあ参考になった」と回答した学生は同実施報告書提出学生全体の 90% であった。具体的には、1) 学生個々の個性及び理解度に応じた指導、2) コミュニケーション能力、3) 授業・

実験の事前準備や安全管理、4) 時間・スケジュール管理等の重要性を学んだとの回答があり、自分自身の学習にも役立ったとの意見もあった。さらに、平成19年度からはTAの指導を受けた学生を対象にした、アンケート形式の「TA活動評価調査」も実施している。なお、平成22年度における「TA活動実施報告書」「TA活動評価調査」の結果については現在集計中である。

また、平成21年度から、TA採用学生及び当該学生の指導教員を対象に、「大学の教育理念とTAの心構え」「TA業務に関わる注意事項」「安全衛生」を指導することを目的とした「TA研修会」を構成大学毎に実施しており、平成22年度からは、本研究科に外国人留学生が多いことから、TA研修会で使用する英語版スライドも作成して実施した。

4. 修了生を対象としたアンケートの実施

例年3月と9月に、修了生を対象としたアンケートを実施している。

これは、自己点検・評価の参考とするため、平成18年4月に、平成11～17年度修了者を対象に郵送により実施したのが始まりで、以後は修了時に学生から回答してもらう形を取っている。

平成20, 21年度修了生アンケート結果

質問項目	評価内容	分布 (%)	
		H20年度	H21年度
農学特別講義 I (共通セミナー)(旧共通セミナー(一般))の内容・方法について	よい	57	75
	よくない	0	6
	どちらとも言えない	43	19
特別講義あるいは特論(旧共通セミナー(特別))の内容・方法について	よい	74	81
	よくない	9	0
	どちらとも言えない	17	19
教員の指導方法に満足したか	満足した	83	84
	改善して欲しい	17	3
	どちらとも言えない	0	13
中間発表は効果があったか	効果があった	91	84
	効果がなかった	0	3
	どちらとも言えない	9	13
実験または調査を計画・遂行し、データを正確に解析・考察し、かつ説明する脳力が身についたか	身についた	100	91
	身につかなかった	0	0
	どちらとも言えない	0	9
専門的な知識および技術を駆使して、課題を 探求し、解決する脳力が身についたか	身についた	91	91
	身につかなかった	0	0
	どちらとも言えない	9	9
社会の要求に対して様々な情報を収集・分析し、問題点と課題を理解し、適切に対応する能力が身についたか	身についた	100	84
	身につかなかった	0	3
	どちらとも言えない	0	13
研究設備に満足したか	満足した	57	66
	改善して欲しい	17	15
	どちらとも言えない	26	19
他構成大学との情報交換や交流があったか	よくあった	35	15
	たまにあった	17	63
	ほとんどなかった	48	22
学位申請条件のレフェリー付き学会誌2編の 要求は、このままでよいか	このままでよい	91	76
	厳しくすべき	0	9
	優しくすべき	0	6
	どちらとも言えない	9	9

回答学生 H20年度(日本学生17, 留学生6), H21年度(日本学生16, 留学生16)
(出典: H20.9, H21.3, H21.9, H22.3修了生アンケートまとめ)

平成 22 年度も 9 月と 3 月にアンケート調査を実施し、3 月修了者分については現在集計作業中であるが、連大で実施される共通セミナーへの意見、教員の研究指導及び学生自身の能力向上、研究設備や学生生活に関する集計結果は、今後開催される FD 委員会へ提出し、意見交換を行う。

本研究科の教育研究の将来に役立たせることを目的として開始した本アンケートについては、今後も継続し、データを蓄積していきたいと考える。

5. その他の FD 活動

①学位論文未提出者の現況報告に基づく現状把握

標準修業年限内で学位論文を提出できなかった学生の主指導教員は、「学位論文未提出者の現況報告」を提出することになっている。

また、本件に併せて、留年者を出した場合の対策等についても、指導教員及び学生双方を対象とした取り組みを、今後 FD 委員会で検討していくべきと思われる。

②各自己評価・自己点検及びそれに伴う外部評価

自己点検評価・外部評価についての報告書は現在作成中であるが、基準 1:大学の目的、基準 2:教育研究組織、基準 3:教員、基準 4:学生の受入、基準 5:教育内容、基準 6:教育の成果、基準 7:学生支援、基準 8:施設・設備、基準 9:教育の質の向上、基準 10:管理運営に基づき、自己評価・自己点検を行い、外部評価委員会から一定の評価を得た。優れているとの評価も多く見られたが、改善する点もいくつか指摘された。高い評価を得られた点は更なる発展をめざし、改善すべき点は真摯に受け止め、改善を図っていくことに努めたい。

6. おわりに

本研究科の FD 活動については、平成 18 年度末から平成 19 年度にかけて、FD に関する規則や委員会の整備を行い、教育研究のより一層の充実に向けた体制が整ったといえる。一方、これまでの FD 活動を顧みたとき、各種アンケートを実施し、その集計結果に対して FD 委員会で意見交換することで完結してしまっていたように思う。

今後は、本研究科での FD 委員会を含むさまざまな FD 活動の結果を、いかに次年度以降の教育力、特に博士課程学生に対する研究指導能力の向上に反映させていくかが検討課題であると思われる。

現在、本研究科では標準修業年限内での学位取得率の向上が課題となっている。これまでも学位取得率向上対策の一環として、1 年次に中間報告、2 年次に研究の中間発表を義務化させ、主指導教員から 1 年次終了時点で「研究指導報告書」を、2 年次終了時点で「研究経過の『中間報告会』終了報告書」を提出させ、研究の進捗状況を確認するシステムを導入していた。この制度をさらに実効化するために、23 年度からは、2 年生対象の「中間発表会」は、多地点制御遠隔講義システムを利用して、専攻ごとに合同で行うこととしており、今後は、お互いに相対的な進捗状況等を把握できるため、学力向上にも繋がるとと思われる。

そして、「大学院博士課程における FD 活動とは何か」という原点に立ち返り、教育研究力向上のための一層の工夫をしていきたいと考える。